西州津遺跡・佃遺跡

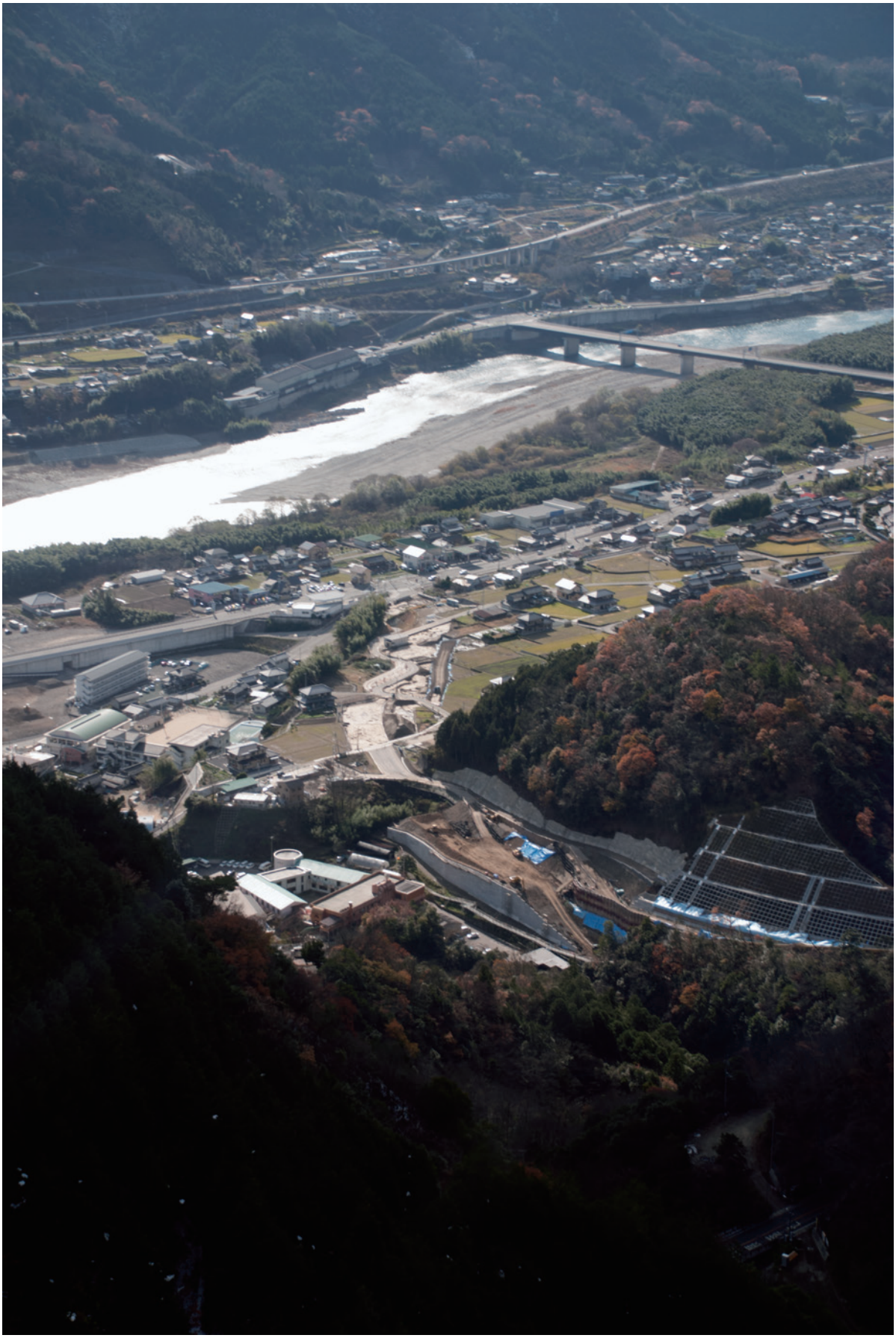
－一般国道 32 号猪ノ鼻道路（州津地区・西井川地区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０２０

徳　　島　　県

公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

巻頭カラー１



西州津遺跡と吉野川 (箸藏寺より)

巻頭カラー 2

西州津遺跡井関地区全景 (北から)

巻頭カラー 3

西州津遺跡井関地区縄文時代貯蔵穴群

巻頭カラー 4

西州津遺跡井関地区自然流路

序文

この度、一般国道 32 号猪ノ鼻道路（州津地区・西井川地区）関連埋蔵文化財発掘調査（西州津遺跡、佃遺跡）の正式報告書がまとまりましたのでここに刊行いたします。

西州津遺跡は、徳島県三好市池田町州津に所在します。吉野川北岸の河岸段丘上に立地します。平成 11 年の一般国道 32 号井川 IC 関連改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では、縄文時代の遺構や鎌倉・室町時代の集落が確認されています。

今回の発掘調査では北側の高位段丘面上を中心に発掘調査を実施いたしました。39 基もの縄文時代晩期前半の堅果類を貯蔵するための土坑が確認されました。貯蔵土坑は徳島県内では鳴門市桧寺前谷川遺跡や阿波市西谷遺跡において確認されていますが、西州津遺跡の検出数は四国内においても最大数の確認例となり、吉野川上流で暮らす縄文時代の生活・活動を検討する上で貴重な事例が追加されました。

佃遺跡は、徳島県三好市井川町西井川に所在します。吉野川南岸の河岸段丘上に立地します。吉野川を挟んだ北東側対岸には、上・中流域を代表する複合遺跡である東みよし町大柿遺跡が立地します。三好市井川町の西井川以西から池田町が西園寺家領の荘園である田井荘に含まれると比定されています。また、井川荘が井川町辻付近に比定されています。これらのことから、佃遺跡が所在する井川町西井川字女法寺は両荘園の範囲内に収まる可能性が想定されています。今回の調査においても、関連遺構が検出される可能性を視野に入れて発掘調査を実施いたしました。

今回の発掘調査では、弥生時代後期～終末期と中世後半期の遺構・遺物が確認されました。弥生時代の明確な住居跡などは確認できず集落遺跡であるという認定にまで至りませんでしたが、中世後半期に至ると建物の配置や規模など今後の課題として残るものの掘立柱建物跡を中心とした集落があったことが確認でき、狭小な段丘に展開する中世集落の様相について、貴重な事例が追加されたものといえます。

今後、本書が当該地域および本県の歴史を解明する上で貴重な資料として活用され、広く文化財保護の一助となることを期待したいと思います。

末尾ではありますが、この度の発掘調査の実施により、貴重な成果を上げることができましたのも、関係機関並びに地元の皆様の多大な御理解、御協力のおかげであり、心から感謝申し上げる次第です。また、発掘調査および報告書作成にあたっては、徳島県をはじめ関係各位から貴重な御指導・御教示を賜りました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後も当センターの事業について一層御支援下さるようお願い申し上げます。

令和２年３月

公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
理事長　　福　家　　清　司

例言

1　本書は、一般国道 32 号猪ノ鼻道路（州津地区）関連事業に伴い平成 21 年度，平成 22 年度に実施した西州津遺跡 (三好市池田町所在) と、一般国道 32 号猪ノ鼻道路（西井川地区）関連事業に伴い平成 25 年度，平成 27 年度に実施した佃遺跡 (三好市井川町所在) の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は徳島県からの委託により公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。

3　発掘調査および報告書作成期間は次の通りである。

・発掘調査期間

西州津遺跡

平成 21 年 8 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日

平成 22 年 4 月 1 日～ 8 月 31 日

平成 23 年 1 月 1 日～ 1 月 31 日

佃遺跡

平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

平成 27 年 5 月 1 日～ 6 月 30 日

・報告書作成期間

平成 29 年 4 月 1 日～ 9 月 30 日

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

4　遺構種別は調査時のものを基本的に踏襲し、遺構番号は遺構面毎に通し番号を設定した。遺物番号は通し番号とし、土器・土製品には 1，2，3…、金属製品には M1，M2，M3…、石器は S1，S2，S3…、というように材質毎に通し番号を付与しており、本文・挿図・観察表・図版と一致する。

5　第 2 図は、国土地理院発行の 1：25,000 の地形図「阿波池田」を改変したものである。第 8 図は国土地理院発行の 1：25,000 の地形図「貞光」を転載・改変した徳島県教育委員会発行の『徳島県遺跡地図』を改変したものである。第 7 図は国土交通省発行の『吉野川水害地計分類図』を転載した。

6　本書の執筆は第Ⅰ章 1 を徳島県　近藤　玲が行い、第Ⅴ章 1 は、パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ 伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・辻　康男、第Ⅴ章 2 は、パリノ・サーヴェイ 松元美由紀、第Ⅴ章 3 は日鉄テクノロジー株式会社鈴木瑞穂が、第Ⅰ章 2、第Ⅲ、Ⅳ章の執筆と編集は栗林誠治が行った。遺構写真は調査担当者が、遺物写真は栗林誠治が担当した。

7　本書に収録した石器・石製品・土製品・鉄関連遺物は、全て 3 次元計測を行い、DATA を保管している。

8　本書に収録した遺物および写真・図版などの記録の一切は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 番 2 に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターに保管している。

凡例

1　遺構の表示は (公財) 徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による略記号を用いた。

SA：掘立柱建物　SD：溝　SK：土坑　SP：柱穴・小穴　SR：自然流路　SX：性格不明遺構

2　遺構番号は、4 桁で表示する。4 桁目の番号は遺構面数を表し、以下の 3 桁が遺構の通し番号を表す。

3　遺構掲載サイズは、グリッド単位の遺構平面は 1/50、遺構平面図 1/30、遺物出土状況図は 1/30、遺構覆土層図は 1/30 で掲載し、各スケールに縮尺を表示している。

4　方位、座標は世界測地系に準拠するが、調査時に設定したグリッドにて表示する。標高は東京湾標準潮位（T.P) に準拠する。

5　本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版土色帳』2011 年度版、および細野尚久編『標準色彩図表 A』に準拠する。

6　遺物の掲載サイズは、原則下記のものに統一した。

土器・土製品：1/4　剥片石器：2/3　礫石器・石製品：1/3　鉄器：2/3

7　図版・挿図及び表は基本的に通し番号であるが、自然化学分析に関しては独自の番号を付与する。

8　観察表中の弥生土器、土師器、須恵器、古代、中世土器に関しては以下の文献を参考にして記載している。

中世土器研究会編 1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

(公財) 徳島県埋蔵文化財センター 2017『清成遺跡　徳島県立農林水産総合技術支援センター整備事業に関わる埋蔵文化財発掘調査報告書』

9　土器観察表中の胎土 (含有物) の略号は下記の通りである。

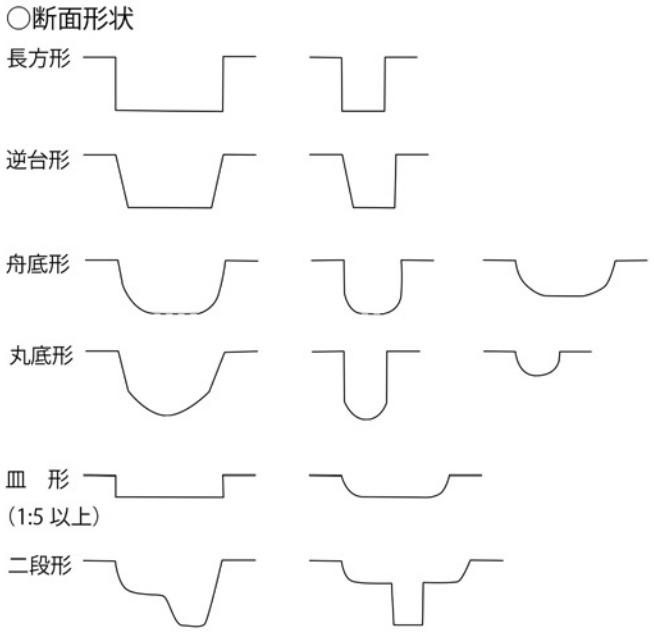
結：結晶片岩　石：石英　　長：長石

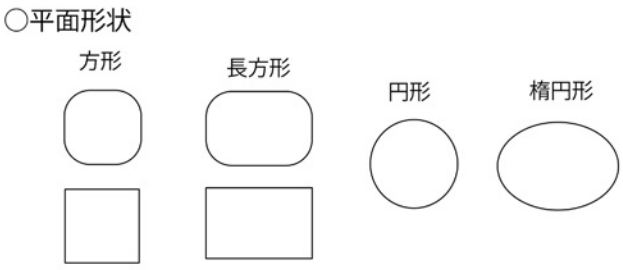
チ：チャート　雲：雲母　金雲：金雲母

角：角閃石　赤：赤色斑粒　砂：砂岩粒

泥：泥岩粒　黒：黒色粒　花：花崗岩

10　遺構の平断面形状の記載は右記の通りである。





本文目次

第Ⅰ章　調査と整理の経緯 …… 1
　1．調査に至る経緯と調査の経過 …… 1
　（1）西州津遺跡調査の経緯 …… 1
　　1．猪の鼻道路と遺跡の関係 …… 1
　　2．遺跡の確認から発掘調査 …… 2
　　3．発掘調査の経過と調査成果の公開 …… 3
　（2）佃遺跡調査の経緯 …… 4
　　1．猪ノ鼻道路と遺跡の関係 …… 4
　　2．遺跡の確認から発掘調査 …… 4
　　3．発掘調査の経過 …… 6
　（3）発掘調査の方法 …… 6
　　1．西州津遺跡 …… 6
　　2．佃遺跡 …… 6
　2．整理の経過 …… 7
　（1）整理作業の経過 …… 7
　3．発掘調査・整理作業業務の体制 …… 7
　4．調査日誌抄 …… 8
　（1）西州津遺跡 …… 8
　（2）佃遺跡 …… 10

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境 …… 11
　1．地理的環境 …… 11
　2．歴史的環境 …… 14

第Ⅲ章　西州津遺跡調査成果 …… 20
　1．基本層序 …… 20
　2．遺構と遺物 …… 20
　　①自然流路 (SR)・溝状遺構 (SD) …… 20
　　②掘立柱建物柱 (SA) …… 55
　　③貯蔵穴・土坑 (SK) …… 72
　　④小穴 (SP) …… 128
　　⑤性格不明遺構 (SX) …… 129
　　⑥出土遺物 …… 134
　3．まとめ …… 162

Ⅳ　佃遺跡調査成果 …… 177
　1．基本層序 …… 177

２．遺構と遺物 …… 177
（１）掘立柱建物柱 (SA) …… 177
（２）溝状遺構 (SD) …… 178
（３）土坑 (SK) …… 206
（４）小穴 (SP) …… 214
（５）集石遺構 (SU) …… 219
（６）性格不明遺構 (SX) …… 222
（７）出土遺物 …… 224
３．まとめ …… 237

第Ⅴ章　自然化学分析 …… 242
１．西州津遺跡放射性炭素年代測定 …… 242
1．はじめに …… 242
2．試料と方法 …… 243
3．結果 …… 243
4．考察 …… 245
２．西州津遺跡出土種実同定 …… 246
はじめに …… 246
1．試料 …… 246
2．分析方法 …… 246
3．結果 …… 246
4．考察 …… 251

３．西州津遺跡出土鍛治・鋳造関連遺物の分析調査 …… 254
１．調査対象 …… 254
２．調査項目 …… 254
（１）外観観察 …… 254
（２）マクロ組織 …… 254
（３）顕微鏡組織 …… 254
（４）ビッカース断面硬度 …… 254
（５）EPMA 調査 …… 254
（６）化学組成分析 …… 254
（７）耐火度 …… 255
３．調査結果 …… 255
４．まとめ …… 260

挿図目次

第 1 図　調査地点 1/5000000 …… 1
第 2 図　調査地点 1 /25000 …… 2
第 3 図　西州津遺跡工事計画内調査地点 1/2000 … 3
第 4 図　佃遺跡工事計画内調査地点 …… 4
第 5 図　西州津遺跡グリッド配置図 1 /2000 …… 5
第 6 図　佃グリッド配置図 1 /2000 …… 6
第 7 図　水害地形分類図 …… 12
第 8 図　周辺の遺跡 …… 15
第 9 図　井関地区遺構配置 1 /1000 …… 21
第 10 図　A 区調査区土層 …… 22
第 11 図　BC 区調査区土層 …… 22
第 12 図　D 区調査区土層 …… 23
第 13 図　E2 区調査区土層 …… 24
第 14 図　G2 区調査区土層 …… 25
第 15 図　H 区調査区土層 …… 25
第 16 図　井関地区 SR 配置 1 /500 …… 26
第 17 図　A 区 1 号自然流路遺構図 …… 27
第 18 図　A 区 1 号自然流路断面図 1 …… 28
第 19 図　A 区 1 号自然流路断面図 2 …… 29
第 20 図　A 区 1 号自然流路出土遺物図（1）…… 30
第 21 図　A 区 1 号自然流路出土遺物図（2）…… 31
第 22 図　A 区 1 号自然流路出土遺物図（3）…… 32
第 23 図　BC 区 2 号自然流路遺構図 …… 33
第 24 図　BC 区 2 号自然流路　断面図・遺物図（1）… 34
第 25 図　2 号自然流路出土遺物図（2）…… 35
第 26 図　2 号自然流路出土遺物図（3）…… 36
第 27 図　2 号自然流路出土遺物図（4）…… 37
第 28 図　2 号自然流路出土遺物図（5）…… 38
第 29 図　2 号自然流路出土遺物図（6）…… 39
第 30 図　2 号自然流路出土遺物図（7）…… 40
第 31 図　F 区 2 号自然流路　遺構・遺物図 …… 41
第 32 図　H 区 1 号自然流路
（旧 10H 区 SR2001）遺構・遺物図 …… 42
第 33 図　H 区 3 号自然流路
（旧 10H 区 R2003）遺構図 …… 43
第 34 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図（1）…… 44
第 35 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図（2）…… 45
第 36 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図（3）…… 46
第 37 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図（4）…… 47
第 38 図　A 区 1 号溝状遺構
（旧 09A 区旧 SD1001）遺構・遺物図 …… 48
第 39 図　A 区 35 号溝状遺構　遺構図・遺物図 …… 49
第 40 図　D 区 1 号溝状遺構　断面図 …… 50
第 41 図　D 区 1 号溝状遺構　遺物図 …… 51
第 42 図　F 区 8 号溝状遺構　遺構図・遺物図（1）… 52
第 43 図　F 区 8 号溝状遺構　遺構図 …… 53
第 44 図　F 区 8 号溝状遺構　遺物図（2）…… 54
第 45 図　1 号掘立柱建物　遺構図 …… 55
第 46 図　2 号掘立柱建物　遺構図 …… 56
第 47 図　3 号掘立柱建物　遺構図 …… 57
第 48 図　4 号掘立柱建物　遺構図 …… 58
第 49 図　5 号掘立柱建物柱　遺構図 …… 59
第 50 図　6 号掘立柱建物　遺構図 …… 60
第 51 図　8 号掘立柱建物　遺構図 …… 61
第 52 図　9 号掘立柱建物　遺構図 …… 62
第 53 図　10 号掘立柱建物　遺構図 …… 63
第 54 図　11 号掘立柱建物　遺構図 …… 64
第 55 図　12 号掘立柱建物　遺構図 …… 65
第 56 図　13 号掘立柱建物　遺構図（1）…… 66
第 57 図　13 号掘立柱建物　遺構図（2）…… 67
第 58 図　14 号掘立柱建物　遺構図 …… 68
第 59 図　15 号掘立柱建物　遺構図 …… 69
第 60 図　16 号掘立柱建物　遺構図 …… 70
第 61 図　17 号掘立柱建物　遺構図 …… 71
第 62 図　18 号掘立柱建物　遺構図 …… 72
第 63 図　井関地区主要貯蔵穴配置 S=1/250 …… 73
第 64 図　BC 区 20 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 74
第 65 図　BC 区 21 位号貯蔵穴　遺構図・遺物図 … 75
第 66 図　BC 区 22 号貯蔵穴　遺構図 …… 75
第 67 図　BC 区 24 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 77
第 68 図　BC 区 25 号貯蔵穴　遺構図 …… 78
第 69 図　BC 区 26 号貯蔵穴　遺構図 …… 78
第 70 図　BC 区 27 号貯蔵穴　遺構図 …… 78
第 71 図　BC 区 29 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 79

第 72 図　BC 区 30 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 79
第 73 図　BC 区 31 号貯蔵穴　遺構図 …… 80
第 74 図　BC 区 32 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 80
第 75 図　BC 区 33 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 81
第 76 図　BC 区 34 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 81
第 77 図　BC 区 35 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 82
第 78 図　BC 区 39 号貯蔵穴　遺構図 …… 82
第 79 図　BC 区 43 号貯蔵穴　遺構図 …… 84
第 80 図　BC 区 45 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 84
第 81 図　BC 区 48 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 85
第 82 図　D 区 40 号貯蔵穴　遺構図 …… 85
第 83 図　D 区 41 号貯蔵穴　遺構図 …… 86
第 84 図　D 区 44 号貯蔵穴　遺構図 …… 86
第 85 図　D 区 45 号貯蔵穴　遺構図 …… 87
第 86 図　D 区 50 号貯蔵穴　遺構図 …… 87
第 87 図　D 区 55 号，56 号貯蔵穴　遺構図 …… 88
第 88 図　D 区 138 号貯蔵穴　遺構図 …… 89
第 89 図　D 区 140 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 90
第 90 図　D 区 142 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 91
第 91 図　D 区 151 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 91
第 92 図　D 区 57 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 92
第 93 図　BC2 区 2 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 92
第 94 図　BC2 区 4 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 93
第 95 図　BC2 区 5 号，6 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 94
第 96 図　BC2 区 16 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 95
第 97 図　BC2 区 35 号貯蔵穴　遺構図・遺物図 …… 95
第 98 図　D 区 124 号土坑　遺構図 …… 99
第 99 図　D 区 174 号土坑　遺構図 …… 99
第 100 図　D 区 126 土坑　遺構図 …… 99
第 101 図　BC 区 8 号土坑　遺構図・遺物図 …… 100
第 102 図　BC 区 57 号土坑　遺構図・遺物図 …… 100
第 103 図　D 区 9 号土坑　遺構図・遺物図 …… 101
第 104 図　D 区 14 号土坑　遺構図・遺物図 …… 101
第 105 図　D 区 58 号土坑　遺構図・遺物図 …… 102
第 106 図　D 区 61 号土坑　遺構図・遺物図 …… 102
第 107 図　D 区 62 号土坑　遺構図・遺物図 …… 102
第 108 図　D 区 67 号土坑　遺構図・遺物図 …… 103
第 109 図　D 区 72 号土坑　遺構図・遺物図 …… 103
第 110 図　D 区 76 号土坑　遺構図・遺物図 …… 104
第 111 図　D 区 88 号土坑　遺構図・遺物図 …… 105
第 112 図　D 区 89 号土坑　遺構図・遺物図 …… 105
第 113 図　D 区 91 号土坑　遺構図・遺物図 …… 106
第 114 図　D 区 100 号土坑　遺構図・遺物図 …… 106
第 115 図　D 区 101 号土坑　遺構図・遺物図 …… 106
第 116 図　D 区 103 号土坑　遺構図・遺物図 …… 107
第 117 図　D 区 104 号土坑　遺構図・遺物図 …… 107
第 118 図　D 区 109 号土坑　遺構図・遺物図 …… 108
第 119 図　D 区 111 号土坑　遺構図・遺物図 …… 108
第 120 図　D 区 120 号土坑　遺構図・遺物図 …… 109
第 121 図　D 区 123 号土坑　遺構図・遺物図 …… 112
第 122 図　D 区 127 号土坑　遺構図・遺物図 …… 112
第 123 図　F 区 10 号土坑　遺構図・遺物図 …… 113
第 124 図　F 区 13 号，14 号土坑　遺構図・遺物図 …… 113
第 125 図　F 区 34 号土坑　遺構図・遺物図 …… 114
第 126 図　F 区 36 号土坑　遺構図・遺物図 …… 114
第 127 図　H 区 21 号土坑　遺構図・遺物図 …… 116
第 128 図　H 区 20 号土坑　遺構図・遺物図 …… 116
第 129 図　H 区 29 号，30 号土坑　遺構図・遺物図 …… 117
第 130 図　H 区 31 号土坑　遺構図・遺物図 …… 118
第 131 図　H 区 33 号土坑　遺構図・遺物図 …… 118
第 132 図　H 区 38 号土坑　遺構図・遺物図 …… 118
第 133 図　H 区 42 号土坑　遺構図・遺物図 …… 119
第 134 図　H 区 43 号土坑　遺構図・遺物図 …… 119
第 135 図　BC 区 478 号小穴　遺構図・遺物図 …… 121
第 136 図　D 区 190 号小穴　遺構図・遺物図 …… 121
第 137 図　D 区 210 号小穴　遺構図・遺物図 …… 122
第 138 図　小穴出土遺物図（1）…… 123
第 139 図　小穴出土遺物図（2）…… 124
第 140 図　小穴出土遺物図（3）…… 125
第 141 図　D 区 4 号性格不明遺構　遺構図・遺物図 …… 126
第 142 図　D 区 6 号性格不明遺構　遺構図・遺物図 …… 127
第 143 図　D 区 6 号性格不明遺構　遺物図（2）…… 128
第 144 図　D 区 7 号性格不明遺構　遺構図 …… 129
第 145 図　D 区 7 号性格不明遺構　遺物図 …… 130
第 146 図　D 区 9 号性格不明遺構　遺構図・遺物図（1）…… 131
第 147 図　D 区 9 号性格不明遺構　遺物図（2）…… 132
第 148 図　F 区 4 号性格不明遺構　遺構図・遺物図 …… 133
第 149 図　包含層出土遺物図（1）…… 136
第 150 図　包含層出土遺物図（2）…… 137
第 151 図　包含層出土遺物図（3）…… 138

第 152 図　包含層出土遺物図（4）……139
第 153 図　包含層出土遺物図（5）……140
第 154 図　包含層出土遺物図（6）……141
第 155 図　包含層出土遺物図（7）……142
第 156 図　包含層出土遺物図（8）……143
第 157 図　包含層出土遺物図（9）……144
第 158 図　包含層出土遺物図（10）……145
第 159 図　包含層出土遺物図（11）……146
第 160 図　包含層出土遺物図（12）……147
第 161 図　包含層出土遺物図（13）……148
第 162 図　包含層出土遺物図（14）……149
第 163 図　包含層出土遺物図（15）……150
第 164 図　包含層出土遺物図（16）……151
第 165 図　包含層出土遺物図（17）……152
第 166 図　包含層出土遺物図（18）……153
第 167 図　包含層出土遺物図（19）……154
第 168 図　包含層出土遺物図（20）……155
第 169 図　包含層出土遺物図（21）……156
第 170 図　包含層出土遺物図（22）……157
第 171 図　包含層出土遺物図（23）……158
第 172 図　包含層出土遺物図（24）……159
第 173 図　包含層出土遺物図（25）……160
第 174 図　包含層出土遺物図（26）……161
第 175 図　佃グリッド配置図 S=1/2,000 …… 178
第 176 図　佃遺跡　遺構平面図　S=1/200 …… 179
第 177 図　佃遺跡　遺構平面図　S=1/200 …… 180
第 178 図　A 区土層図 …… 181
第 179 図　B 区土層図 …… 182
第 180 図　C 区土層図 …… 183
第 181 図　1 号掘立柱建物　遺構図 ……184
第 182 図　2 号掘立柱建物　遺構図（1）…… 185
第 183 図　2 号掘立柱建物　遺構図（2）…… 186
第 184 図　3 号掘立柱建物　遺構図 ……187
第 185 図　1 号溝状遺構　遺構図 ……188
第 186 図　3 号溝状遺構　遺構図 ……189
第 187 図　2 号溝状遺構　遺構図 ……189
第 188 図　4 号溝状遺構　遺構図 ……191
第 189 図　5 号溝状遺構　遺構図 ……192
第 190 図　5 号土坑　遺構図 ……193
第 191 図　7 号土坑　遺構図 ……193
第 192 図　13 号土坑　遺構図 ……194
第 193 図　15 号土坑　遺構図 ……194
第 194 図　16 号土坑　遺構図 ……195
第 195 図　18 号土坑　遺構図 ……196
第 196 図　20 号土坑　遺構図 ……197
第 197 図　25 号土坑　遺構図 ……197
第 198 図　26 号土坑　遺構図 ……198
第 199 図　27 号土坑　遺構図 ……198
第 200 図　32 号土坑　遺構図 ……199
第 201 図　41 号土坑　遺構図 ……199
第 202 図　42 号土坑　遺構図 ……199
第 203 図　43 号土坑　遺構図 ……199
第 204 図　45 号土坑　遺構図 ……200
第 205 図　12 号小穴　遺構図 ……201
第 206 図　19 号小穴　遺構図 ……201
第 207 図　26 号小穴　遺構図 ……201
第 208 図　81 号小穴　遺構図 ……201
第 209 図　30 号小穴　遺構図 ……202
第 210 図　55 号小穴　遺構図 ……202
第 211 図　87 号小穴　遺構図 ……202
第 212 図　104 号小穴　遺構図 ……202
第 213 図　116 号小穴　遺構図 ……202
第 214 図　125 号小穴　遺構図 ……203
第 215 図　150 号小穴　遺構図 ……203
第 216 図　166 号小穴　遺構図 ……203
第 217 図　168 号小穴　遺構図 ……203
第 218 図　173 号小穴　遺構図 ……204
第 219 図　196 号小穴　遺構図 ……204
第 220 図　227 号小穴　遺構図 ……204
第 221 図　245 号小穴　遺構図 ……204
第 222 図　257 号小穴　遺構図 ……205
第 223 図　258 号小穴　遺構図 ……205
第 224 図　341 号小穴　遺構図 ……205
第 225 図　343 号小穴　遺構図 ……205
第 226 図　347 号小穴　遺構図 ……206
第 227 図　360 号小穴　遺構図 ……206
第 228 図　383 号小穴　遺構図 ……206
第 229 図　386 号小穴　遺構図 ……207
第 230 図　405 号小穴　遺構図 ……207
第 231 図　406 号小穴　遺構図 ……208

第 232 図　424 号小穴　遺構図 …… 208
第 233 図　1 号集石遺構　遺構図 …… 211
第 234 図　2 号集石遺構　遺構図 …… 212
第 235 図　2 号性格不明遺構　遺構図（1）…… 213
第 236 図　2 号性格不明遺構　遺構図（2）…… 214
第 237 図　3 号性格不明遺構　遺構図 …… 215
第 238 図　3 号性格不明遺構　遺構図（2）…… 217
第 239 図　4 号性格不明遺構　遺構図 …… 218
第 240 図　5 号性格不明遺構　遺構図 …… 219
第 241 図　6 号性格不明遺構　遺構図（1）…… 220
第 242 図　6 号性格不明遺構　遺構図（2）…… 221
第 243 図　7 号性格不明遺構　遺構図 …… 223
第 244 図　出土遺物図（1）…… 225
第 245 図　出土遺物図（2）…… 226
第 246 図　出土遺物図（3）…… 227
第 247 図　出土遺物図（4）…… 228
第 248 図　出土遺物図（5）…… 229
第 249 図　出土遺物図（6）…… 230
第 250 図　出土遺物図（7）…… 231
第 251 図　出土遺物図（8）…… 232
第 252 図　出土遺物図（9）…… 233
第 253 図　出土遺物図（10）…… 234
第 254 図　出土遺物図（11）…… 235
第 255 図　出土遺物図（12）…… 236

写真目次

巻頭カラー 1　西州津遺跡と吉野川（箸藏寺より）
巻頭カラー 2　西州津遺跡井関地区全景（北から）
巻頭カラー 3　西州津遺跡井関地区縄文時代貯蔵穴群
巻頭カラー 4　西州津遺跡遺跡地区自然流路

写真 1　西州津遺跡箸藏幼稚園見学 …… 9
写真 2　西州津遺跡現地説明会 …… 9
写真 3　佃遺跡遠景
（昼間遺跡群・大柿遺跡・吉野川・佃遺跡）…… 178
写真 4　佃遺跡遠景 …… 178
写真 5　25 号土坑遺物出土状況 …… 197
写真 6　26 号土坑遺物出土状況 …… 198
写真 7　386 号小穴遺物出土状況 …… 207
写真 8　405 号小穴遺物出土状況 …… 207
写真 9　1 号集石遺構 …… 211
写真 10　2 号性格不明遺構遺物出土状況 …… 214
写真 11　2 号性格不明遺構 …… 214
写真 12　6 号性格不明遺構 …… 222
写真 13　6 号性格不明遺構 …… 222
写真 14　噴砂検出状況 …… 223
写真 15　A 区完掘状況 …… 238
写真 16　B 区完掘状況 …… 238
写真 17　B 区完掘状況 …… 238
写真 18　C 区完掘状況 …… 238
写真 19　C 区完掘状況 …… 238
写真 20　B 区岩盤加工痕 …… 238
写真 21　B 区岩盤加工痕 …… 238
写真 22　B 区岩盤加工痕 …… 238

表　目次

表１　周辺遺跡一覧 …… 18
表２　土杭一覧表 …… 163
表３　小穴一覧表 …… 164
表４　性格不明遺構一覧表 …… 164
表５　掲載遺物観察表 …… 165
表６　溝状遺構一覧表 …… 239
表７　土坑一覧表 …… 239
表８　小穴一覧表 …… 239
表９　掲載遺物観察表 …… 239

第Ⅰ章　調査と整理の経緯

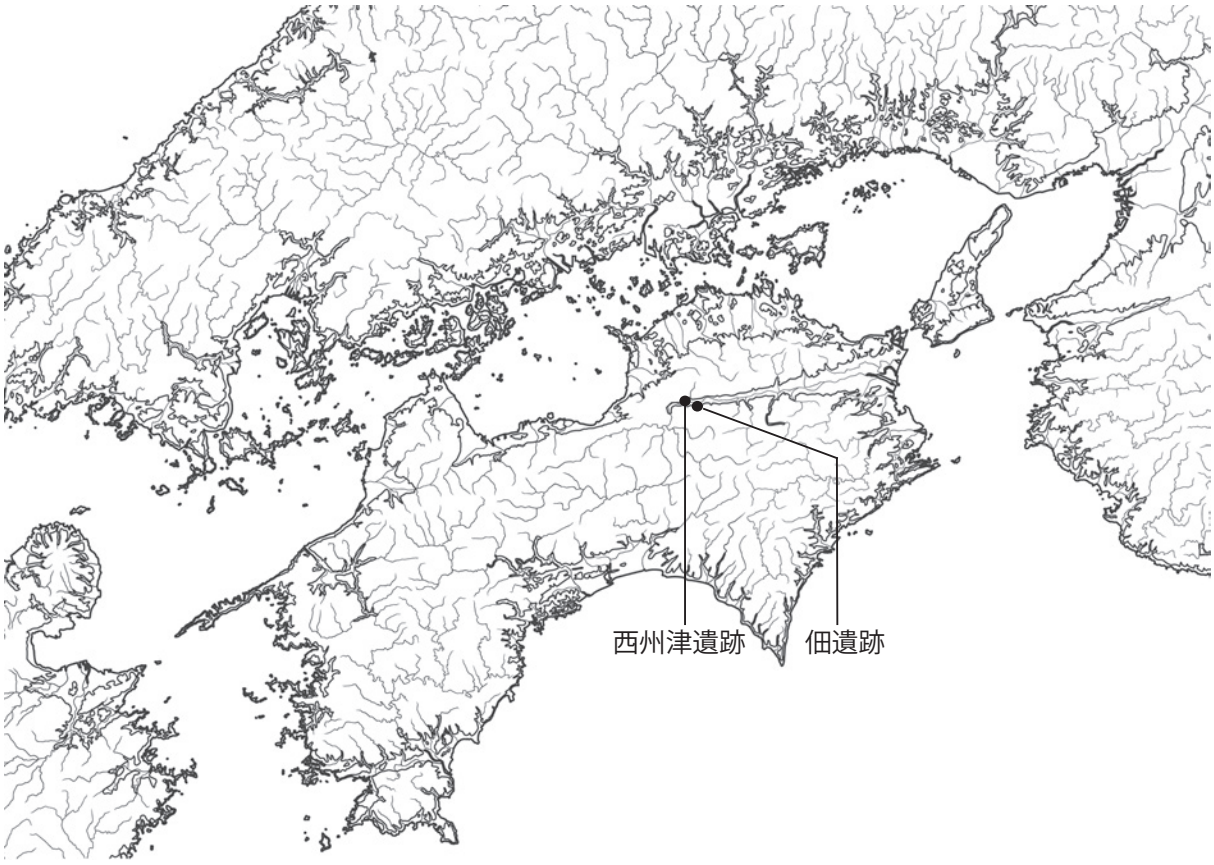
1　調査に至る経緯と調査の経過

（1）西州津遺跡調査の経緯

1．猪ノ鼻道路と遺跡の関係

国道 32 号線は、徳島県と香川県、高知県を結ぶ重要な幹線道路である。徳島県と香川県の県境にあたる猪ノ鼻峠をこの国道 32 号線は走るが、急カーブと急勾配の連続であり、また、冬季には積雪と凍結に悩まされる交通の難所として知られていた。

このような難点を解消するために、香川県三豊市財田町財田と徳島県三好市池田町州津を結ぶ国道 32 号線のバイパス道路として猪ノ鼻道路が、国土交通省四国地方整備局により計画された。平成 15（2003）年度から事業化され、平成 19（2007）年度から工事が着手された。この猪ノ鼻道路の路線は、周知の埋蔵文化財包蔵地として徳島県遺跡地図で散布地（208-67）として括られている範囲を南北に縦断するように計画されていた。また、当該路線は、国道 32 号線の改良工事に伴い、平成 10 ～ 14 年度に試掘調査と発掘調査が実施された西州津遺跡（208-69）に隣接し、東州津遺跡（208-65）に直近している。なお、国道 32 号線の改良工事に伴う西州津遺跡と東州津遺跡の発掘調査成果については、平成 18 年度に、徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 67 集として刊行されている。



第 1 図　調査地点 (S= 1/5,000, 000)

２．遺跡の確認から発掘調査

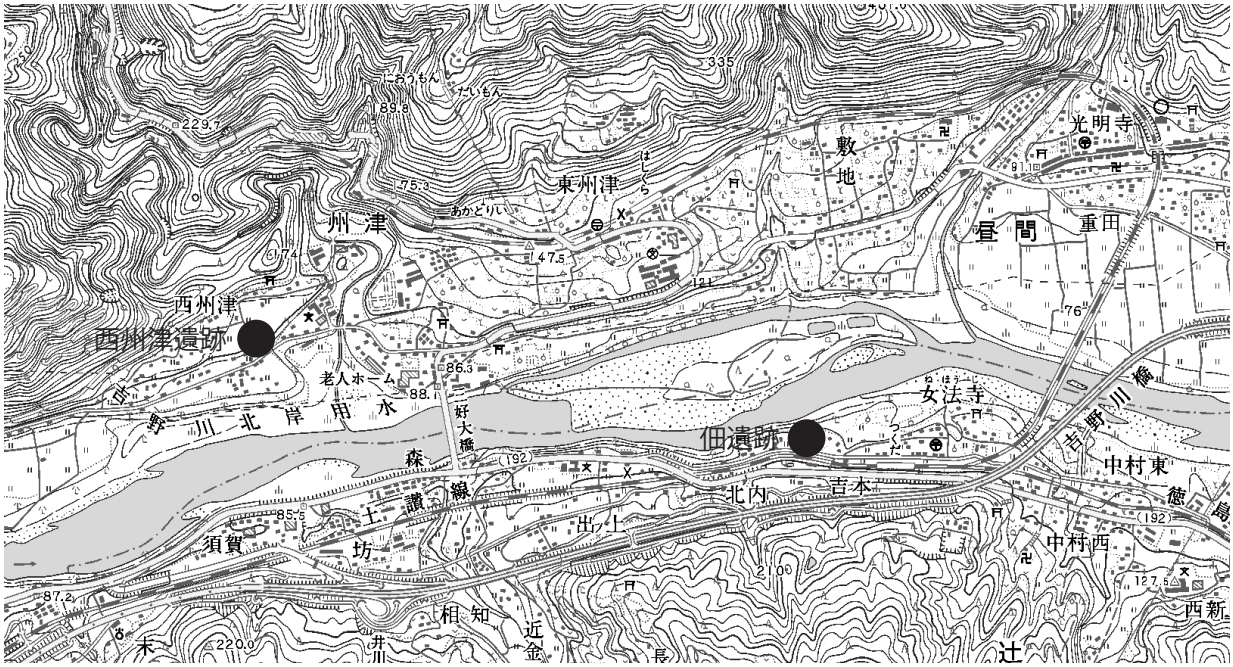
埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて〔平成 20（2008）年 4 月 8 日付け国四整徳道一調第 1-3 号に対する回答〕教文課第 562 号において、埋蔵文化財の有無を確認する必要箇所を国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所（以下徳島事務所）に示した。当該路線は、散布地（208-67）内と西州津遺跡（208-69）内に計画されており、散布地（208-67）内について、平成 20（2008）年 4 月から 9 月にかけて、徳島県教育委員会文化財課（現徳島県県民環境部スポーツ・文化局文化資源活用課）が試掘調査を実施した。その結果、複数の試掘坑で遺構と遺物を確認したことから、発掘調査を行う範囲と、次年度以降に追加の試掘調査を行う範囲を徳島事務所に提示した。なお、平成 21（2009）年度の試掘調査結果より、当該路線内で発掘調査が必要な面積 6,370㎡が決定し、また、散布地（208-67）は、西州津遺跡（208-69）と連続する遺跡として認識された。

発掘調査は、国土交通省四国地方整備局から徳島県が受託し、徳島県が公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターへ委託して実施している。発掘調査期間は、平成 21（2009）年度は、平成 21（2009）年 8 月 1 日から平成 22（2010）年 1 月 31 日まで行われ、平成 22（2010）年度は、平成 22（2010）年 4 月 1 日から 8 月 31 日までと、平成 23（2011）年 1 月 4 日から 1 月 31 日まで行われた。

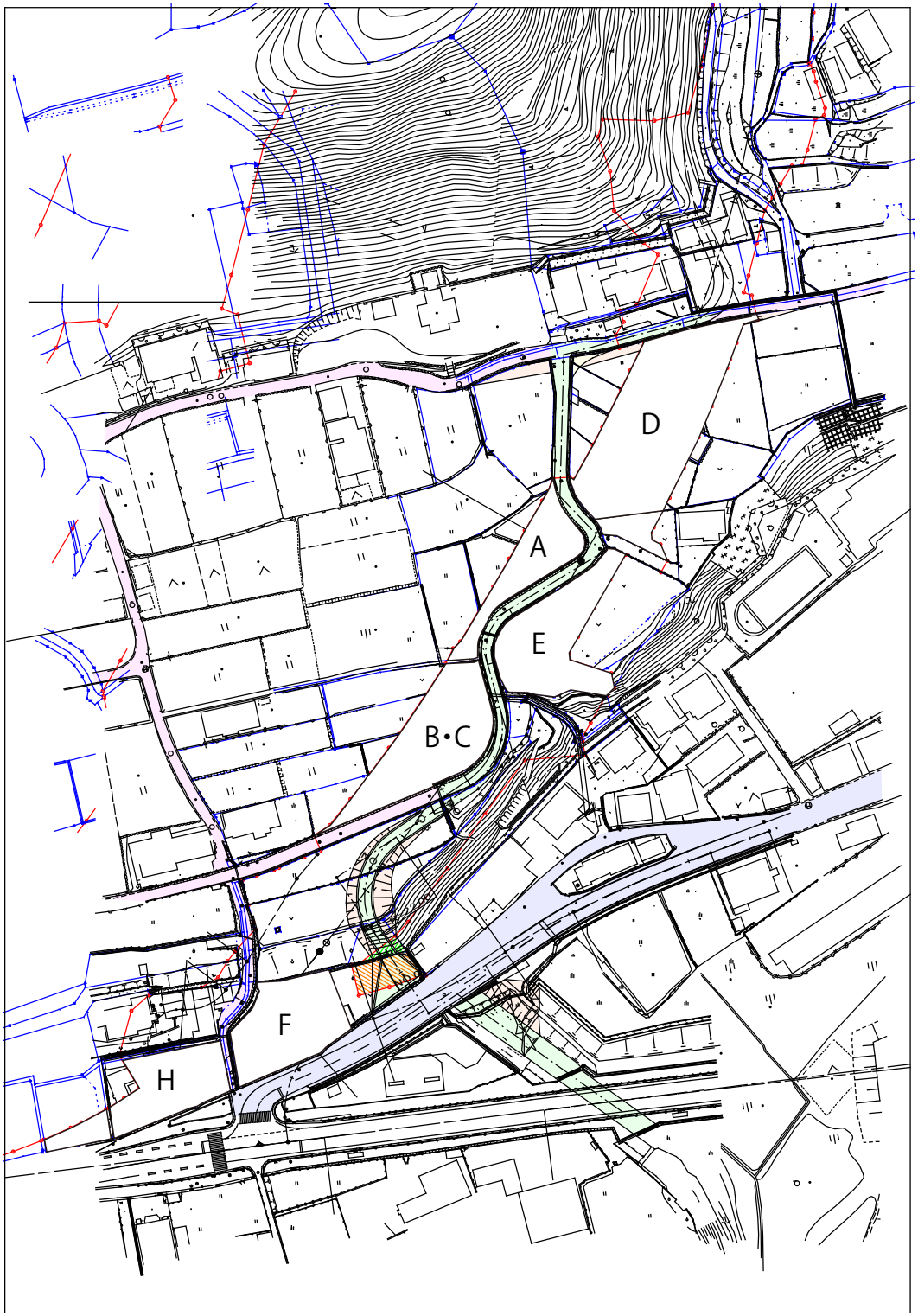
３．発掘調査の経過と調査成果の公開

遺跡の内容については、本書第Ⅲ章以降で詳述しているが、ここでは、発掘調査の経過と調査成果の公開について報告する。

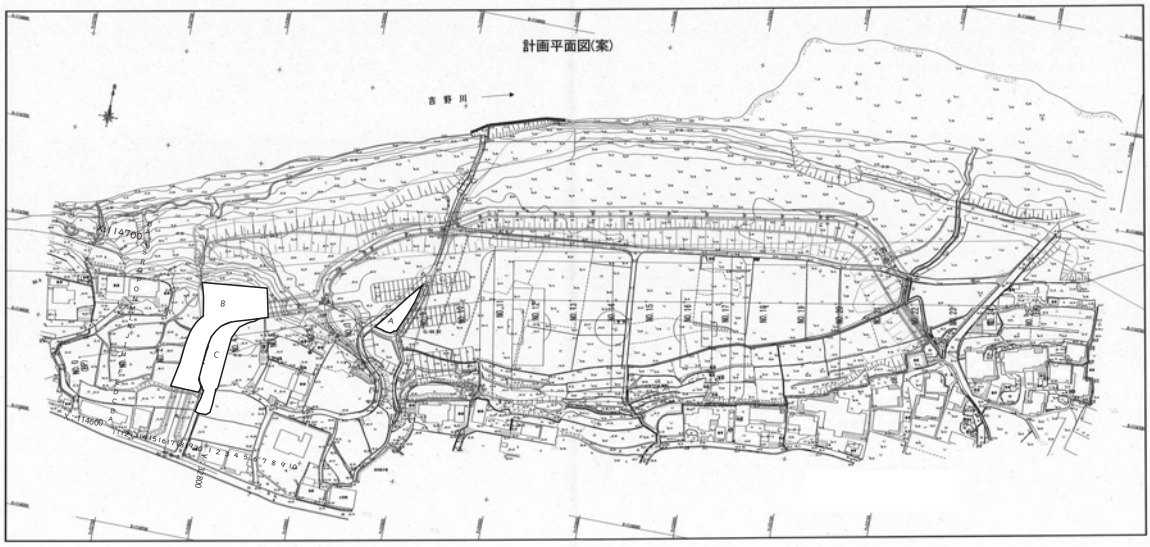
平成 21（2009）年度の発掘調査で、縄文時代晩期前半のドングリ貯蔵穴をはじめ、弥生時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代の遺構と遺物が見つかっている。とくに、縄文時代晩期前半のドングリ貯蔵穴は 32 基発見されており〔平成 22（2010）年度で発見されたものを合わせると計 39 基〕、30 基以上の貯蔵穴が確認されたのは四国で初めてとなる。以上のような貴重な成果から、平成 21（2009）年



第 2 図　調査地点 (S=1/25,000)



第 3 図　西州津遺跡工事計画内調査地点（S1/2,000）



第 4 図　佃遺跡工事計画内調査地点

12 月 18 日に徳島県庁において報道発表を行い、12 月 20 日に現地説明会を実施したところ 150 名の参加があった。平成 22 年度の発掘調査でも、前年度と同様に縄文時代から室町時代までの遺構が多数確認された。

（2）佃遺跡調査の経緯

1．猪ノ鼻道路と遺跡の関係

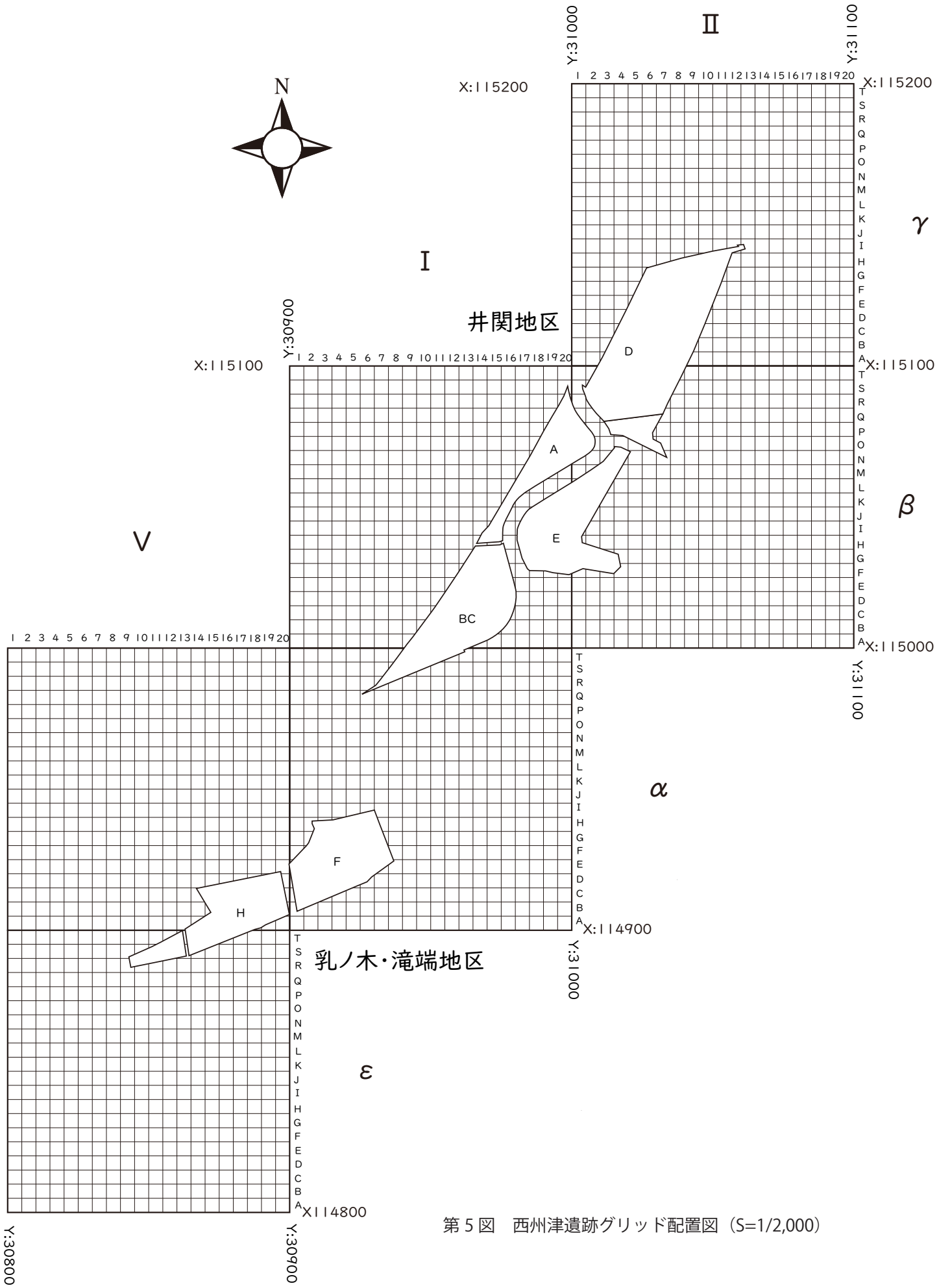
国道 32 号線のバイパス道路である猪ノ鼻道路事業の進展に伴い、トンネル工事等の残土を処理することが計画された。三好市が井川町西井川に用地取得を行った土地を猪ノ鼻道路事業の残土置き場にし、その後サッカー場に整備する事業である。起業地は、徳島県遺跡地図の散布地（208-42）に含まれる、もしくは、直近しており、三好市教育委員会文化財課（以下、市文課）と徳島県教育委員会教育文化政策課（現徳島県県民環境部スポーツ・文化局文化資源活用課：以下、県教文課）により試掘調査が行われることとなった。

2．遺跡の確認から発掘調査

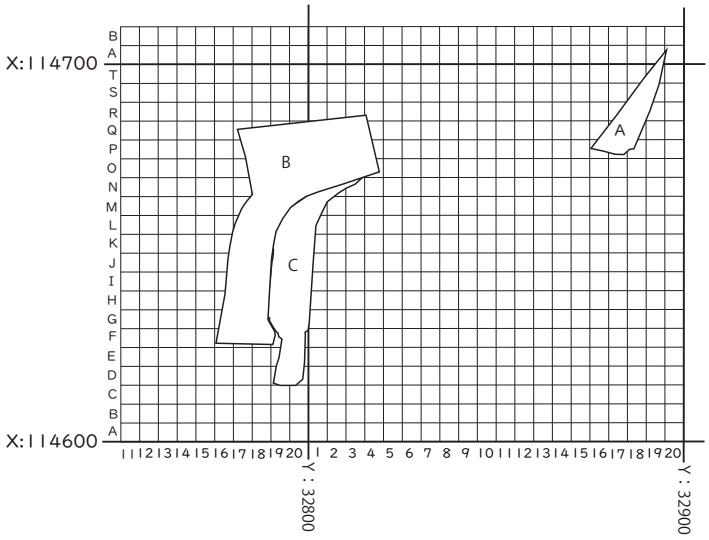
起業地内の用地取得が完了している地点で、市文課が平成 23（2011）年 10 月と平成 24（2012）年 7 月に試掘調査（Ⅰ・Ⅱ次調査）を行い、複数の試掘坑で遺構と遺物が発見された。また、平成 24（2012）年 9 月 13 日に行われた国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所（以下徳島事務所）と県教文課と三好市建設部ならびに市文課との協議により、事業主体者が国土交通省であることが確認された。

その後、県教文課は、一般国道 32 号猪ノ鼻道路（西井川地区）における埋蔵文化財の試掘調査について〔平成 25（2013）年 1 月 29 日付け国四整徳道一調第 119 号に対する回答〕教文課第 796 号において、試掘調査が必要な箇所を徳島事務所に示した。

平成 25（2013）年 2 月に市文課の協力の下、県教文課による試掘調査（Ⅲ次）が実施され、その結果、起業地内における発掘調査必要地点を徳島事務所に示した。その後、起業地内の用地取得を待って平成 26（2014）年 1 月と平成 26（2014）年 10 月にも試掘調査（Ⅳ・Ⅴ次）が行われ、起業地内における発掘調査必要面積 1,847㎡が確定した。なお、Ⅲ次調査後に、散布地（208-42）は、佃遺跡と



第 5 図　西州津遺跡グリッド配置図（S=1/2,000）



第 6 図　佃グリッド配置図（S=1/2,000）

して名称が与えられた。

発掘調査は、国土交通省四国地方整備局から徳島県が受託し、徳島県が公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターへ委託して実施している。発掘調査期間は、平成 25（2013）年度は、平成 26（2014）年 1 月 1 日から平成 26（2014）年 3 月 31 日まで行われ、平成 27（2015）年度は、平成 27（2015）年 5 月 1 日から 6 月 30 日まで行われた。

3．発掘調査の経過

遺跡の内容については、本書第Ⅲ章以降で詳述しているが、ここでは、発掘調査の経過について報告する。

平成 25 年度の発掘調査では、弥生時代後期から終末期の土坑と、室町時代の掘立柱建物跡が見つかっている。平成 27 年度の発掘調査では、弥生時代中期末から後期初めの土坑と、室町時代の掘立柱建物跡、溝、土坑等が検出されている。とくに、室町時代の土坑の中には、中国からの輸入品である青磁と北宋銭の出土が確認されており、地鎮に関係する遺構と考えられ、室町時代の祭祀について推定する上で貴重な資料が得られた。

（3）発掘調査の方法

1．西州津遺跡

測量および図化の基準として、世界測地系を用いた。X ＝ 114,400.000、Y=30,400.000 を大グリッド Loc.A － 1 、中グリッド α － Ⅰ の原点とし、 5 mの小グリッドごとに北方向に A 、 B 、 C 、 D ・・・・、東方向へ 1 、 2 、 3 、 4 ・・・・として、アルファベッドと数字の組合せによって小グリッドを A － 1 、 B － 1 のように表示した。グリッドの南西角のグリッド点をもってグリッド番号とした。なお、高さについては東京湾標準潮位（T.P.）を用いた。

G 区・G-2 区は Loc. A － 1 に、A 区・BC 区・BC-2 区・D 区・E 区・F 区・H 区は Loc. B － 2 に属する。

2．佃遺跡

測量・図化に関しては、世界測地系座標を使用して調査地点にかかる範囲に座標軸を基準とした方眼を設定した。調査地の付近にある X=114,000.000-Y=32,000.000 を原点として一辺 500m の大グリッドを設定し Loc.A-1 とした。さらにこれを 100m 四方の中グリッドに分け、今回の発掘調査地点が該当する中グリッドにあたる X=114,600.000 と Y=32,700.000 の交点を基準として小グリッドを設定し、この交点から一辺５m四方の小グリッドに分け、交点から北に A、B、C、D･･･、東に１、２、３、４･･･と割り振り A-1、B-2、C-3・・・と表記した。グリッド表記は座標交点の南西隅を使用している。高さについては東京湾標準潮位（T.P.）を用いた。

調査区は大きく２カ所に分かれており、優先順位の早い東側の調査区を A 区、調査面積の広い西側を B 区とした。

２　整理の経過

（１）整理作業の経過

整理作業は平成 30 年 4 月 1 日より 9 月 30 日まで 6 ヶ月 /1 班体制で、平成 31 年 4 月 1 日より令和 2 年 3 月 31 日まで 12 ヶ月 /2 班体制で、西州津遺跡出土遺物総点数 39,220 点 /231 箱と佃遺跡出土遺物総点数 7,100 点 /42 箱の報告書作成業務を実施した。

作業内容は、出土遺物 46,320 点の洗浄・注記・接合と、抽出した 1,390 点の復元・実測・トレース・遺物観察表の作成・写真撮影である。遺構については、平・断面図の作成とトレース・遺物出土状況図トレース・遺構写真の抽出である。また、縄文時代貯蔵穴出土堅果類を含む土壌 150 袋の洗浄・乾燥および有機物の抽出を行った。併せて、原稿執筆・レイアウト編集を行った。

３　発掘調査・整理作業業務の体制

平成 21(2009) 年度　西州津遺跡

事務局　所長　阿倍修三　　事務局長　近松克仁
総務課　課長　三好修碁　　庶務係長　氏家敏之
事業課　課長　石井伸夫　　調査 1 係長　藤川智之
発掘調査担当　主任研究員　近藤玲　　大北和美　　研究員　西本和哉　　研究補助員　新居弘規

平成 22(2010) 年度　西州津遺跡

事務局　所長　平尾恭二　　事務局長　菅原康夫
総務課　課長　三好修碁　　庶務係長　氏家敏之
事業課　課長　藤川智之
発掘調査担当　調査 2 係長　栗林誠治　　主任研究員　大北和美

平成 25(2013) 年度　佃遺跡

事務局　所長　福家清司　　事務局長　菅原康夫
総務課　課長　漆川明彦　　庶務係長　大橋育順
事業課　課長　藤川智之
発掘調査担当　専門研究員　田川　憲　　研究員　岩崎慎司

平成 27(2015) 年度　佃遺跡
事務局　所長　福家清司　　事務局長　菅原康夫
総務課　課長　藤田吉則　　庶務係長　大橋育順
事業課　課長　藤川智之
発掘調査担当　専門研究員　島田豊彰　　研究補助員　曽根大地

平成 30 年度　西州津遺跡・佃遺跡
事務局　所長　福家清司　　事務局長　湯浅利彦
総務課　課長　住友　健　　主事　上松健一郎
事業課　課長　藤川智之　　課長補佐　氏家敏之
整理担当　専門研究員　栗林誠治

平成 31 年度　西州津遺跡・佃遺跡
事務局　所長　福家清司　　事務局長　湯浅利彦
総務課　課長　住友　健　　主任主事　上松健一郎
事業課　課長　藤川智之　課長補佐　氏家敏之
整理担当　専門研究員　栗林誠治　島田豊彰

令和元年度　西州津遺跡・佃遺跡
事務局　所長　福家清司　　事務局長　湯浅利彦
総務課　課長　藤川智之　　主任　吉岡正幸
事業課　課長　氏家敏之
整理担当　研究主査　栗林誠治　研究補助員　小林由佳

4　調査日誌抄

（1）西州津遺跡

平成 21 年度

平成 21(2009) 年

8 月 3 日（月）曇 / 晴　調査準備
8 月 4 日（火）曇 / 晴　調査準備。プレハブ建設。トイレ・倉庫設置。安全柵・防塵ネット設置。
8 月 5 日（水）曇 / 晴　A 区機械掘削。プレハブ建設。
8 月 17 日（月）晴 / 曇　作業員招集。遺構面精査。
8 月 25 日（火）晴 / 曇　A 区南側 2/3 遺構検出。
8 月 31 日（月）曇 / 晴　B/C 区機械掘削。A 区包含層掘削。
9 月 1 日（火）晴　A 区第 I 遺構面検出写真。B/C 区機械掘削。
9 月 2 日（水）晴　A 区 SR1001 掘削。B/C 区機械掘削。
9 月 7 日（月）曇 / 晴　A 区 SD1001、SR1001 ほか遺構掘削。B/C 区側溝掘削。遺構検出。D 区表土掘削。
9 月 16 日（水）曇 / 晴　A 区遺構掘削。D 区包含層掘削、遺構検出。
9 月 17 日（木）曇 / 晴　A 区完掘写真撮影準備。D 区包含層掘削。
9 月 25 日（金）晴　A 区完掘写真撮影。
9 月 29 日（火）曇　A 区遺構完掘、確認トレンチ。D 区包含層掘削。
10 月 5 日（月）曇　A 区遺構完掘。D 区包含層掘削。B/C 区文化財課試掘。
10 月 6 日（火）曇 / 雨　台風 18 号対策。図面整理。
10 月 8 日（木）曇 / 雨　台風 18 号後片付け。図面整理。
10 月 9 日（金）曇　D 区包含層掘削。B/C 区文化財課試掘トレンチ再掘削、包含層掘削。
10 月 14 日（水）曇　D 区西側南半分検出写真撮影。B/C 区包含層掘削。A 区 SR1001 確認トレンチ掘削。
10 月 23 日（金）曇 / 晴　D 区西側遺構掘削。B/C 区遺構完掘。
10 月 28 日（水）曇 / 晴　B/C 区完掘写真用精査。完掘写真撮影。
10 月 30 日（金）曇 / 晴　D 区遺構掘削。A 区構造物撤去。
11 月 2 日（月）曇 / 雨　A 区北側機械掘削・包含層掘削精査。B/C 区完掘。D 区遺構掘削。
11 月 5 日（木）曇　B/C 区北側機械掘削・包含層掘削・遺構検出。

D区写真撮影。
11月6日（金）曇／晴　B/C区北側遺構検出。D区SR1001ほか確認トレンチ掘削。
11月9日（月）曇　B/C区南側機械掘削。D区SR1002遺構内掘削。
11月10日（火）曇／雨　B/C区南側機械掘削終了。D区機械掘削。
11月16日（月）曇　D区機械掘削。B/C区遺構検出・掘削。F区機械掘削。
11月25日（水）曇　D区機械掘削終了・遺構検出。B/C区遺構掘削。
11月26日（木）晴　D区東側検出写真とB/C区完掘写真用精査。
11月27日（金）曇／晴　D区東側検出写真。B/C区完掘写真撮影。
11月30日（月）曇　D区遺構掘削。
12月10日（木）曇／雨　D区遺構掘削。F区機械掘削。
12月14日（月）曇／晴　D区遺構掘削。F区機械掘削。A区精査。
12月16日（水）曇　D区遺構掘削、写真撮影用精査。F区機械掘削。
12月18日（金）雪／曇　現地説明会準備。
12月20日（日）曇／晴　現地説明会。
12月21日（月）曇／晴　D区遺構掘削。F区包含層掘削。
12月25日（金）曇／晴　F区遺構検出。
12月28日（月）曇／晴　とりまとめ。

平成22(2010)年

1月5日（火）曇　F区遺構掘削。
1月25日（月）曇／雨　F区遺構掘削。
1月26日（火）曇　F区完掘状況写真撮影。
1月27日（水）晴　測量・とりまとめ。
1月29日（金）晴　機材搬出。とりまとめ。

平成22年度
平成22(2010)年

4月1日（木）晴／曇　調査準備。
4月12日（月）雨　調査準備。機材入札。
4月14日（水）晴　調査準備。コンクリートガラ搬出。防塵ネット・安全柵打設。
4月16日（金）曇／雨　H区機械掘削。機材搬入。
4月19日（月）曇　H区機械掘削、第Ⅰ包含層掘削・遺構検出。
4月23日（金）曇／雨　H区包含層掘削。EI区機械掘削。
4月28日（水）晴　H区第Ⅰ遺構面検出状況写真撮影、遺構掘削。EI区機械掘削。
4月29日（木）晴　H区遺構掘削。EI区遺構検出、遺構検出状況写真撮影。
5月6日（木）晴　H区遺構掘削、拡張部機械掘削。EI区遺構掘削。
5月13日（木）曇／晴　H区写真撮影準備。EI区遺構写真撮影、測量。
5月14日（金）晴　H区第Ⅰ遺構面完掘状況写真撮影、第2包含層掘削。EI区完掘状況写真撮影。
5月17日（月）晴　H区第2包含層掘削。EI区防塵ネット撤去、調査終了。
5月18日（火）晴／曇　H区第2包含層掘削、遺構検出。
5月28日（金）晴　H区遺構掘削。
5月31日（月）曇／雨　H区遺構掘削。E2区機械掘削。
6月4日（金）晴　H区遺構掘削。E2区機械掘削。
6月7日（月）曇　H区写真撮影準備。E2区機械掘削。
6月8日（火）曇／雨　H区第2遺構面完掘状況写真撮影。E2区機械掘削。
6月11日（金）晴／曇　H区測量。E2区包含層掘削。
6月14日（月）晴　H区測量、調査終了。E2包含層掘削。
6月17日（木）晴　E2区包含層掘削、遺構検出。
6月22日（火）晴　E2区遺構掘削、SR1001掘削。
6月24日（木）晴　E2区遺構掘削。G2区機械掘削、遺構掘削、完掘状況写真撮影、調査終了。
7月1日（木）晴　E2区遺構掘削、SR1001掘削。
7月22日（木）晴　E2区遺構掘削、SR1001掘削。BC2区遺構検出、遺構掘削。
7月26日（月）晴　E2区写真撮影準備、写真撮影。BC2区遺構掘削。
7月30日（金）晴／曇　E2区遺構掘削、SR1001掘削。BC2区完掘状況写真撮影。
8月2日（月）晴　E2区遺構掘削、SR1001掘削。BC2区埋め戻し。
8月17日（火）晴　E2区遺構掘削、SR1001掘削。D区北西部拡張部立会
8月20日（金）晴　E2区完掘状況写真撮影。撤収準備。
8月23日（月）晴　E2区SR1001確認掘削。撤収準備。
8月25日（水）晴　撤収。
8月31日（火）晴　とりまとめ。

平成23(2011)年

1月4日（火）曇　BC2区機械掘削。調査準備。
1月5日（水）曇／雨　BC2区機械掘削。機材搬入。
1月6日（木）曇／晴　BC2区機械掘削。遺構検出。

写真1　西州津遺跡箸藏幼稚園見学

写真2　西州津遺跡現地説明会

1月7日（金）晴　BC2区機械掘削、遺構検出、遺構掘削。
1月11日（火）晴　BC2区遺構掘削。
1月14日（金）晴　BC2区東半分完掘状況写真撮影、遺構掘削。
1月18日（火）晴　BC2区遺構掘削。
1月19日（水）曇/雪　BC2区遺構掘削、工事用道路付替。D2区機械掘削。
1月20日（木）雪/曇　BC2区遺構掘削。D2区包含層掘削、遺構掘削。
1月21日（金）晴　BC2区・D2区測量。BC2区（道路下）機械掘削。
1月24日（月）曇/雨　BC2区遺構掘削。BC2区（道路下）機械掘削、遺構検出、遺構掘削。D2区完掘状況写真撮影。
1月25日（火）雪/晴 BC2区遺構掘削。BC2区（道路下）遺構掘削、完掘状況写真撮影。
1月26日（水）曇　BC2区遺構掘削、完掘状況写真撮影。
1月27日（木）曇　測量、基礎整理、現地説明会準備。
1月28日（金）曇　現地説明会準備、撤収準備。
1月29日（土）雪　現地説明会。
1月31日（月）雪/曇　BC2区測量、炭化材・堅果類取り上げ。撤収。

（2）佃遺跡

平成26年度

平成26(2014)年

1月6日（月）晴　仕事始め式 現地確認　調査前準備
1月7日（火）晴曇　事務所用地　砕石敷設 調査前準備
1月9日（木）曇時々雨　事務所用地砕石敷設 調査前準備・発掘作業員採用面接
1月14日（火）曇　A区機械掘削 調査前準備
1月16日（木）晴曇　B区機械掘削 基準杭移設 防塵ネット・安全柵設置
1月20日（月）晴曇　A区場内整備 B区機械掘削 基準杭移設
1月21日（火）晴曇一時雪　A区側溝掘削　第Ⅰ包含層掘削 基準杭移設
1月22日（水）晴曇 A区側溝掘削　第Ⅰ包含層掘削 調査区壁断面図作成
1月23日（木）晴　A区第Ⅰ面遺構検出　第Ⅰ面遺構検出状況写真撮影 調査区壁断面図作成 B区側溝掘削
1月24日（金）晴　B区第Ⅰ包含層掘削 A区調査区壁断面図作成、グリッド杭打設　第Ⅰ面平面図作成
2月3日（月）曇　A区第Ⅰ面遺構掘削・平面図作図　B区第Ⅰ包含層掘削
2月5日（水）曇晴　A区第Ⅰ面遺構掘削 第Ⅰ面平面図作成　レベリング B区第Ⅰ包含層掘削 グリッド杭打設　第Ⅰ面遺物取上
2月6日（木）晴曇のち雪　B区第Ⅰ包含層掘削・遺構検出 A区第Ⅰ面遺構面平断面図作図、レベリング
2月12日（水）曇　A区第Ⅰ面完掘状況写真撮影　B区第Ⅰ面遺構検出・平面図作成
2月13日（木）晴曇　A区埋め戻し　第Ⅰ面平面図作成　B区第Ⅰ面遺構検出　第Ⅰ面平面図作成
2月17日（月）曇　A区埋め戻し　B区第Ⅰ面遺構検出　第Ⅰ面遺構検出状況写真撮影・平面図作成
2月18日（火）雪のち曇　排水作業 B区機械掘削　第Ⅰ面遺構検出・平面図作成
2月19日（水）曇　B区機械掘削　第Ⅰ包含層掘削　第Ⅰ面遺構検出 第Ⅰ面平面図作成
2月20日（木）曇晴　B区機械掘削　第Ⅰ面遺構掘削 調査区壁断面図作成　第Ⅰ面断面図作成
2月21日（金）曇晴　B区第Ⅰ面遺構掘削・断面図作成
3月12日（水）晴　B区第Ⅰ面遺構掘削　写真精査　南側第Ⅰ面完掘状況写真撮影・第Ⅰ面平面図作成
3月14日（金）曇晴　B区排水作業　写真精査　北側第Ⅰ面完掘状況写真撮影　第Ⅰ面平面図作成　埋め戻し
3月18日（火）雨曇 B区埋め戻し　片付け 第Ⅰ面平面図作成　レベリング
3月19日（水）晴 B区埋め戻し 第Ⅰ面レベリング　とりまとめ
3月24日（月）晴 B区埋め戻し 引っ越し とりまとめ
3月25日（火）曇晴 プレハブ解体開始 とりまとめ
3月31日（月）曇晴 とりまとめ

平成27年度

平成27(2015)年

5月1日（金）晴/曇 作業員面接　調査準備
5月7日（木）晴/曇 事務所設置作業　県教委・三好市・業者・センター間現地協議
5月8日（金）晴 備品搬入・事務所設置　調査準備
5月11日（月）晴/曇 現場作業員安全教育
5月12日（火）雨 台風6号接近　整理作業
5月13日（水）晴　周辺整備C区　機械掘削
5月18日（月）曇/雨 C区排水作業・機械掘削・第Ⅰ包含層掘削
5月25日（月）晴/曇 C区機械掘削　壁面整形・側溝掘削・第Ⅰ包含層掘削
5月26日（火）晴　C区壁面整形・側溝掘削・第Ⅰ包含層掘削　上・中段第Ⅰ面検出
5月28日（木）晴/曇　C区壁面整形・側溝掘削・第Ⅰ包含層　上・中段第Ⅰ面検出　検出状況撮影
6月1日（月）晴　上・C区中段第Ⅰ面遺構掘削　下段第Ⅰ面検出状況撮影
6月2日（火）晴/曇 C区上・中段第Ⅰ面遺構掘削
6月11日（木）曇 C区上～下段第Ⅰ面遺構掘削
6月12日（金）曇/晴 C区完掘状況撮影撮影準備
6月13日（土）曇/晴 C区第Ⅰ面完掘状況撮影　上～下段第Ⅰ面遺構掘削・撤収準備
6月16日（金）雨 撤収・物品搬出
6月30日（火）曇/雨　取りまとめ　現地撤収状況確認

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境

1．地理的環境

佃遺跡と西州津遺跡は徳島県の西北端に位置する三好市に所在する。三好市は香川県・愛媛県に接した地域で、吉野川の上中流部の変換点に位置する。吉野川は高知県にある源流から町境に沿って北流し、町内で流路をかえて中央構造線沿いに東流する。東は東みよし町、西は愛媛県四国中央市、南は同市山城町・西祖谷山村、北では香川県観音寺市にそれぞれ接する。池田町は四国島のほぼ中央に位置し、古くから四国の十字路として交通の要地であった。

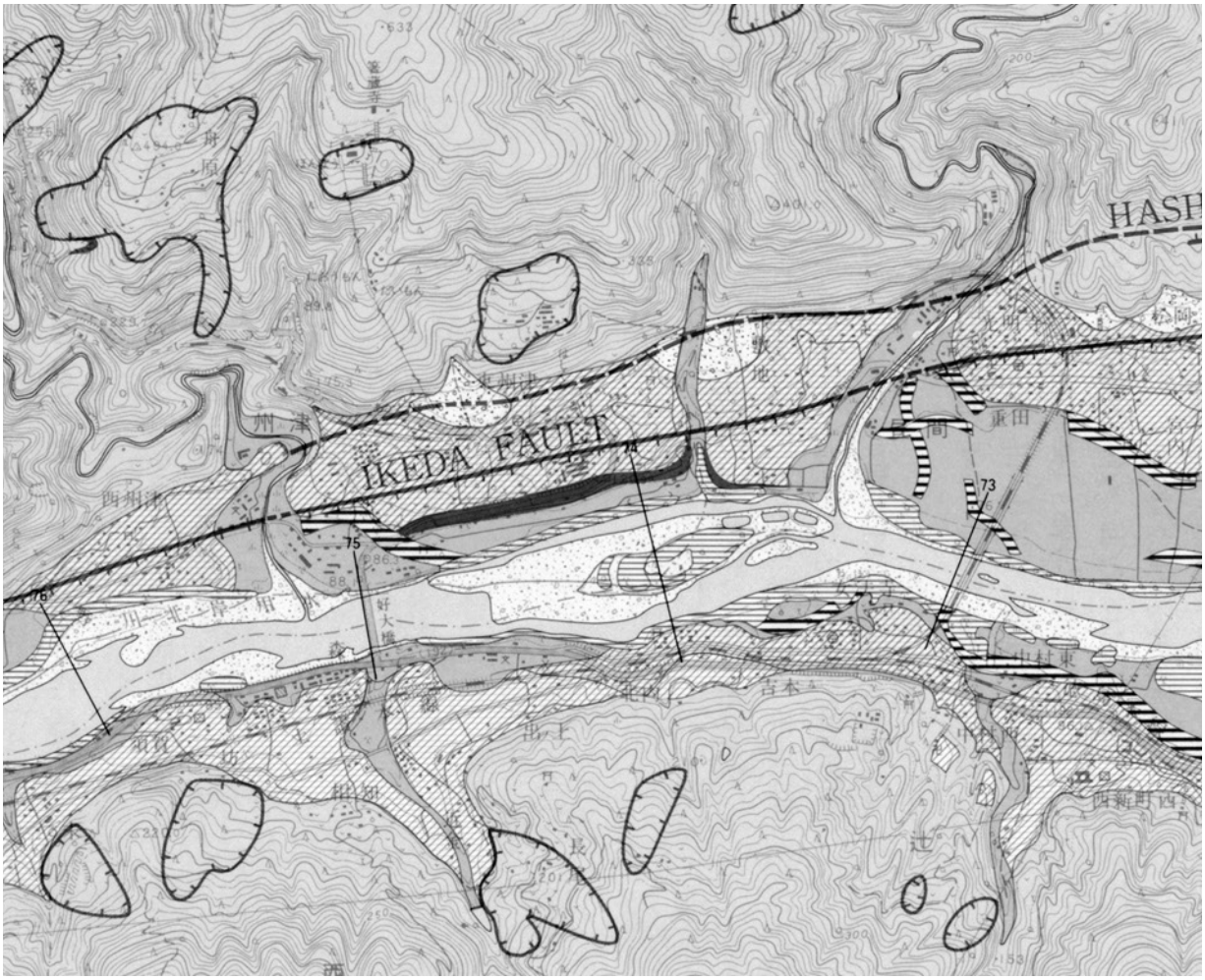
徳島県（旧阿波国）は四国島の東部に位置し、北側では香川県（旧讃岐国）、西側では愛媛県（旧伊予国）、南側では高知県（旧土佐国）と接し、紀伊水道を挟んだ東側では和歌山県（旧紀伊国）と面する。徳島県の総面積は 4,144.23㎢であり、四国島の約 1/4 を占有する。吉野川を代表とする河川流域に平野部が展開するが、総面積の８割を山地が占めるために人々の生活区域は河岸段丘、扇状地を含めても２割ほどにすぎない。

徳島県の地質構造は、県内を東西に走る３つの大きな構造線、すなわち鳴門市里浦から愛媛県佐多岬北側に向けて東西に横断する日本有数の断層帯である中央構造線、その南側に分布する御荷鉾構造線、仏像構造線に大きく影響を受ける。この中央構造線を境として北側の「内帯」、南側の「外帯」とに分けられ、徳島県のほぼ 2/3 以上を外帯が占める。外帯には三波川帯、御荷鉾台、秩父帯、四万十帯と呼ばれる地層が北から南へ、内帯には領家帯（和泉層群）が分布する。

河川もこれらの地質構造に影響され、中央構造線に沿って吉野川が、御荷鉾構造線に沿って鮎喰川・勝浦川が、仏像構造線に沿って那賀川が東流し、東方向に開けた形となる。「四国三郎」の別称を持つ四国最大の河川である吉野川は、愛媛県と高知県との境にある瓶ヶ森山（1,897m）に源を発する。急峻な四国山地を北流し、三好市池田町で９０度向きを変え中央構造線に沿いほぼ一直線に東流し、紀伊水道に注ぐ。地形の特徴から総長 194㎞のうち水源から池田までの約 116㎞が上流部、池田から岩津までの約 38㎞が中流部、岩津から河口までの約 40㎞が下流部とされる。

中央構造線北側の内帯は領家帯である和泉層群にあたり、主に砂岩層と泥岩層の互層からなり、讃岐山脈を形成している。構造線断層系の活動により北側が隆起する事により断層崖を形成したり、構造線断層系直下は破砕帯となり軟弱地盤であることから讃岐山脈からの押し出しが盛んになり扇状地が形成さている。これら吉野川北岸の扇状地は、地殻変動の影響で西側が隆起しているために、西に向かうにつれて段丘化している。一方、中央構造線南側の外帯は三波川帯にあたり主に結晶片岩から成る。吉野川は中央構造線によって形成された構造谷に沿って流れるが、北側の讃岐山脈側からの堆積が大きいために南側によっている。山川町舟戸と阿波町岩津以東の下流域は、吉野川が大きく蛇行・曲流するために、徳島平野を網状河川として流下する。

吉野川市山川町船戸と阿波市阿波町岩津以西から三好市池田町にかけての約 38㎞が中流域となる。中流域平野部の特徴は、吉野川左岸に合流する馬木谷川、黒河原谷川、河内谷川、中鳥川、中野谷川、鍋倉谷川、野村谷川、井口谷川、大谷川、曽江谷川等に代表される内帯の讃岐山脈からの支流による扇



第 7 図　水害地形分類図

状地や開析扇状地が発達していることである。これらの扇状地や開析扇状地は中央構造線によって至る所で切断され変位している。吉野川北岸に合流する支流は、いずれも河床勾配が急で、和泉層群が分布することにより崩壊地が多い。また、年間降雨量が 1,500 を超え、多量の砂礫が下流へと供給される。このため扇状地のほか、開析扇状地が発達する。低位段丘 (Ⅰ) は、左岸に合流する支流の出口に最も一般的に分布する開析扇状地面で、これを構成する段丘礫層は市場礫層と呼ばれる。礫層堆積物中には姶良 Tn 火山灰が挟在しており、この礫層の形成時期は最終氷期最盛期頃と推定される。低位段丘（Ⅱ）は低位段丘 (Ⅰ) より吉野川本流川に部分的に、または低位段丘 (Ⅰ) を開析した支流の谷底に細長く分布する。典型的な現成扇状地は中鳥川、中野谷川、鍋倉谷川などに認められる。平均勾配は 35 ～ 90 ／ 1,000 とかなり急である。吉野川はこれら北岸からの扇状地によって、南に押しやられて外帯山地の山裾を東流する。北岸からの扇状地による押し出しがない区間には、吉野川が幅 1 ～ 2㎞の氾濫源を形成しており、旧河道や中洲状の微高地が認められるが、自然堤防は下流域に比べて発達しない。一方、南岸に合流する井内谷川、加茂谷川、山口谷川、半田川、貞光川、穴吹川等に代表される外帯からの支流は、目立った扇状地を形成していない。これは、支流が結晶片岩類に基盤を穿入蛇行するために、堆積物の供給が少ないためである。しかし、加茂谷川や貞光川、穴吹川等の吉野川合流地点では、ラッパ状に開き氾濫源状を呈したり、山口谷川、半田川、穴吹川には、支流による河岸段丘が形成されてい

る。また、南岸山麓には吉野川本流による低位段丘（Ⅰ）～中位段丘が細切れながらも形成されている。中流域における氾濫源は、北側からの扇状地や開析扇状地に分断されるかのように幅１～2㎞の狭いものが約５～６㎞毎に分布する。主な氾濫源としては東みよし町三好町昼間、東みよし町三加茂町加茂、三好市三野町加茂野宮・川中島・中鳥、美馬市美馬町坊僧、美馬市穴吹町舞中島等である。中流域に見られる中央構造線断層系は、西側より IKEDA FAULT，HASIKURA FAULT，MINO FAULT，ARAKAWA FAULT，TANEE FAULT，IGUTI FAULT，TITIO FAULT である。活断層系はいずれも吉野川北岸の扇状地、開析扇状地、讃岐山脈山麓部を東西ないし東北東～西南西方向に走り、段丘面や河川を大きく変位させている。段丘面の垂直変位は、段丘面が古いほど大きく、新しいものは少ない。

和泉層群の地質構造により各河川の浸食が進み急峻な谷地形を作る一方、山頂付近や尾根は比較的なだらかな地形となる。和泉層群と中央構造線による軟弱地盤の浸食作用は、断層崖から吉野川にかけての区間において堆積作用となり平野部を形成する。よって小規模ながらも吉野川南岸に比べ平野が発達している。平野部は河岸段丘・扇状地と沖積平野から構成さていれる。これらの区分は必ずしも明確でなく、段丘や氾濫源の表層には支流の堆積物が覆い、形態的には扇状地となっている。こうした扇状地の形成要因には地質時代に讃岐山脈が盛んに隆起した結果と考えられている。北側からの土砂は、当初、行常 FAULT に挟まれた大字足代字東寺尾・上中屋・台シロ地域は中位段丘が形成されている。この段丘の北側崖は HASIKURA FAULT による断層崖であり、南側崖は IKEDA FAULT による断層崖である。一方、黒川原谷川流域の大字足代字新町谷岡・長手・山口・中の段と馬木谷川と金江谷川に挟まれた大字昼間字行常・菖蒲・土井の地域には低位段丘上位面が形成されている。更に、大字足代字東原・西原・下の段・末広・美濃田・小山・大字昼間字下中屋・中屋・荒・天神・天神中・宮内・中の番・重田には低位段丘下位面が形成されている。低位段丘に見られる崖は破砕帯が検出されないことや平面形態から、吉野川の側方浸食作用により形成された崖である。吉野川と支流沿いには谷底平野が形成されており、最大の谷底平野は低位段丘下位面以南の大柿遺跡が立地する通称「シマ」と呼ばれる地域である。その範囲は東西 1.7㎞、南北 0.5㎞に渡る。吉野川と松岡谷川、喜来谷川の旧河道、自然堤防、後背湿地等が吉野川の堆積により一つの中洲性微高地を形成したと推定される。北側の讃岐山脈と麓の段丘が隆起したことにより吉野川河道が現在の位置にまで移動し、土井ウマンブチから足代西原かけては三波川帯の中を東流している。特に、ウマンブチから美濃田にかけての川幅は約 100m と非常に狭くなっている。この為、この地点が上流からの堆積物をせき止め「シマ」を形成したと推定される。

佃遺跡が所在する三好市井川町は、吉野川水系のもたらした第４紀の堆積物と、その基盤岩である三波川変成岩で構成されている。井川町域における三波川帯の構成岩石は、泥質片岩、砂質片岩、珪質片岩、塩基性片岩、塩基性岩、蛇紋岩に区分され、結晶片岩は曹長石の斑状変晶の見られる点紋片岩と無点紋片岩に大別される。また、これらの結晶片岩層には含銅硫化鉄鉱の層が散在しており、井川町内には粗銅の精錬を行っていた腕山鉱山などが伝えられている。このような地質環境を反映して、佃遺跡における石器原石の採取状況は、周辺で産出している結晶片岩のように容易に入手できるものと、遠隔地から搬入する必要がある砂岩やガラス質安山岩、チャートに大別できる。後者の搬入原石のうち砂岩は吉野川を隔てた対岸の三波川帯に、ガラス質安山岩はサヌカイトという名称で著名であり讃岐平野東部の瀬戸内火山岩石区（国府台もしくは金山）に産出地を求めることができ、井出上遺跡からは猪ノ鼻峠を経て讃岐山脈越え（箸蔵越え）がいるものの直線距離で 36km 以内と比較的近い位置にある。またチャートは三波川変成帯とその南で接する秩父帯によるものと思われる。

一方、西州津遺跡が所在する三好市池田町から東みよし町三好の吉野川北岸地域では市・町域の９割を占める山地の地層は和泉層群で、砂岩・泥岩の互層で構成されている。

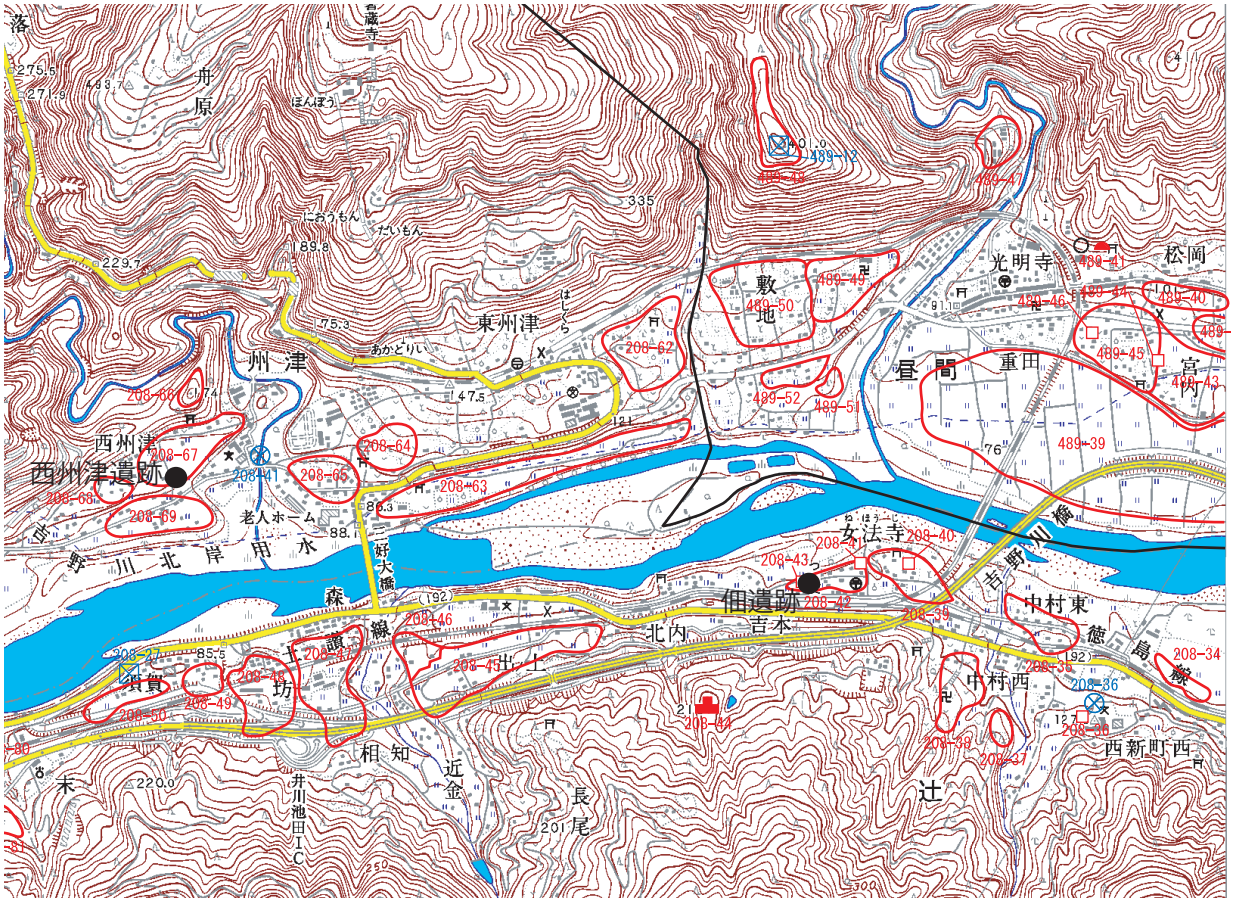
三好町域の和泉層群は砂岩相が卓越した滝久保層と泥岩相が卓越する足代層がある。滝久保層は滝久保谷上流の滝久保、増川谷川流域の中野・内野に分布する。砂岩勝ち互層を主として泥岩層や凝灰岩層を挟む。砂岩勝ち互層の砂岩は中～粗粒である。内野付近では砂岩泥岩等量互層が優勢となり足代層へと連続する。足代層は黒川原谷川流域の足代～百々路、葛篭谷川流域の葛篭～貞安に分布する。泥岩及び泥岩勝ち互層を主として凝灰岩を含む。滝久保層、足代層には淡緑～緑灰色の凝灰岩層が数枚挟まれている。単層の厚さは数１０で、数１０の部層を構成する。単層内には平行葉理やコンボリュート葉理などが認められる。緑色火山砕屑岩片や結晶破片としての石英や長石が含まれるが、砕屑性石英粒子はほとんど含まれない。

２．歴史的環境

当該地 (旧三好郡域) における旧石器時代の遺跡は主に吉野川北岸の段丘上に分布し、井ノ久保 A 遺跡・白地峰遺跡・新山 A 遺跡・洞草遺跡、土取遺跡、東上野遺跡、猿渡遺跡、丹田遺跡があげられる。これらの遺跡からは、サヌカイト製ナイフ形石器、スクレイパー、翼状剥片等が出土している。そのうち土取遺跡では宮田山形ナイフ形石器が、丹田遺跡では国府形ナイフ形石器が出土した。

縄文時代の遺跡も段丘上に占地する遺跡が主体だが､沖積地にも分布する。これまでに山田遺跡 (Ⅰ)･ウエノ遺跡、大柿遺跡・土井遺跡、加茂谷岩陰遺跡・稲持遺跡・毛田遺跡が確認された。山田遺跡 (Ⅰ) は岩陰遺跡で、山形の波状口縁部をもつ深鉢片や爪形文を付けた深鉢片や、サヌカイト製石鏃・盤状剥片、結晶片岩製叩石・磨石等が出土しており、早期末から前期初頭と考えられる。前期に属する可能性がある。大柿遺跡では微高地を中心に河川跡・柱穴・土抗・たき火跡等が確認された。また晩期の結晶片岩製打製石鍬が大量に出土したことから、植物の栽培が行われていた可能性が指摘される。加茂谷岩陰遺跡は山田遺跡 (Ⅰ) と同様に岩陰遺跡で、早期の複合山形文土器・楕円形押型文土器、前期の爪形文土器および中期から後期にかけての土器が出土した。あわせて貝類や獣骨の出土も認められ、季節的なベースキャンプ地として利用されていたと推測できる。稲持遺跡は晩期前半の集落遺跡で、蛇紋岩およびサヌカイト等を用いた石器および石核が住居内から出土しており石器製作集落跡と考えられる。

弥生時代の遺跡は段丘上および沖積地に分布するが、時期によって占地する場所が異なる。弥生時代前期～中期初頭に属する遺跡は、大柿遺跡・土井遺跡をあげることができる。これらの遺跡は低位段丘および沖積地上に占地する。弥生時代中期中葉～後期初頭に属する遺跡として､土取遺跡があげられる。この時期の遺跡は、沖積地より低位もしくは中位の段丘上に占地する傾向がうかがえる。土取遺跡は標高約 149m を測る丘陵末端部に位置し、南下の水田面との比高差は 65m を測る。石器の散布地として知られていたが、調査の結果、直径 7.0m 程の円形を呈する竪穴式住居が確認され、中期中葉を主体とする壺・甕・鉢、サヌカイト製石鏃、緑泥片岩製環状石斧、管玉、鉄器等の遺物が出土した。高地性集落としての位置付けがなされている。弥生時代後期～終末期に属する遺跡として、東州津遺跡・ウエノ遺跡・マチ遺跡、相知遺跡・井出上遺跡・須賀遺跡、土取遺跡・足代小原遺跡・昼間荒神前遺跡・昼間天神前遺跡・昼間西貝川遺跡・昼間正力遺跡・昼間京伝遺跡・足代東原遺跡・大柿遺跡、稲持遺跡等をあげることができる。東州津遺跡は、低位河岸段丘に位置する後期前半の遺跡である。確認された方形周溝墓の周溝内から、多量の完形土器が出土している。ウエノ遺跡では住居跡が確認され、中央部に炉



第 8 図　周辺の遺跡

を伴う住居内からは壺・甕・高杯・サヌカイト製石鏃の他、讃岐からの搬入品と思われる壺形土器片も出土し、上野台地における弥生時代の集落の成立・変遷を考える上で貴重な遺跡といえる。井出上遺跡では竪穴住居跡を 13 軒検出し、そのうちの 1 軒から翡翠製勾玉 1 点とともに石鏃と大量のサヌカイト片が出土した。昼間遺跡京伝地区は、標高 85m 前後の洪積台地の先端に位置する。調査の結果、古代から中世を主体とする遺跡であることが判明したが、後期に属する土器も若干出土している。昼間遺跡荒神前地区は、標高 85m 前後の扇状地の先端部と吉野川の氾濫源が接する箇所に位置する。調査の結果、後期に属する直径 10m 程の円形を呈する竪穴住居が確認され、それに伴う土器と鉄器が出土した。昼間遺跡西貝川地区は、標高 84m 前後を測る段丘の緩やかな傾斜面に位置し、詳細な時期は不明ながらも円形周溝墓が確認され、サヌカイト製石鏃や石槍、結晶片岩製石斧等が出土した。昼間遺跡天神前地区は、標高 84m 前後の扇状地の扇端部に位置する。自然流路から弥生土器が出土しているが、詳細な時期は不明である。足代遺跡円通寺地区は、標高 85m 前後の河岸段丘上に位置する。調査の結果、直径 4.0m 程の円形の竪穴住居や土坑等が確認された。足代東原遺跡は標高 83m 前後の扇状地上に位置し、同時期の西原遺跡の北東約 500m に所在する。前方後円形を呈する積石墓と 36 基以上の円形を呈する集石が検出され、弥生時代後期～庄内式併行段階の集団墓地であると推定された。また葬送儀礼に関与したと考えられる土器溜まりのうちの一つから、猪型土製品と猿型土製品が出土した。稲持遺跡から蛇紋岩製勾玉とその未製品、原石、筋砥石、叩石、台石が出土しており、蛇紋岩製勾玉の製作遺跡として捉えられる。

古墳時代の遺跡は調査事例が少なく様相が不明瞭なものが多いが、シマ古墳、須賀古墳、妙見七夕塚古墳・伊月古墳・西成行古墳・大柿遺跡・土井遺跡、丹田古墳・天神塚古墳等が知られている。丹田古墳は現在県西部で唯一確認されている古墳時代前期の前方後円墳で、全長 35m を測る。合掌型竪穴式石室をもち、石室から獣形鏡・鉄剣・袋状鉄斧・刀子等が出土した。大柿遺跡では竪穴住居 280 余軒・掘立柱建物 40 余棟・鍛冶工房等が良好な状態で検出され、古墳時代後期の大規模な集落跡であるとともに、当該期の集落構造を検討する上で重要な資料である。

古代の遺跡は調査事例が少ないものの、相知遺跡・井出上遺跡、大柿遺跡、加茂宮遺跡、末石遺跡・中庄東遺跡をあげることができる。相知遺跡では奈良～平安時代の掘立柱建物が確認され、石帯の出土および遺跡の立地条件から官衙的性格を持つ遺跡として捉えられる。井出上遺跡でも平安末～鎌倉時代の掘立柱建物が確認された。大柿遺跡では平安時代の土師器焼成土坑・掘立柱建物・水田等が検出された。また掘立柱建物を構成する柱穴から完形の白磁四耳壺・瓦質四耳壺等が確認され、建物廃絶にともなう何らかの祭祀行為と考えられる。加茂野宮遺跡では「」字銅印や菊花楓双鳥文鏡が出土し、官衙的性格を持つ可能性がある。中庄東遺跡は、条里遺構と推定される範囲の東側に位置する。奈良・平安～室町時代にかけての遺跡であり、8 世紀代の土器とともに帯金具や和同開珎が出土し、近隣に官衙的な施設の存在を推定される。また条理遺構が検出され、吉野川下流域の国衙周辺で認められる N-10° -W とは異なる方向をとることが確認された。

中世の遺跡は、段丘および沖積地上に分布する。山田遺跡（Ⅰ）・お塚古墳・供養地遺跡・和田遺跡・馬路遺跡、八幡遺跡・坊遺跡、大柿遺跡・土井遺跡・円通寺遺跡・東原遺跡、中庄東遺跡等があげられる。文献（3）によると旧三好郡内には中世城郭が多く存在し、山城町には田尾城、池田町には馬路城・大西城・大利城・川崎城・佐野城・漆川城・州津城・中西城・白地城、井川町には野津後城、旧三好町には足代城・田ノ岡城・東山城・東昼間城、三野町には屋形山城・清水城・加茂野宮城・芝生城、三加茂町には金丸城・鴨城が所在する。また旧三好郡内には荘園・郷・保が存在し、主なものとして寛治 4(1090) 年に成立した京都賀茂別雷社領の福田庄、元京都蓮華王院（三十三間堂）領で鎌倉中期には山城醍醐寺領となった金丸庄（三加茂町）、西園寺領であり現在の池田町から三好町昼間付近を庄域とする田井庄、文治元 (1185) 年に源頼朝によって山城石清水八幡宮に寄進された三野田保（三好町）、南北朝期に祖山一族の兵粮料所として預け置かれていた井川庄（旧井川町）・稲用保（三加茂町）、三好郷などがあげられる。また金丸庄にかかわって金丸東庄・金丸西庄（三加茂町）も存在した。主な集落遺跡として大柿遺跡・土井遺跡・東原遺跡・中庄東遺跡、居館跡として円通寺遺跡、集石墓が確認された山田遺跡（Ⅰ）・お塚古墳・供養地遺跡・馬路遺跡をあげることができる。円通寺遺跡では方形区画溝に囲まれた屋敷地とその外側に堀と土塁の一部、および多数の炭窯を確認した。屋敷地内では、四面庇を持つ二×五間の建物と 15 棟以上の掘立柱建物、屋敷地の東北隅において火葬墓等を検出した。この屋敷地は 13 世紀半ばから形成され、15 世紀後半～ 16 世紀前半には堀・土塁を構築するなどの大規模な拡張工事を行い、城館の呼称にふさわしい外観となる。古文書等から調査地が三野田保の比定地であり、三野田保の荘官あるいは地頭クラスの居館であった可能性がある。また炭窯は、黒川原谷川流域の開発に伴い木炭生産が行われた可能性がある。また三野町では、香川県十瓶山窯製品に類似した須恵器壺などを生産した花園窯が所在する。

近世の三好郡は、讃岐・伊予・土佐のそれぞれの国に接する交通の要衝であった。吉野川北岸を撫養街道、南岸を伊予街道が通り、大西町（現池田町）で両街道は合流する。讃岐へ向かう主要な峠路とし

て箸蔵越え（猪ノ鼻峠）があった。他にも主な峠として、二軒茶屋、東（男山）峠、樫の休場、真鈴峠があげられる。土佐へは二つの道があり、伊予街道から分岐して山城谷を経由する道と井内谷（現井川町）を経由する祖谷街道と呼ばれる道がある。これらの通行人を取り締まるために、現在の池田町には池田陣屋・白地船渡番所・佐野口番所・佐野口御分一所が置かれていた。また三好郡内の産業として、煙草・漆・葛粉・炭・紙等が有名である。

平成 10 ～ 14 年度にかけて、一般国道 32 号井川 IC 関連改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査が、東州津遺跡と西州津遺跡部分において行われた。この発掘調査地点は、今回報告する昭和 49 年度吉野川北岸水利事業関係で発掘調査された東州津遺跡の W 区調査地点から、直線距離にして 900m 西に位置している。この 5 ヶ年度にわたる調査では、縄文時代、弥生時代、中世の遺構と遺物が確認されている。平成 11・12 年度の調査地点の溝 SD1002 から深鉢片が、土坑 SK2002 からは、サヌカイト製石器と土器片が出土しており、縄文時代晩期の遺物である。この SD1002 は、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の区画溝と考えられ、多量の土器片が出土している。また、鎌倉時代の土坑や柱穴が見つかっており、包含層からではあるが西村窯系の須恵器椀片が数多く見つかっている。

一方、西州津遺跡では、縄文時代晩期の土器片が包含層中から見つかっており、東州津遺跡と同じく西州津遺跡も縄文時代晩期から人々の生活痕跡が認められる。続く弥生時代には、中期後半の竪穴住居が 1 棟確認されている。古墳時代、古代の明確な遺構と遺物は確認されていないが、中世の土壙墓が 90 基見つかっており、12 世紀から 16 世紀にわたる土壙墓の変遷を考える上で重要な遺構である。

奥村清ほか 1998『自然の歴史シリーズ徳島「自然の歴史」』コロナ社

早渕隆人 1992「旧石器遺跡の立地についての一視点― 吉野川北岸域を中心として―」徳島県埋蔵文化財センター研究紀要『真朱』創刊号

湯浅良幸ほか 1979『日本城郭大系第１５巻香川・徳島・高知』新人物往来社

徳島県教育委員会・三好郡三好町教育委員会 1973『土取遺跡調査報告』

徳島県教育委員会 1976『昼間遺跡発掘調査概報― 吉野川北岸農業水利事業に伴う緊急発掘調査― 京伝地区荒神前地区』徳島県教育委員会・三好町教育委員会 吉野川北岸農業水利事務所

徳島県教育委員会 1977『吉野川北岸農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査昼間遺跡（天神前地区）』

徳島県教育委員会 1977『徳島県文化財調査概報』

徳島県教育委員会 1978『徳島県文化財調査概報昭和５３年度』

矢田公洋 1997『加茂野宮遺跡― 四国電力株式会社三野変電所新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―　徳島県三好郡三野町埋蔵文化財発掘調査報告書』三野町教育委員会

石尾和仁 1998『ウエノ遺跡― 池田警察庁舎建て替え工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 22 集　徳島県教育委員会（財）徳島県埋蔵文化財センター

森浩一・松藤和人 1999『徳島県三好郡三加茂町所在加茂谷岩陰遺跡群』同志社大学文学部考古学調査報告書第 10 冊　同志社大学文学部文化学科

天羽利夫・岡山真知子 1985『徳島の歴史散歩』徳島市民双書 19 徳島市立図書館

菅原康夫 1988『日本の古代遺跡 37　徳島』保育社

三好町史編集委員会 1996『三好町史地域誌民俗編』徳島県三好郡三好町

三好町史編集員会 1997『三好町史歴史編』徳島県三好郡三好町

「三好郡」『徳島県の地名』日本歴史地名体系 37　2000 平凡社

『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 7　1995 年度』1996 (財) 徳島県埋蔵文化財センター

『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 8　1996 年度』1997 (財) 徳島県埋蔵文化財センター

『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 9　1997 年度』1998 (財) 徳島県埋蔵文化財センター

『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol. 10　199 年度』1999 (財) 徳島県埋蔵文化財センター

菅原康夫「41 徳島県足代東原遺跡」『日本考古学年報 35』1982 年度版　日本考古学協会

表 1　周辺遺跡一覧

旧市町村番号	新遺跡番号	新市町村名	名称	種類	所在地 1	時代	種別	主要遺構	出土遺物	文献
482	39	東みよし町	大柿遺跡	遺跡	三好郡東みよし町三好昼間	縄文、弥生、古墳、古代、中世	集落	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、ピット、溝、自然流路、池、水田、集石、埋葬（土壙墓）、その他（ブロック、土師器焼成遺構、炉）	縄文土器、縄文石器（掻器、スクレイパー、打製石斧、楔形石器、石鏃、石錐、石匙、石鍬、石鎌、石棒、台石、敲石、磨石、石皿、サヌカイト剥片）、弥生土器（ミニチュア土器）、弥生石器（石鏃、スクレイパー、楔形石器、大型蛤刃石斧、小形柱状石斧、小形扁平石斧、環状石斧、石錐、石鎌、石庖丁、石鍬、台石、砥石、敲石）、土製品（紡錘車、球状土製品、土錘、土玉）、石器 (スクレイパー、石鏃、石鍬、砥石、敲石、凹石、結晶片岩)、石製品（管玉、丸玉、硯)、須恵器、土師器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、黒色土器、陶器、磁器、青磁、白磁（四耳壺)、青白磁、木製品、鉄器、鉄鍋、鉄滓、銅銭（嘉祐通寶、至道元寶、熙寧元寶、紹聖元寶、洪武通寶、開元通宝、乾元重宝、太平通宝、淳化元宝、咸平元宝、祥符元宝、天聖元宝、皇宋通宝、元豊通宝、大観通宝、政和通宝、宣和通宝、永楽通宝)、種子（桃核）	1
482	40	東みよし町		遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字天神・山田	古代、中世	散布地			
482	41	東みよし町	坪井谷山上古墳	遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字光明寺	古墳	古墳			
482	42	東みよし町		遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字山田・京田・宮内	中世	散布地			
482	43	東みよし町	昼間遺跡（京伝地区）	遺跡	三好郡東みよし町三好昼間京伝・立法寺・立花	弥生、中世、古墳、古代	集落	竪穴住居、掘立柱建物、溝、自然流路、竪穴住居、自然流路	弥生土器、弥生石器 (石鏃、石斧、石包丁)、土師質土器、瓦器、瓦質土器、瓦、土製品（土錘)、須恵器、土師器	2
482	44	東みよし町	立法寺跡	遺跡	三好郡東みよし町三好昼間りゅうほうじ 3308	古代：平安	寺院		瓦	3
482	45	東みよし町		遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字宮内	古代、中世	散布地			
482	46	東みよし町	光明寺跡	遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字宮内	古代	寺院			
482	47	東みよし町	土取遺跡	遺跡	三好郡東みよし町三好昼間土取	旧石器、弥生：中期	集落、遺物包含層	竪穴住居	旧石器（ナイフ形石器、サヌカイト剥片)、弥生土器、弥生石器（尖頭器、石鏃、スクレイパー、環状石斧、石槍、鑿状、石錐)、石製品（管玉)	4
482	48	東みよし町	東山城跡	遺跡	三好郡東みよし町三好大字東山柳沢 358-2	中世	散布地			
482	49	東みよし町		遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字敷地東	弥生、古代、中世	散布地			
482	50	東みよし町		遺跡	三好郡東みよし町三好昼間敷地西	弥生、中世	散布地			5
482	51	東みよし町	田ノ岡城跡	遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字敷地東	中世	城館			
482	52	東みよし町		遺跡	三好郡東みよし町三好大字昼間字敷地西・敷地東	中世	散布地			
485	34	三好市		遺跡	三好市井川町御領田	中世	散布地		土師器、須恵器、陶器	
485	35	三好市		遺跡	三好市井川町島・タクミ田・中村流	中世	散布地		土師器、須恵器、陶器	
485	36	三好市	安養寺経塚	遺跡	三好市井川町中村・タクミ田・吉岡	中世	経塚		銅製経筒、銅鏡（梅花蝶鳥鏡）	6
485	37	三好市	中村遺跡	遺跡	三好市井川町田中	旧石器	散布地			
485	38	三好市		遺跡	三好市井川町中岡	旧石器、中世	散布地		須恵器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、瓦、土製品（土錘)、石器（敲石、サヌカイト剥片)、鉄滓	
485	39	三好市	女法寺遺跡	遺跡	三好市井川町八幡 28 － 3 他、西井川	中世：鎌倉、弥生：中期～後期	集落		須恵器、土師質土器、瓦器、白磁、根石、弥生土器、黒色土器（A 類、B 類)、瓦質土器、石器（スクレイパー）	7
485	40	三好市	女法寺経塚	遺跡	三好市井川町女法寺・西井川・八幡	中世	経塚		銅製経筒、銅鏡（菊花双鳥鏡）	6
485	41	三好市		遺跡	三好市井川町西井川	中世	墳墓			
485	42	三好市		遺跡	三好市井川町西井川	弥生、中世	散布地			
485	43	三好市		遺跡	三好市井川町西井川	中世	墳墓			
485	44	三好市	山下城跡	遺跡	三好市井川町西井川	中世	城館			
485	45	三好市	井出上遺跡	遺跡	三好市井川町西井川 1405-1・1490 他	弥生、古代：平安後期～中世	集落	竪穴住居、溝、土坑、ピット、掘立柱建物	弥生土器（ミニチュア土器)、弥生石器（サヌカイト剥片、石鏃、スクレイパー、石庖丁、扁平片刃石斧、石錐、砥石)、須恵器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、青磁、白磁、瓦、土製品（土錘)、石器（敲石、サヌカイト剥片)、石製品（勾玉)、鉄滓	8
485	46	三好市		遺跡	三好市井川町西井川	中世	散布地		土師器、須恵器、陶器	
485	47	三好市	相知遺跡	遺跡	三好市井川町西井川 393、相知	弥生、古墳、古代、中世	集落	竪穴住居、掘立柱建物	弥生土器、弥生石器、土師器、須恵器、石帯	9
485	48	三好市	相知遺跡	遺跡	三好市井川町西井川 相知 421 他	弥生、古墳、古代、中世	集落	竪穴住居、掘立柱建物	弥生土器、弥生石器、土師器、須恵器、石帯	9
485	49	三好市	坊遺跡	遺跡	三好市井川町西井川 210-3・214-1 他	中世、古代	生産	土坑、ピット	須恵器、土師器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、瓦、土製品（土錘)、石器（敲石、サヌカイト剥片)、鉄滓	7

旧市町村番号	新遺跡番号	新市町村名	名称	種類	所在地 1	時代	種別	主要遺構	出土遺物	文献
485	50	三好市	須賀遺跡	遺跡	三好市井川町西井川 101 － 1 他	弥生	集落	掘立柱建物、土坑	土師器、陶器、磁器	7
483	62	三好市		遺跡	三好市池田町州津宮ノ久保	古代、中世	散布地		土師器、須恵器、陶器	
483	63	三好市	東州津遺跡	遺跡	三好市池田町州津雛田・堂面 223 他	弥生：後期、古代：奈良後期～平安、中世：鎌倉	集落	竪穴住居、溝、土坑、ピット、埋葬（土壙墓、方形周溝墓）	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、土師質土器、土製品（土錘）、瓦器、青磁	10
483	64	三好市		遺跡	三好市池田町州津藤ノ井	弥生、中世	集落		弥生土器、陶器、土師器、磁器	
483	65	三好市	東州津遺跡	遺跡	三好市池田町東州津西ノ久保 309-1・295 番地 1	縄文、弥生、古代、中世	集落	溝、ピット、自然流路	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、土師質土器、瓦器、陶器、磁器、瓦、土製品（土錘、泥面子）、石器（砥石、敲石）、木製品、縄文石器 (石鏃、サヌカイト剥片、チャート剥片)、鉄滓	11
483	66	三好市	州津城跡	遺跡	三好市池田町州津井関	中世	城館			
483	67	三好市		遺跡	三好市池田町州津井関・坂口	弥生、中世			サヌカイト、土師器、陶器	
483	68	三好市		遺跡	三好市池田町州津坂口	中世	散布地		土師器、陶器	
483	69	三好市	西州津遺跡	遺跡	三好市池田町州津滝端 1257 の 1・1256・1313 の 1 他	弥生、中世、古代		竪穴住居、掘立柱建物、土坑、埋葬（土壙墓）、自然流路	弥生土器、須恵器、土師器、磁器	12
483	80	三好市	トウゲ遺跡Ⅰ	遺跡	三好市池田町トウゲ 98・106-1 他・ヤマダ・馬路	中世、近世		掘立柱建物、土坑、ピット、自然流路、埋葬（集石墓）、集石	須恵器、土師質土器、陶器、青磁、白磁、瓦器、骨、弥生土器、土製品（土錘）	13

1：小林勝美・松永住美『大柿遺跡発掘調査概報』徳島県教育委員会・三好町教育委員会・吉野川北岸農業水利事業所 1976
石井伸夫「大柿遺跡（大船戸地区）」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.7 1995 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1996
矢田公洋 三好町埋蔵文化財調査報告 第 2 集『町道船戸線拡幅工事に伴う発掘調査 大柿遺跡』三好町教育委員会・三好町埋蔵文化財発掘調査委員会 2000
矢田公洋 三好町埋蔵文化財調査報告 第 3 集『町道筏津線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 大柿遺跡』三好町教育委員会・三好町埋蔵文化財発掘調査委員会 2000
矢田公洋 三好町埋蔵文化財調査報告 第 4 集『町道大船戸船拡幅工事に伴う発掘調査 大柿遺跡』三好町教育委員会・三好町埋蔵文化財発掘調査委員会 2001
菅原康夫・栗林誠治・田川憲・藁科哲男・白石純・植地岳彦・㈱古環境研究社 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第 37 集『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 18 大柿遺跡Ⅰ』徳島県教育委員会・日本道路公団・財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2002
2：小林勝美『徳島県文化財調査概報 1976 年度』徳島県教育委員会 1978
3：徳島県教育委員会『昭和 37 年度埋蔵文化財包蔵地調査カード』徳島県教育委員会 1962
一山典『歴史時代の徳島市 ―阿波の古瓦―』徳島市教育委員会 1982
4：森浩一 徳島県教育委員会・三好町教育委員会『土取遺跡調査報告』徳島県教育委員会・三好町教育委員会 1973
天羽利夫「徳島県の遺跡」『日本の旧石器文化 3』雄山閣 1984
5：三好町誌編集委員会『三好町誌』三好町史編集委員会 1959
6：西井治夫『井川町誌』井川町役場 1982
徳島市教育委員会社会教育課『歴史時代の徳島市 ―阿波の経塚―』徳島市教育委員会 1984
7：横田温生 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 29 集『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 16 八幡遺跡 井内遺跡 坊遺跡 須賀遺跡 末遺跡』徳島県埋蔵文化財センター 2000
8：藤川智之「井出上遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.8 1996 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1997"
9：藤川智之「相知遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.8 1996 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1997
10：立花博『池田町史 上巻』徳島県三好郡池田町 1983
徳島県教育委員会・中四国農政局吉野川北岸水利事業所『吉野川北岸水利事業関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅰ州津遺跡発掘調査概要』徳島県教育委員会・中四国農政局吉野川北岸水利事業所 1974
11：近藤佳人「東州津遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.14 2002 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2003
12：佐野耕市「西州津遺跡・宮ノ北遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.10 1998 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1999
大橋育順「西州津遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.11 1999 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 2000
13：小泉信司「試掘調査」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.6 1994 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1995
石本卓「お塚古墳」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.7 1995 年度』財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1996

第Ⅲ章　西州津遺跡調査成果

1　基本層序

高位段丘上にあるA区・BC区・D区の旧土地利用は、水田である。これらの調査区では、ほぼ耕作土・旧耕作土直下で標高約104～107 mを測る黄橙色粘性砂質土ないしは黄褐色粘性砂質土の遺構面を確認した。D区では、旧自然流路を検出した南側は部分的に盛土が認められる。E区の旧土地利用は田畑であり、E区南側にある谷に向かって、段々畑として開墾されている。上段側田畑では、耕作土・旧耕作土直下で黄橙色ないしは黄褐色の遺構面を確認した。下段側田畑は東側と南側で谷と段丘崖に接しているため、約0.5～0.9 mの盛土が認められる。盛土の下層から部分的ににぶい黄褐色の包含層を確認した。

中位段丘上にあるF区・G区では標高約95～96 mを測り、F区は宅地跡、G区は田畑である。F区では建物の基礎による撹乱が著しいものの、表土直下で標高95.8 mを測る浅黄色粘性砂質土の遺構面を確認した。H区・G－2区の現況は、H区は宅地跡、G－2区は田畑である。H区では建物の基礎による撹乱が著しいものの、遺構面を2面確認することができた。第1遺構面は標高95.5～96 m、第2遺構面は標高94.5～95 mを測る。第1遺構面は整地を行っているためほぼ平坦だが、第2遺構面では西側から東側に向かって緩傾斜となる。また南北方向では、南側の一般国道32号から段丘崖のある北側にむかって緩傾斜となり、国道側の標高が高い。H区の西隣にあるG－2区の現況は田畑で、耕作土・盛土の下層から黄褐色を呈する遺構面を確認している。

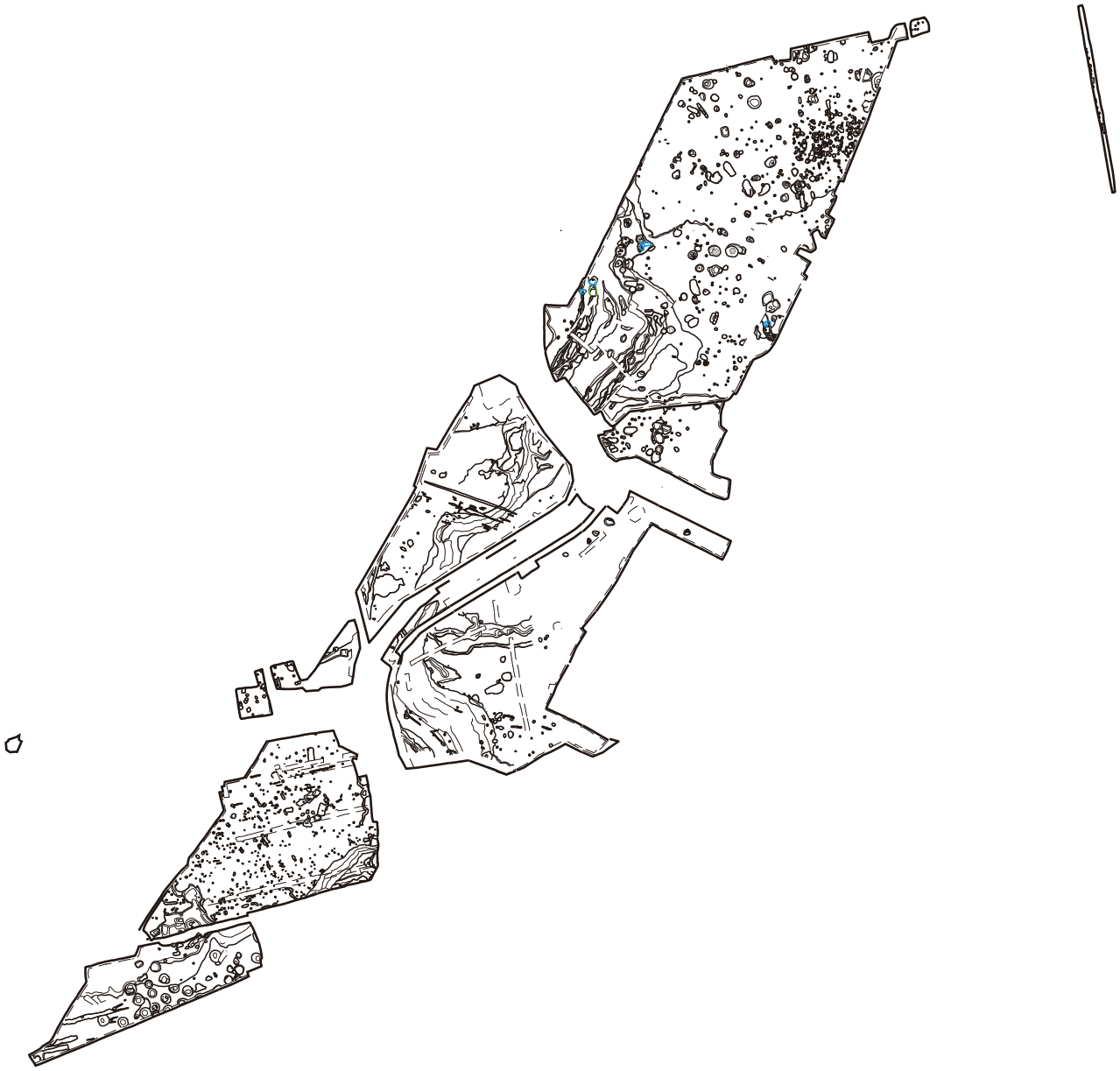
2　遺構と遺物

高位段丘上の井関地区は、讃岐山脈から南側の吉野川と東側の鮎苦谷川に向かって傾斜しており、その地形に沿って開析された南北方向に流れる自然流路が検出された。この自然流路は縄文時代には形成されていたと推定される。BC,D区で、堅果類貯蔵穴を検出した。貯蔵穴群は主に自然流路の低位側岸辺に構築されている。堅果類以外に、これらの貯蔵穴から縄文時代晩期前半の深鉢やサヌカイト製石鏃・剥片が出土した。

①自然流路(SR)・溝状遺構(SD)

現況の旧市道が自然流路にほぼ重なる。自然流路は、D区C4付近より南東方向へ流れ、S5付近にてやや南西へ向きを変える。更にA区内を蛇行しながら南流しN19付近にて屈曲してE区内を南流する。E区内南西にて段丘外へと流れ落ちる。BC区においても東流する流路が確認された。西側の標高が高い地域から南東方向へ流れる未検出自然流路の一部と推定され、E区南西隅にて段丘外へ流れ落ちる。

A,D,E区で、平安時代の溝1条を検出した。調査区内で全長約18 m、最大幅約12 m、最大深度約2.2 mを測り、断面形態は逆台形を呈する。場所によって密集具合が異なるものの、底面一面に直径10～60㎝大の集石が出土している。これらの集石は大半が自然石で構成されるが、なかには被熱痕跡のあるものや、叩石や磨石などの石器も含まれる。土器は集石間およびその付近から出土しているが、平



第９図　井関地区遺構配置（１／１０００）

安時代の土器以外に縄文時代や弥生時代の土器および石器が最下層を中心に出土している。

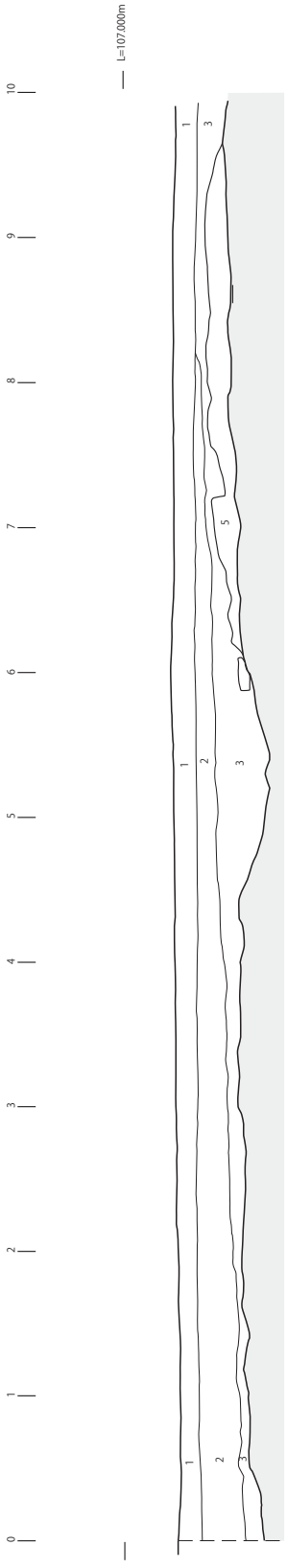
溝の土層堆積状況から、この溝が構築された場所は縄文時代・弥生時代のころは自然流路であり、その後徐々に埋没していくが、古代にはいり旧地形を利用して溝を掘削したと思われる。

この溝は場所によって平面形状が異なり、D 区では縄文時代の流路を切るような形でほぼ南北方向に直線的にのびるのに対し、A 区・E 区では自然流路のように屈曲した状態で検出した。また溝の規模や断面形態でも、A 区・E 区と D 区では差異が認められるが、出土遺物から同時期の遺構と考えられる。

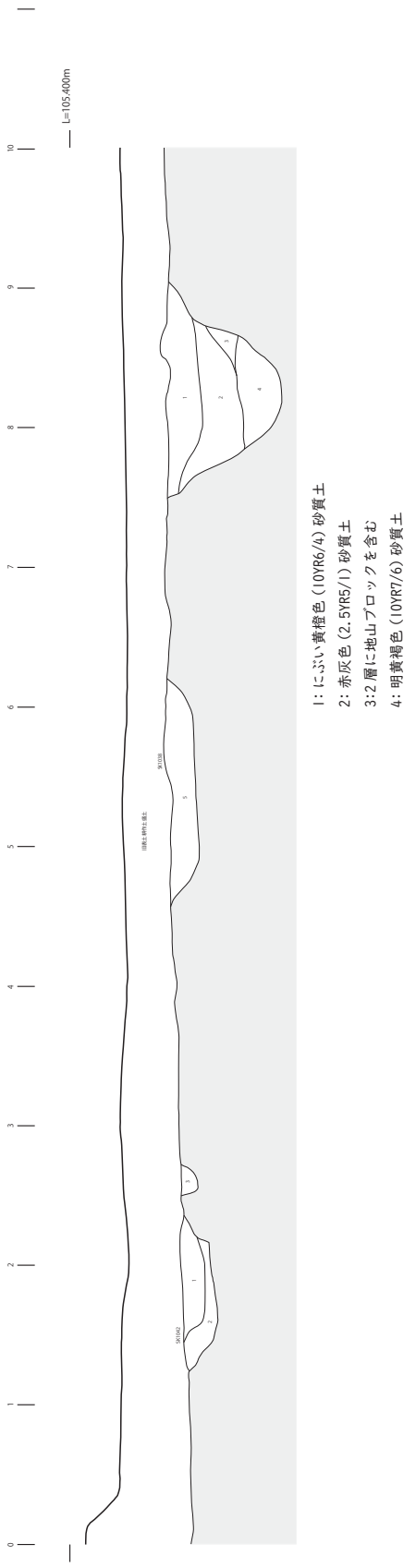
A 区 1 号溝状遺構（旧 2009　A 区 SD1001）

位置　A 区 L16,L17

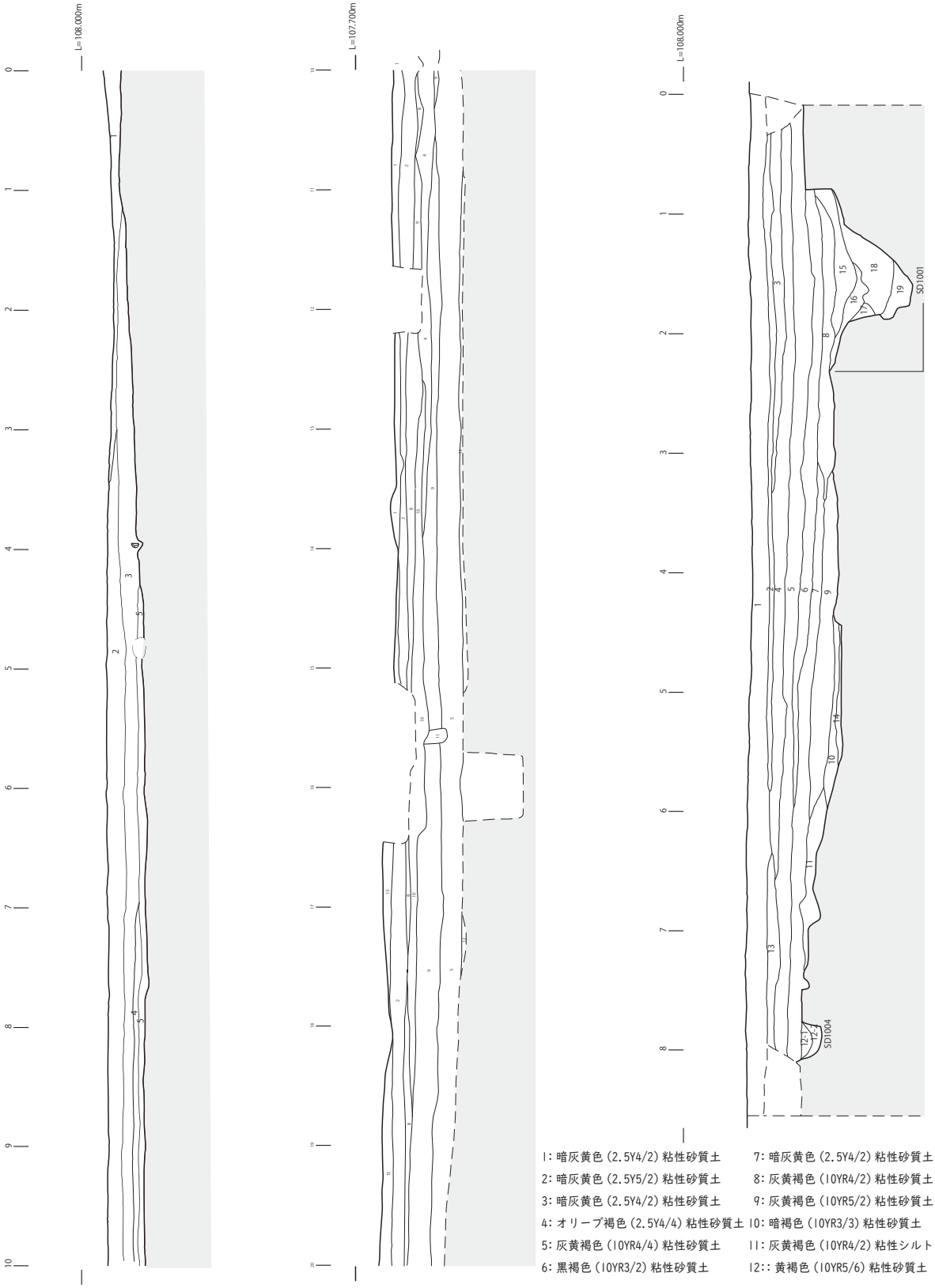
構造・規模　検出長 4.56m を測る。



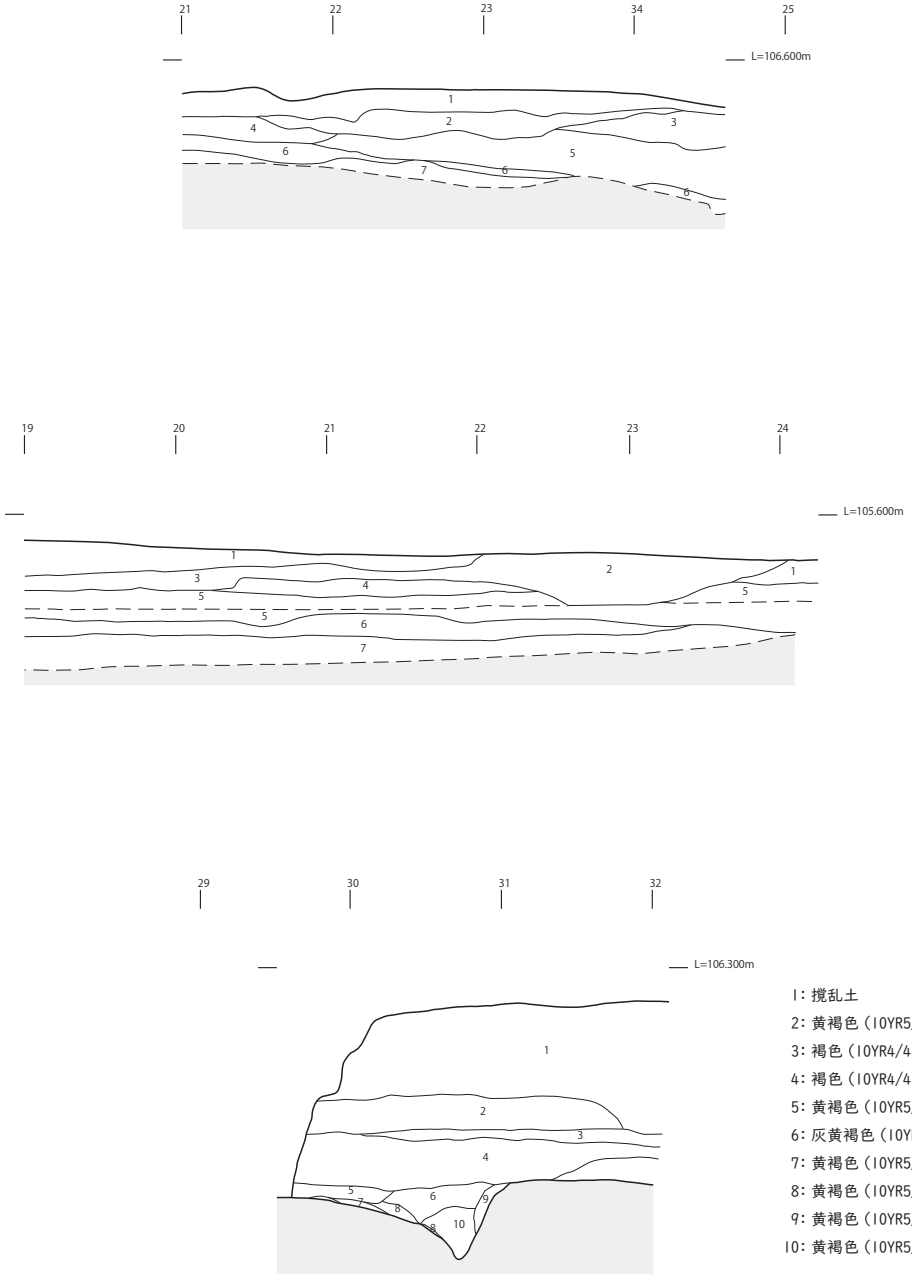
第 10 図　A 区調査区土層



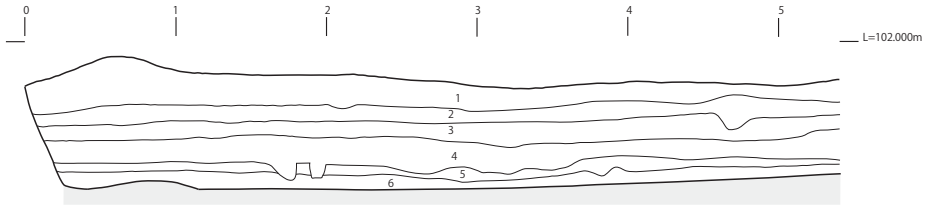
第 11 図　BC 区調査区土層



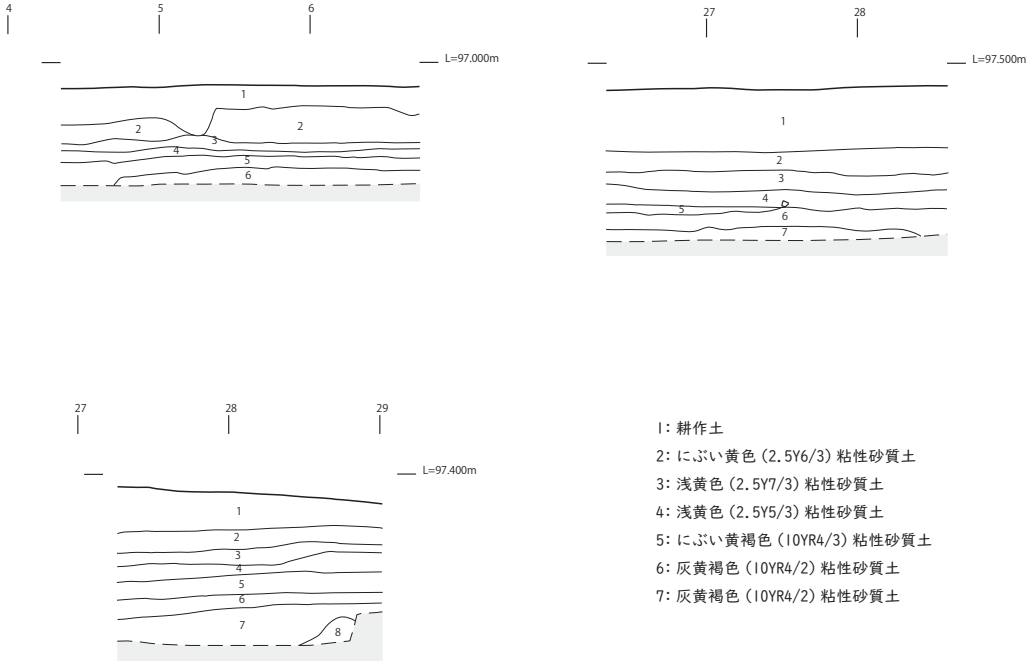
第 12 図　D 区調査区土層



第 13 図　E2 区調査区土層

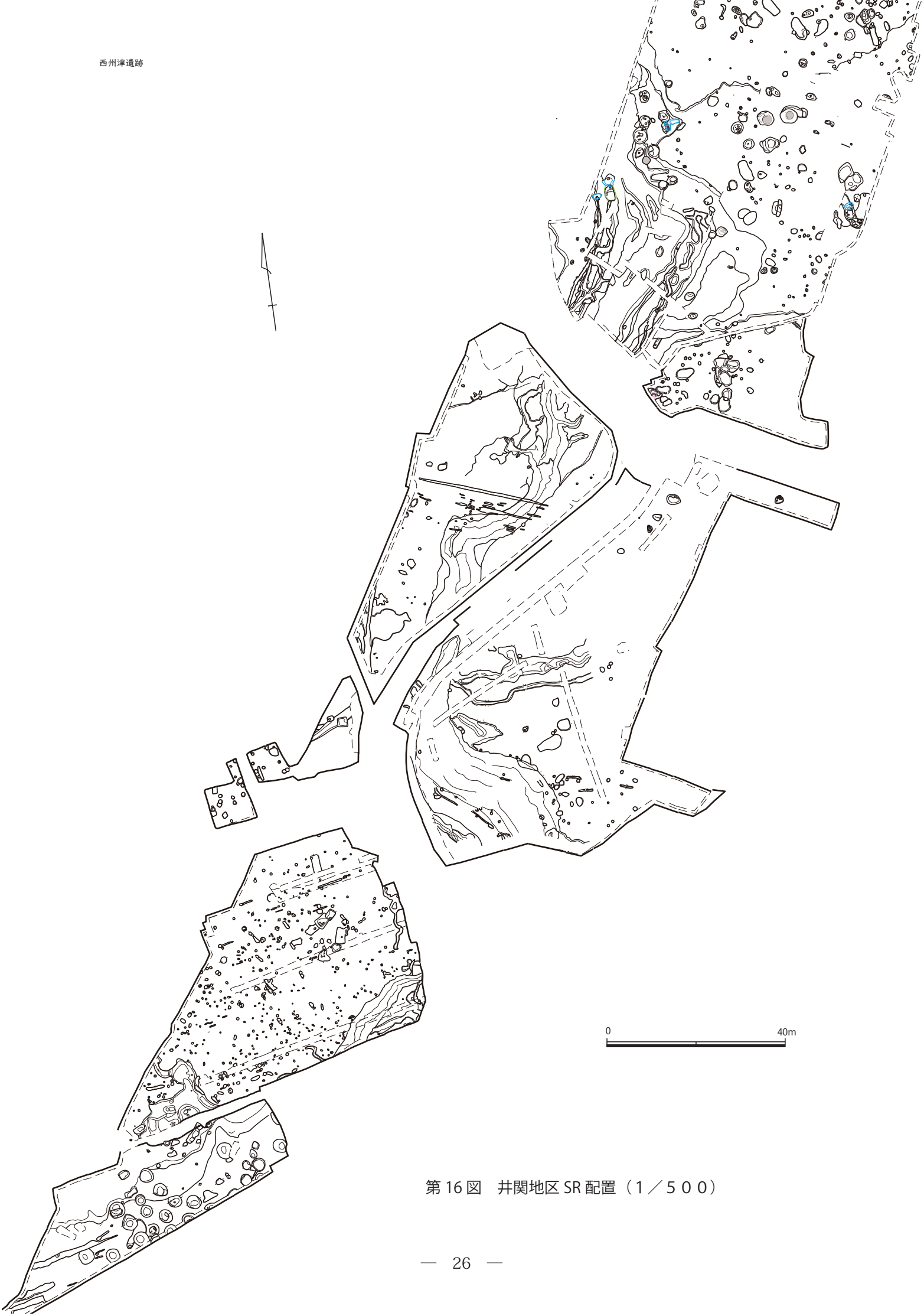


第 14 図　G2 区調査区土層

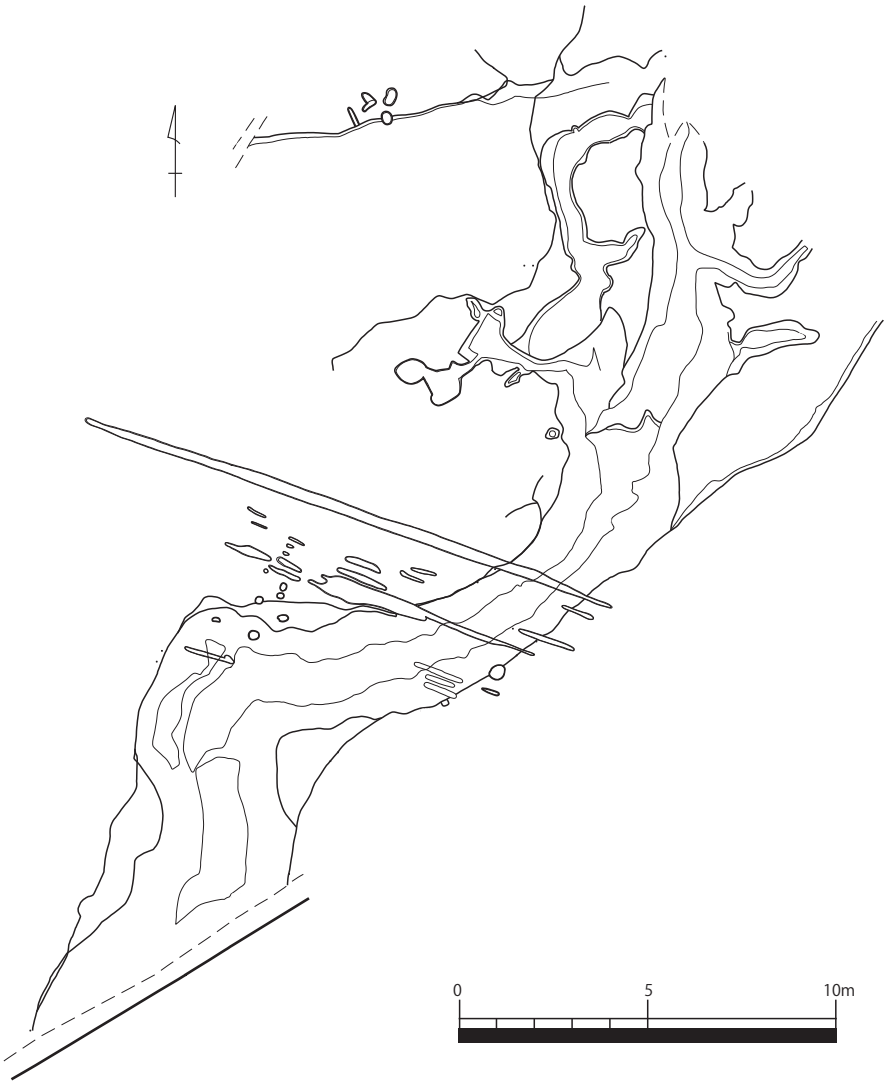


1: 耕作土
2: にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粘性砂質土
3: 浅黄色 (2.5Y7/3) 粘性砂質土
4: 浅黄色 (2.5Y5/3) 粘性砂質土
5: にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性砂質土
6: 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性砂質土
7: 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性砂質土

第 15 図　H 区調査区土層



第 16 図　井関地区 SR 配置（1／５００）



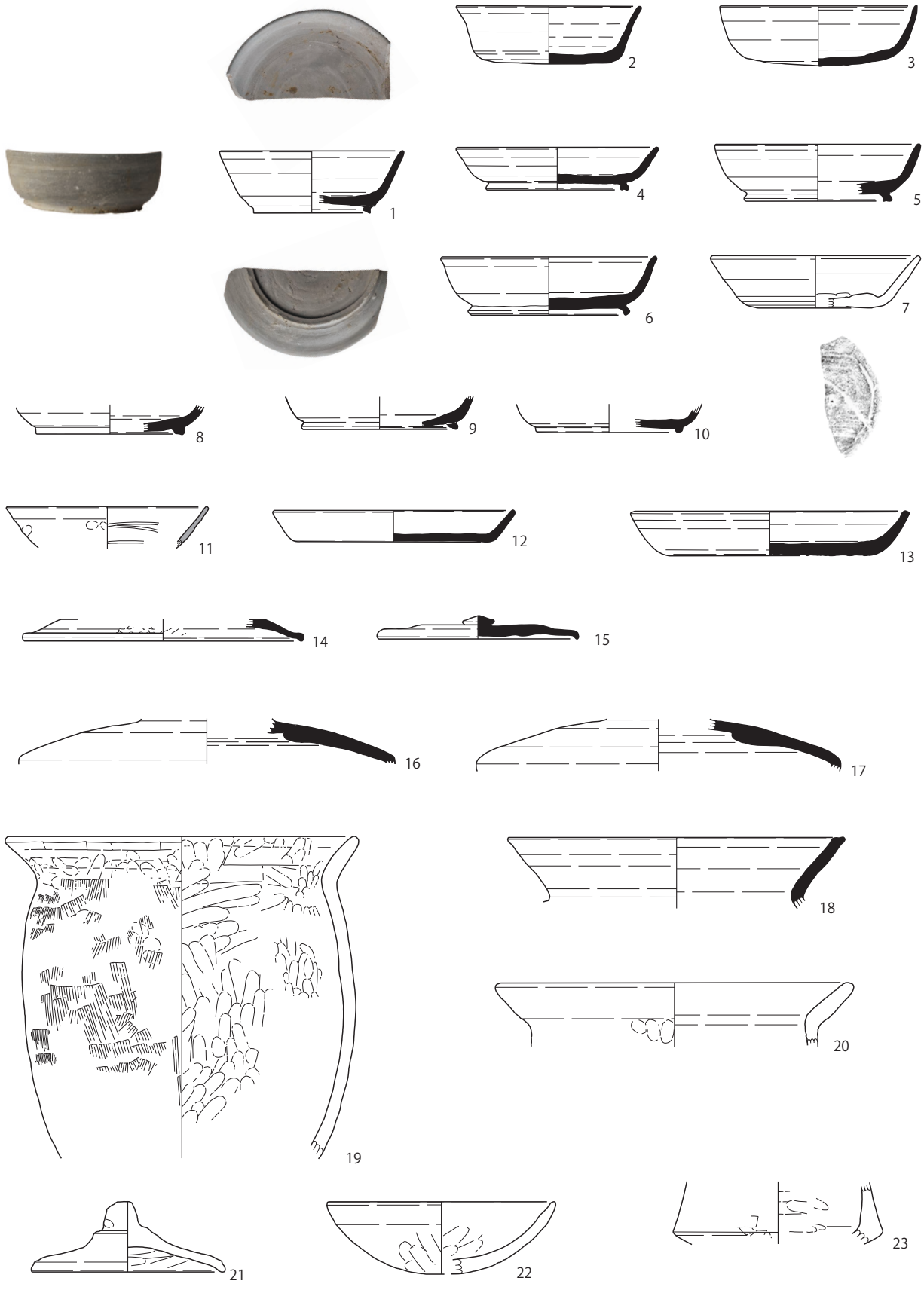
第 17 図　A 区 1 号自然流路（旧 09A 区旧 SR1001）縮小

土層　にぶい褐色砂質土である。
遺物出土状況　弥生土器片が出土。
時期　弥生時代後期である。

A 区 35 号溝状遺構（旧 2009　A 区 SD1035）
位置　A 区 K16,L16
構造・規模　断面は丸底形を呈する。検出長 8.99m、幅 0.32m、深度 0.22m を測る。
土層　にぶい褐色砂質土である。
遺物出土状況　覆土中より土師質土器羽釜が出土。
時期　室町期である。

第 18 図　A 区 1 号自然流路（旧 09A 区旧 SR1001）　断面図 1

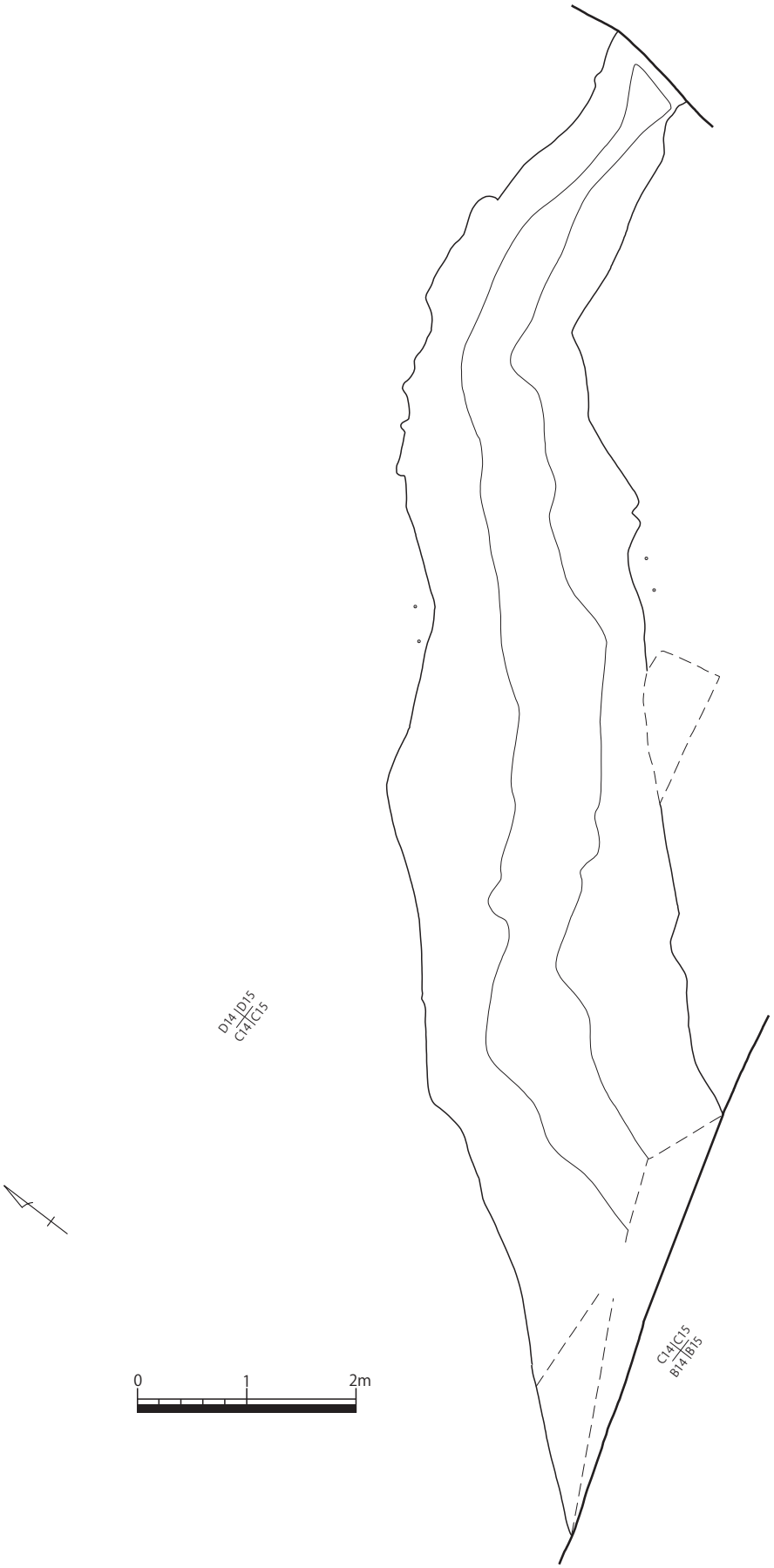
第 19 図　A 区 1 号自然流路（旧 09A 区旧 SR1001）
断面図 2



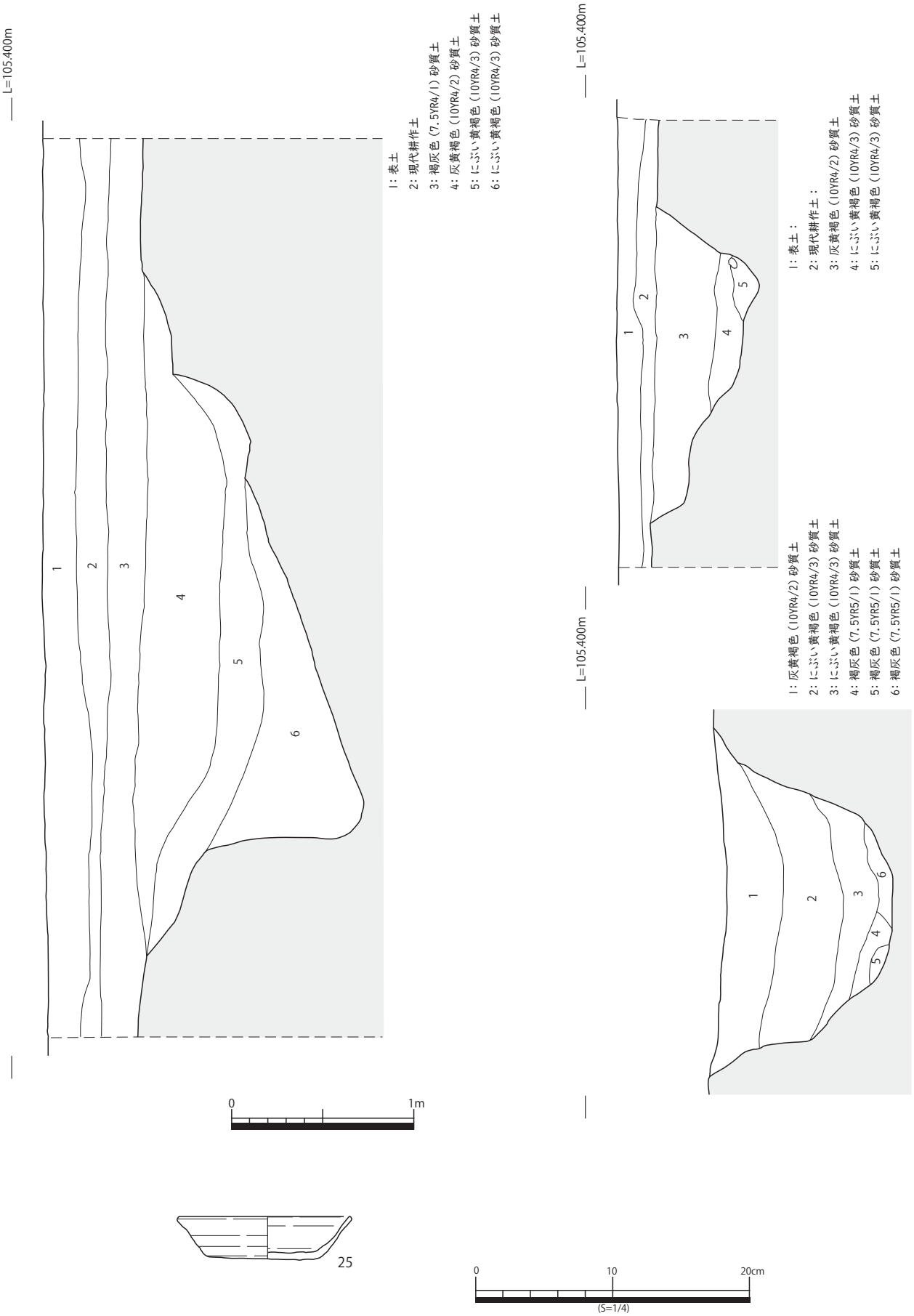
第 20 図　A 区 1 号自然流路出土遺物図(1)

第 21 図　A 区 1 号自然流路出土遺物図 (2)

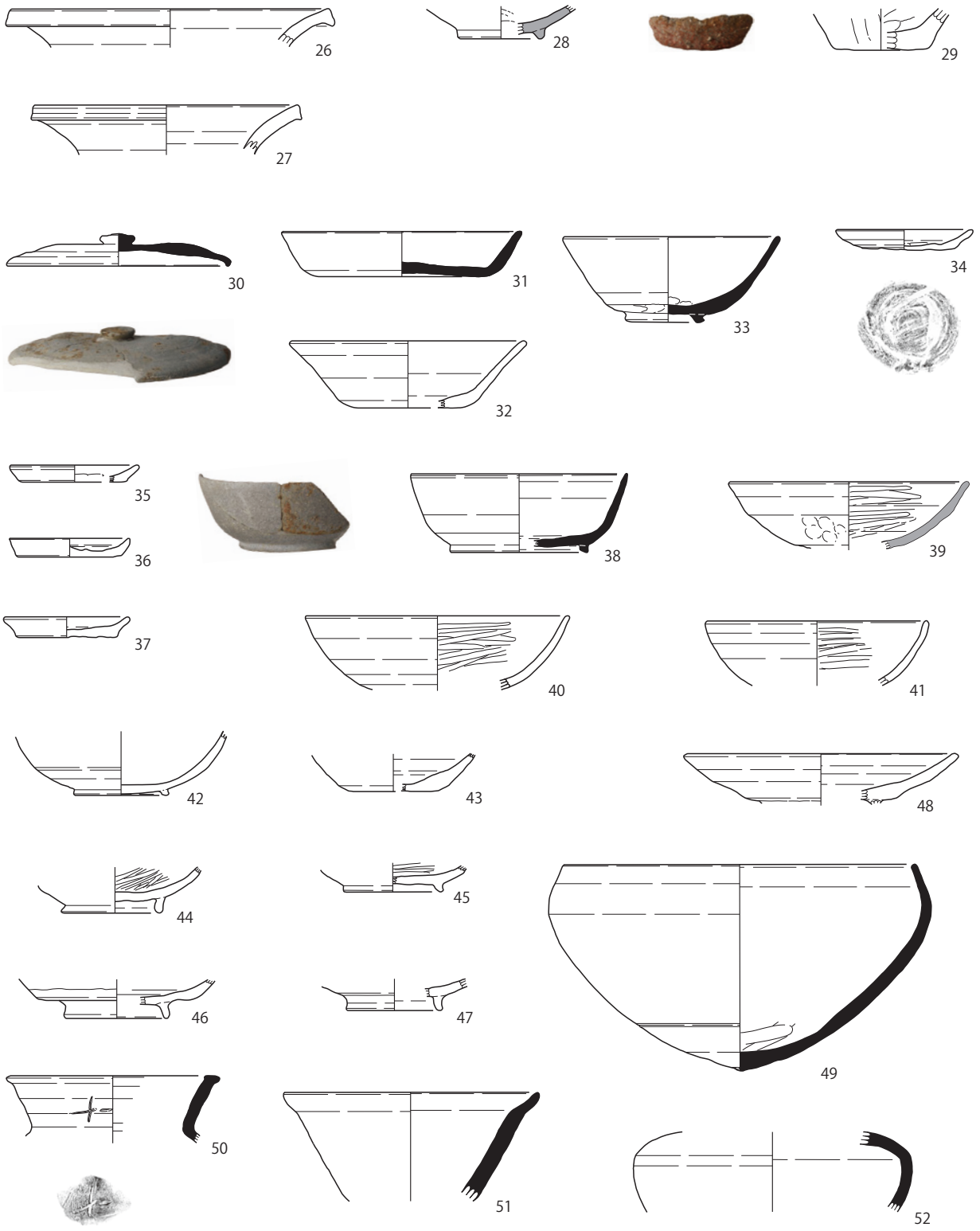
第 22 図　A 区 1 号自然流路出土遺物図 (3)



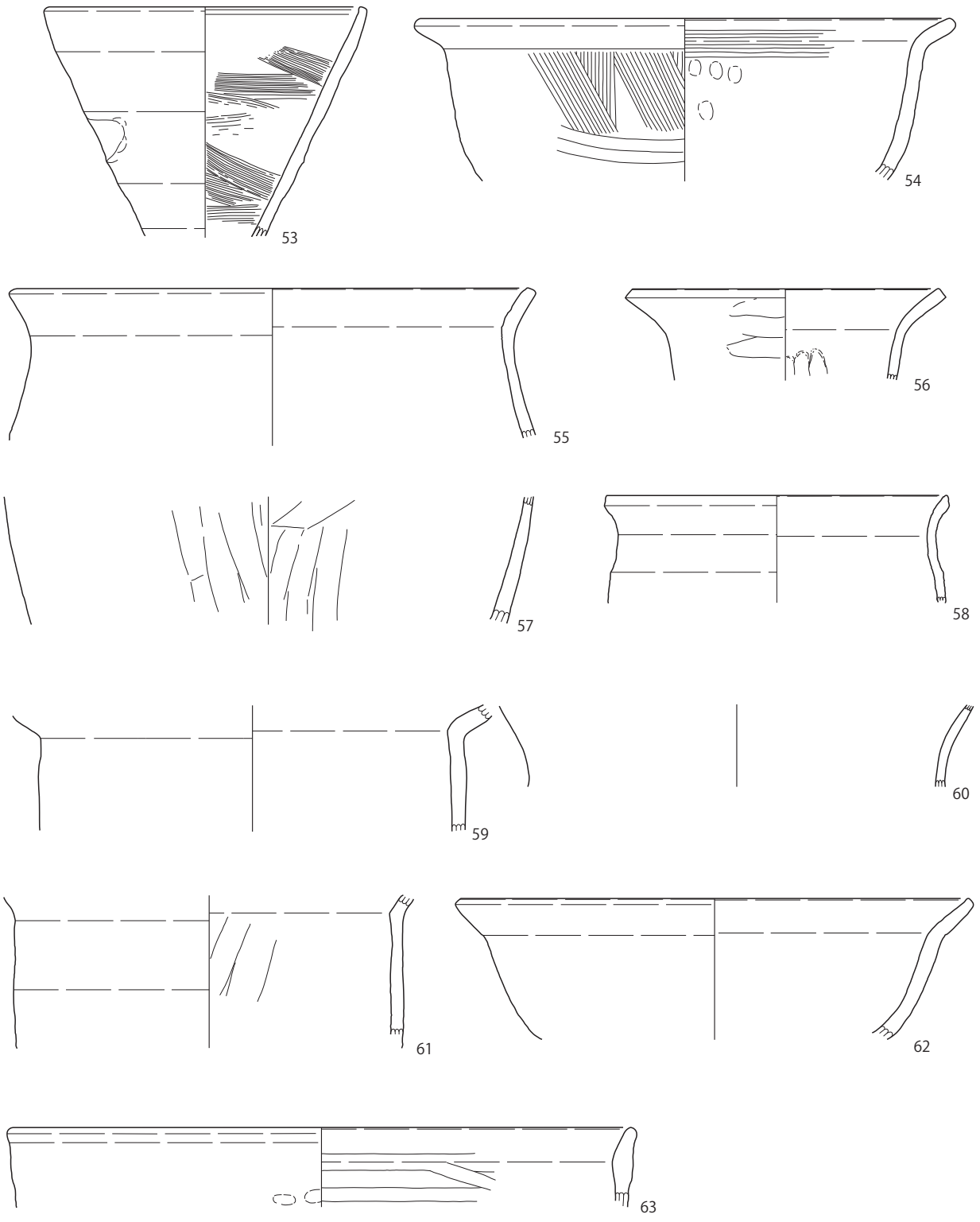
第 23 図　BC 区 2 号自然流路（旧 09BC 区 SR1002）平面図



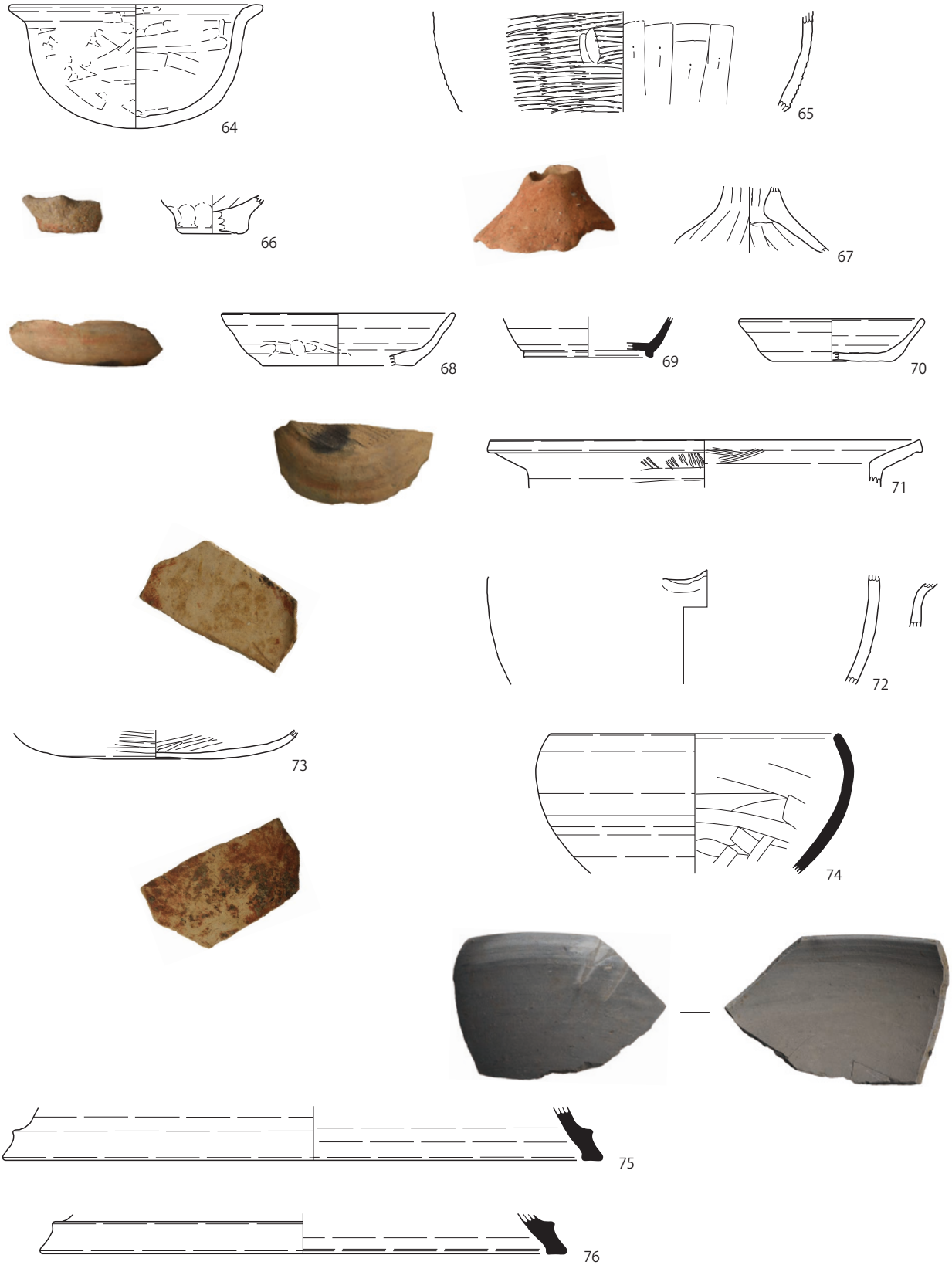
第 24 図　BC 区 2 号自然流路（旧 09BC 区 SR1002　断面図・遺物図 (1)



第 25 図　BC 区 2 号自然流路出土遺物図 (2)



第 26 図　BC 区 2 号自然流路出土遺物図 (3)

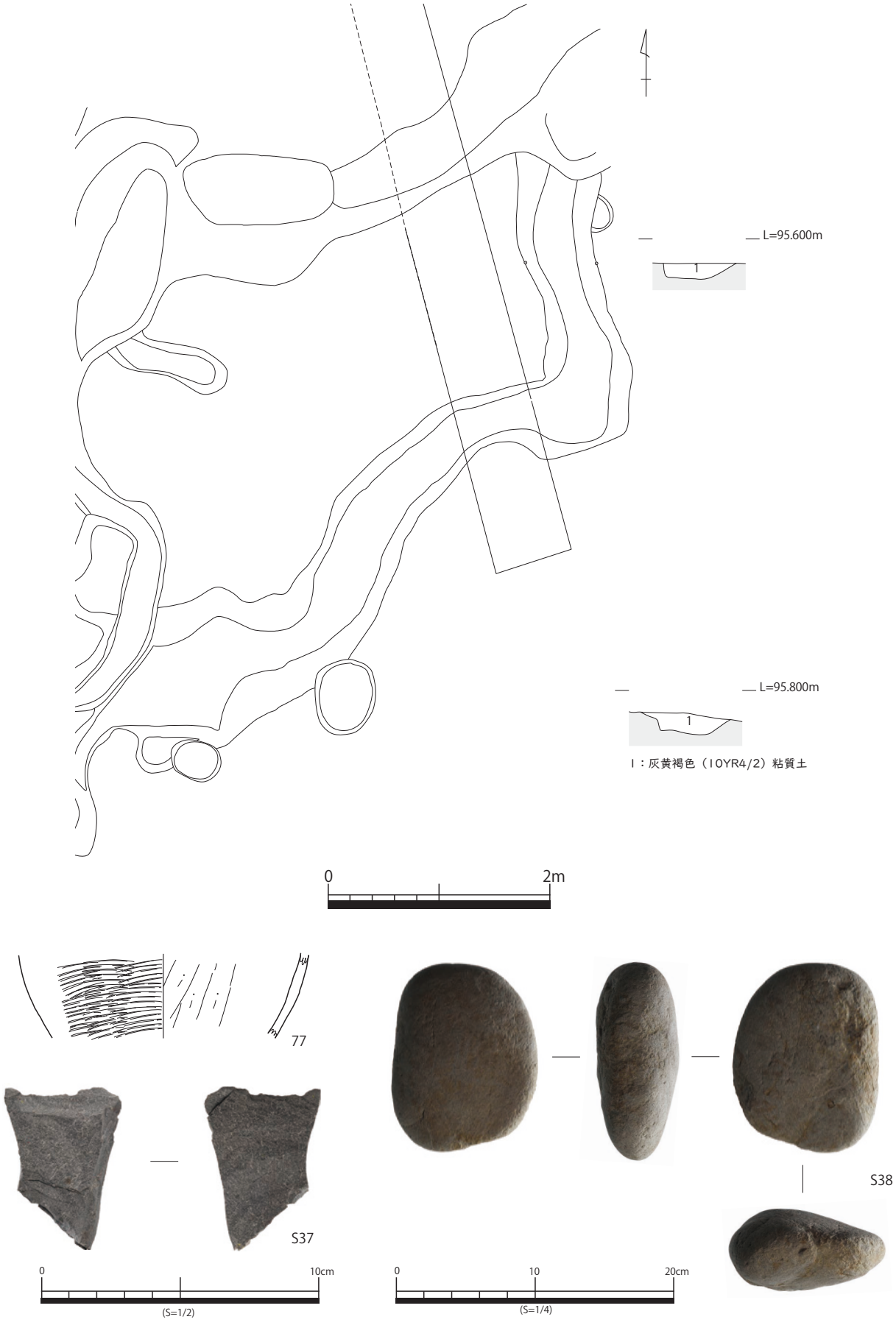


第 27 図　BC 区 2 号自然流路出土遺物図 (4)

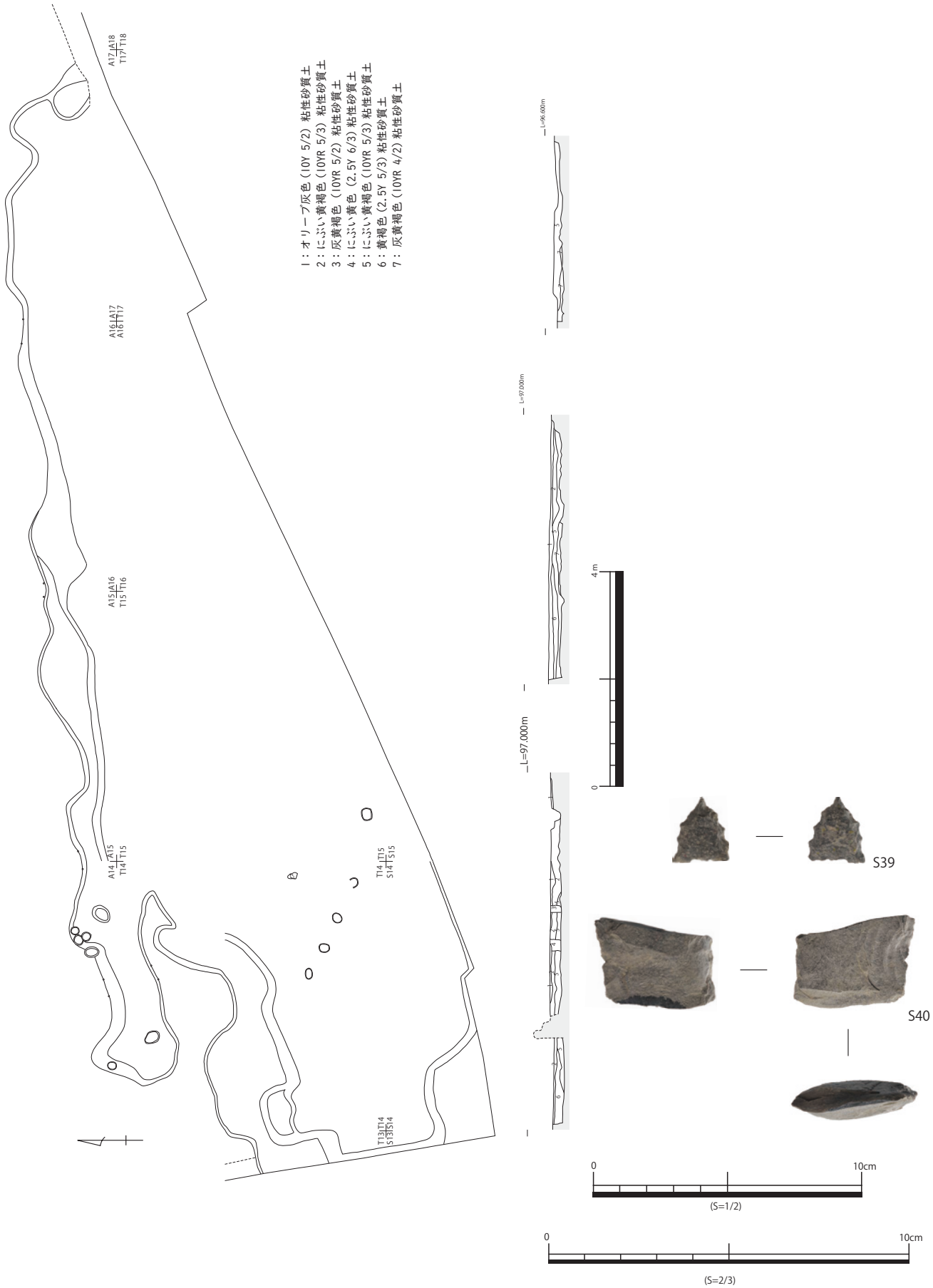
第 28 図　BC 区 2 号自然流路出土遺物図 (5)

第 29 図　BC 区 2 号自然流路出土遺物図 (6)

第 30 図　BC 区 2 号自然流路出土遺物図 (7)



第 31 図　F 区 2 号自然流路（旧 09F 区 SR1002）遺構・遺物図

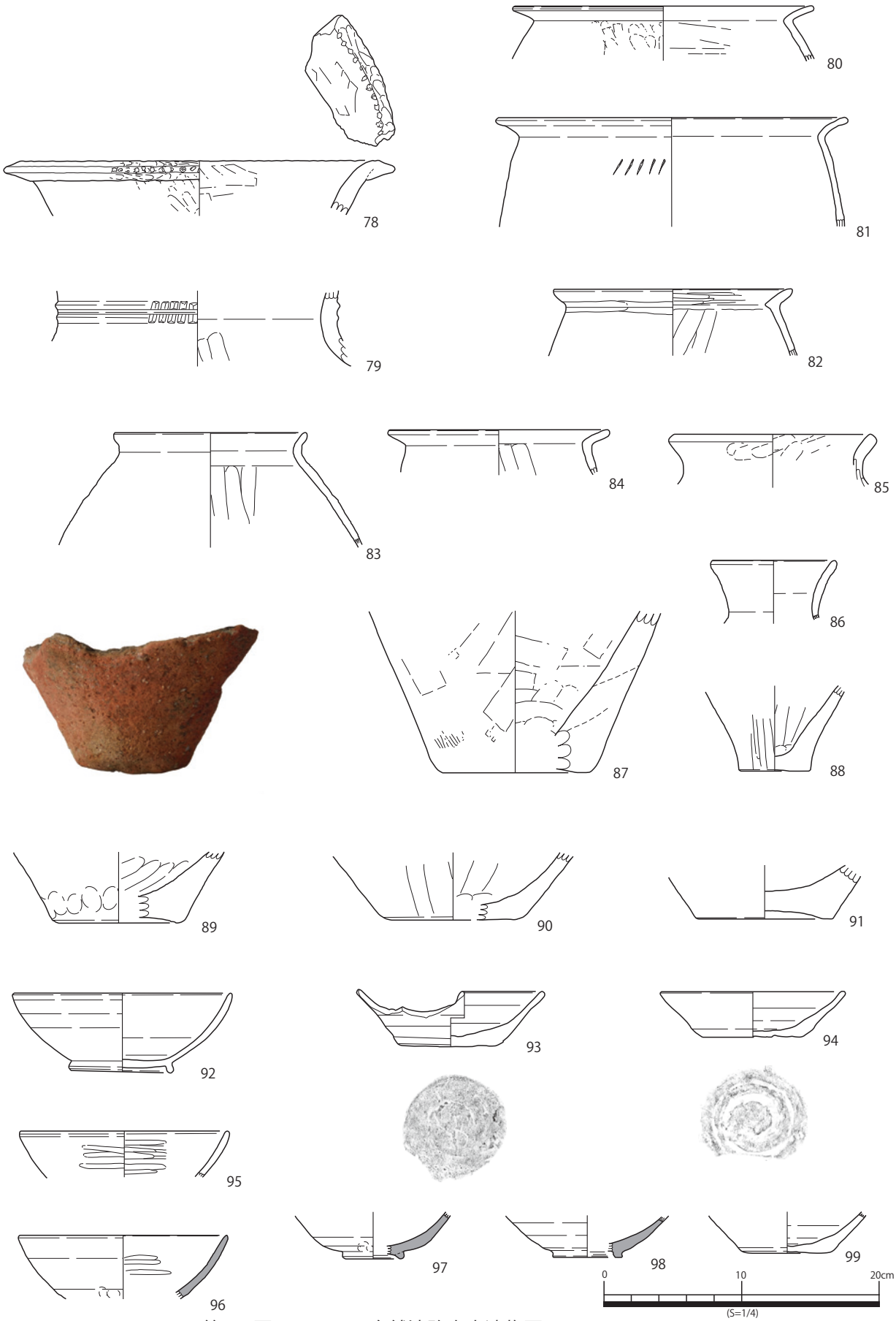


第 32 図　H 区 1 号自然流路（旧 10H 区 SR2001）遺構・遺物図

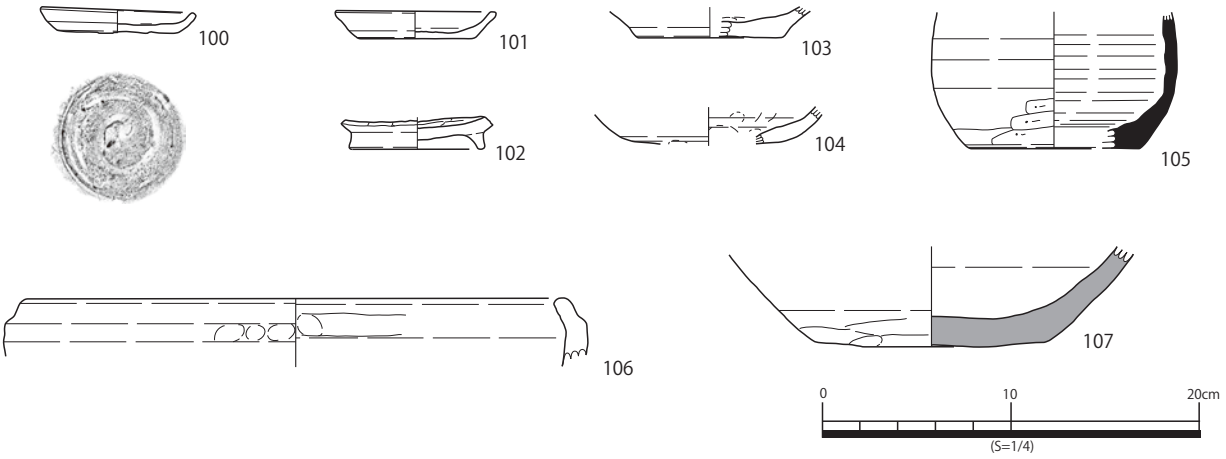
ベルト①
1：にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘性砂質土
2：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
3：暗褐色 (10YR 3/3) 粘性砂質土
4：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
5：灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘性砂質土
6：灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘性砂質土
7：灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘性砂質土
8：灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘性砂質土
9：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
10：にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘性砂質土
11：にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘性砂質土
12：灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘性砂質土

ベルト②
1：にぶい黄褐色 (10YR 4/3) 粘性砂質土
2：灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘性砂質土
3：黒褐色 (10YR 2/2) 粘性砂質土
4：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
5：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
6：褐色 (10YR 4/4) 粘性砂質土
7：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
8：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
9：灰黄色 (2.5Y 6/2) 粘性砂質土
10：暗灰黄色 (2.5Y 5/2) シルト
11：暗褐色 (10YR 3/3) 粘性砂質土
12：灰黄褐色 (10YR 5/2) 粘性砂質土
13：黄褐色 (10YR 5/6) 粘性砂質土
14：灰黄褐色 (10YR 4/2) 粘性砂質土
15：黒褐色 (10YR 3/2) 粘質土

第 33 図　H 区 3 号自然流路（旧 10H 区 R2003）遺構図



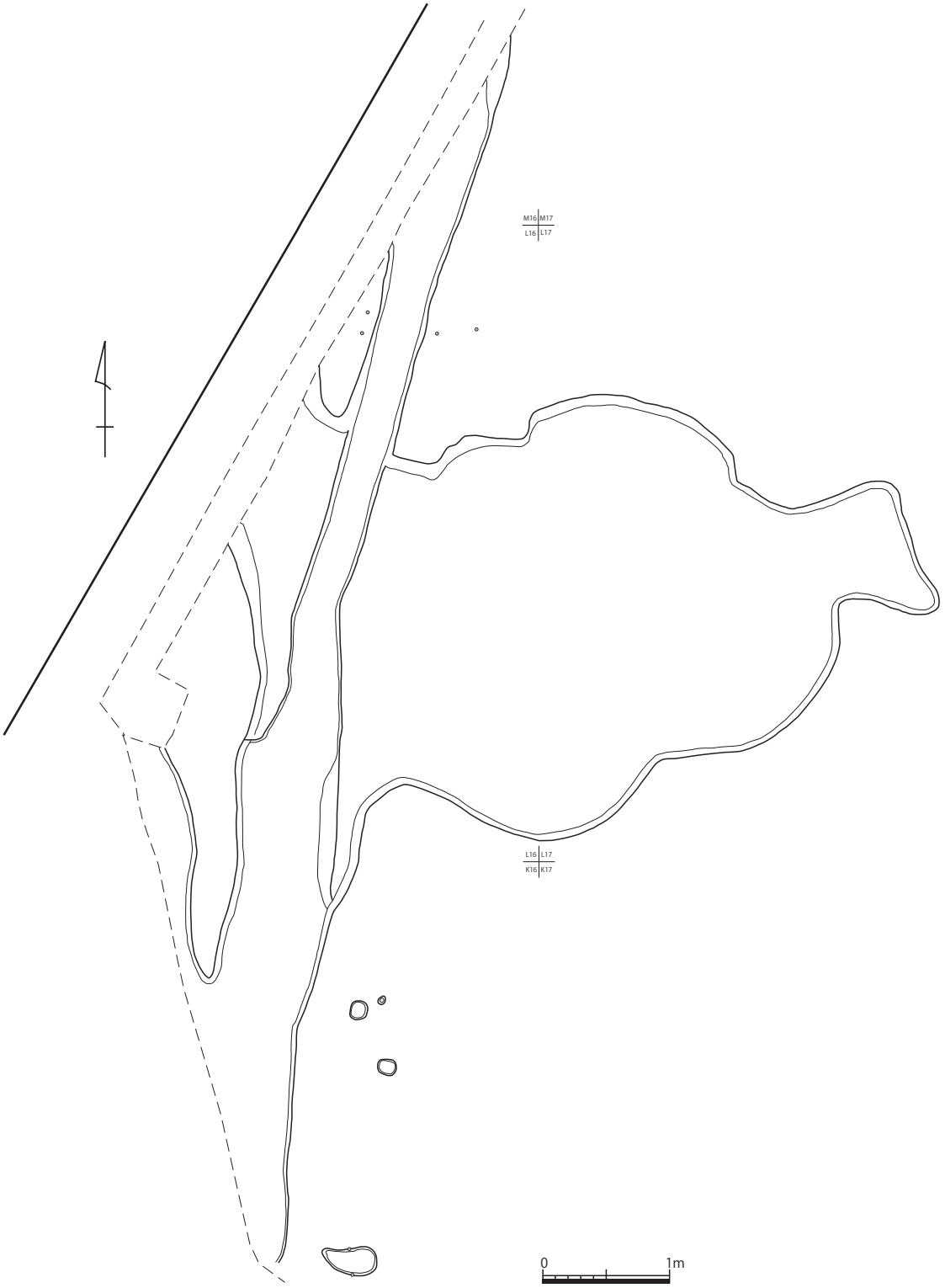
第 34 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図 (1)

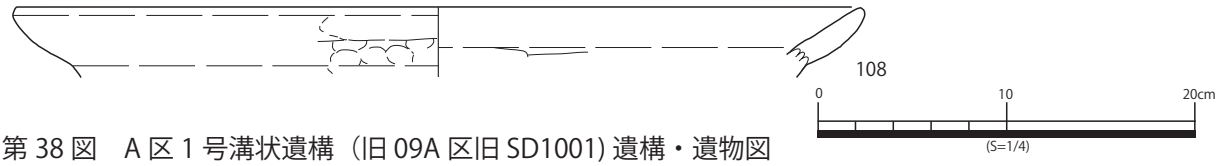


第 35 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図 (2)

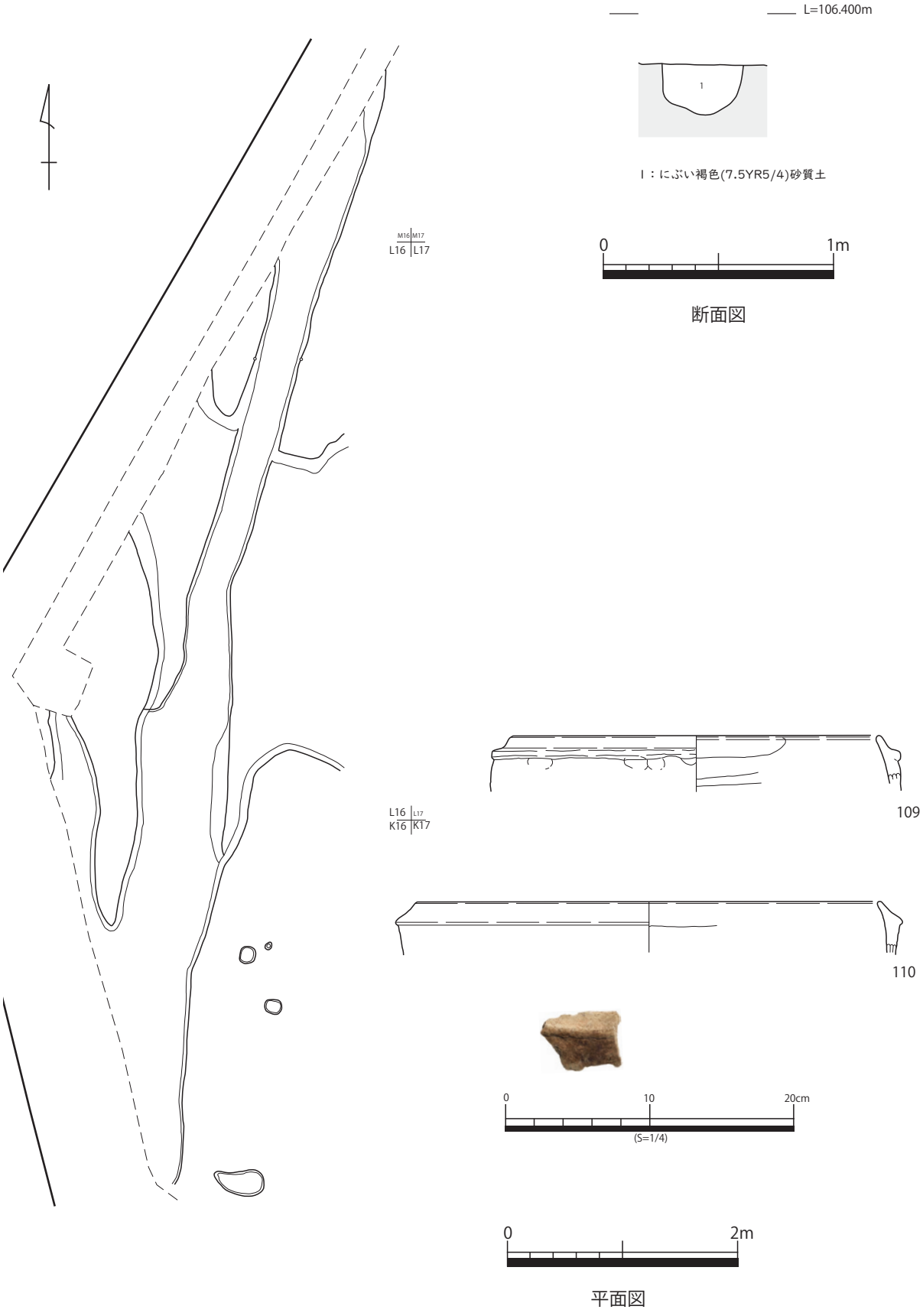
第 36 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図 (3)

第 37 図　H 区 3 号自然流路出土遺物図 (4)

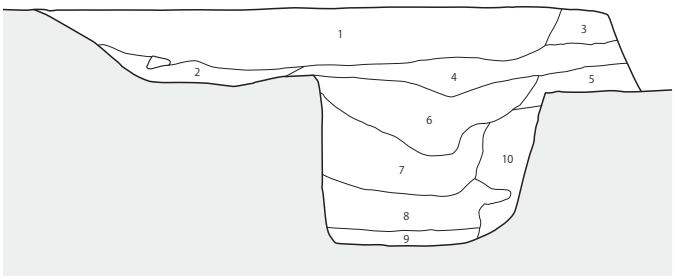




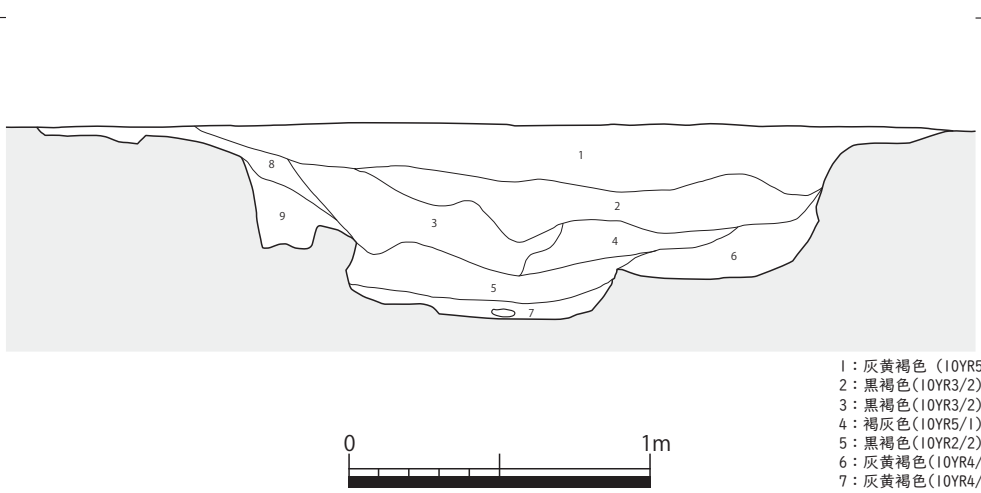
第 38 図　A 区 1 号溝状遺構（旧 09A 区旧 SD1001) 遺構・遺物図



第 39 図　A 区 35 号溝状遺構　遺構図・遺物図



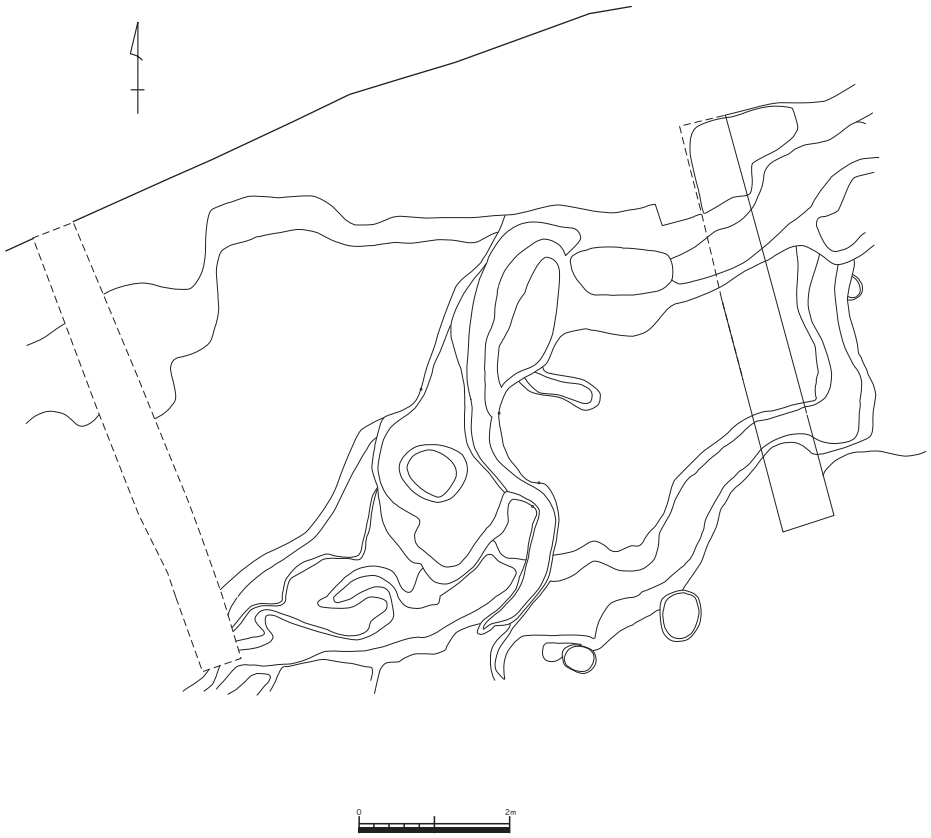
1：灰黄褐色(10YR5/2)粘性砂質土
2：にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土
3：灰黄褐色(10YR5/2)粘性砂質土
4：黒褐色(10YR3/2)粘性砂質土
5：灰黄褐色(10YR5/2)粘性砂質土
6：黒褐色(10YR3/2)粘性砂質土
7：黒褐色(10YR2/2)粘性砂質土
8：褐灰色(10YR4/1)粘性砂質土
9：褐灰色(10YR4/1)粘質シルト
10：灰黄色(2.5Y7/2)粘性砂質土

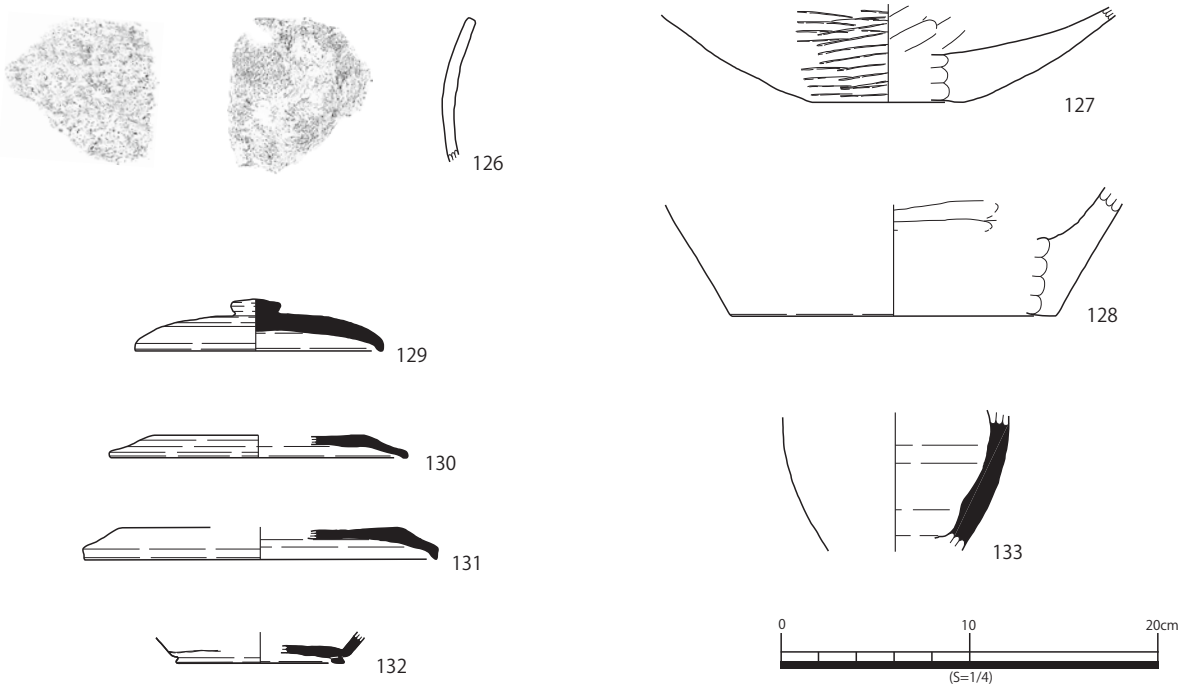


1：灰黄褐色 (10YR5/2)粘性砂質土
2：黒褐色(10YR3/2)粘性砂質土
3：黒褐色(10YR3/2)粘性砂質土
4：褐灰色(10YR5/1)粘性砂質土
5：黒褐色(10YR2/2)粘性砂質土
6：灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土
7：灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土
8：にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土
9：灰黄褐色(104/2)粘性砂質土

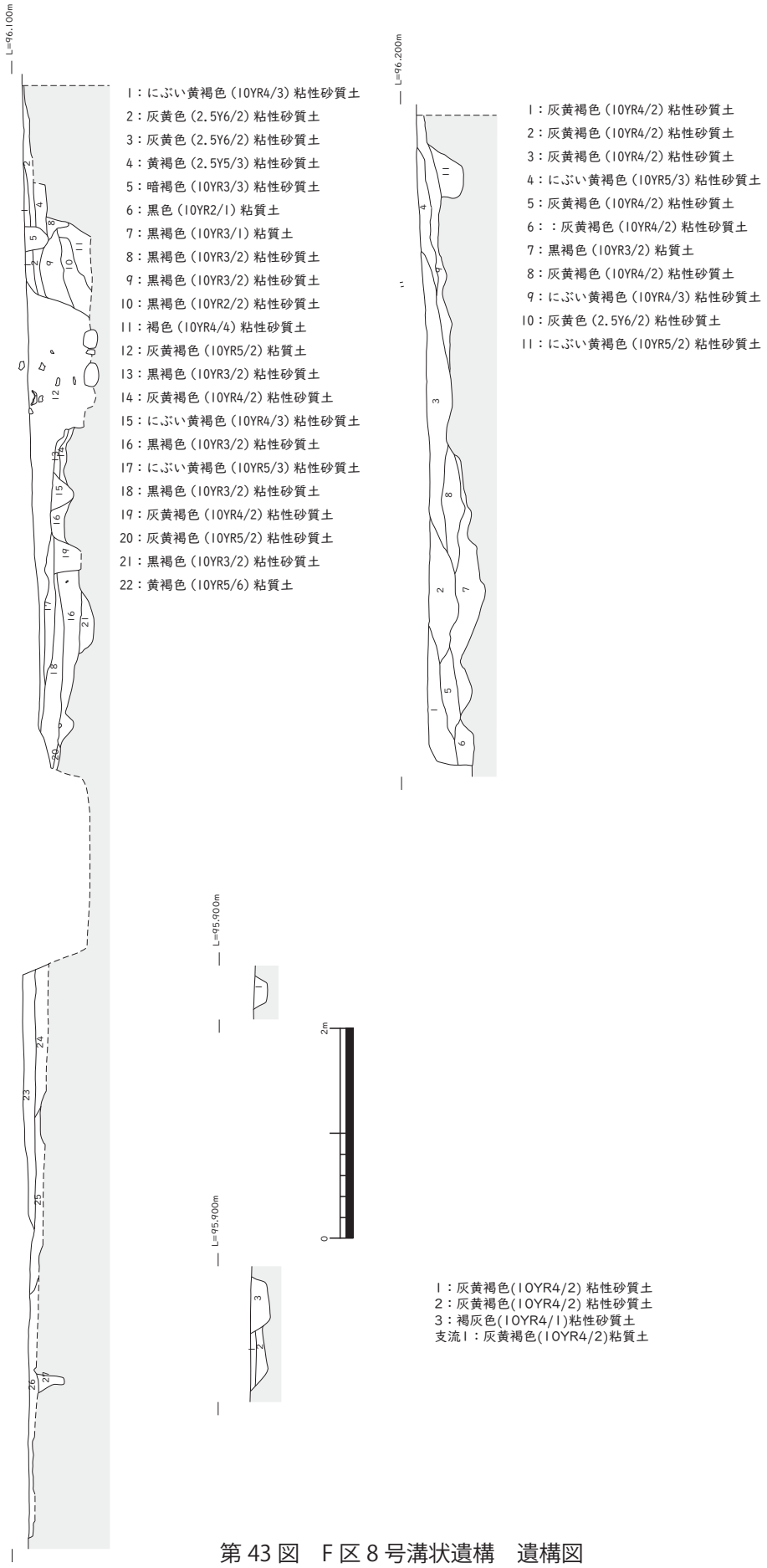
第 40 図　D 区 1 号溝状遺構　断面図

第 41 図　D 区 1 号溝状遺構　遺物図

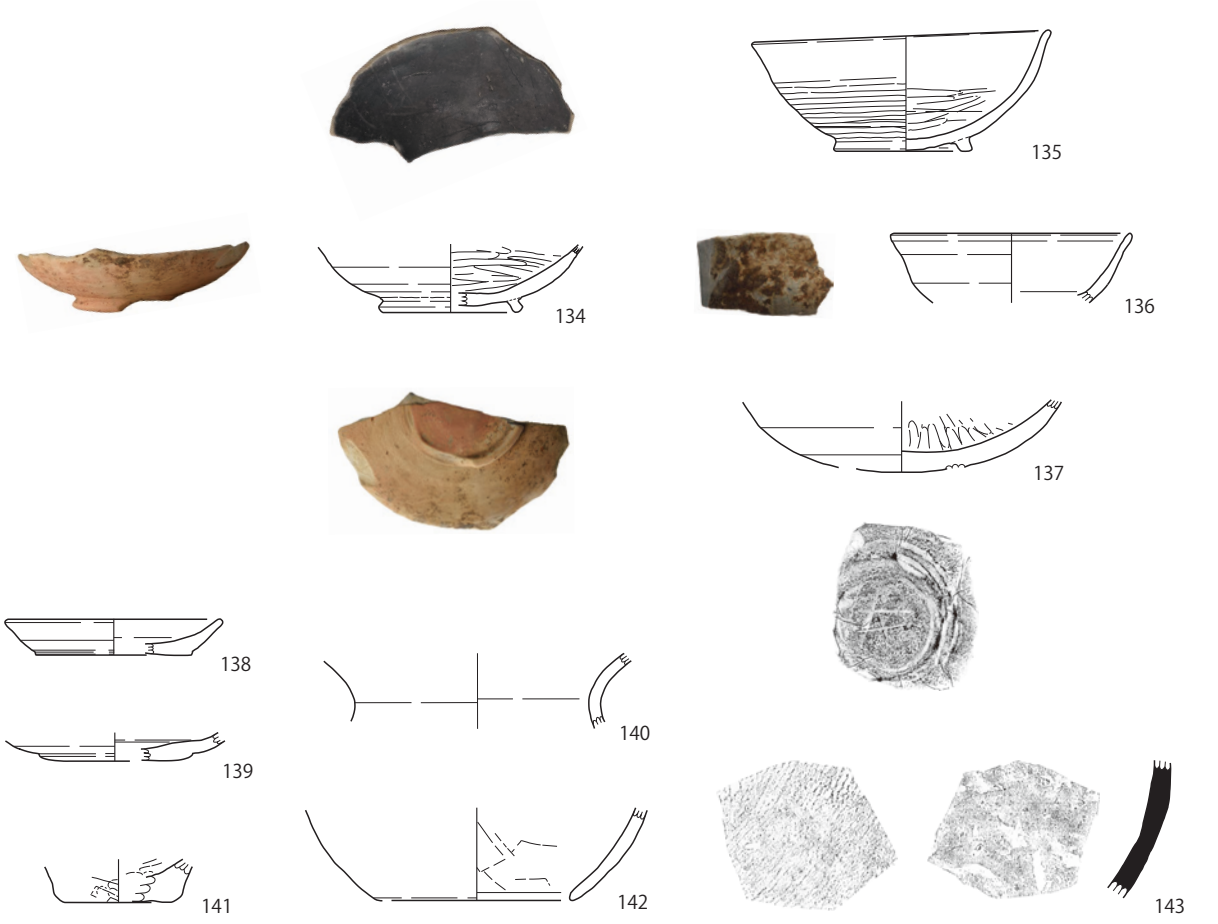


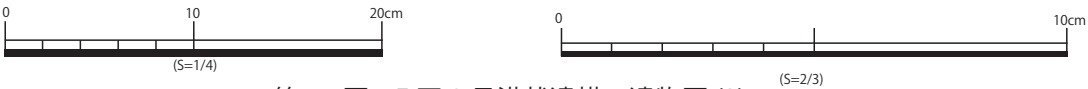


第 42 図　F 区 8 号溝状遺構　遺構図・遺物図 (1)

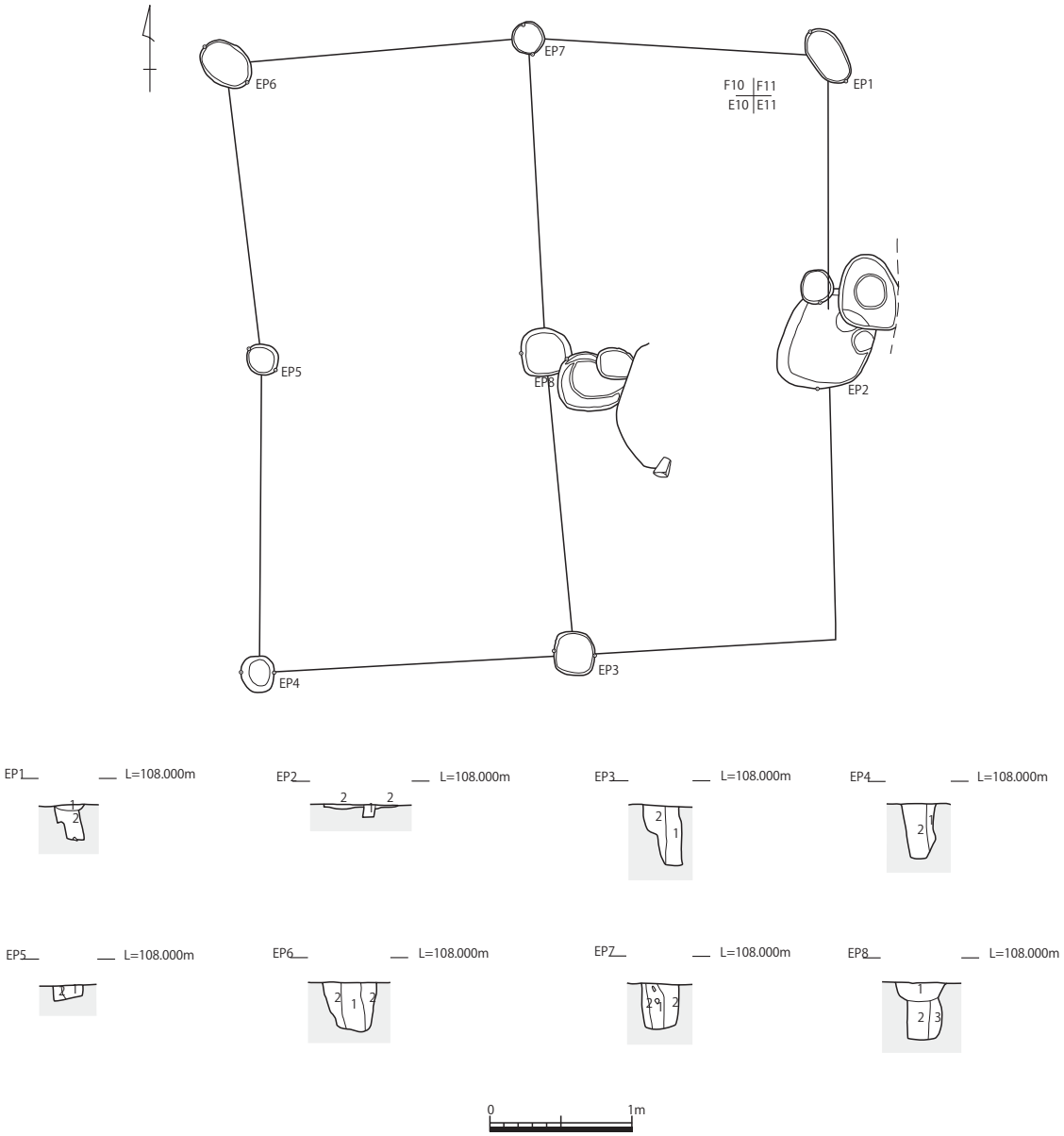


第 43 図　F 区 8 号溝状遺構　遺構図





第 44 図　F 区 8 号溝状遺構　遺物図 (2)



第 45 図　1 号掘立柱建物　遺構図

②掘立柱建物柱 (SA)

掘立柱建物は主に D 区に集中する。調査対象地内を南流する自然流路の東側に位置するが、流路本流からは 30 m以上離れており、岸辺に構築された掘立柱建物は少ない。

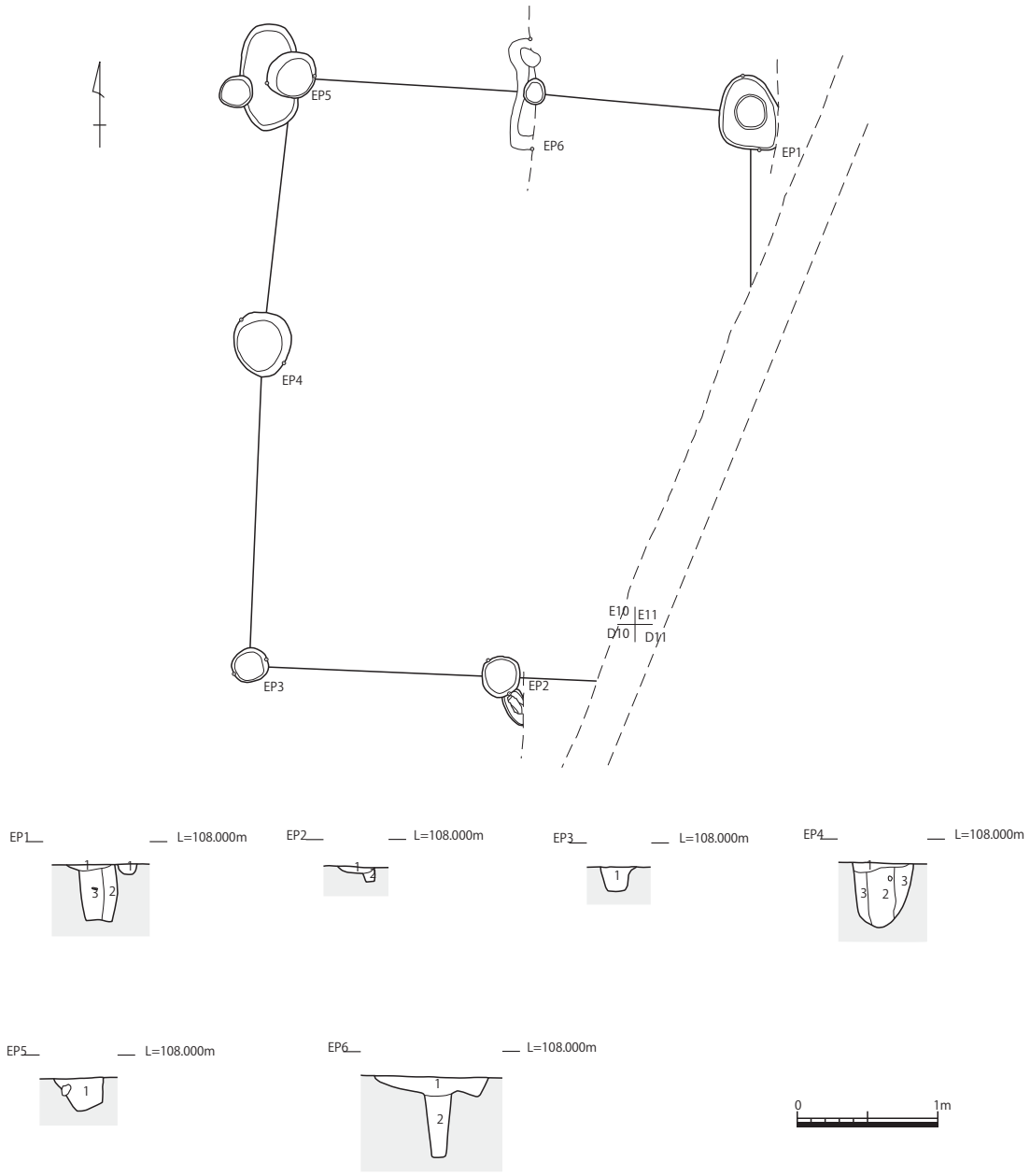
1 号掘立柱建物 (SA1001)

位置　E10，E11

構造・規模　梁間 2 間 (4.2m)、桁間 2 間 (4.3m) の総柱建物である。根石・礎石等は伴わない。

時期　室町期と推定される。

2 号掘立柱建物 (SA1002)



第 46 図　2 号掘立柱建物　遺構図

位置　E10

構造・規模　梁間 2 間 (3.2m)、桁間 2 間 (4.2m) の側柱建物である。根石・礎石等は伴わない。

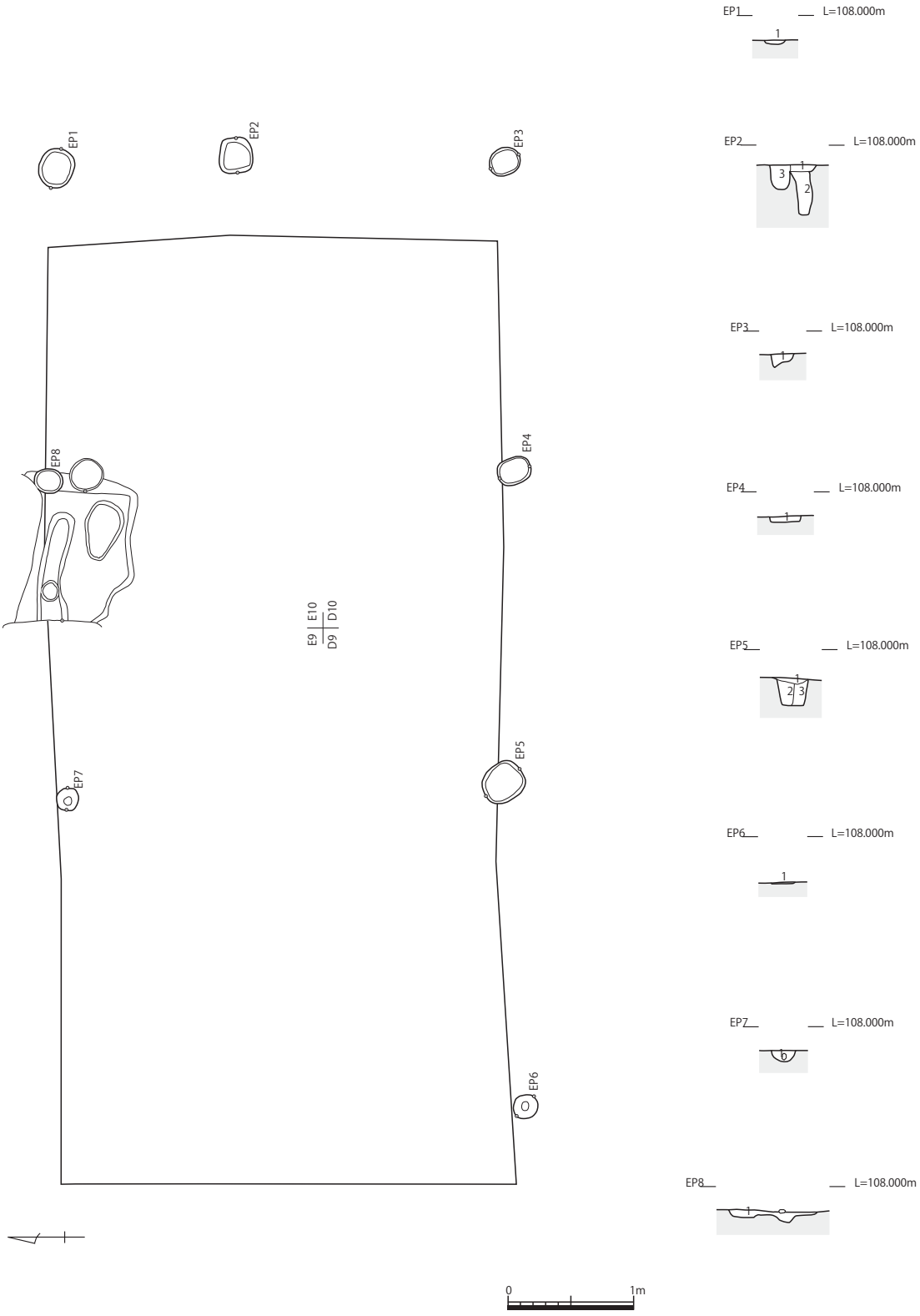
時期　室町期と推定される。

3 号掘立柱建物 (SA1003)

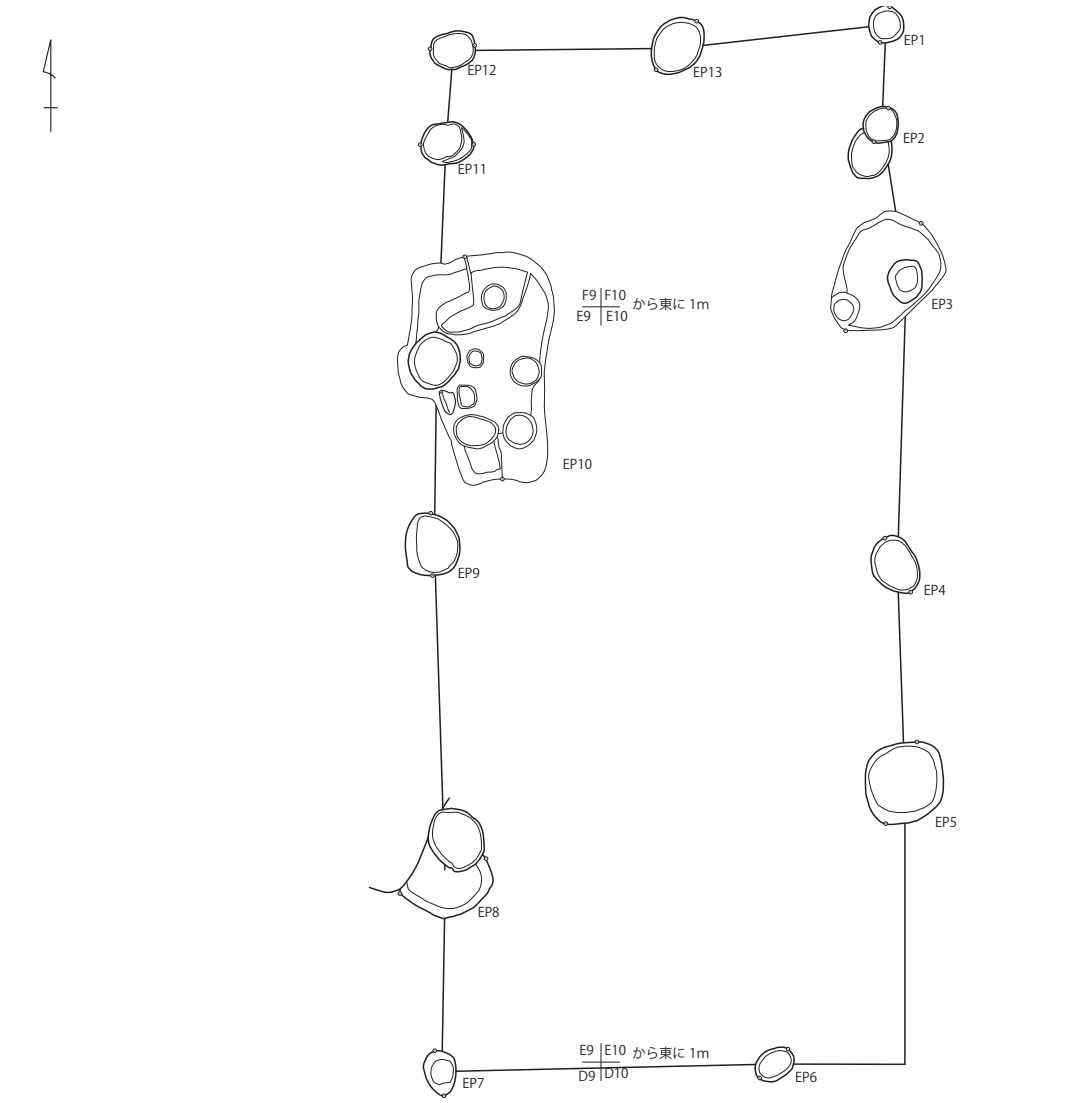
位置　D9,D10,E9,E10

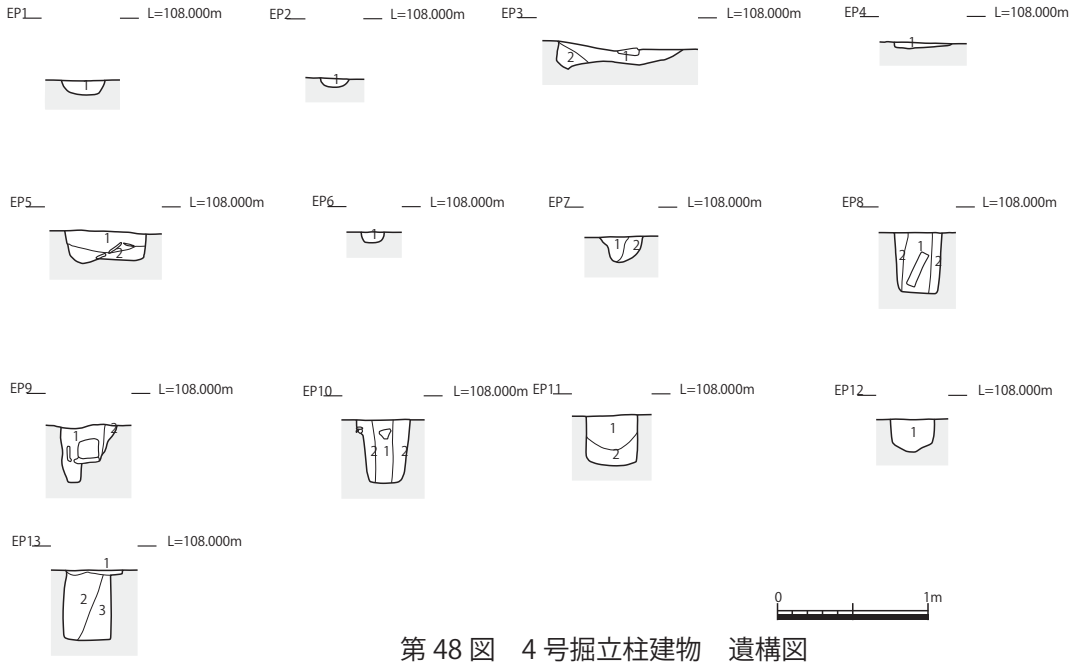
構造・規模　梁間 2 間 (3.6m)、桁間 3 間 (7.46m) の側柱建物である。根石・礎石等は伴わない。

時期　近世期と推定される。

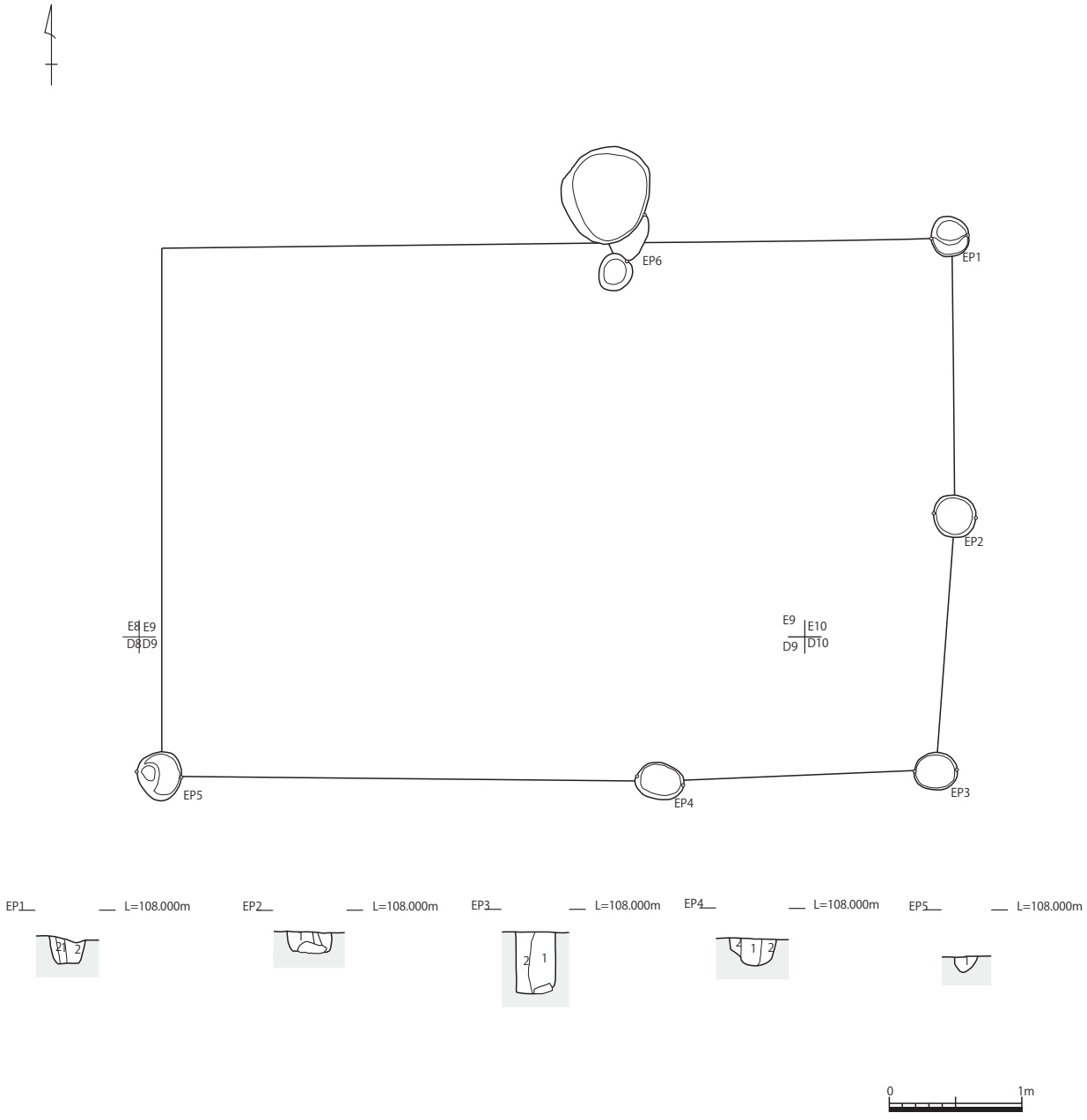


第 47 図　3 号掘立柱建物　遺構図

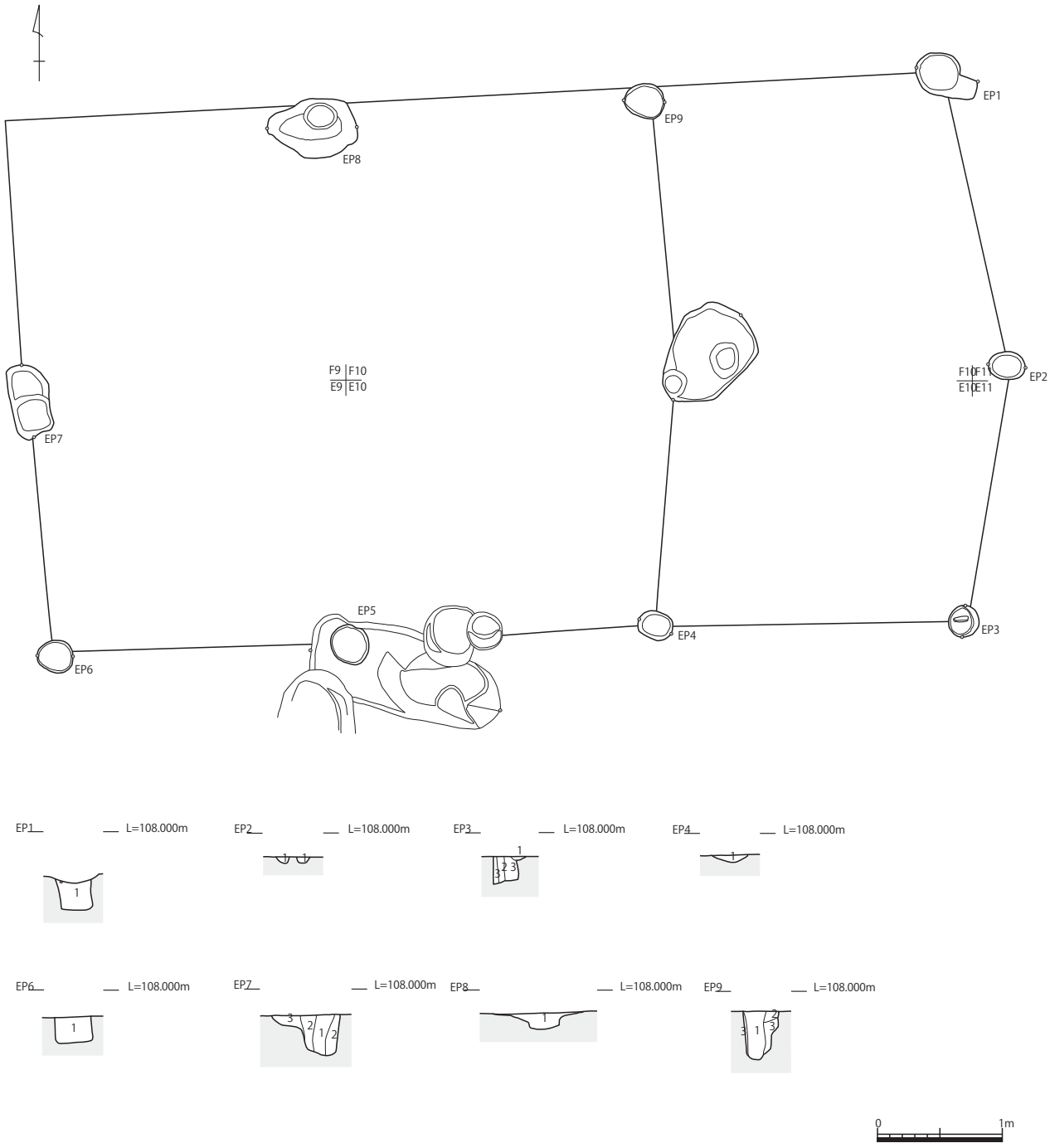




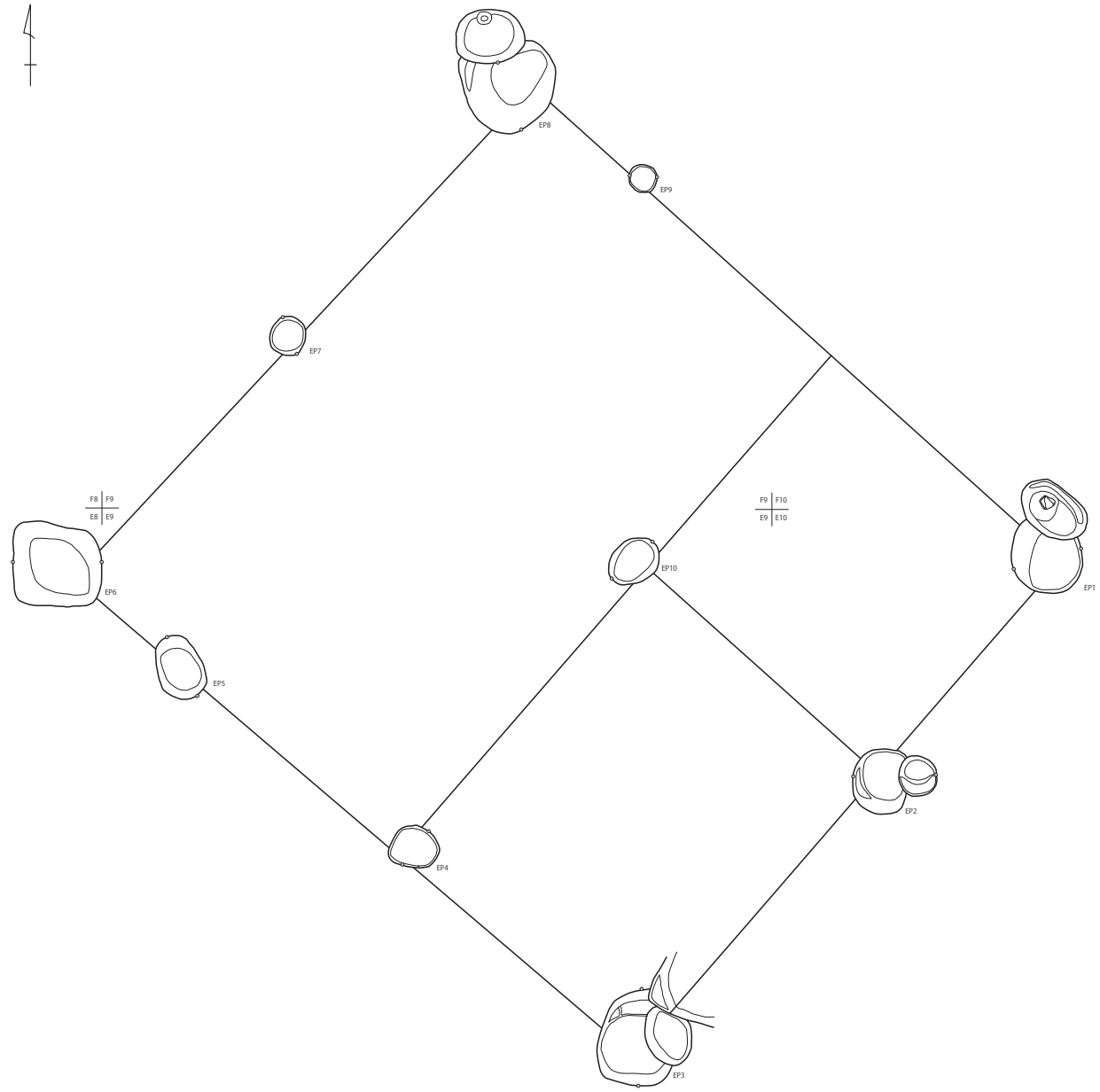
第 48 図　4 号掘立柱建物　遺構図

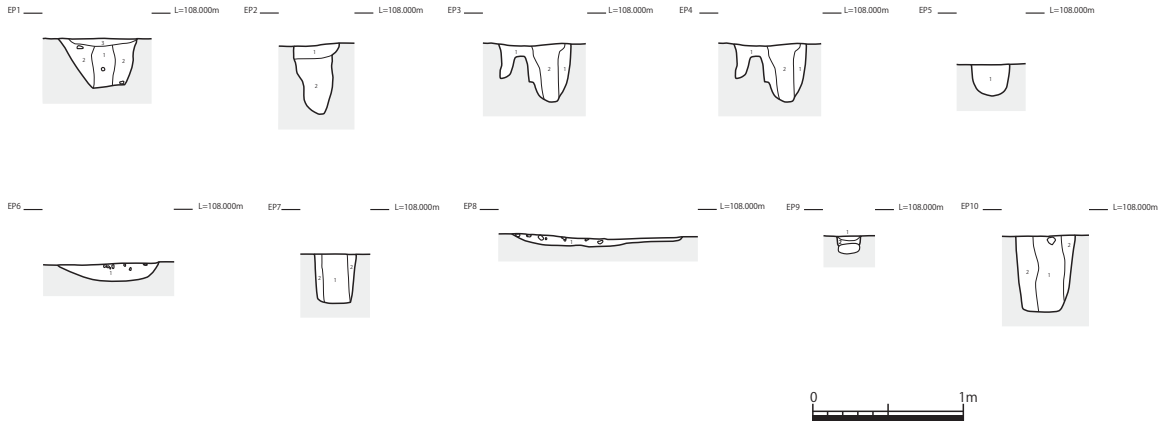


第 49 図　5 号掘立柱建物柱　遺構図

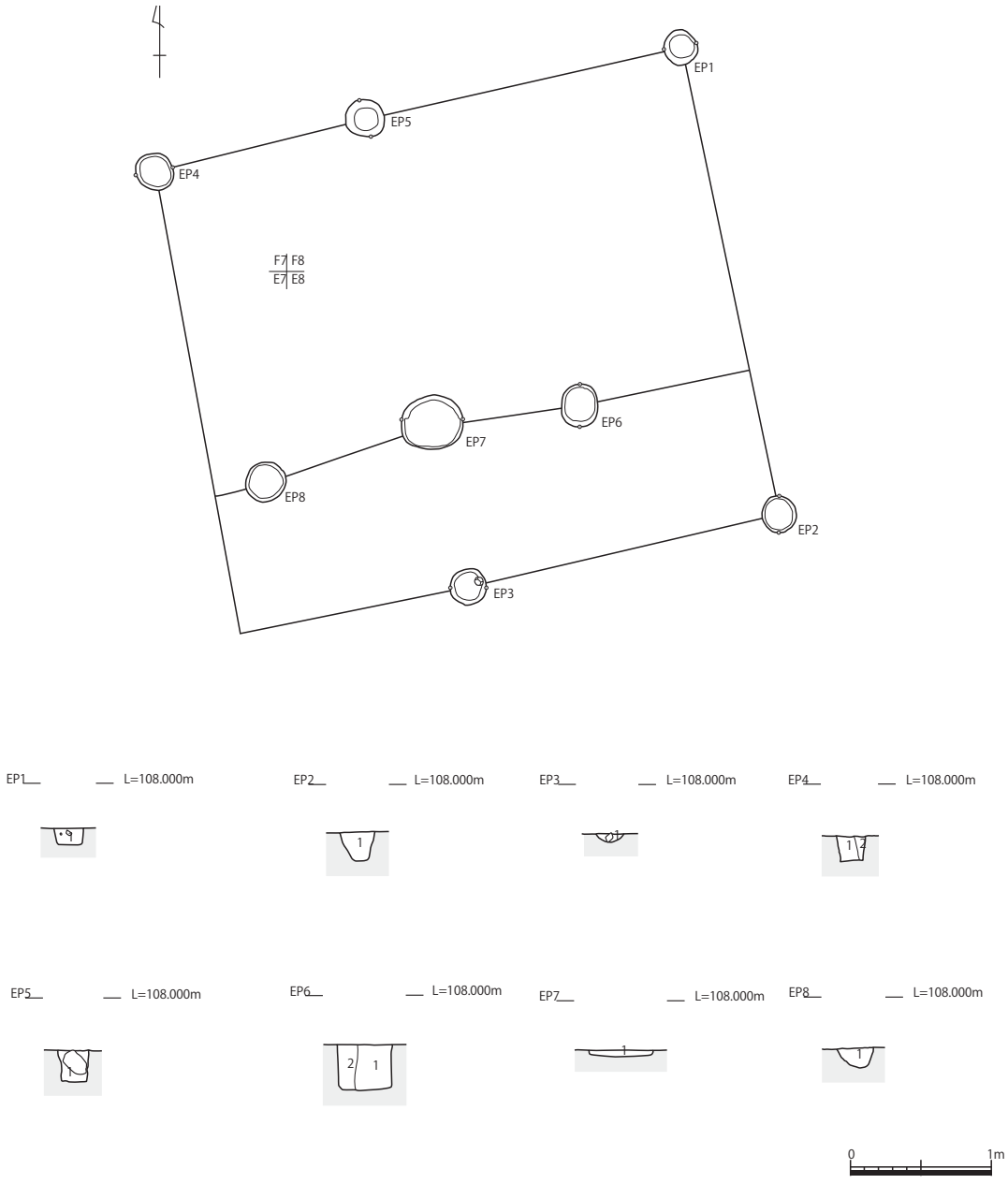


第 50 図　6 号掘立柱建物　遺構図

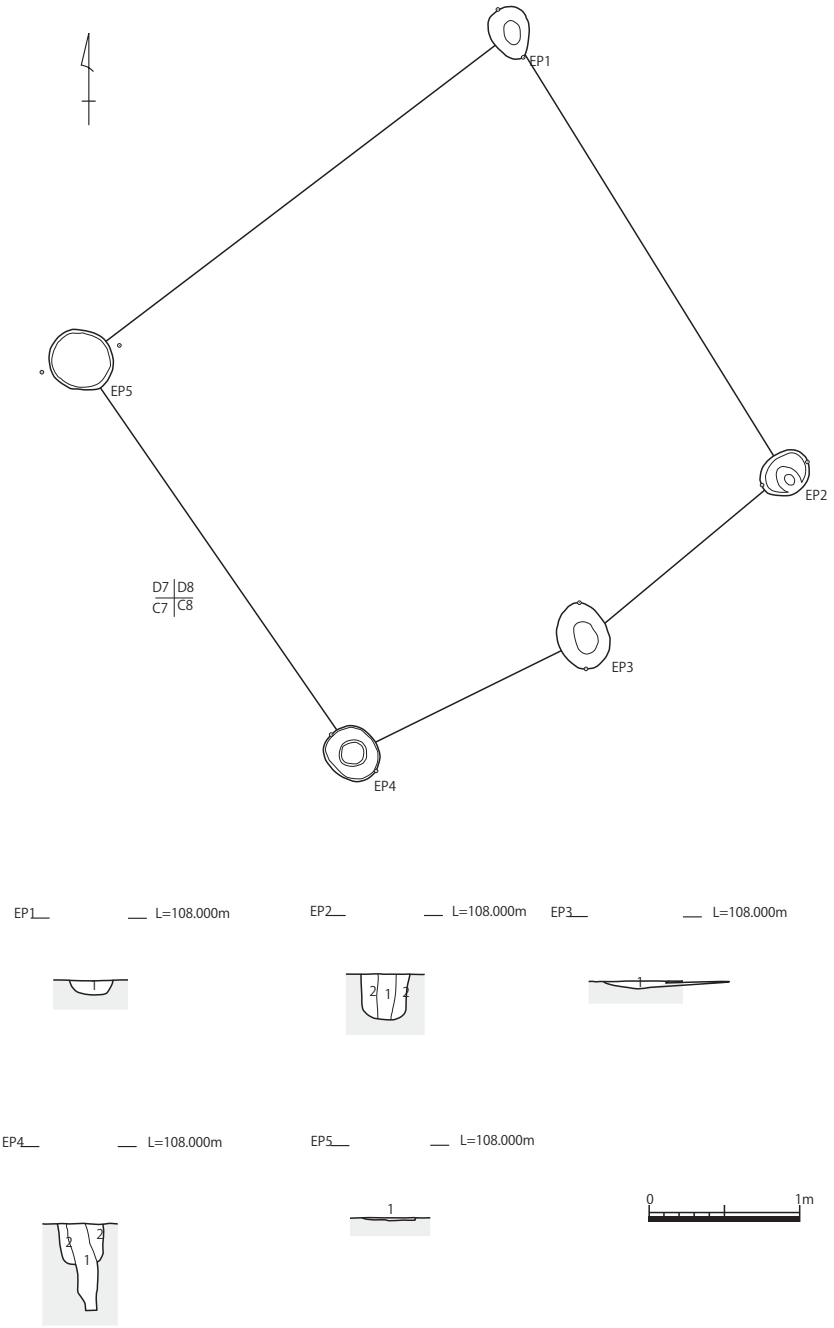




第 51 図　8 号掘立柱建物　遺構図



第 52 図　9 号掘立柱建物　遺構図



第 53 図　10 号掘立柱建物　遺構図

4 号掘立柱建物 (SA1004)

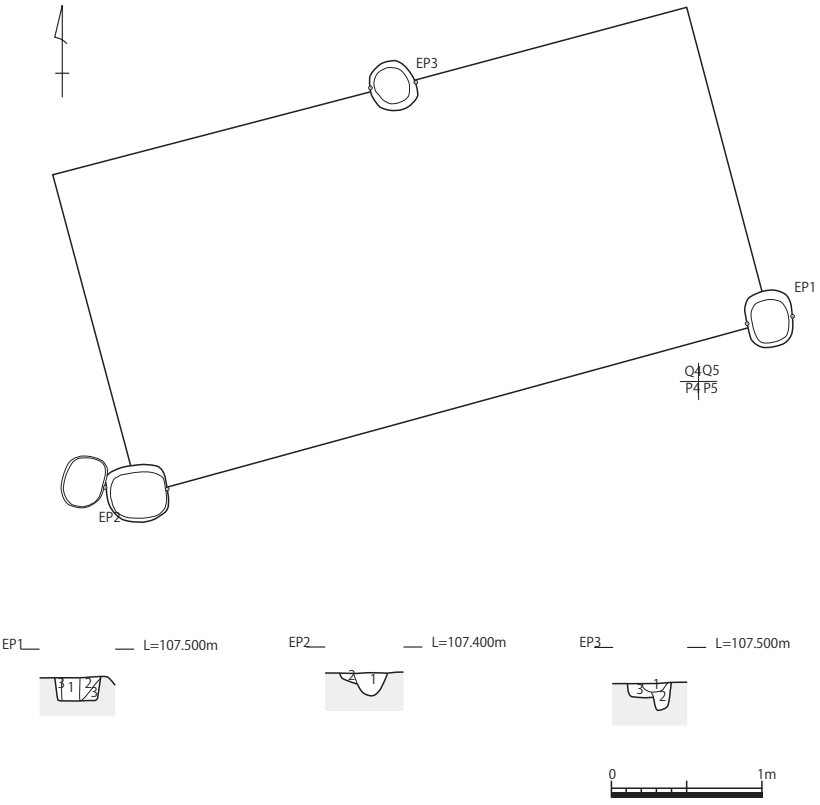
位置　E9,E10,F9,F10

構造・規模　梁間 2 間 (2.9m)、桁間 5 間 (6.84m) の側柱建物である。根石・礎石等は伴わない。北側は軒下・縁構造の可能性がある。SA1003 の建替の可能性も想定される。

時期　近世期と推定される。

5 号掘立柱建物 (SA1005)

位置　E9,D9



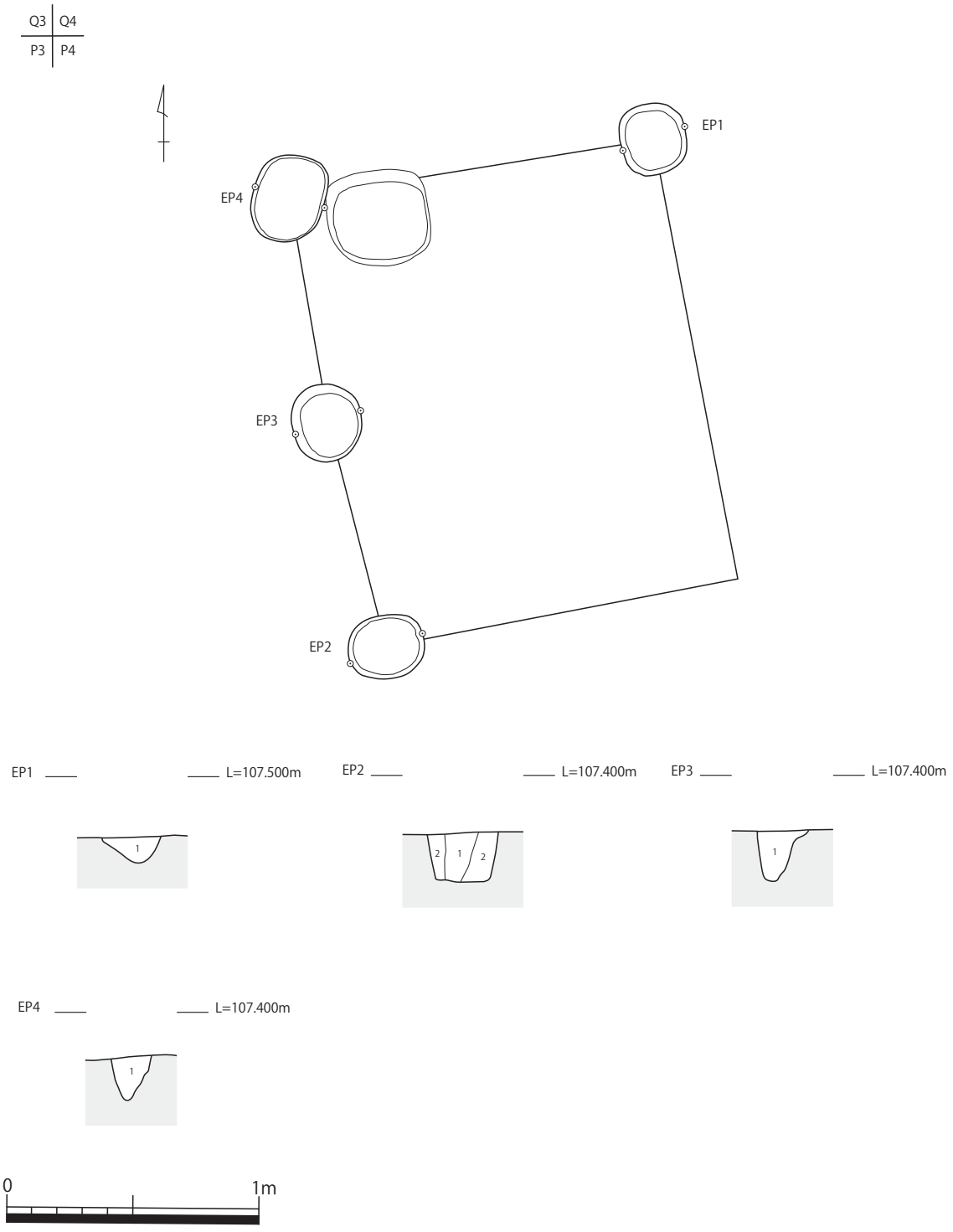
第 54 図　11 号掘立柱建物　遺構図

構造・規模　梁間 2 間 (4.0m)、桁間 2 間 (5.8m) の側柱建物である。根石・礎石等は伴わない。北側は軒下・縁構造の可能性があり、その場合建物本体は 1 間 (4.0m) × 1 間 (3.7m) となる。
時期　室町期と推定される。

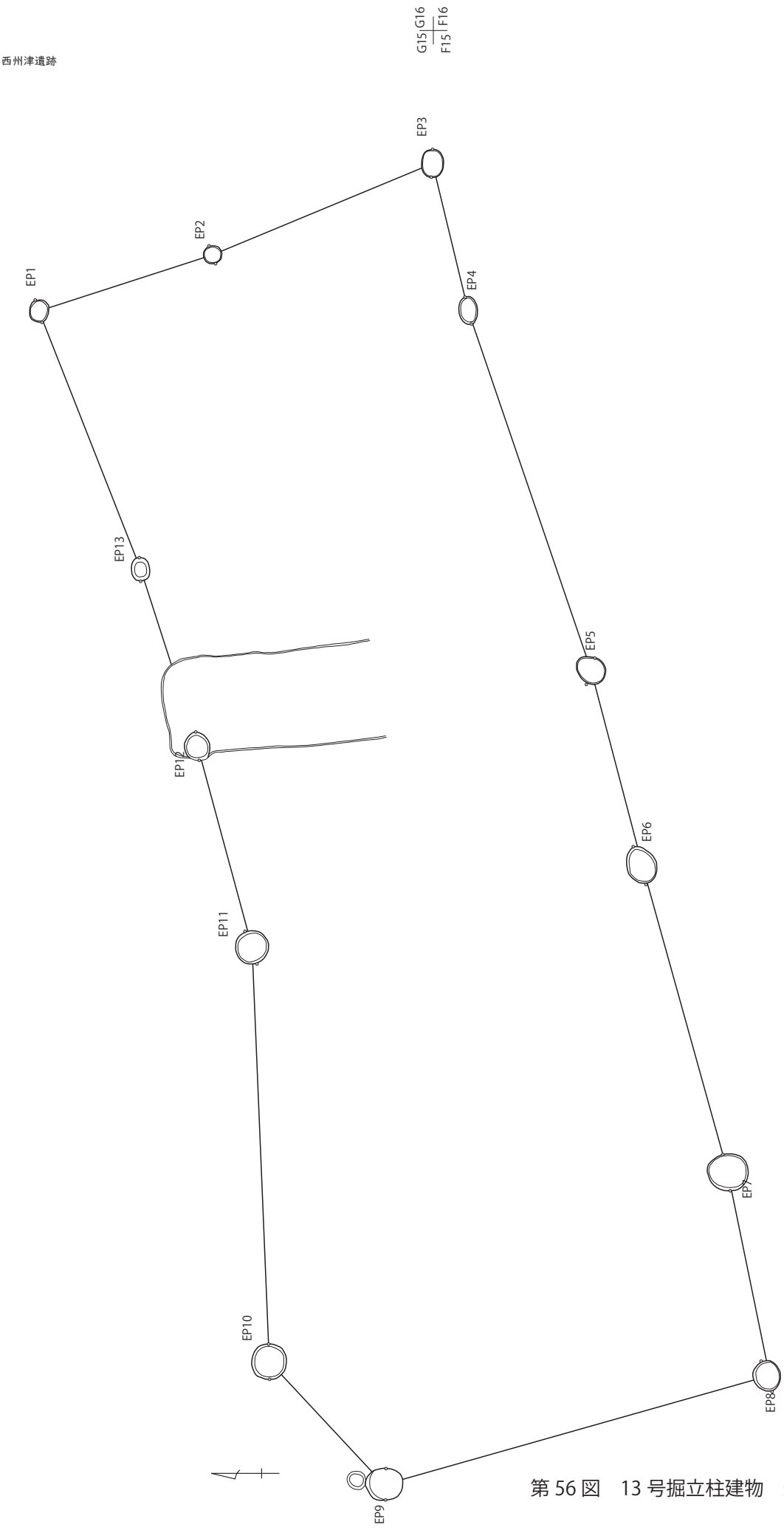
6 号掘立柱建物 (SA1006)
位置　F9,F10,E9,E10
構造・規模　梁間 2 間 (4.2m)、桁間 3 間 (7.25m) の側柱建物である。EP3 内より根石が検出。EP8-EP5 間に柱穴が存在する場合は、総柱建物である。
時期　室町期と推定される。

8 号掘立柱建物 (SA1008)
位置　E9,E10,F9,F10
構造・規模　梁間 2 間 (4.8m)、桁間 2 間 (4.5m) の総柱建物に軒・縁 (幅 1.2m) 構造が伴う。根石・礎石等は伴わない。
時期　室町期と推定される。

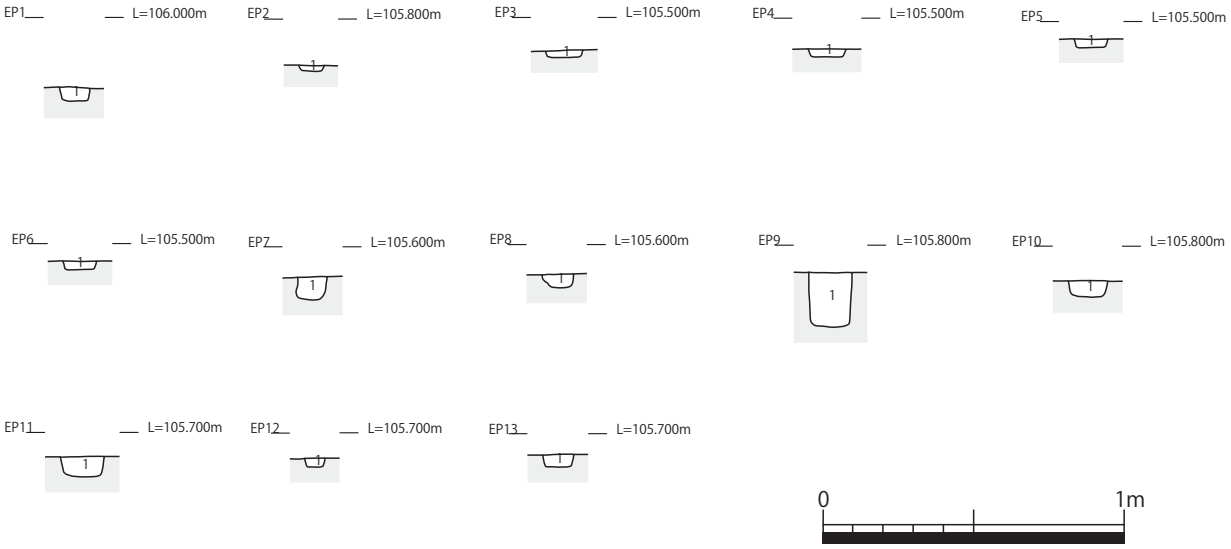
9 号掘立柱建物 (SA1009)
位置　E8,F8



第 55 図　12 号掘立柱建物　遺構図



第 56 図　13 号掘立柱建物　遺構図 (1)



第 57 図　13 号掘立柱建物　遺構図 (2)

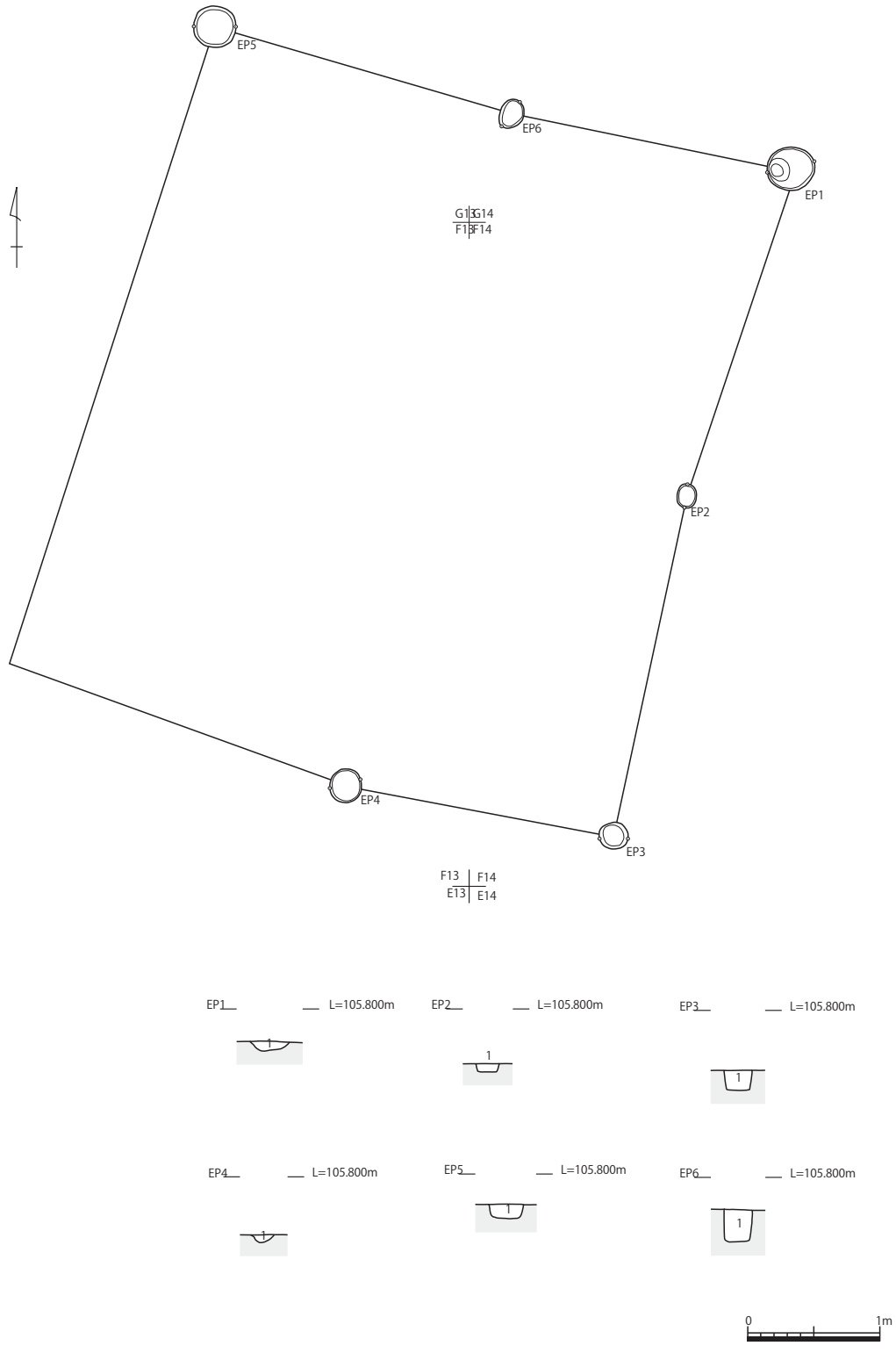
構造・規模　梁間 1 間 (2.2m)、桁間 4 間 (4.8m) の側柱建物に軒・縁 (幅 1.2m) 構造が伴う。根石・礎石等は伴わない。
時期　近世期と推定される。

10 号掘立柱建物 (SA1010)
位置　D8
構造・規模　梁間 2 間 (3.4m)、桁間 1 間 (3.5m) の側柱建物である。
時期　近世期と推定される。

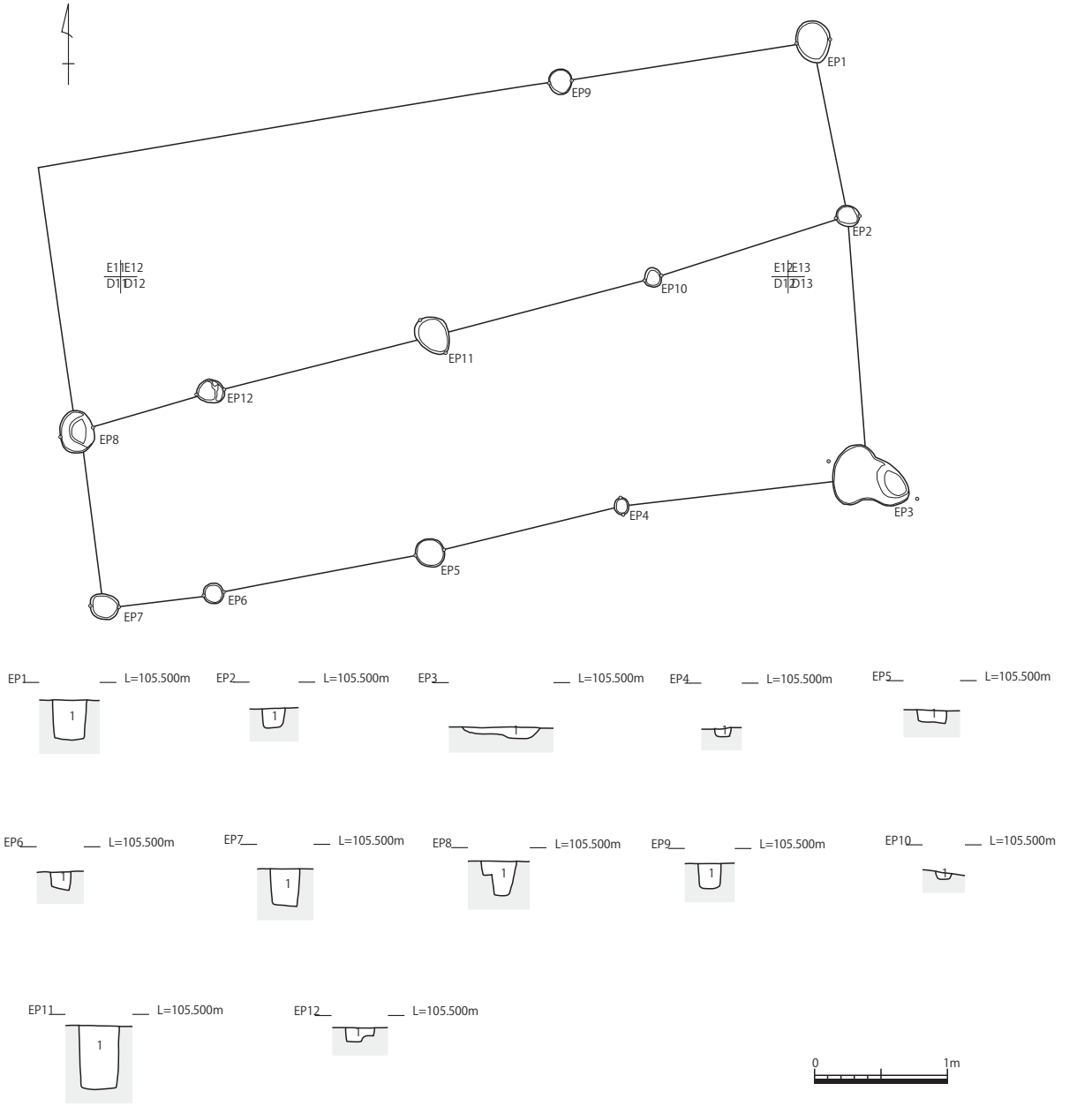
12 号掘立柱建物 (SA1012)
位置　P4
構造・規模　梁間 1 間 (5.8m)、桁間 2 間 (7.2m) の側柱建物である。根石・礎石等は伴わない。
時期　室町期と推定される。

13 号掘立柱建物 (SA1013)
位置　G15
構造・規模　梁間 2 間 (3.7m)、桁間 6 間 (11.2m) の側柱建物である。
時期　近世期と推定される。

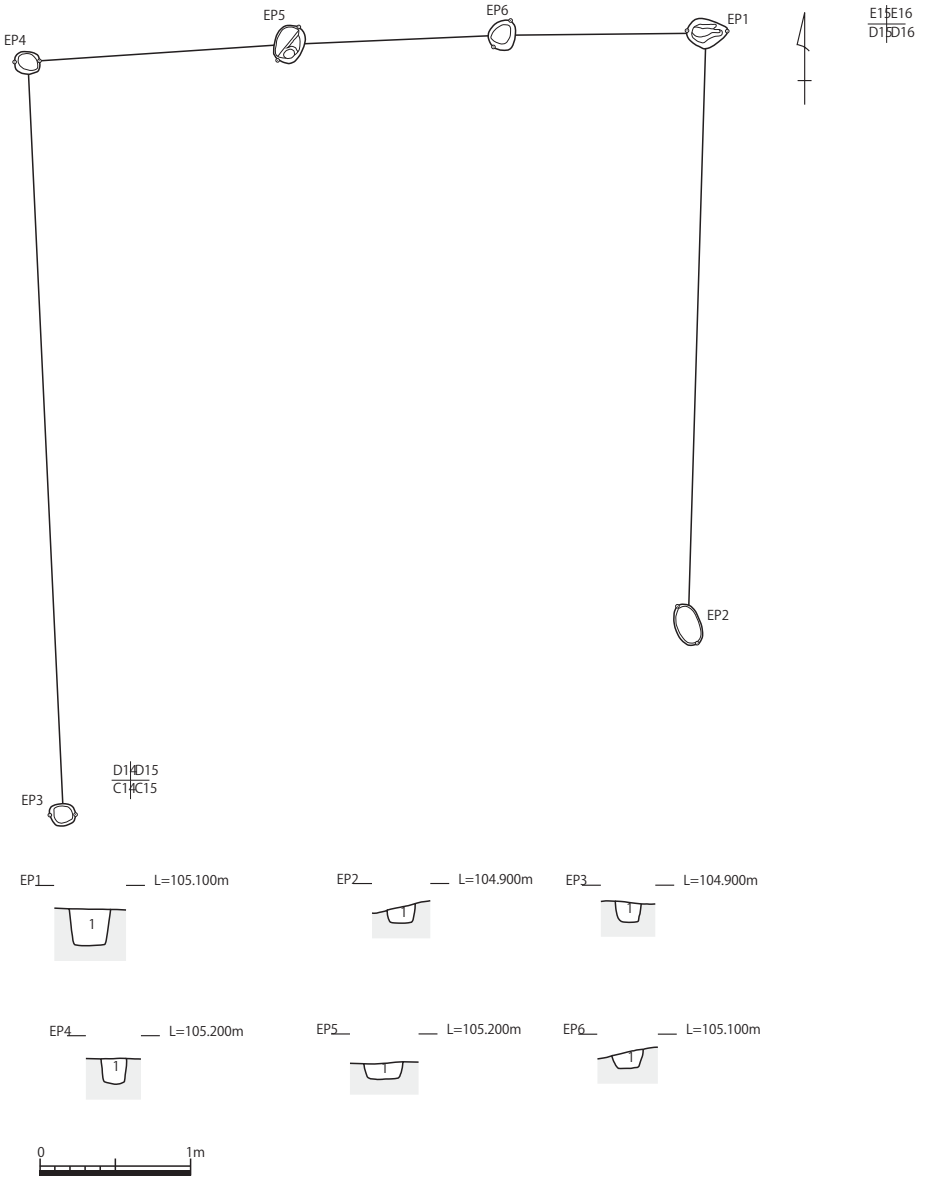
14 号掘立柱建物 (SA1014)
位置　F13,F14
構造・規模　梁間 2 間 (4.5m)、桁間 2 間 (5.2m) の側柱建物である。
時期　室町期と推定される。



第 58 図　14 号掘立柱建物　遺構図



第 59 図　15 号掘立柱建物　遺構図



第 60 図　16 号掘立柱建物　遺構図

15 号掘立柱建物 (SA1015)

位置　D12,E12

構造・規模　梁間 2 間 (3.4m)、桁間 4 間 (5.8m) の総柱建物である。

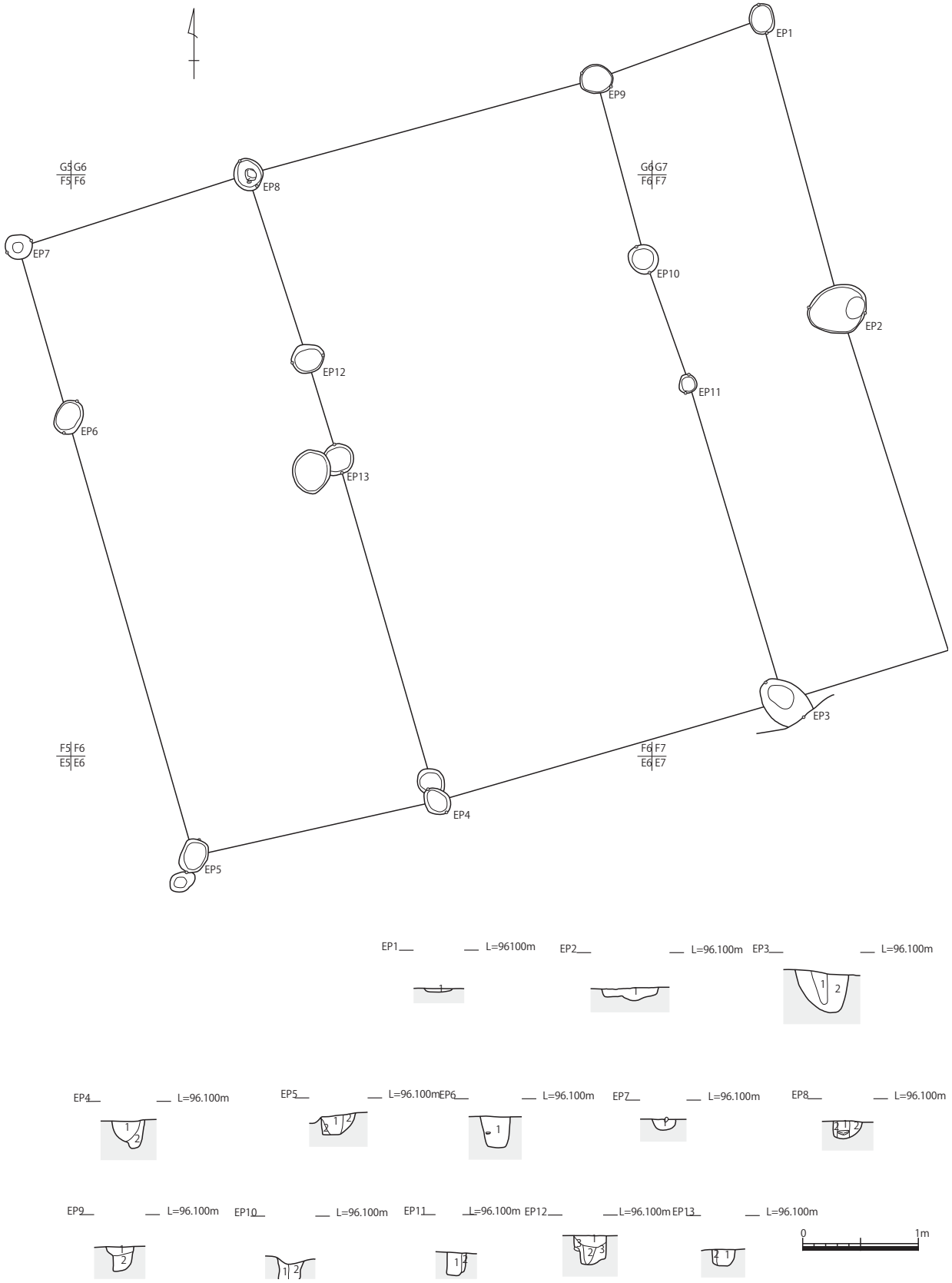
時期　室町期と推定される。

17 号掘立柱建物 (SA1017)

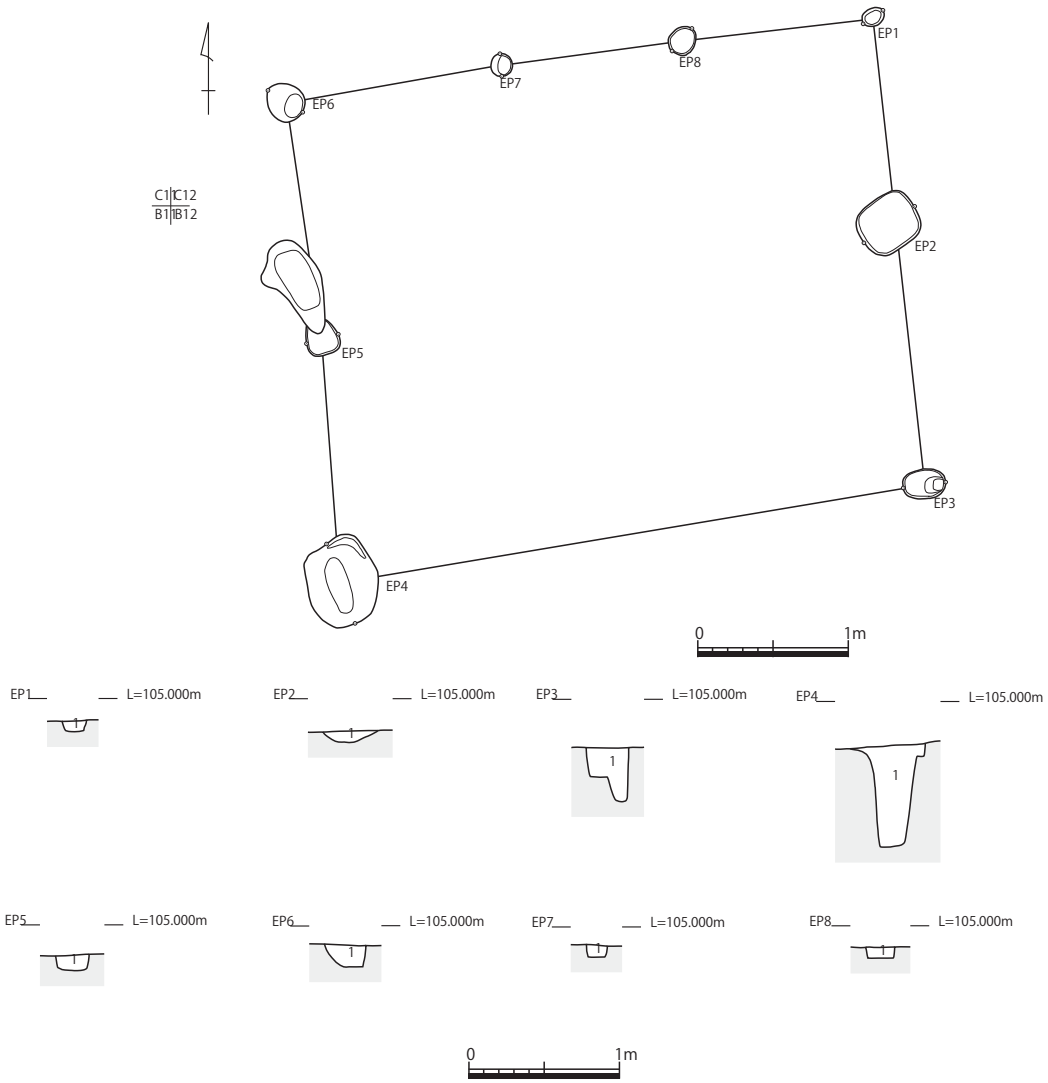
位置　F6,F7

構造・規模　梁間 4 間 (5.7m)、桁間 3 間 (6.7m) の総柱建物である。

時期　室町期と推定される。



第 61 図　17 号掘立柱建物　遺構図



第 62 図　18 号掘立柱建物　遺構図

18 号掘立柱建物 (SA1018)

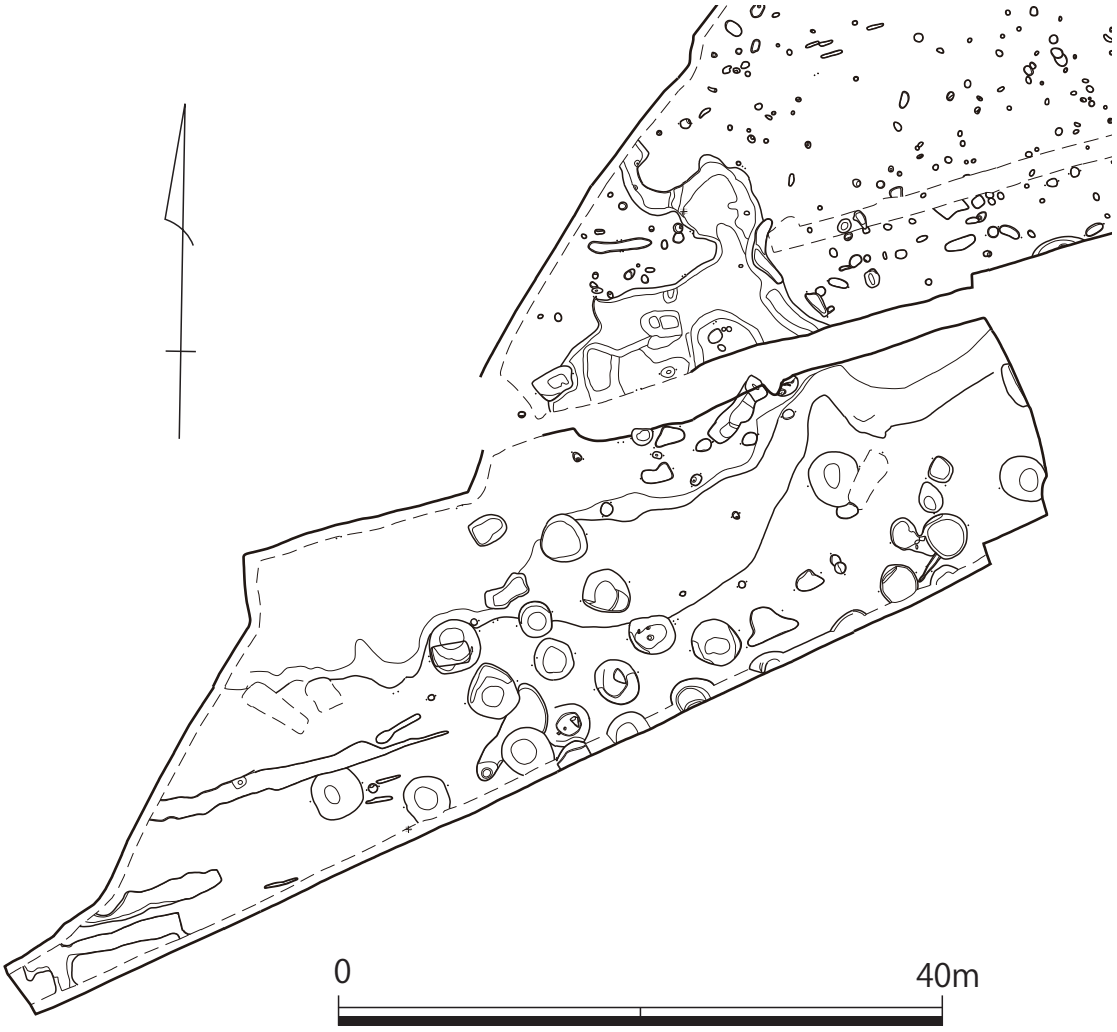
位置　B12

構造・規模　梁間 2 間 (3.5m)、桁間 3 間 (3.9m) の側柱建物である。

時期　室町期と推定される。

③貯蔵穴・土坑 (SK)

高位段丘上の BC 区･D 区で、堅果類（ドングリなど）の貯蔵穴を 32 基確認した。貯蔵穴は BC 区で 19 基、D 区で 13 基を数え、その平面形態はほぼ円形を呈する。規模は平均で直径 1.5 m、深さ 0.7 mを測り、そのうち直径が最大のものは 1.9 m、最小は 1.1 mを測る。堅果類は貯蔵穴 32 基のうち 13 基からその出土が確認でき、遺存状態が良好でないものが多いものの貯蔵穴の最下層から出土している。堅果類の出土が認められない土坑もあるが、規模や配置、土層の観察から貯蔵穴と判断した。ドングリという



第 63 図　井関地区主要貯蔵穴配置 S=1/250

名称は、カシ・ナラ・クヌギ・シイなどの堅くて光沢のある殻に包まれた木の実の総称である。貯蔵穴から出土した堅果類は大半が土と同化しつつあり、比較的遺存が良いもので外側の堅い殻だけが残っている状態である。そのためドングリの判別は現時点で難しく、種類は不明である。また堅果類以外に、これらの貯蔵穴から縄文時代晩期前半（滋賀里Ⅲ b）の深鉢やサヌカイト製石鏃・剥片が出土した。

BC 区 20 号土坑（旧 2009　BC 区 SK1020）

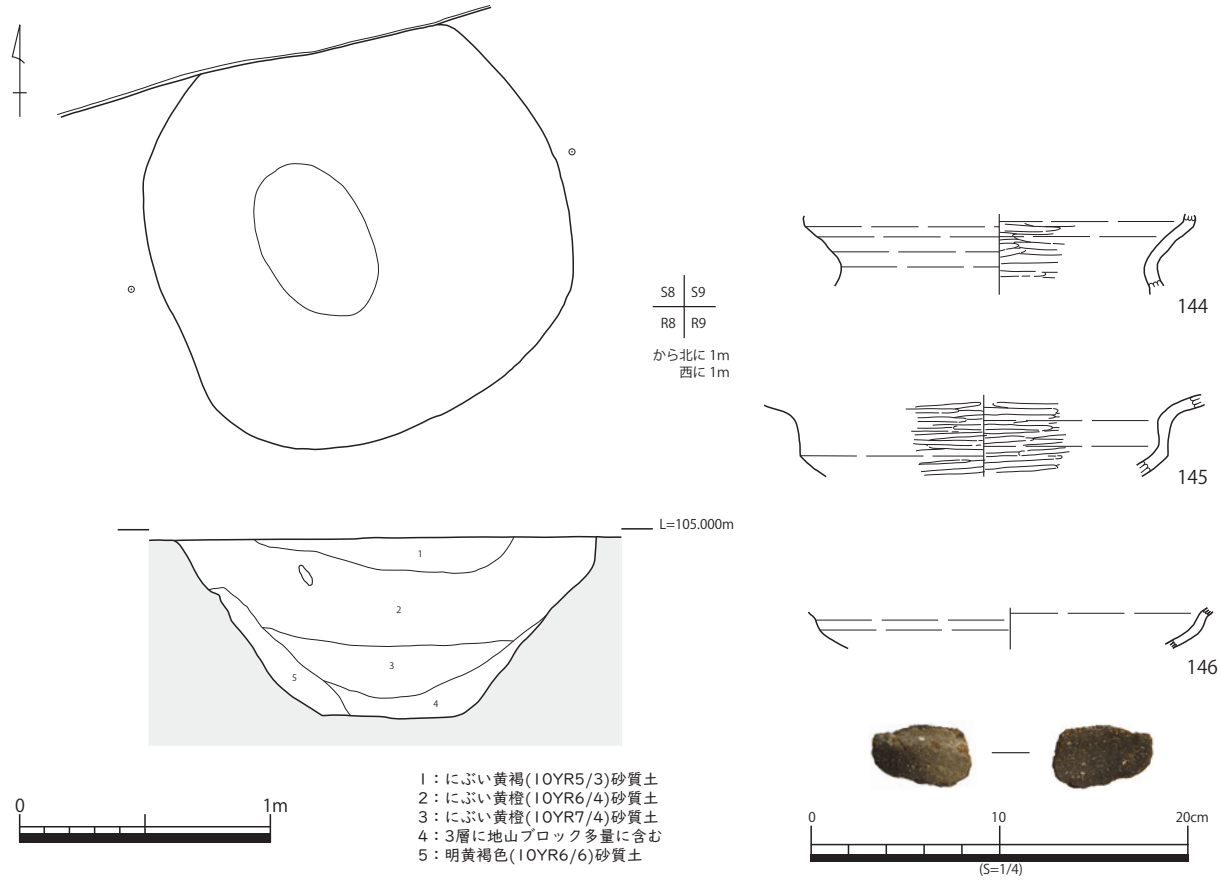
位置　S8

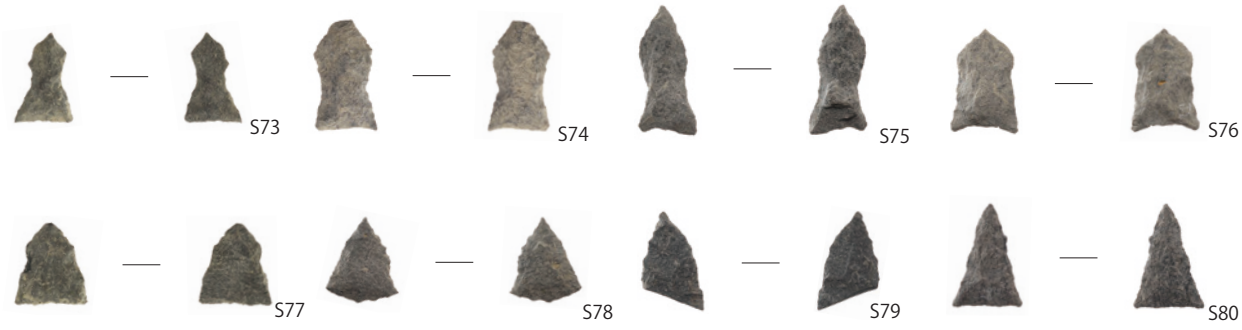
構造・規模　平面形態は不整方形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.65m、残存短軸長 1.54m、深度 0.71m、主軸方位 N-58° -W を測る。

土層　上層は炭化粒を含むにぶい黄橙色砂質土層、下層は明黄褐色砂質土層である。

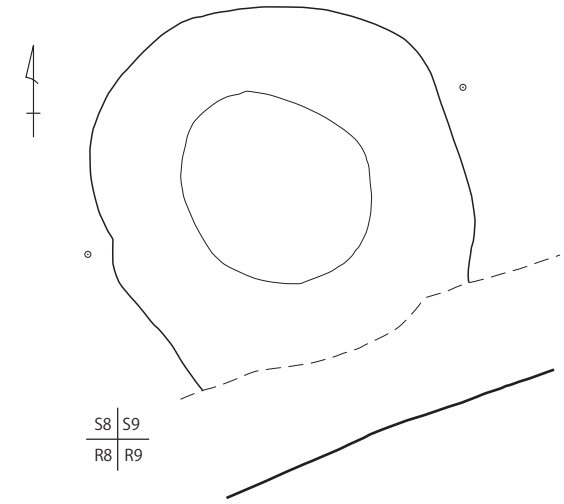
遺物出土状況　下層より縄文土器浅鉢やサヌカイト剥片や結晶片岩礫が出土。1 層中より弥生土器甕片が出土したが、流れ込みと推定される。

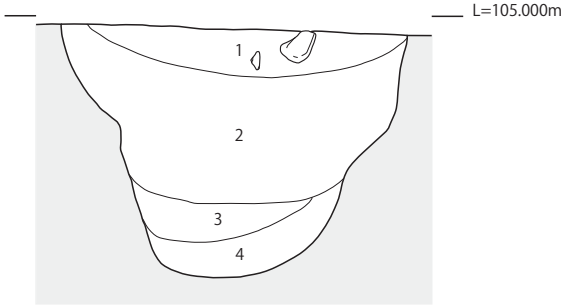
時期　縄文時代晩期である。





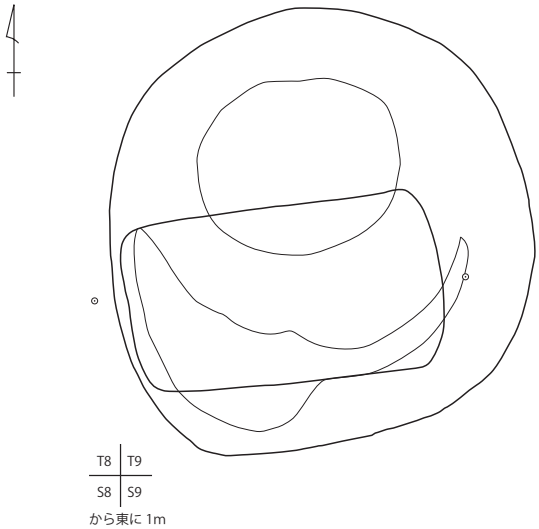
第 64 図　BC 区 20 号貯蔵穴　遺構図・遺物図

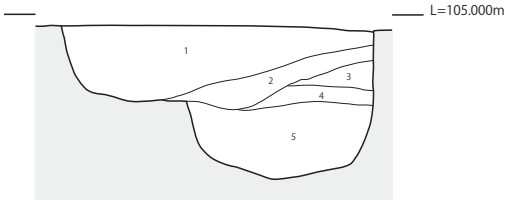




1：にぶい黄褐(10YR5/3)砂質土
2：にぶい黄橙(10YR6/4)砂質土
3：黄灰色(7.5YR)砂質土
4：灰褐色(7.5YR4/2)砂質土

第 65 図　BC 区 21 号貯蔵穴　遺構図・遺物図





1:灰黄褐色(10YR5/2)砂質土
2:にぶい黄橙色(10YR7/3)砂質土
3:1と同じ
4:赤灰色(2.5YR5/1)砂質土
5:赤灰色(2.5YR4/1)砂質土

第 66 図　BC 区 22 号貯蔵穴　遺構図

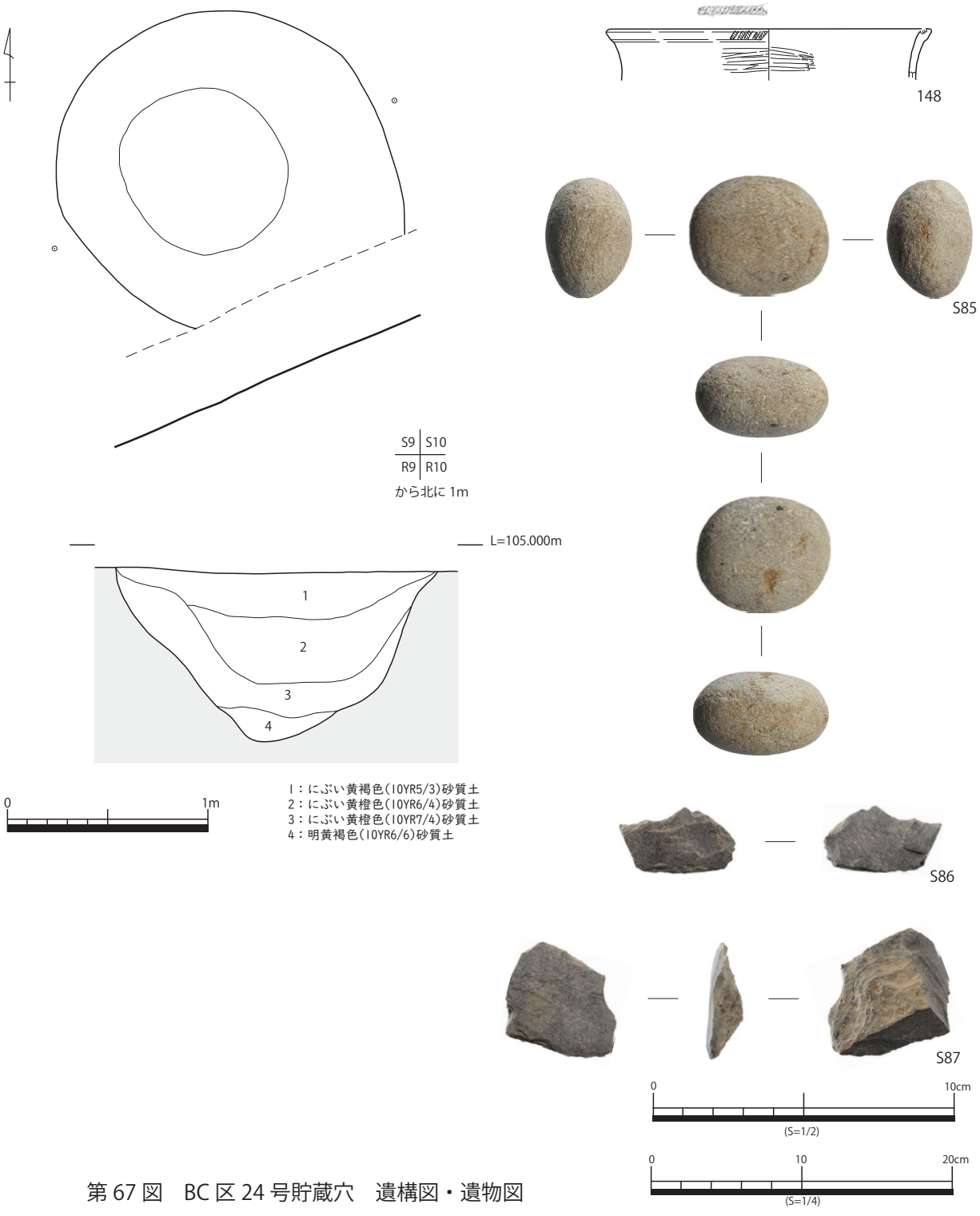
BC 区 21 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1021）
位置　S8,S9
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は舟底形を呈する。残存長軸長 1.45m、短軸長 1.4m、深度 0.98m、主軸方位 N-22° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄橙色砂質土、中層は黄灰色砂質土、下層は灰褐色砂質土層である。
遺物出土状況　縄文土器浅鉢 455 と縄文土器、サヌカイト剥片、片岩礫・凝灰岩礫が下層から出土。弥生土器は 1 層中よりの出土で、流れ込みと推定される。
時期　縄文時代晩期である。

BC 区 22 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1022）
位置　T9
構造・規模　平面形態は長方形、断面形態は二段形を呈する。残存長軸長 1.26m、短軸長 0.71m、深度 0.63m、主軸方位 N-82° -W を測る。
土層　赤灰色砂質土である。
時期　縄文時代晩期と推定される。
備考　長方形を呈する土坑に切られる。1 ～ 4 層である。覆土中より焼土塊やスラグが出土。

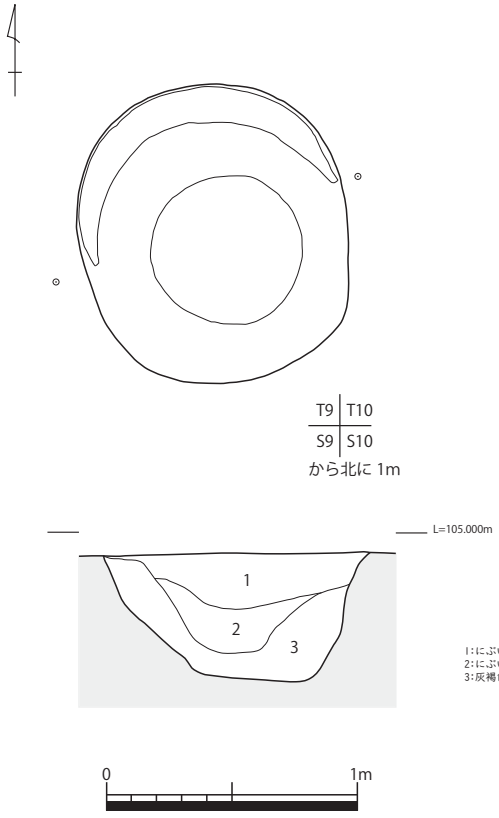
BC 区 24 号土坑（／旧 2009　BC 区　SK1024）
位置　S9
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.6m、残存短軸長 1.45m、深度 0.84m、主軸方位 N-50° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄褐色砂質土、下層は明黄褐色砂質土である。
遺物出土状況　下層より縄文土器やサヌカイト片が出土。
時期　縄文時代晩期である。

BC 区 25 号土坑 (旧 2009　BC 区 SK1025）
位置　T9
構造・規模　平面形態は円形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.18m、短軸長 1.03m、深度 0.50m、主軸方位 N-18.5° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄橙色砂質土、下層は灰褐色砂質土である。
時期　縄文時代晩期と推定される。

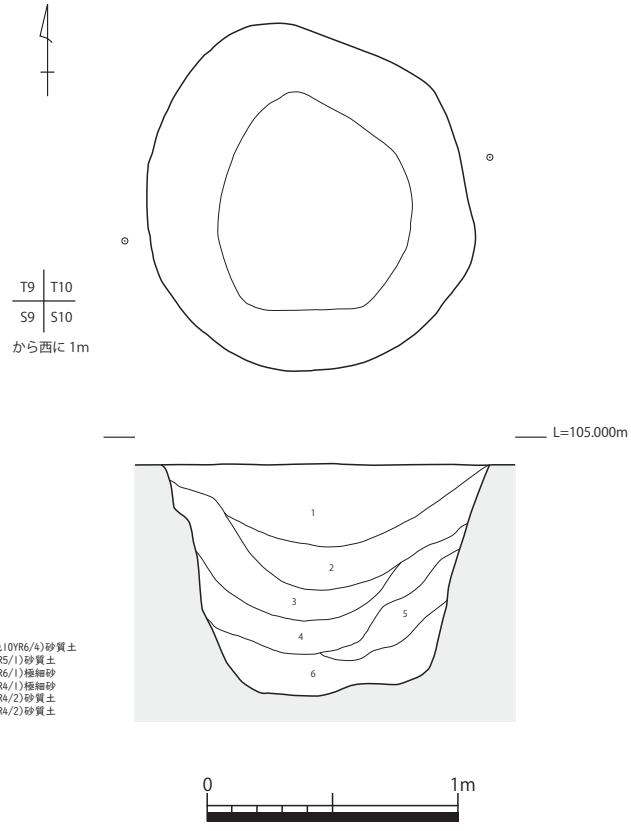
BC 区 26 号土坑 (旧 2009)　BC 区 SK1026）
位置　S10,T10
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.38m、短軸長 1.22m、深度 0.91m、主軸方位 N-20° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄橙色砂質土、中層は赤灰色砂質土、下層は灰赤色砂質土である。
遺物出土状況　下層より縄文土器、炭化物、片岩礫・砂岩礫が出土した。
時期　縄文時代晩期である。



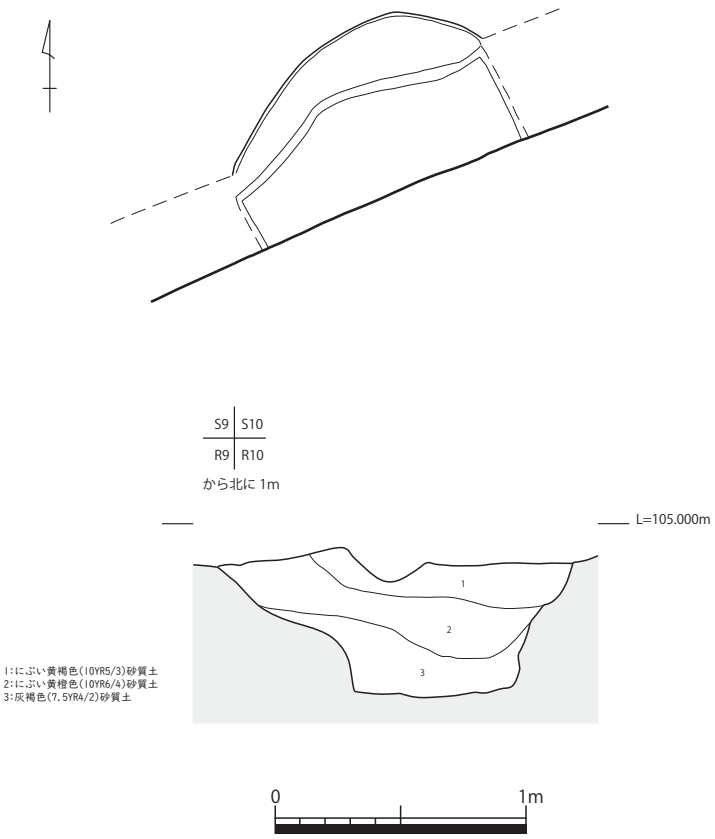
第 67 図　BC 区 24 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



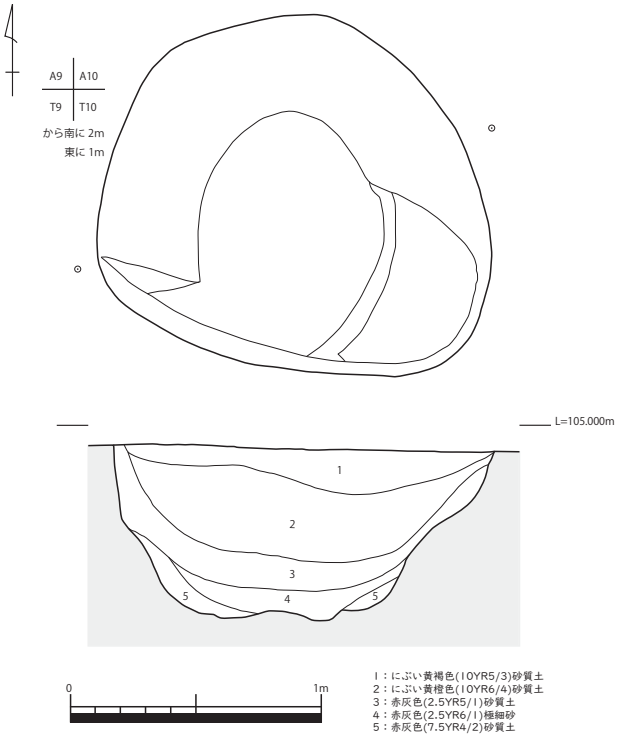
第 68 図　BC 区 25 号貯蔵穴　遺構図

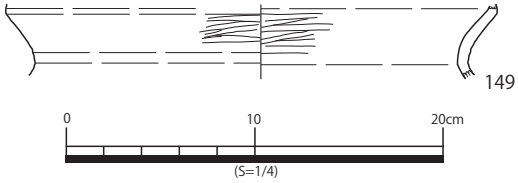


第 69 図　BC 区 26 号貯蔵穴　遺構図

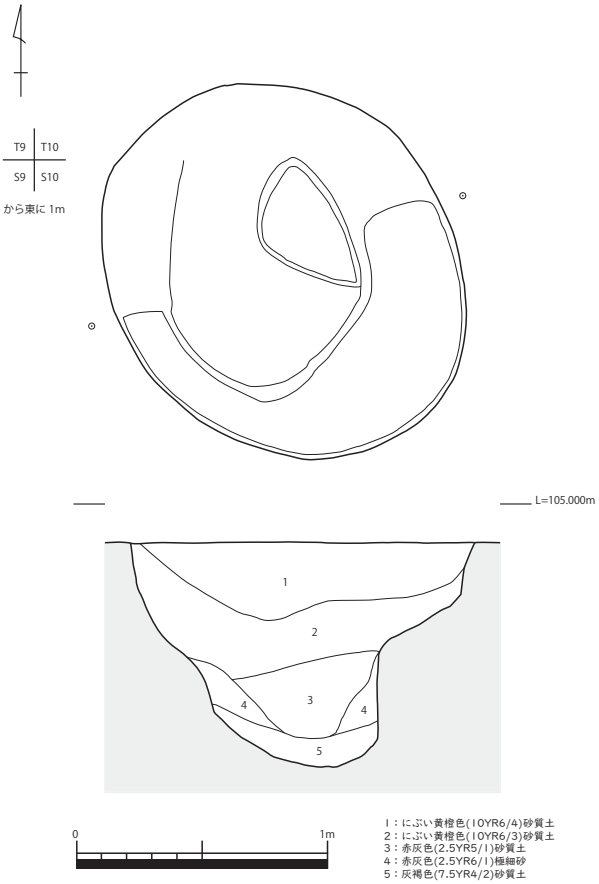


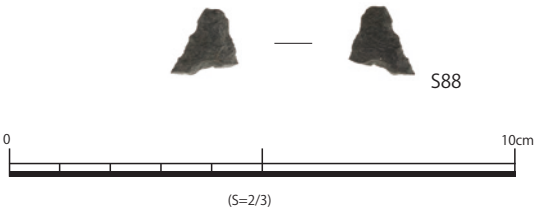
第 70 図　BC 区 27 号貯蔵穴　遺構図



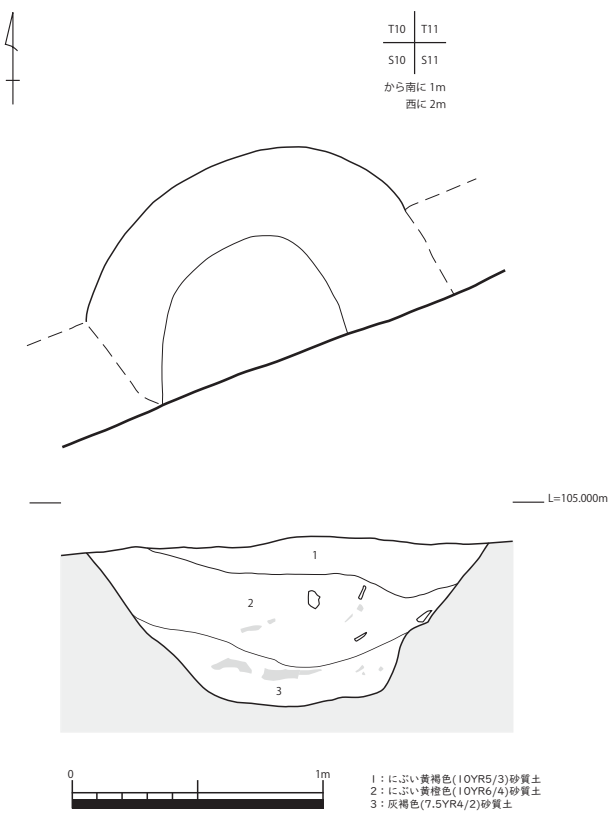


第 71 図　BC 区 29 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



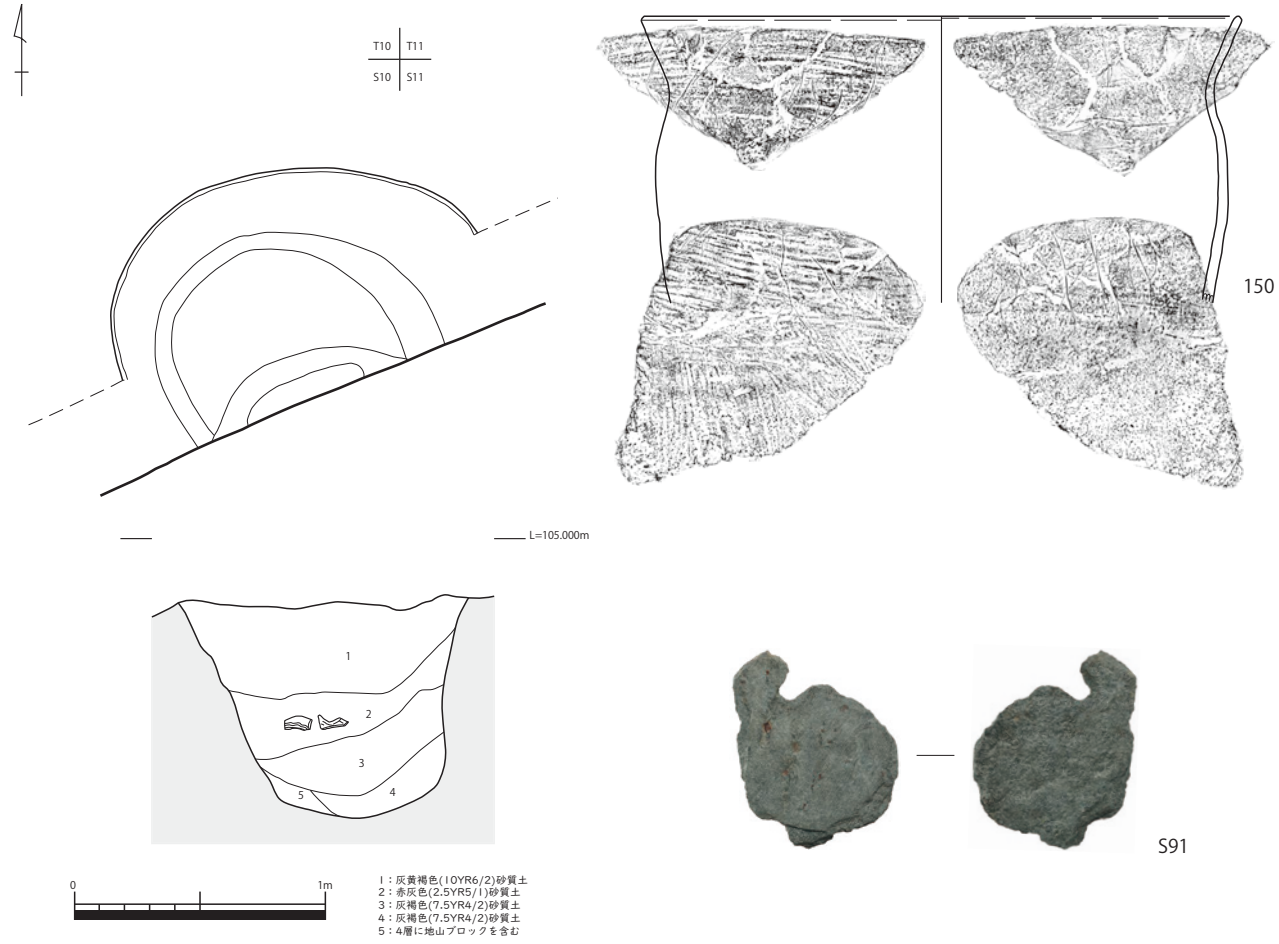


第 72 図　BC 区 30 号貯蔵穴　遺構図・遺物図

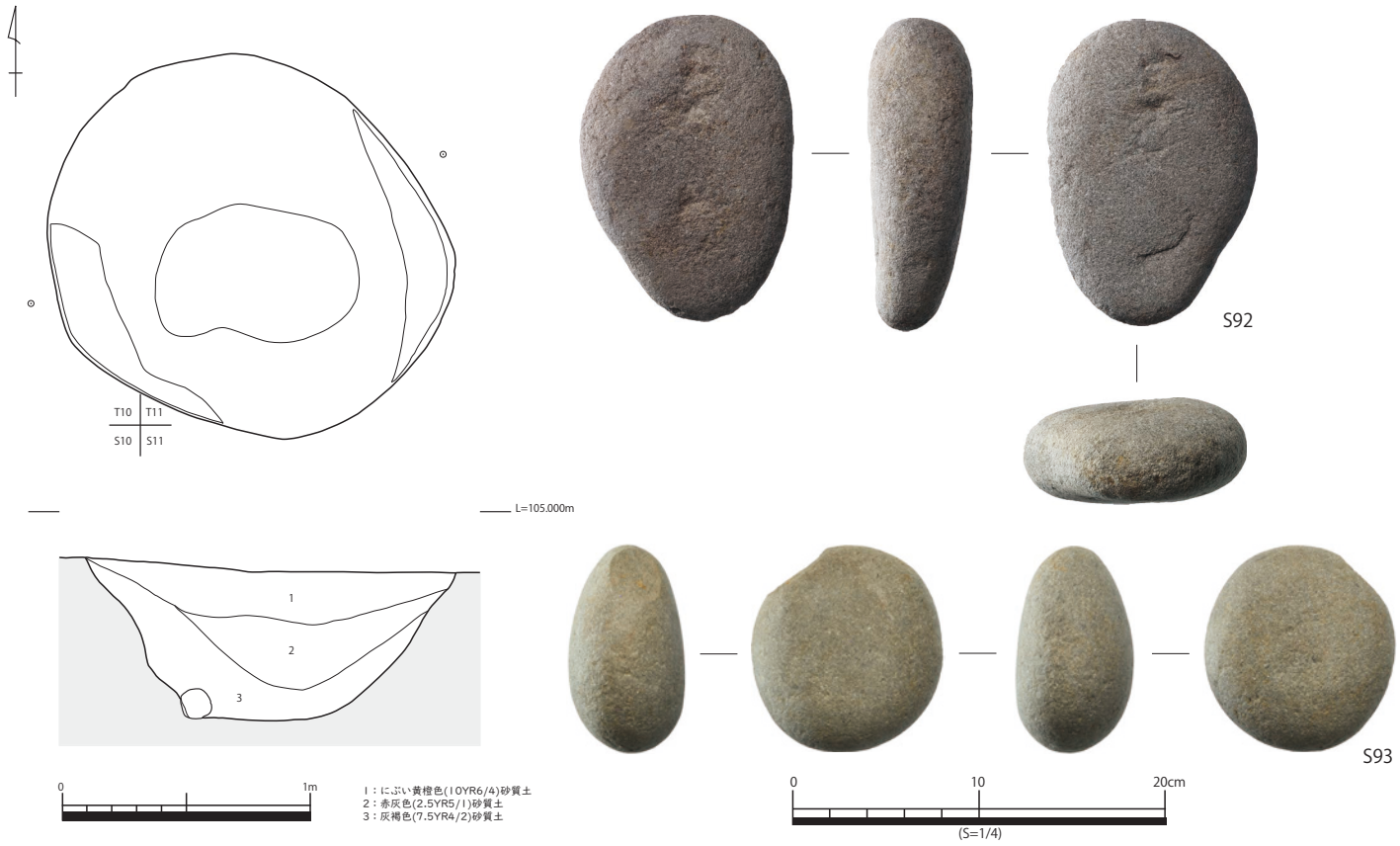


第 73 図　BC 区 31 号貯蔵穴　遺構図

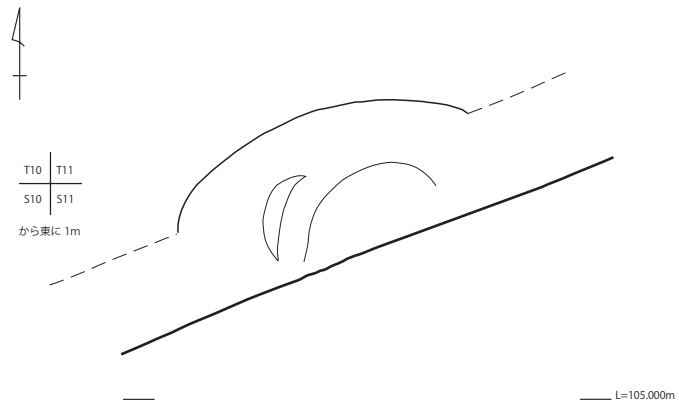
第 74 図　BC 区 32 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



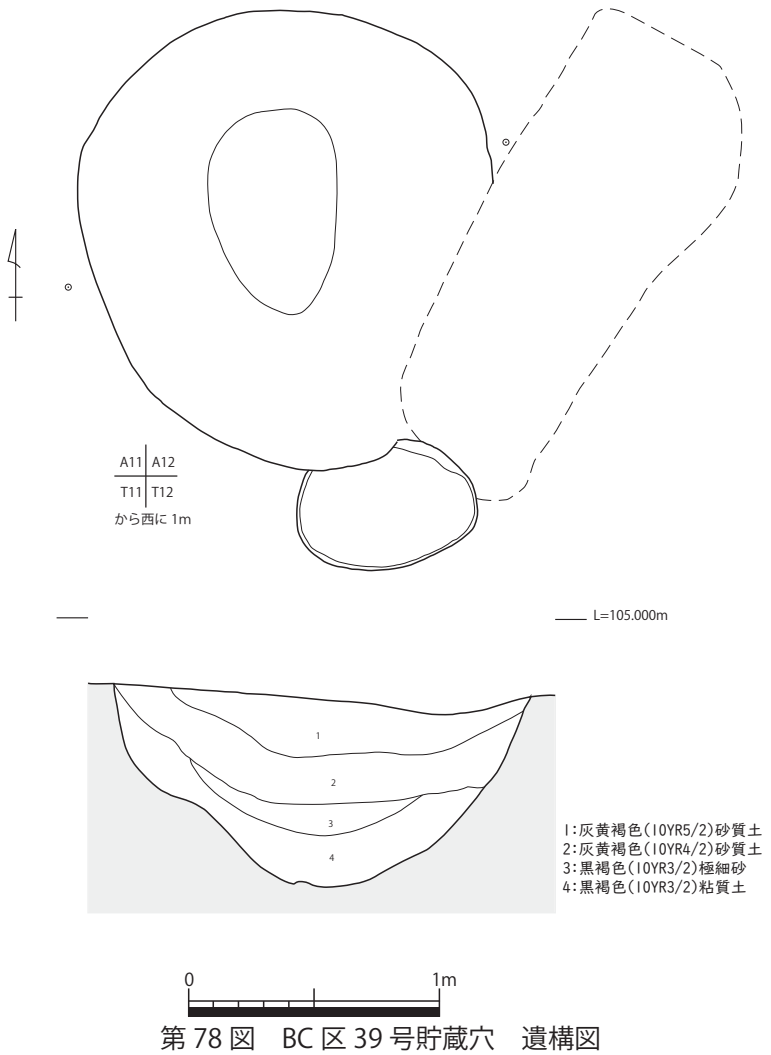
第 75 図　BC 区 33 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



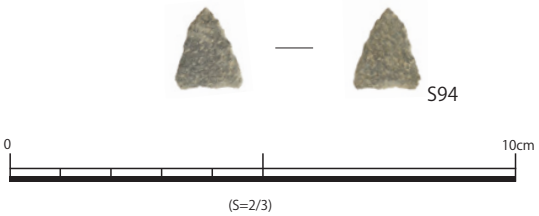
第 76 図　BC 区 34 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 77 図　BC 区 35 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 78 図　BC 区 39 号貯蔵穴　遺構図



(S=2/3)

BC 区 27 号土坑 (／旧 2009　BC 区 SK1027)

位置　S10

構造・規模　平面形態は不整楕円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.12m、残存短軸表 0.67m、深度 0.51m、主軸方位 N-43° -E を測る。

土層　上層はにぶい黄橙色砂質土、下層は灰褐色砂質土である。

遺物出土状況　下層より縄文土器が、上層より弥生土器片が出土した。

時期　縄文時代晩期と推定される。

BC 区 29 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1029）

位置　T10

構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.66m、短軸長 1.37m、深度 0.67m、主軸方位は N-43° -W を測る。

土層　上層は炭化物を含むにぶい黄褐色砂質土、下層は黄褐色砂質土層である。

遺物出土状況　下層より縄文土器浅鉢や深鉢片が出土。最上層より弥生土器片が出土。

時期　縄文時代晩期である。

BC 区 30 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1030）

位置　T10,S10

構造・規模　平面形態は円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.59m、短軸長 1.35m、深度 0.89m、主軸方

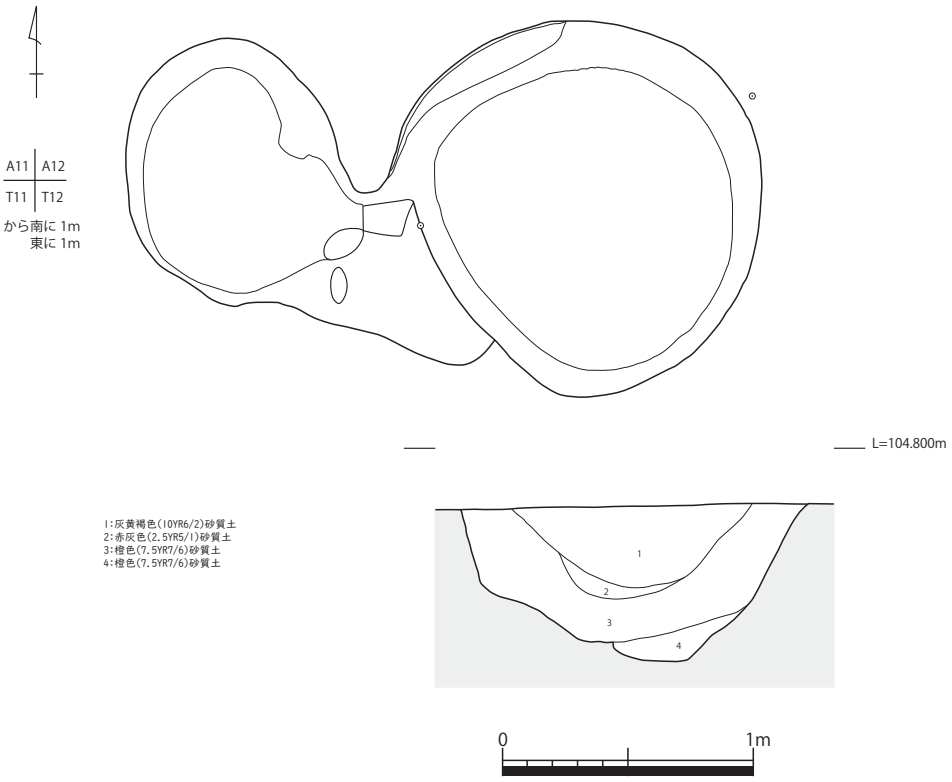
位 N-43° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄橙色砂質土、中層は赤灰色砂質土、下層は灰褐色砂質土である。
遺物出土状況　下層より縄文土器浅鉢や深鉢片が出土。最上層より弥生土器片が出土。
時期　縄文時代晩期である。

BC 区 31 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1031）
位置　S10
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.33m、残存短軸長 0.82m、深度 0.70m、主軸方位は N-67° -W を測る。
土層　上層はにぶい黄橙色砂質土、中層は多くの土器片や炭化物を含むにぶい黄橙色砂質土、下層は炭化物を大量に含む灰褐色砂質土層である。
遺物出土状況　２層中より縄文土器片が集中して出土した。下層からは結晶片岩礫や砂岩礫が出土。
時期　縄文時代晩期である。

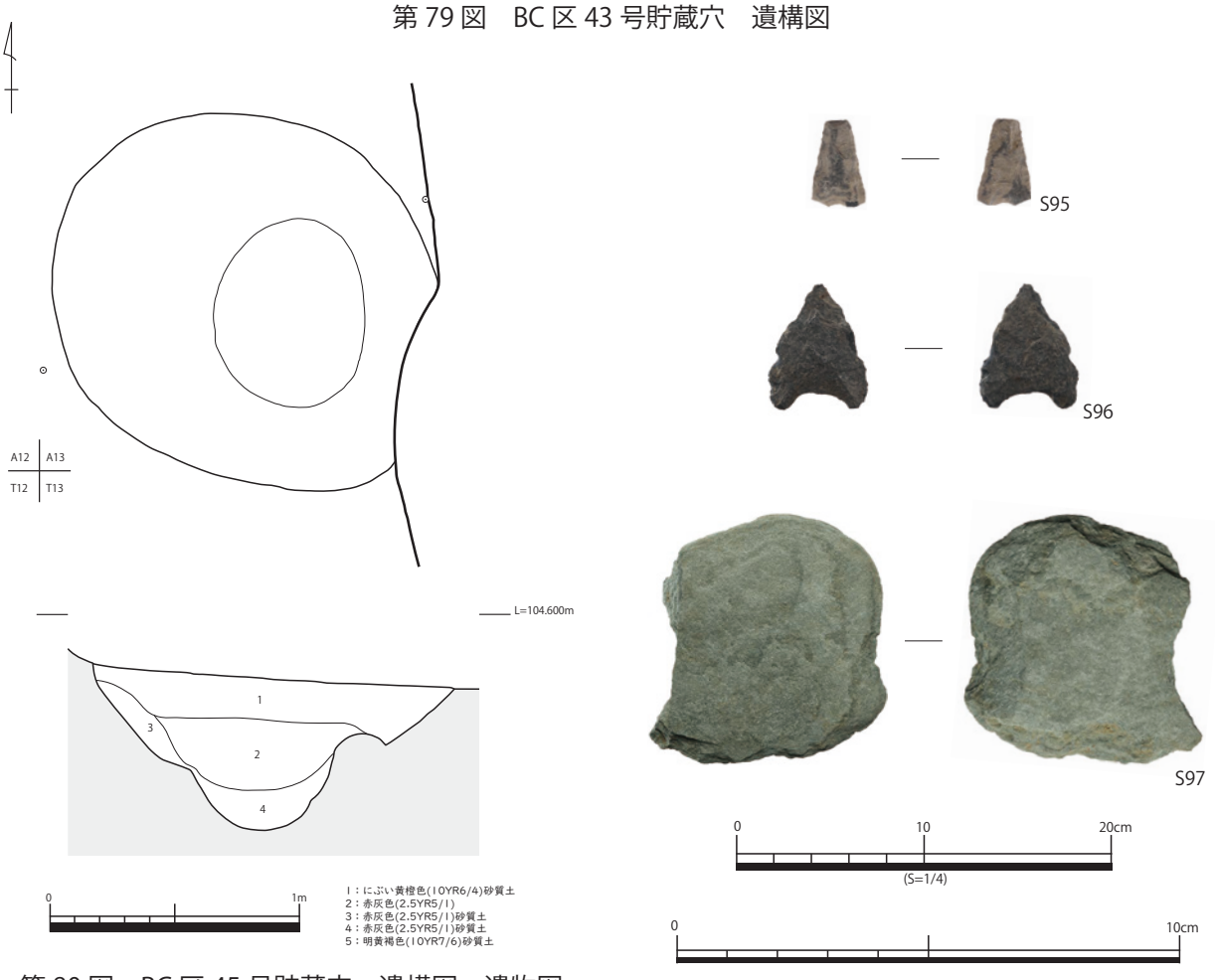
BC 区 32 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1032）
位置　T10
構造・規模　平面形態は不整方形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.45m、短軸長 1.23m、深度 0.56m、主軸方位 N-68° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄橙色砂質土、中層は赤灰色砂質土、下層は炭化物を含む灰褐色砂質土である。
遺物出土状況　下層よりサヌカイト剥片が出土。
時期　縄文時代晩期である。

BC 区 33 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1033）
位置　S10,S11
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.53m、残存短軸長 0.93m、深度 0.85m、主軸方位 N-62° -E を測る。
土層　上層は炭化粒を含む灰黄褐色砂質土、中層は炭化粒を含む赤灰色砂質土、下層は炭化物を含む灰褐色砂質土である。
遺物出土状況　土器片は出土していないが、サヌカイト剥片が下層より出土。
時期　縄文時代晩期と推定される。

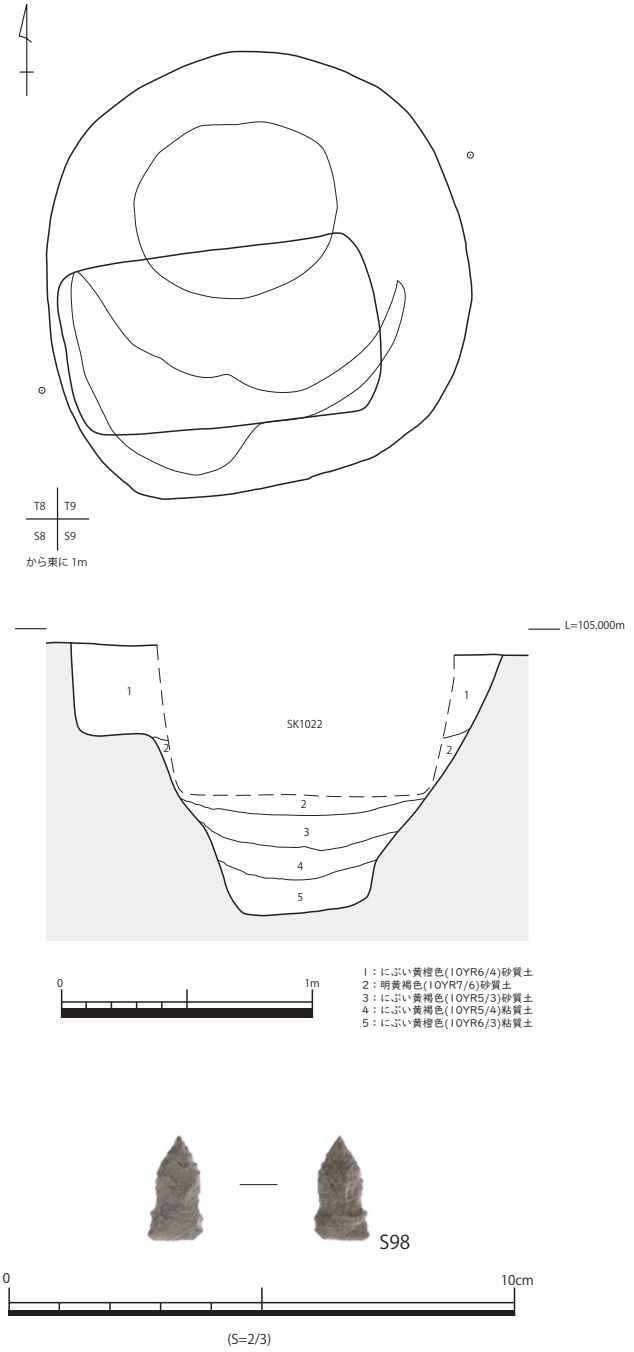
BC 区 34 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1034）
位置　T10,T11
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.60m、短軸長 1.49m、深度 0.59m、主軸方位 N-50° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄橙色砂質土、中層は赤灰色砂質土、下層は炭化物を含む灰褐色砂質土である。
遺物出土状況　中層より縄文土器片やサヌカイト剥片が、上層より弥生土器片が出土。



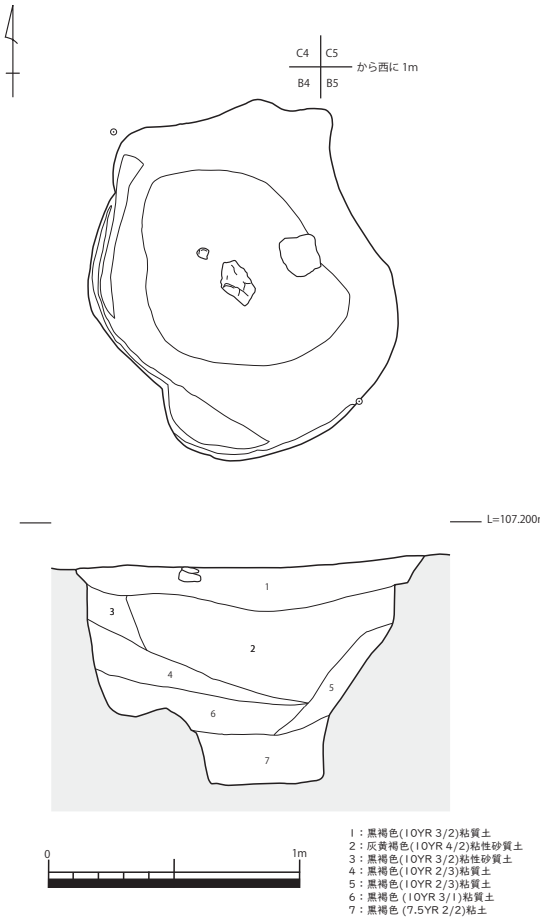
第 79 図　BC 区 43 号貯蔵穴　遺構図



第 80 図　BC 区 45 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 81 図　BC 区 48 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 82 図　D 区 40 号貯蔵穴　遺構図

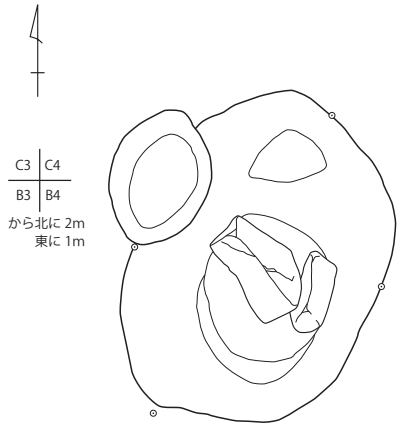
時期　縄文時代晩期である。

BC 区 35 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1035）

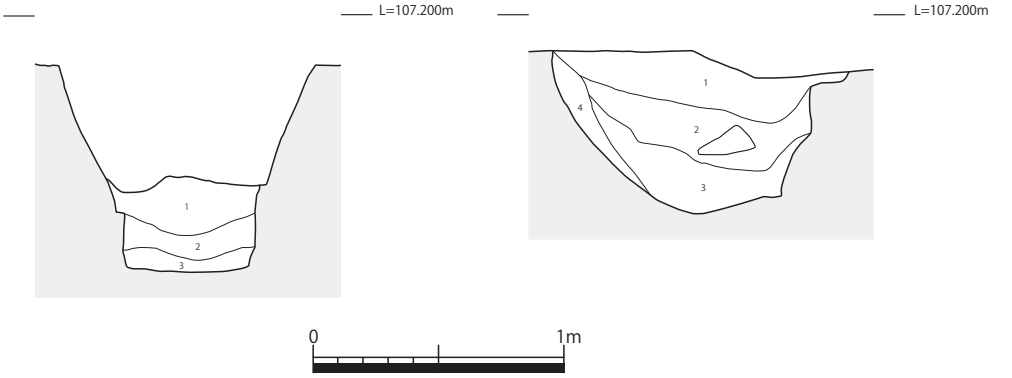
位置　S11,T11

構造・規模　平面形態は不整円形を、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 1.22m、短軸長 0.64m、深度 0.84m、主軸方位 N-68° -E を測る。

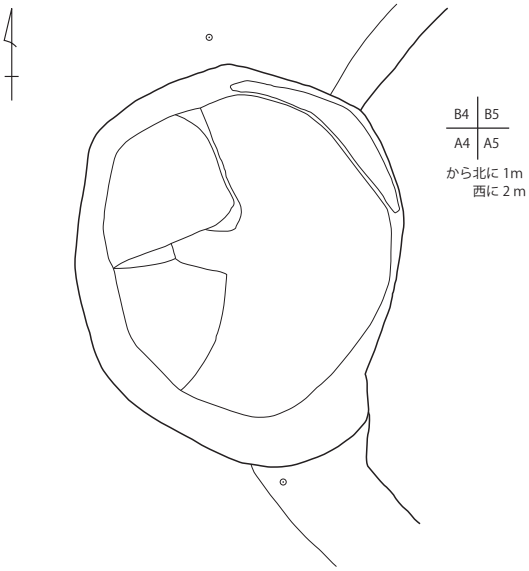
土層　上層は炭化粒を含むにぶい黄橙色砂質土、中層は赤灰色砂質土、下層は炭化粒を含む橙色砂質土

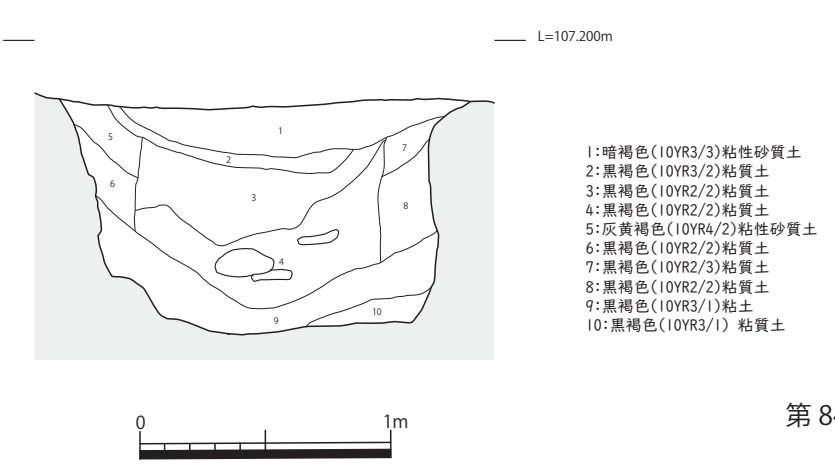


1:にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土
2:灰黄褐色(10YR4/2)粘質土
3:黒褐色(10YR3/2)粘質土
4:黒褐色(10YR3/2)粘質土



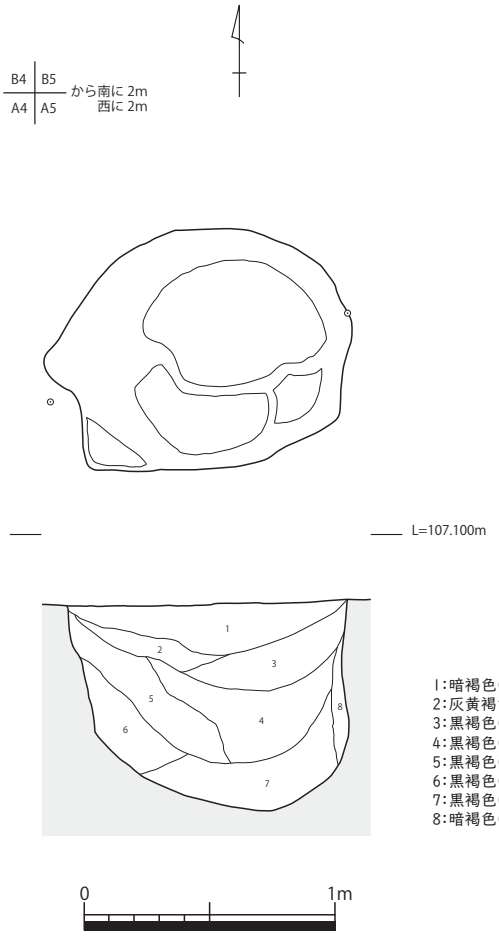
第 83 図　D 区 41 号貯蔵穴　遺構図



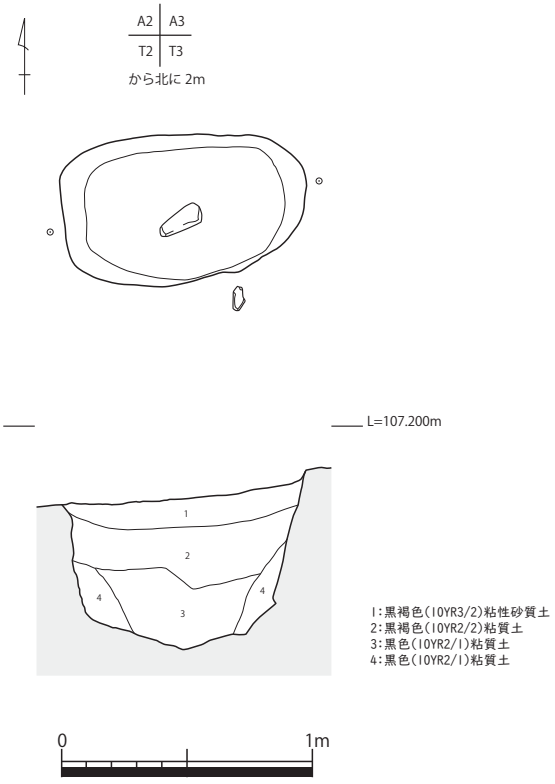


1:暗褐色(10YR3/3)粘性砂質土
2:黒褐色(10YR3/2)粘質土
3:黒褐色(10YR2/2)粘質土
4:黒褐色(10YR2/2)粘質土
5:灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土
6:黒褐色(10YR2/2)粘質土
7:黒褐色(10YR2/3)粘質土
8:黒褐色(10YR2/2)粘質土
9:黒褐色(10YR3/1)粘土
10:黒褐色(10YR3/1) 粘質土

第 84 図　D 区 44 号貯蔵穴　遺構図



第 85 図　D 区 45 号貯蔵穴　遺構図



第 86 図　D 区 50 号貯蔵穴　遺構図

である。

遺物出土状況　上層より弥生土器片が出土。

時期　縄文時代晩期と推定される。

BC 区 39 号土坑 (／旧 2009　BC 区 SK1039)

位置　A11,A12

構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 18.5m、短軸長 16.2m、深度 0.73m、主軸方位 N-17° -E を測る。

土層　上層は単粒を含む灰黄褐色砂質土、下層は黒褐色粘質土である。

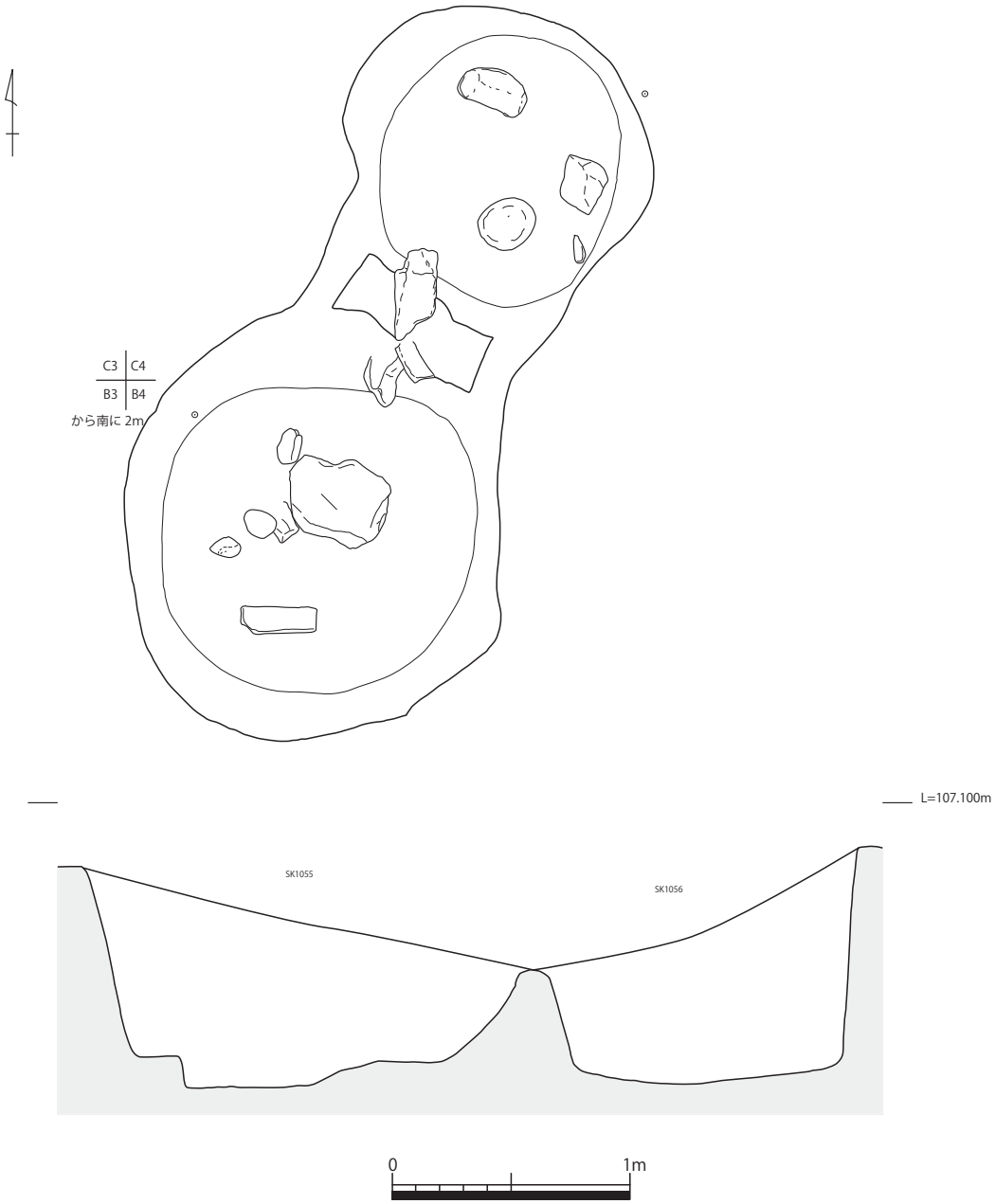
遺物出土状況　上層より弥生土器や焼土塊が出土。

時期　縄文時代晩期と推定される。

BC 区 43 号土坑 (／旧 2009　BC 区 SK1043)

位置　T12

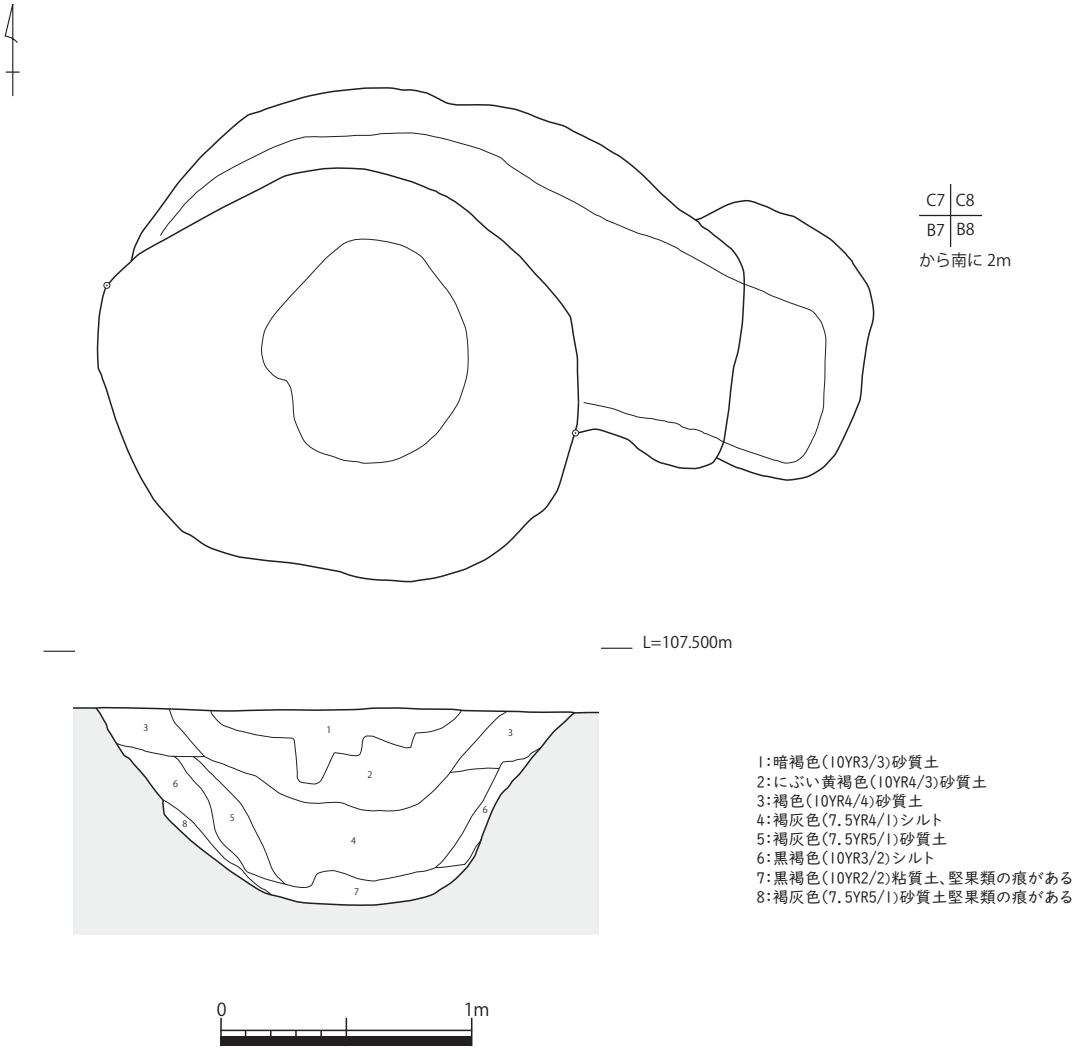
構造・規模　平面形態は円形、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 1.48m、短軸長 1.36m、深度 0.61m、主軸方位 N-68° -E を測る。



第 87 図　D 区 55 号，56 号貯蔵穴　遺構図

土層　上層はにぶい灰黄褐色砂質土、中層は炭化物を含む赤灰色砂質土、下層は橙色砂質土である。
時期　縄文時代晩期と推定される。

BC 区 45 号土坑（／旧 2009　BC 区 SK1045）
位置　T13,A13
構造・規模　平面形態は不整楕円形、断面形態は二段形を呈する。残存長軸長 1.48m、短軸長 1.43m、深度 0.61m、主軸方位 N-66° -W を測る。
土層　上層は炭化粒を含むにぶい黄橙色砂質土、中下層は赤灰色砂質土である。
遺物出土状況　下層より縄文土器片やサヌカイト剥片が出土。上層より出土した瓦器椀片は流れ込みで



第 88 図　D 区 138 号貯蔵穴　遺構図

ある。

時期　縄文時代晩期である。

D 区 40 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1040）

位置　B4

構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.39m、短軸長 1.06m、深度 0.92m、主軸方位 N-41.5° -W を測る。

土層　上層は黒褐色粘質土や灰黄褐色粘性砂質土、下層は黒褐色粘質土である。

遺物出土状況　下層より縄文土器片が出土。

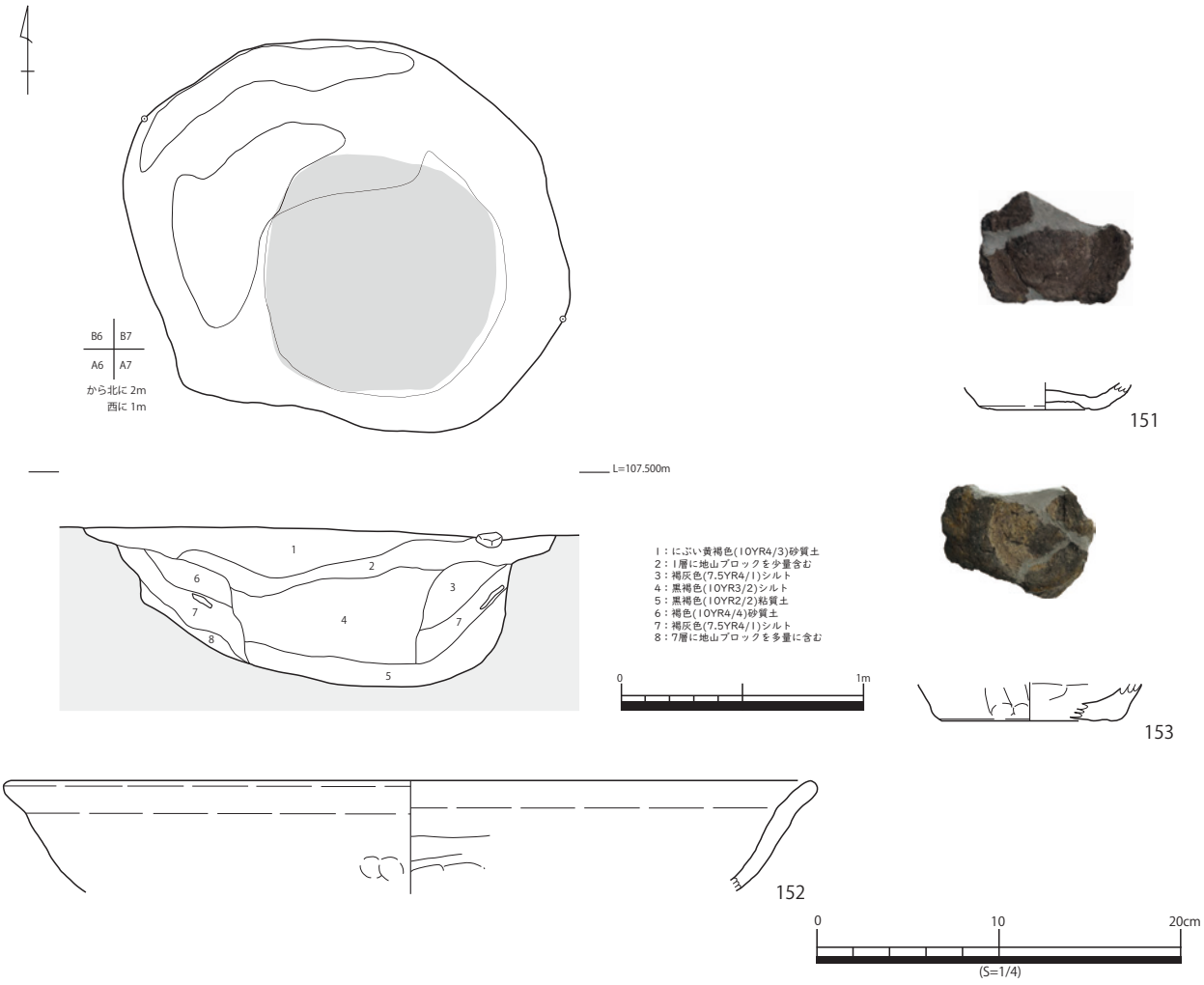
時期　縄文時代晩期と推定される。

D 区 41 号土坑 (／旧 2009　D 区 SK1041)

位置　C4

構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.35m、残存短軸長 0.80m、深度 0.65m、主軸方位 N-31° -E を測る。

土層　上層はにぶい黄褐色粘性砂質土、中層は灰黄褐色粘質土、下層は黒褐色粘質土である。

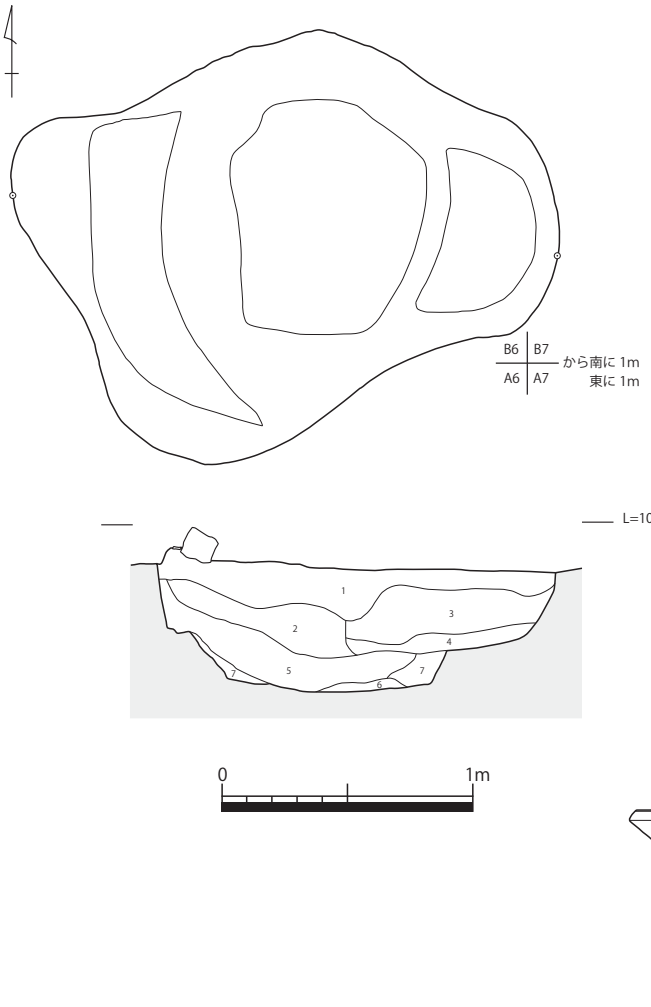


第 89 図　D 区 140 号貯蔵穴　遺構図・遺物図

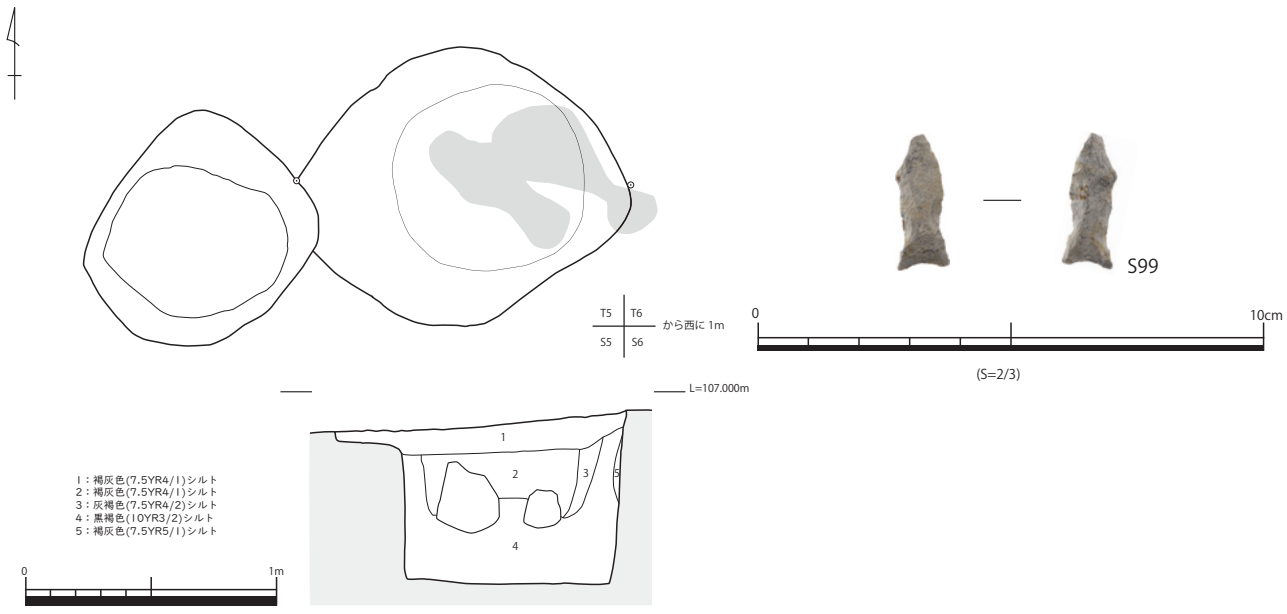
遺物出土状況　上層より弥生土器が出土。
時期　縄文時代晩期と推定される。

D 区 44 号土坑 (／旧 2009　D 区 SK1044)
位置　A4,B4
構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.62m、短軸長 1.34m、深度 0.91m、主軸方位は N-9° -W を測る。
土層　上層は暗褐色粘性砂質土、中・下層は黒褐色粘質土である。
遺物出土状況　中層より縄文土器片が出土。
時期　縄文時代晩期である。

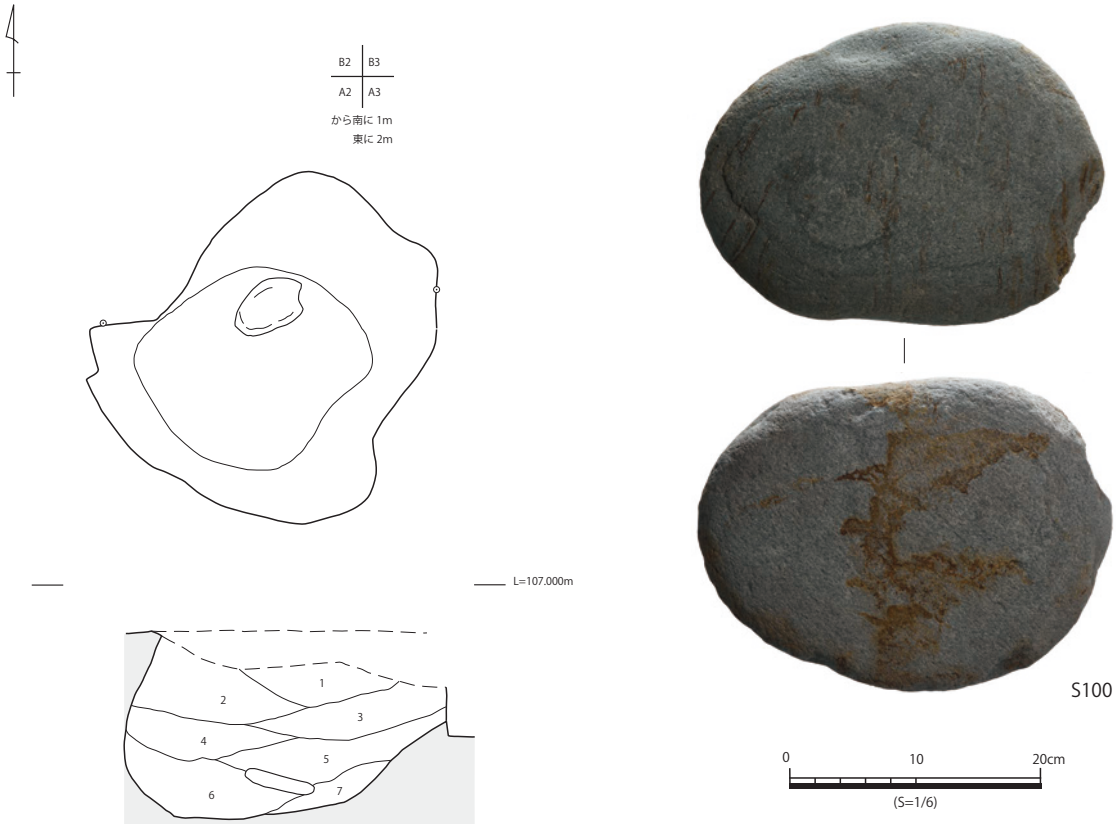
D 区 45 号土坑 (／旧 2009　D 区 SK1045)
位置　A4
構造・規模　平面形態は不整形、断面形態は丸底形を呈する。残存長軸長 1.24m、短軸長 0.97m、深



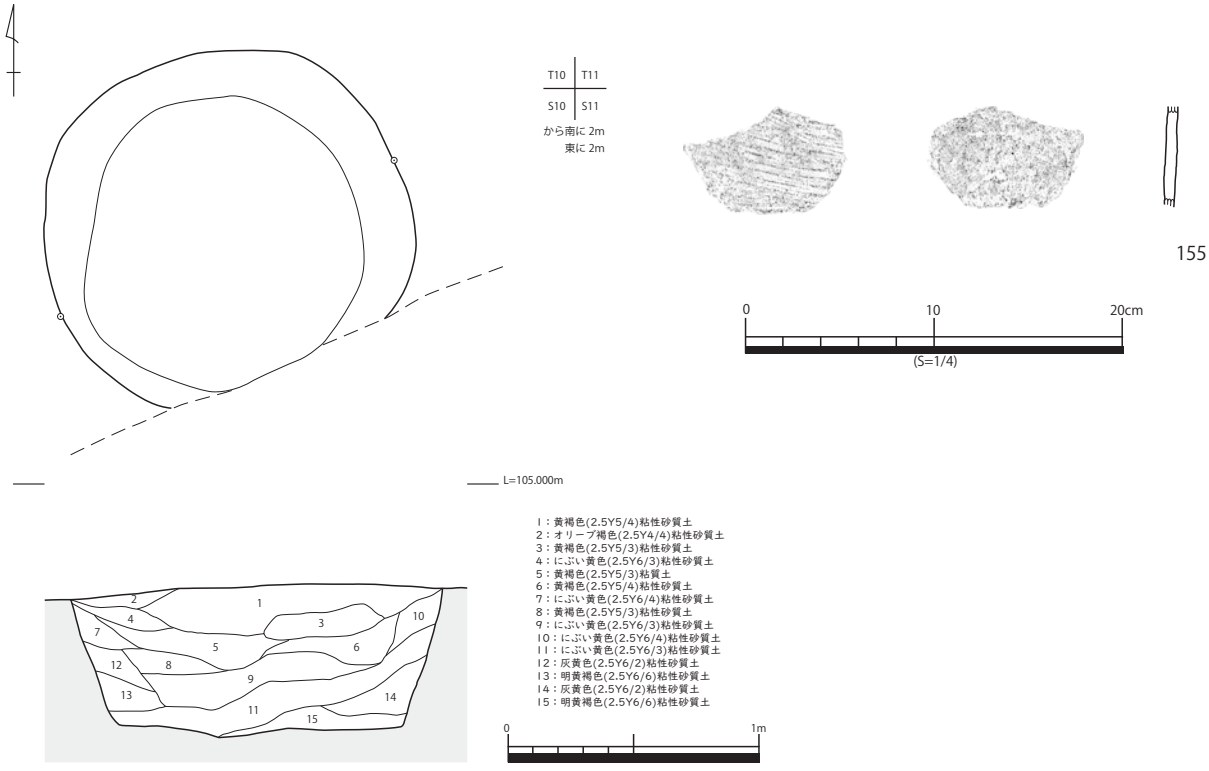
第 90 図　D 区 142 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



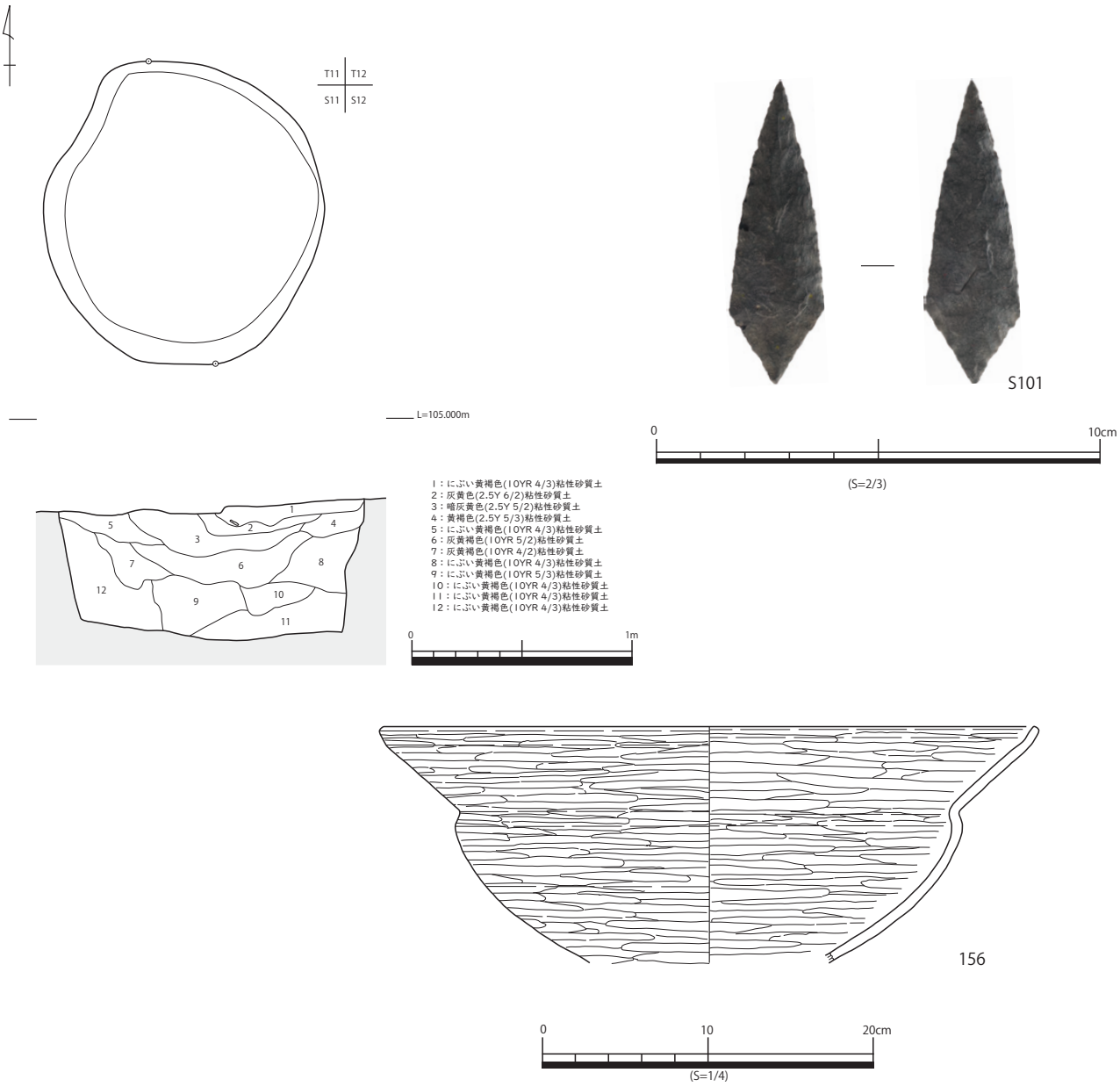
第 91 図　D 区 151 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 92 図　D 区 57 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 93 図　BC2 区 2 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 94 図　BC2 区 4 号貯蔵穴　遺構図・遺物図

度 0.84m、主軸方位 N-73° -E を測る。

土層　上層は暗褐色粘質土、中・下層は黒褐色粘質土である。

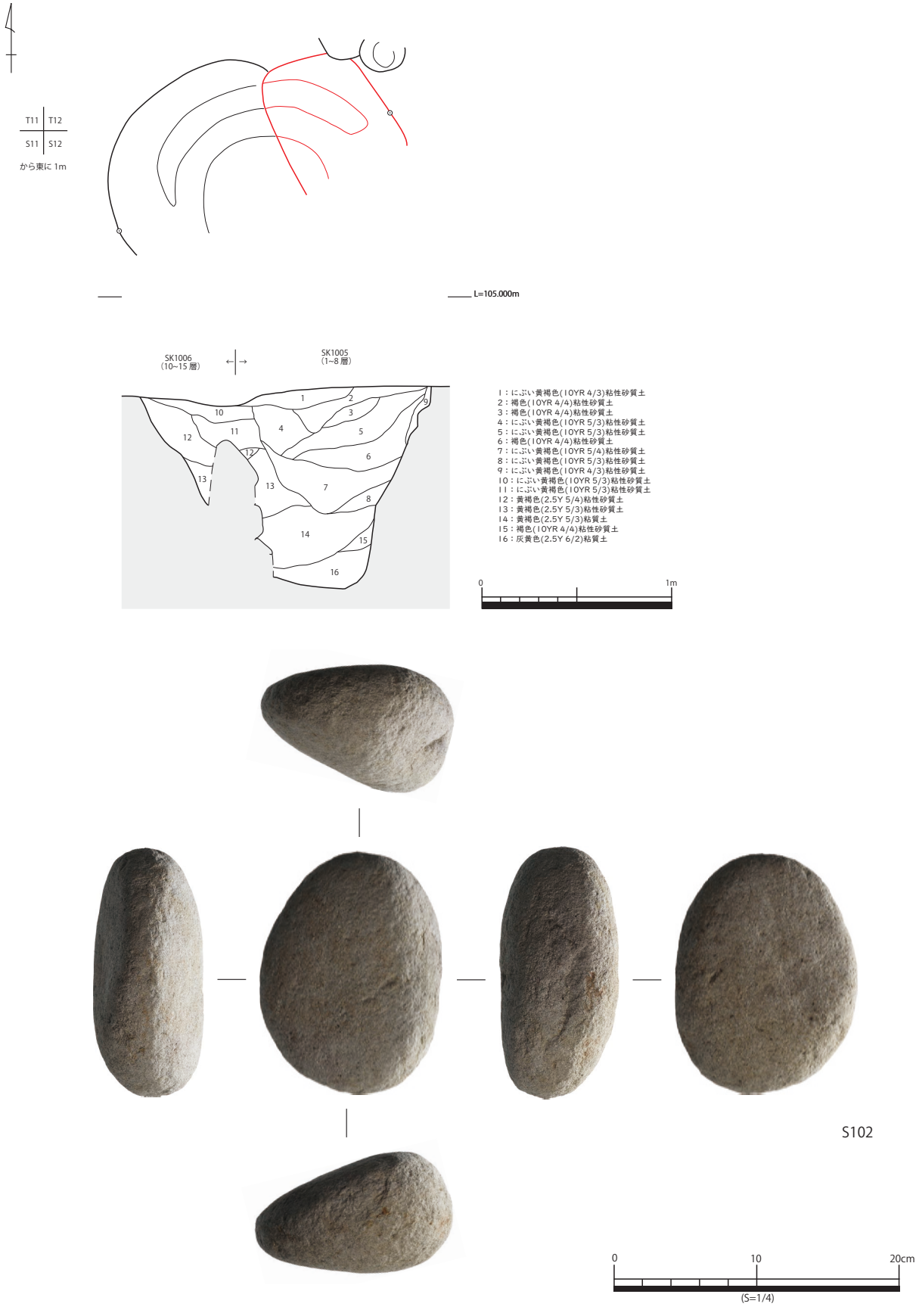
時期　縄文時代晩期である。

D 区 50 号土坑 (／旧 2009　D 区 SK1050)

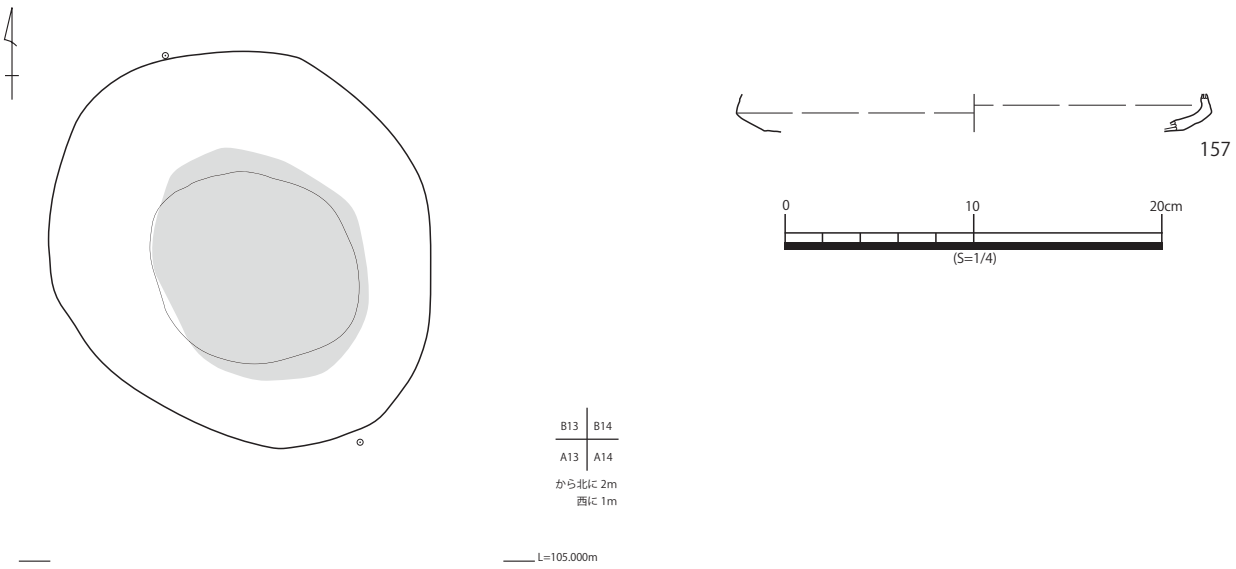
位置　A2,A3

構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 0.98m、短軸長 0.56m、深度 0.74m 主軸方位 N-79° -E を測る。

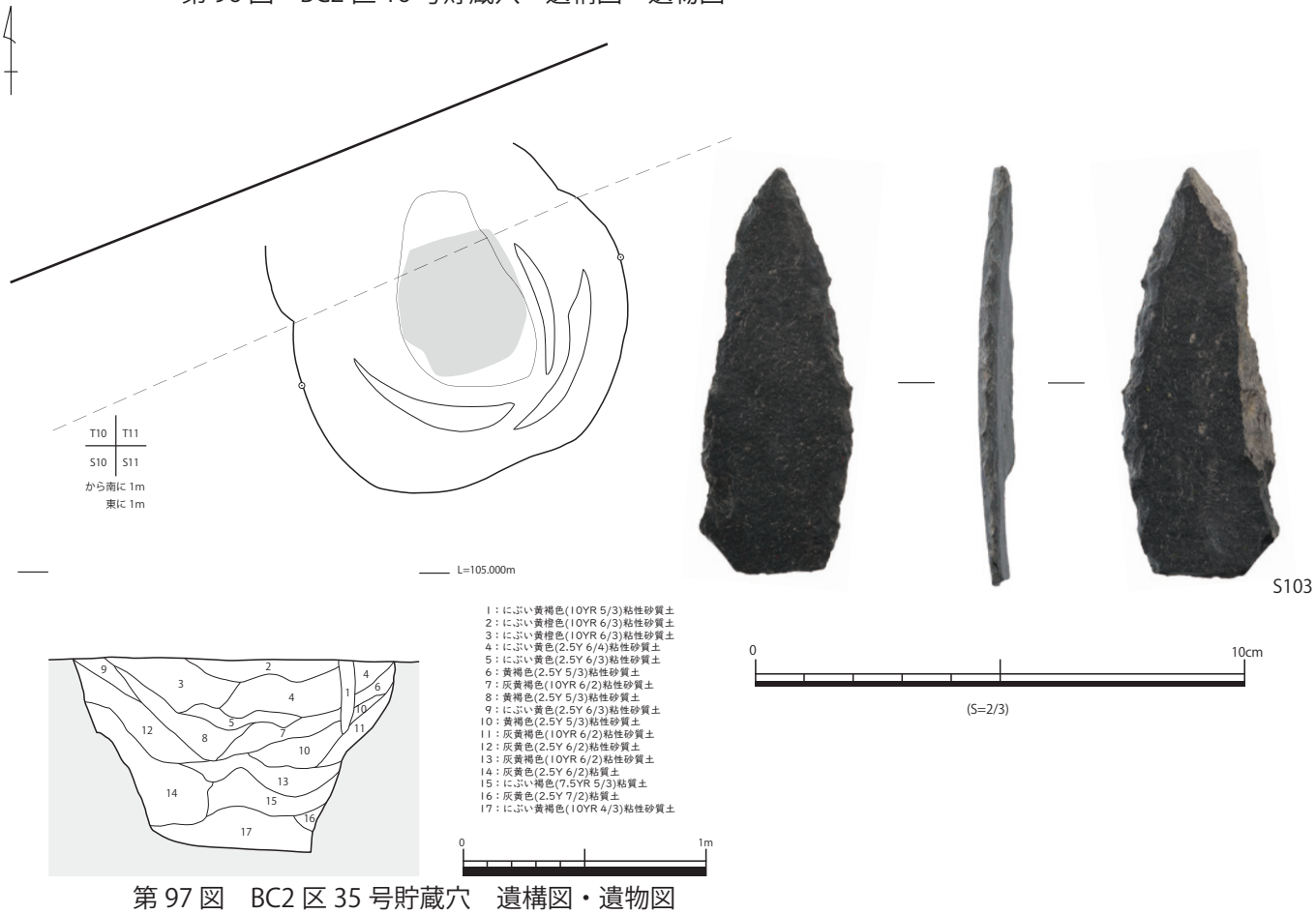
土層　上層は黒褐色粘質土、下層は黒色粘質土である。



第 95 図　BC2 区 5 号，6 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 96 図　BC2 区 16 号貯蔵穴　遺構図・遺物図



第 97 図　BC2 区 35 号貯蔵穴　遺構図・遺物図

時期　縄文時代晩期である。

D 区 55 号・56 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1055，1056）
位置　B4
構造・規模　55 号の平面形態は円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.78m、短軸長 1.62m、深度 1.02m、主軸方位 N-50° -W を測る。56 号の平面形態は円形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.34m、短軸長 1.29m、深度 1.07m、主軸方位は N-66° -W を測る。
時期　縄文時代晩期と推定される。

D 区 138 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1138）
位置　B7
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 1.96m、短軸長 1.58m、深度 0.78m、主軸方位 N-72° -W を測る。
土層　上層は炭化物を多量に含む暗褐色砂質土や黄褐砂質土、中層は炭化粒や土器片を含む褐色砂質土や褐灰色砂質土、下層は黒褐色シルトや黒褐色粘質土である。
遺物出土状況　7,8 層より炭化堅果類が、中層より縄文土器片が出土した。
時期　縄文時代晩期である。

D 区 140 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1140）
位置　B6,B7
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 1.88m、短軸長 1.56m、深度 0.65m、主軸方位 N-64.5° -W を測る。
土層　上層はにぶい黄褐色砂質土、中層は黒褐色シルトや黒褐色粘質土、下層は褐色砂質土や褐灰色シルトである。
遺物出土状況　5 層中より炭化堅果類が、中層から上層にかけて縄文土器、弥生土器、サヌカイト、砂岩礫が出土。
時期　縄文時代晩期である。

D 区 142 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1142）
位置　A6,A7,B6,B7
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 2.17m、短軸長 1.70m、深度 0.52m、主軸方位 N-83.5° -W を測る。
土層　1 層はにぶい黄褐色砂質土、2,3 層は褐灰色シルト、4,5 層は黒色粘質土で堅果類痕が認められ、6,7 層は黒色粘質土で炭化堅果類が検出された。
遺物出土状況　上層からは弥生土器片が、下層からは縄文土器や砂岩礫が出土した。
時期　縄文時代晩期である。

D 区 151 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1151）
位置　T5

構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.34m、短軸長 1.10m、深度 0.69m、主軸方位 N-86° -W を測る。
土層　上層は褐灰色シルト、下層は黒褐色シルトである。
遺物出土状況　下層より砂岩礫や炭化物が出土した。
時期　縄文時代晩期である。

D 区 57 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1057）
位置　A3
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.35m、短軸長 1.33m、深度 0.72m、主軸方位 N-80° -E を測る。
土層　上層は暗灰黄色粘性砂質土、中層は黄灰色粘質土、下層は黒褐色粘質土や灰黄褐色粘性シルトである。
遺物出土状況　中層より土器細片が出土。
時期　縄文時代晩期と推定される。

BC2 区 2 号土坑（／旧 2010　BC2 区 SK1002）
位置　S11
構造・規模　平面形態は円形を、断面形態は二段形を呈する。残存長軸長 1.45m、残存長軸長 1.30m、深度 0.62m、主軸方位 N-64° -E を測る。
土層　1 層は黄褐色粘性砂質土で土器出土層。2 層はオリーブ褐色粘性砂質土。3 層は黄褐色粘性砂質土で炭化物を少量含む。4 層はにぶい黄色粘性砂質土。5 層は黄褐色粘質土で炭化物を多く含む土器出土層。6 層は黄褐色粘性砂質土で炭化物を多く含む。7 層はにぶい黄色粘性砂質土で地山崩落土を多く含む。8 層は黄褐色粘性砂質土。9 層はにぶい黄色粘性砂質土で炭化物を多く含む。10 層はにぶい黄色粘性砂質土。11 層はにぶい黄色粘性砂質土で炭化物を多く含む。12 層は灰黄色粘性砂質土。13 層は明黄褐色粘性砂質土。14 層は灰黄色粘性砂質土で炭化物を少量含む。15 層は明黄褐色粘性砂質土で炭化物を少量含む。地山崩落土。
遺物出土状況　中層より縄文土器深鉢が、下層より炭化種子が出土。
時期　縄文時代晩期である。

BC2 区 4 号土坑（／旧 2010　BC2 区　SK1004）
位置　S11,T11
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.40m、短軸長 1.27m、深度 0.61m、主軸方位 N-13° -W を測る。
土層　1 層はにぶい黄褐色粘性砂質土で縄文土器片含む。2 層は灰黄色粘性砂質土で炭化物を若干含む。3 層は暗灰黄色粘性砂質土で 20 ～ 40㎝大砂岩含む（磨石あり）。4 層は黄褐色粘性砂質土で炭化物を若干含む。5 層はにぶい黄褐色粘性砂質土で炭化物や焼土塊を含む。6 層は灰黄褐色粘性砂質土で若干の炭化物と焼土塊を含む。7 層は灰黄褐色粘性砂質土。8 層はにぶい黄褐色粘性砂質土で炭化物を若干含む。9 層はにぶい黄褐色粘性砂質土で炭化物を若干含む。10 ～ 12 層はにぶい黄褐色粘性砂質土。
遺物出土状況　下層より縄文土器浅鉢が出土。1 層より須恵器坏が出土。

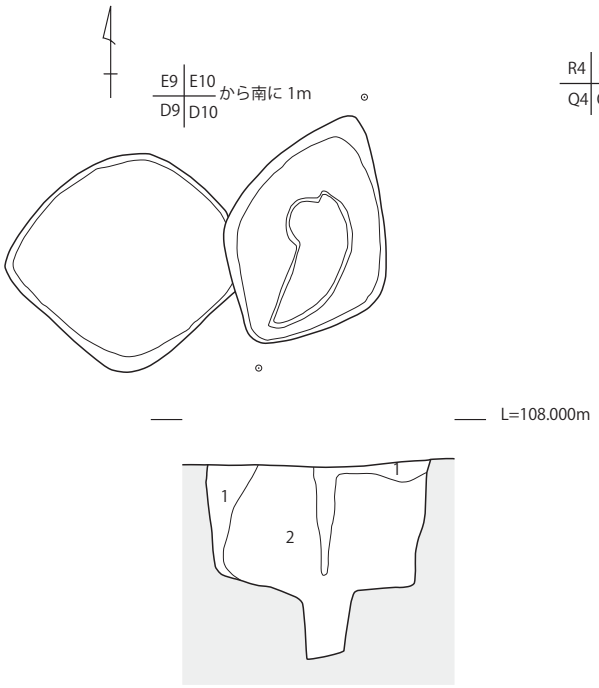
時期　縄文時代晩期である。

BC2 区 5 号土坑（／旧 2010　BC2 区　SK1005）
位置　S12,T12
構造・規模　平面形態は円形を、断面形態は二段形を呈する。残存長軸長 0.95m、残存短軸長 0.80m、深度 1.06m、主軸方位 N-67° -E を測る。
土層　1 層はにぶい黄褐色粘性砂質土で炭化物をやや多く含む。2 層は褐色粘性砂質土で土器小片含む。3 層は褐色粘性砂質土。4 層にぶい黄褐色粘性砂質土で炭化物若干含む。5 層はにぶい黄褐色粘性砂質土で炭化物を若干含む。6 層は褐色粘性砂質土で炭化物若干含む。7 層はにぶい黄褐色粘性砂質土で土器小片や炭化物を含む。8 ～ 11 層はにぶい黄褐色粘性砂質土。12 層は黄褐色粘性砂質土で炭化物を若干含む。13 層は黄褐色粘性砂質土で 20 ～ 50㎝大の被熱痕跡がある砂岩含む。14 層は黄褐色粘質土で 30㎝大の砂岩製磨石を含む。15 層は褐色粘性砂質土。16 層は灰黄色粘質土で炭化物を若干含む。
遺物出土状況　下層より砂岩製磨石が出土。
時期　縄文時代晩期である。

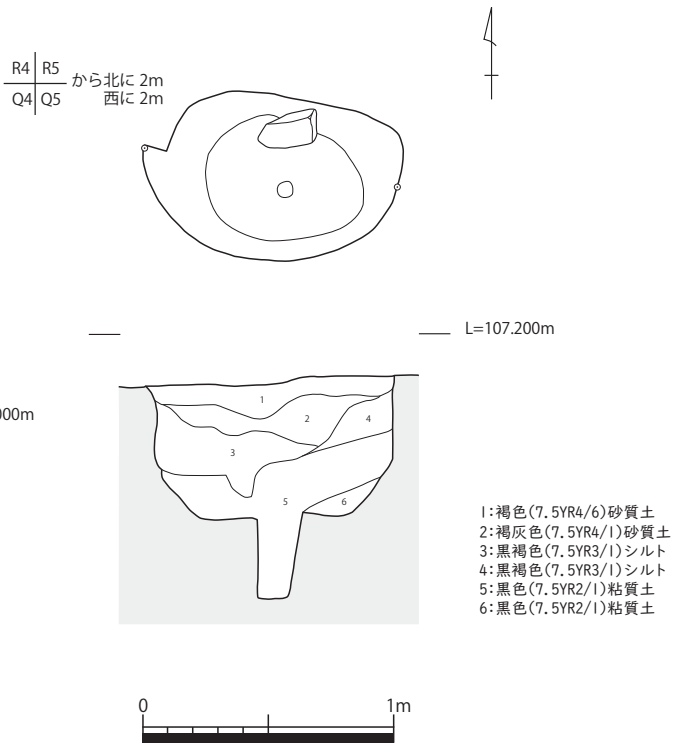
BC2 区 16 号土坑（／旧 2010　BC2 区　SK1016）
位置　B13
構造・規模　平面形態は円形を、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 1.75m、短軸長 1.19m、深度 0.86m、主軸方位 N-27° -W を測る。
土層　上層は炭化粒を含むにぶい黄褐色粘性砂質土、中層は黒褐色粘質土、下層は灰褐色粘質土である。17 層は黒褐色粘土で堅果類の痕跡あり。18 層は黒褐色粘土で堅果類の痕跡あり。
遺物出土状況　17,18 層（黒褐色粘土）や 18 層からは炭化種子が検出、上層より弥生土器高坏が出土。
時期　縄文時代晩期である。

BC2 区 35 号土坑（／旧 2010　BC2 区　SK1035）
位置　S11,T11
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長 1.50m、短軸長 1,23m、深度 0.77m、主軸方位 N-64° -E を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄褐色粘性砂質土、中層は炭化物を含むにぶい黄色粘性砂質土や灰黄色粘性砂質土、下層は灰黄色粘質土である。
遺物出土状況　17 層（にぶい黄褐色粘性砂質土）の下位から堅果類の痕跡が確認された。
時期　縄文時代晩期である。

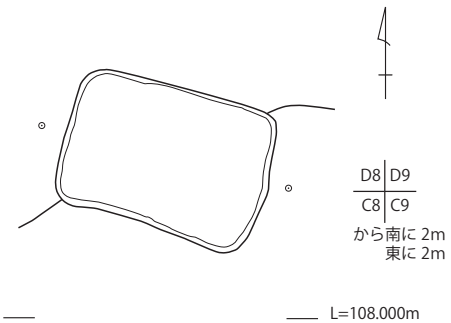
D 区 9 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1009）
位置　G6
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は皿形を呈する。長軸長 1.22m、短軸長 0.86m、深度 0.14m、主軸方位 N-20° -W を測る。
土層　オリーブ゛褐色粘性砂質土で土器細片含む。
遺物出土状況　覆土下層より土師質土器羽釜や土師質土器共膳具と共に石英礫や結晶片岩礫が出土。上



第 98 図　D 区 124 号土坑　遺構図



第 99 図　D 区 174 号土坑　遺構図

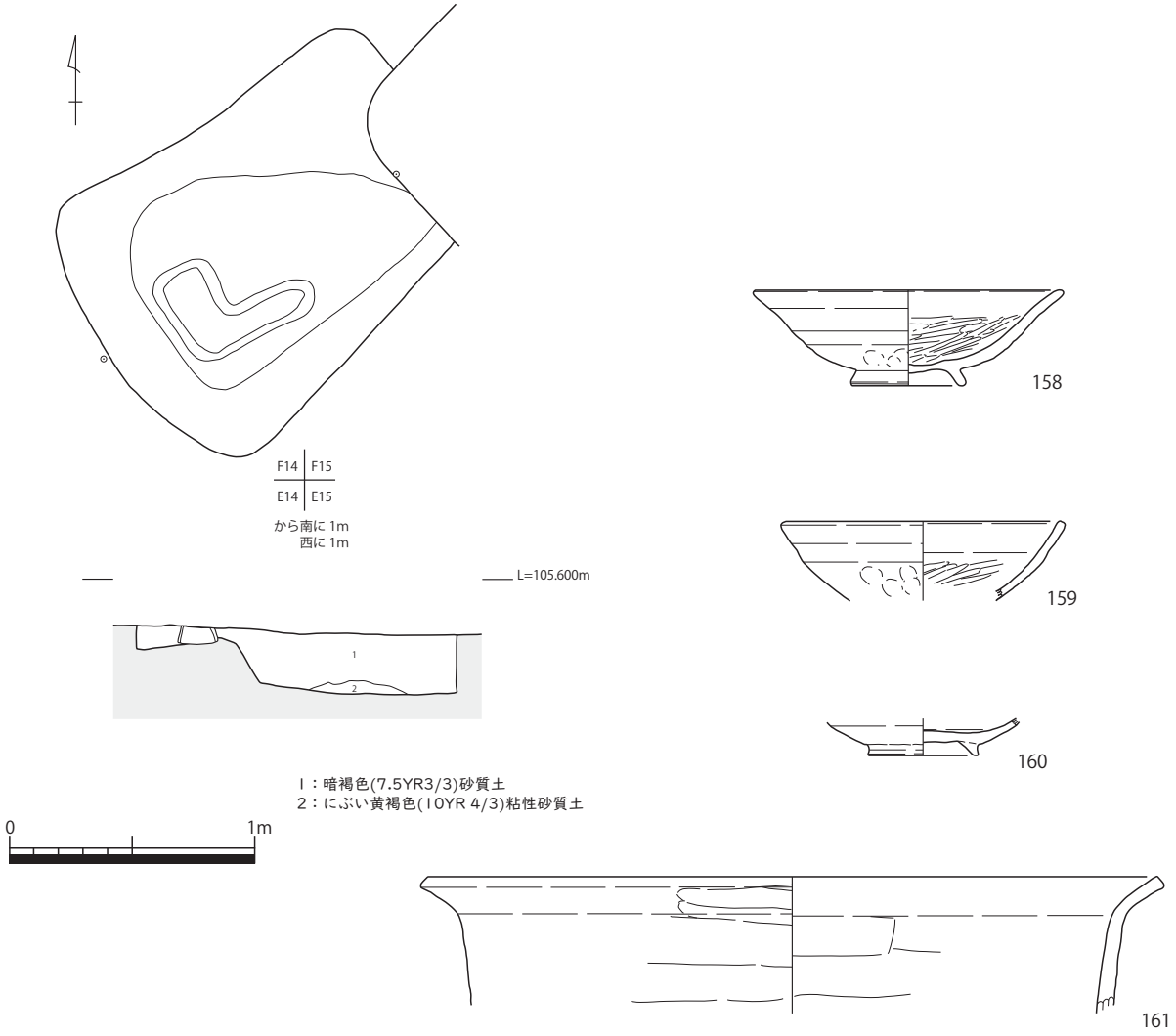


第 100 図　D 区 126 土坑　遺構図

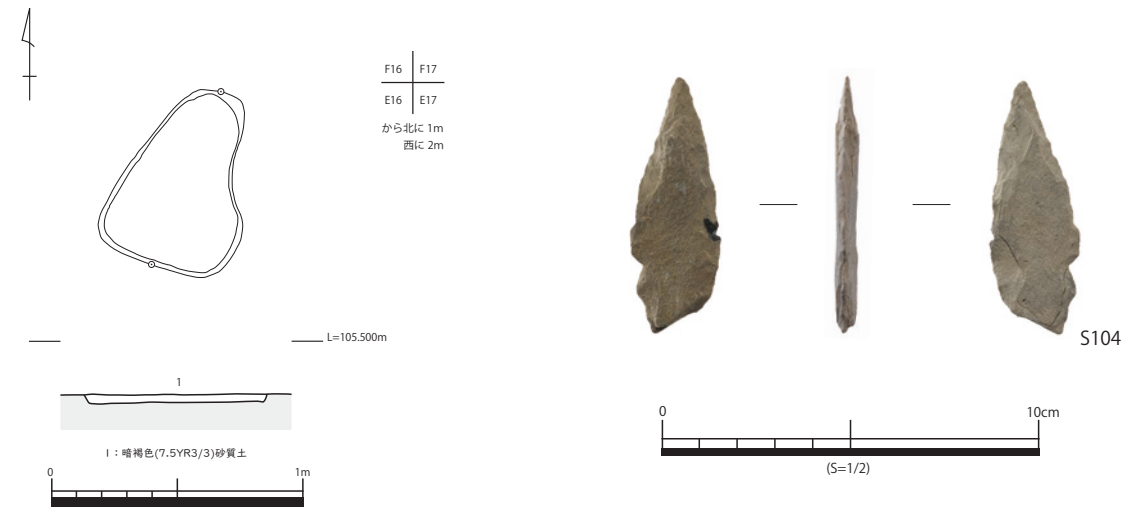
層より弥生土器片が出土。
時期　室町期である。

D 区 14 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1014）
位置　F6
構造・規模　平面形態は不整楕円形を、断面形態は皿形を呈する。長軸長 0.84m、短軸長 0.52m、深度 0.08m、主軸方位 N-2° -E を測る。
土層　黄褐色粘性砂質土で地山ブロックが混入する。
遺物出土状況　覆土下層より縄文土器片が出土。
時期　縄文時代晩期である。

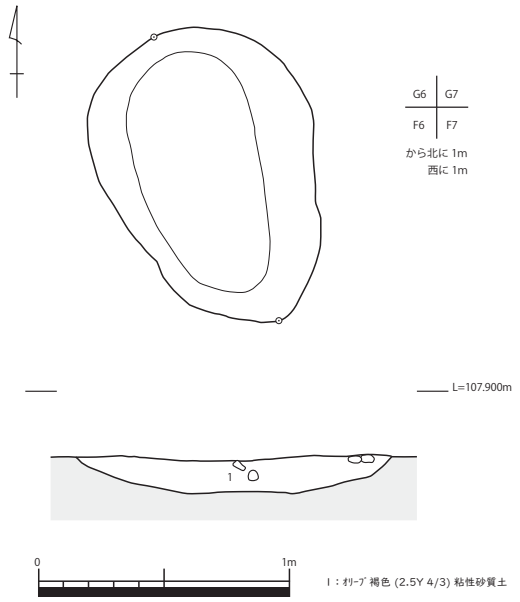
D 区 58 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1058）
位置　G9,H9
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.75m、短軸長 0.64m、深度 0.13m、主軸方位 N-15° -W を測る。
土層　褐灰色砂質土である。
遺物出土状況　覆土下層より縄文土器片が出土。
時期　縄文時代晩期である。

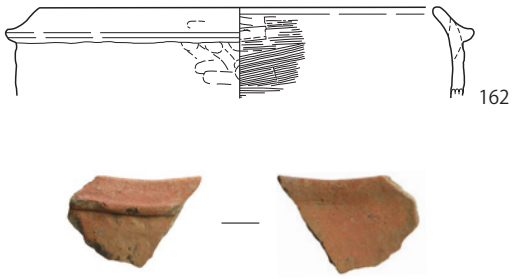


第 101 図　BC 区 8 号土坑　遺構図・遺物図

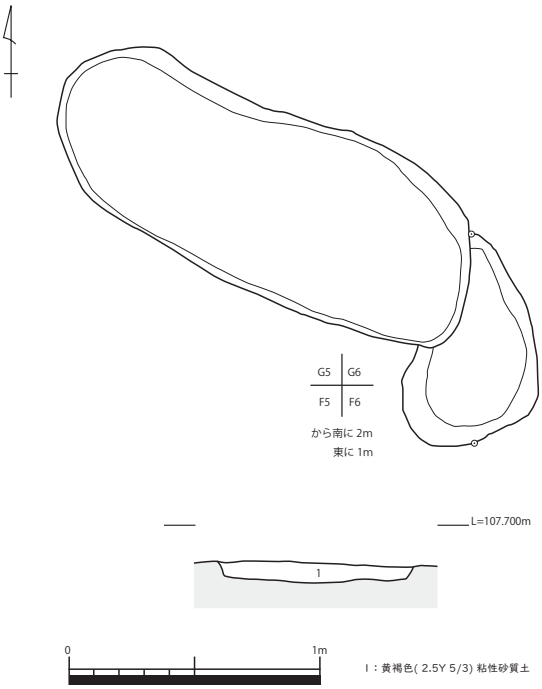


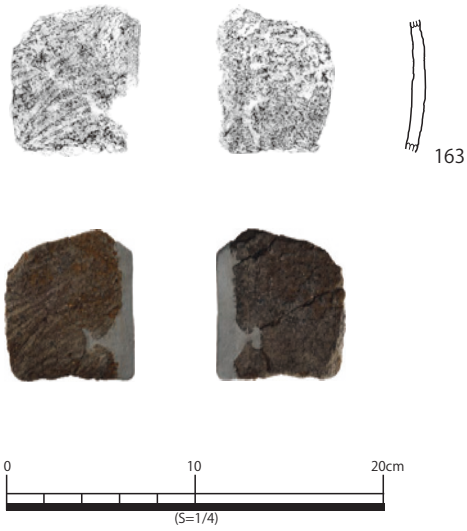
第 102 図　BC 区 57 号土坑　遺構図・遺物図





第 103 図　D 区 9 号土坑　遺構図・遺物図





第 104 図　D 区 14 号土坑　遺構図・遺物図

D 区 61 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1061）

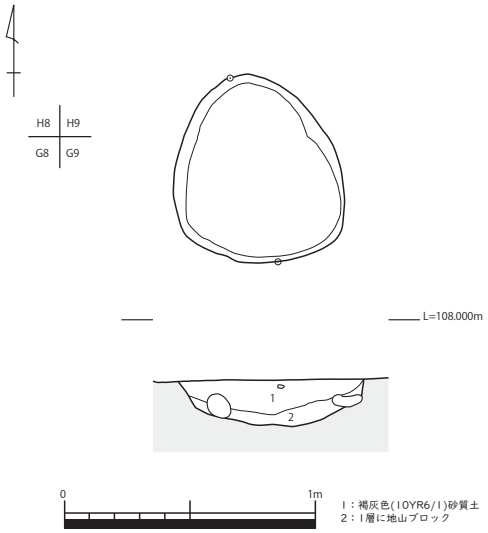
位置　H9

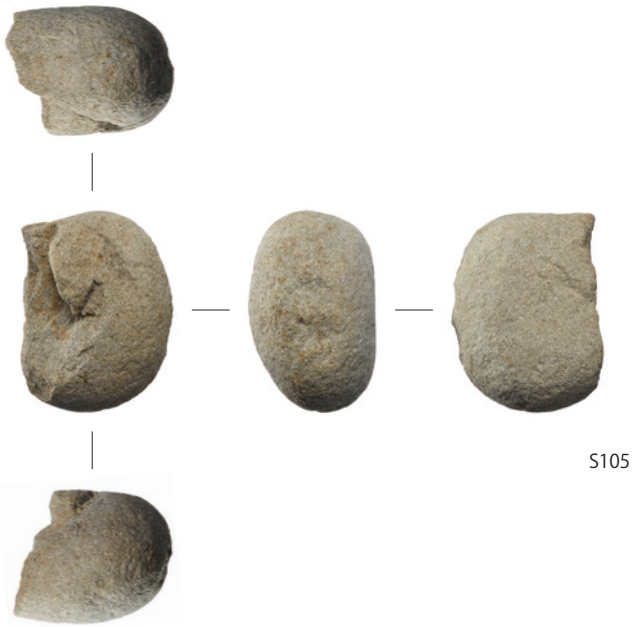
構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.84m、短軸長 0.78m、深度 0.16m、主軸方位 N-8° -E を測る。

土層　褐灰色砂質土である。

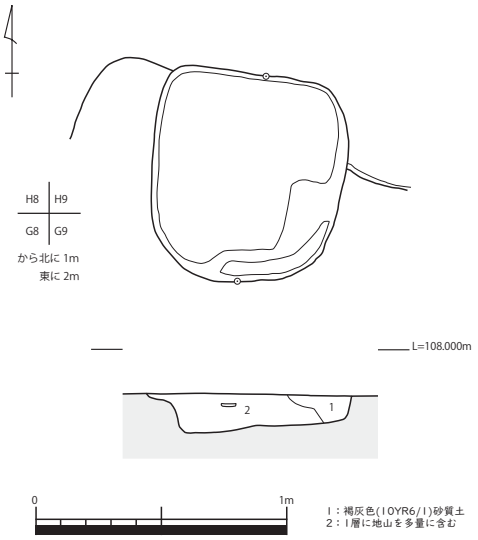
遺物出土状況　覆土下層より弥生土器片が出土。

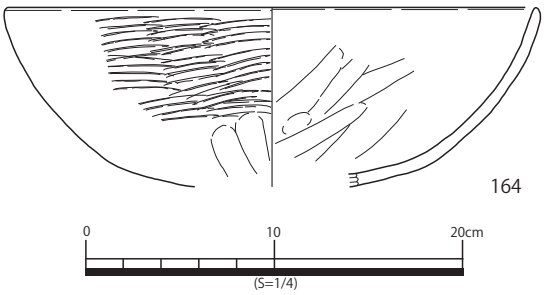
時期　弥生時代後期である。



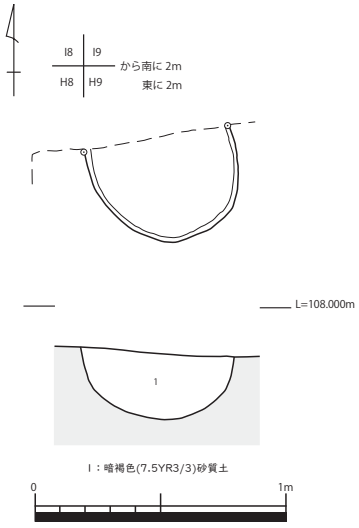


第 105 図　D 区 58 号土坑　遺構図・遺物図

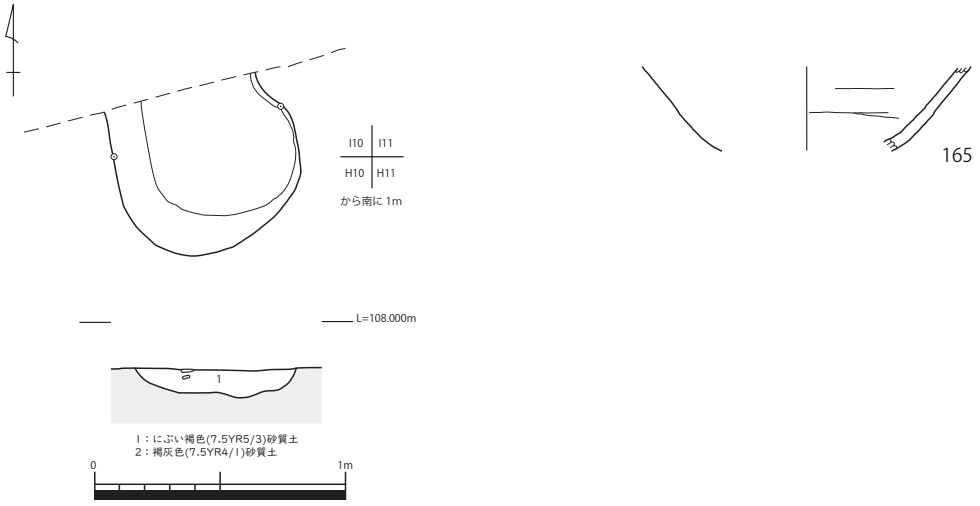




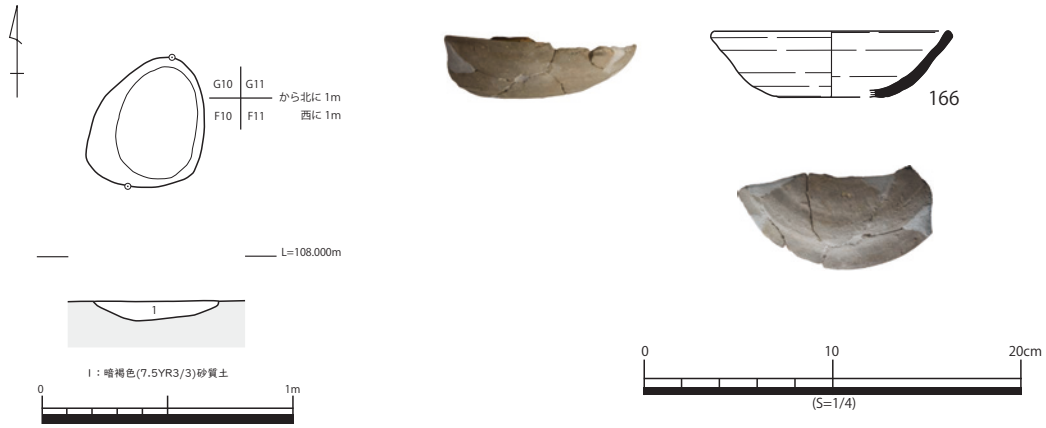
第 106 図　D 区 61 号土坑　遺構図・遺物図



第 107 図　D 区 62 号土坑　遺構図・遺物図



第 108 図　D 区 67 号土坑　遺構図・遺物図



第 109 図　D 区 72 号土坑　遺構図・遺物図

D 区 62 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1062）

位置　H9

構造・規模　平面形態は円形を、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 0.60m、残存短軸長 0.42m、深度 0.26m、主軸方位 N-82° -E を測る。

土層　暗褐色砂質土である。

遺物出土状況　覆土中よりの土器片の出土は無い。

時期　縄文時代もしくは弥生時代と推定される。

D 区 67 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1067）

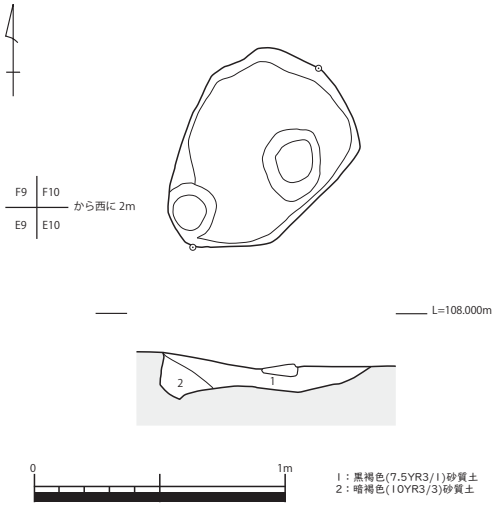
位置　H10

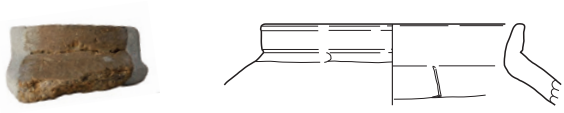
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.72m、残存短軸長 0.65m、深度 0.11m、主軸方位 N-73° -E を測る。

土層　にぶい褐色砂質土である。

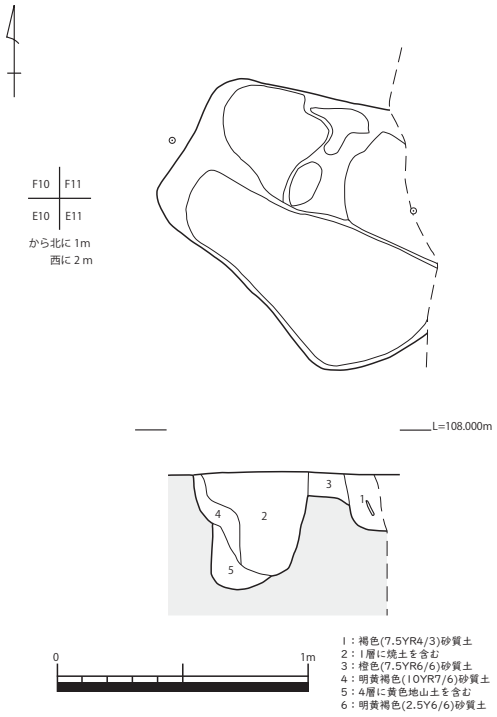
遺物出土状況　覆土下層より黒色土器椀や土師質土器煮沸具・供膳具片が出土、最上層より近世焙烙片

第 110 図　D 区 76 号土坑　遺構図・遺物図

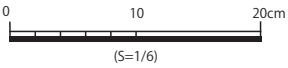


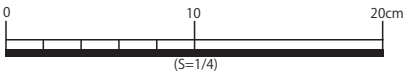


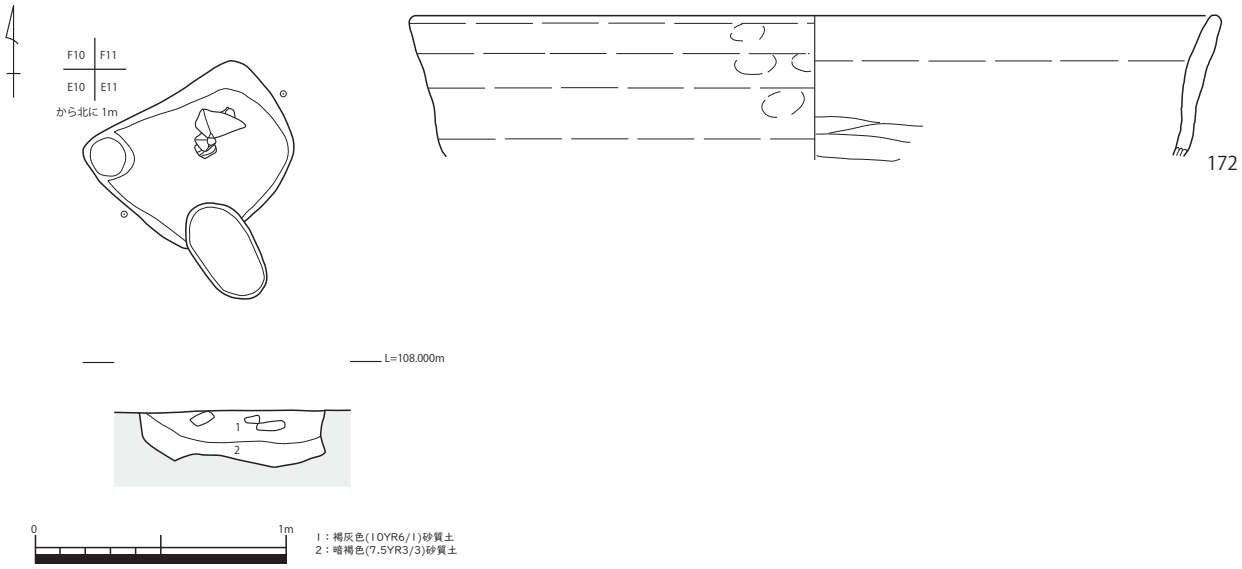
第 111 図　D 区 88 号土坑　遺構図・遺物図



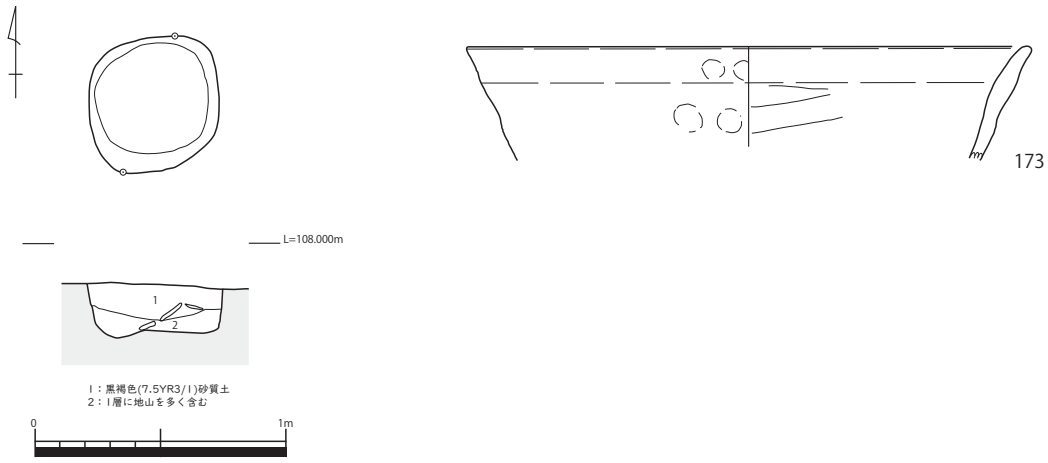
第 112 図　D 区 89 号土坑　遺構図・遺物図



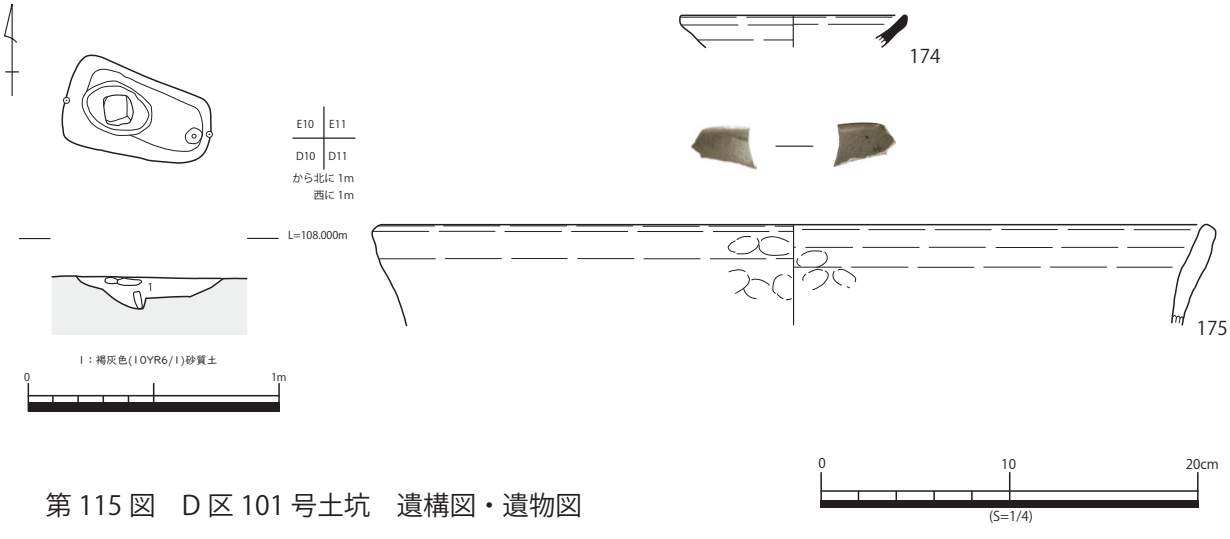




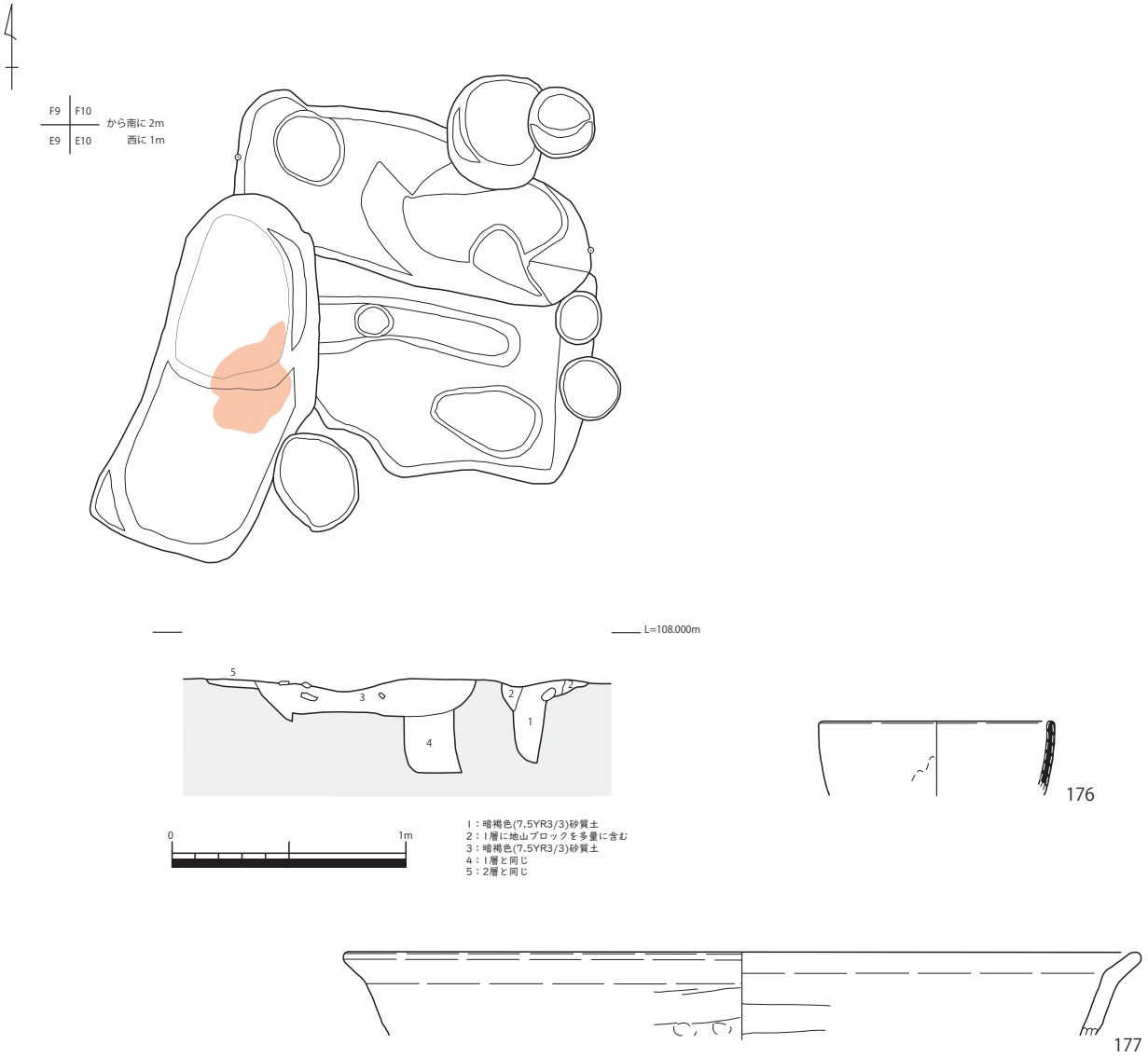
第 113 図　D 区 91 号土坑　遺構図・遺物図



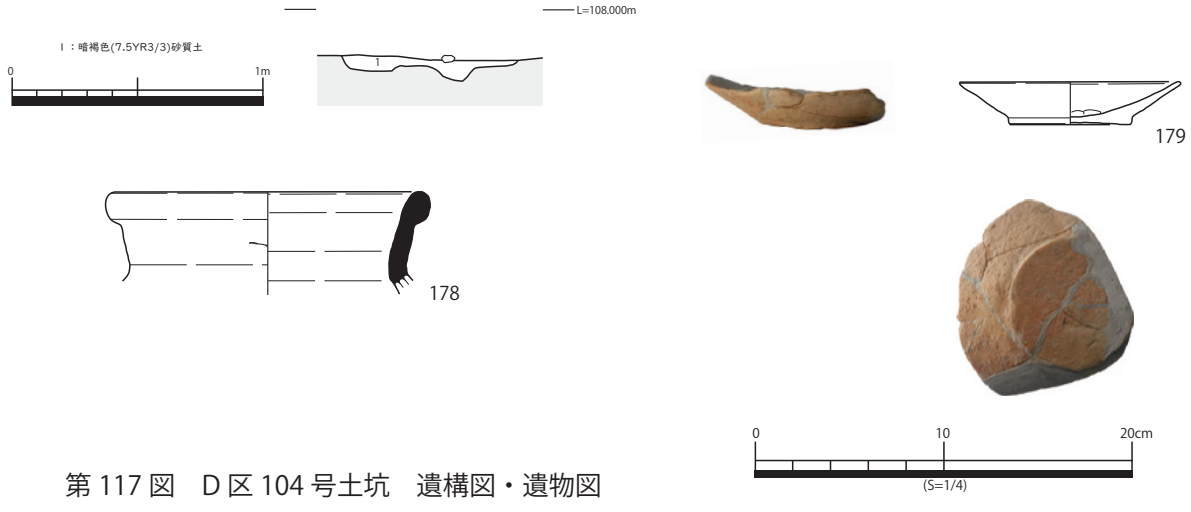
第 114 図　D 区 100 号土坑　遺構図・遺物図



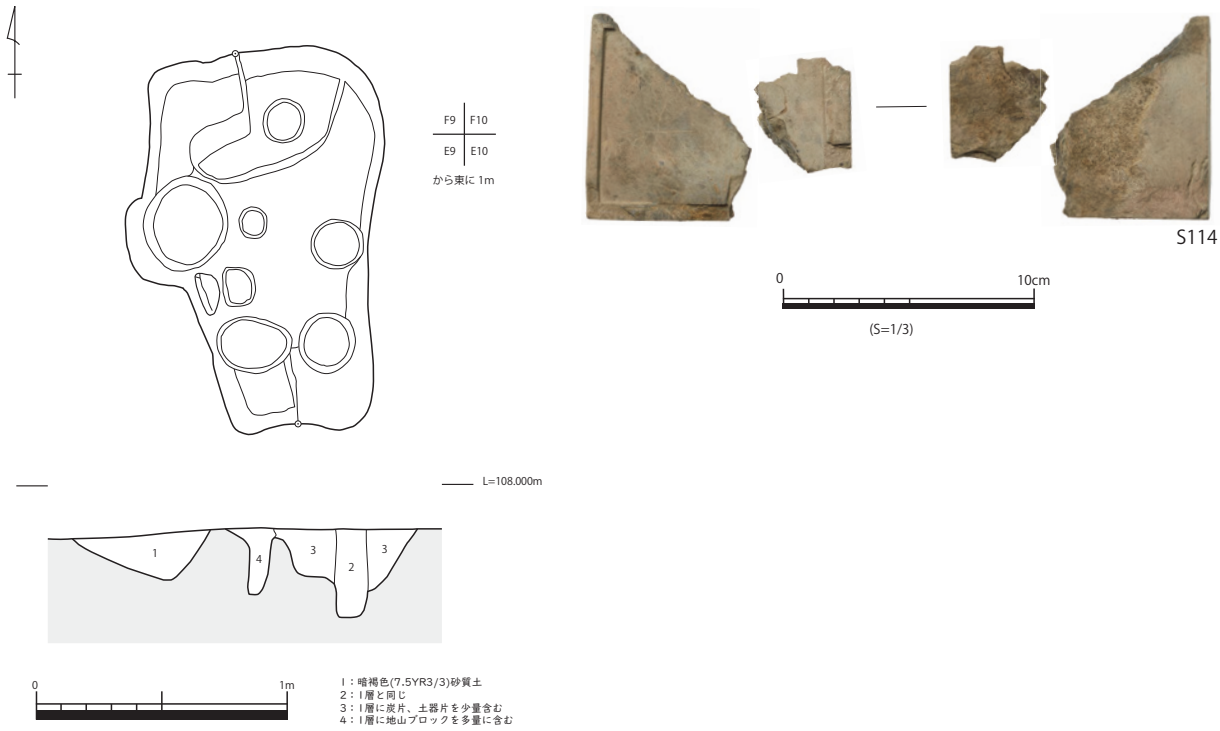
第 115 図　D 区 101 号土坑　遺構図・遺物図



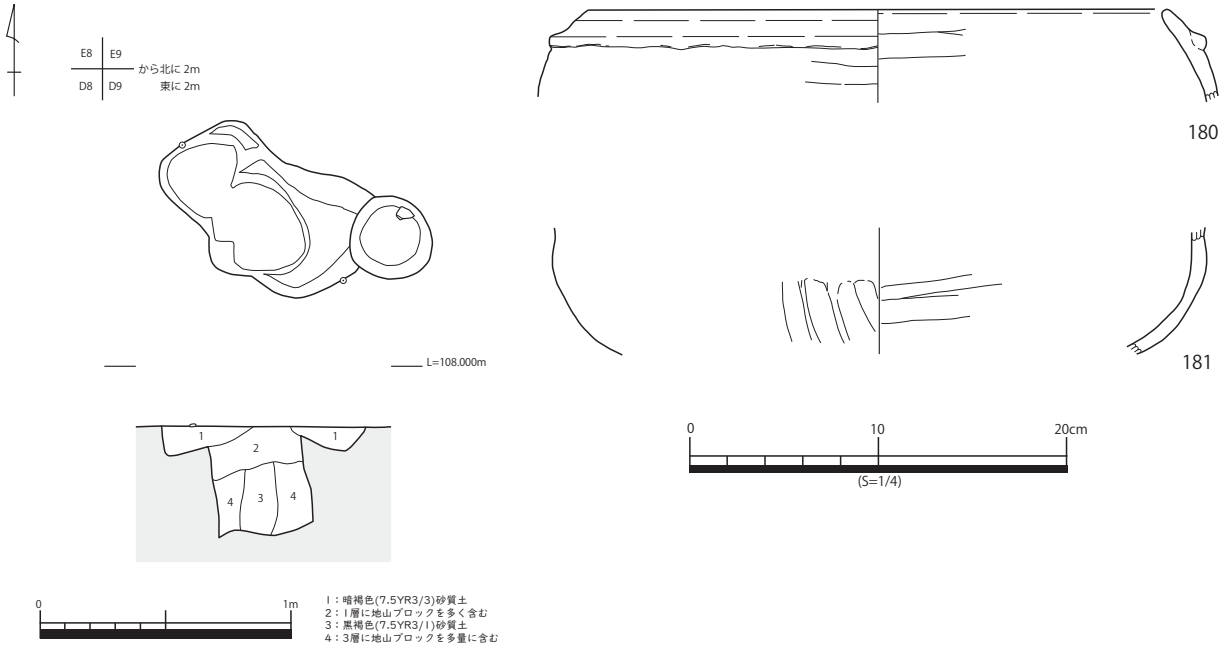
第 116 図　D 区 103 号土坑　遺構図・遺物図



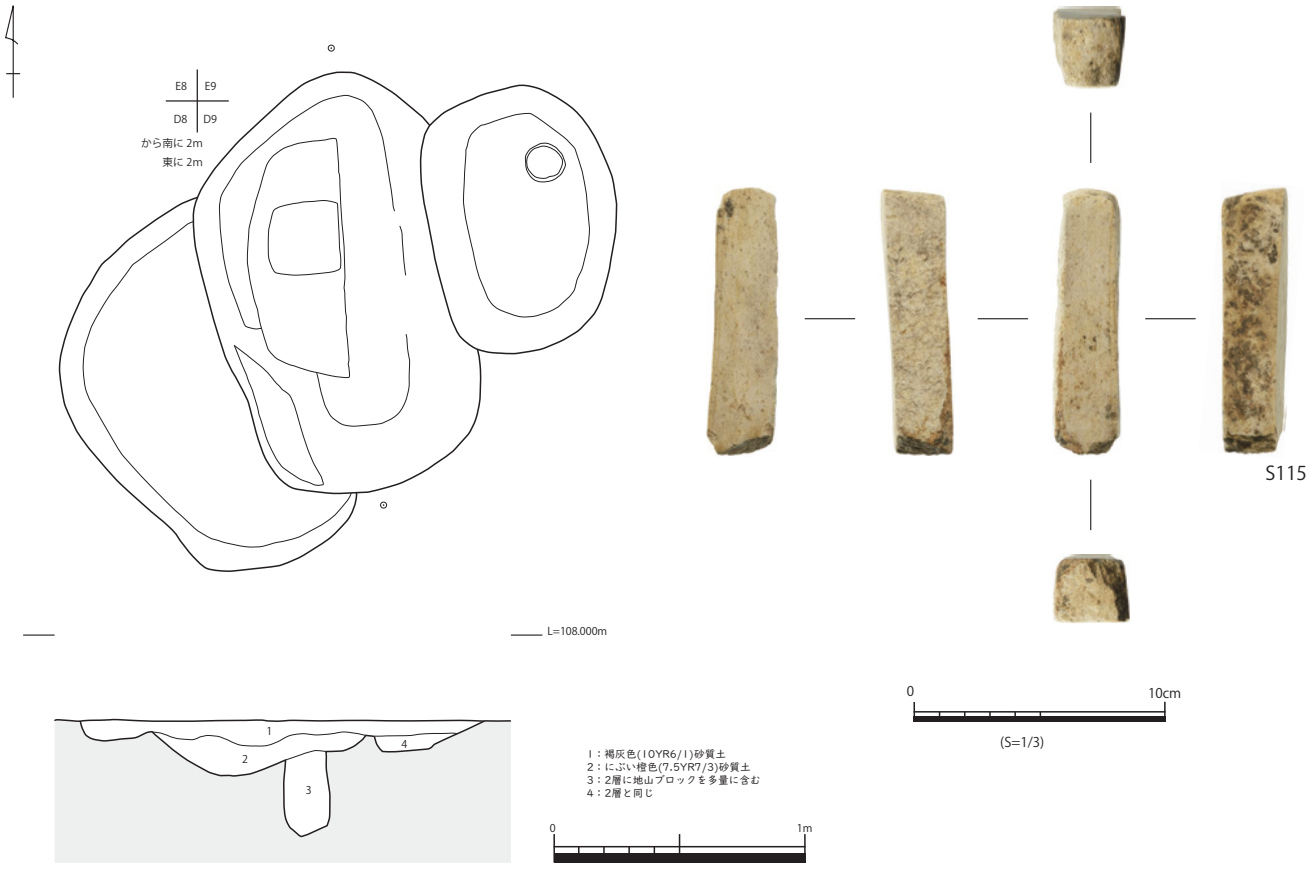
第 117 図　D 区 104 号土坑　遺構図・遺物図



第 118 図　D 区 109 号土坑　遺構図・遺物図



第 119 図　D 区 111 号土坑　遺構図・遺物図



第 120 図　D 区 120 号土坑　遺構図・遺物図

が出土。

時期　室町期である。

D 区 72 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1072）

位置　G10

構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は皿形を呈する。長軸長 0.54m、短軸長 0.45m、深度 0.08m、主軸方位 N-18° -E を測る。

土層　暗褐色砂質土である。

遺物出土状況　土坑床面須恵器片が出土。

時期　古代である。

D 区 76 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1076）

位置　G9

構造・規模　平面形態は円形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.06m、短軸長 1.00m、深度 0.15m、主軸方位 N-9° -E を測る。

土層　複灰色砂質土である。

遺物出土状況　砂岩角礫を含んだ覆土下層より須恵質土器、土師質土器共膳具・煮沸具が出土、上層より近世土師質土器焙烙や近世磁器碗が出土した。

時期　室町期である。

D 区 88 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1088）
位置　E10,F10
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.86m、短軸長 0.63m、深度 0.18m、主軸方位 N-35° -E を測る。
土層　上層は炭化物を多量に含む黒褐色砂質土、下層は暗褐色砂質土である。
遺物出土状況　上層中より土師質土器共膳具・煮沸具が出土した。
時期　室町期である。

D 区 89 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1089）
位置　F10
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。残存長軸長 1.10m、短軸長 0.91m、深度 0.46m、主軸方位 N-65° -W を測る。
土層　上層は焼土を含む褐色砂質土、中層は橙色砂質土、下層は炭化物を含む明黄褐色砂質土である。
遺物出土状況　上層の焼土混じり層から、縄文土器や弥生土器と共に、土師質土器供膳具・煮炊具、焼土塊、鉄滓が出土した。
時期　室町期である。

D 区 91 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1091）
位置　F11
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.73m、短軸長 0.38m、深度 0.23m、主軸方位 N-54° -E を測る。
土層　上層が褐灰色砂質土、下層が暗褐色砂質土である。
遺物出土状況　下層より弥生土器や結晶片岩礫が出土した。
時期　弥生時代後期である。

D 区 100 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1100）
位置　E10
構造・規模　平面形態は円形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.58m、短軸長 0.55m、深度 0.22m、主軸方位 N-20° -E を測る。
土層　黒褐色砂質土である。
遺物出土状況　上層より弥生土器が出土。遺構床面より中世土師質土器・供膳具・鍋、青磁供膳具、砂岩礫が出土。
時期　室町期である。

D 区 101 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1101）
位置　E10
構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.59m、短軸長 0.33m、深度

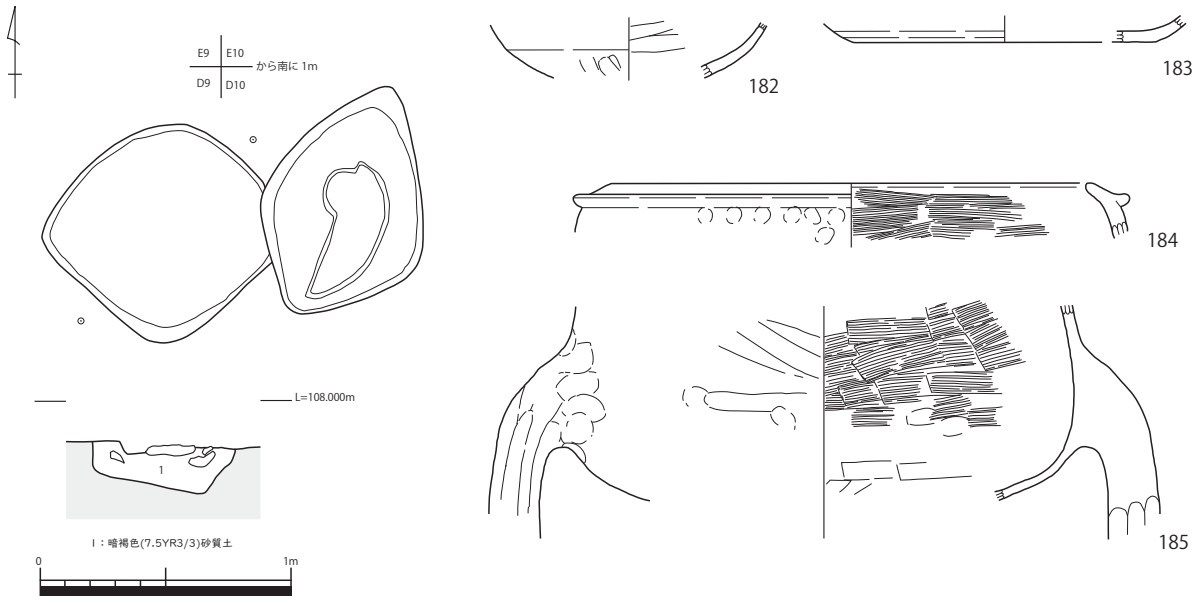
0.12m、主軸方位 N-76° -W を測る。
土層　褐灰色砂質土である。
遺物出土状況　弥生土器、土師質土器煮炊具、近世陶器、砂岩礫が出土。
時期　室町期である。

D 区 103 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1103）
位置　E9,E10
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.60m、短軸長 0.69m、深度 0.40m、主軸方位 N-75° -W を測る。
土層　暗褐色砂質土である。
遺物出土状況　上層より弥生土器や近世焙烙が、中下層より土師質土器・鍋・供膳具、スラグ、泥岩円礫（碁石か）、石英礫（火打ち石か）、砂岩礫が出土。
時期　近世初頭期である。

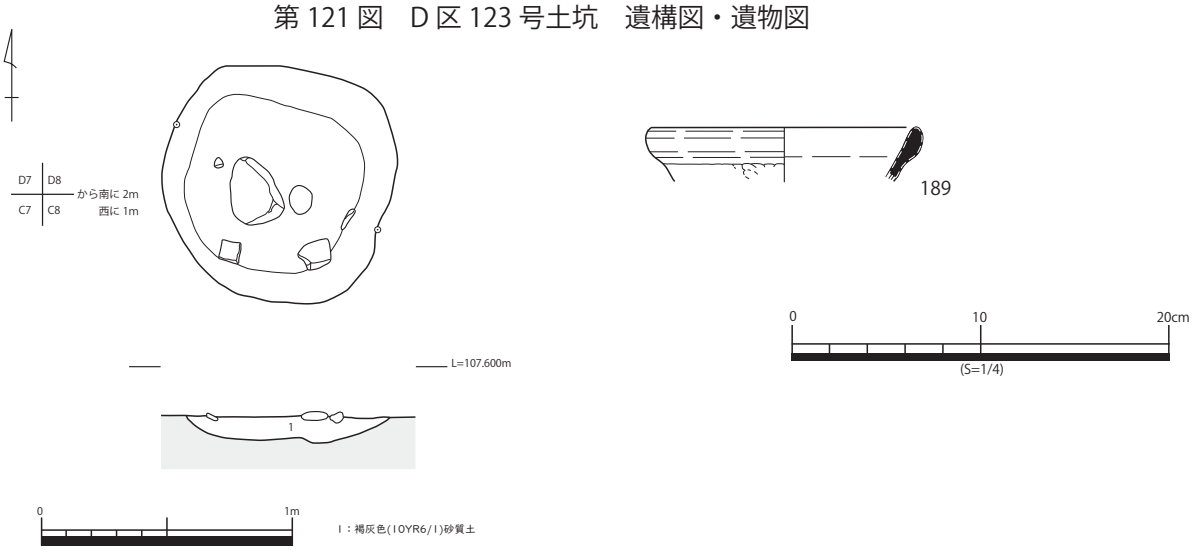
D 区 104 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1104）
位置　E10
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。残存長軸長 1.16m、残存短軸長 0.80m、深度 0.12m、主軸方位 N-80° -W を測る。
土層　暗褐色砂質土である。
遺物出土状況　上層より弥生土器壺が、下層より砂岩礫や焼土塊と共に土師質土器皿が出土。
時期　室町期である。

D 区 109 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1109）
位置　E9,E10,F9,F10
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.47m、短軸長 0.98m、深度 0.36m、主軸方位 N-10° -W を測る。
土層　暗褐色砂質土である。
遺物出土状況　中層より炭化物や弥生土器、焼土塊、土師質土器煮炊具・皿、中世備前焼甕か、砂岩礫が出土した。
時期　室町期である。

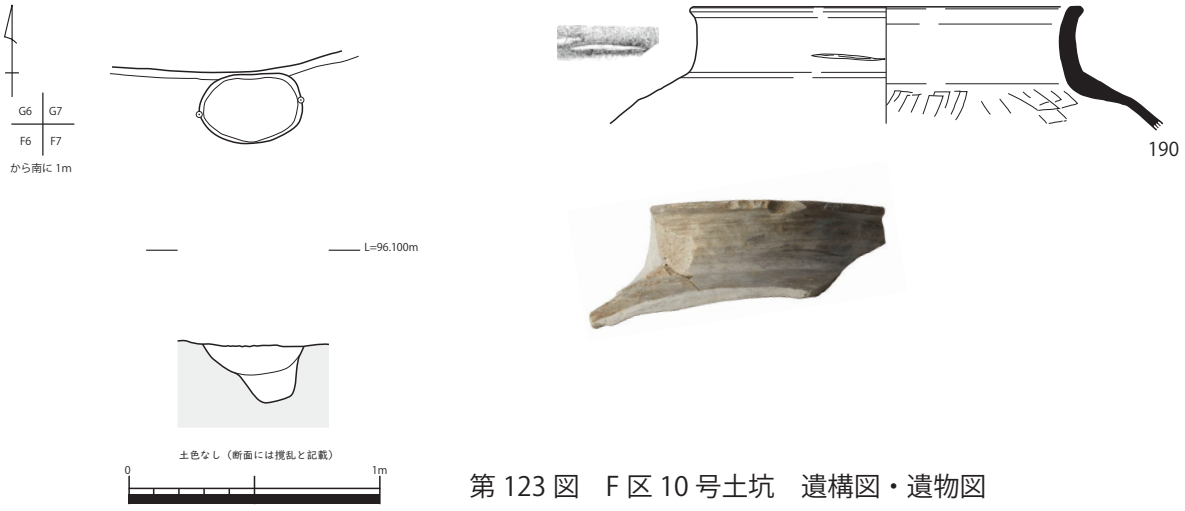
D 区 111 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1111）
位置　E9
構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.85m、短軸長 0.54m、深度 0.44m、主軸方位 N-50° -W を測る。
土層　上層は暗褐色砂質土で土器片と炭片を少量含む。下層は黒褐色砂質土で少量の単物や多量の地山ブロックを含む。
遺物出土状況　1 層より弥生土器、土師質土器供膳具・煮炊具、備前焼、焼土塊、砂岩礫・石英礫が出土した。
時期　室町期である。



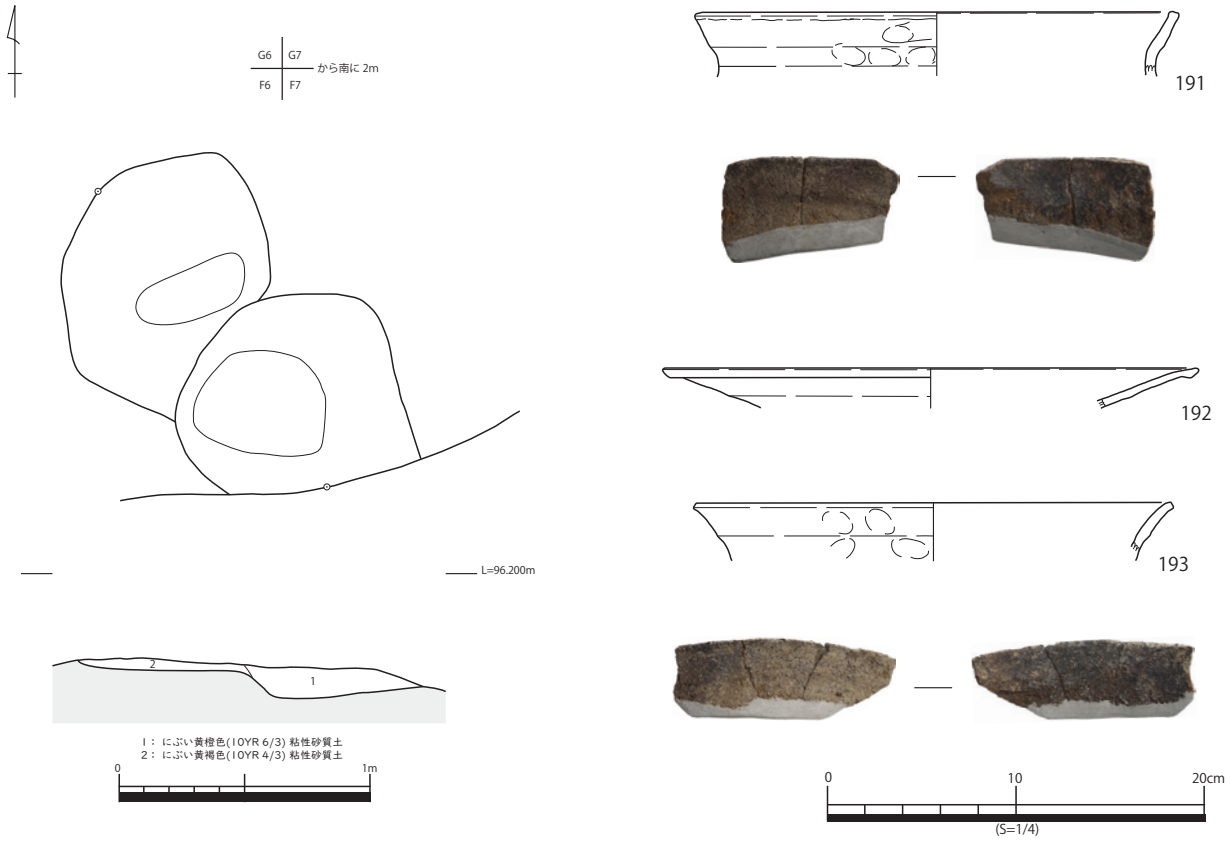
第 121 図　D 区 123 号土坑　遺構図・遺物図



第 122 図　D 区 127 号土坑　遺構図・遺物図



第 123 図　F 区 10 号土坑　遺構図・遺物図



第 124 図　F 区 13 号，14 号土坑　遺構図・遺物図

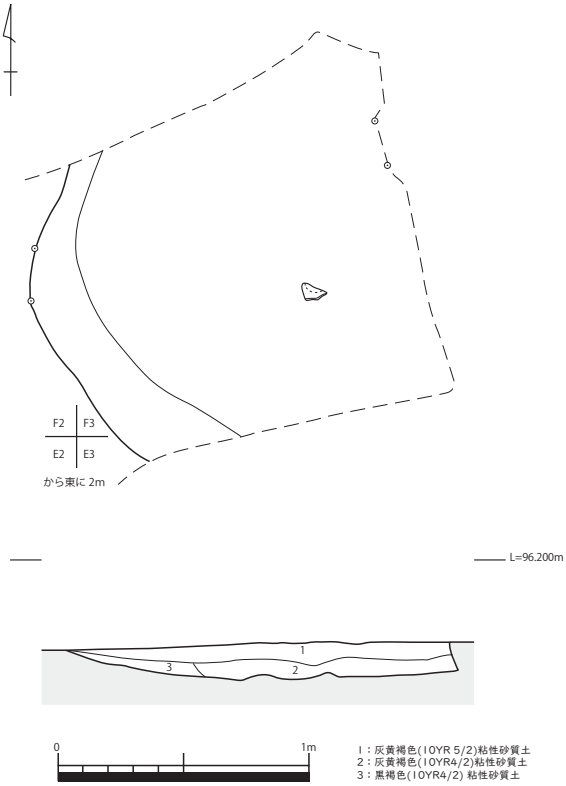
D 区 120 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1120）

位置　D9

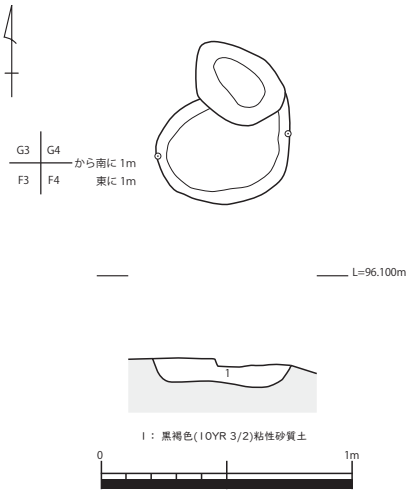
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.67m、残存短軸長 0.92m、深度 0.47m、主軸方位 N-8° -W を測る。

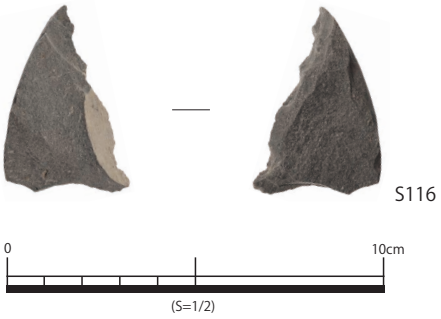
土層　上層は褐灰色砂質土、下層はにぶい橙色砂質土である。

遺物出土状況　上層より弥生土器、土師質土器供膳具・煮炊具が出土。



第 125 図　F 区 34 号土坑　遺構図・遺物図





第 126 図　F 区 36 号土坑　遺構図・遺物図

時期　室町期である。

D 区 123 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1123）

位置　D9.D10

構造・規模　平面形態は方形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.80m、短軸長 0.79m、深度 0.21m、主軸方位 N-43° -E を測る。

土層　暗褐色砂質土である。

遺物出土状況　覆土中より弥生土器、土師器甕、土師質土器・煮炊具・鍋、供膳具、砂岩礫が出土した。

時期　室町期である。

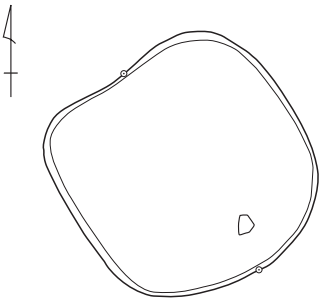
D 区 127 号土坑（／旧 2009　D 区 SK1127）
位置　C7,C8
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.94m、短軸長 0.91m、深度 0.10m、主軸方位 N-63° -E を測る。
土層　褐灰色砂質土である。
遺物出土状況　上層より土師質土器供膳具・煮炊具が出土した。
時期　室町期である。

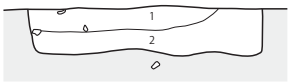
F 区 10 号土坑（／旧 2009　F 区 SK1010）
位置　F7
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.41m、短軸長 0.27m、深度 0.23m、主軸方位 N-82° -E を測る。
遺物出土状況　覆土上層より弥生土器、瓦（近世以降）、鉄釘（近代）、砂岩礫、近代ガラス瓶が出土した。
時期　不明。近現代の撹乱の可能性が高い。

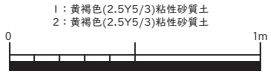
F 区 13 号土坑（／旧 2009　F 区 SK1013）
位置　F6
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は逆台形を呈する。残存長軸長 1.20m、残存短軸長 0.70m、深度 0.12m、主軸方位 N-38° -W を測る。
土層　上層は炭化物を含むにぶい黄橙色粘性砂質土、下層はにぶい黄褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　上層下層共に土器片やサヌカイト剥片を含み、下層から特に多く出土した。
時期　縄文時代晩期である。

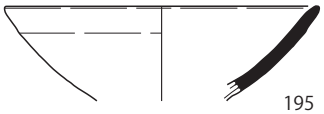
F 区 34 号土坑 (／旧 2009　F 区 SK1034)
位置　E3,F3
構造・規模　平面形態は円形を、断面形態は皿形を呈する。残存長軸長 1.58m、残存短軸長 1.50m、深度 0.15m、主軸方位 N-69° -E を測る。
土層　上層は灰黄褐色粘性砂質土、下層は黒褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　上層より炭化物と共に縄文土器、弥生土器、土師器煮炊具、土師質土器供膳具、瓦質土器、サヌカイト剥片が出土した。
時期　室町期である。

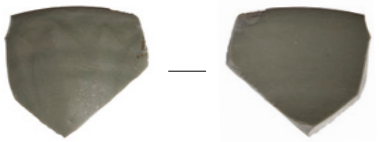
F 区 36 号土坑 (／旧 2009　F 区 SK1036）
位置　F4
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は逆台形を呈する。残存長軸長 0.52m、残存短軸長 0.48m、深度 0.12m、主軸方位は N-82° -E を測る。
土層　黒褐色粘性砂質土である。

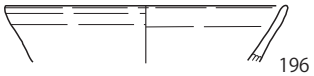




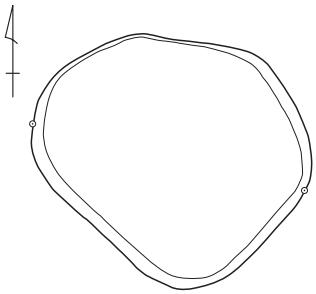


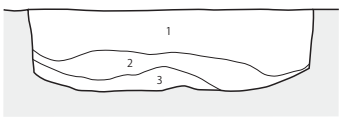


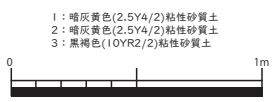


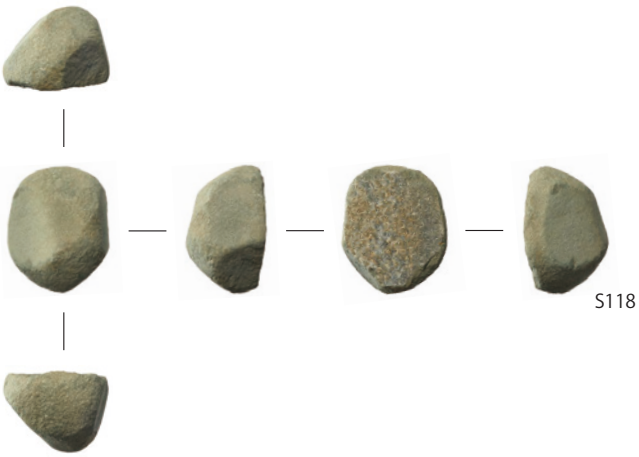


第 127 図　H 区 21 号土坑　遺構図・遺物図

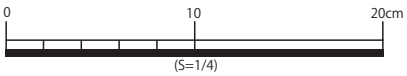


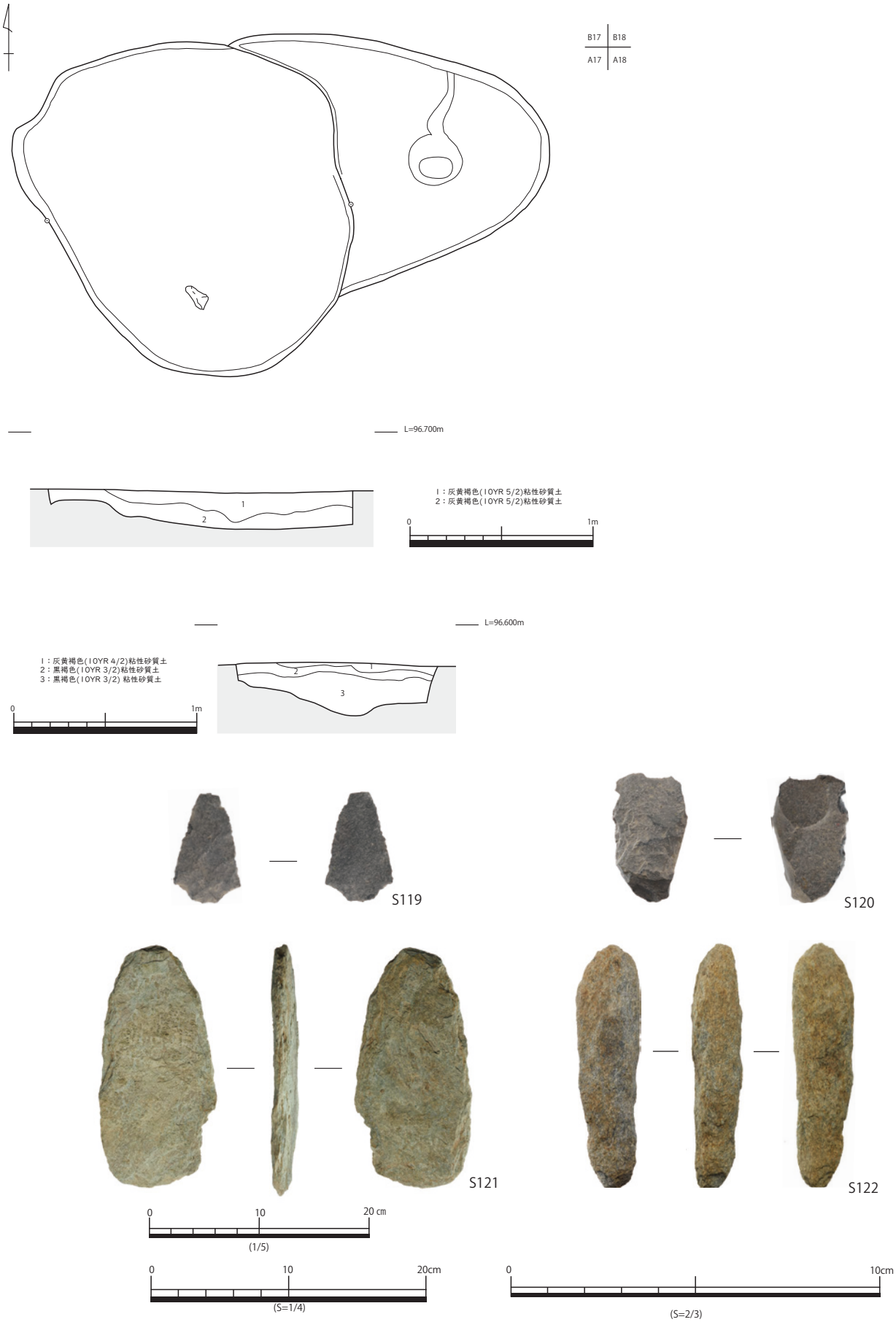




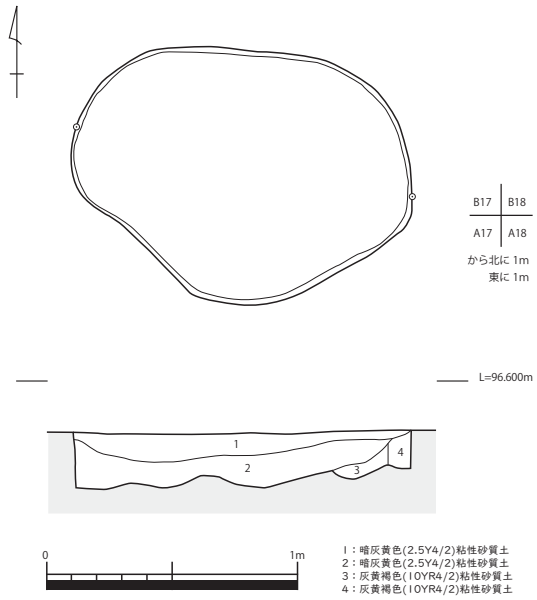


第 128 図　H 区 20 号土坑　遺構図・遺物図

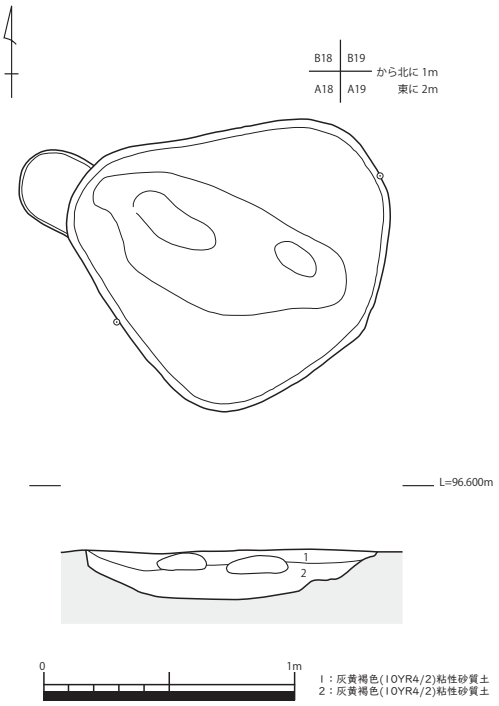


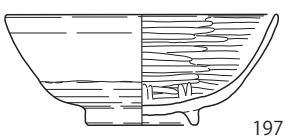


第 129 図　H 区 29 号，30 号土坑　遺構図・遺物図

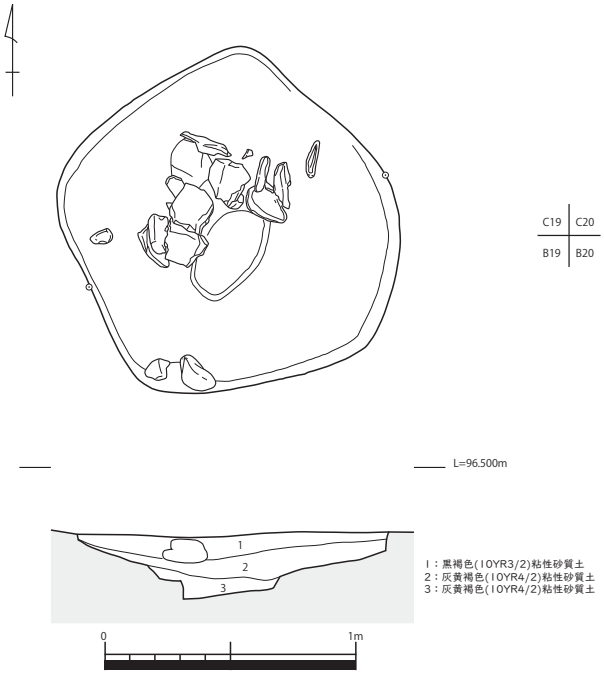


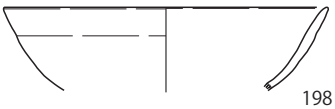
第 130 図　H 区 31 号土坑　遺構図・遺物図



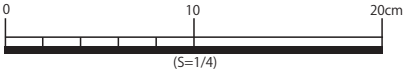


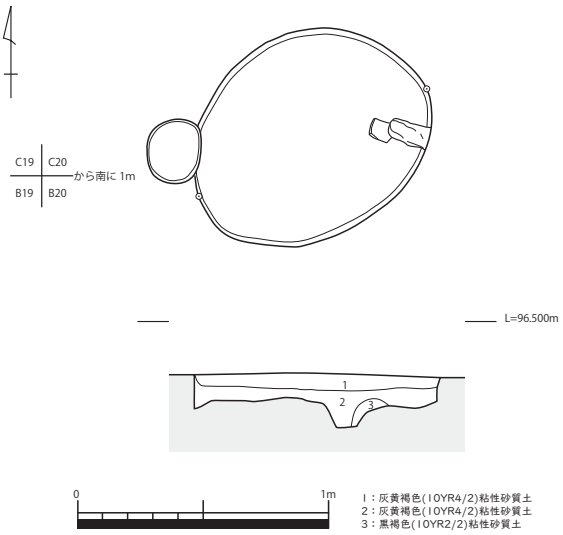
第 131 図　H 区 33 号土坑　遺構図・遺物図



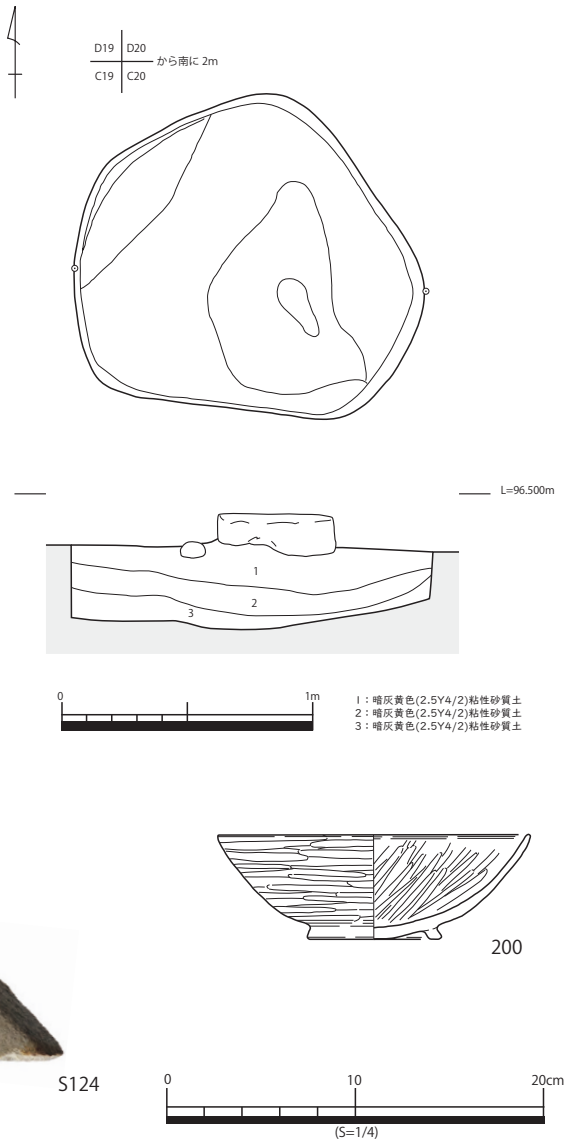


第 132 図　H 区 38 号土坑　遺構図・遺物図





第 133 図　H 区 42 号土坑　遺構図・遺物図



第 134 図　H 区 43 号土坑　遺構図・遺物図

遺物出土状況　弥生土器片と鉄滓が出土した。
時期　室町期である。

H 区 21 号土坑 (／旧 2010　H 区 SK1021)
位置　B16,C16
構造・規模　平面形態は方形を、断面形態は長方形を呈する。長軸長 0.96m、短軸長 0.94m、深度 0.19m、主軸方位 N-34° -W を測る。
土層　上層は黄褐色粘性砂質土で炭化物を含み、下層は黄褐色粘性砂質土で土器片を含む。
遺物出土状況　下層より青磁碗や土器片が出土した。

時期　室町期である。

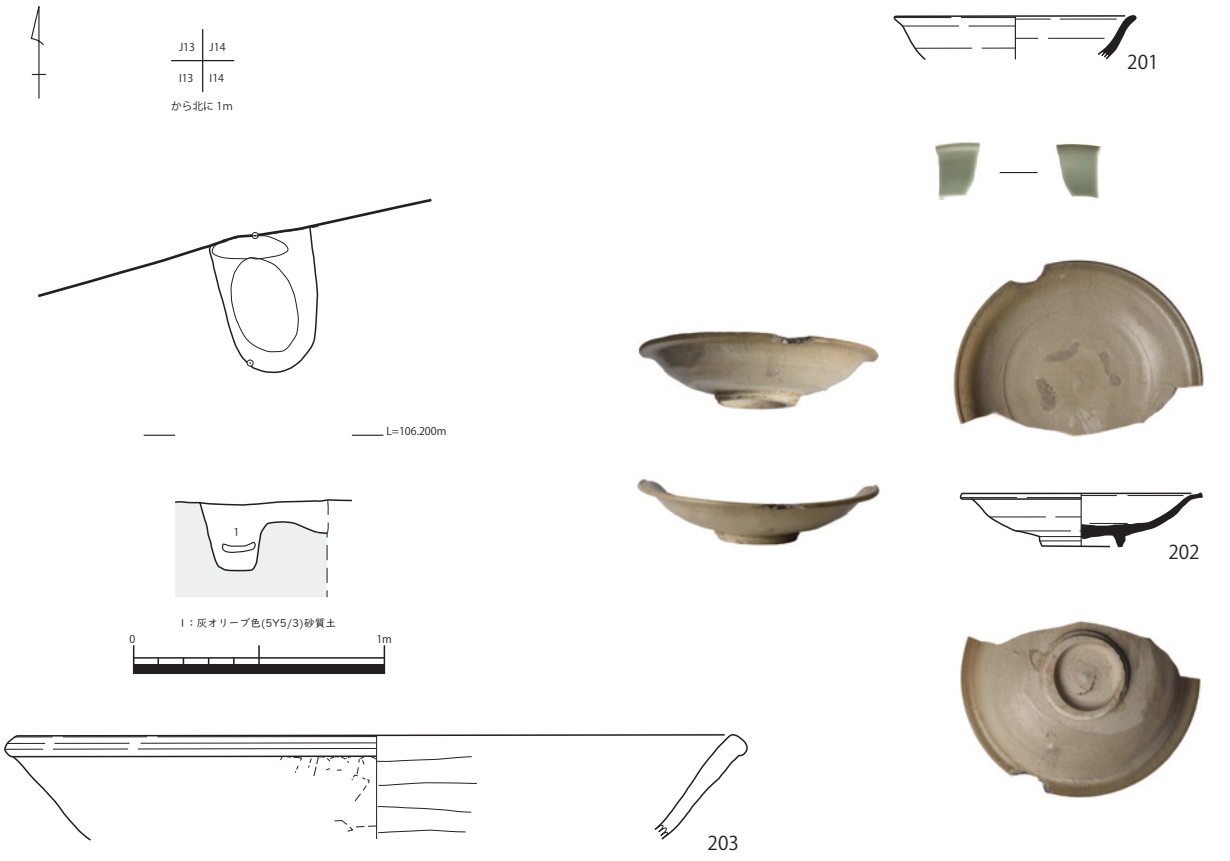
H区20号土坑 (／旧2010　H区SK2020)
位置　C16
構造・規模　平面形態は不整方形、断面形態は逆台形を呈する。長軸長1.11m、短軸長0.93m、深度0.33m、主軸方位N-75°-Wを測る。
土層　上・中層は暗灰黄色粘性砂質土、下層は黒褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　下層よりサヌカイト剥片が出土した。
時期　縄文時代晩期と推定される。

H区29号土坑 (／旧2010　H区SK2029)
位置　A17,B17
構造・規模　平面形態は不整円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長1.84m、短軸長1.65m、深度0.20m、主軸方位N-80°-Eを測る。
土層　灰黄褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　下層よりサヌカイト片が出土した。
時期　縄文時代晩期と推定される。

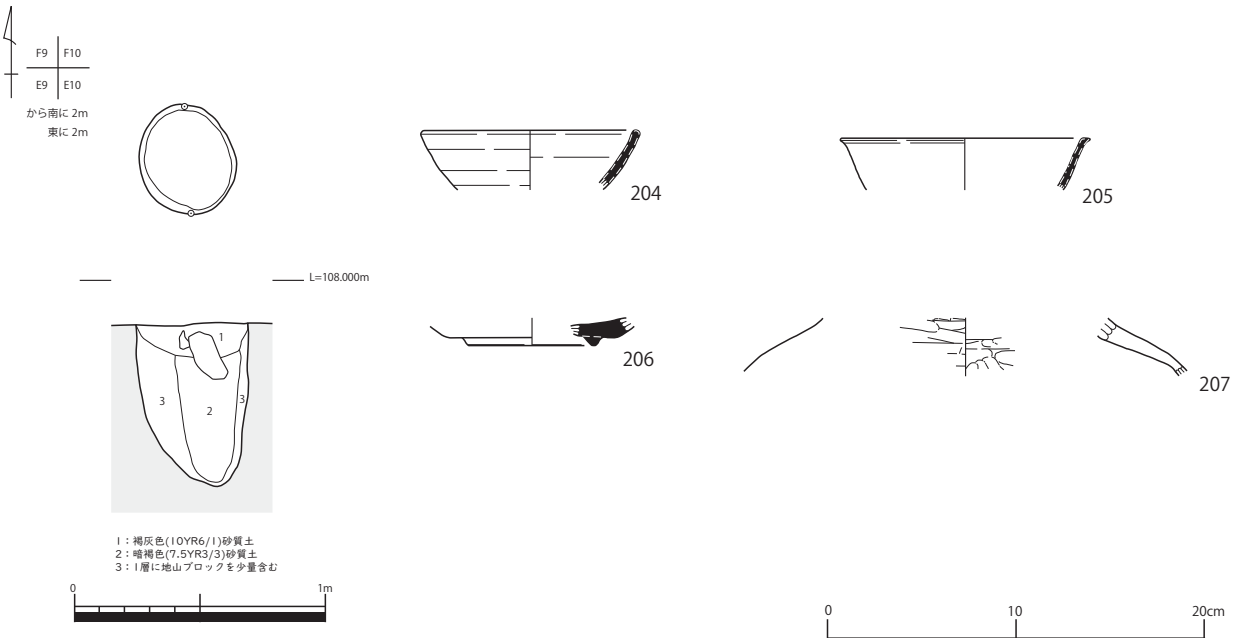
H区30号土坑 (／旧2010　H区SK2030)
位置　A17,B17
構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長1.39m、残存短軸長1.10m、深度0.29m、主軸方位N-80°-Eを測る。
土層　灰黄褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　下層よりサヌカイト片が出土した。
時期　縄文時代晩期と推定される。

H区31号土坑 (／旧2010　H区SK2031)
位置　B17,B18
構造・規模　平面形態は不整楕円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長1.34m、短軸長1.02m、深度0.22m、主軸方位N-78°-Wを測る。
土層　上層は暗灰黄色粘性砂質土、下層は灰黄褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　下層よりサヌカイト片が出土した。
時期　縄文時代晩期と推定される。

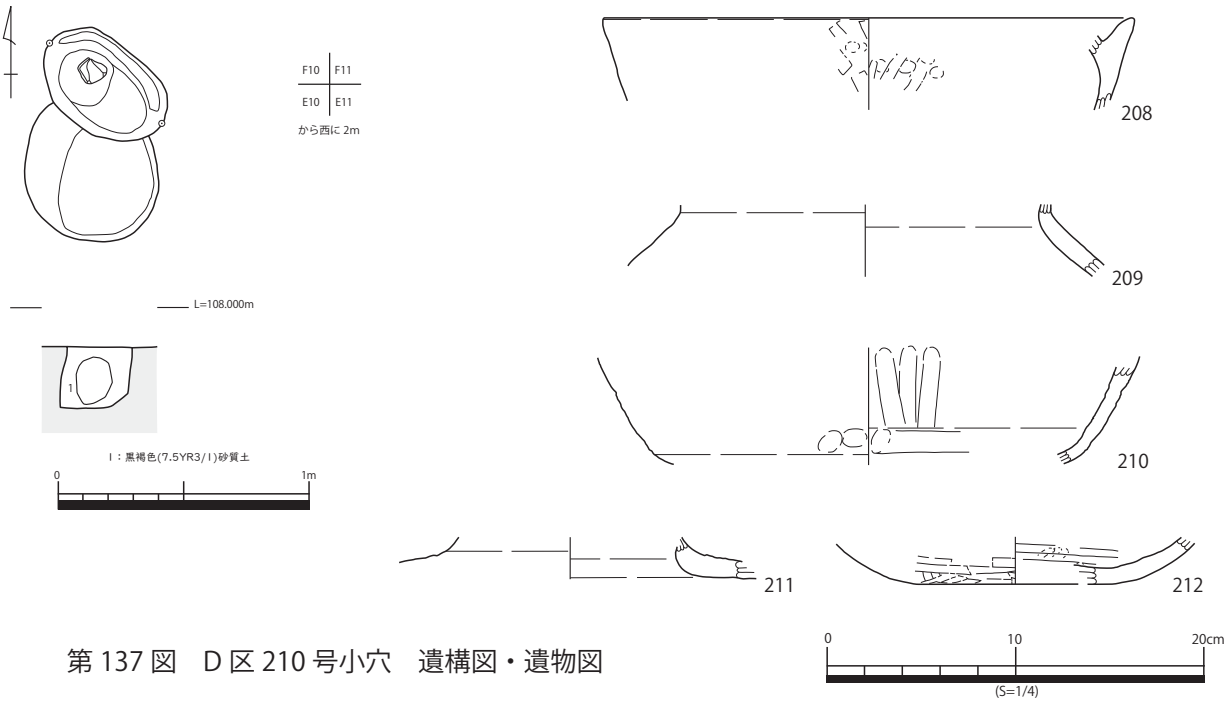
H区32号土坑 (／旧2010　H区SK2032)
位置　B18
構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長1.51m、短軸長0.92m、深度0.27m、主軸方位N-7°-Eを測る。
土層　上層は灰黄褐色粘性砂質土、下層暗褐色粘性砂質土である。



第 135 図　BC 区 478 号小穴　遺構図・遺物図



第 136 図　D 区 190 号小穴　遺構図・遺物図



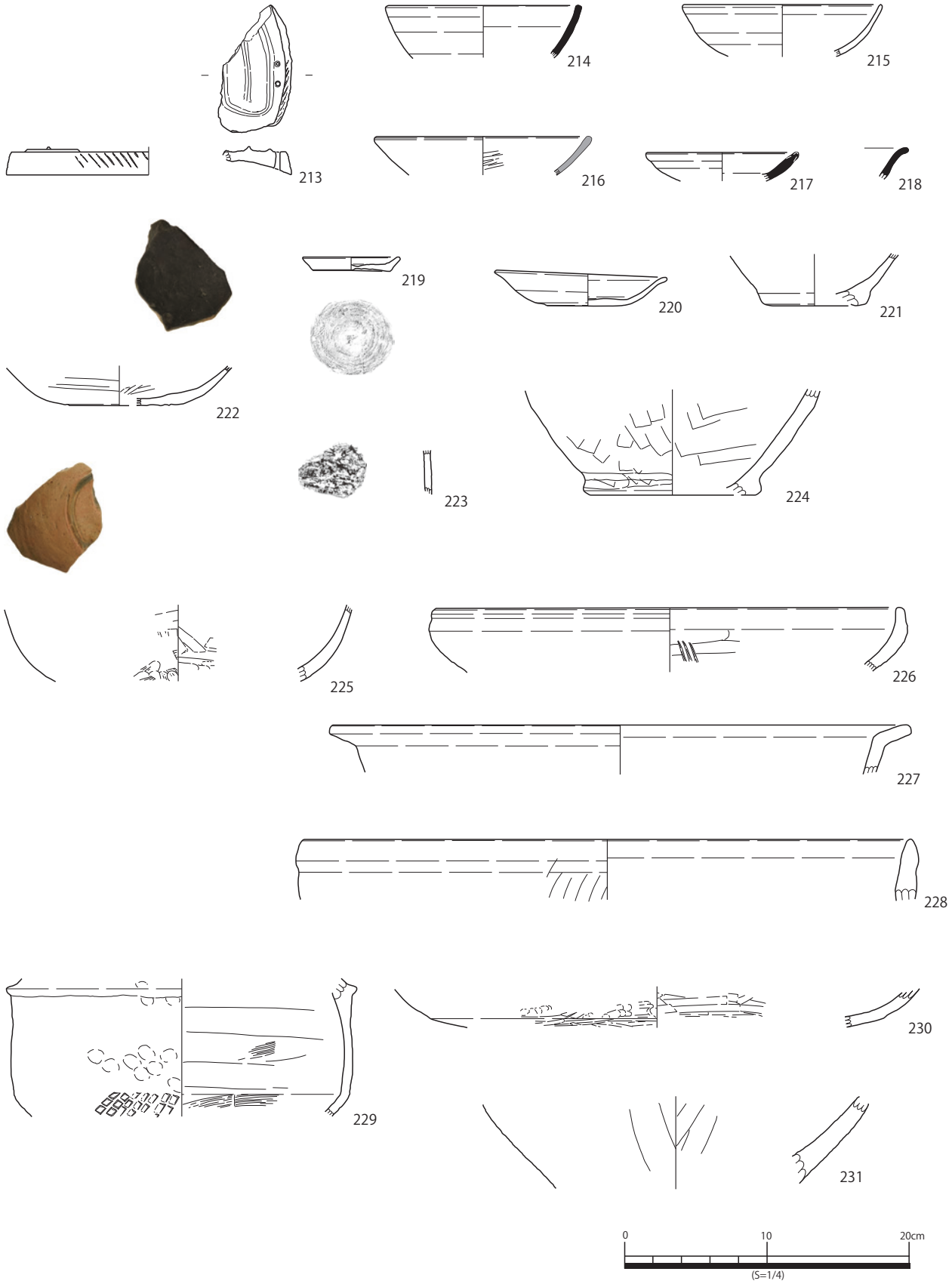
第 137 図　D 区 210 号小穴　遺構図・遺物図

遺物出土状況　第 3 層中より土師質土器椀片が出土した。
時期　室町期である。

H 区 38 号土坑 (／ 2010　H 区 SK2038)
位置　B19,C19
構造・規模　平面形態は不整方形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 1.29m、短軸長 1.24m、深度 0.23m、主軸方位 N-69° -E を測る。
土層　上層は黒褐色粘性砂質土、下層は灰黄褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　上層より須恵器壺や土師質土器椀と共に弥生土器片が出土した。
時期　鎌倉期である。

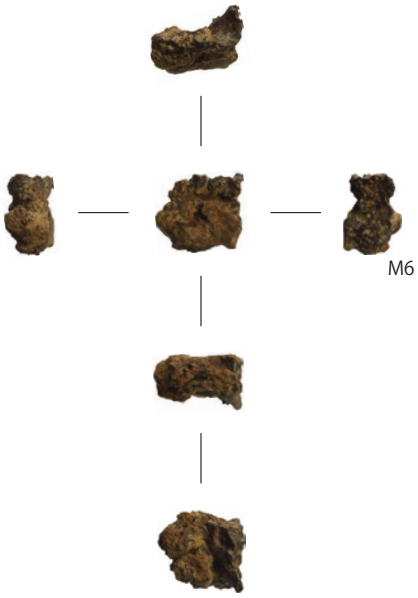
H 区 42 号土坑 (／旧 2010　H 区 SK2042)
位置　B20
構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は長方形を呈する。長軸長 1.00m、短軸長 0.80m、深度 0.22m、主軸方位 N-64° -E を測る。
土層　上層は灰黄褐色粘性砂質土 , 下層は炭化物を含む黒褐色粘性砂質土である。
遺物出土状況　下層より敲石が出土。
時期　縄文時代晩期と推定される。

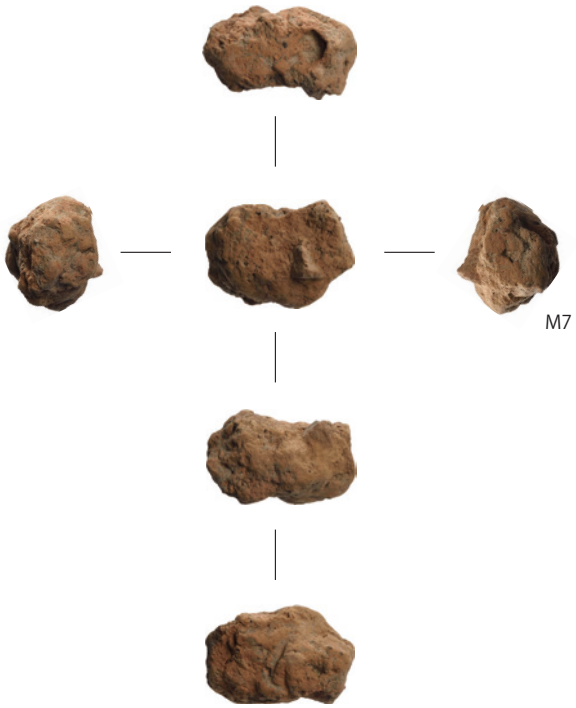
H 区 43 号土坑 (／旧 2010　H 区 SK2043)
位置　C19,C20
構造・規模　平面形態は不整方形、断面形態は長方形を呈する。長軸長 1.39m、短軸長 1.25m、深度

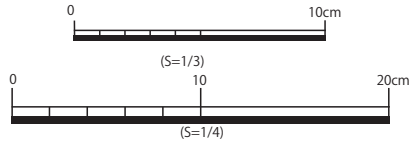


第 138 図　小穴出土遺物図 (1)

第 139 図　小穴出土遺物図 (2)







第 140 図　小穴出土遺物図 (3)

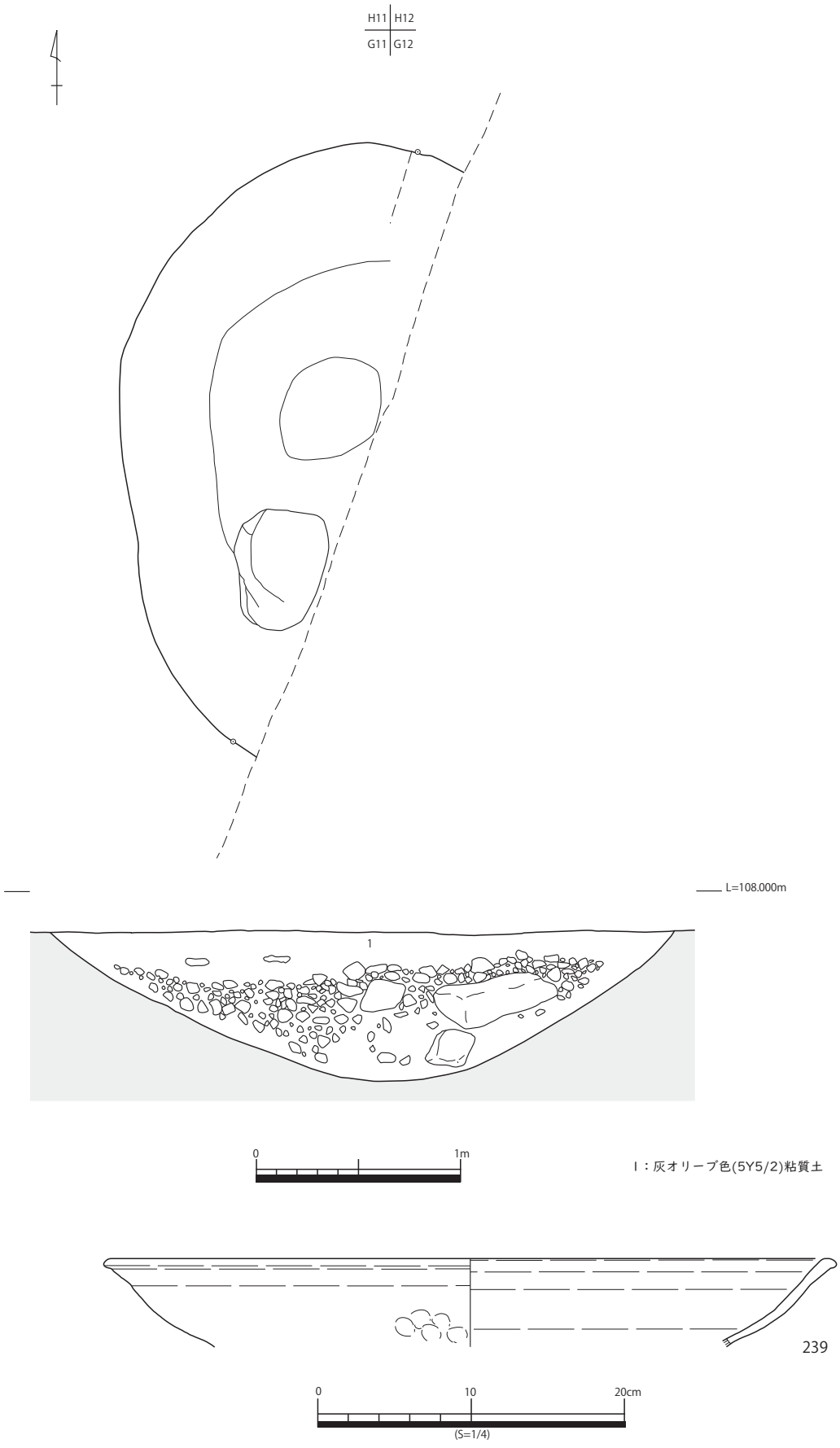
0.36m、主軸方位 N-86° -W を測る。

土層　上層は暗灰黄色粘性砂質土、下層は暗灰黄色粘性砂質土である。

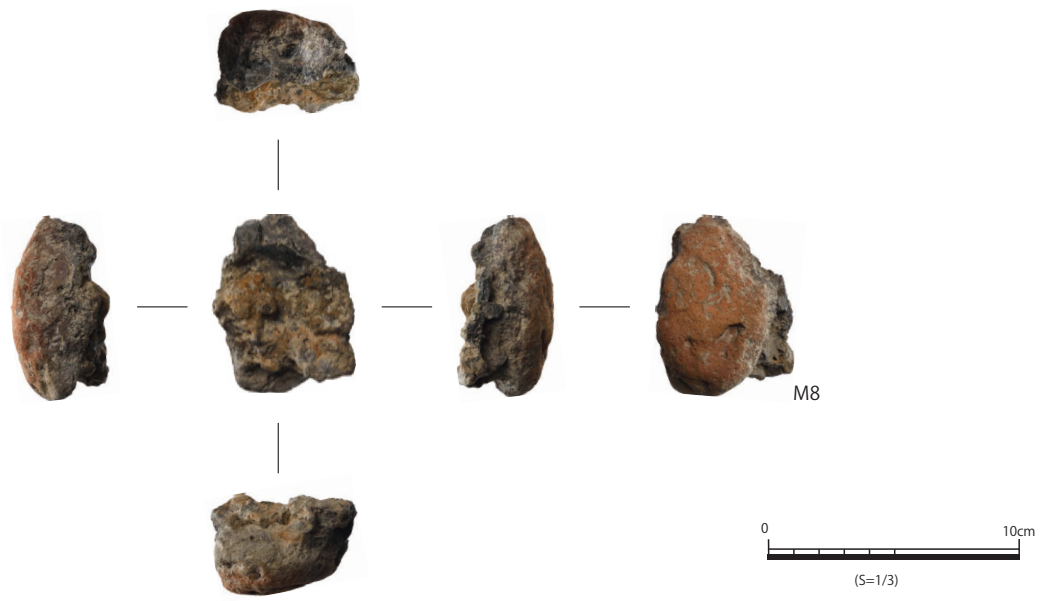
遺物出土状況　第 1 層より礎石状の 60㎝大の砂岩と共に黒色土器椀が出土した。

時期　室町期である。

第 141 図　D 区 4 号性格不明遺構　遺構図・遺物図



第 142 図　D 区 6 号性格不明遺構　遺構図・遺物図



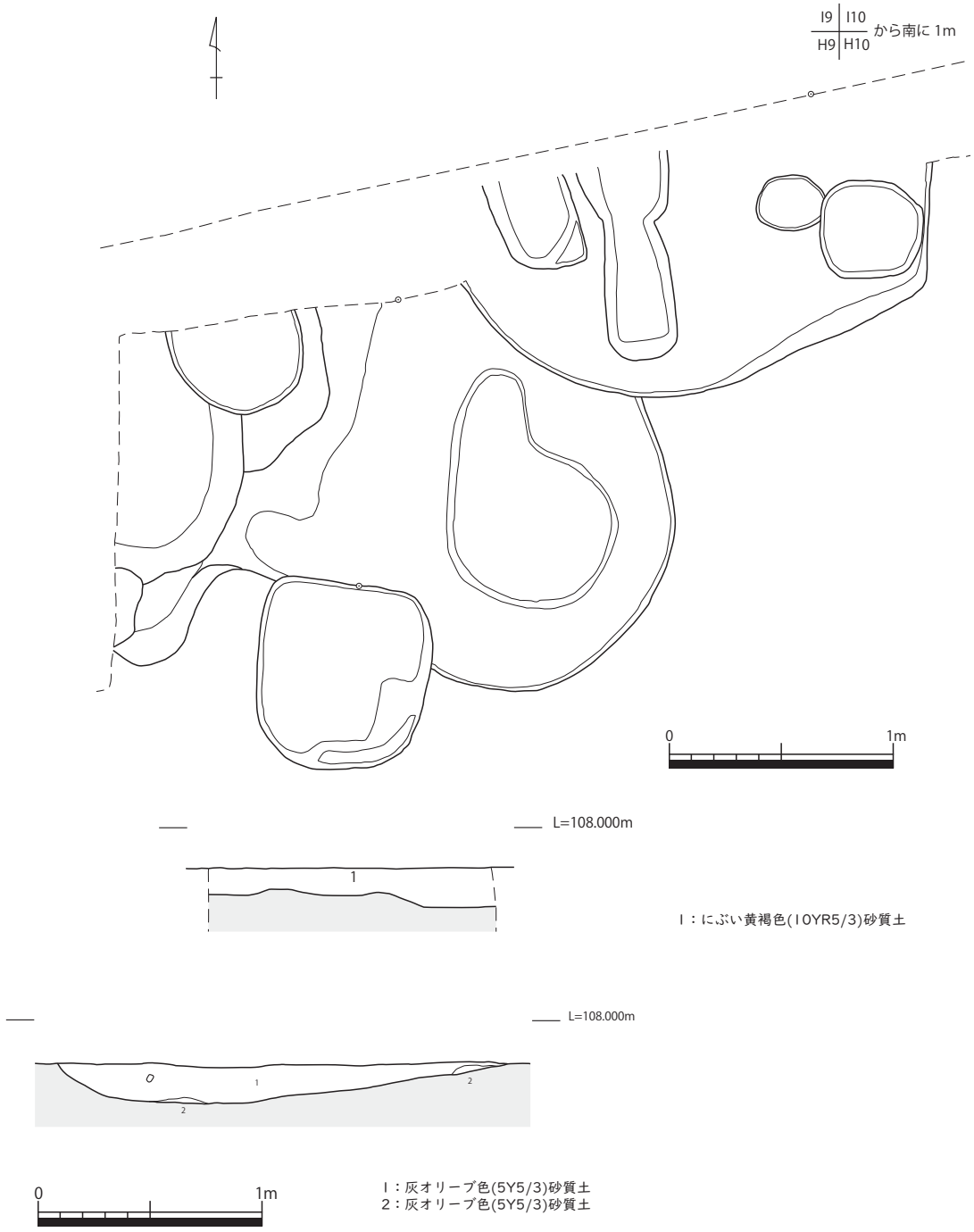
第 143 図　D 区 6 号性格不明遺構　遺物図 (2)

④小穴 (SP)

BC 区 478 号小穴 (／旧 2009　BC 区 SP1478)
位置　I14,J14
構造・規模　平面形態は不整楕円形、断面形態は二段形を呈する。長軸長 0.55m、短軸長 0.37m、深度 0.25m、主軸方位 N-8° -W を測る。
土層　炭化物を含む灰オリーブ色砂質土である。
遺物出土状況　覆土下位より須恵器椀や皿が出土した。
時期　鎌倉期である。

D 区 190 号小穴 (／旧 2009　D 区 SP1190)
位置　E10
構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 0.45m、短軸長 0.38m、深度 0.64m、主軸方位 N-4° -W を測る。
土層　上層は褐灰色砂質土、下層は暗褐色砂質土である。
遺物出土状況　下層より土師質土器供膳具が出土した。
時期　室町期である。

D 区 210 号小穴 (／旧 2009　D 区 SP1210)
位置　E10,F10
構造・規模　平面形態は楕円形、断面形態は舟底形を呈する。長軸長 0.56m、短軸長 0.35m、深度 0.24m、主軸方位は N-4° -W を測る。
土層　黒褐色砂質土層である。根石と推定される川原石が伴う。

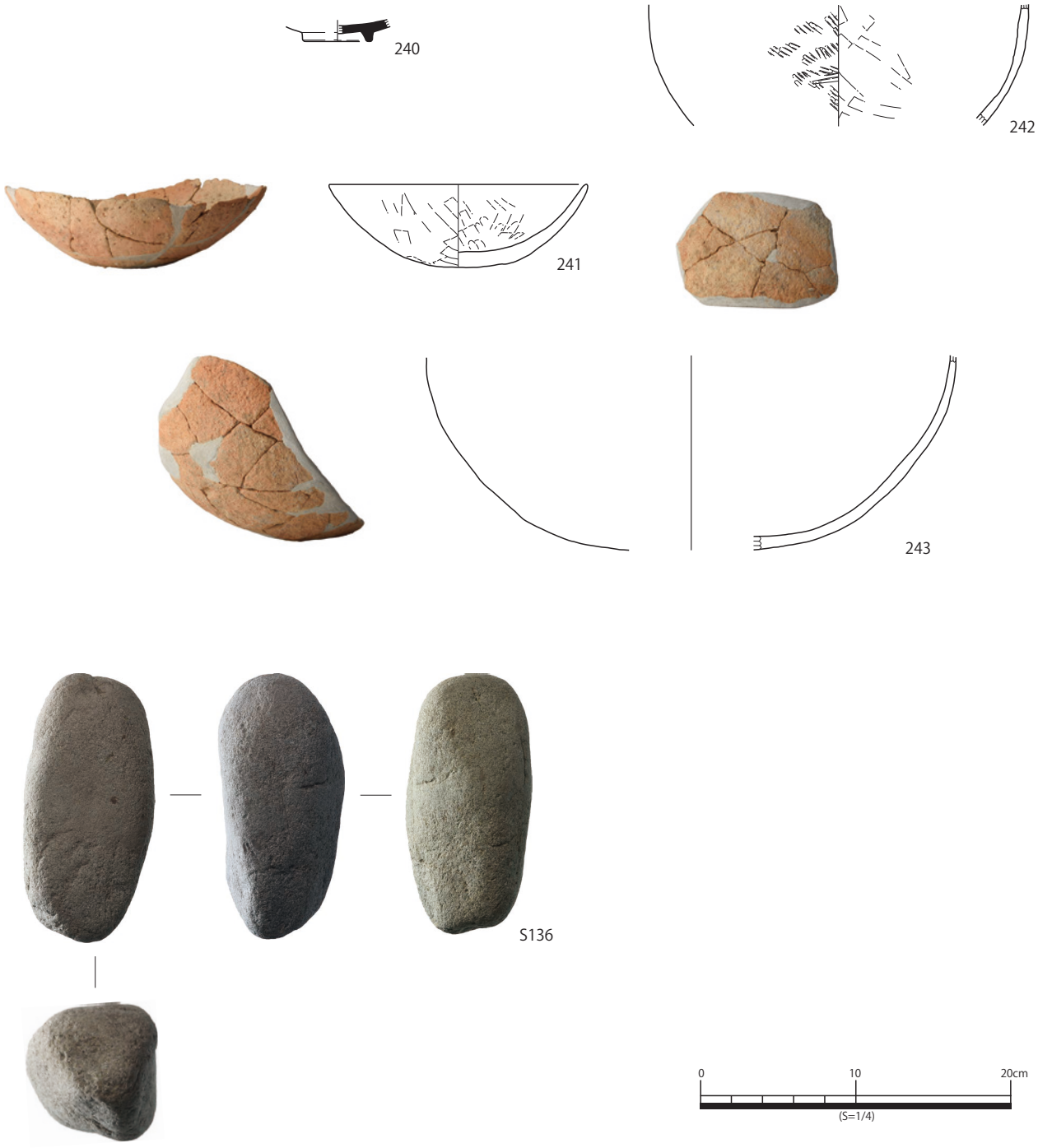


第 144 図　D 区 7 号性格不明遺構　遺構図

遺物出土状況　上層より弥生土器・甕、炭化物が出土した。
時期　室町期と推定される。

⑤性格不明遺構 (SX)

D 区 4 号性格不明遺構 (／旧 2009　D 区 SX1004)
位置　B3,B4,C3,C4
構造・規模　平面形態は不定形、断面形態は二段形を呈する。深度 0.67m を測る。

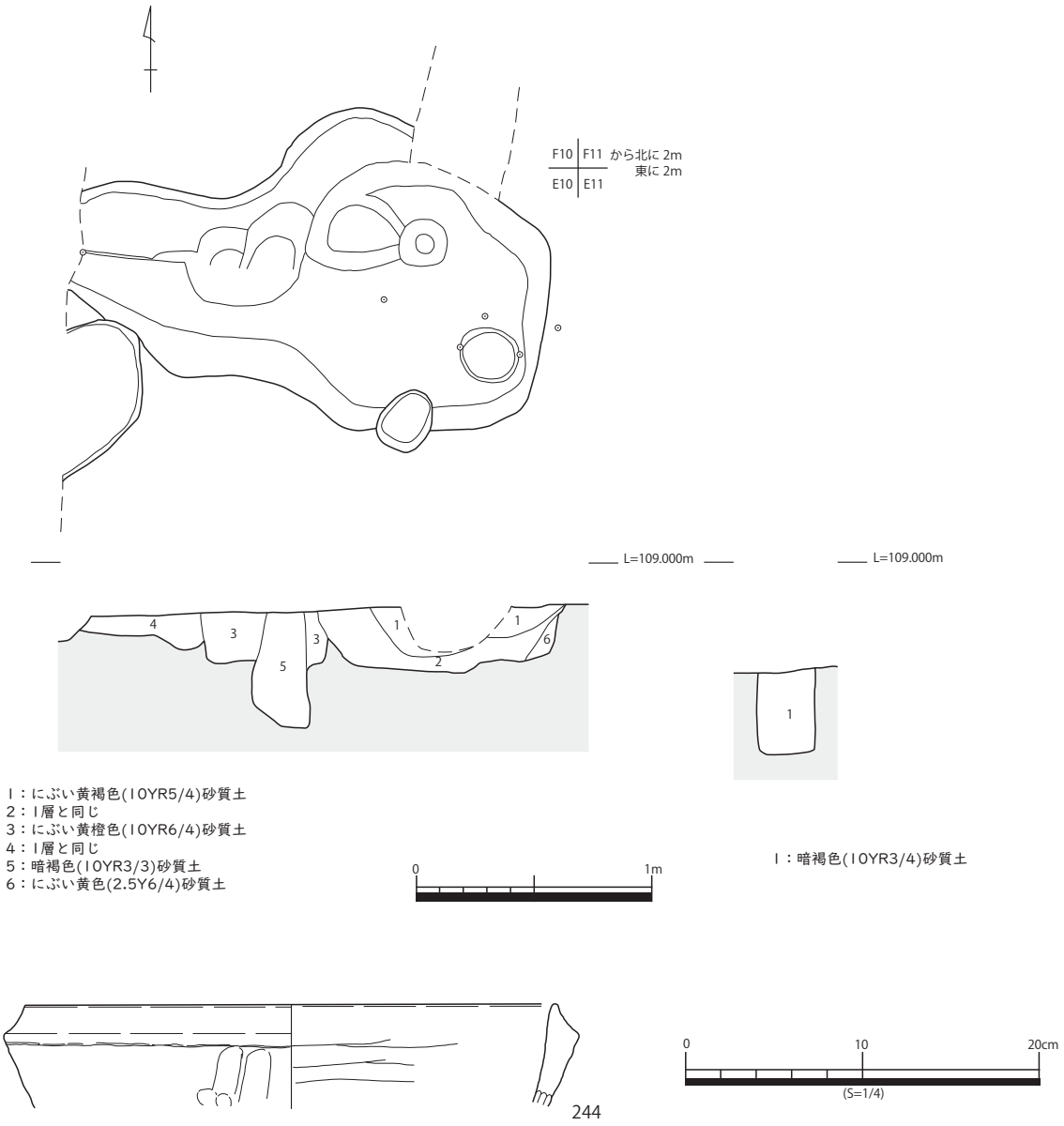


第 145 図　D 区 7 号性格不明遺構　遺物図

土層　1,2 層は黒褐色粘性砂質土で須恵器蓋を含み、3 層は暗灰黄色粘性砂質土で土器片、サヌカイト片、木片、炭化物やや多く含み、4 層は灰黄褐色粘質土、5 層は暗灰黄色粘性砂質土で木片、炭化物含み、6 層は黒褐色粘質土、7 層は灰黄褐色粘性砂質土で地山ブロックが混入し、8 層は黄褐色粘質土 10 ～ 15㎝大砂岩川原石や 50㎝大の結晶片岩を含む。

遺物出土状況　上層からは須恵器や土師器が、下層からは弥生土器が出土した。

時期　縄文時代晩期から平安期にかけて堆積した落ち込みである。



第 146 図　D 区 9 号性格不明遺構　遺構図・遺物図 (1)

D 区 6 号性格不明遺構 (／旧 2009　D 区 SX1006)

位置　G11

構造・規模　平面形態は不整形、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 3.14m、短軸長 1.29m、深度 0.73m、主軸方位 N-20° -E を測る。

土層　灰オリーブ粘質土である。

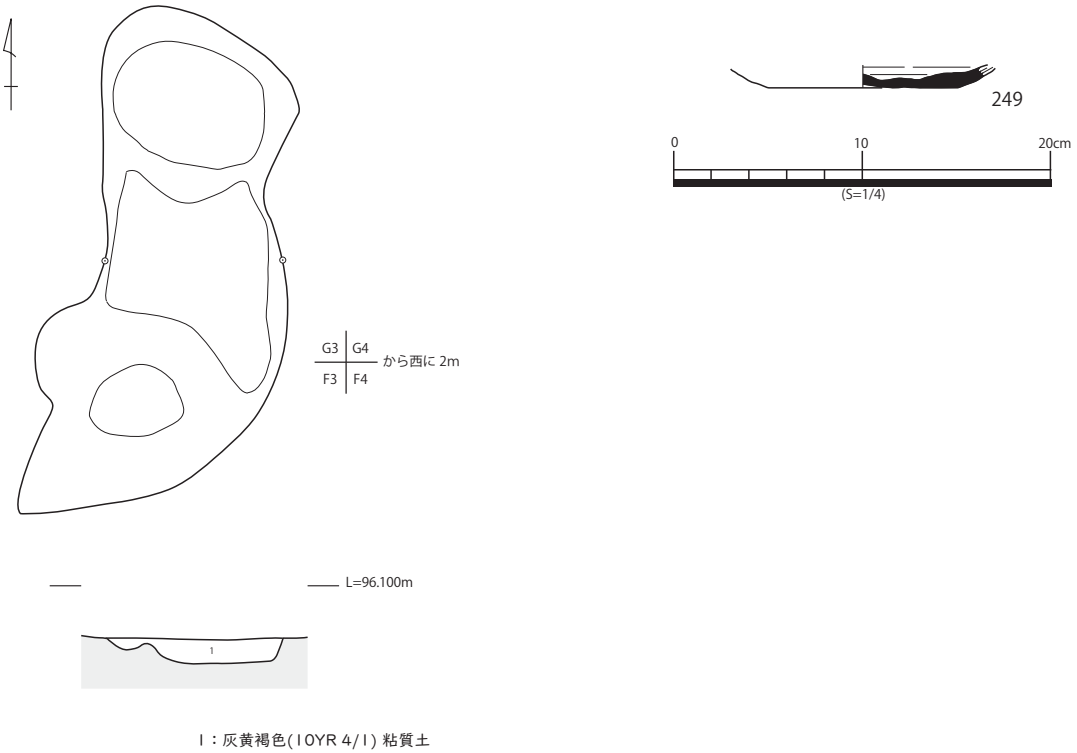
遺物出土状況　上層より近世焙烙や結晶片岩割石が出土した。

時期　近世後半期と推定される。もしくは撹乱の可能性がある。

D 区 7 号性格不明遺構 (／旧 2009　D 区 SX1007)

位置　G11

第 147 図　D 区 9 号性格不明遺構　遺物図 (2)



第 148 図　F 区 4 号性格不明遺構　遺構図・遺物図

構造・規模　平面形態は不整形、断面形態は丸底形を呈する。長軸長 1.97m、残存短軸長 1.06m、深度 0.17m、主軸方位は N-12° -E を測る。
土層　灰オリーブ色砂質土である。
遺物出土状況　下層より、弥生土器鉢が、上層より土師器が出土した。
時期　弥生時代後期である。

D 区 9 号性格不明遺構 (／旧 2009　D 区 SX1009)
位置　F10,F11
構造・規模　平面形態は不整形、断面形態は二段形を呈する。残存長軸長 1.99m、短軸長 1.36m、深度 0.49m、主軸方位 N-81° -W を測る。
土層　1 ～ 4 層はにぶい黄褐色砂質土、5 層は暗褐色砂質土、6 層はにぶい黄色砂質土である。
遺物出土状況　上層より土師器が出土した。
時期　室町期である。

⑥出土遺物

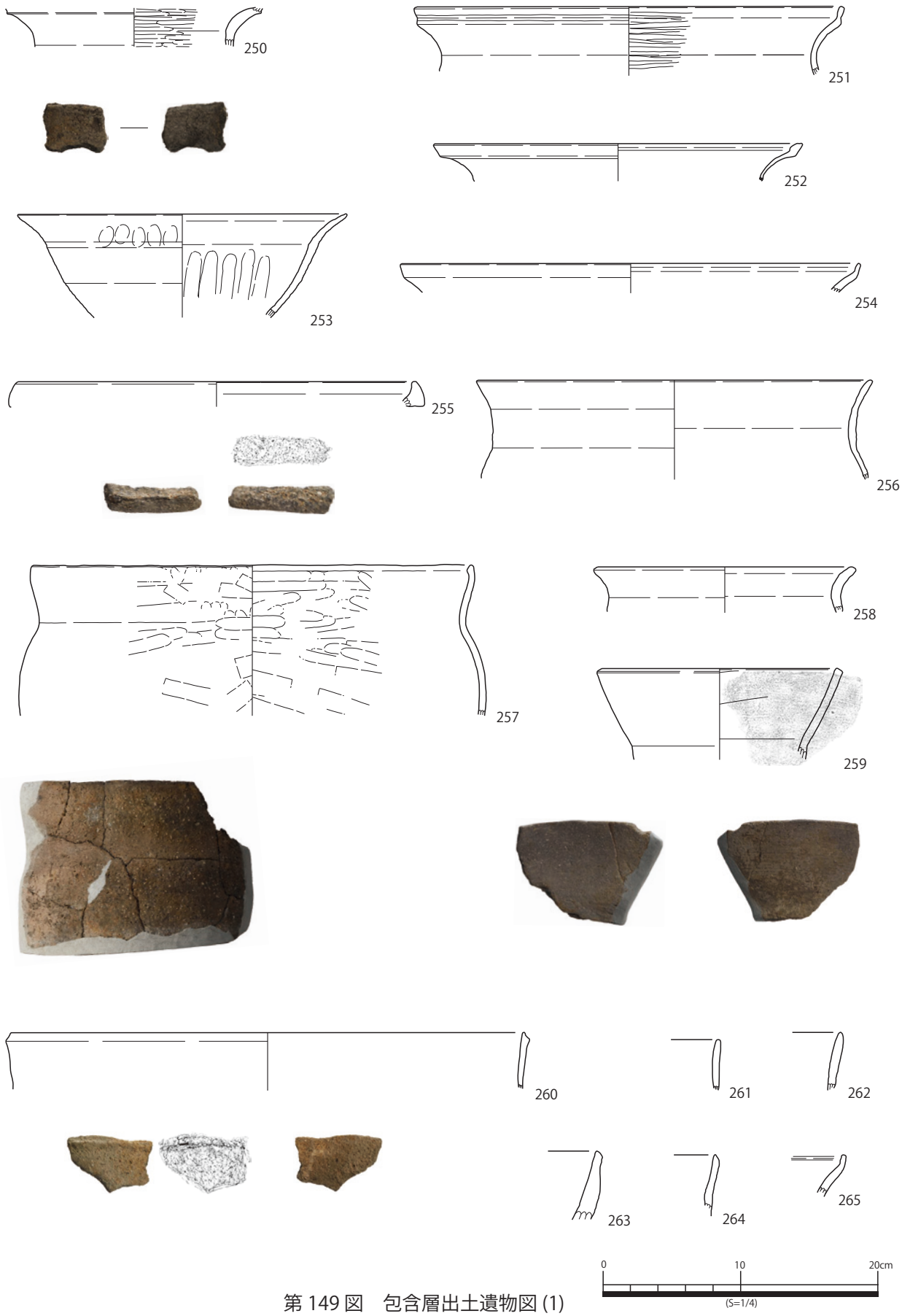
117 は縄文土器深鉢で、胎土中に花崗岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。250,260 は縄文土器浅鉢で、突帯部に刻目は伴わない。251 は縄文土器深鉢で、胎土中に金雲母や砂岩粒を含み讃岐地域からの搬入品と推定される。278 は縄文土器深鉢で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。

23 は弥生土器壺で、愛媛県東予地方からの搬入品の可能性がある。64 は弥生土器鉢で、胎土中に角閃石は含まないが花崗岩を含むことから讃岐西部地域 (非香東川流域) からの搬入品と推定される。67 は弥生土器高坏で、胎土中の結晶片岩粒から吉野川上流域産と推定される。78 は弥生土器壺で、土佐地域からの搬入品の可能性がある。80,82,84 は弥生土器甕で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。85 は弥生土器壺で、愛媛県東予地方からの搬入品の可能性がある。89,91 は弥生土器壺で、2 次焼成による被熱赤変痕の可能性がある。114 は弥生土器甕で、胎土中に砂岩粒や花崗岩粒を含み、讃岐西部地域からの搬入品である可能性がある。118 は弥生土器甕で、体部と口縁部で胎土に違いが認められる。128 は弥生土器壺で、胎土中に結晶片岩粒を含まない。141 は弥生土器甕で、胎土中に結晶片岩粒を含まず、搬入品の可能性がある。164 は弥生土器鉢で、胎土中に金雲母や花崗岩粒を含み搬入品である。233 は弥生土器壺で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。246 は弥生土器壺で、胎土中に花崗岩粒を含み讃岐地域からの搬入品の可能性がある。288 は弥生土器甕で、讃岐地域からの搬入品である。289,290 は弥生土器甕で、瀬戸内地域からの搬入品と推定される。292 は弥生土器甕で、淡路型甕の可能性がある。293 は弥生土器甕で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。295 は弥生土器甕で、胎土中に結晶片岩粒と花崗岩粒を含み伊予東部からの搬入品の可能性がある。307 は弥生土器壺で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。311 は弥生土器甕で、外面に被熱による発泡痕が残る。319 は弥生土器高坏で、讃岐地域からの搬入品である。

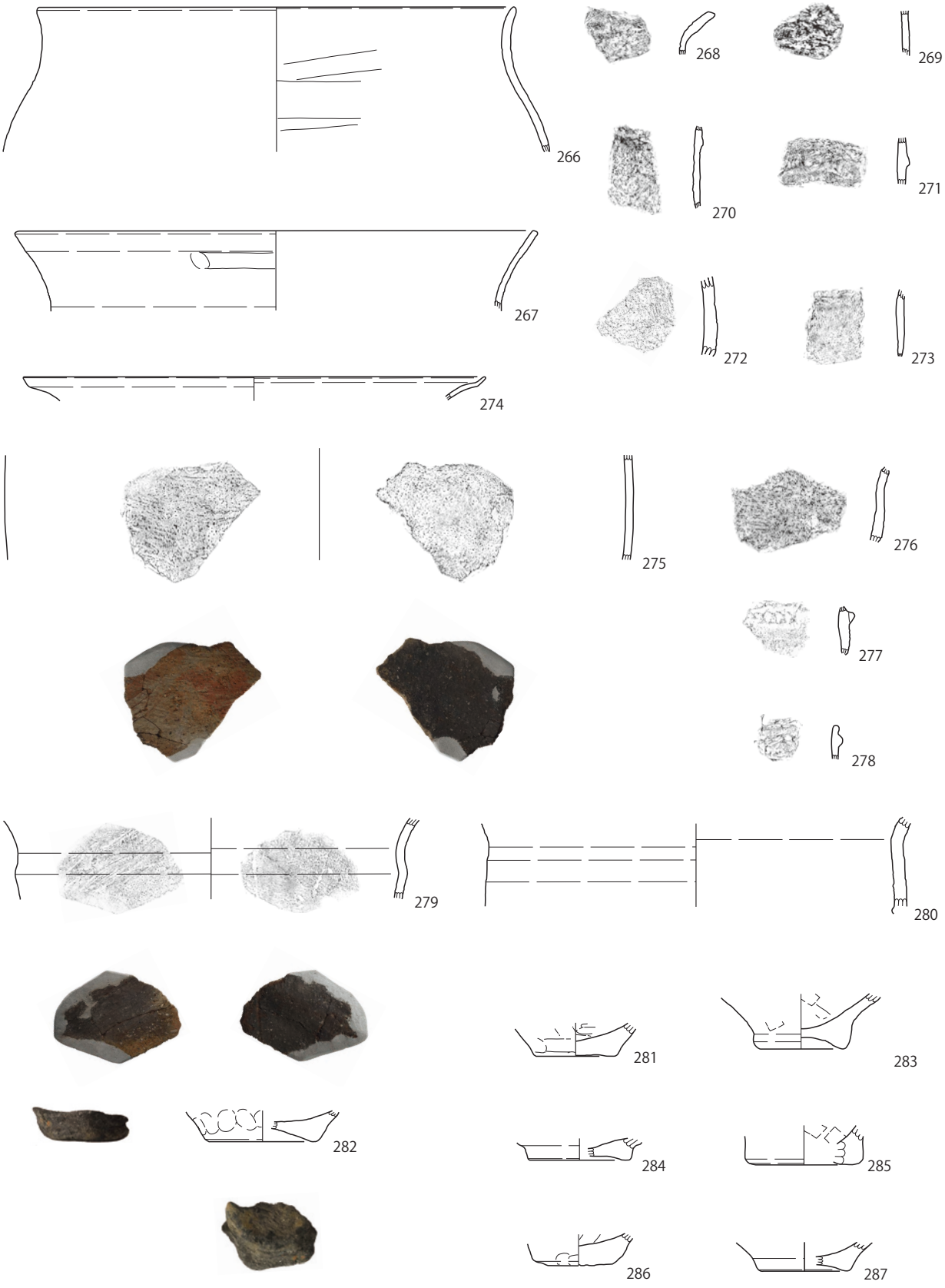
2 は須恵器杯で、底部外面に籾殻状の圧痕が観察される。16 は須恵器壺で、体部が提瓶の製作技法を用いる。50 は須恵器壺で、「＋」状のヘラ記号が施される。31 は須恵器杯で、口縁端部に打ち欠きを施し外面に煤が付着することから灯明皿として転用している。74 は須恵器金属器模倣鉢である。123 は須恵器高台付杯で、底部内面に煤が付着しており灯明皿に転用した可能性がある。また外面には 2 次焼成による被熱痕が観察される。171 は弥生土器壺で、内面には棒状工具による強いナデやオサエの痕跡が残る。底部内外面に焼成時破裂痕が残る。190 は須恵器壺で、頸部にヘラ記号が施される。249 は須恵器杯で、灯明皿に転用している。264 は須恵器高台付杯で、内面に熔解・発泡した炉壁状物質が溜まる。336 は須恵器杯で、口唇部に墨状の黒色物質が付着する。337,338 は須恵器高台付椀で、体部を打ち欠く。339 は須恵器椀で、外面に赤色顔料を塗布している。342 は須恵器高台付椀で、高台貼付のユビナデは雑で、内面に火襷痕が残る。351 は須恵器蓋で、内面を硯として転用か。353 は須恵器蓋で、内面に二枚貝の痕跡が残る。360 は須恵器壺で、頸部から上は打ち欠きか。365 は須恵器壺で、内面に敲打痕が残る。366 は須恵器鉢で、底部外面に篦による轆轤からの剥がし痕が残る。394 は瓦器椀で、内面に付着物が残る。399 は瓦器椀で、体部と高台の一部を打ち欠き、灯明皿として転用。

20 は土師質土器鍋で、胎土中に角閃石や花崗岩を含み讃岐等の領家帯からの搬入品と推定される。25 は土師器杯で、外面に赤色顔料を塗布されている。36 は土師器皿で、底部内面に粘土紐巻痕をそのまま残す。53 は土師器甑で、把手が剥落している。68 は土師器杯で、口縁端部に 1 ヶ所の打ち欠きを施す。70 は土師器杯で、胎土中に砂岩粒を含み搬入品の可能性もある。71 は土師器甕で、胎土中に砂岩粒を含み搬入品の可能性もある。73 は土師器皿で、内外面丹塗りである。93 は土師器杯で口縁端部に 2 ヶ所の打ち欠きが施される。98 は瓦器椀で、内面に火襷痕が残る。102 は黒色土器椀で、体部を打ち欠き転用皿とする。底部外面に 3 条の沈線が施されており、高台設定技法の痕跡である。104 は土師器杯で , 体部を打ち欠き皿に転用している可能性がある。107 は瓦質土器擂り鉢で、内面は使用に伴う摩滅が著しい。底部外面には種子圧痕が残る。108 は土師器鉢で、胎土中に金雲母を含むことから讃岐地域からの搬入品の可能性がある。109 は土師質土器羽釜で、胎土中に泥岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。111 は土師器甕で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。135 は、黒色土器高台付椀で口縁部外面付近に煤が付着し、高台内に赤色顔料が残る。137 は黒色土器高台付椀で、底部外面にヘラ記号があり、また 3 条の沈線が施されており、高台設定技法の痕跡である。142 は土師器甑で、胎土中に結晶片岩粒を含まず、搬入品の可能性がある。152 は土師質土器鍋で、胎土中に花崗岩粒を含み讃岐地域からの搬入品である可能性がある。154 は土師質土器鍋で、胎土中に金雲母粒を含み讃岐地域からの搬入品である可能性がある。158 は土師器高台付椀で、底部内面に当て具痕が残る。159 は土師器椀で、搬入品の可能性がある。162 は土師質土器羽釜で、粘土紐痕が残る。172 は土師質土器鍋で、結晶片岩粒を含まず、搬入の可能性がある。177 は土師質土器鍋で、胎土中に花崗岩粒を含み讃岐地域からの搬入品の可能性がある。184,186,187 は土師質土器羽釜で、胎土中に結晶片岩粒を含まず搬入品の可能性がある。185 は土師質土器羽釜で、胎土中に花崗岩や金雲母を含むことから領家帯地域からの搬入品である。197 は土師器椀で、体部下半に赤色顔料を塗布する。200 は土師器高台付椀で , 外面に赤色塗彩が施される。203,212 は土師質土器鍋で、胎土中に金雲母を含むことから讃岐地域からの搬入品である可能性がある。219 は土師器皿で、耳杯の可能性がある。224 は土師器甕で、内部からの敲打による穿孔が施されている。226 は土師質土器擂り鉢で、胎土中に花崗岩粒を含み讃岐地域からの搬入品の可能性がある。外面に煤が付着する。229 は土師質土器羽釜で、胎土中に泥岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。239 は土師質土器鍋で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。373 は土師器高台付椀で、口縁部を打ち欠いた後に再度体部割れ口を丁寧に研磨することにより口縁状に仕上げる。376 は黒色土器高台付椀で、胎土中に川原石粒を多く含む。389 は土師器椀で、体部内面に雑穀 (豆)? の圧痕が残る。393 は土師器高台付椀で、体部を打ち欠き皿として転用か。396 は土師器高台付皿で、内外面に赤色顔料を塗布する。405 は土師器皿で、内外面赤色顔料塗布、内外面に煤が付着することから灯明皿として転用か。406 は土師器皿で、内面に煤が付着することから灯明皿として転用か。407 は土師器皿で、内外面赤色顔料塗布。414 は土師質土器羽釜で、「胎土中に金雲母を含み他地域からの搬入品の可能性がある。417,431 は土師質土器羽釜で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。435 は土師質土器羽釜で、胎土中に花崗岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。439 は土師器擂り鉢で、胎土中に花崗岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。440 は土師器擂り鉢で、口縁部外面に煤が付着し、外面に敲打痕が残る。

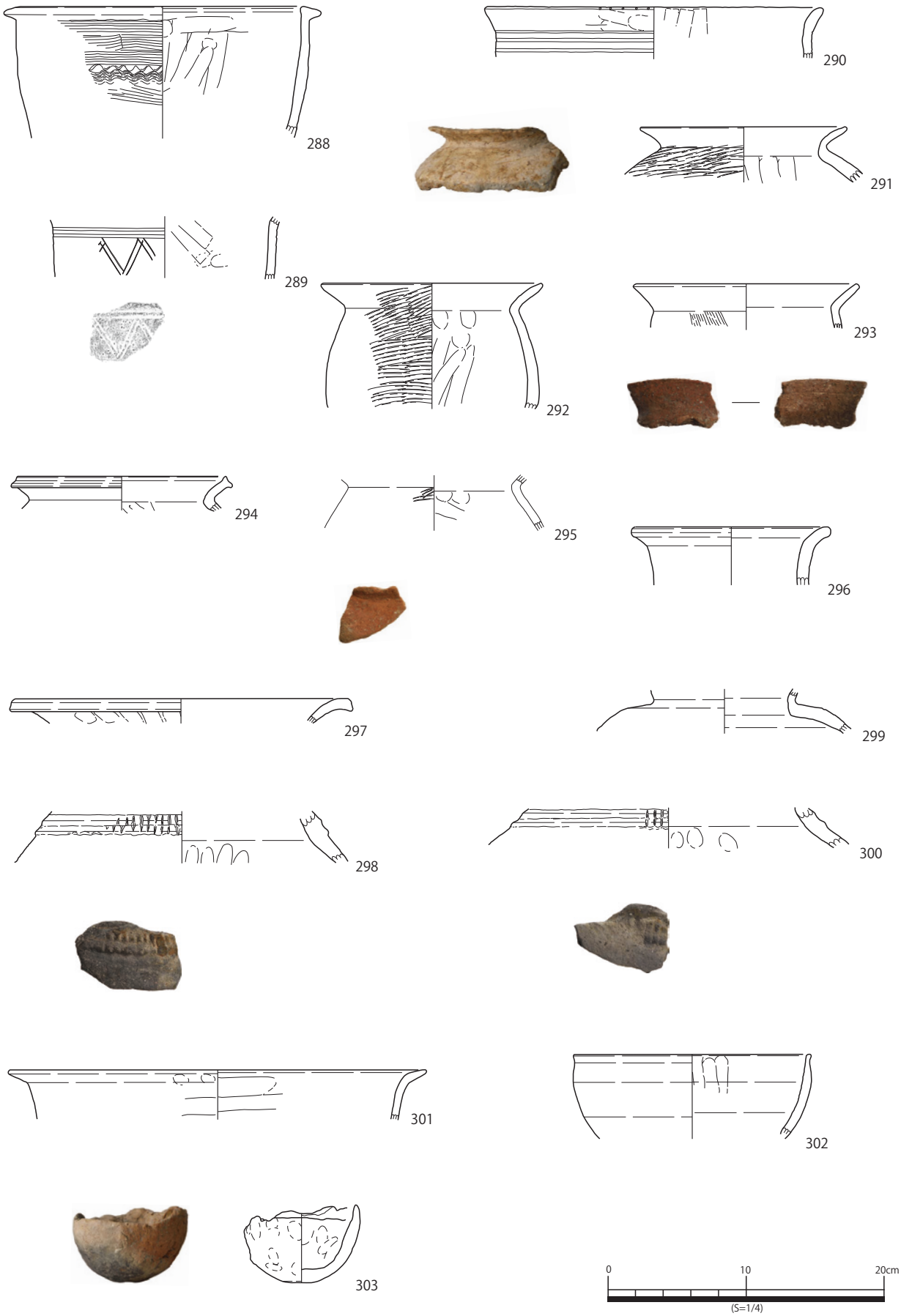
450 は磁器碗で、体部に打ち欠きを施す。455 は白磁壺で、体部を打ち欠き、皿に転用。



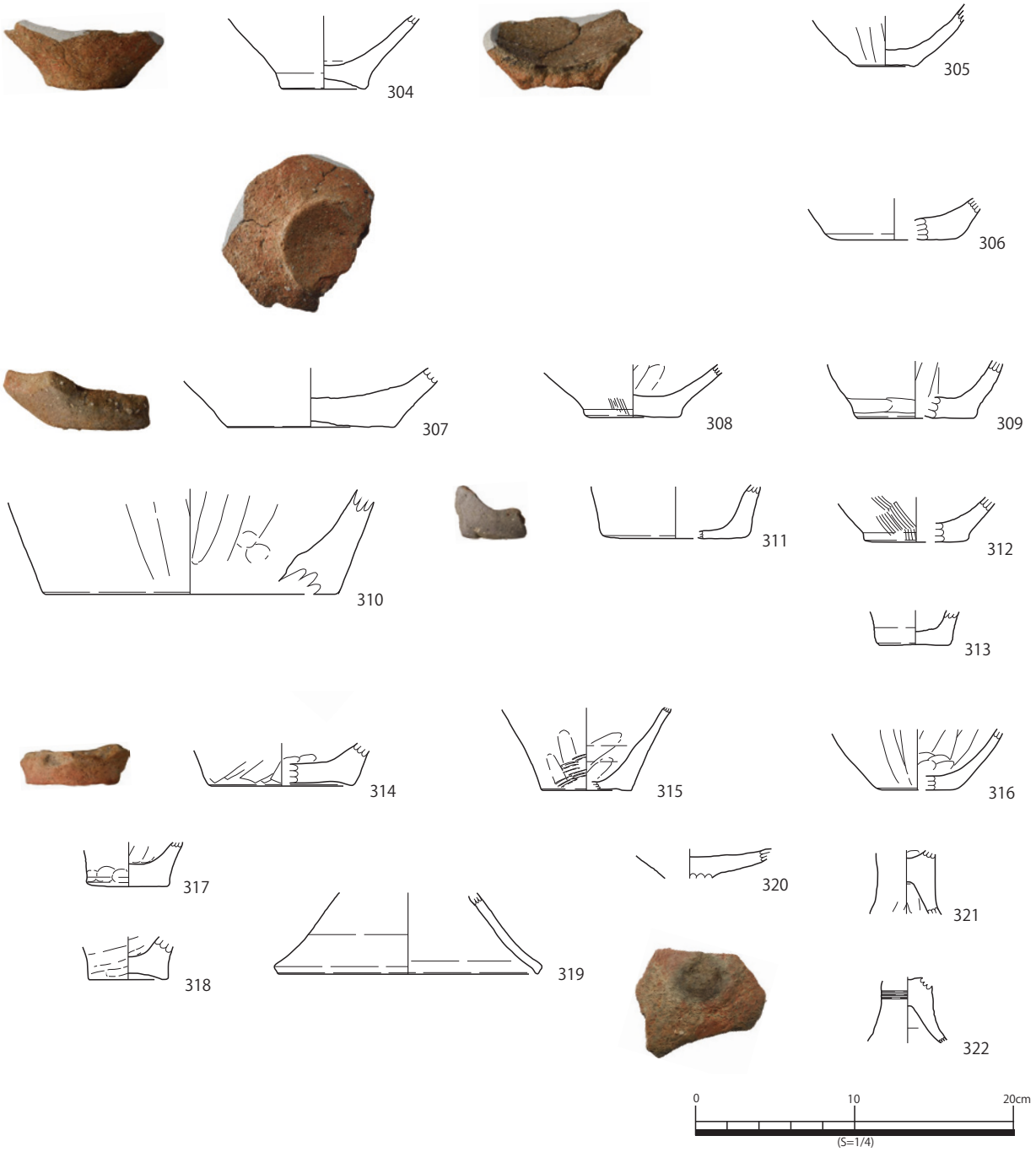
第 149 図　包含層出土遺物図 (1)



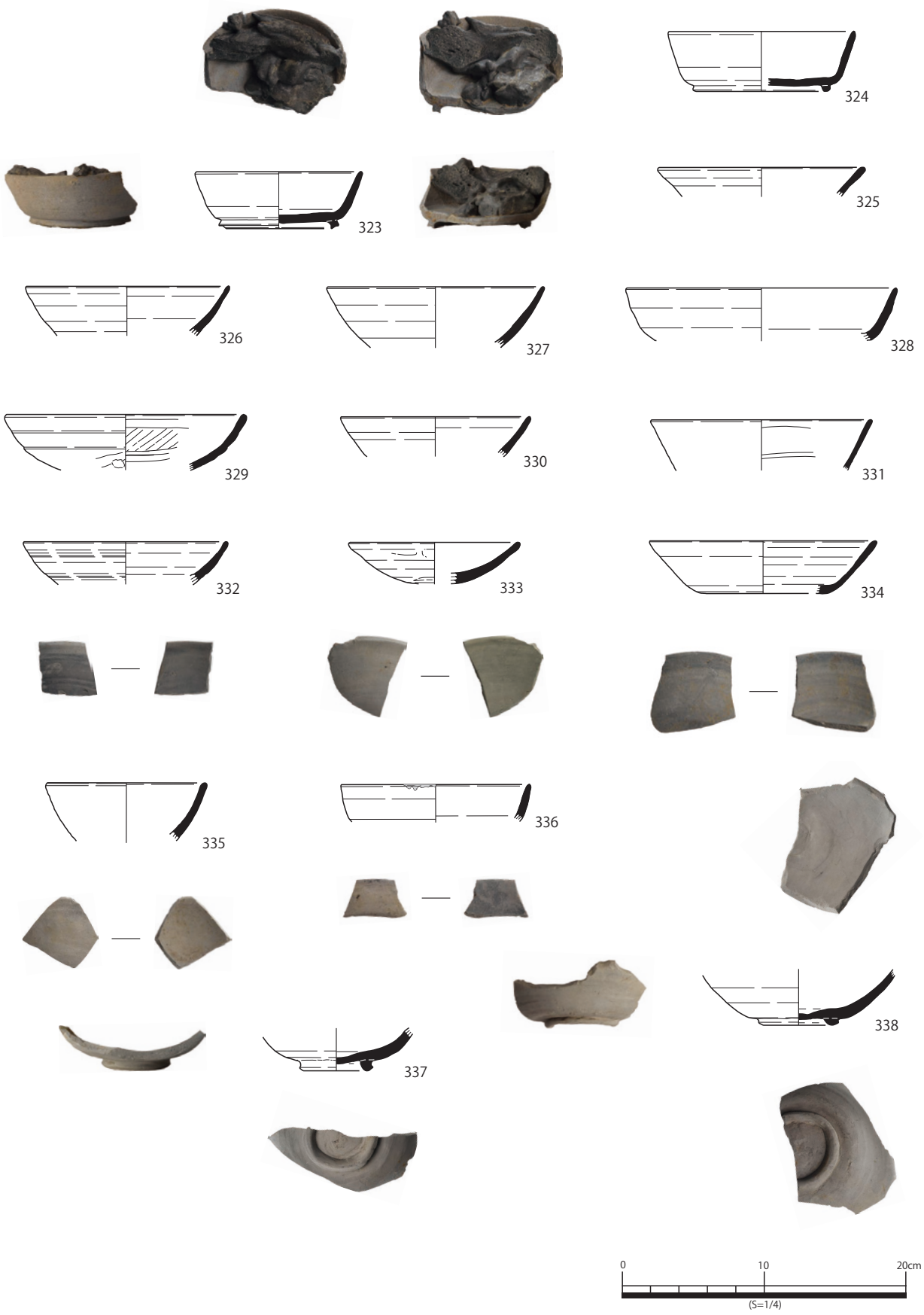
第 150 図　包含層出土遺物図 (2)



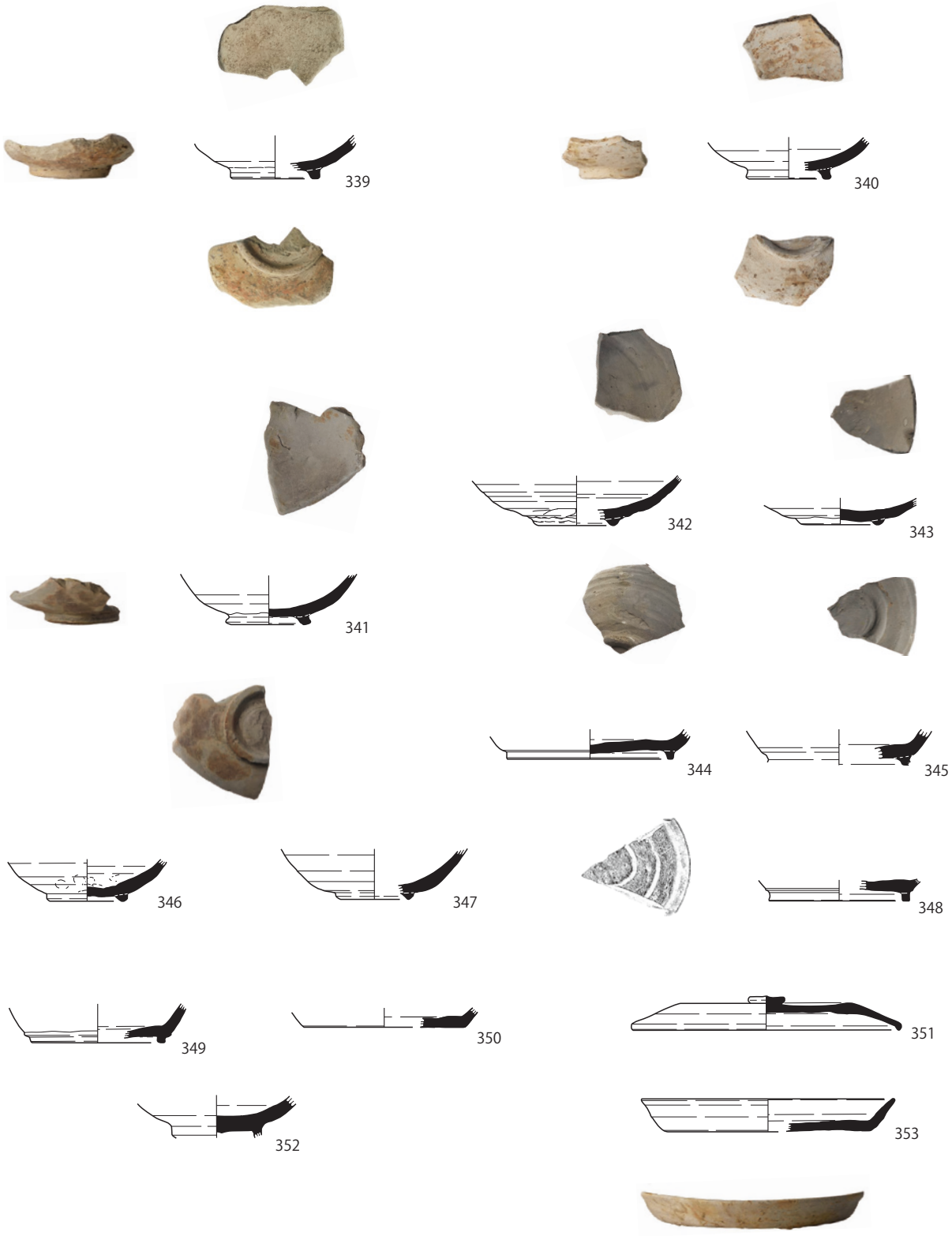
第 151 図　包含層出土遺物図 (3)



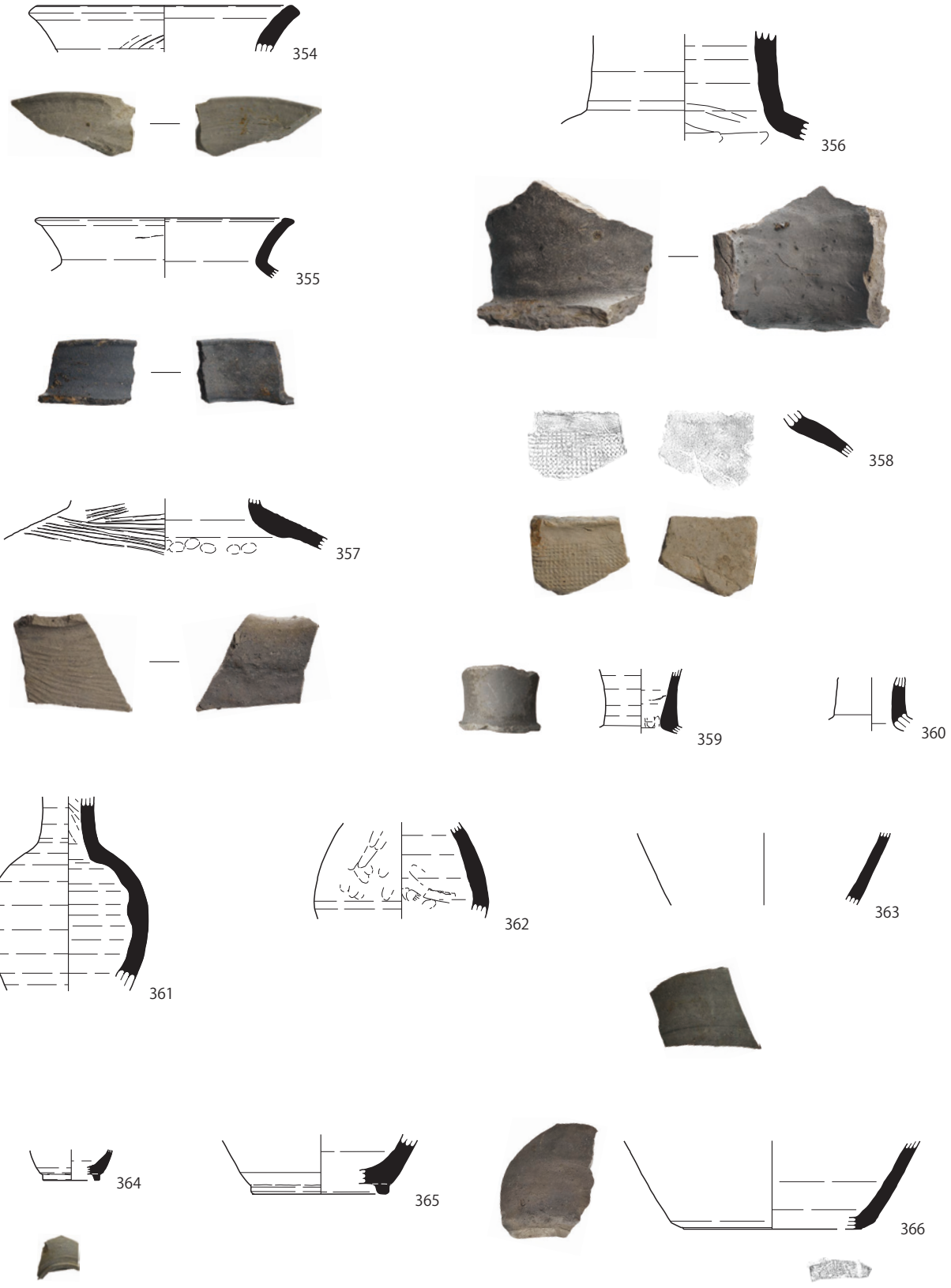
第 152 図　包含層出土遺物図 (4)



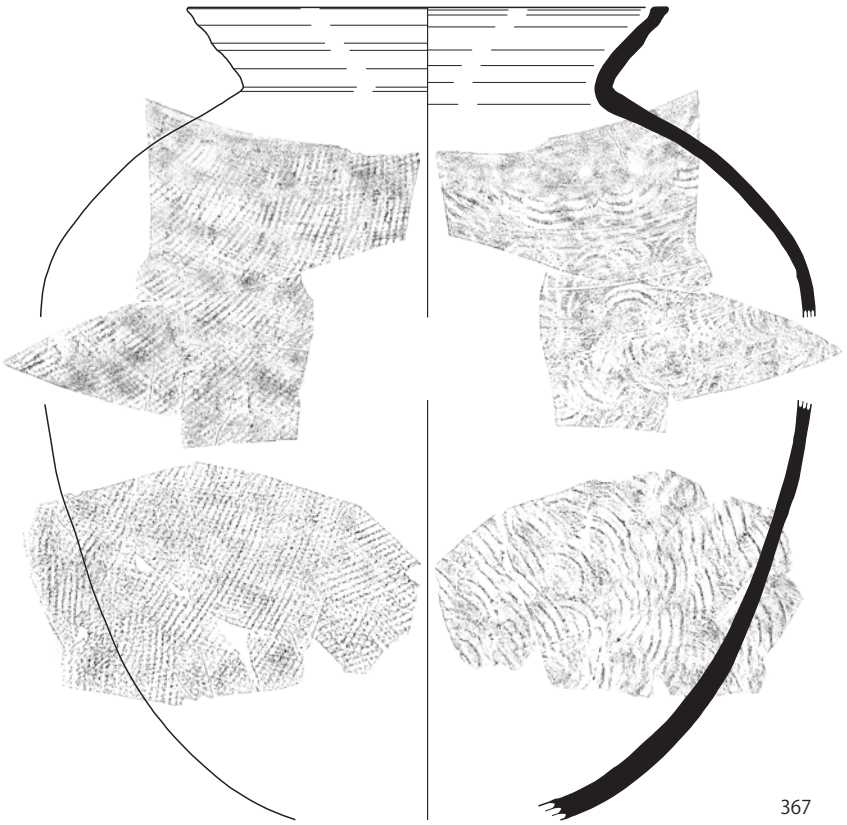
第 153 図　包含層出土遺物図 (5)

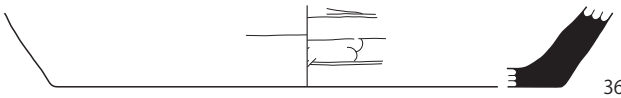


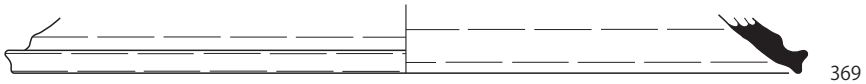
第 154 図　包含層出土遺物図 (6)

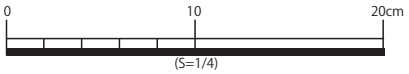


第 155 図　包含層出土遺物図 (7)

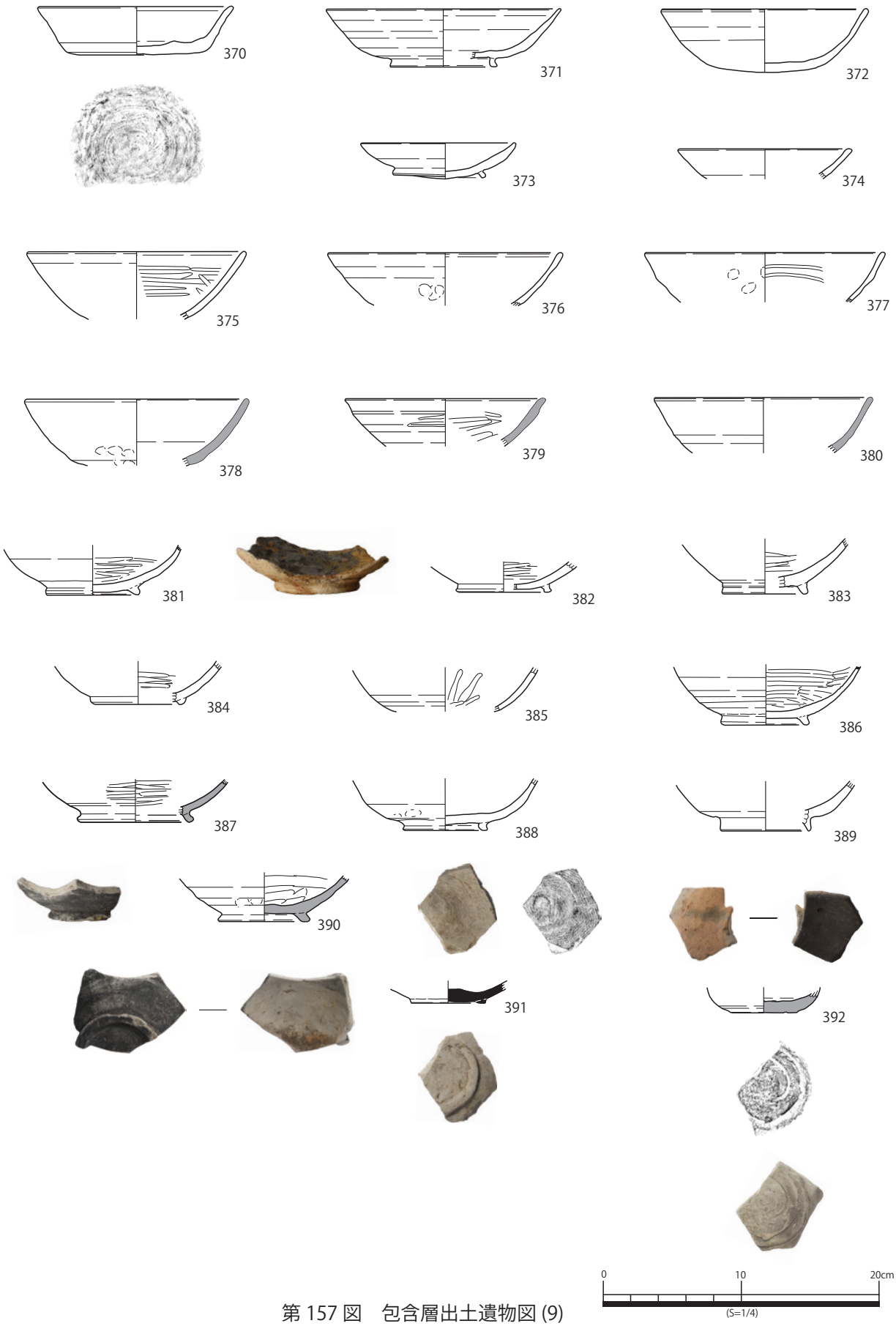




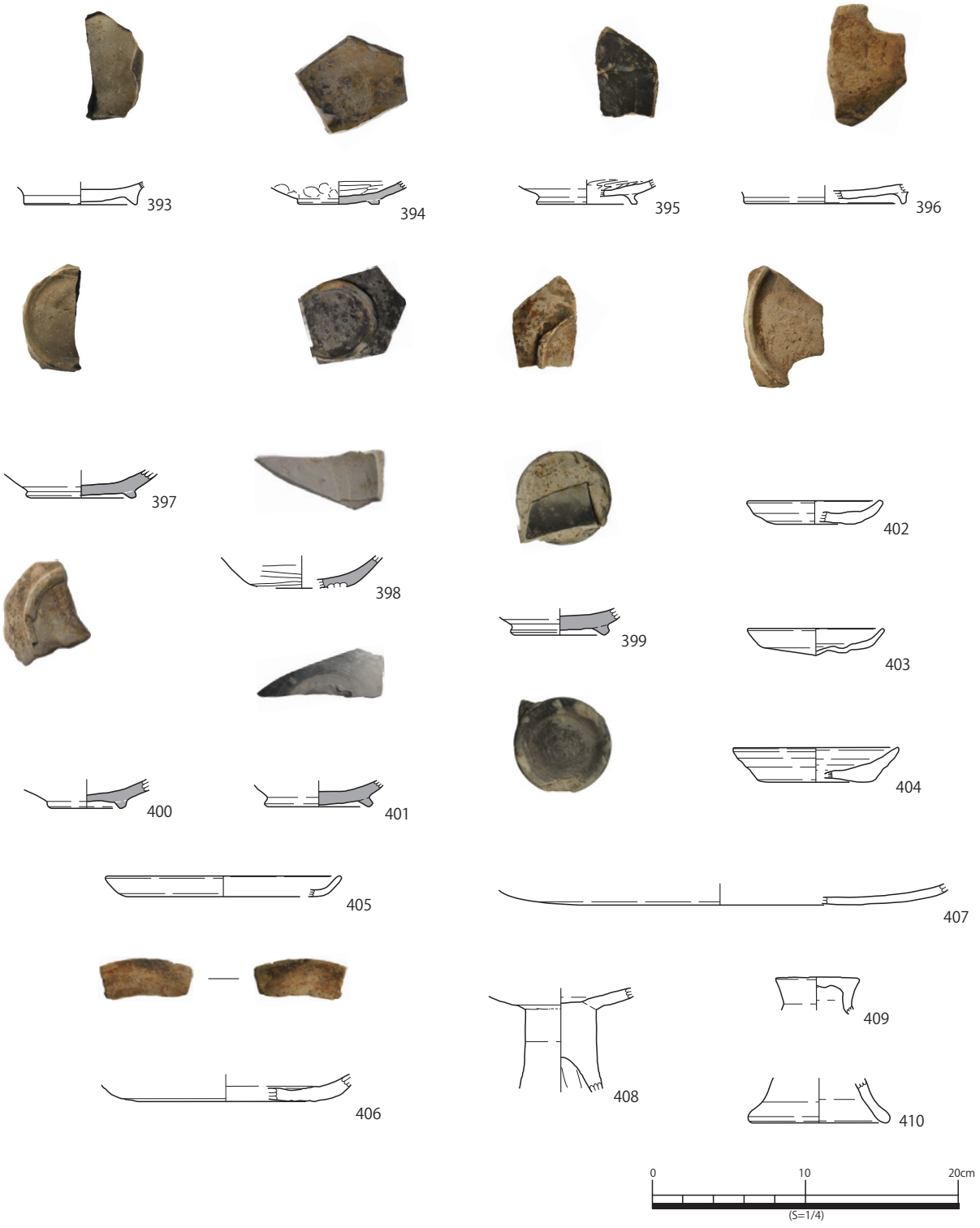




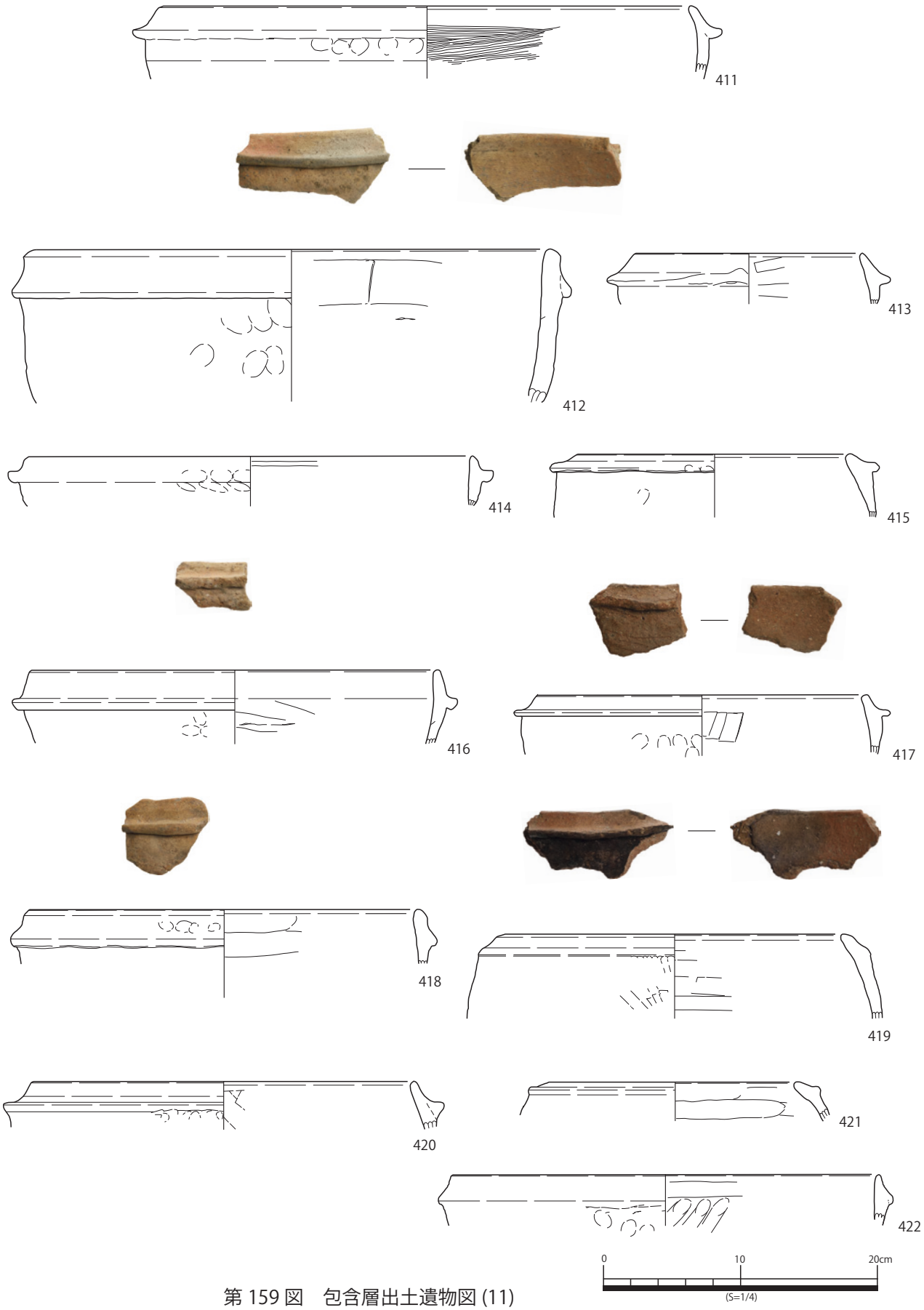
第 156 図　包含層出土遺物図 (8)



第 157 図　包含層出土遺物図 (9)

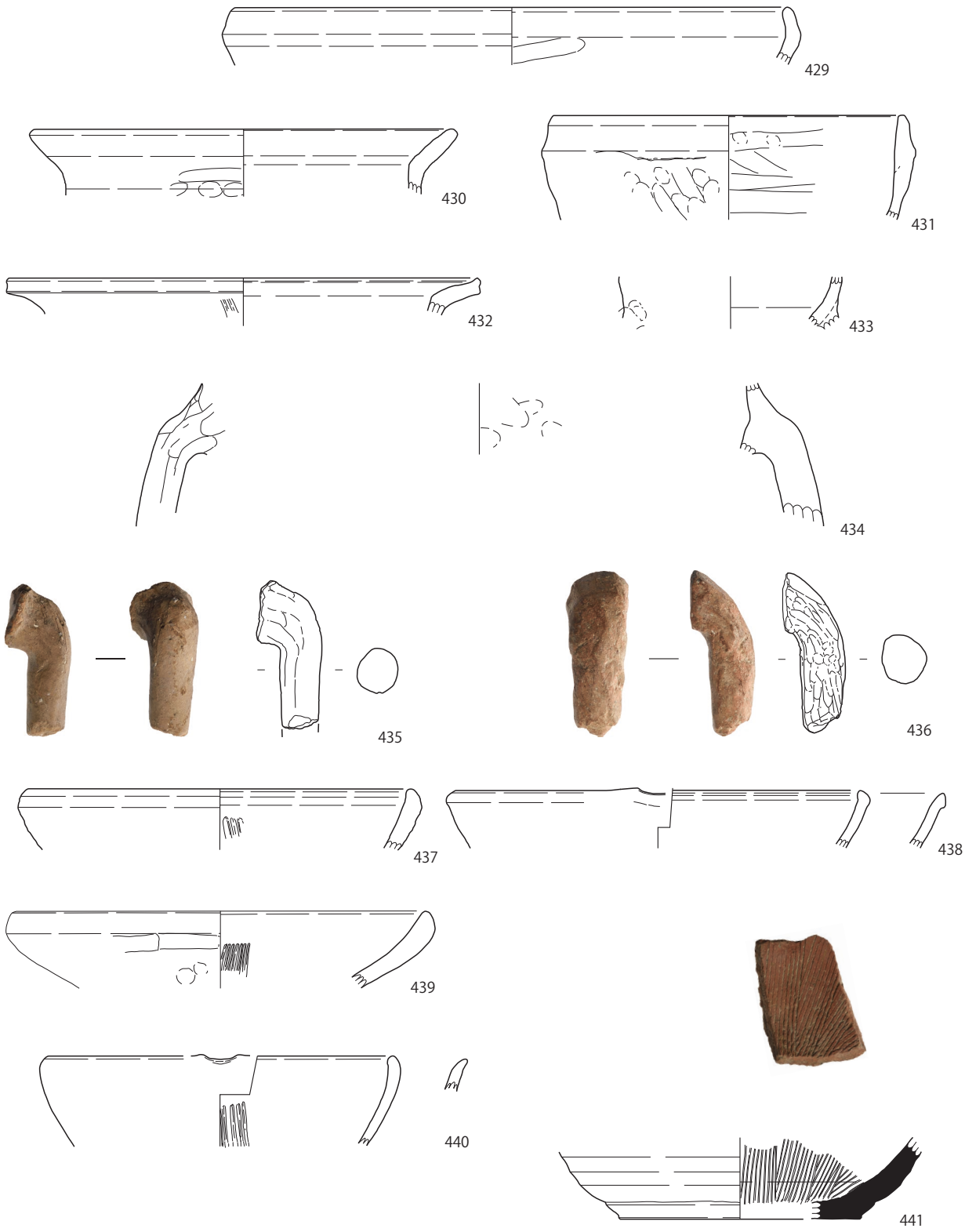


第 158 図　包含層出土遺物図 (10)

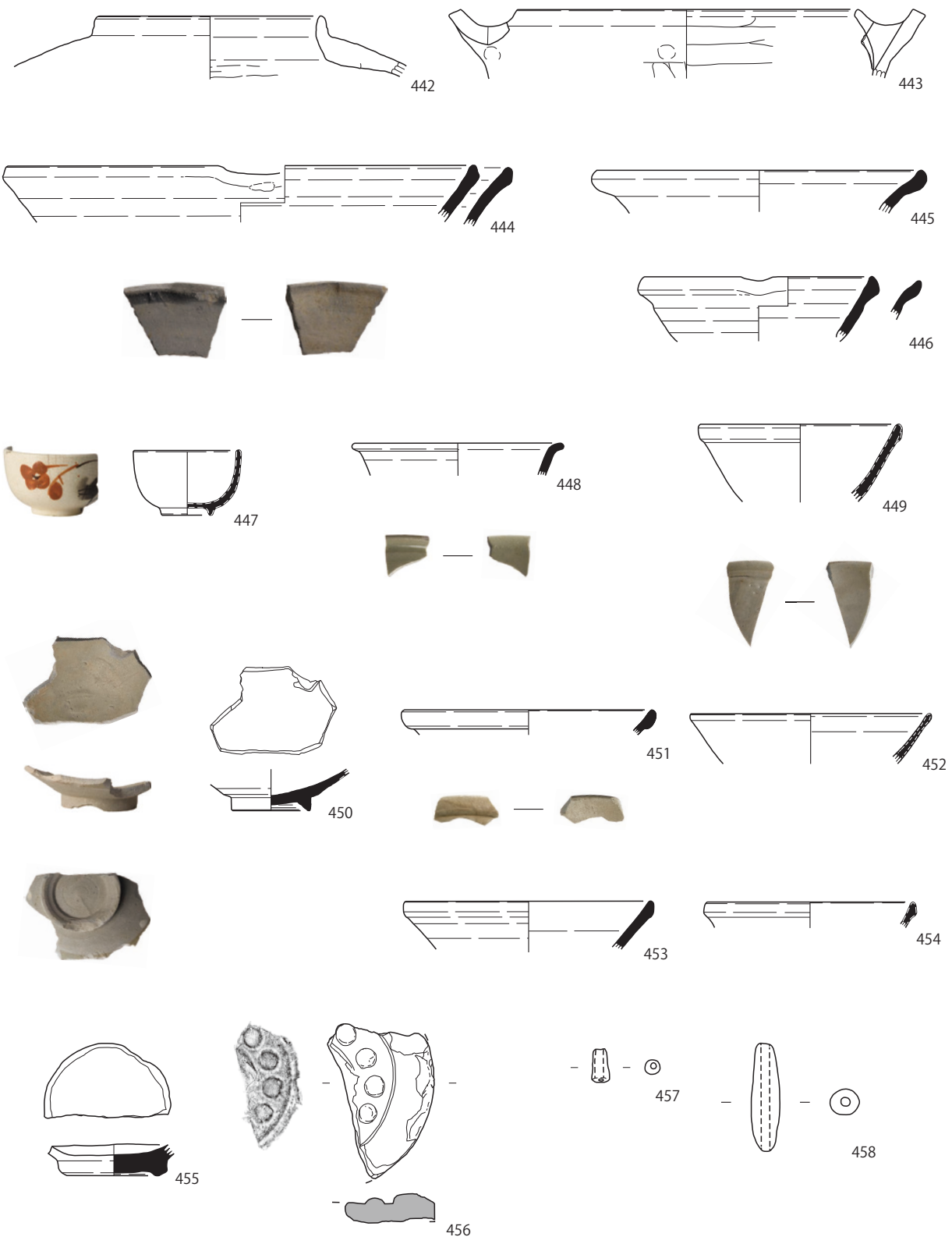


第 159 図　包含層出土遺物図 (11)

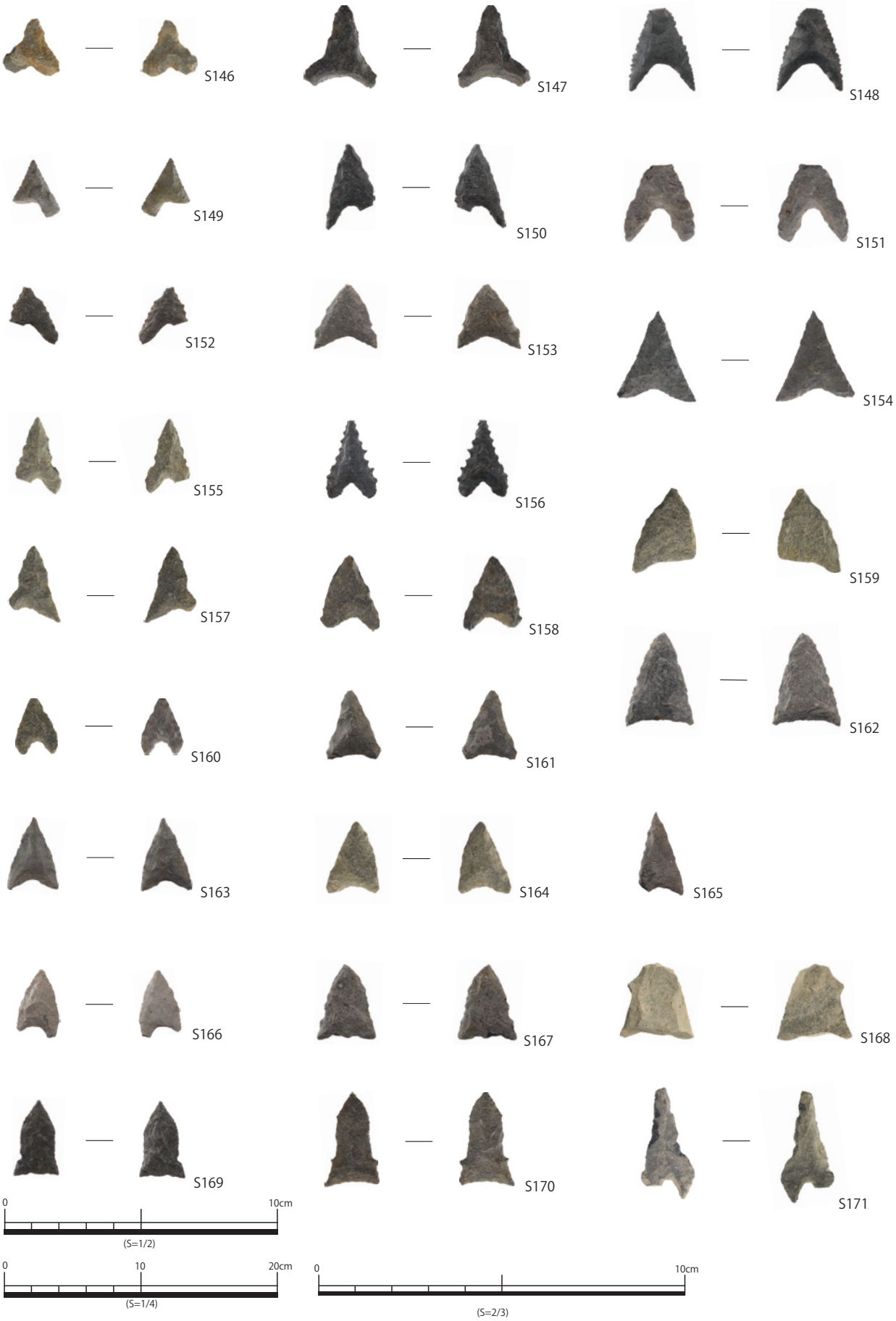
第 160 図　包含層出土遺物図 (12)



第 161 図　包含層出土遺物図 (13)

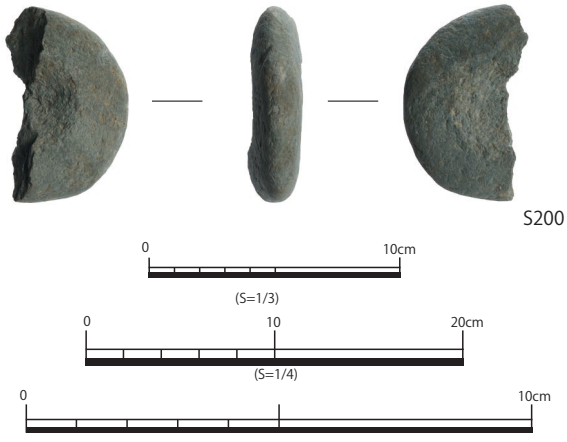


第 162 図　包含層出土遺物図 (14)

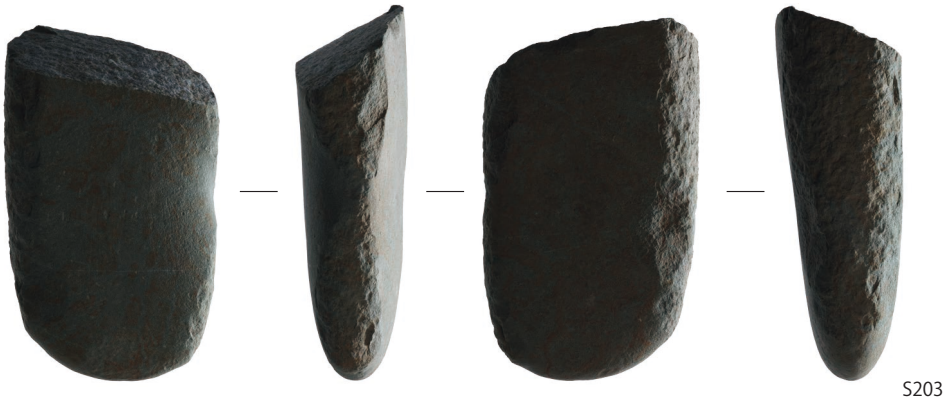


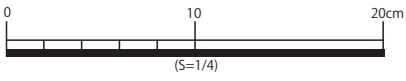
第 163 図　包含層出土遺物図 (15)

第 164 図　包含層出土遺物図 (16)

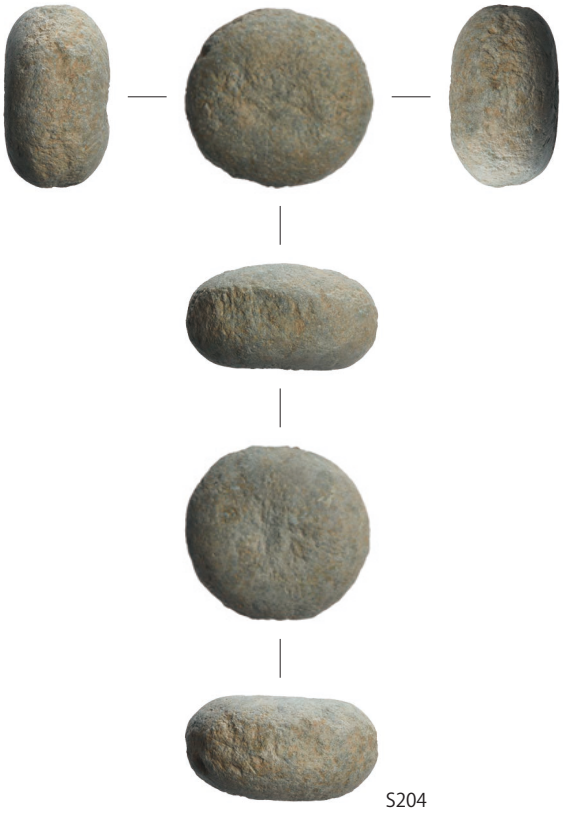


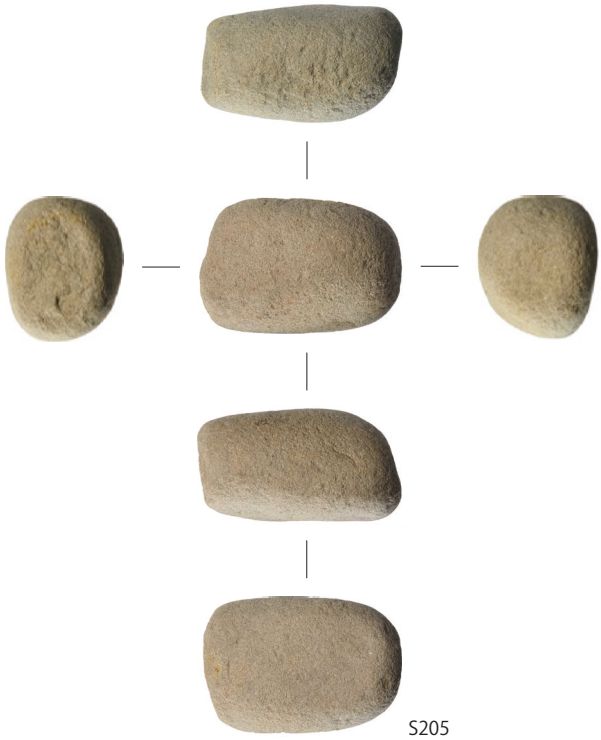
第 165 図　包含層出土遺物図 (17)





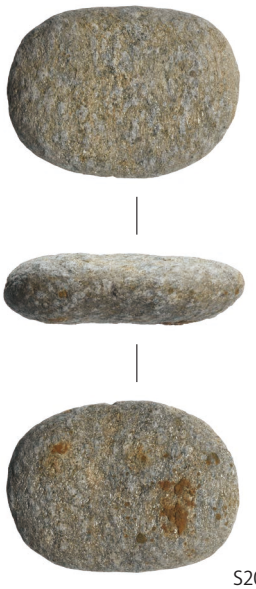
第 166 図　包含層出土遺物図 (18)

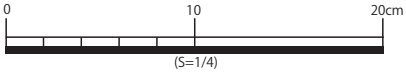

S204


S205

S206

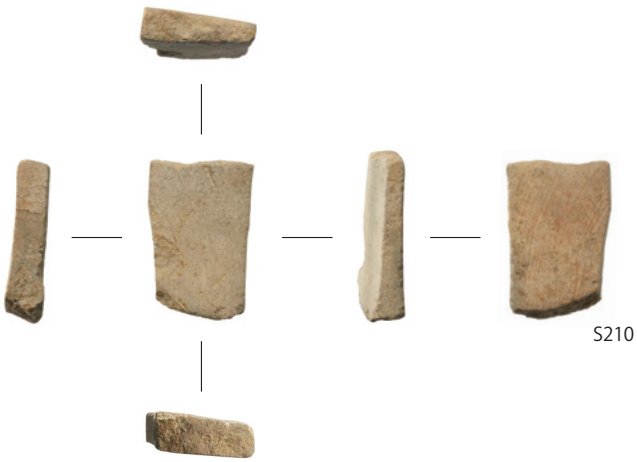
S207


S208



第 167 図　包含層出土遺物図 (19)

S209


S210

S211

S212

0 10cm
(S=1/3)

0 10 20cm
(S=1/4)

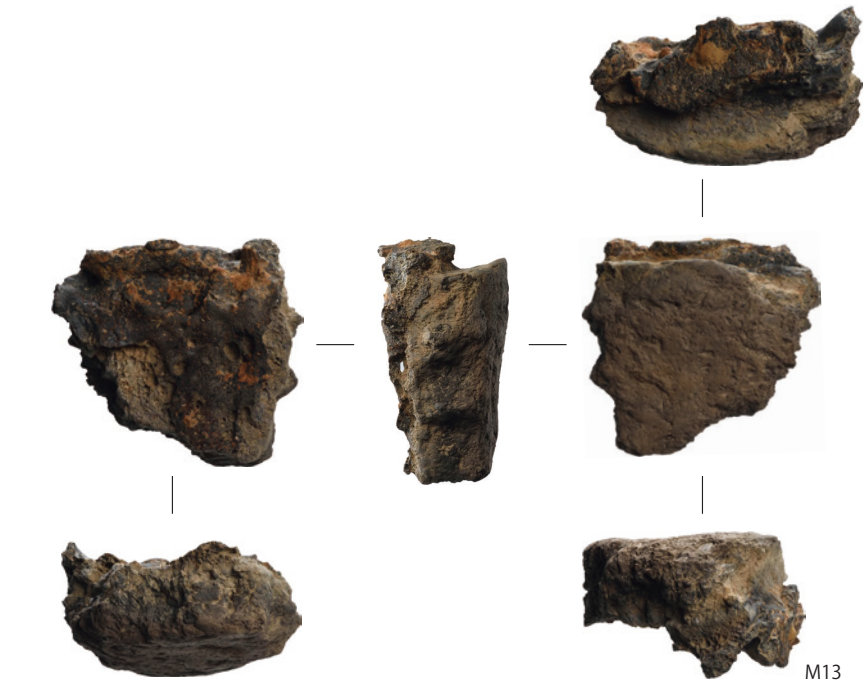
第 168 図　包含層出土遺物図 (20)

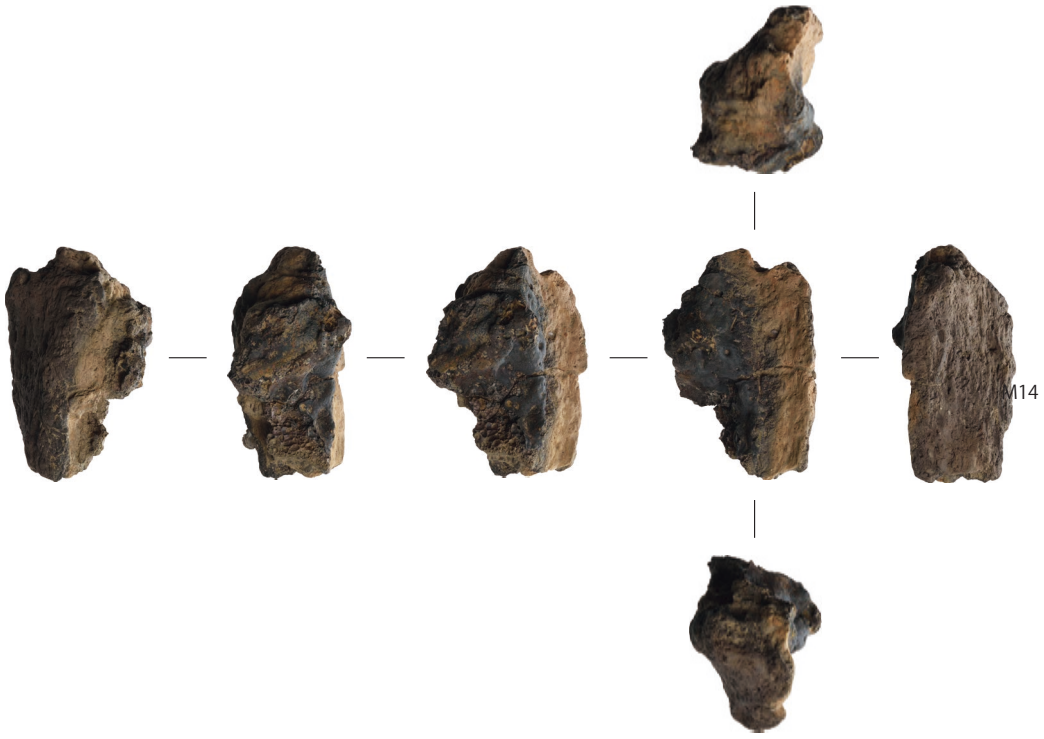
第 169 図　包含層出土遺物図 (21)

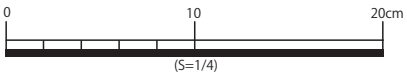
第 170 図　包含層出土遺物図 (22)

第 171 図　包含層出土遺物図 (23)

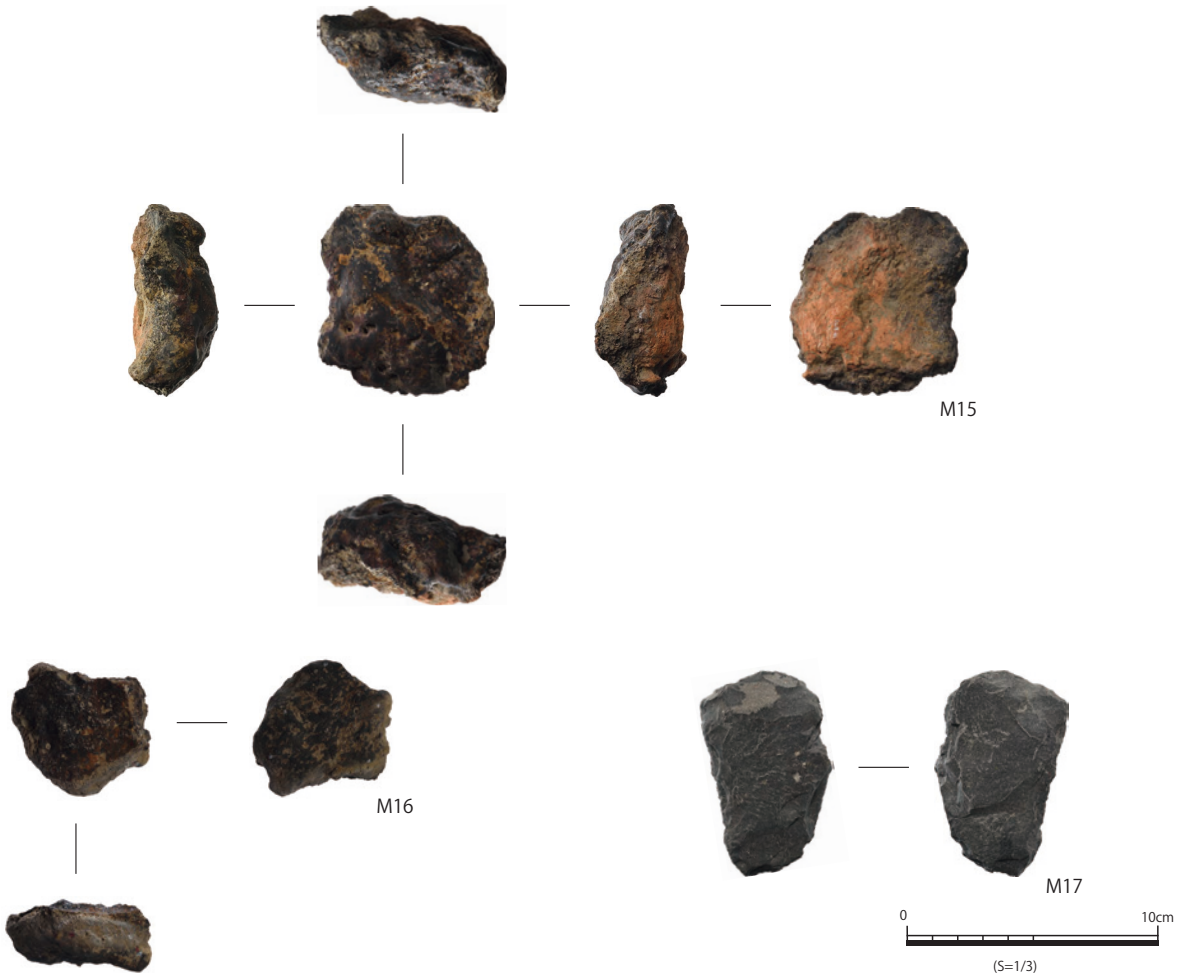
第 172 図　包含層出土遺物図 (24)







第 173 図　包含層出土遺物図 (25)



第 174 図　包含層出土遺物図 (26)

3　まとめ

鮎苦谷川西岸の中位段丘・高位段丘に展開する西州津遺跡乳ノ木・滝端地区と井関地区において、縄文時代・弥生時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代の遺構・遺物を確認した。

高位段丘面の井関地区において堅果類貯蔵穴群が 40 基弱確認された。何れも縄文時代晩期前半 (滋賀里Ⅲ式) に属する。貯蔵穴の平面形態は、ほぼ円形もしくは不整円形で、最大規模は直径 1.9 m、最小規模直径 1.1 mを測り、概ね直径 1.5 m、深さ 0.7 mとなる。貯蔵穴の平面形態や規模は、西日本でこれまで確認された事例の範疇におさまる。堅果類は貯蔵穴 13 基から検出され、遺存状態が良好でないものが多いが、貯蔵穴の最下層から出土している。

徳島において貯蔵穴が確認された例としては、鳴門市大麻町桧に所在し、谷底小扇状地に立地する桧寺前川遺跡 (縄文時代後期中葉／元住吉山Ⅰ式) から 1 基、阿波市土成町高尾に所在し、扇状地扇央に立地する西谷遺跡 (縄文時代後期前葉／津雲 A ～彦崎 K1) から 6 基である。四国島内では、香川県三豊市詫間町須田・中尾瀬遺跡 (縄文時代後期前葉／津雲 A ～彦崎 K1) の 12 基、愛媛県西予市御荘町平城貝塚 (後期前葉～中葉) の 1 基、松山市舟ヶ谷遺跡 (晩期) の 1 基、高知県南国市岡豊町奥谷南遺跡 (中期末) の 7 基、四万十市舟戸遺跡 (後期後葉) の 1 基、香北町美良布遺跡 (晩期中葉) の 4 基、香我美町十万遺跡 (晩期後半) の 1 基が挙げられる。

西州津遺跡同様に河岸段丘もしくは類似地形に立地するのは、舟戸遺跡 (河岸段丘)、美良布遺跡 (河岸段丘)、平城貝塚 (舌状台地端) である。西州津遺跡貯蔵穴群は小型自然流路の岸辺に展開しており、水辺に構築されている須田・中尾瀬遺跡や平城貝塚・奥谷南遺跡が類似する。

平面形態も奥谷南遺跡から隅丸長方形例が検出されているが、殆どは円形もしくは不整円形や楕円形である。断面形態も奥谷南遺跡から袋状土坑を呈するが、殆どは円筒形を呈する。

西州津遺跡は四国島内で最大規模の貯蔵穴群と位置づけることが可能である。須田・中尾瀬遺跡 17 基例以外は、10 基以下で貯蔵穴群としては小型であり、西州津遺跡例を特異例とするか、他遺跡例に未検出遺構を想定するかは今後の課題である。

1999 年の発掘調査では、自然流路を水源とする水田遺構と集落関連遺構が確認された。12・13 世紀に標高の低い東側から開発・集落形成が開始し、徐々に標高の高い西側へ開発が進められ事が指摘された。今回の乳ノ木・滝端地区においても室町期や近世期の遺構・遺物を中心に確認された事から、集落形成・開発過程が追認された。但し、高位段丘に該当する井関地区では、自然流路埋没後に平安時代に再掘削された鋳造滓等の廃棄が認められることや、関所顔料を塗布した土師器が出土することから、集落が形成されていたことが伺える。吉野川北岸における猪ノ鼻峠越えを利用した讃岐地域との交流拠点として機能したことが伺える。

表2　土杭一覧表

旧調査区	旧遺構番号	小グリッド	平面形態	断面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深度(m)	主軸方位	実測番号	未掲載出土遺物
F	SK1001	C2,3D3	長方形	不整形	0.64	0.58	0.22	N-60° -E	2542	弥生土器、土師器、土師質供膳具、鉄滓
BC-2	SK1002	S11	円形	二段形	(1.45)	(1.3)	0.62	N-64° -E	2579・2580	
BC-2	SK1004	S,T11	楕円形	逆台形	1.40	1.27	0.61	N-13° -W	1143・1286・2451	
BC-2	SK1005	S,T12	円形	二段形	(0.95)	(0.80)	1.06	N-67° -E	2450・2529	
D	SK1006	G7,8	楕円形	二段形	1.60	1.22	0.12	N-79° -W	232	弥生土器・甕
BC	SK1008	E,F14	長方形	二段形	(1.62)	1.08	0.25	N-60° -E	498・497・502・541	弥生土器か、土師質土器・供膳具、焼土粒、炭化物
D	SK1009	G6	楕円形	皿形	1.22	0.86	0.14	N-20° -W	823	弥生土器、土師質土器・供膳具・煮炊具、石英礫・片岩礫、炭化物、
F	SK1010	F7	楕円形	二段形	0.41	0.27	0.23	N-82° -E	2326	弥生土器、瓦（近世以降）、鉄釘（近代）、炭化物、骨片、砂岩礫、近代ガラス瓶
F	SK1013	F6	楕円形	逆台形	(1.20)	(0.70)	0.12	N-38° -W	2283・2286・2287・2285	縄文土器か、弥生土器・甕
BC-2	SK1013	A,B14	不整形	二段形	1.75	1.20	0.33	N-79° -W	1197	
D	SK1014	F6	不整楕円形	皿形	0.84	0.52	0.08	N-2° -E	2281	
F	SK1014	F6,7	長方形	皿形	(0.93)	(0.80)	0.04	N-38° -W	839・2282	縄文土器、弥生土器甕サヌカイト剥片
BC-2	SK1016	B13	円形	舟底形	1.75	1.19	0.86	N-27° -W	1507・2581	
BC	SK1020	S8	不整方形	逆台形	1.65	(1.54)	0.71	N-58° -W	262・263・268・270・276・277・278・279・287・288・257・511・539・781・1186	縄文土器、弥生土器・甕、サヌカイト剥片、片岩礫、炭化物
H	SK1020	C16,17	円形	二段形	1.25	1.17	0.28	N-82° -E	2374	
BC	SK1021	S8S9	不整円形	舟底形	(1.45)	1.4	0.98	N-22° -W	455	縄文土器、弥生土器、サヌカイト剥片、片岩礫・凝灰岩礫
H	SK1021	B,C16	方形	長方形	0.94	0.96	0.19	N-34° -W	2373・2375	
BC	SK1023	S9T9	不整方形	逆台形	1.85	1.65	0.85	N-9° -W	44	縄文土器、弥生土器
BC	SK1024	S9	不整円形	二段形	1.60	(1.45)	0.84	N-50° -W	1・36・38・39・40・41・42・43・515	縄文土器、弥生土器、サヌカイト剥片、炭化物
BC	SK1029	T10	不整円形	逆台形	1.66	1.37	0.67	N-43° -W	45	縄文土器か、弥生土器、炭化物
BC	SK1030	T10S10	円形	二段形	1.59	1.35	0.89	N-43° -W	272	縄文土器か、弥生土器、
BC	SK1031	S10	不整円形	二段形	1.33	(0.82)	0.70	N-67° -W	37	縄文土器、弥生土器、炭化物、片岩礫、砂岩礫
BC	SK1032	T10	不整方形	二段形	1.45	1.23	0.56	N-68° -W	33	
BC	SK1033	S10,11	不整円形	舟底形	1.53	(0.93)	0.85	N-62° -E	286・500・501	
BC-2	SK1033	S10	不整円形	-	1.14	(0.65)	-	N-50° -E	2577	
BC	SK1034	T10,11	不整円形	舟底形	1.6	1.49	0.59	N-50° -W	17・34	縄文土器、弥生土器、サヌカイト剥片、砂岩礫
F	SK1034	E,F3	円形	皿形	(1.58)	(1.50)	0.15	N-69° -E	2823	縄文土器、弥生土器、土師器煮炊具、土師質土器供膳具、瓦質土器、サヌカイト剥片
BC	SK1035	S,T11	不整円形	丸底形	1.22	0.64	0.84	N-68° -E	273	弥生土器
BC-2	SK1035	S,T11	不整円形	逆台形	1.50	1.23	0.77	N-64° -E	1279	
D	SK1036	B6	円形	丸底形	1.37	1.34	0.37	N-23° -E	199・200・201	縄文土器、土師質鍋、砂岩礫
F	SK1036	F4	楕円形	逆台形	(0.52)	(0.48)	0.12	N-82° -E	792	弥生土器、鉄滓
E2	SK1036	G19	不整方形	-	0.94	(0.54)	-	N-10° -W	2853	
D	SK1037	B5	不整形	皿形	1.08	(0.50)	0.05	N-51° -E	256	土師器供膳具
D	SK1040	B4	不整形	二段形	1.39	1.06	0.92	N-41.5° -W	211	
BC	SK1045	A,T13	不整楕円形	二段形	(1.48)	1.43	0.61	N-66° -W	35・255・271	縄文土器、瓦器椀、サヌカイト剥片
BC-2	SK1046	A13	不整方形	長方形	1.57	1.35	0.31	N-36° -W	1258・2531	
BC	SK1048	T9	円形	二段形	1.65	1.73	1.05	N-14° -W	274	弥生土器、炭化物、砂岩礫
BC	SK1057			-			-		275	
D	SK1057	A3	不整形	舟底形	1.35	1.33	0.72	N-80° -E	248	
D	SK1058	G,H9	楕円形	二段形	0.75	0.64	0.13	N-15° -W	246	
D	SK1061	H9	長方形	二段形	0.84	0.78	0.16	N-8° -E	2320	弥生土器
D	SK1062	H9	(円形)	丸底形	0.60	(0.42)	0.26	N-82° -E	811	
D	SK1066	H10	(楕円形)	二段形	1.12	(0.54)	0.33	N-11° -W	814	弥生土器、近世備前焼灯明皿・陶器、焼土粒、片岩礫
D	SK1067	H10	不整形	二段形	0.72	(0.65)	0.11	N-73° -E	2382	黒色土器B類椀、土師質煮炊具・供膳具、近世備前焼灯明皿、近世焙烙、鉄製品か、石英礫（火打ち石か）
D	SK1072	G10	(楕円形)	皿形	0.54	0.45	0.08	N-18° -E	2278	
D	SK1076	G9	円形	二段形	1.06	1.00	0.15	N-9° -E	804・815・816・817・818・820・821・1003	弥生土器、須恵器、土師器、中世土師質煮炊具、近世土師質焙烙・近世磁器碗
D	SK1088	E,F10	楕円形	二段形	0.86	0.63	0.18	N-35° -E	247・2290	弥生土器、土師質供膳具・煮炊具、炭化物、焼土塊
D	SK1089	F10	不整形	二段形	(1.10)	0.91	0.46	N-65° -W	241・2288	縄文土器、弥生土器、土師質供膳具・煮炊具、焼土塊、鉄滓、炭化物
D	SK1091	F11	不整形	二段形	0.73	0.38	0.23	N-54° -E	1079 弥生土器甕（未実測）・1001	弥生土器・甕、片岩礫
D	SK1093	E,F11	方形	二段形	0.78	0.76	0.26	N-60° -E	855　欠番	
D	SK1100	E10	円形	二段形	0.58	0.55	0.22	N-20° -E	244・245・252・2381	弥生土器、中世土師質土器・供膳具・鍋、青磁供膳具、砂岩礫
D	SK1101	E10	長方形	二段形	0.59	0.33	0.12	N-76° -W	805・808	弥生土器、土師質煮炊具、近世陶器、砂岩礫
D	SK1103	E9,10	(楕円形)	二段形	1.60	0.69	0.40	N-75° -W	2291・2379・2243	弥生土器、土師質土器・鍋・供膳具、近世焙烙か、スラグ、泥岩円礫（碁石か）、石英礫（火打ち石か）、砂岩礫
D	SK1104	E10	(不整形)	二段形	(1.16)	(0.80)	0.12	N-80° -W	1009・2293	弥生土器・壺、砂岩礫、焼土塊
D	SK1105	E9,10	(楕円形)	二段形	1.56	0.70	0.42	N-15° -E	228･235･806･807 ※807（土師質煮炊具）は「実測しないコンテナ」に入っていました・1002・1005・1055・1056・1080・2246 ※2246（弥生土器甕）は「実測しないコンテナ」に入っていました・2386・2387	縄文土器、弥生土器、土師質土器・煮炊具・鍋・供膳具、焼土塊、炭化物、骨片、砂岩礫・石英礫
D	SK1107	E9	(楕円形)	二段形	0.72	(0.37)	0.40	N-2° -E	2244	弥生土器か、土師質土器・供膳具、焼土塊
D	SK1108	E,F10	不整形	二段形	0.92	0.82	0.11	N-11° -W	242・243・809 ※809（須恵器貯蔵具）は「実測しないコンテナ」に入っていました・2292 ※2292（土師器甕）は「実測しないコンテナ」に入っていました・2377・2378	弥生土器、土師質煮炊具、瀬戸焼灰釉皿か、近世陶器、鉄製品、炭化物、石英礫
D	SK1109	E,F9,10	不整形	二段形	1.47	0.98	0.36	N-10° -W	209	弥生土器、焼土塊、土師質煮炊具・皿、中世備前焼甕か、焼土塊、砂岩礫
D	SK1111	E9	(長方形)	二段形	0.85	0.54	0.44	N-50° -W	2289・2330	弥生土器、土師質供膳具・煮炊具、備前焼、焼土塊、砂岩礫・石英礫、炭化物
D	SK1120	D9	楕円形	二段形	1.67	(0.92)	0.47	N-8° -W	813	弥生土器、土師質土器供膳具・煮炊具
D	SK1121	D9	楕円形	二段形	1.06	0.76	0.48	N-4° -W	822	弥生土器・甕、土師質土器、砂岩礫
D	SK1122	D9	楕円形	二段形	0.89	0.59	0.12	N-25° -W	1057	近世陶器碗、チャート剥片、焼土粒
D	SK1123	D9,10	方形	丸底形	0.80	0.79	0.21	N-43° -E	2344・2345・2346・2347・2348・2349・2350・2351・2352・2353・2355	弥生土器、土師器甕、土師質土器・煮炊具・鍋、供膳具、砂岩礫、炭化物
D	SK1127	C7,8	不整形	二段形	0.94	0.91	0.10	N-63° -E	1008	土師質土器供膳具・煮炊具
D	SK1137	B7	不整形	二段形	(2.31)	1.10	0.23	N-72° -W	216	弥生土器・甕
D	SK1138	B7	楕円形	丸底形	1.96	1.58	0.78	N-72° -W	810	縄文土器、弥生土器
D	SK1140	B6,7	不整形	丸底形	1.88	1.56	0.65	N-64.5° -W	812・2245・2380	縄文土器、弥生土器、サヌカイト、砂岩礫
D	SK1142	A,B6,7	不整形	二段形	2.17	1.70	0.52	N-83.5° -W	1004	縄文土器、弥生土器、焼土塊、砂岩礫
D	SK1151	T5	不整形	二段形	1.34	1.10	0.69	N-86° -W	1007	砂岩礫、炭化物
D	SK1163	T8	楕円形	二段形	1.01	0.71	0.28	N-67° -E	1010	弥生土器、焼土粒
H	SK2020	C16	不整方形	逆台形	1.11	0.93	0.33	N-75° -W	1355・1356	
H	SK2029	A,B17	不整円形	二段形	1.84	1.65	0.20	N-80° -E	1360・3039	
H	SK2030	A,B17	楕円形	二段形	1.39	(1.10)	0.29	N-80° -E	1242・3040	
H	SK2031	B17,18	不整楕円形	二段形	1.34	1.02	0.22	N-78° -W	1330・3036	
H	SK2032	B18	楕円形	二段形	1.51	0.92	0.27	N-7° -E	3003	
H	SK2033	A,B19	不整方形	二段形	1.18	1.06	0.18	N-61° -E	2398	
H	SK2038	B,C19	不整方形	二段形	1.29	1.24	0.23	N-69° -E	3024･3025･3026 ※3026（弥生土器甕か）は「実測しない」に入っていました	

旧調査区	旧遺構番号	小グリッド	平面形態	断面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深度(m)	主軸方位	実測番号	未掲載出土遺物
H	SK2042	B20	楕円形	長方形	1.00	0.80	0.22	N-64°-E	1327	
H	SK2043	C19,20	不整方形	長方形	1.39	1.25	0.36	N-86°-W	2397	
H	SK2050	B16	不整形	逆台形	(1.02)	0.97	0.26	N-52°-W	3088	
H	SK2052	B16	楕円形	皿形	1.23	0.98	0.24	N-43°-E	1352	
H	SK2054	B17	不整形	舟底形	1.40	0.64	0.23	N-72°-W	1328	
H	SK2063	C18	楕円形	皿形	1.40	1.04	0.19	N-2°-W	1324	
H	SK2071	A,B17,18	方形	二段形	0.61	0.59	0.17	N-0°	1329・3100	

表3　小穴一覧表

旧調査区	旧遺構番号	小グリッド	平面形態	断面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深度(m)	主軸方位	柱痕	実測番号	未掲載出土遺物
A	SP1026	O2	楕円形	二段形	0.22	0.18	0.26	N-89°-W		508	弥生土器、西村系須恵器椀、近世磁器皿・ミニチュア碗
F	SP1036	F7	楕円形	逆台形	0.20	0.18	0.24	N-53°-W		2295	弥生土器、土師器
D	SP1043	B6	楕円形	丸底形	0.37	0.32	0.07	N-14°-E		1528	
F	SP1048	F6	楕円形	逆台形	(0.24)	(0.18)	0.20	N-63°-W		2303	縄文土器、弥生土器・甕、土師質土器
F	SP1049	F6	円形	長方形	0.24	0.23	0.18	N-62°-W		170	弥生土器か
D	SP1053	T2	楕円形	二段形	0.42	0.35	0.26	N-84°-W		2359	
BC	SP1055	G13	円形	長方形	0.35	0.3	0.36	N-4°-E		376	
F	SP1056	F6	楕円形	二段形	0.29	0.24	0.25	N-75°-E		875・2297	縄文土器、弥生土器
BC	SP1057	F16	不整長方形	皿形	0.74	0.44	0.03	N-22°-E		94	
F	SP1083	F6	楕円形	二段形	0.44	0.33	0.18	N-80°-E		2300・2301	弥生土器か
BC	SP1095	F13E13,14	不整長方形	二段形	0.92	0.33	0.36	N-37°-W		93	弥生土器、土師質杯、焼土塊
F	SP1095	E5	円形	丸底形	0.18	0.18	0.08	N-34°-W		2294	
D	SP1112	F9	(楕円形)	逆台形	0.20	(0.10)	0.11	N-7°-W		2316	
D	SP1114	F9	不整形	二段形	0.62	0.53	0.28	N-61°-W		369・854	土師質供膳具・皿、近世陶器供膳具、片岩礫
D	SP1115	F9	円形	逆台形	0.31	0.29	0.34	N-20°-W	あり	831	土師質土器羽釜・供膳具、中世瀬戸焼皿か、スラグ、石英割れ石
D	SP1125	F9	楕円形	長方形	0.40	0.35	0.54	N-2°-W		2314	中世備前焼壺か小型甕、土師質供膳具、焼土塊
D	SP1161	F10	円形	逆台形	0.23	0.23	0.31	N-18°-W	あり	1520	焼土塊
D	SP1168	E10,11	楕円形	長方形	0.33	0.26	0.42	N-76°-W		1522	須恵器
F	SP1173	G7	円形	長方形	0.20	0.20	0.08	N-35°-W		198	
D	SP1190	E10	楕円形	丸底形	0.45	0.38	0.64	N-4°-W		1504・1527・2325・2354・2358	土師質土器・供膳具
D	SP1191	E10	楕円形	丸底形	0.44	0.41	0.46	N-44°-W	あり	2318	弥生土器か、土師質供膳具、炭化物
D	SP1201	E10	(楕円形)	二段形	0.50	(0.35)	0.47	N-89°-E		2317	土師質煮炊具・供膳具，鉄滓か、焼土塊、石英礫
D	SP1202	E9,10	楕円形	二段形	0.43	0.40	0.29	N-3°-W		2324	弥生土器甕、土師質供膳具、焼土塊
D	SP1203	E10	楕円形	逆台形	0.25	0.22	0.28	N-85°-W		1521	
D	SP1210	E,F10	楕円形	舟底形	0.56	0.35	0.24	N-53°-W		1523・1524・1525・2247・2357	弥生土器・甕、炭化物
D	SP1211	E9	楕円形	舟底形	0.52	0.32	0.14	N-32°-E		1529	弥生土器・甕、土師器
D	SP1214	E9	円形	逆台形	0.28	0.27	0.10	N-38°-W		1526	弥生土器、土師質土器煮炊具、砂岩礫
D	SP1221	E9	円形	舟底形	0.33	0.33	0.32	N-18°-E		2331	須恵器貯蔵具
D	SP1234	E8	楕円形	長方形	0.30	0.26	0.34	N-1°-W	あり	2319	
B	SP1265									15・16	
BC	SP1339	C13	楕円形	丸底形	0.32	0.26	0.13	N-32°-W		95	
BC	SP1478	IJ14	不整楕円形	二段形	0.55	0.37	0.25	N-8°-W		373・374・375	
H	SP2076	C19	楕円形	長方形	0.32	0.27	0.06	N-81°-W		1216	

表4　性格不明遺構一覧表

旧調査区	旧遺構番号	小グリッド	平面形態	断面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深度(m)	主軸方位	実測番号	未掲載出土遺物
D	SX1004	B3,4C3,4	-	二段形	-	-	0.67	-	226・233・250・251・370・2332・2333・2334・2341・2343	弥生土器
D	SX1006	G11	不整形	丸底形	3.14	(1.29)	0.73	N-20°-E	2376・2383・2384・2385・	近世焙烙、片岩割石
D	SX1007	G11	不整形	丸底形	1.97	(1.06)	0.17	N-12°-E	249・2321・2322・2323・2337・2338	
D	SX1009	F11	不整形	二段形	(1.99)	1.36	0.49	N-81°-W	2342	
F	SX1002	G5,6	不整形	-	35.5	(16.3)	-	-	599	弥生土器か
F	SX1003	E5,F5,6,G5	不整形	-	35.5		-	-	159・160・161・162・163・164・165・166・600・601・602・603・604・605・606・607・608・794	縄文土器、弥生土器・甕、サヌカイト剥片砂岩礫
F	SX1004	F,G3	不整形	二段形	2.05	0.70	0.10	N-87°-W	234	弥生土器・甕
H	SB2001	B19,20C19	円形	皿形	4.94	(4.36)	0.18	N-64°-W N-26°-E	1206・1208・1209・1207・1210・1212・1213・1214・1215・2532・2567・2568・2569・2570・2575・2576・2626・2984・3006・3018	
H	SB2002	A19,20B19,20	円形	皿形	4.66	(2.24)	0.12	N-24°-W N-66°-E	2571・2572	
H	SX100 1	T14,15,16A15,16	不整長方形	皿形	6.28	2.41	0.12	N-15°-W	2399・2400・2405	
H	SX1005	D18.19	不整楕円形	二段形	5.34	3.51	0.53	N-75°-E	2308・2396・2403・2404	
H	SX2001	C,D16	不整楕円形	二段形	2.57	2.05	0.48	N-15°-E	2391	

表５　掲載遺物観察表

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
1	365	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(4.36) 口：(12.7) 底：(8.1)	0.2～1.0	やや精	良	長黒	外：N7/0（灰白） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→回転ヘラケズリ　脚部：回転ヘラケズリ→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 脚部：回転ナデ→２本指ナデ	右回転。
2	362	A	SR1001	須恵器	杯	高：(4.1) 口：(12.8)	0.1～5.0	やや粗	不良	石長雲赤黒	外：2.5Y8/1（灰白） 内：5Y8/1 灰白	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転。外面底部にモミ殻圧痕？ TS79
3	507	A	SR1001	須恵器	杯	高：(4.3)　口：(13.9) 底：(9.5)	0.1～2.0	やや精	不良	石長雲黒	外：2.5Y 7/2（灰黄） 内：2.5YS/3（黄褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	右回転
4	363	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(3.0) 口：(14.0)	0.2～2.0	やや粗	良	石長黒	外：N6/0（灰） 内：5Y6/1（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ヘラケズリ→ナデ　底部：回転ヘラケズリ→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→２本指ナデ	右回転。TS38
5	94	B・C	SP1057	弥生	壺		0.2～3.0	やや粗	やや不	石長チ赤花	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：7.5YR6/4（にぶい橙）	体部：板ナデ	体部：ユビナデ	TS97
5	494	F	SR1008	須恵器	高台付杯	高：(4.0)　口：(15.2) 底：(10.0)	0.1～1.0	やや精	やや良	長黒	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→回転ヘラケズリ　底部：回転ヘラケズリ→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転。
6	87	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(4.1) 口：(13.0) 底：(10.8)	0.1～1.0	やや精	不良	石長雲赤	外：10YR8/1（灰白） 内：10YR7/3（にぶい黄橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	右回転
7	1139	A	SR1001	土師器	杯	高：(3.7)　口：(14.4) 底：(9.6)	0.1～2.5	やや粗	やや不良	石長チ雲赤黒	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：7.5YR7/4(にぶい橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→板ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビオサエ	
8	367	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(2.0)　底：(10.4)	0.1～2.5	やや精	良	石長雲黒	外：N5/0（灰） 内：N6/0（灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→１本指？ナデ	右回転
9	1106	A	SR1001	須恵器	高台付杯	底：(10.7)	0.1～1.5	やや粗	やや不	石黒	外：2.5Y6/1（黄灰） 内：2.5Y6/1（黄灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	
10	1116	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(2.0)　底：(10.2)	0.1～2.0	やや精	不良	石長雲黒	外：2.5Y7/1（灰白） 内：2.5Y7/2（灰黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→貼付高台→ナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	
11	1110	A	SR1001	瓦器	椀	口：(14.0)	0.1～0.9	精	良	長雲赤黒	外：N3/0（暗灰） 内：N6/0（灰）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ	口縁：ヨコナデ　底部：ヘラミガキ 暗文（2）	
12	499	A	SR1001	須恵器	皿	高：(2.2) 口：(16.8) 大：(17.0)　底：(13.2)	0.1～3	やや精	不良	石雲	外：10YR5/4（にぶい黄褐） 内：10YR5/4（にぶい黄褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	TS35　右回転
13	364	A	SR1001	須恵器	皿	高：(3.1)　口：(19.0) 底：(14.0)	0.2～2.0	やや粗	やや不	石長チ黒	外：5Y8/1（灰白） 内：5Y8/1（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	右回転。
14	1135	A	SR1001	須恵器	蓋	高：(1.5)　口：(19.4) 底：(14.4)	0.1～2.5	やや精	不良	石長雲黒	外：2.5Y4/1（黄灰） 内：2.5YS/1（黄灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビナデ・ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ・ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビナデ・ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ・ナデ	
15	489	A	SR1001	須恵器	蓋	高：(16.5)　口：(13.9) 底：(8.15)	0.1～2.0	やや精	良	石チ雲	外：N7/0（灰白） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転。
16	490	A	SR1001	須恵器	壺	頸：(9.4)	0.1～3.5	やや粗	やや良	石長黒花	外：N7/0（灰白） 内：N6/0（灰）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ	提瓶の製作技法を転用。
17	543	A	SR1001	須恵器	壺	頸：(7.4)	0.1～0.25	やや粗	やや良	石長黒花	外：N7/0（白灰） 内：N6/0（灰）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ	右回転。
18	86	A	SR1001	須恵器	甕	口：(23.4)　頸：(17.8)	0.2～1.0	やや粗	やや不	長黒	外：5Y6/1（灰） 内：5Y6/1（灰）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ	TS72
19	514	A	SR1001	土師器	甕	高：(22.5)　口：(24.3) 頸：(21.1)　大：(23.3)	0.1～5.0	やや粗	やや不良	石長チ雲赤黒	外：2.5YR5/6（明赤褐） 内：2.5YR5/6（明赤褐）	口縁：ヨコナデ→ユビナデ　体部：ユビオサエ→ハケ（6 条 /1cm）	口縁：ヨコナデ→ユビナデ　体部：ユビナデ	
20	1133	A	SR1001	土師器	鍋	口：(24.4)	0.1～5.0	粗	やや不	石長チ角赤花	外：10YR5/3（にぶい黄褐） 内：7.5YR6/4（にぶい橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	搬入品？
21	90	A	SR1001	弥生	高坏	底：(13.1)	0.2～5.0	粗い	不良	結石チ雲赤砂	外：2.5YR5/8（明赤褐） 内：5YR7/8（橙）	底部：ナデ→ユビオサエ	底部：ユビオサエ→ユビナデ	
22	89	A	SR1001	弥生	鉢	高：(5.1) 口：(15.8) 底：(1.4)	0.1～2.5	やや粗	やや不	結石長チ赤	外：5YR6/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	口縁：ユビナデ　体部：タタキ→ユビナデ　底部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ 底部：ユビナデ	TS77
23	1113	A	SR1001	弥生	壺	高：(4.4)	0.1～2.0	やや粗	並	石長雲黒	外：5YR5/6（明赤褐） 内：5YR6/6（橙）	口縁：板ナデ	口縁：ユビナデ	東予？からの搬入品？？要検討
24	1141	E2	SR1001	須恵器	甕	大：(52.0)	0.1～0.5	精	良	長黒	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	体部：回転ナデ→カキ目（7 条 /1cm）　底部：回転ナデ	体部：青海波文→ユビナデ　底部：青海波文→ユビナデ	TS130
25	495	B・C	SR1002	土師器	杯	高：(3.1)　口：(12.4) 底：(8.1)	0.1～0.8	やや粗	やや良	石長雲	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	外面黒斑あり。内面赤色顔料塗布？
26	1006	D	SR1001	弥生	壺	口：(21.1)	0.1～4.0	やや粗	やや不	結長チ雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	
27	783	D	SR1001	弥生	壺	口：(17.4)	0.1～2.5	やや粗	やや不	結石チ雲	外：7.5YR8/3（浅黄橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	TS22
28	1077	D	SR1001	瓦器	椀	高：(2.2)　底：(5.7)	0.1～2.5	やや精	不良	長雲黒	外：5Y8/1（灰白） 内：5Y8/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台→ユビナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	
29	1000	D	SR1001	弥生	壺	底：(6.0)	0.1～5.5	やや粗	並	結石長雲花	外：5YR4/8（赤褐） 内：10YR5/3（にぶい黄褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	搬入品？
30	2540	E2	SR1001	須恵器	蓋	高：(2.2)　口：(14.6)	0.1～2.0	精	良	石チ雲黒	外：N4/0（灰） 内：N5/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：ユビナデ	TS304　TS324　右回転
31	2541	E2	SR1001	須恵器	杯	高：(3.0)　口：(15.8) 底：(11.8)	0.1～2.0	やや精	やや不	結石チ雲	外：7.5Y8/1（灰白） 内：7.5Y8/1（灰白）	口縁：ヨコナデ？　体部：ヨコナデ 底部：回転ヘラ切り→ヘラナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	TS368　口縁打ち欠き？　外面スス付着→灯明皿に転用か？
32	1149	D	SR1001	土師器	杯	高：(4.5)　口：(15.4) 底：(6.6)	0.1～0.5	やや精	やや不	長雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	TS93
33	1175	E2	SR1001	須恵器	高台付椀	高：(5.7)　口：(14.25) 底：(4.35)	0.1～0.8	やや精	やや不	石長雲	外：2.5Y7/2（灰黄） 内：2.5Y7/2（灰黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	TS409
34	1153	E2	SR1001	土師器	皿	1.4	9.1	—	—	6.1	0.1～3.0	やや粗	やや不良	石長雲赤黒
35	620	E2	SR1001	土師器	皿	高：(1.1)　口：(8.4) 底：(7.2)	0.1～3.0	やや粗	並	石長雲赤	外：10YR7/3（にぶい黄橙） 内：7.5YR7/3（にぶい橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビオサエ・ナデ	
36	572	E-2	SR1001	土師器	皿	高：(1.2)　口：(8.0) 底：(6.4)	0.1～0.5	やや精	並	石チ雲赤	外：5YR7/6（橙） 内：5YR7/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	右回転　内面に粘土紐巻を残す　SRI－423　T.S
37	566	E2	SR1001	土師器	皿	高：(1.39)　口：(8.1) 底：(5.2)	0.1～1.5	やや精	やや不	長チ雲赤	外：5YR7/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	TS241
38	2539	E2	SR1001	須恵器	杯	高：(5.2)　口：(14.2) 底：(9.0)	0.1～2.0	やや粗	良	長黒	外：5Y5/1（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ　底部：回転ヘラ削り→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	左回転。　SRI－272　TS　1/10　あり　SRI－135　TS
39	582	E2	SR1001	瓦質土器	椀	口：(15.6)	0.1～1.0	やや精	やや良	石長チ	外：2.5Y7/2（黄灰） 内：2.5Y7/2（黄灰）	口縁：回転ナデ　体部：ユビオサエ→回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：ヘラミガキ	TS19
40	571	E2	SR1001	土師器	椀	口：(17.4)	0.1～2.0	やや精	やや不	石長チ雲赤	外：10YR8/4（浅黄橙） 内：10YR8/4（浅黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ヘラミガキ	TS441

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
41	569	E2	SR1001	土師器	椀	口：(14.6)	0.1～2.0	やや精	やや不	結石長チ雲赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ヘラミガキ	TS436
42	622	E2	SR1001	土師器	高台付椀	底：(6.1)	0.1～0.5	やや精	並	石長雲	外：10YR8/4（浅黄橙） 内：10YR8/4（浅黄橙）	体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ 底部：回転ヘラ切リ→貼付高台	体部：回転ナデ→ナデ　底部：回転ナデ	TS60。右回転。
43	3017	E-2	SR1001	土師器	杯	底：(6.0)	0.1～2.5	やや精	やや不	雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：5YR6/8（橙）	体部：回転ナデ　底部：ヘラ切リ？	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	SR1-69　TS 取上
44	611	E2	SR1001	土師器	高台付椀	底：(6.5)	0.1～2.0	やや精	やや不	石長赤	外：5YR6/8（橙） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	
45	619	E2	SR1001	土師器	高台付椀	底：(6.8)	0.1～1.0	やや粗	不良	石長チ雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切リ→貼付高台	体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	SRI － 197 TS
46	558	E2	SR1001	土師器	高台付碗	底：(6.7)	0.1～1.0	やや精	やや不	石長雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：コビオサエ→回転ナデ	
47	576	E2	SR1001	土師器	高台付椀	底：(6.2)	0.1～2.0	やや精	不良	石長チ赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：7.5YR7/6（橙）	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ	TS109
48	585	E2	SR1001	土師器	高台付椀		0.1～1.0	やや精	やや不	長チ赤	外：10YR8/2（灰白） 内：10YR8/2（灰白）	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ	
49	778	F	SR1001	須恵器	鉢	高：(13.7)　口：(23.3) 大：(25.3)	0.1～0.3	やや精	良	長黒				
50	609	E2	SR1001	須恵器	壺	口：(13.6)　頸：(10.8)	0.2～3.0	やや粗	やや良	結石長黒	外：N5/0（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	ヘラ記号「十」あり。
51	626	E2	SR1001	須恵器	こね鉢	口：(16.8)	0.1～2.1	精	堅	石長赤黒	外：N6/0（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ハケ目？	TS164
52	1115	E2	SR1001	須恵器	壺	頸：(18.6)	0.1～1.0	精	良	長赤黒	外：2.5Y6/20（にぶい黄） 内：N5/0（灰）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ	
53	1146	E2	SR1001	土師器	コシキ	口：(20.7)	0.1～2.0	やや精	並	石長チ雲黒	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ハケ（15 条 /1.7㎝）	把手剥落。TS397
54	3045	E2	SR1001	土師器	鍋	口：(35.4)　頸：(35.4) 大：(36.0)	0.1～5.0	やや粗	並	結石チ雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：5YR5/8（明赤褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ハケ（4 条 /1㎝）	口縁：ユビナデ→ハケ（4 条 1㎝）	TS127・129・132・320・321・323・326・399・400・401・402
55	593	E2	SR1001	弥生	甕	口：(34.0)　頸：(32.4)	0.1～5.0	やや粗	やや不	結石長チ雲赤	外：2.5YR6/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ユビナデ	TS367
56	594	E2	SR1001	弥生	壺	口：(20.4)	0.1～2.0	やや粗	並	結石チ雲	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR5/3（にぶい黄褐）	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ＋シボリ	TS382
57	564	E-2	SR1001	縄文	深鉢		0.1～8	粗	良	結石長雲砂	外：10YR6/2（灰黄褐） 内：10YR7/2（にぶい黄橙）	体部：板ナデ	体部：板ナデ→ユビナデ	TS232
58	563	E 2	SR1001	縄文	深鉢	口：(22.6)　頸：(21.1) 大：(22.1)	0.2～4.0	粗	不良	結石長チ赤砂黒	外：2.5YR5/6（明赤褐） 内：5Y5/1（灰）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS235
59	591	E2	SR1001	土師器	鍋	頸：(28.3)	0.1～4.0	やや粗	やや良	石長雲赤	外：5YR5/6（明赤褐） 内：7.5YR5/4（にぶい褐）	口縁：ユビナデ　体部：板ナデ	口縁：ユビナデ　体部：板ナデ	TS392
60	590	E2	SR1001	縄文	深鉢	頸：(27.6)	0.1～2.5	粗	並	結石長雲	外：10YR7/3（にぶい黄橙） 内：2.5Y5/1（黄灰）	体部：ヘラナデ	体部：ヘラナデ	TS355
61	574	E2	SR1001	弥生	甕	口：(25.8)　頸：(26.0)	0.1～4.0	粗	やや不	結石長チ赤黒	外：2.5Y6/4(にぶい黄） 内：10YR7/2（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁イタナデ　体部：イタナデ	TS435
62	568	E2	SR1001	土師器	鍋	口：(33.8)　頸：(30.9)	0.1～7.0	粗	やや不	結石長チ雲赤	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS413
63	567	E2	SR1001	土師器	鉢	口：(41.0)	0.1～1.5	やや粗	並	石チ雲	外：N2/0（黒） 内：10YR5/3（にぶい黄褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビオサエ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ハケ→指ナデ	TS239
64	483	F	SR1001	弥生	鉢	高：(8.5)　口：(16.7) 頸：(15.3)	0.1～7.5	やや粗	並	石長雲赤花	外：2.5YR5/6（明赤褐） 内：5YR4/2(灰褐）	口縁：ユビナデ・ナデ　体部：ユビナデ・板ナデ　底部：ユビナデ・板ナデ	口縁：ユビナデ・ナデ　体部：ユビナデ・板ナデ　底部：ユビナデ・板ナデ	搬入品？
65	1092	F	SK1001	弥生	甕	大：(26.0)	0.1～7.1	やや精	やや不	結石雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：10YR7/3（にぶい黄橙）	体部：タタキ（4 条 /1㎝）	体部：ヘラケズリ	
66	493	F	SR1001	縄文	深鉢	底：(4.0)	0.2～2.0	粗	並	石長チ角赤	外：2.5Y7/2（灰黄） 内：2.5Y6/1（黄灰）	体部：ユビオサエ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
67	504	A	SR1001	弥生	高坏		0.1～6.0	粗	やや不	結石長雲赤	外：5YR6/8（橙） 内：5YR5/8（明赤褐）	基部：ユビナデ	基部：ユビナデ	TS43 1/20 図有。在地。
68	777	F	SR1001	土師器	杯	高：(3.6)　口：(15.7) 底：(10.4)	0.1～2.0	やや粗	やや良	石長雲赤黒	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：7.5YR7/4(にぶい橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビナデ　底部：回転ヘラ切り？→板ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	口縁端部 1 ヶ所打ち欠き？
69	516	F	SR1001	須恵器	高台付碗	底：(8.8)	0.1～3	やや精	良	石長黒	外：2.5Y6/1（黄灰） 内：2.5Y6/1（黄灰）	体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ 底部：回転ヘラケズリ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転
70	488	F	SR1001	土師器	杯	高：(2.9)　口：(12.4) 底：(8.4)	0.2～1.5	やや粗	並	石長チ雲砂	外：2.5Y6/4（にぶい黄） 内：2.5Y6/3（にぶい黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切リ→ヘラナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	搬入品？
71	491	F	SR1001	土師器	甕	口：(29.4)　頸：(24.1)	0.1～2.0	やや粗	良	石長チ雲赤砂	外：10YR6/2（灰黄褐） 内：10YR6/2（灰黄褐）	口縁：ユビナデ＋タタキ	口縁：ユビナデ＋ハケ (4 条 /5)	搬入品か？
72	506	A	SR1001	土師器	注口付壺		0.1～1.5	やや精	やや不	石長雲	外：2.5Y7/4（浅黄） 内：2.5Y7/2（灰黄）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS49 1/20 図有。須恵質の可能性あり。
73	505	A	SR1001	土師器	皿	底：(6.0)	0.1～3.0	やや精	やや良	石長チ雲赤	外：2.5YR4/6（赤褐） 内：2.5YR4/6（赤褐）	基部：ヘラミガキ　底部：静止ヘラケズリ	基部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	TS60　内外面丹ぬり　搬入品
74	779	F	SR1001	須恵器	鉢	口：(19.7)　大：(21.8)	0.1～5.0	やや精	良	石長チ	外：N6/0（灰） 内：N7/0（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→回転ヘラケズリ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→板ナデ	TS87。金属器模倣。左回転。
75	517	F	SR1001	須恵器	器台	底：(42.0)	0.2～1.0	やや精	やや不	長チ黒	外：2.5YR6/1（赤灰） 内：2.5Y7/1（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
76	484	F	SR1001	須恵器	器台	底：(35.8)	0.2～1.0	やや精	やや不	長チ黒	外：2.5Y6/1（黄灰） 内：2.5Y7/1（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
77	782	F	SR1002	弥生	甕		0.1～6.0	粗	やや良	結石長チ赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	体部：タタキ（8 条 /2.7㎝）	体部：ヘラケズリ	TS2
78	1165	H	SR2003	弥生	壺	高：(3.9)　口：(26.1)	0.1～4.0	やや粗	並	石長雲赤黒	外：N5/0（灰） 内：N4/0（灰）	口縁：ユビオサエ・ユビナデ→口縁端部刻目　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ・板ナデ→口縁と体部の境に刻目	土佐系？要検討
79	2698	H	SR2003	弥生	壺	頸：(20.2)	0.1～2.0	やや粗	やや不	結石長チ雲赤	外：2.5Y6/1（黄灰） 内：2.5Y4/1（黄灰）	頸部：ユビナデ	頸部：ユビナデ	
80	2699	H	SR2003	弥生	甕	高：(3.8)　口：(21.5) 頸：(18.8)	0.1～2.7	やや精	並	石長雲赤	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：7.5YR6/3（にぶい褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ハケ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	搬入品？
81	2682	H	SR2003	弥生	甕	口：(25.0)　頸：(22.2)	0.1～4.0	やや精	やや良	結石長チ赤	外：5YR6/6（橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
82	2633	H	SR2003	弥生	甕	口：(17.2)　頸：(15.5)	0.1～4.1	やや粗	並	石長雲赤花	外：5YR4/4（にぶい褐） 内：5YR3/2（暗赤褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヘラミガキ　体部：ユビナデ	搬入品か？

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
83	1559	H	SR2003	弥生	甕	口:(13.8) 頸:(13.2)	0.1～3.0	粗	やや不	結石長チ赤黒	外:10YR8/3(浅黄橙) 内:7.5YR7/4(にぶい橙)	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	TS15
84	1562	H	SR2003	弥生	甕	口:(15.8) 頸:(13.5)	0.1～3.0	やや粗	やや不	石長雲赤	外:7.5YR7/6(橙) 内:7.5YR7/4(にぶい橙)	口縁:ユビナデ　体部:タタキ→ユビナデ?	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	結晶片岩含まず。搬入品か?
85	2652	H	SR2003	弥生	壺	高:(3.8) 口:(14.1) 頸:(12.9)	0.1～5.5	やや粗	並	結石長雲赤黒	外:5YR6/4(にぶい橙) 内:10YR7/3(にぶい黄橙)	口縁:ナデ・ユビナデ　体部:ユビナデ	口縁:ナデ・ユビナデ　体部:ユビナデ	東予からの搬入品?
86	1161	H	SR2003	弥生	壺	口:(8.8) 頸:(6.4)	0.1～2.5	やや粗	不良	結石長チ赤	外:7.5YR7/4(にぶい橙) 内:7.5YR7/4(にぶい橙)	口縁:回転ナデ	口縁:回転ナデ	
87	2712	H	SR2003	弥生	甕	高:(5.9) 底:(5.3)	0.1～6.0	やや粗	並	石長雲黒	外:2.5YR5/6(明赤褐) 内:7.5YR6/3(にぶい褐)	体部:ハケ→板ナデ　底部:ユビオサエ→板ナデ	体部:ユビナデ・板ナデ　底部:ユビナデ	
88	2632	H	SR2003	弥生	壺		0.1～3.0	やや粗	並	石長	外:2.5YR5/6(明赤褐) 内:2.5YR4/1(赤灰)	体部:棒状工具ナデ　底部:ユビナデ	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	
89	1164	H	SR2003	弥生	壺	底:(8.5)	0.1～2.0	やや粗	やや不	石長赤	外:10R5/6(赤) 内:10R5/6(赤)	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ→ユビオサエ	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	2次焼成?被熱赤変?TS29。
90	1449	H	SR2003	土師器	杯	底:(5.0)	0.1～1.0	やや粗	やや不	長チ雲赤黒	外:10YR6/3(にぶい黄橙) 内:7.5YR6/4(にぶい橙)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	TS10
90	3035	H	SR2003	弥生	壺	底:(9.0)	0.1～4.0	やや粗	並	石長雲赤	外:10YR7/4(にぶい黄橙) 内:5Y5/1(灰)	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	TS15
91	3023	H	SR2003	弥生	壺	底:(9.6)	0.1～3.0	粗	並	石長雲赤	外:10R5/8(赤) 内:10R5/8)赤)	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	2次焼成による被熱赤変　SR2003KA-14 TS
92	1176	H	SR2003	土師器	椀	高:(5.8) 口:(15.6) 大:(16.0) 底:(7.6)	0.1～3.5	やや精	やや不	石長赤黒	外:10YR8/2(灰白) 内:10YR8/2(灰白)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ナデ→貼付高台	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ナデ	TS28
93	1167	H	SR2003	土師器	杯	高:(4.15) 口:(13.3) 底:(7.05)	0.1～2.0	やや精	やや不	石チ雲赤	外:10YR7/4(にぶい黄橙) 内:10YR7/4(にぶい黄橙)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ→ヘラミガキ?　底部:回転ナデ	TS18　1/10 図有。口縁部打ち欠き2ヶ所。
94	1168	H	SR2003	土師器	杯	高:(3.4) 口:(13.2) 底:(7.1)	0.1～4.0	やや精	並	長雲赤	外:5YR5/4(にぶい赤褐) 内:5YR5/6(明赤褐)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ナデ→ユビナデ	右回転　TS 取上　9
95	2654	H	SR2003	黒色土器	椀	口:(15.0)	0.1～1.0	やや粗	やや良	雲赤黒	外:2.5Y7/2(灰黄) 内:5Y3/1(オリーブ黒)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ→ヘラミガキ	口縁:回転ナデ→ヘラミガキ　体部:回転ナデ→ヘラミガキ	内黒
96	1446	H	SR2003	瓦器	椀	口:(15.0)	0.1～1.5	やや精	やや不	石雲黒	外:N4/0(灰) 内:N4/0(灰)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ→ユビオサエ	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ→ヘラミガキ	TS11
97	1166	H	SR2003	瓦器	椀	底:(4.0)	0.1～0.2	精	堅	長雲黒	外:N8/0(灰白) 内:N5/0(灰)	体部:回転ナデ→ユビオサエ　脚部:貼付高台	体部:回転ナデ　脚部:ユビナデ	
98	2667	H	SR2003	瓦器	椀	底:(4.9)	0.1～2.0	精	良	石黒	外:5Y6/1(灰) 内:N5/0(灰)	体部:回転ナデ　底部:回転ヘラ切り→貼付高台	体部:回転ナデ→ヘラミガキ?　底部:回転ナデ→ヘラミガキ	内面　火ダスキ痕あり
100	1163	H	SR2003	土師器	皿	高:(1.4) 口:(8.0) 底:(6.2)	0.1～1.5	やや粗	やや良	石長雲赤	外:7.5YR7/4(にぶい橙) 内:7.5YR7/4(にぶい橙)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ナデ	外面黒斑あり。TS8
101	1554	H	SR2003	土師器	皿	高:(1.5) 口:(8.2) 底:(5.8)	0.1～1.0	やや粗	やや不	長チ赤黒	外:7.5YR7/4(にぶい橙) 内:7.5YR7/4(にぶい橙)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 底部:回転ヘラ切り	
102	1556	H	SR2003	黒色土器	高台付椀	底:(7.0)	0.1～2.0	精	やや良	長雲赤	外:7.5YR6/4(にぶい橙) 内:5Y3/1(オリーブ黒)	体部:回転ナデ　脚部:回転ナデ→貼付高台	体部:ヘラミガキ　底部:ヘラミガキ	体部打ち欠き、転用皿　高台貼付設定技法(3条、沈線)あり
103	1565	H	SR2003	土師器	杯	高:(1.4) 底:(4.6)	0.1～2.0	やや精	並	石長雲赤黒	外:10YR7/3(にぶい黄橙) 内:10YR7/4(にぶい黄橙)	体部:回転ナデ　底部:回転ヘラ切り→ナデ	体部:回転ナデ　底部:回転ナデ→ユビナデ	
104	2653	H	SR2003	土師器	杯	高:(2.0) 底:(8.0)	0.1～2.7	やや精	やや不	石長雲赤	外:5YR6/6(橙) 内:5YR6/6(橙)	体部:ヨコナデ　底部:ユビナデ・ナデ	体部:ヨコナデ→ユビナデ　底部:ユビナデ	体部打ち欠き→皿への転用か?
105	2681	H	SR2003	陶器	壺	底:(14.0)	0.1～4.0	やや粗	良	長黒	外:10R4/1(暗赤灰) 内:7.5R4/1(暗赤灰)	体部:回転ナデ→ヘラケズリ　底部:ヘラ切り	体部:回転ナデ　底部:回転ナデ	右回り　備前
106	1162	H	SR2003	土師器	羽釜	口:(28.4)	0.1～6.0	やや粗	並	石長雲赤	外:10YR3/1(黒褐) 内:10YR7/2(にぶい黄橙)	口縁:ユビナデ→ユビオサエ	口縁:ユビナデ	外面体部にスス付着。
107	1169	H	SR2003	瓦器	擂鉢	底:(12.0)	0.1～4.0	精	良	結石長黒	外:2.5Y8/1(灰白) 内:N5/0(灰)	体部:ユビナデ+ユビオサエ　底部:ユビナデ	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	TS30　使用に伴う摩滅が著しい　底部外面に種子痕?
108	32	A	SD1001	土師器	鉢	口:(44.6)	0.1～4.0	やや精	良	石長チ金雲赤	外:7.5YR6/6(橙) 内:10YR7/4(にぶい黄橙)	口縁:ユビオサエ→ヨコナデ	口縁:ヨコナデ	香川からの搬入?
109	46	A	SD1035	土師器	羽釜	口:(25.2)	0.1～3.0	やや精	良	石長チ雲赤泥	外:10YR6/6(明黄褐) 内:10YR7/4 にぶい黄橙	口縁:ヨコナデ　体部:ユビオサエ→ヨコナデ	口縁:ヨコナデ　体部:ヨコナデ	搬入品か?
110	1111	A	SD1035	土師器	羽釜	口:(31.9) 頸:(34.8) 大:(35.1)	0.1～3.1	やや精	やや良	石雲金雲	外:2.5Y8/4(淡黄) 内:2.5Y8/3(淡黄)	口縁:ヨコナデ　体部:ヨコナデ	口縁:ヨコナデ　体部:ヨコナデ	
111	78	B・C-3	SR1002	土師器	甕	高:(3.5) 口:(15.8)	0.1～2.5	粗	不良	石長チ雲赤黒	外:10YR6/3(にぶい黄橙) 内:10YR3/1 黒褐	口縁:ユビオサエ→ナデ　体部:ユビナデ	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	内面黒斑。搬入品か?結晶片岩を含まない?要胎土分析。
112	1011	D	SD1001	弥生	蓋	口:(3.6) 頸:(3.0)	0.1～3.0	精	並	結石長チ雲赤	外:7.5YR7/3(にぶい橙) 内:N2/0(黒)	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	体部:ユビナデ	4
113	372	D	SD1001	弥生	高坏	高:(4.9)	0.1～4.5	やや粗	やや不	結石長雲赤黒	外:7.5YR7/4(にぶい橙) 内:7.5YR7/4(にぶい橙)	体部:ユビナデ　杯部:ユビナデ 脚部:ユビナデ	体部:ユビナデ　杯部:ユビナデ 脚部:ユビオサエ→ユビナデ	
114	980	D	SD1001	弥生	甕	底:(7.4)	0.1～4.0	粗	並	石長チ雲砂黒花	外:5YR4/4(にぶい赤褐) 内:10YR3/1(黒褐)	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ→ユビオサエ	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	香川からの搬入品。
115	982	D	SD1001	弥生	甕	底:(9.4)	0.1～4.0	粗	並	結石長チ雲赤	外:7.5YR5/2(灰褐) 内:7.5YR5/2(灰褐)	体部:イタナデ　底部:ユビナデ	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	
116	371	D	SD1001	弥生	鉢	底:(1.4)	0.1～4.0	やや粗	やや良	結石長雲金雲赤	外:7.5YR7/4(にぶい橙) 内:10YR7/4(にぶい黄橙)	体部:ユビナデ　底部:ユビナデ	体部:ユビナデ→ユビオサエ　底部:ユビオサエ	
116	978	D	SD1001	弥生	甕	頸:(12.5)	0.1～2.0	やや粗	不良	石長チ赤黒	外:5YR6/6(橙) 内:5YR6/6(橙)	体部:ユビナデ	体部:ユビナデ	
117	1031	D	SD1001	縄文	深鉢	底:(5.6)	0.1～4.0	粗	やや不	石チ雲花	外:10YR6/4(にぶい黄橙) 内:10YR6/4(にぶい黄橙)	底部:ユビナデ	底部:ユビナデ	搬入品?
118	1028	D	SD1001	弥生	甕	頸:(14.6)	0.1～3.0	やや精	並	結石チ雲赤	外:7.5YR6/6(橙) 内:7.5YR7/6(橙)	口縁:ユビナデ　体部:タタキ(4条1cm)	口縁:ユビナデ　体部:ヘラケズリ	体部と口縁部で胎土が違う?要確認
120	976	D	SD100	弥生	甕	口:(12.4)	0.1～0.7	粗	やや不	結石長チ赤	外:7.5YR6/4(にぶい橙) 内:7.5YR6/4(にぶい橙)	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	
121	979	D	SR1001	弥生	甕	口:(16.3) 頸:(16.1)	0.1～1.0	やや粗	やや不	結石長雲赤	外:7.5YR7/4(にぶい橙) 内:5YR6/6(橙)	口縁:ユビナデ　体部:ユビナデ	口縁:ユビナデ　体部:イタナデ	
122	977	D	SD1001	土師器	甕	底:(8.2)	0.1～0.2	やや精	やや不		外:7.5YR7/3(にぶい橙) 内:10YR7/3(にぶい黄橙)	体部:ヨコナデ?　底部:不明	体部:ヨコナデ　底部:回転ナデ	底部中央にスス?付着　灯明皿に転用? 外面2次焼成により被熱痕あり
123	366	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高:(3.46) 口:(15.5) 底:(11.0)	0.2～2.0	やや粗	やや良	石長黒	外:N6/0(灰) 内:N7/0(灰白)	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 脚部:回転ナデ→貼付高台	口縁:回転ナデ　体部:回転ナデ 脚部:回転ナデ→2本指ナデ	右回転。
124	1029	D	SD1001	須恵器	椀	底:(9.1)	0.1～2.5	やや精	不良	石長チ黒	外:2.5Y8/1(灰白) 内:2.5Y8/1(灰白)	体部:回転ナデ　脚部:回転ナデ→貼付高台	体部:回転ナデ　脚部:回転ナデ	

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
125	80	D	SR1002 SD1001部分	須恵器	高台付杯	底：(8.05)	0.2～1.5	やや粗	良	長黒	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	体部：回転ヘラケズリ　底部：回転ヘラケズリ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転
126	1578	F	SD1008	縄文	深鉢	高：(7.6)	0.1～7.5	粗	やや不良	結石長雲黒	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10YR6/2（灰黄褐）	口縁：貝ガラ条痕→ナデ　体部：ユビナデ・板ナデ	口縁：ユビナデ・板ナデ　体部：板ナデ	
127	2239	F	SD1008	弥生	壺	底：(8.0)	0.1～4.0	やや精	並	結石長雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	体部：タタキ（3条/1cm）　底部：ナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
128	190	F	SD1008	弥生	壺	底：(17,1)	0.1～3.0	やや粗	やや良	石長チ雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	体部：板ナデ？　底部：ユビオサエ→ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	TS27　結晶片岩を含まない？
129	185	F	SD1008	須恵器	杯蓋	高：(2.75)　口：(12.9)	0.2～3.0	やや粗	やや不	石長	外：2.5Y7/1（灰白） 内：10YR8/1（灰白）	口縁：回転ナデ　底部：回転ヘラケズリ	口縁：回転ナデ　底部：回転ナデ→2本指ナデ	右回転。TS1
130	2238	F	SD1008	須恵器	フタ	口：(15.6)	0.1～2.0	やや精	不良	長チ泥黒	外：2.5Y7/2（灰黄） 内：2.5Y7/2（灰黄）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ	左回転
131	2234	F	SP1008	須恵器	杯蓋	口：(18.6)　底：(14.5)	0.1～1.0	やや精	良	長黒	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラケズリ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	右回転。
132	2279	F	SD1008	須恵器	高台付椀	底：(8.7)	0.1～1.5	やや精	堅	石長チ黒	外：N7/0（灰白） 内：N6/0（灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転。
133	2236	F	SD1008	須恵器	壺	底：(7.7)	0.1～1.0	やや精	良	長黒	外:8Y7.5/3 s（グレイみの黄） 内：N5/0（灰）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ	
134	843	F	SD1008	黒色土器	高台付椀	底：(7.4)	0.1～0.5	精	並	石長雲赤黒	外：7.5YR7/4（にぶい黄橙） 内：N4/0（灰）	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ→貼付高台	体部:回転ナデ→ヘラミガキ　脚部:回転ナデ→ヘラミガキ	TS3
135	842	F	SD1008	土師器	高台付椀	高：(7.4)　口：(15.5)	0.1～0.5	やや精	並	長チ赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→回転ヘラミガキ　底部：回転ヘラミガキ→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラミガキ　底部：回転ナデ	外面口縁付近にス？付着。底部高台内に赤色顔料残る。TS1.3.7.86
136	2237	F	SD1008	黒色土器	高台付椀	口：(12.4)	0.1～2.0	やや精	不良	長雲赤黒	外：2.5Y8/2（灰白） 内：2.5Y8/2（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラミガキ？	
137	841	F	SD1008	黒色土器	高台付椀		0.1～3.0	やや精	並	石長チ雲黒	外：7.5YR8/4（浅黄橙） 内：N4/0（灰）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ→ヘラミガキ	底部外面ヘラ記号あり。高台貼付設定技法（3条沈線）あり。TS1・2
138	844	F	SD1008	土師器	皿	口：(8.4)　底：(6.0)	0.1～0.5	やや精	不良	長チ雲赤泥	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：5YR6/8（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	TS4
139	845	F	SD1008	土師器	杯	底：(4.8)	0.1～2.0	やや精	並	石長雲金雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：回転ナデ　底部：ヘラナデ	体部：回転ナデ　底部：ユビオサエ→ユビナデ	TS27
140	1577	F	SD1008	弥生	深鉢	頸：(13.0)	0.1～3.0	やや粗	良	結石長花	外：10YR4/1（褐灰） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ	
141	2240	F	SD1008	弥生	甕	高：(2.3)　底：(5.6)	0.1～2.0	やや粗	並	石長チ雲赤	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：10YR5/3（にぶい黄橙）	体部：ユビオサエ→ヘラケズリ　底部：板ナデ	体部：ユビオサエ→ヘラケズリ　底部：ユビオサエ→ヘラケズリ	搬入品？片岩含まず。
142	1051	F	SD1008	土師器	甑	高：(4.9)　底：(10.1)	0.1～8.0	粗	不良	石長雲黒	外：5YR5/6（明赤褐） 内：5YR6/6（橙）	体部：板ナデ？　底部：ナデ	体部：板ナデ？　底部：ナデ	搬入品？
143	2241	F	SD1008	須恵器	壺	高：(7.3)	0.1～4.0	やや精	良	石長黒	外：2.5YR5/1（赤灰） 内：N6/0（灰）	体部：縄席タタキ（5条/cm）	体部：ヘラケズリ→ヨコナデ	外面自然釉付着
144	539	B・C	SK1020	縄文	浅鉢	頸：(16.7)	0.1～1.5	やや精	やや不	結石長雲赤黒	外：5YR6/6（橙） 内：10YR4/1（褐灰）	体部：ユビナデ	体部：ヘラミガキ	
145	511	B・C	SK1020	縄文	浅鉢	口：(19.8)　頸：(19.4)	0.1～0.5	やや精	良	石長チ	外：7.5YR4/1（褐灰） 内：7.5YR3/1（黒褐）	体部：ヘラミガキ	体部：ヘラミガキ	
146	781	BC	SK1020	縄文	浅鉢	頸：(21.2)	0.1～3.0	粗	やや不	石長チ	外：10YR5/2（灰黄褐） 内：10YR3/1（黒褐）	口縁：ヨコナデ　体部：条痕	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラナデ	
147	455	B・C	SK1021	縄文	浅鉢	高：(2.6)　頸：(14.9)	0.1～1.0	粗	不良	石長黒	外：10YR5/3（にぶい黄褐） 内：N3/0（暗灰）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ヘラミガキ	
148	515	B・C	SK1024	縄文	深鉢	口：(21.6)　頸：(19.5)	0.1～3.0	やや粗	良	結石チ雲赤	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10YR7/2（にぶい黄橙）	口縁：ヘラミガキ→口縁縄文→ナデ	口縁：ユビナデ→ヘラミガキ	
149	45	B・C	SK1029	縄文	浅鉢	頸：(22.9)	0.1～1.5	やや精	並	石長チ雲	外：5YR6/6（橙） 内：10YR3/1（黒褐）	体部：ヘラミガキ	体部：ヘラミガキ	
150	500	BC	SK1033	縄文	深鉢	口：(31.4)　頸：(28.8) 大：(31.8)	0.1～4.0	やや粗	良	結石長	外：10YR4/2（灰黄褐） 内：10YR4/1（褐灰）	口縁：貝殻条痕　体部：貝殻条痕	口縁：ユビナデ　体部：貝殻条痕→ユビナデ	TS102　内面スス？付着
151	2245	D	SK1140	縄文	深鉢	底：(5.4)	0.1～3.0	粗	不良	結石長	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR6/1（褐灰）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	TS1
152	2380	D	SK1140	土師器	鍋	口：(43.8)　頸：(42.2)	0.1～5.0	やや粗	良	石長チ雲赤黒花	外：7.5YR1.7/1（黒） 内：7.5YR6/4（にぶい橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	1/10図有り2　外面スス・おコゲ付着。サヌキからの搬入品？
153	812	D	SK1140	縄文	深鉢	底：(9.6)	0.1～2.0	粗	やや不	石長チ雲	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10Y4/1（褐灰）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
154	1004	D	SK1142	土師器	鍋	口：(29.6)	0.1～2.1	やや粗	並	石長チ雲金雲赤	外：7.5YR5/3（にぶい褐） 内：7.5YR2/1（黒）	口縁:回転ナデ→ユビオサエ　体部:回転ナデ→ユビオサエ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→板ナデ	外面スス付着。
155	2579	BC2	SK1002	縄文	深鉢		0.1～2.0	やや粗	やや不	石長チ	外：10YR4/4（褐） 内：10YR2/1（黒）	体部：巻貝条痕		②1/10図有。搬入品？
156	1143	BC2	SK1004	縄文	浅鉢	口：(39.2)　頸：(30.1) 大：(30.5)	0.1～4.0	粗	やや良	結石長雲赤	外：10YR4/1（褐灰） 内：10YR3/2（黒褐）	口縁：ヘラミガキ　体部：ヘラミガキ	口縁：ヘラミガキ　体部：ヘラミガキ	
157	2581	BC2	SK1016	弥生	高坏	大：(25.7)	0.1～2.0	粗	やや不	結石チ雲	外：2.5Y6/2（灰黄） 内：N4/0（灰）	口縁：ユビナデ　体部：？	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ヘラケズリ	⑤
158	497	BC	SK1008	土師器	高台付き碗	高：(5.2)　口：(16.4) 底：(6.1)	0.1～2	やや精	不良	石長チ雲赤	外：10YR7/4(にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	口縁：回転ナデ　体部：ユビオサエ→回転ナデ　底部：静止ヘラ切り→貼付高台→ユビナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラミガキ　底部：回転ナデ→ヘラミガキ	内面叩き痕？あり
159	498	B・C	SK1008	土師器	椀	口：(14.8)	0.1～1.5	やや精	不良	石長雲赤花	外：2.5Y8/3（淡黄） 内：2.5Y8/3（淡黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ←ユビオサエ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ←ヘラミガキ	搬入品？ TS1
160	541	B･C	SK1008	土師器	高台杯椀	底：(5.8)	0.1～0.2	やや粗	不良	石長チ雲赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ	
161	502	B・C	SK1008	土師器	鍋	口：(39.5)　頸：(36.2)	0.1～6.5	粗	並	結石長チ雲赤砂泥	外：10YR5/3（にぶい黄褐） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ユビナデ　体部：板ナデ	口縁：ユビナデ　体部：板ナデ	
162	823	D	SK1009	土師器	羽釜	高：(4.8)　口：(20.9) 鍔部（24.8）	0.1～2.5	やや粗	やや良	石長チ雲赤黒	外：2.5YR6/6（橙） 内：5YR7/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→鍔部貼付→ユビオサエ・ユビナデ	口縁:回転ナデ　体部：ヨコハケ（9条/0.9cm）	粘土ひも痕あり
163	2281		SK1014	縄文	深鉢		0.1～1.5	粗	やや不	石長	外：10YR4/4（褐） 内：10YR4/2（灰黄褐）	体部：貝殻条痕	体部：ユビナデ	TS2
164	2320	D	SK1061	弥生	鉢	口：(27.9)	0.1～3.0	やや粗	やや不	石長雲金雲赤花	外：5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：ユビナデ　体部：タタキ（3条/1cm）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS24　搬入品？
165	2382	D	SK1067	土師器	鍋	底：(11.6)	0.1～1.8	やや精	やや良	石長雲赤	外：10YR1.7/1（黒） 内：10YR3/1（黒褐）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ→板ナデ	TS14。外面おコゲ付着。

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
166	2278	D	SP1072	須恵器	杯	高：(3.5) 口：(12.4) 底：(5.6)	0.1～3.5	やや精	やや不	石長雲	外：5Y6/1(灰) 内：5Y6/1(灰)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	TS16
167	820	D	SK1076	磁器	碗	高：(7.1) 口：(11.4) 底：(5.0)		精	堅		外：2.5GY6/1 (オリーブ灰) 内：2.5GY6/1 (オリーブ灰)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→削り出し高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	内外面施釉
168	821	D	SK1076	磁器	碗	底：(4.0)	0.1～0.2	精	堅	黒	外：8Y7.5/3S (グレイみの黄) 内：8Y7.5/3S (グレイみの黄)	体部：回転ナデ　底部：削り出し高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	
169	804	D	SK1076	土師器	焙烙	高：(4.7) 口：(28.2)	0.1～4.0	やや粗	良	石長雲黒	外：N4/0 (灰) 内：7.5Y6/4 (にぶい橙)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→板ナデ→ユビナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビナデ	体部外面スス付着
170	2290	D	SK1088	土師器	壺	口：(13.6) 頸：(13.6)	0.1～2.0	やや粗	良	石長	外：10YR5/3 (にぶい黄褐) 内：10YR5/2 (灰黄褐)	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：イタナデ	TS43
171	2288	D	SK1089	弥生	壺	高：(3.0) 底：(12.4)	0.1～9.5	やや粗	並	結石長チ雲赤	外：7.5Y4/2 (灰オリーブ) 内：7.5Y5/2 (灰オリーブ)	体部：板ナデ　底部：ユビナデ・板ナデ	体部：板ナデ　底部：ユビオサエ→ユビナデ・ナデ	内面強めの棒状工具によるオサエとナデ工具痕あり。底部内外面に燃焼跡あり。
172	1001	D	SK1091	土師器	鍋	口：(42.2)	0.1～5.0	やや粗	並	石長チ赤	外：5Y2/1 (黒) 内：10YR6/3 (にぶい黄橙)	口縁:ユビナデ→ユビオサエ　体部:ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	外面オコゲ付着。搬入品？
173	2381	D	SK1100	土師器	鍋	口：(29.6)	0.2～3.0	やや粗	並	石長雲赤	外：2.5Y3/1 (黒褐) 内：10YR4/2 (灰黄褐)	口縁：ユビナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	外面オコゲ付着。 ③ 1/10 図有　TS79
174	808	D	SK1101	陶器	碗	口：(11.8)		精	良	長	外：7.5Y6/1 (灰) 内：7.5Y6/1 (灰)	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	
175	805	D	SK1101	土師器	鍋	口：(43.6)	0.1～3.0	やや粗	やや不	石長チ黒花	外：7.5YR4/1 (褐灰) 内：7.5YR5/1 (褐灰)	口縁：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ→ユビオサエ	
176	2291	D	SK1103	陶器	碗	口：(13.0)	0	精	堅	—	外：8Y7.5/3s (グレイみみの黄) 内：8Y7.5/3s (グレイみの黄)	口縁：釉薬　体部：釉薬	口縁：釉薬　体部：釉薬	TS134
177	2379	D	SK1103	土師器	鍋	口：(44.6) 頸：(42.4)	0.1～3.0	やや粗	良	石長雲赤花	外 10YR1.7/1 (黒) 内：10YR5/3 (にぶい黄褐)	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：イタナデ	1/10 図有り 3　外面スス付着。サヌキからの搬入？
178	1009	D	SK1104	陶器	壺	口：(16.2) 頸：(14.6)	0.1～1.0	やや精	良	石長	外：7.5R4/1 (暗赤灰) 内：N5/0 (灰)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	備前。右回転。
179	2293	D	SK1104	土師器	皿	高：(2.3) 口：(11.6) 底：(6.3)	0.1～4.5	精	不良	雲赤	外：7.5YR7/6 (橙) 内：7.5YR7/6 (橙)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→ヘラナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：ユビオサエ？	TS101　①
180	2289	D	SK1111	土師器	羽釜	口：(30.6)	0.1～2.5	やや精	やや良	石長チ雲赤泥黒花	外：5YR6/6 (橙) 内：10YR6/3 (にぶい黄橙)	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS82
181	2330	D	SK1111	土師器	羽釜	大：(34.6)	0.1～2.0	やや精	やや不	結石長チ雲	外：10YR6/4 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ	TS85 1/10 図有。外面スス付着。
182	2348	D	SK1123	土師器	杯	底：(8.0)	0.1	やや精	やや良	石長雲黒	外：2.5Y7/2 (灰黄) 内：5YR7/6 (橙)	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ハケ→ユビナデ	TS50　1/10 図有り
183	2352	D	SK1123	土師器	杯	底：(15.6)	0.1～1.5	やや粗	やや良	石長雲赤	外：10YR7/3 (にぶい黄橙) 内：10YR7/3 (にぶい黄橙)	体部：ユビナデ　底部：ヘラナデ	体部：ユビナデ　底部：回転ナデ	TS71
184	2344	D	SK1123	土師器	羽釜	口：(25.2)	0.1～2.0	やや精	並	石長雲赤黒	外：2.5YR6/6 (橙) 内：2.5YR6/6 (橙)	口縁：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ→ハケ（13 条 /13 ｃｍ）	TS109･111　搬入品？
185	2347	D	SK1123	土師器	羽釜	大：(26.5) 底：(25.4)	0.1～3.0	やや精	良	石長雲金雲赤	外：2.5YR6/8 (橙) 内：2.5YR6/6 (橙)	体部：ユビオサエ→ユビナデ	体部:ユビオサエ→ハケ（14 条 /1㎝）	外面被熱赤変　搬入品？　TS108,110,132
186	2349	D	SK1123	土師器	鍋	口：(39.0) 頸：(34.6)	0.1～3.5	やや精	やや良	石長チ赤	外：10YR6/3 (にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	口縁:ユビオサエ→ヨコナデ　体部:ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	TS49・56・57・118・137・138 1/10 図有。外面被熱黒変。搬入品？
187	2345	D	SK1123	土師器	羽釜	底：(24.4)	0.1～4.0	やや精	やや良	石長雲赤	外：2.5YR6/8 (橙) 内：2.5YR6/8 (橙)	体部：ハケ目 10 条 /㎝＋ユビオサエ　底部：ユビナデ	体部：ハケ目 10 条 /㎝＋ユビオサエ　底部：ハケ目 10 条 /㎝	TS51 1/10 図有。搬入品？
188	2355	D	SK1123	土師器	甕	—	0.1～1.0	やや粗	並	石長赤	外：10YR7/3(にぶい黄橙) 内：10YR7/4 (にぶい黄橙)	体部:ユビナデ→ユビオサエ　底部:ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ→ヘラナデ	TS133・135
189	1008	D	SK1127	磁器	碗	高：(2.8) 口：(14.0)	—	精	堅	—	外：10YG8.5/1 s（黄みの白) 内：10YG8.5/1 s（黄みの白)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	施釉 (内外面)
190	2326	F	SK1010	須恵器	壺	口：(20.4) 頸：(20.8)	0.1～1.5	やや精	不良	長雲黒	外：5PB5/1 (青灰) 内：5Y7/1 (灰白)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：青海波文→ユビナデ	頸部ヘラ記号
191	2285	F	SK1013	縄文	深鉢	口：(25.0) 頸：(11.5)	0.1～1.0	やや粗	不良	石長雲黒	外：10YR4/1 (褐灰) 内：10YR4/2 (灰黄褐)	口縁：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ	TS4
192	2286	F	SK1013	縄文	深鉢	口：(18.2)	0.1～3.0	粗	並	結石長雲	外：2.5Y5/1 (黄灰) 内：2.5Y4/1 (黄灰)	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ	
193	2282	F	SK1014	縄文	深鉢	口：(25.0) 頸：(21.4)	0.1～1.0	やや粗	不良	石長雲	外：10YR4/1 (褐灰) 内：10YR4/2 (灰黄褐)	口縁：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ	TS3
194	2823	F	SK1034	土師器	杯	底：(8.2)	0.1～2.0	やや精	やや不	雲赤	外：7.5YR6/3(にぶい橙) 内：7.5YR7/6(橙)	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	TS1　1/20 図有り
195	2373	H	SK1021	磁器	碗	口：(16.6)	0	精	堅	—	外：10YG6.5/3s (グレイみの黄緑) 内：10YG6.5/3s (グレイみの黄緑)	口縁:回転ロクロナデ→釉薬　体部:回転ロクロナデ→ユビナデ？→釉薬	口縁:回転ロクロナデ→釉薬　体部:回転ロクロナデ→釉薬	①　蓮弁紋
196	2375	H	SK1021	土師器	杯	口：(14.2)	0.1～0.3	やや精	やや不	長雲赤	外：7.5YR6/6 (橙) 内：7.5YR6/6 (橙)	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	
197	2398	H	SK2033	土師器	椀	高：(5.8) 口：(14.2) 底：(5.0)	0.1～1.0	やや精	並	石長雲	外：10YR6/4 (にぶい黄橙) 内：10Y2/1 (黒)	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ヘラミガキ　底部：回転ヘラ切り→貼付高台	口縁：ヘラミガキ　体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	内黒　外面　体部下部に一部赤色塗ふ？ ①　1/10　図有
198	3025	H	SK2038	土師器	椀	口：(17.1)	0.1～2.0	精	不良	石長赤	外：2.5Y8/2(灰白) 内：10YR8/2 (灰白)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
199	3024	H	SK2038	須恵器	壺	底：(5.4)	0.1～1.5	精	堅	石雲黒	外：N6/0 (灰) 内：N6/0 (灰)	底部：回転ヘラ切り→貼付高台	底部：回転ナデ→ユビナデ	
200	2397	H	SK2043	須恵器	高台付椀	高：(5.5) 口：(16.3) 底：(6.8)	0.1～3.0	やや精	やや不	結石雲赤	外：10YR7/3 (にぶい黄橙) 内：2.5Y7/2 (灰黄)	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラミガキ　底部：ユビナデ→貼付高台	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	内黒　外面赤色と彩？　①1/10　図有
201	374	B・C	SP1478	磁器	碗	口：(12.6)		精	堅		外：10YG7.5/3 s（グレイみの黄緑) 内：10YG7.5/3 s (グレイみの黄緑)	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	TS98
202	375	BC	SP1478	陶器	皿	高：(2.8) 口：(12.6) 底：(4.3)	0～0.1	精	堅	石黒	外：8Y7.5/3S (グレイみの黄) 内：8Y7.5/3S (グレイみの黄)	口縁:回転ロクロナデ→釉薬　体部:回転ロクロナデ→釉薬　底部：回転糸切り→回転ユビナデ	口縁:回転ロクロナデ→釉薬　体部:回転ロクロナデ→釉薬　底部：回転ロクロナデ→釉薬	TS98
203	373	B・C	SP1478	土師器	鍋	高：(5.5) 口：(37.9)	0.1～3.0	やや粗	良	石長雲金雲黒	外：N2/0 (黒) 内：7.5YR5/3 (にぶい褐)	口縁：ユビナデ	口縁：ヨコナデ	外面オコゲ付着。搬入品か？

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
204	1527	D	SP1190	磁器	碗	—	—	精	良	長	外：10G5.5/3 s（グレイみのオリーブグリーン） 内：10G5.5/3 s（グレイみのオリーブグリーン）	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	
205	2325	D	SP1190	磁器	碗	口：（13.0）	0	精	堅	—	外：10YG7.5/3 s（きみどり） 内：10YG7.5/3s（きみどり）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ	1/10 図有り 2
206	2358	D	SP1190	須恵器	椀	底：（6.6）	0 ～ 0.1	精	やや不	雲黒	外：7.5Y8/1（灰白） 内：7.5Y8/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：貼付高台→ユビナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	
207	2354	D	SP1190	土師器	壺	高：（3.1）	0.1 ～ 5.5	やや粗	やや良	石長雲赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内 10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：ユビナデ・板ナデ	体部：ユビナデ	①
208	1523	D	SO1210	土師器	釜	高：(4.9) 鍔部（28.1）	0.1 ～ 5.0	粗	不良	石長雲金雲赤黒	外：5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	体部：ユビオサエ→ユビナデ・板ナデ	体部：ユビオサエ→ユビナデ・板ナデ	体部外面こげ付着
209	1525	D	SP1210	弥生	甕		0.1 ～ 5.0	やや粗	やや不	結石長チ雲赤花	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	体部：不明	体部：不明	
210	1524	D	SP1210	土師器	鍋	底：（22.6）	0.1 ～ 0.5	粗	やや不	石長雲赤黒	外：2.5Y3/1（黒褐） 内：7.5Y7/4（にぶい橙）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ→ユビオサエ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	外面スス付着。
211	2247	D	SP210	弥生	壺	頸：（13.2）	0.1 ～ 2.8	やや粗	並	石長雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	体部：ヘラナデ？	体部：？	TS46
212	2357	D	SP1210	土師器	鍋	高：(2.5) 底：(10.2)	0.1 ～ 3.0	やや精	並	石長雲金雲赤黒	外：7.5Y3/1（黒褐） 内：7.5YR6/4（にぶい橙）	体部：ヨコナデ　底部：ユビナデ→板ナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	外面スス付着。搬入品？
213	1526	D	SP1214	弥生	壺	口：（19.2）	0.1 ～ 3.0	やや粗	やや不	石長赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	口縁：ユビナデ→刻目 (3 本 /1cm)	口縁：ユビナデ	
214	831	D	SP1115	磁器	碗	口：（13.2）		精	良	長	外：10YR6.5/3. s（グレイみの黄緑） 内：10YR6.5/3. s（グレイみの黄緑）	口縁：回転ナデ＋施釉　体部：回転ナデ＋施釉	口縁：回転ナデ＋施釉　体部：回転ナデ＋施釉	TS29
215	93	B・C	SP1095	土師器	椀	口：(13.8)	0.2 ～ 1.0	やや精	不良	長雲	外：5YR8/4（淡橙） 内：7.5YR8/4（浅黄橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
216	95	B・C	SP1339	瓦器	椀	口：(14,7)	0.1 ～ 1.1	精	やや良	石雲黒	外：7.5Y8/1（灰白） 内：N4/0（灰）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ→ヘラミガキ	
217	2318	D	SP1191	陶器	皿	口：（10.6）	0.1 ～ 1.0	やや精	堅	黒	外:10YG7.5/5 s（あさい黄緑） 内：10YG7.5/5s（あさい黄緑）	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	
218	854	D	SP1114	磁器	碗	—		精	堅	—	外:8Y6.5/3 s（グレイみの黄） 内:8Y6.5/3 s（グレイみの黄）	口縁：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉	TS30
219	875	F	SP1056	土師器	皿	高：（1.0）口：（6.6） 底：（5.4）	0.1 ～ 1.5	精	並	石チ雲赤	外：5YR6/8(橙） 内：5YR6/6(橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	TS1　楕円形→耳杯？
220	369	D	SP1114	土師器	杯	高：(2.52）口：(11.8） 底：（4.6）	0.1 ～ 0.5	やや精	やや不	石長赤黒	外：2.5Y8/3（淡黄） 内：2.5Y8/3（淡黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：静止ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 脚部：回転ナデ	TS32
222	376	BC	SP1055	土師器	高台付椀	底：（7.0）	0.1 ～ 2.0	やや精	並	結長雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：10Y3/1（オリーブ黒）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	TS91　内黒
223	2303	F	SP1048	縄文	深鉢	—	0.1 ～ 1.5	粗	やや良	石チ雲	外：10YR5/3（にぶい黄褐） 内：10YR3/2（黒褐）	体部：巻貝条痕	体部：ユビナデ	
224	2324	D	SP1202	土師器	甕	底：（11.6）	0.1 ～ 5.0	やや精	並	石長雲赤	外：10YR6/6（明黄褐） 内：10YR5/4（にぶい黄褐）	体部：ユビナデ→ヘラナデ　底部：ヘラナデ	体部：ヘラナデ　底部：穿孔の為不明	底部穿孔（内部から）？
225	2331	D	SP1221	土師器	羽釜	高：（5.3）	0.1 ～ 6.0	やや粗	並	石長雲赤	外：7.5YR4/3（褐） 内：7.5YR7/6（橙）	体部：ハケ→ナデ	体部：ユビナデ・板ナデ	外面スス付着。TS81。
226	2319	D	SP1234	土師器	擂鉢	口：（32.5）	0.1 ～ 4.0	やや粗	やや良	石長チ雲花	外：7.5YR5/3（にぶい褐） 内：7.5YR5/3（にぶい褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ→擂目（3 条 /1cm）	サヌキからの搬入品？ 外面スス？付着。
227	1522	D	SP1168	土師器	鍋	口：（40.3）	0.1 ～ 2.5	やや精	並	石長チ雲赤	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	外面スス付着。
228	2359	D	SP1153	土師器	鍋	口：（42.4）	0.1 ～ 5.0	やや精	並	石長チ雲赤	外：7.5YR4/4（褐） 内：5YR5/6（明赤褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	
229	508	A	SP1026	土師器	羽釜	頸：（23.9）	0.1 ～ 3.0	やや精	並	石長チ雲赤泥	外：7.5YR6/8（橙） 内：5YR6/8（橙）	口縁:ユビオサエ→ヨコナデ　体部:ユビオサエ＋ユビナデ　底部：格子タタキ	口縁:ハケ（9 条 /1cm）　体部:ハケ（9 条 /1cm）　底部：回転ナデ	搬入品？
230	1520	D	SP1161	土師器	鍋	高：(2.7）底：(31.8）	0.1 ～ 5.5	やや粗	並	石長チ雲赤黒	外：10YR4/2（灰黄褐） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	体部:ユビオサエ→ユビナデ　底部:板ナデ	体部：板ナデ　底部：板ナデ	
233	2343	D	SX1004	弥生	壺	口：（19.4）	0.1 ～ 4.0	やや粗	やや良	石長雲赤	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10YR6/3（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ	搬入品？
234	2341	D	SX1004	縄文	深鉢	—	0.1 ～ 3.0	やや粗	並	結石長雲	外：2.5Y6/2(灰黄） 内：5Y3/1（オリーブ黒）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→突帯	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
235	2334	D	SX1004	弥生	甕	頸：（14.3）	0.1 ～ 3.0	やや粗	並	結石チ雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：5Y7/1（灰白）	体部：タタキ→ハケ→ユビナデ	体部：ヘラケズリ＋ユビナデ	在地　頸部にスス付着
236	2332	D	SX1004	土師器	杯	底：（10.2）	0.1 ～ 2.0	やや精	やや不	結石長雲赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：2.5Y7/3（浅黄）	体部：回転ナデ　底部：ヘラナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	
237	233	D	SX1004	弥生	壺	底：(7,0)	0.1 ～ 6.5	やや粗	並	結石長雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：10YR8/4（浅黄橙）	体部：板ナデ　底部：ユビナデ	体部：板ナデ　底部：ユビオサエ	
238	2333	D	SX1004	弥生	壺	底：（9.4）	0.1 ～ 3.5	やや粗	やや不	結石長雲赤	外：10YR7/3（にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
239	2376	D	SX1006	土師器	鍋	口：（46.6）	0.1 ～ 3.0	やや精	やや良	石長雲赤	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：10YR2/2（黒褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	外面スス付着。サヌキからの搬入品？
240	2328	F	機械掘削後の精査	磁器	碗	底：（4.3）	0	精	堅	—	外：5Y6/2（灰オリーブ） 内：8Y6.5/5s（き）	体部：回転ヘラケズ削り＋回転ナデ→施釉　底部：削り出し高台	体部：回転ナデ→施釉　底部：回転ナデ→施釉	
241	2322	D	SX1007	土師器	鉢	高：(5.3）口：(16.5） 底：（5.8）	0.1 ～ 5.0	やや粗	やや不	結石長雲赤	外：5YR7/6（橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ナデ　体部：ユビナデ・板ナデ　底部：ユビナデ・板ナデ	口縁：ナデ　体部：ユビナデ・板ナデ　底部：ユビナデ・板ナデ	
242	2323	D	SX1009	弥生	甕	高：（7.8）	0.1 ～ 4.0	やや粗	やや不	石長雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：7.5YR8/4（浅黄橙）	体部：タタキ→板ナデ	体部：板ナデ	
243	2321	D	SX1007	弥生	鉢	—	0.1 ～ 2.5	やや粗	やや不	結石長金雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ？	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ？	
244	2342	D	SX1009	土師器	羽釜	口：（29.9）	0.1 ～ 3.0	やや粗	やや良	石長雲花	外：10YR4/2（灰黄褐） 内：7.5YR7/6（橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
245	600	F	SX1003	弥生	壺	底：（8.0）	0.1 ～ 4.5	粗	やや不	結石長チ赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：2.5Y5/1（黄灰）	底部：ユビナデか？	底部：ユビナデか？	
246	602	F	SX1003	弥生	壺	底：（6.8）	0.1 ～ 6.0	やや粗	並	結石チ雲赤花	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR5/4（にぶい黄褐）	体部：ユビオサエ→板ナデ　底部：板ナデ	体部：板ナデ　底部：板ナデ	搬入品か？
247	607	F	SX1003	弥生	壺	底：（7.8）	0.1 ～ 1.5	やや粗	並	石長雲赤花	外：5YR5/6（明赤褐） 内：2.5YR5/6（明赤褐）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	
248	608	F	SX1003	弥生	壺	底：（7.6）	0.1 ～ 2.5	粗	やや不	石長チ赤黒	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：7.5YR5/4（にぶい褐）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	
249	234	D	SX1004	須恵器	杯	底：(10,1)	0.1 ～ 1.0	精	不良	石雲	外：5Y7/1（灰白） 内：5Y7/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り→板目痕	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビオサエ→２本指ナデ	右回転　灯明皿に転用か？

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
250	1075	D	SR1001	縄文	浅鉢	頸：(14.4)	0.1～1.0	やや粗	不良	石長チ雲黒	外：10YR4/1（褐灰） 内：10YR2/1（黒）	体部：ユビナデ	体部：ヘラミガキ	突帯に刻目無し。
251	1575	F	SD1002	縄文	深鉢	口：(30.8)	0.1～1.5	やや粗	やや不	石チ雲金雲砂	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR5/4（にぶい黄褐）	口縁：ヨコナデ→ヘラミガキ？　体部：ヘラミガキ	口縁：ヘラミガキ　体部：ヘラミガキ	⑭　サヌキからの搬入品
252	1536	F	SD1002	縄文	浅鉢	口：(26.6)	0.1～2.0	粗	やや不	石チ雲砂	外：10YR7/4（にぶい黄褐） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ヘラミガキ？	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ヘラミガキ？	
253	1534	F	SD1002	縄文	浅鉢	口：(23.6)　頸：(20.0)	0.1～3.0	粗	不良	石長雲	外：2.5Y7/2（黄灰） 内：2.5Y7/2（黄灰）	口縁：ユビナデ→ユビオサエ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ→ユビオサエ　体部：ユビナデ	外面スス付着。
254	1537	F	SD1002	縄文	浅鉢	口：(33.1)	0.1～3.5	やや粗	並	石長雲	外：2.5Y5/1（黄灰） 内：2.5Y5/1（黄灰）	口縁：ヘラミガキ　脚部：回一	口縁：ヘラミガキ　脚部：回一	
255	2430	H	第２包含層　T-15	縄文	深鉢	口：(29.7)	0.1～4.0	粗	並	石チ雲赤	外：2.5Y7/2（灰白） 内：2.5Y7/2（灰白）	口縁：ヨコナデ？	口縁：ヨコナデ	
256	1568	F	SD1002	縄文	深鉢	口：(28.4)　頸：(26.3)	0.1～3.0	粗	不良	結石長	外：10YR1.7/1（黒） 内：10YR1.7/1（黒）			TS5
257	1592	F	SD1002	縄文	深鉢	高：(10.9)　口：(31.8) 頸：(31.0)　大：(34.0)	0.1～8.5	粗	やや不	石長雲赤黒	外：10YR5/3（にぶい黄褐） 内：10YR4/2（灰黄褐）	口縁：ユビナデ　体部：貝ガラ条痕→ナデ	口縁：ヨコナデ・ユビナデ　体部：ユビナデ・板ナデ	
258	945	F	包含層	縄文	浅鉢	口：(18.4)　頸：(16.8)	0.1～1.5	粗	不良	石長チ赤黒	外：7.5YR8/3（浅黄橙） 内：7.5YR5/6（明褐）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
259	1584	F	SD1002	縄文	深鉢	口：(17.0)	0.1～2.0	やや精	並	石チ雲金雲砂	外：10YR7/2（にぶい黄橙） 内：10YR6/2（灰黄褐）	口縁：条痕　体部：条痕	口縁：ユビナデ　体部：板ナデ	①
260	825	D	キカイ掘前(中段)	縄文	浅鉢	口：(37.1)	0.1～0.4	粗	やや不	結石長チ雲赤	外：10YR6/2（灰黄褐） 内：10YR5/1（褐灰）	口縁：ユビナデ→突帯　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	刻目は無
261	1573	F	SD1002	縄文	深鉢	—	0.1～2.0	やや粗	やや不	石長チ赤	外：10YR6/4（にぶい黄橙） 内：2.5Y6/1（黄灰）	口縁：ユビナデ？　脚部：回一	口縁：ユビナデ？	2
262	2363		SD1002	縄文	深鉢	—	0.1～1.9	やや粗	やや不	結石チ雲	外：5Y3/1（オリーブ黒） 内：5Y2/1（黒）	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ	㊿
263	973	D	SD1005	縄文	深鉢	—	0.1～2.0	やや粗	やや不	結石長	外：7.5YR6/6（橙） 内：10YR5/2（灰黄褐）	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ	TS140
264	361	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(4.0) 口：(11.6) 底：(7.4)	0.1～1.0	精	良	石チ雲	外：N6/0（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	TS46 1/20 図有。右回転。杯内側に壁が発泡したものがたまる。
265	1583	F	SD1002	縄文	深鉢		0.1～1.5	やや粗	やや不	石長	外：2.5YR5/1（黄灰） 内：10YR6/2（灰黄褐）	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ	TS60
266	1569	F	SD1001	縄文	深鉢	口：(32.8)　頸：(32.3)	0.1～3.0	やや粗	やや不	石チ雲赤砂	外：7.5YR5/6(明褐) 内：7.5YR5/6(明褐)	口縁:ユビナデ　体部:貝ガラ条痕？→ナデ消し	口縁:ヨコナデ？　体部:ヘラナデ？	TS5
267	942	F	包含層	縄文	深鉢	—	0.1～2.0	粗	並	石長チ砂黒	外：2.5Y4/1(黄灰) 内：2.5Y3/1(黒褐)	体部：ユビナデ→突帯＋刻目	体部：ユビナデ	
267	1535	F	SD1002	縄文	深鉢	口：(35.4)　頸：(31.0)	0.1～4.0	粗	やや不	結石長チ雲	外：2.5Y8/3（淡黄） 内：2.5Y8/3（淡黄）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
268	941	F	包含層	縄文	深鉢	—	0.1～2.5	粗	並	石長チ雲	外：2.5Y5/2（暗灰黄） 内：2.5Y4/1（黄灰）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
269	2303	F	SP1048	縄文	深鉢	—	0.1～1.5	粗	やや良	石チ雲	外：10YR5/3（にぶい黄褐） 内：10YR3/2（黒褐）	体部：巻貝条痕	体部：ユビナデ	
270	942	F	包含層	縄文	深鉢	—	0.1～2.0	粗	並	石長チ砂黒	外：2.5Y4/1（黄灰） 内：2.5Y3/1（黒褐）	体部：ユビナデ→突帯＋刻目	体部：ユビナデ	
271	944	F	包含層	縄文	深鉢	—	0.1～3.0	粗	並	石長赤砂	外：2.5Y7/1（灰白） 内：2.5Y7/3（浅黄）	体部：ユビナデ→突帯＋刻目 (3 本/1cm)	体部：ユビナデ	
272	2362	F	SD1002	縄文	深鉢	—	0.1～2.1	やや精	並	結石チ雲赤	外：10YR7/8（黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：巻貝条痕	体部：ヘラミガキ	TS4
273	1572	F	SD1002	縄文	深鉢	—	0.2～3.0	粗	やや不	石長チ	外：N2/0（黒） 内：7.5Y2/1（黒）	口縁：条痕	口縁：ユビナデ	搬入品？　　4
274	1576	F	SD1002	縄文	深鉢	口：(31.6)	0.1～3.5	粗	並	結石長チ雲	外：10YR8/4（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ	
275	1574	F6.7	SD1002	縄文	深鉢	—	0.1～5.0	やや精	並	結石雲赤	外：5Y5/6（明赤褐） 内：10YR4/1（褐灰）	体部：貝ガラ条痕	体部：ユビナデ	
276	1587	F	SD1002	縄文	深鉢	—	0.1～1.5	粗	不良	結石長チ	外：10YR6/4（にぶい黄橙） 内：10YR6/2（灰黄褐）	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ	TS17
277	573	E2	SR1001	縄文	深鉢	—	0.1～2.0	やや精	やや不	結石長雲	外：N2/0（黒） 内：N3/0（暗灰）	口縁：刻目突帯	口縁：ユビナデ	TS429
278	2272	F	遺構面精査	縄文	深鉢	—	0.1～0.3	やや粗	やや不	結石長雲	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：7.5YR5/4（にぶい褐）	口縁：ユビナデ→刻目突帯	口縁：ユビナデ	
279	1582		SD1002	縄文	深鉢	—	0.1～2.0	やや粗	並	結石チ運赤	外：10YR4/1（褐灰） 内：10YR2/1（黒）	体部：2 枚貝条痕	体部：ヘラナデ	㊽
280	570	E2	SR1001	縄文	深鉢	頸：(28.4)　大：(29.0)	0.2～4.0	粗	並	結石長チ赤黒	外：7.5YR5/1（褐灰） 内：10YR8/1（灰白）	体部：イタナデ	体部：ユビナデ	TS443
281	2356	F	SD1002	縄文	深鉢	高：(2.3)　底：(5.8)	0.1～2.0	粗	不良	石長雲赤	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：10YR3/1（黒褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
282	847	F	黒色包含層	縄文	深鉢	底：(7.2)	0.1～2.5	粗	並	石長チ赤	外：5Y3/1（オリーブ黒） 内：2.5Y4/1（黄灰）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ→ユビオサエ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
283	1570	F	SD1002	縄文	深鉢	高：(3.8)　底：(5.8)	0.1～4.5	粗	並	石長雲赤黒	外：7.5YR5/6（明褐） 内：10YR4/1（褐灰）	体部：ヘラケズリ　底部：板ナデ	体部：板ナデ　底部：板ナデ	
284	869	F	包含層 G-4	縄文	深鉢	底：(6.9)	0.1～0.5	粗	やや不	結石長チ	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：2.5Y4/1（黄灰）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	
285	852	F	黒色包含層	縄文	深鉢	高：(2.7)　底：(7.5)	0.1～5.0	やや粗	やや良	石長雲赤	外：5YR5/6（明赤褐） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：ユビナデ？　底部：ヘラケズリ	体部：イタナデ	
286	870	F	包含層	縄文	深鉢	底：(4.6)	0.1～0.3	粗	並	石長チ雲黒	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：2.5Y5/2（暗灰黄）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	
287	1045	F	包含層	縄文	深鉢	底：(5.8)	0.1～5.0	粗	並	結石長雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：10YR7/2（にぶい黄橙）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
288	2587	E2	SR1002	弥生	甕	口：(20.4)　頸：(21.2) 大：(21.2)	0.1～5.0	やや粗	やや良	石長雲赤花	外：10YR6/4（にぶい黄橙） 内：10Y6/3（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ　体部：棒状工具ナデ→板ナデ＋クシ描波状文（4 条/0.9cm）	口縁：ユビナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	サヌキからの搬入品
289	2588	E2	SR1001	弥生	甕	高：(4.5)	0.1～3.2	やや粗	並	石長雲花	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10YR4/2（灰黄褐）	体部：ナデ→沈線 2 条（0.2cm）・櫛描文	体部：ユビナデ・板ナデ	瀬戸内からの搬入品
290	2589	E2	SR1001	弥生	甕	高：(3.6)　口：(24.0) 頸：(22.8)	0.1～4.5	粗	やや不	石長雲赤黒	外：10YR5/6（黄褐） 内：10YR4/2（灰黄褐）	口縁：ナデ→刻目　体部：ユビナデ→沈線 3 条（0.2～0.3cm）	口縁：板ナデ　体部：板ナデ	内外面摩滅著しい。瀬戸内からの搬入品。
291	1154	E2	SR1001	弥生	甕	口：(14.7)　頸：(11.9)	0.2～5.0	やや粗	並	結石長雲赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：2.5Y6/2（灰黄）	口縁：タタキ→ユビナデ　体部：タタキ (4 条/1㎝)	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	SRI－238　TS

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
292	596	E-2	SR1001	弥生	甕	口：(15.7) 頸：(12.5) 大：(15.4)	0.1 ～ 1.0	やや粗	やや不	結石長チ赤	外：5YR5/6（明赤褐） 内：5YR5/8（明赤褐）	口縁：タタキ（7 条 /1.6cm）→ユビナデ　体部：タタキ（7 条 /1.6cm）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	淡路型？　搬入の可能性あり　SRI － 336 TS
293	786	E2	SR1001	弥生	甕	口：(15.8) 頸：(13.4)	0.1 ～ 4.0	粗	並	石長チ雲赤	外：2.5YR4/4（にぶい赤褐） 内：7.5YR4/3（褐）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ハケ（7 条 /1cm）→ユビナデ	搬入品か？　結晶片岩含まず
294	2611	E2	SR1001	弥生	甕	口：(15.1) 頸：(13.4) 大：(16.0)	0.1 ～ 1.5	精	良	結石チ雲赤	外：5YR5/6（明赤褐） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：ヘラケズリ	
295	988	D	SD1001	弥生	甕	頸：(12.4)	0.1 ～ 4.0	粗	やや不	結石長雲赤砂	外：5YR6/8（橙） 内：5YR6/8（橙）	体部：タタキ→ユビナデ	体部：ユビナデ	搬入品か？伊予東部？結晶片岩と花崗岩？を含む
296	1414	H	第 2 包含層	弥生	壺	口：(14.0)	0.1 ～ 3.5	やや粗	やや不	結石長雲赤花	外：10YR6/6（明黄褐） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ　脚部：回一	口縁：ユビナデ　脚部：回一	
297	2233	F	遺構面精査中	弥生	壺	口：(24.0)	0.1 ～ 2.0	やや粗	やや不	石長雲赤黒	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：N 5/0（灰）	口縁：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ	
298	2749	H	第 2 包人力	弥生	壺		0.1 ～ 4.0	やや粗	並	結石長チ雲赤黒	外：5Y5/1（灰） 内：N5/0（灰）	体部：ユビナデ→刻目突帯	体部：ユビナデ	
299	580	E2	SR1001	弥生	壺	頸：(10.2)	0.1 ～ 2.5	粗	やや不	結石長赤黒	外：2.5Y8/1（灰白） 内：2.5Y8/1（灰白）	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ	TS471
300	2750	H	第 2 包人力	弥生	壺		0.1 ～ 4.0	やや粗	並	結石長チ雲黒	外：2.5Y8/1（灰白） 内：N5/0（灰）	体部：ユビナデ→刻目突帯	体部：ユビナデ	
301	2826	H	第 2 包含層	弥生	甕	口：(30.0)	0.1 ～ 6.5	粗	やや不	結石長雲赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/2（灰白）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
302	542	E2	SR1001	弥生	鉢	口：(17.0)	0.1 ～ 0.7	粗	やや不	長チ赤黒	外：2.5YR5/8（明赤褐） 内：5YR4/6（赤褐）	口縁：ユビナデ　体部：タタキ→ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS231
303	1155	E2	SR1001	弥生	鉢	高：(5.6) 口：(8.05) 底：(1.4)	0.1 ～ 10.0	やや粗	やや不	結石長雲赤	外：10YR7/2（にぶい黄橙） 内：10YR7/3（にぶい黄橙）	口縁：ユビオサエ　体部：ユビオサエ　底部：ユビオサエ→ナデ	口縁：ユビオサエ　体部：ユビオサエ　底部：ユビオサエ	TS365
304	1571		SD1002	弥生	壺	底：(5.2)	0.1 ～ 9.0	やや粗	やや不	結石長チ雲黒	外：7.5YR5/6（明褐） 内：7.5YR5/3（にぶい黄褐）	体部：ユビオサエ→ナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	TS62
305	1159	E2	SR1001	弥生	壺	底：(3.4)	0.1 ～ 2.0	やや精	やや良	結石チ雲	外：7.5YR6/8（橙） 内：10YR4/3（にぶい黄褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：？　底部：？	TS234
306	2313	D	SR1002	弥生	壺	底：(7.8)	0.1 ～ 2.5	やや粗	並	石長雲赤	外：10YR6/4（にぶい黄橙） 内：2.5Y7/3（浅黄）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
307	1117	B・C	第 1 包含層	弥生	壺	底：(10.4)	0.1 ～ 5.0	やや粗	やや不	結石長赤	外：7.5YR5/2（灰褐） 内：7.5YR5/6（明褐）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	搬入品？
308	1160	E2	SR1001	弥生	壺	底：(6.0)	0.1 ～ 1.5	やや精	並	結石雲金雲	外：7.5YR4/6（褐） 内：7.5YR6/6（橙）	体部：ハケ（7 条 /1cm）→ユビナデ　脚部：ユビナデ	体部：ユビナデ　脚部：ユビナデ	
309	2586	E2	SR1001	弥生	甕	底：(7.2)	0.1 ～ 4.0	粗	並	結石長チ雲赤	外：2.5YR4/4（にぶい赤褐） 内：2.5YR6/4(にぶい橙）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
310	850	F	黒色包含層	弥生	壺	底：(18.2)	0.1 ～ 4.0	粗	並	石長チ雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：10YR7/2（にぶい黄橙）	体部：板ナデ　底部：不明	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
311	2748	H	第 2 包人力	弥生	甕	底：(8.6)	0.1 ～ 4.0	やや精	並	石花	外：N7/0（灰白） 内：2.5YR6/8（橙）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	外面被熱発泡
312	2613	E2	SR1001	弥生	壺	底：(6.4)	0.1 ～ 4.0	やや精	やや良	結石長雲赤	外：7.5YR4/6（褐） 内：5Y6/8（橙）	体部：ヘラナデ　底部：ヘラナデ	体部：ヘラナデ　底部：ヘラナデ	
313	2232	F	遺構面精査中	弥生	甕	底：(4.2)	0.1 ～ 2.0	粗	やや不	石長雲赤	外：5YR6/4（にぶい橙） 内：10YR4/1（褐灰）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	
314	2747	H	第 2 包人力	弥生	壺	底：(9.0)	0.1 ～ 4.0	やや精	やや不	石長雲赤	外：2.5YR6/6（橙） 内：2.5Y6/1(黄灰）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
315	592	E-2	SR1001	弥生	甕	底：(5.6)	0.1 ～ 1.0	やや粗	並	石長雲赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：7.5Y5/4（にぶい褐）	体部：タタキ（3 条 /1cm）→ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	SRI － 352 TS
316	560	E2	SR1001	弥生	甕	底：(4.4)	0.1 ～ 4.0	やや粗	やや良	結石長チ雲赤	外：7.5Y3/1（オリーブ黒） 内：7.5Y2/1（黒）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
317	2312	D	SR1002	弥生	甕	底：(4.8)	0.1 ～ 1.0	やや精	並	石雲	外：10YR7/3（にぶい黄橙） 内：10YR5/3（にぶい黄褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
318	3036	H	SK2031	弥生	甕	高：(2.7) 底：(5.0)	0.1 ～ 6.0	やや粗	並	石長雲赤	外：10YR4/1（褐灰） 内：7.5YR6/3（にぶい褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
319	830	D	北側溝（西側）	弥生	高坏	底：(15.2)	0.1 ～ 3.0	やや粗	やや不	石長チ金雲角赤黒	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：7.5YR5/4（にぶい褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	讃岐搬入品。
320	1078	D	SR1001	弥生	高坏		0.1 ～ 3.0	粗	やや不	結石長チ赤黒	外：2.5YR6/6（橙） 内：2.5YR6/6（橙）	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ	
321	851	F	黒色包含層	弥生	高坏	大：(3.6)	0.1 ～ 3.0	やや粗	並	結石長チ赤砂	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：5Y5/1（灰）	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ	在地層
322	1158	E2	SR1001	弥生	高坏	頸：(3.2)	0.1 ～ 3.0	やや粗	不良	石雲赤	外：5YR5/8（明赤褐） 内：5YR4/6（赤褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	TS359　3 条沈線あり
323	361	A	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(4.0) 口：(11.6) 底：(7.4)	0.1 ～ 1.0	精	良	石チ雲	外：N6/0（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	TS46 1/20 図有。右回転。杯内側に壁が発泡したものがたまる。
324	1174	E2	SR1001	須恵器	高台付杯	高：(4.2) 口：(13.0) 底：(9.3)	0.1 ～ 2.0	やや粗	やや不	石長チ黒	外：2.5Y6/1（黄灰） 内：2.5Y7/1（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	右回転
325	2596	E2	SR1001	須恵器	椀	口：(14.4)	0.1 ～ 3.0	やや精	堅	石雲黒	外：N5/0（灰） 内：N4/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
326	623	E2	SR1001	須恵器	椀	口：(14.3)	0.1 ～ 1.0	やや精	やや良	黒	外：5Y5/1（灰） 内：5Y6/1(灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラケズリ	41
327	784	E2	SR1001	須恵器	椀	口：(15.3)	0.1 ～ 0.3	精	良	長黒	外：5Y7/1（灰白） 内：5Y7/2（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	TS86
328	853	D	SK1093	須恵器	椀	口：(18.8)	0.1 ～ 0.3	やや精	良	長黒	外：N5/0（灰） 内：N5/0（灰）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ	右回転　4
329	1062	D	包含層 T-2	須恵器	椀	口：(16.6)	0.1 ～ 1.5	精	やや不	石チ雲黒	外：N7/0（灰白） 内：7.5Y7/1（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビオサエ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラミガキ	
330	2607	E2	SR1001	須恵器	椀	口：(13.3)	0.1 ～ 6.0	粗	やや不	石長砂花	外：2.5Y7/3（浅黄） 内：2.5Y7/4（浅黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
331	1044	F	包含層 G-3	須恵器	椀	口：(15.4)	0.1 ～ 0.9	精	良	石雲黒	外：N5/0（灰） 内：N5/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラナデ	
332	2762	H	第 2 包含層	須恵器	椀	高：(3.0) 口：(14.2)	0.1 ～ 0.5	やや精	良	長雲黒	外：N6/0（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→凹線 4 条 (0.2 ～ 0.25cm)	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
333	2763	H	第 2 包含層	須恵器	椀	高：(2.9) 口：(11.8) 底：(3.8)	0.1 ～ 1.0	やや精	良	長雲黒	外：10Y7/1（灰白） 内 N7/0（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ナデ	
334	2547	E2	第 1 包人力	須恵器	杯	高：(3.7) 口：(15.8)	0.1 ～ 2.0	やや精	やや良	長黒	外：10YR5/1（褐灰） 内：10YR6/1（褐灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：ヘラナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	右回転

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
335	2767	H	第二包人力	須恵器	椀	口：(11.0)	0.1	やや精	良	雲黒	外：5Y7/1（灰白） 内：2.5Y7/1（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
336	2544	E2	SR1001	須恵器	杯	口：(13.2)	0.1～0.9	精	堅	石長雲黒	外：5Y7/1（灰白） 内：N4/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ←回転ヘラケズリ	TS315　左回転　口唇部スミ？付着
337	2760	H	第２包人力	須恵器	高台付椀	底：(4.5)	0.1～0.3	やや精	良	長雲黒	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転。体部打ち欠き？
338	2761	H	第２包人力	須恵器	高台付椀	底：(4.8)	0.1～0.5	精	良	長チ黒	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	左回転。体部打ち欠き？
339	1066	D	包含層	須恵器	椀	底：(5.6)	0.1～1.5	やや粗	不良	チ雲	外：5YR7/6（橙） 内：2.5Y8/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	外面赤色顔料塗布。
340	1148	E2	SR1001	須恵器	高台付椀	底：(5.4)	0.1～1.2	精	やや不	石長	外：2.5Y8/2（灰白） 内：2.5Y8/2（灰白）	体部：回転ナデ→ユビナデ　底部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	TS298
341	2433	H	北側溝	須恵器	椀	底：(5.1)	0.1～0.3	精	やや良	長黒	外：5Y6/1（灰） 内：5Y6/1（灰）	体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	左回転
342	2766	H	第２包人力	須恵器	椀	底：(5.0)	0.1～1.5	やや精	並	長雲黒	外：5Y6/1（灰） 内：N6/0（灰）	体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ 底部：ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	高台貼付のナデは雑。内面に火タスキあり。右回転。
343	2764	H	第２包人力	須恵器	椀	底：(5.0)	0.1～2.0	精	良	長雲赤黒	外：7.5Y7/1（灰白） 内：7.5Y6/1（灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	底部：回転ナデ→板ナデ	
344	1058	D	包含層	須恵器	高台付椀	底：(11.0)	0.1～0.3	やや精	良	長黒	外：2.5Y6/1（黄灰） 内：2.5Y7/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転
345	22	B・C	包含層精査	須恵器	高台付杯	―	0.2～1.0	やや粗	並	長	外：N6/0（灰） 内：N6/0（灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転
346	2721	H	第２包含層	須恵器	高台付椀	高：(2.8)　底：(5.0)	0.1～1.0	やや精	良	石長雲黒	外：N5/0（灰） 内：N6/0（灰）	体部:ユビオサエ→回転ナデ　底部:回転ヘラ切り→貼付高台→ユビナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	体部下部～高台にかけて一部自然釉付着。右回転。
347	1424	H	第２包含層	須恵器	椀	底：(4.6)	0.1～0.4	精	やや良	長黒	外：5Y6/1（灰） 内：5Y6/1（灰）	体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ	体部：回転ナデ	左回転
348	2612	E2	SR1001	須恵器	杯	底：(9.4)	0.1～2.0	精	堅	石雲	外：N4/0（灰） 内：N6/0（灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台→ユビナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転
349	874	F	包含層	須恵器	高台付杯	底：(8.8)	0.1～0.2	やや精	良	長黒	外：N5/0（灰） 内：N5/0（灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転
350	947	F	包含層	須恵器	杯	底：(10.8)	0.1～0.3	やや精	良	長黒	外：5Y6/1（灰） 内：5Y6/1（灰）	底部：回転ヘラケズリ→ヘラナデ	底部：回転ナデ	右回転
351	859	F	遺構面精査	須恵器	蓋	高:（2.25）口:（17.8） 底：(11.5)	0.1～1.0	精	良	石チ黒	外：N5/0（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	右回転。内面を硯石として転用？
352	583	E-2	SD1001	須恵器	高台付椀	―	0.1～0.3	やや精	やや不	石長黒	外：2.5Y7/1（灰白） 内：2.5YR7/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ削→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転　SRI－29　TS 取上
353	2543	E2	SR1001	須恵器	皿	高：(2.2)　口：(16.8) 底：(13.6)	0.1～2.0	やや精	やや不	石長黒	外：2.5Y6/2（灰黄） 内：2.5Y7/2（灰黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→ヘラナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ→ユビナデ	底部内面に二枚貝の痕跡？左回転　SRI-362　TS
354	2777	H	第２包含層	須恵器	壺	口：(17.0)	0.1～1.0	精	堅	石雲黒	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ	
355	1145	E2	SR1001	須恵器	壺	口:（16.4）頸:（13.8）	0.1～2.0	精	やや良	長黒	外：N5/0（灰） 内：N6/0（灰）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ	TS66　右回転
356	1152	E2	SR1001	須恵器	壺	頸：(13.2)	0.1～2.0	やや精	やや良	長黒	外：5Y5/1（灰） 内：5Y6/1（灰）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ→ユビナデ	SRI－292　TS
357	2755	H	第２包含層	須恵器	壺	頸：(12.6)	0.1～1.5	やや精	良	石長チ黒	外：2.5Y7/1（灰白） 内：N6/0（灰）	体部：平行タタキ	体部：無文あて具→ユビオサエ→ユビナデ	
358	2739	H	第２包人力 C-19	須恵器	甕		0.1～1.0	精	やや不	石雲赤黒	外：2.5Y7/2（灰黄） 内：5Y7/2（灰白）	体部：格子タタキ	体部：青海波文→ヘラナデによる消し	
359	1060	D	包含層	須恵器	壺	高：(4.0)　頸：(5.0)	0.1～0.5	やや精	良	長雲黒	外：N5/0（灰）内：N6/0(灰）	体部：（頸部）回転ナデ	体部:（頸部）回転ナデ→ユビオサエ・ユビナデ	外面頸部自然釉付着。粘土ひも痕あり。
360	1426	H	第２包含層 B-15	須恵器	壺	頸：(4.9)	0.1～2.0	精	堅	石チ雲黒	外：5/0（灰） 内：6/0(灰）	体部：回転ナデ→釉薬	体部：回転ナデ	頸部から上は打ち欠き？
361	856	F	包含層	須恵器	壺	高：(13.0)　頸：(4.1) 大：(5.6)	0.1～1.5	精	良	石長雲黒	外：7.5Y6/2（灰オリーブ） 内：N6/0（灰）	体部：回転ヘラケズリ→回転ナデ	頸部:回転ナデ→ヘラケズリ　体部:回転ナデ	外面自然釉付着。右回転
362	1036	F	包含層	須恵器	壺	高：(6.5)	0.1～2.0	やや精	やや不良	石長雲	外：N5/0（灰） 内：N4/0（灰）	体部：回転ナデ→ユビナデ	体部：回転ナデ→板ナデ→ユビナデ	粘土ひも痕あり
363	1072	D	SR1001	須恵器	壺		0.1～2.0	やや精	良	石チ黒	外：N4/0（灰） 内：N8/0（灰白）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ	左回転。
364	1093	F	SR1001	須恵器	高台付椀	底：(3.7)	0.1～0.2	精	良	長黒	外：N6/0（灰） 内：N7/0（灰白）	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ	左回転。
365	1105	A	包含層	須恵器	壺	底：(9.0)	0.1～2.0	やや精	良	長黒	外：N4/0（灰） 内：N6/0（灰）	体部：回転ナデ→回転ヘラケズリ 底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転。内面にこう打痕？あり。
366	1063	D	包含層 T-4	須恵器	鉢	底：(11.8)	0.1～1.0	精	堅	石黒	外：N6/0（灰） 内：N7/0（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ？	底部外面に、ヘラによるロクロからの剥し痕あり
367	2530	E2	SR1001	須恵器	甕	高:（43.0）口:（25.3）	0.1～5.0	精	良	石長雲黒	外：10YR5/1（褐灰） 内：10YR5/1（褐灰）	口縁：回転ナデ　体部：格子タタキ	口縁：回転ナデ　体部：青海波文	No.2530、No.2538（TS80）、No.2534（TS39・40・42）、No.2536（TS53）図上接合
368	92	f -14	SP1088	須恵器	甕	底：(26.6)	0.1～3.0	精	堅	石長黒	外：5PB6/1（青灰） 内：5PB7/1（明青灰）	体部：回転ナデ　底部：ユビナデ	体部：回転ナデ　底部：ユビナデ	
369	612	E2	SR1001	須恵器	器台	底：(41.4)	0.1～0.5	やや精	やや不	長黒	外：N5/0（灰） 内：2.5Y7/1（灰白）	底部：回転ナデ	底部：回転ナデ	
370	1170	E2	SR1001	土師器	杯	高：(3.4)　口：(14.4) 底：(8.3)	0.1～2.0	やや精	やや不	チ雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	SRI－177　TS1/10
371	2824	H	第２包含層	土師器	椀	高：(4.2)　口：(16.8) 底：(7.6)	0.1～4.0	やや精	やや不	長雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：5YR7/8（橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：マメツ不明　底部：マメツ不明	
372	1144	D	キカイ掘削	土師器	椀	高:（14.6）口:（14.8） 大：(15.0)　底：(7.4)	0.1～0.3	やや粗	不良	石長チ雲赤	外：10YR8/4（浅黄橙） 内：10YR8/4（浅黄橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	底部、高台　剥落
373	1064	D	包含層	土師器	高台付椀	底：(6.3)	0.1～0.2	やや精	不良	石長雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：5YR7/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り→貼付高台	口縁：回転ナデ　体部：ユビナデ 底部：回転ユビナデ	口縁部打ち欠き？により体部中央付近を磨き、再度口縁状に加工か？

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
374	101	B・C	第1包含層	土師器	杯	口：(6.1)	0.1～4.0	粗	不良	結石長雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：7.5YR7/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
375	785	E2	SR1001	黒色土器	椀	口：(15.7)	0.1～1.5	やや精	やや良	石長雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：7.5Y2/1（黒）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→回転ヘラケズリ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラミガキ	TS45。右回転。
376	2966	A	機械掘削後の精査	黒色土器	椀	口：(16.7)	0.1～3.0	やや精	やや良	石長雲	外：10Y3/1（オリーブ黒） 内：10Y3/1（オリーブ黒）	口縁：回転ナデ　体部：ユビオサエ→回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
377	575	E2	SR1001	黒色土器	高台付椀	口：(17.0)	0.1～1.9	やや精	不良	結石長チ黒	外：N3/0（暗灰） 内：N3/0（暗灰）	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ユビオサエ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ヘラミガキ暗文(2)	TS118　胎土に河原石粒を多く含む
378	1083	D	包含層	瓦器	椀	口：(15.9)	0.1～2.0	やや精	やや不	石長黒	外：N5/0（灰） 内：2.5Y7/1（灰白）	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ユビオサエ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ヨコナデ	
379	584	E2	SR1001	瓦器	椀	口：(14.3)	0.1～1.0	やや精	並	石長	外：5Y5/1（灰） 内：5Y5/1（灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラミガキ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ヘラミガキ	TS36
380	368	A	第1包含層	瓦質土器	椀	口：(15.6)	0.2～0.8	やや粗	やや不	長黒	外：5Y6/1（灰） 内：5Y7/1（灰白）	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	TS32
381	1150	E2	SR1001	黒色土器	椀	—	0.1～3.5	やや精	不良	石長赤花	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：2.5Y4/1（黄灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部:回転ナデ→ヘラミガキ　底部:回転ナデ→ヘラミガキ	TS439
382	598	E2	SR1001	黒色土器	高台付椀	底：(6.4)	0.1～0.5	精	やや良	石チ雲	外：10YR5/2（灰黄褐） 内：10YR5/2（灰黄褐）	体部：回転ナデ→ナデ　底部：回転ヘラ切り→ナデ・貼付高台	体部:回転ナデ→ヘラミガキ　底部:回転ナデ→ナデ	TS302
383	2778	H	第2包人力	黒色土器	椀	底：(6.0)	0.1～2.0	やや精	やや不	雲	外：10Y4/1（灰） 内：10Y3/1（オリーブ黒）	体部：回転ナデ　底部：ヘラ切り？→貼付高台	体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	
384	2753	H	第2包人力	土師器	椀	底：(6.2)	0.1～1.5	やや精	やや不	結石長雲赤黒	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：2.5Y4/1（黄灰）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ→ヘラミガキ	内黒
385	565	E2	SR1001	黒色土器	椀	—	0.1～4.0	やや精	並	石長赤	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10YR2/1（黒）	体部：回転ナデ→回転ヘラケズリ	体部：回転ナデ→ヘラミガキ	TS237。右回転。
386	1173	E2	SR1001	黒色土器	高台付椀	底：(5.9)	0.1～1.5	やや精	やや良い	石長黒	外：2.5Y7/2（灰黄） 内：N3/0（暗灰）	体部：回転ナデ→回転ヘラケズリ 底部：回転ナデ→貼付高台	体部：ヘラミガキ（摩滅）　底部：ヘラミガキ（摩滅）	ST483
387	2277	F	遺構面精査	瓦器	椀	底：(7.9)	0.1～2.0	精	良	長雲赤	外：2.5Y7/2（灰黄） 内：2.5Y2/1（黒）	体部：ヘラミガキ　底部：回転ナデ	体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	
388	2585	E2	SR1001	土師器	高台付椀	底：(5.8)	0.1～2.0	やや精	やや不	石長チ雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：7.5YR7/6（橙）	体部:ユビオサエ→回転ナデ　底部:回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	
389	2825	H	第2包含層 C-18	土師器	椀	底：(6.4)	0.1～0.9	精	やや不	石チ雲赤	外：7.5YR7/4(にぶい橙) 内：5Y3/1（オリーブ黒）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁:回転ナデ→ユビオサエ　体部:回転ナデ→ヘラミガキ（マメツ）	内面に雑穀(豆)？痕？？
390	1084	D	包含層	瓦器	椀	底：(6.3)	0.1～0.2	精	並	長黒	外：N4/0（灰） 内：2.5Y7/1（灰白）	体部:ユビオサエ→回転ナデ　底部:ユビナデ→貼付高台	体部：ヘラナデ　底部：ユビナデ	
392	1068	D	包含層	瓦器	皿	底：(4.4)	0.1～1.0	やや精	やや不	チ	外：N4/0（灰） 内：2.5Y8/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転
393	1071	E2	SR1001	土師器	高台付椀	底：(7.2)	0.1～2.0	精	並	石長雲赤黒	外：2.5Y8/3（淡黄） 内：2.5Y8/3（淡黄）	底部：回転ナデ→ユビナデ	底部：回転ナデ	体部打ち欠き？転用か？
394	2737	H	第2包人力	瓦器	椀	底：(5.2)	0.1	やや精	並	雲黒	外：2.5Y2/1（黒） 内：2.5Y2/1（黒）	体部：ユビオサエ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	内面に付着物あり
395	1091	F	SR1001	黒色土器	高台杯椀	底：(6.4)	0.1～0.3	やや精	並	長チ黒	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：N3/0（暗灰）	体部：回転ナデ　脚部：回転ナデ→貼付高台	体部：ヘラミガキ　底部：ヘラミガキ	
396	1073	D	SR1001	土師器	高台杯皿	底：(10.3)	0.1～2.0	やや精	やや不	長チ赤黒	外：10YR7/2（にぶい黄橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	脚部：回転ナデ→貼付高台	脚部：回転ナデ	内外面赤色顔料塗布。
397	1118	A	包含層	瓦器	高台付椀	底：(6.6)	0.1～1.0	やや精	やや不	長雲赤黒	外：2.5Y7/4（浅黄） 内：2.5Y7/3（浅黄）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	
398	2765	H	第2包含層人力	瓦器	高台付椀	底：(5.8)	0.1～0.5	精	並	石雲黒	外：N5/0（灰） 内：5Y7/1（灰白）	体部：回転ナデ→ヘラミガキ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	
399	1081	D	包含層	瓦器	椀	底：(5.8)	0.1～1.0	精	やや良	長雲黒	外：N4/0（灰） 内：N4/0（灰）	底部：回転ナデ→貼付高台	底部：回転ナデ	体部打ち欠き　高台の端部を打ち欠き？→灯明皿に転用か？
400	1366	H	第2包含層	瓦器	高台杯椀	底：(4.4)	0.1～1.0	やや精	やや良	長雲赤黒	外：5Y7/1（灰白） 内：5Y7/1（灰白）	体部：回転ナデ　脚部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　脚部：ユビナデ	
401	1061	D	包含層	瓦器	椀	底：(6.6)	0.1～0.2	やや精	やや不	結長雲	外：2.5Y8/2（灰白） 内：2.5Y7/2（灰黄）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：ヘラミガキ？底部：ヘラミガキ？	
403	1054	D	包含層	土師器	皿	高：(1.8)　口：(8.8) 底：(6.8)	0.1～3.0	精	不良	石雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	
404	1442	H	第2包	土師器	皿	高：(2.26)　口：(10.7) 底：(6.2)	0.1～0.2	やや精	やや不	石長チ雲黒	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	
405	1074	D	SR1001	土師器	皿	高：(1.35)　口：(15.0) 底：(12.0)	0.1～0.5	やや精	やや不	長チ黒	外：5YR5/6（明赤褐） 内：10YR7/3（にぶい黄橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	内外面赤色顔料塗布。 内外面スス付着。灯明皿として転用。
406	562	E2	SR1001	土師器	皿	底：(11.5)	0.1～1.0	精	やや不	石チ雲赤	外：7.5YR8/4（浅黄橙） 内：7.5YR8/5（浅黄橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り	内面スス付着。灯明皿に転用か？
407	1089	A	SR1001	土師器	皿	底：(18.4)	0.1～1.5	やや精	やや良	石長雲	外：10YR7/3（にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	底部：板ケズリ	底部：回転ナデ	内外面、丹ぬり（赤色顔料）とふ。
408	597	E2	SR1001	土師器	高坏脚部分		0.1～1.2	やや粗	やや不	石長チ赤黒	外：2.5Y6/3（にぶい黄） 内：2.5Y7/4（浅黄）	体部：回転ナデ	体部：回転ナデ→ユビナデ	TS335
410	1046	F	包含層	土師器	台付皿	底：(8.7)	0.1～0.5	やや精	やや良	石長雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	脚部：ヨコナデ	脚部：ヨコナデ	
411	832	D	遺構面精査	土師器	羽釜	口：(28.8)　大：(30.8)	0.1～1.0	やや粗	並	石長チ黒	外：7.5YR8/4（浅黄橙） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ハケ（9条/1cm）	TS322
412	2969	A	第1遺構面 N-18	土師器	羽釜	口：(26.6)　頸：(28.0) 大：(28.8)	0.1～5.0	やや精	並	結石チ赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ヘラナデ　体部：ヘラナデ	TS5
413	552	E2	第1包人力	土師器	羽釜	口：(16.5)	0.1～1.0	やや精	やや不	石長雲	外：5YR4/8（赤褐） 内：5YR4/8（赤褐）	口縁：ユビナデ	口縁：ユビナデ→板ナデ	
414	1107	A	第1包含層　P-1	土師器	羽釜	口：(32.3)　頸：(33.7)	0.1～3.2	やや精	やや良	石チ雲金雲赤	外：10YR8/4（浅黄橙） 内：10YR8/4（浅黄橙）	口縁:ヨコナデ→ユビオサエ　体部:ヨコナデ→ユビオサエ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	搬入品か？
415	2401	H	集石－北半分 C-20	土師器	羽釜	口：(19.8)　頸：(23.0) 大：(24.0)	0.1～3.1	やや精	良	石長チ雲赤	外：7.5YR4/3（褐） 内：5YR5/6（明赤褐）	口縁：ユビオサエ→ユビナデ？　体部：ユビオサエ？	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	
416	1096	A	第1包含層掘削	土師器	羽釜	口：(29.5)	0.1～2.0	やや精	やや不	石長雲	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	
417	2743	H	第2包含層　A.B-17	土師器	羽釜	口：(23.8)　頸：(26.2) 大：(27.3)	0.1～3.5	やや精	良	石長チ雲赤	外：2.5Y2/1（黒） 内：5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：ユビオサエ	口縁：回転ナデ　体部：ヘラナデ	搬入品　外面体部おコゲ付着
418	2745	H	第2包人力	須恵器	高台付椀	底：(5.3)	0.1～0.3	やや精	やや不	長チ金雲黒	外：2.5Y8/1（灰白） 内：2.5Y8/1（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→貼付高台	体部：ハケ目7条/cm＋ナデ　底部：ハケ目7条/cm＋ナデ→ユビオサエ	

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
419	1413	H	第２包含層	土師器	羽釜	高：(6.1) 口：(24.6)	0.1～4.0	やや精	良	石長雲赤黒	外：10YR4/2（灰黄褐） 内：10YR8/3（浅黄橙）	口縁：ナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ・板ナデ	口縁：ナデ　体部：板ナデ	体部外面こげ付着
420	1095	A	第１包含層	土師器	羽釜	高：(3.5) 口：(27.7) 鍔部（32.1）	0.1～2.0	やや粗	並	石長チ雲赤黒	外：5YR6/6（橙） 内：7.5YR4/1（褐灰）	口縁：ヨコナデ　体部：板ナデ→鍔部貼付→ユビオサエ・ナデ	口縁：ヨコナデ　体部：板ナデ	内面こげ付着
422	1443	H	第２包	弥生	羽釜	口：(31.0)	0.1～1.5	やや精	やや良	石長雲赤泥	外：5YR6/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	口縁：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ	
423	2335	D	SK1123	土師器	鍋	口：(37.6) 頸：(34.0)	0.1～4.0	やや粗	やや良	石長チ雲赤	外：5YR3/1（黒褐） 内：7.5YR7/4（にぶい橙）	口縁：ユビナデ→ユビオサエ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ユビオサエ	内外面スス・オコゲ付着。　TS47・48・53・34・55・58・59・60・106・115・125・126・128・130・149
424	1172	E2	2層	土師器	鍋	口：(36.4) 頸：(32.4) 大：(37.0)	0.1～4.0	やや精	並	石長雲金雲赤花	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR7/6（橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ハケ（4条/1cm）	口縁：ハケ（3条/1cm）　体部：ハケ（4条/1cm）	TS128　外面スス付着
425	2965	A	第１包含層掘削	土師器	鍋	口：(28.6)	0.1～2.0	やや精	並	石長チ黒	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：板ナデ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：板ナデ	TS11
426	510	A	第１包含層	土師器	羽釜	口：(38.4) 大：(40.3)	0.1～4	やや精	やや良	結石チ雲赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	TS23
427	1423	H	第２包含層	土師器	鍋	口：(42.5) 頸：(36.9)	0.1～2.5	やや粗	良	石長チ雲赤	外：2.5Y5/3（黄褐） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：イタナデ　体部：イタナデ	
428	106	B・C	包含層	土師器	鍋	口：(47.4)	0.1～2.0	やや精	やや良	石長雲赤	外：7.5YR2/1（黒） 内：7.5YR5/6（明褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビオサエ→ユビナデ	口縁：回転ナデ　体部：ユビナデ	外面オコゲ付着。内面スス付着。
429	556	E2	第１包人力	土師器	鍋	口：(37.2)	0.1～3.0	やや粗	良	石長チ雲赤	外：10YR8/3（浅黄橙） 内：10YR8/3（浅黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	
430	1086	D	包含層	土師器	鍋	口：(28.0) 頸：(24.0)	0.1～4.0	粗	やや不	石長チ雲赤黒	外：10YR5/3（にぶい黄褐） 内：10YR5/3（にぶい黄褐）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→ユビオサエ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
431	25	A	遺構面精査南側2/3	土師器	羽釜	口：(23.6)	0.1～2.5	やや精	良	石長チ雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	搬入品の可能性あり。
432	867	F	包含層	土師器	甕	口：(31.6)	0.1～0.3	やや粗	やや良	石長チ雲赤	外：7.5YR5/3（にぶい褐） 内：7.5YR2/1（黒）	口縁：ヨコナデ　体部：ハケ（7条/1cm）	口縁：イタナデ　体部：ユビナデ	
433	873	F	包含層	土師器	羽釜	—	0.1～2.0	粗	やや不	長チ雲	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：タタキ→ユビナデ	体部：ユビナデ	
434	2615	H	第１包含層（集石間）	土師器	羽釜脚部	—	0.1～3.0	やや精	やや良	石長チ雲赤	外：10YR6/6（明黄褐） 内：7.5Y6/6（橙）	脚部：ユビナデ	脚部：ユビオサエ	
435	1097	A	包含層	土師器	羽釜	—	0.1～7.0	粗	並	石長チ雲花	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10YR6/3（にぶい黄橙）	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ→ユビオサエ	搬入品か？
436	2414	H	第１包含層	土師器	羽釜脚部	高：(10.8)	0.1～4.0	やや精	並	石長雲赤黒	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：5YR5/4（にぶい赤褐）	体部：(脚部)ユビオサエ→ユビナデ・ナデ		
437	513	A	第１包	土師器	擂鉢	口：(25.7)	0.1～4.0	やや粗	並	石長チ赤	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：10YR6/2（灰黄褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラナデ→擂目（2条/1cm）	TS20
438	2429	H	第２包含層	土師器	擂鉢	口：(27.3)	0.1～4.0	やや精	並	結石長金雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ→スリ目（4条/1.6cm）	
439	943	F	包含層	土師器	擂鉢	口：(27.5) 大：(27.5)	0.1～4.0	やや粗	並	石長チ雲赤花	外：10YR4/2（灰黄褐） 内：10YR6/3（にぶい黄橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ＋ヘラケズリ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ→擂目（7条/1.5cm）	サヌキからの搬入品？
440	561	E2	SR1001	土師器	擂鉢	口：(23.2) 大：(24.3)	0.1～6.0	やや精	良	結石チ	外：7.5YR4/2（灰褐） 内：7.5YR6/3（にぶい褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→擂目（5条/1.9cm）	外面口縁付近スス？外面こう打？による剥落あり
441	1098	D	g 10 カクラン（試掘？）	陶器	擂鉢	底：(16.2)	0.1～0.5	やや精	良	石長	外：2.5YR6/4（にぶい橙） 内：2.5YR5/4（にぶい赤褐）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り	体部：回転ナデ→擂目（9条/1.9） 底部：回転ナデ→擂目（9条/1.9）	
442	509	A	第１包含層	土師器	壺	口：(15.0) 頸：(16.2)	0.1～2.8	やや精	並	石長雲赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ユビナデ	
443	2972	A	第１遺構面	土師器	把手付鍋	口：(23.0) 大：(27.4)	0.1～3.0	やや精	並	石長チ雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS4　外面体部被熱黒変
444	1104	A	包含層	須恵器	こね鉢	口：(31.6)	0.1～0.5	やや精	良	長チ	外：N7/0（灰白） 内：N7/0（灰白）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ	
445	1422	H	第２包含層 B-15	須恵器	こね鉢	口：(22.0) 頸：(19.6)	0.1～1.2	精	良	石長雲黒	外：N6/0（灰） 内：N7/0（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
446	97	B・C	第１包	須恵器	こね鉢	口：(20.3)	0.2～1.0	やや粗	並	石長チ泥	外：2.5Y7/1（灰白） 内：2.5Y7/1（灰白）	口縁：回転ナデ	口縁：回転ナデ	
447	2418	H	第１包含層	磁器	碗	高：(4.4) 口：(7.0)		精	堅	—	外：5Y8/2（灰白） 内：5Y8/2（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→染付　底部：回転ナデ→削り出し高台	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ 底部：回転ナデ	内外面施釉。シメ縄文。
448	1425	H	第２包含層	磁器	鉢	高：(2.2) 口：(13.9)		精	堅	—	外：10Y6/2（オリーブ灰） 内：10Y6/2（オリーブ灰）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	内外面施釉（緑釉）
449	2714	H	第２包含層	磁器	碗	高：(5.3) 口：(13.4)		精	堅	—	外：7.5Y6/2（灰オリーブ） 内：7.5Y6/2（灰オリーブ）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→板ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ→ナデ	内外面施釉（緑釉）。口縁に粘土接合痕あり。
450	2726	H	第２包人力	磁器	碗	底：(5.2)	0	精	堅	—	外：5Y7/1（灰白） 内：5Y7/2（灰白）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	体部打ち欠き？
451	827	D	機械掘削	磁器	碗	口：(16.7)		精	良	—	外：2.5Y7/2（灰黄） 内：2.5Y7/2（灰黄）	口縁：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉	
452	1444	H	第２包含層	磁器	碗	口：(16.2)		精	良	長	外：12G7.5/3 s（あかるいグレイみの緑） 内：12G7.5/3 s（あかるいグレイみの緑）	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	蓮弁文。
453	540	B	SK1008	磁器	碗	口：(11.6)		やや精	堅	黒	外：7.5Y8/1（灰白） 内：7.5Y8/1（灰白）	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉	TS30
454	2963	A	包含層	磁器	碗	高：(1.7) 口：(13.9)		精	堅	—	外：10YG7.5/3 s（グレイみの黄緑） 内：10YG7.5/3s（グレイみの黄緑）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	内外面施釉（緑釉）
455	614	E2	SR1001	磁器　白磁	壺	底：(6.2)	0.1～2.0	精	堅	—	外：8Y8.5/3 s（うすい黄） 内：8Y8.5/3 s（うすい黄）	底部：回転ヘラケズリ	底部：回転ナデ	体部　打ち欠きによる転用皿
456	958	F	包含層	瓦	軒丸瓦	—	0.1～3.0	精	良	石雲金雲黒	外：N4/0（灰） 内：N4/0（灰）	—	—	
609	615	E2	SR1001	土師器	高台付皿の高台部分	—	0.1～0.5	やや精	やや不	長チ	外：10YR8/2（灰白） 内：10YR8/2（灰白）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	貼付痕残る

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	全長	最大幅	最大厚	重量（g）	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	備考
457	559	E2	SR1001-B		土錘	(2.3)	1.,0	1.1	(2.26)	0.1 ～ 1.5㎜	精	やや不	石長赤	外:2.5Y5/1（黄灰）内:2.5Y5/1（黄灰）	内径 0.4㎝
458	1409	H	第 2 包含層	土製	土錘	5.5	1.45	1.3	9.25	0.1 ～ 1.2㎜	良	やや不	石長雲赤	外：7.5YR7/4（にぶい橙）	内径 0.45㎝
460	1140	B・C	機械掘削	土製	泥面子	1.9	1.6	0.55		0.1 ～ 0.3	やや精	並	石長雲黒	外：2.5YR6/6(橙)	
S234	1177	E	SR1001	蛇紋岩	勾玉	1.75	1.0	0.95	4.07	—	—	—	—	外：5Y8/1(灰白)	SR1-9
459	2308	H	SX1005-A	土製	人形	3.43	3.0	1.6	10.17	0.1 ～ 2.0㎜	良	やや不	石チ雲赤	外：7.5YR6/4（にぶい橙）	
461	2413	H	第 1 包含層	土製	鈴	4.1	4.5	3.0	26.6	0.1 ～ 3.0㎜	良	やや不	石長雲	外：7.5YR7/6（橙）	

第Ⅳ章　佃遺跡調査成果

1　基本層序

調査地の現況は耕作地または竹林であったため、地表面直下には耕作土および床土層と腐葉土層が堆積している。北東側に位置するA区では、地表面から遺構面まで複数層が堆積している。その多くは砂質土または砂質のつよいシルト層で、吉野川の氾濫に伴う堆積土である。遺構面を形成するベース土はややしまりのある黄褐色土層であるが、北側の吉野川にちかいほど砂質が強い。

南西側のB区は、耕作土直下に黄色の砂質土が堆積し、これが第1遺構面のベース土となる。ただし、この層の上面にはマンガンが固く沈殿しており遺構の検出にあたっては若干低いレベルまで下げる必要があった。また、このベース土は調査区北東側の岩盤が露呈している範囲まで広がりが認められたが、南側に比べやや砂質がつよいものとなっている。

本調査区の遺構面は大まかに3段の段丘面に展開しており、調査時には南から上段・中段・下段と呼称した。上段の現地盤高は91.4 m、中段は90.3 m、下段は89.4 m前後である。

上段は農地造成のためか、耕作土直下から遺構面までの間に60㎝程度の盛土をする。第1遺構面は黄褐色粘質土をベースとし、北に向けて徐々に下る。

中段は概ね平坦で、水田として利用されていたことから、第1層に耕作土、第2層に床土層が乗り、その直下ににぶい黄色シルト層をベースとする第1遺構面となる。遺構埋土は暗灰黄色のシルト質土壌で、遺構検出は比較的容易である。

中・下段の境に岩盤が露出する。調査地付近は三波川変成帯の結晶片岩を基盤としており、下段には岩盤の露呈部分が多く、岩盤上に堆積土が薄く覆う。下段は竹林あるいは宅地であり、表土は耕作土層ではなく礫が多量に混入している。

第1遺構面ベース土はオリーブ褐色の砂質土で、上面に鉄分を比較的多く含むことから水田耕作地としての利用があった可能性がある。さらに下層は部分的に岩盤となり、徐々に湧出する水を排水しながらの作業であった。

2　遺構と遺物

検出された遺構数は以下の通りである。A区は吉野川による河川堆積と思われる基本土層であることから遺構数は少ない。一方B区は南側を中心に柱穴群が広がり、調査区の北側に大きく露呈している岩盤が多くみられる範囲では遺構数は少なくなる。岩盤に接して掘削されている遺構は本来は岩盤よりも高いレベルから掘削がされていたと考えられるが、後世の削平などにより検出面は岩盤よりも低いものとなっている。

(1) 掘立柱建物柱 (SA)

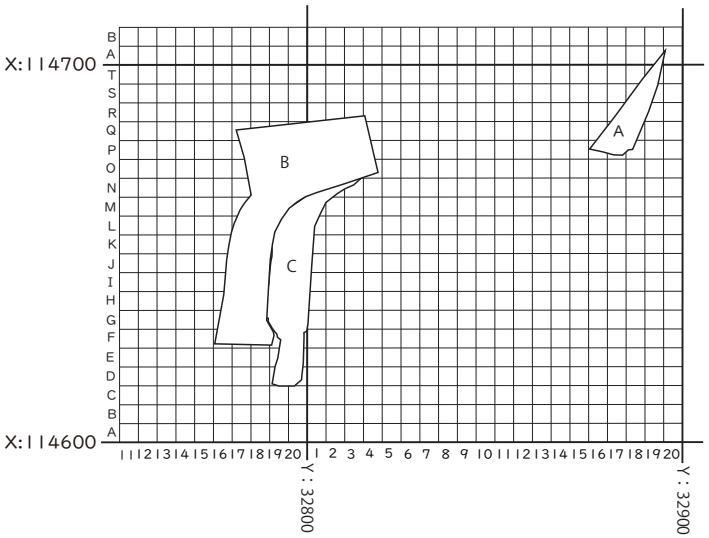
1号掘立柱建物 (SA1001)
位置　旧B,C区 H18

構造・規模　桁間 2 間 (m)、梁間 1 間 (m)
土層　しまりが強いオリーブ褐色砂質土や暗オリーブ褐色砂質土である。EP3 からは結晶片岩を利用した根石を確認。
遺物出土状況　EP4 内より焼土ブロックと結晶片岩礫が出土。遺構覆土より、土器小片が出土。実測不可。
時期　中世と推定される。

2 号掘立柱建物 (SA1002)
位置　旧 B,C 区 G18,H18
構造・規模　桁間 2 間 (m)、梁間 1 間 (m)
土層　しまりの強いオリーブ褐色粘質土や暗灰黄色砂質土である。何れも若干の炭化粒を含むが、根石等は伴わない。
遺物出土状況　EP6 内より弥生土器片が出土。他の EP 内より土師質土器片が出土。何れも小片のため実測不可。
時期　中世と推定される。

3 号掘立柱建物 (SA1003)
位置　旧 C 区 G19,G20,H19,H20
構造・規模　桁間 2 間 (m)、梁間 1 間 (m)
土層　しまりの強い暗灰黄色シルト質土やオリーブ褐色シルト質土である。小礫を若干含むが、根石等は伴わない。
遺物出土状況　EP1，2 内より弥生土器片が、EP4 内より土師質土器片が出土。何れも小片のため実測不可。
時期　中世と推定される。

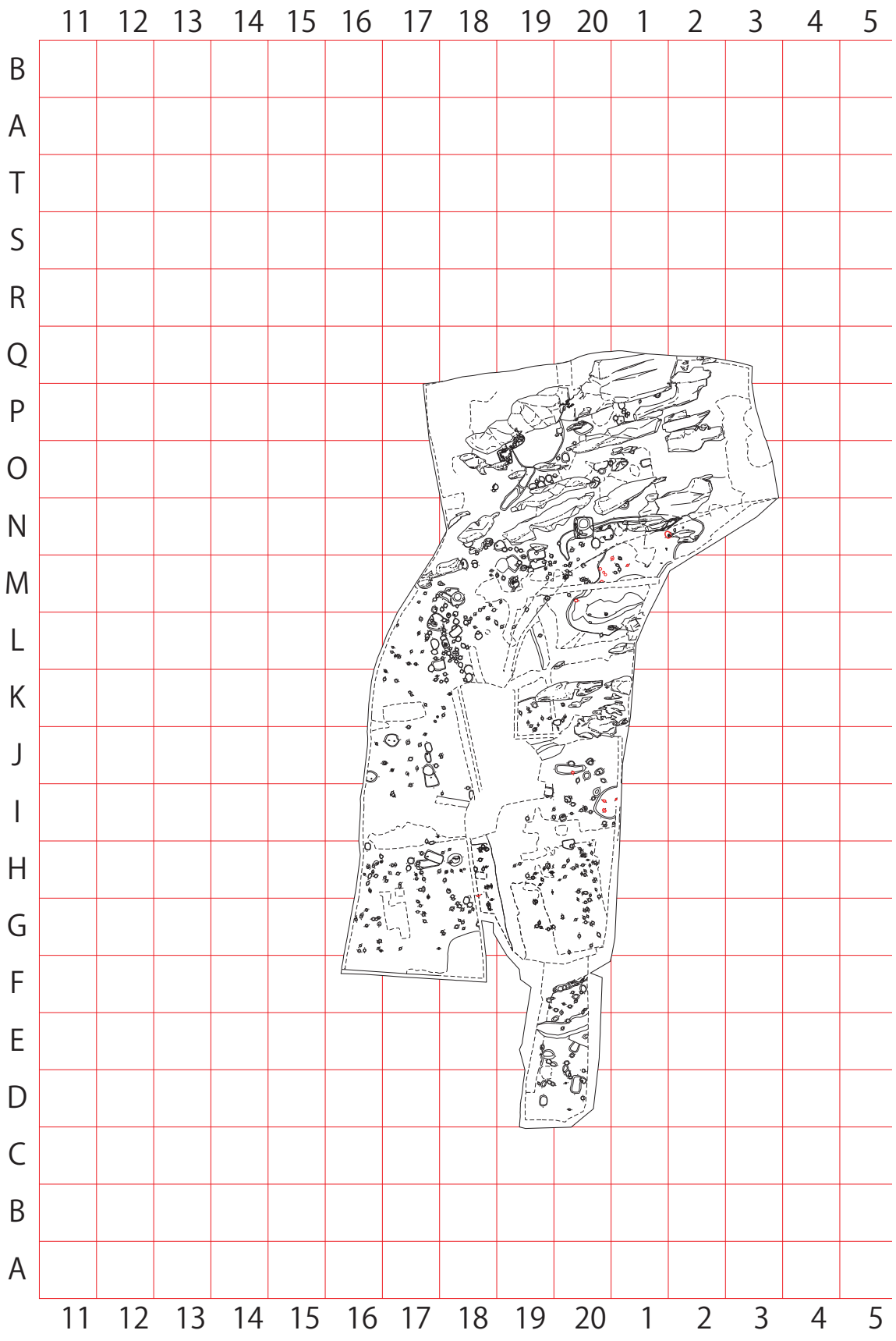
(2) 溝状遺構 (SD)



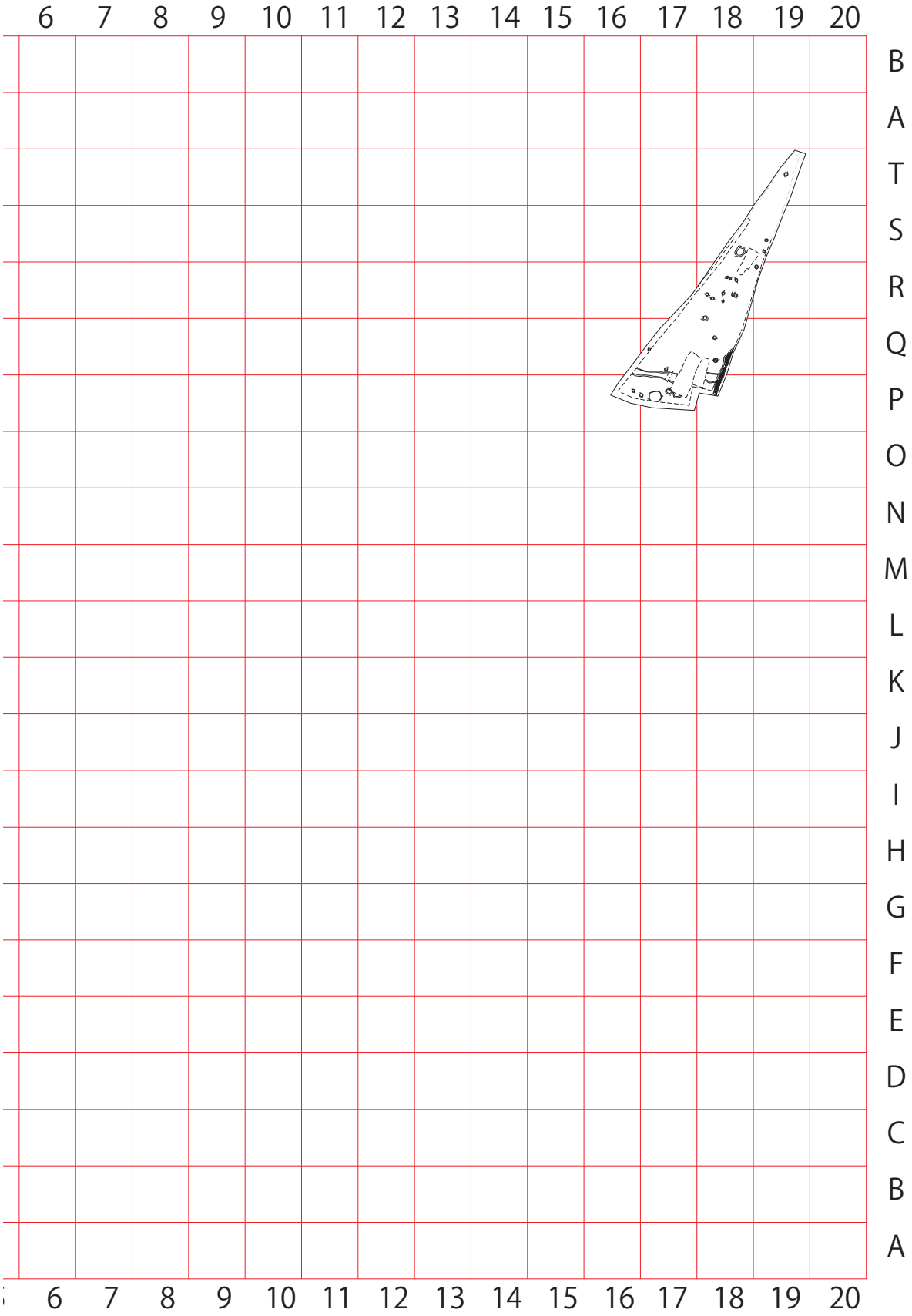
第 175 図　佃グリッド配置図 S=1/2,000

写真 3　佃遺跡遠景
(昼間遺跡群・大柿遺跡・吉野川・佃遺跡)

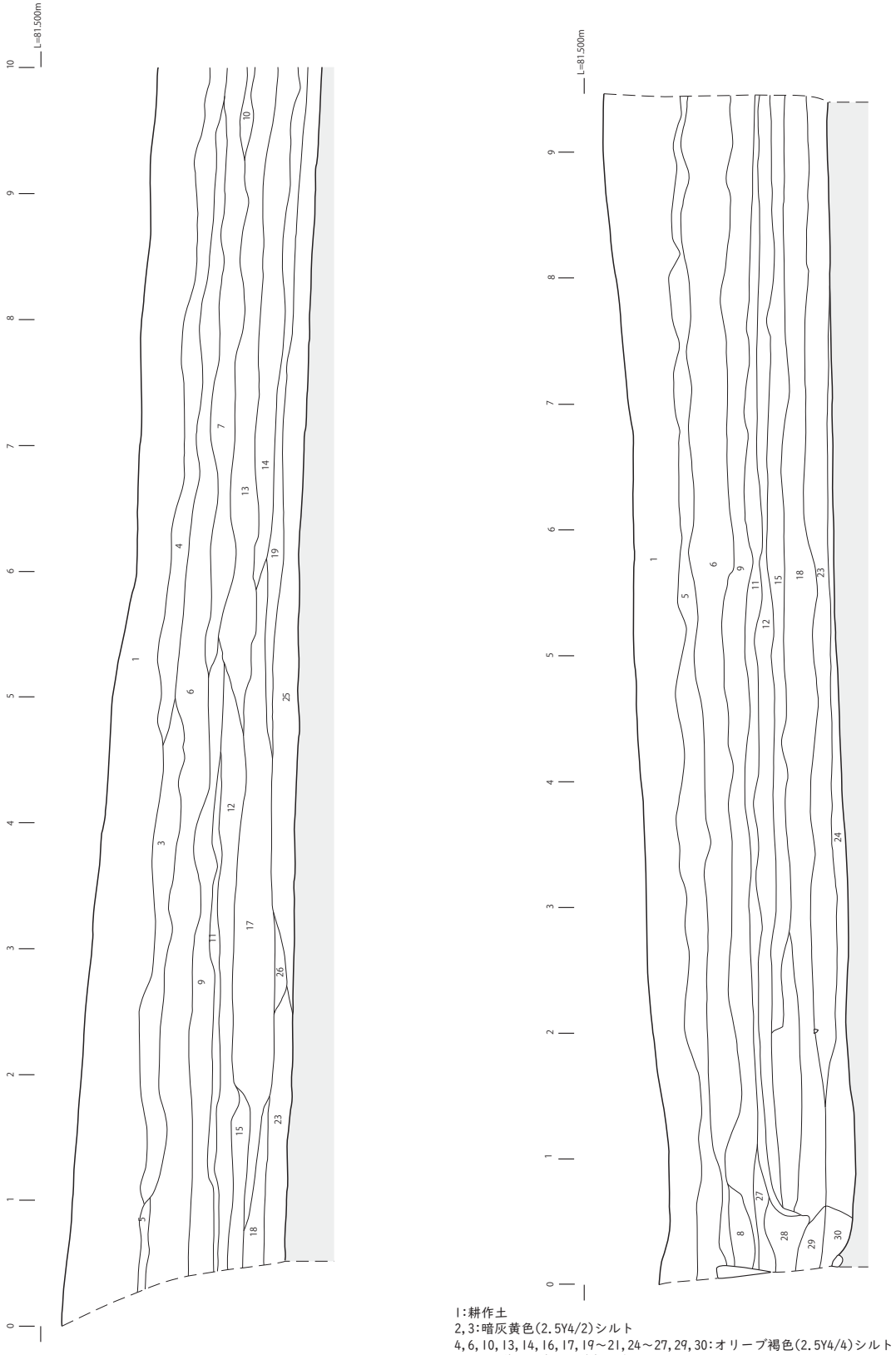
写真 4　佃遺跡遠景



第 176 図　佃遺跡　遺構平面図　S=1/200

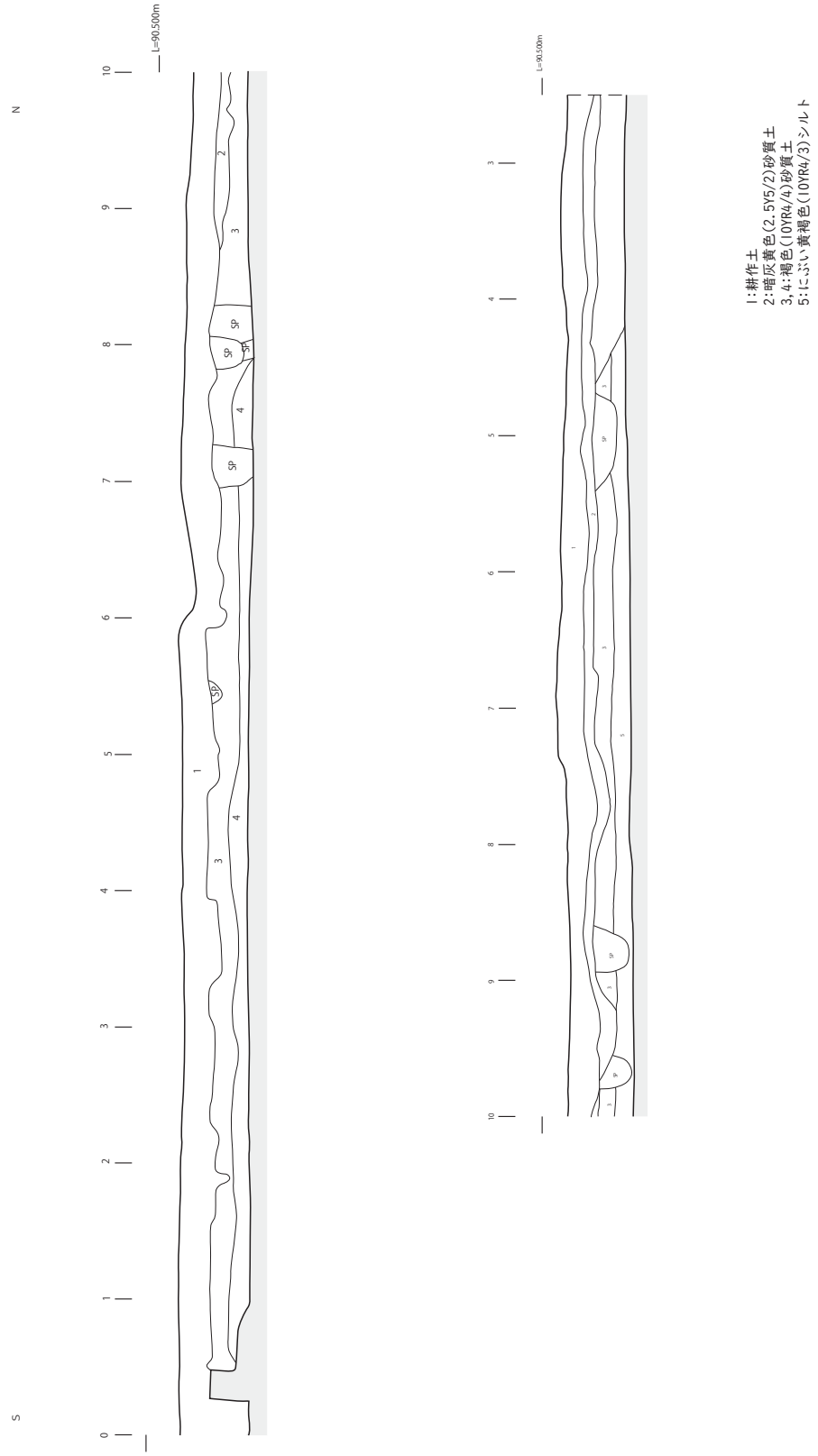


第 177 図　佃遺跡　遺構平面図　S=1/200

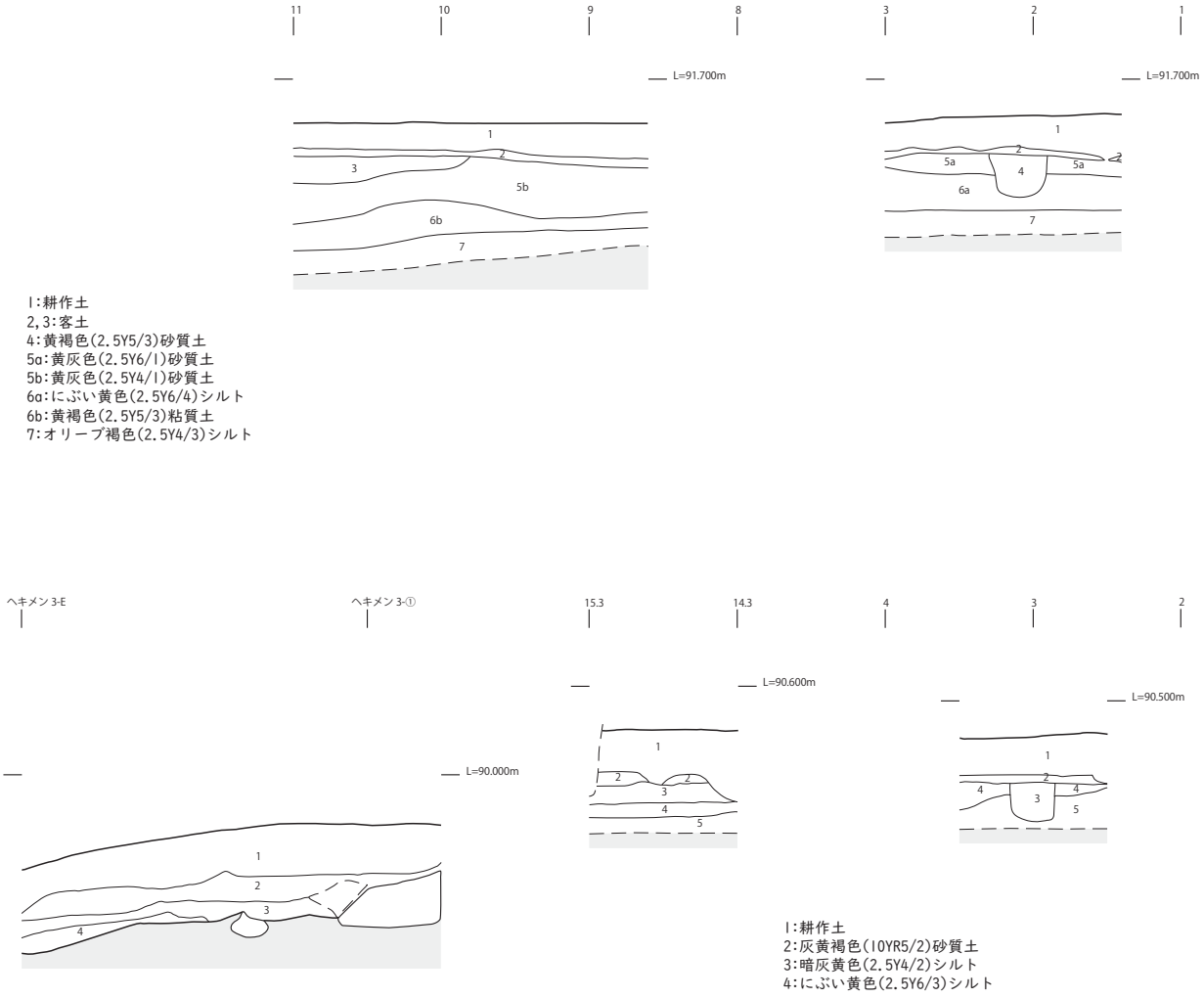


1:耕作土
2,3:暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト
4,6,10,13,14,16,17,19～21,24～27,29,30:オリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト
5,12:灰黄褐色(10YR4/2)砂質土
7,9,23:オリーブ褐色(2.5Y4/3)シルト
8,11,15:オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土
18:暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
22:灰オリーブ色(5Y4/2)細砂
27:灰オリーブ色(5Y4/2)砂質土
28:灰オリーブ色(5Y4/2)シルト

第 178 図　A 区土層図


N
S
L=90.500m
L=90.500m
1:耕作土
2:暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土
3,4:褐色(10YR4/4)砂質土
5:にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト

第 179 図　B 区土層図



第 180 図　C 区土層図

1 号溝状遺構 (SD1001 ／旧 A 区 SD1001)

位置　旧 A 区 P16 ～ 18,Q16 ～ 18

構造・規模　検出長 7.07m、幅 0.87m、深度 8㎝を測る。

土層　小礫を含むオリーブ褐色シルトややや砂質が強い黄褐色シルトである。

遺物出土状況　覆土中より土器小片が出土したが、何れも小片のため実測不可。

時期　中世と推定される。

2 号溝状遺構 (SD1002 ／旧 B 区 SD1002)

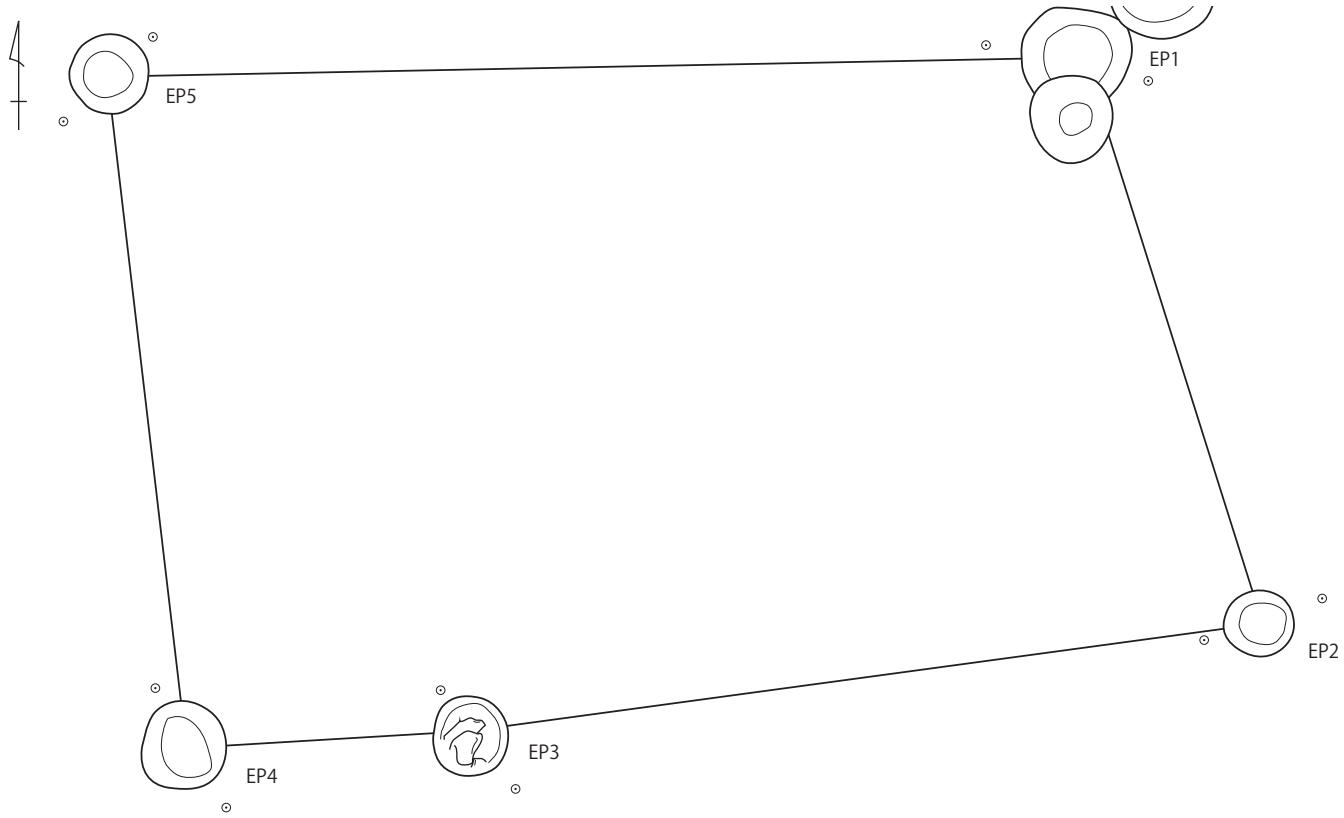
位置　旧 B 区 N19,O19

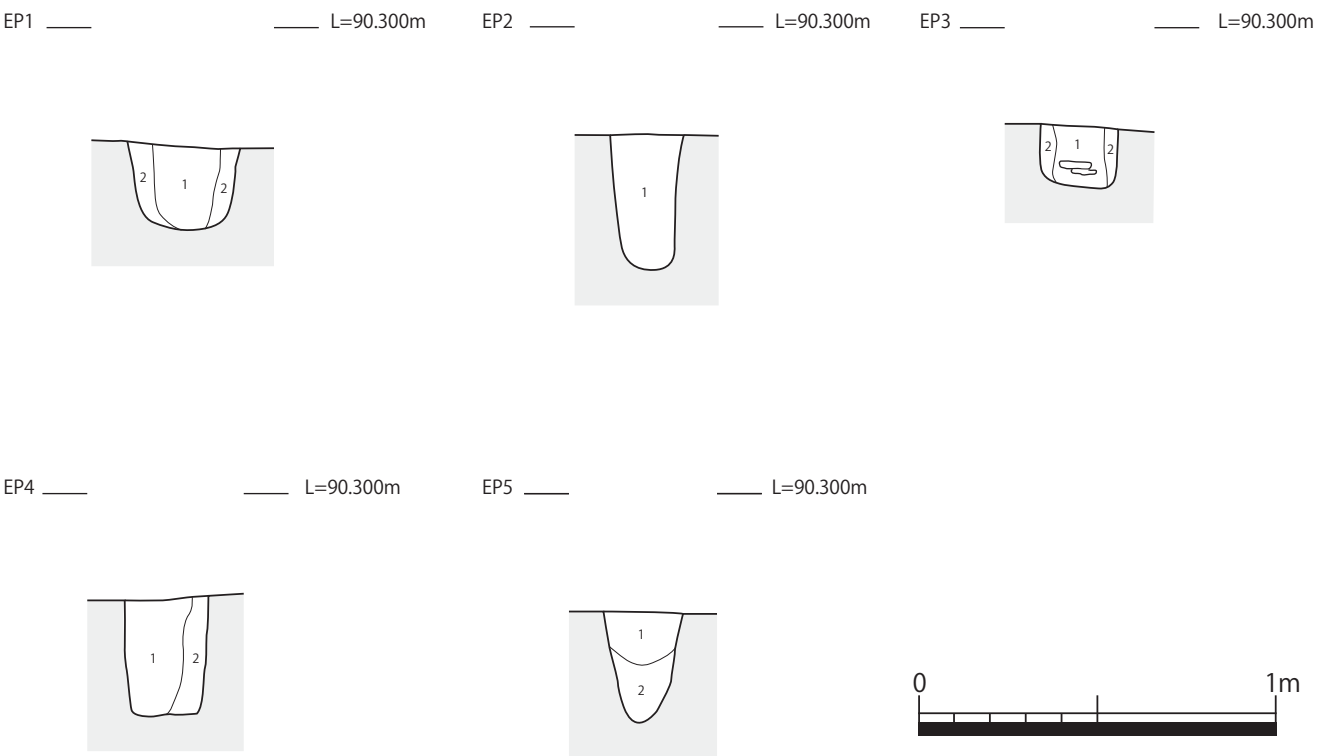
構造・規模　検出長 4.46m、幅 0.82m、深度 8㎝を測る浅い溝状遺構である。

土層　炭化粒や小礫を含むオリーブ褐色粘質土や黄褐色粘質土である。

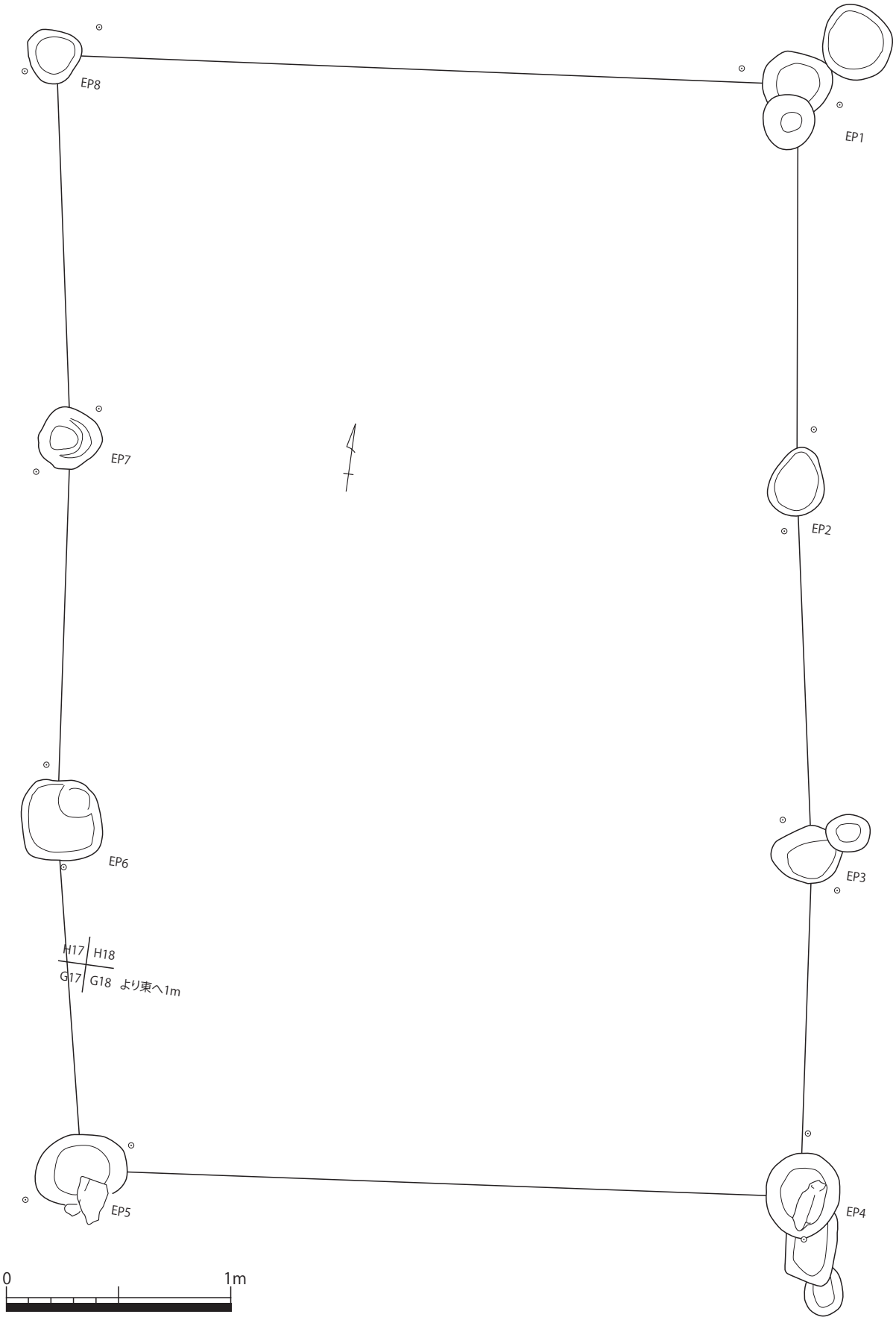
遺物出土状況　覆土中より弥生土器片、土師質土器杯片や片岩礫や石英礫が出土。何れも小片のため実測不可。

時期　中世である。

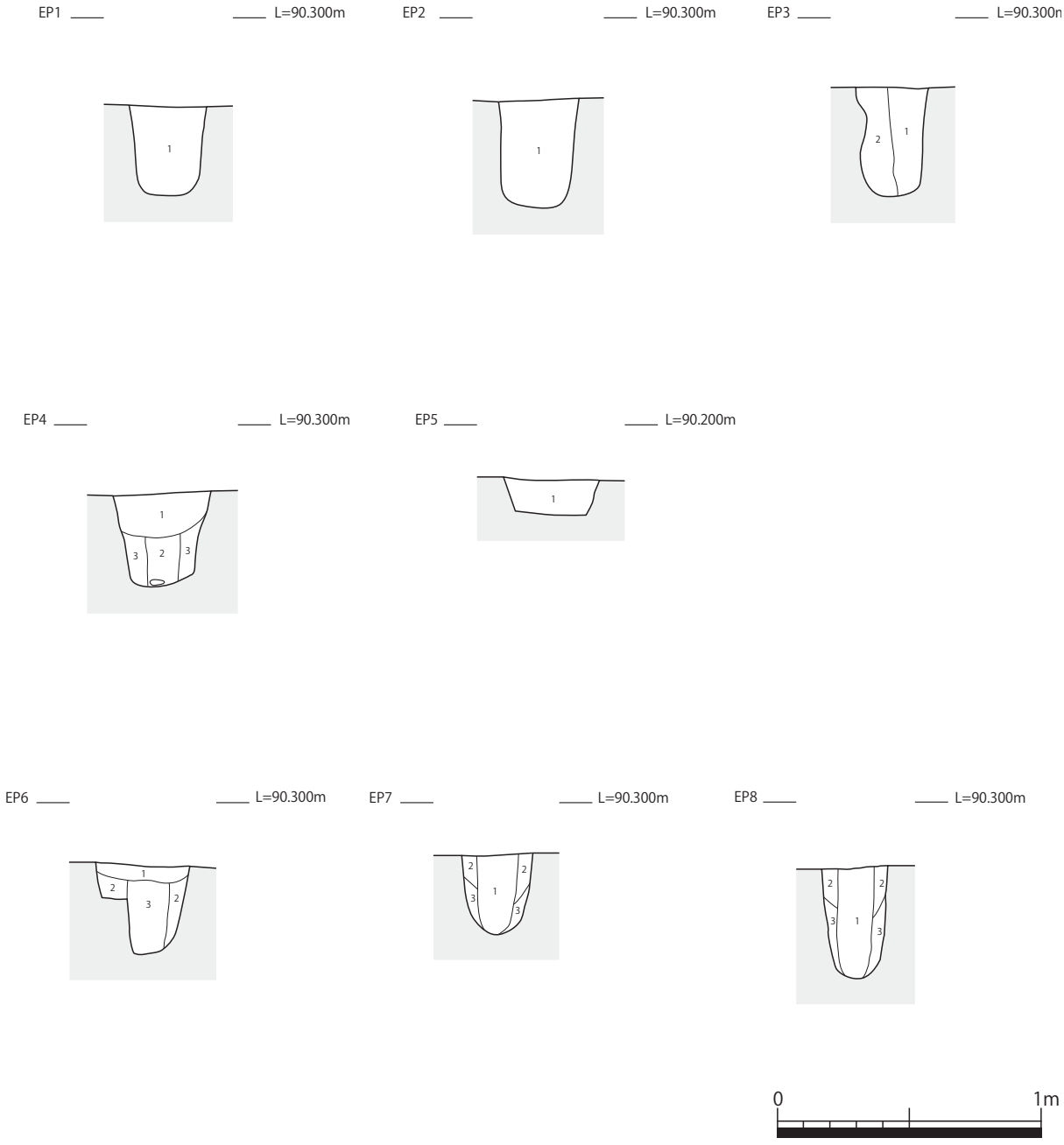




第 181 図　1 号掘立柱建物　遺構図



第 182 図　2 号掘立柱建物　遺構図 (1)



第 183 図　2 号掘立柱建物　遺構図 (2)

3 号溝状遺構 (SD1003 ／旧 B 区 SD1001)

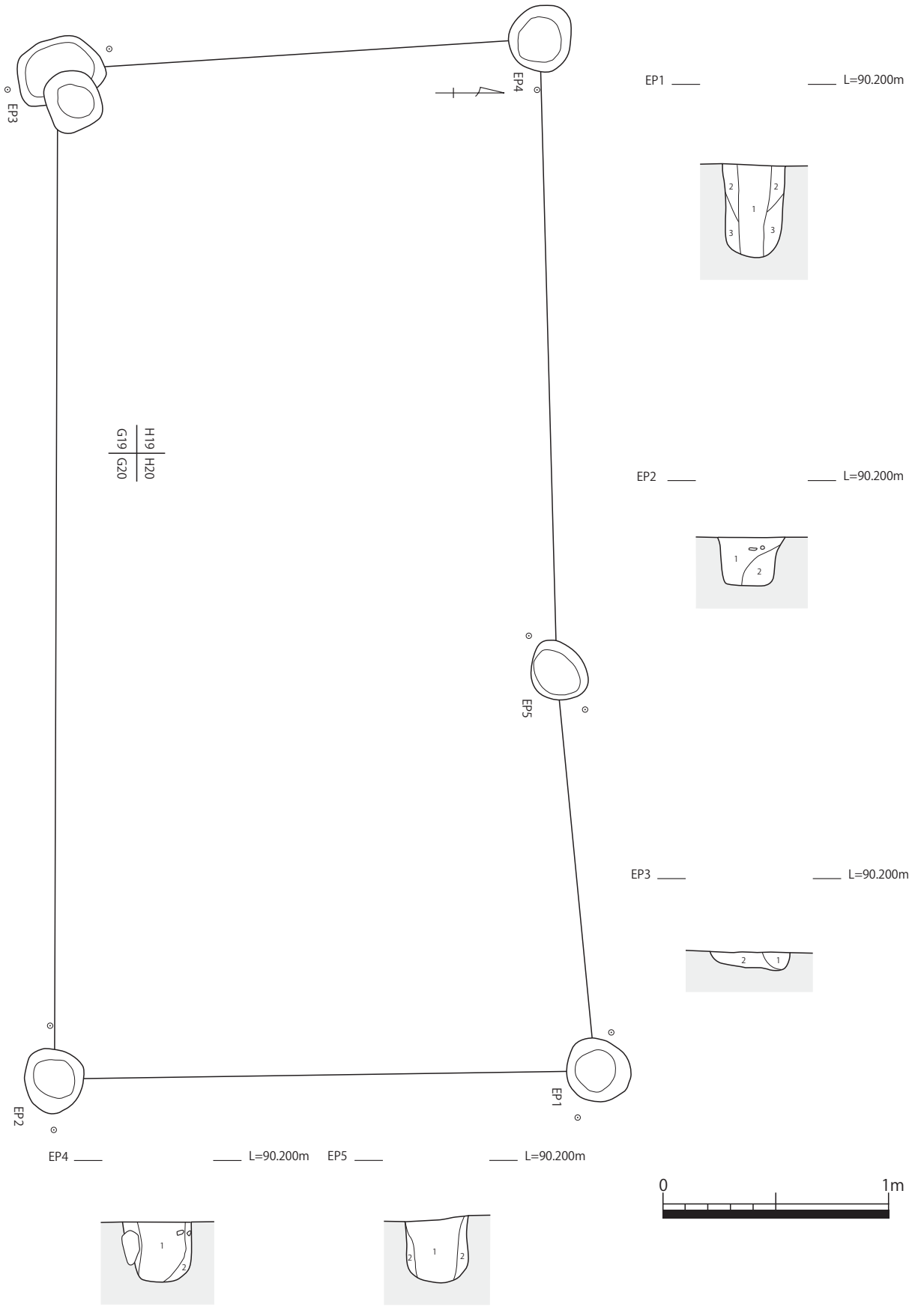
位置　旧 B 区 M20,N20,N1

構造・規模　検出長 8.68m、幅 0.72m、深度 8㎝を測る浅い溝状遺構である。

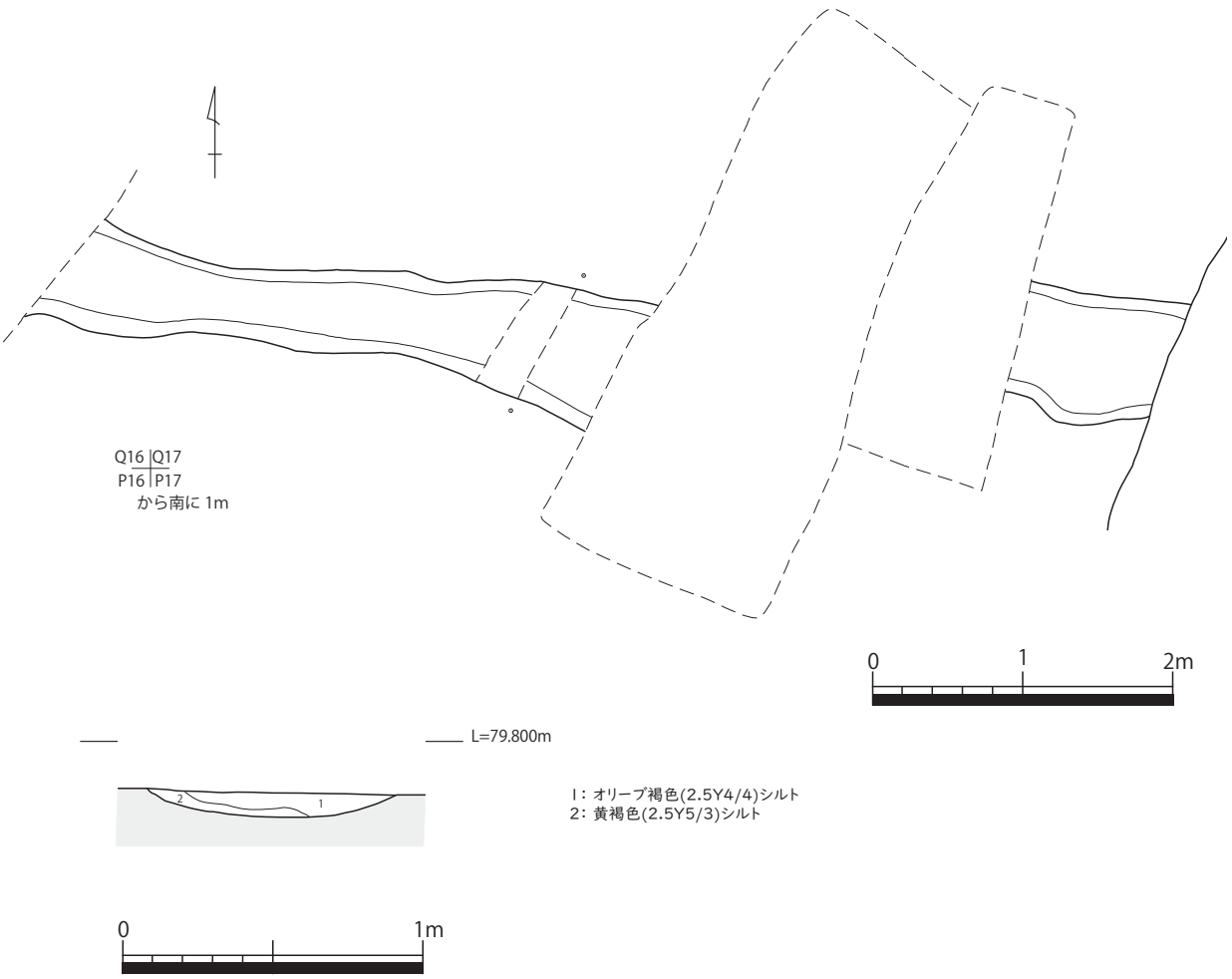
土層　炭化粒を含むオリーブ褐色砂質土である。

遺物出土状況　覆土中より弥生土器甕や土師質供膳具と共に焼土、砂岩礫が出土したが、何れも小片のため実測不可。

時期　中世である。



第 184 図　3 号掘立柱建物　遺構図



第 185 図　1 号溝状遺構　遺構図

4 号溝状遺構 (SD1004 ／旧 C 区 SD1002)

位置　旧 C 区 F19,20

構造・規模　検出長 3.28m、幅 0.53m、深度 8㎝を測る浅い溝状遺構である。

土層　粗砂を多く含む黄灰色砂質土である。

遺物出土状況　覆土中より土器小片が出土したが、何れも小片のため実測不可。

時期　中世と推定される。

5 号溝状遺構 (SD1005 ／旧 C 区 SD1001)

位置　旧 C 区 E19,20,F20

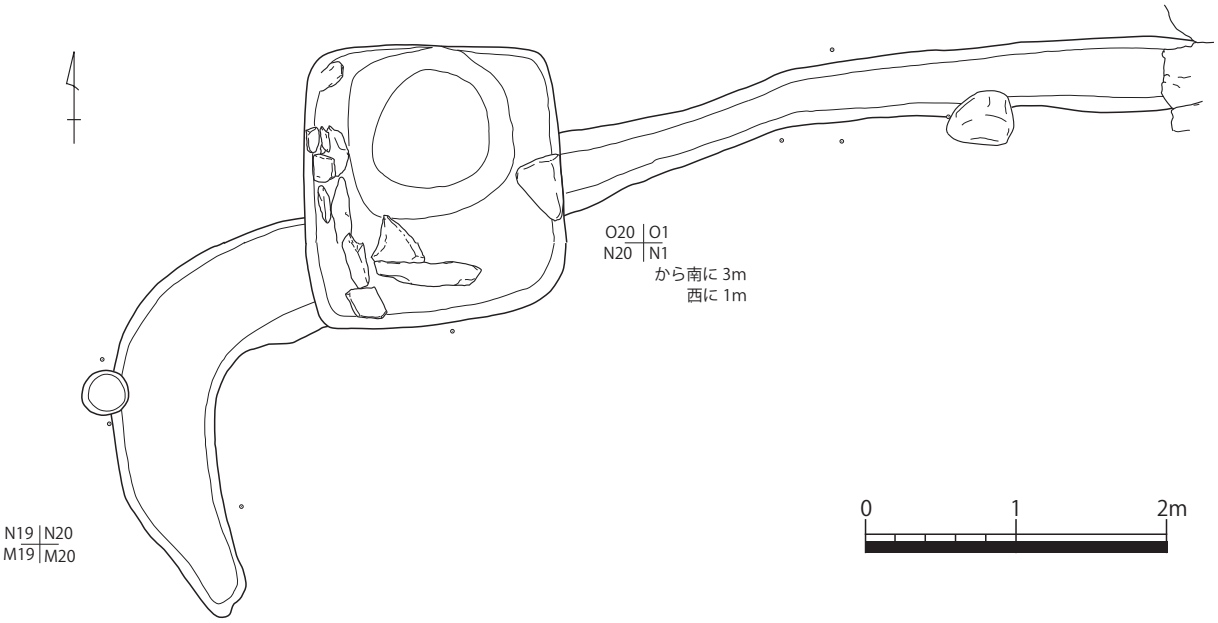
構造・規模　検出長残存 4.68m、幅 1.5m、深度 10㎝を測る浅い溝状遺構である。

土層　シルトを含む暗黄灰色砂質土である。

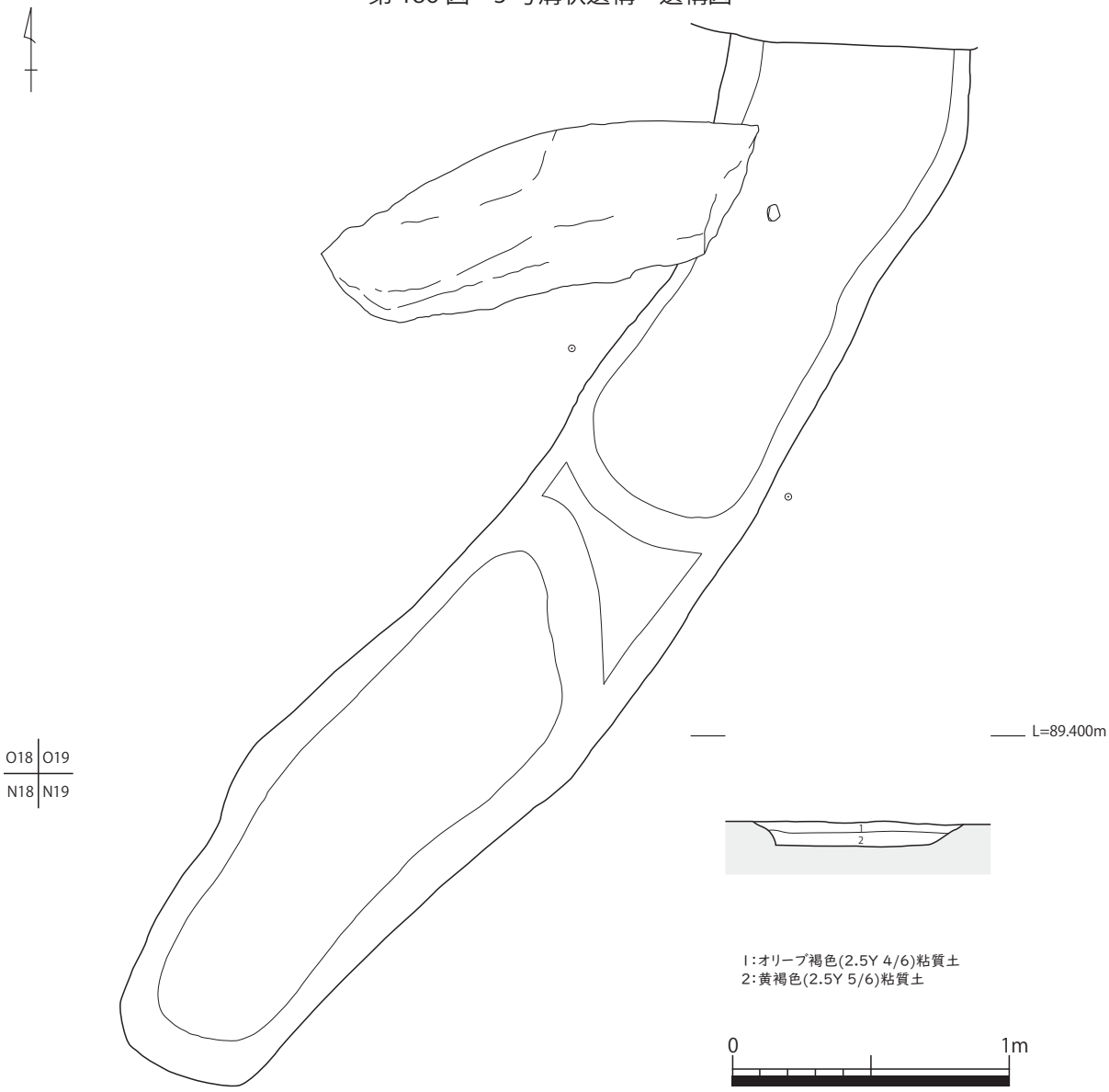
遺物出土状況　覆土中より鉄滓と共に焼土、結晶片岩礫や砂岩礫が出土。実測可能遺物は 81,144 点である。

時期　中世である。

備考　鉄滓や焼土塊の出土から、周辺における鍛冶操業と廃滓の投棄が想定される。



第 186 図　3 号溝状遺構　遺構図



第 187 図　2 号溝状遺構　遺構図

(3) 土坑 (SK)

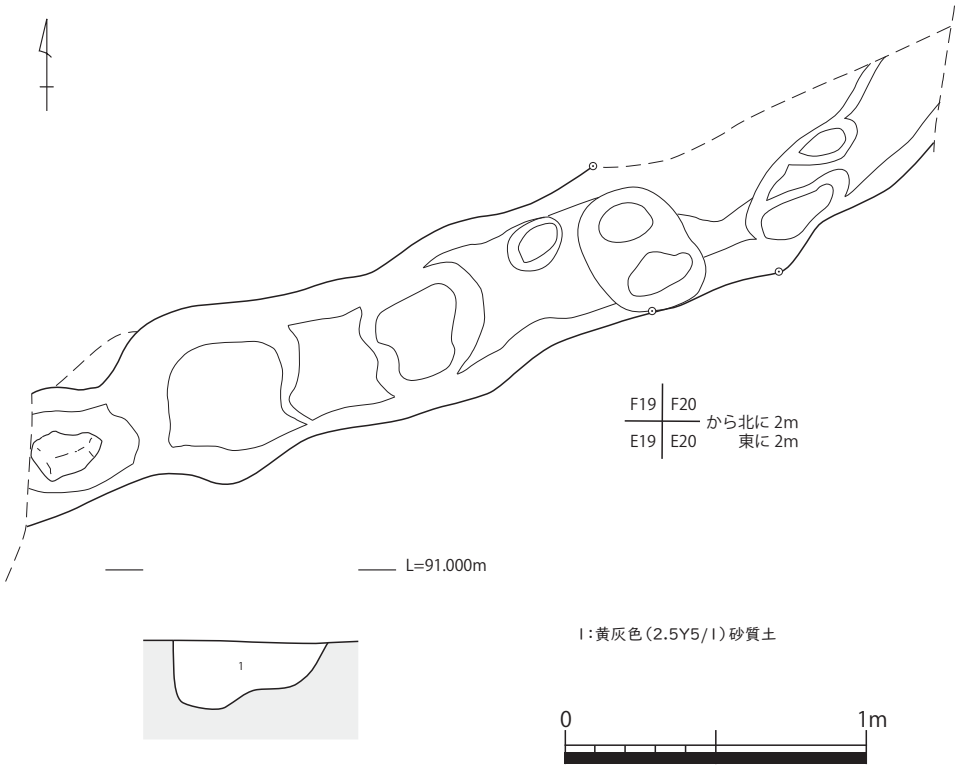
5 号土坑 (SK1005 ／旧 B 区 SK1021)
位置　旧 B 区 P1
構造・規模　平面形態は方形を、断面形態は長方形を呈する土坑である。長軸 0.73m、短軸残存 0.62m、深度 0.1m、主軸方位 N-18° -W を測る。
土層　上層はしまりはやや強いが粘性は弱いオリーブ褐色砂質土、中層は炭化物を含む黄褐色砂質土、下層は炭化物を若干含む暗オリーブ褐色砂質土である。
遺物出土状況　168 が中層より出土。
時期　中世と推定される。

7 号土坑 (SK1007 ／旧 B 区 SK1023)
位置　旧 B 区 O19,P19
構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸 1.82m、短軸残存 0.65m、深度 0.15m、主軸方位 N-65° -E を測る。
土層　小礫や炭化粒を含まないオリーブ褐色砂質土である。
遺物出土状況　弥生土器と共に結晶片岩川原石が出土。
時期　周辺の包含層出土遺物から、弥生時代後期か。

13 号土坑 (SK1013 ／旧 C 区 SK1003)
位置　旧 C 区 N1,N20
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は逆台形を呈する土坑である。長軸 0.64m、短軸 0.53m、深度 0.13m、主軸方位 N-47° -E を測る。
土層　暗黄褐色粘質土である。
遺物出土状況　覆土中より土師質土器鍋破片と共に 71 が出土。
時期　室町期である。

15 号土坑 (SK1015 ／旧 B 区 SK1014)
位置　旧 B 区 N1
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸 0.77m、短軸残存 0.62m、深度 0.09m、主軸方位 N-26° -W を測る。
土層　上層は土器片を含むオリーブ褐色砂質土、下層は土器片を含む暗オリーブ褐色砂質土である。
遺物出土状況　基底部より 15㎝大と 30㎝大の結晶片岩川原石が検出。川原石の間より陶器皿 165 が出土。覆土中の土器片は、何れも小片のため実測不可である。
時期　室町期。

16 号土坑 (SK1016 ／旧 B 区 SK1013)
位置　旧 B 区 N20,N1
構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸 1.83m、短軸 1.03，深



第 188 図　4 号溝状遺構　遺構図

度 0.09m、主軸方位 N-82° -E を測る。

土層　炭化物や土器片を含むオリーブ褐色砂質土である。

遺物出土状況　上層より 10㎝大の川原石 138 が出土。覆土中の土器片は、何れも小片のため実測不可である。

時期　弥生時代と推定される。

18 号土坑 (SK1018 ／旧 B 区 SX1002)

位置　旧 B 区 N20

構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は二段形を呈する土坑である。長軸 1.88m、短軸 1.8m、深度 0.28m、主軸方位 N-5° -W を測る。

土層　しまりが弱く炭化粒を含むオリーブ褐色粘質土やオリーブ褐色砂質土である。

遺物出土状況　覆土中の土器片は、何れも小片のため実測不可である。

時期　弥生時代終末期と推定される。

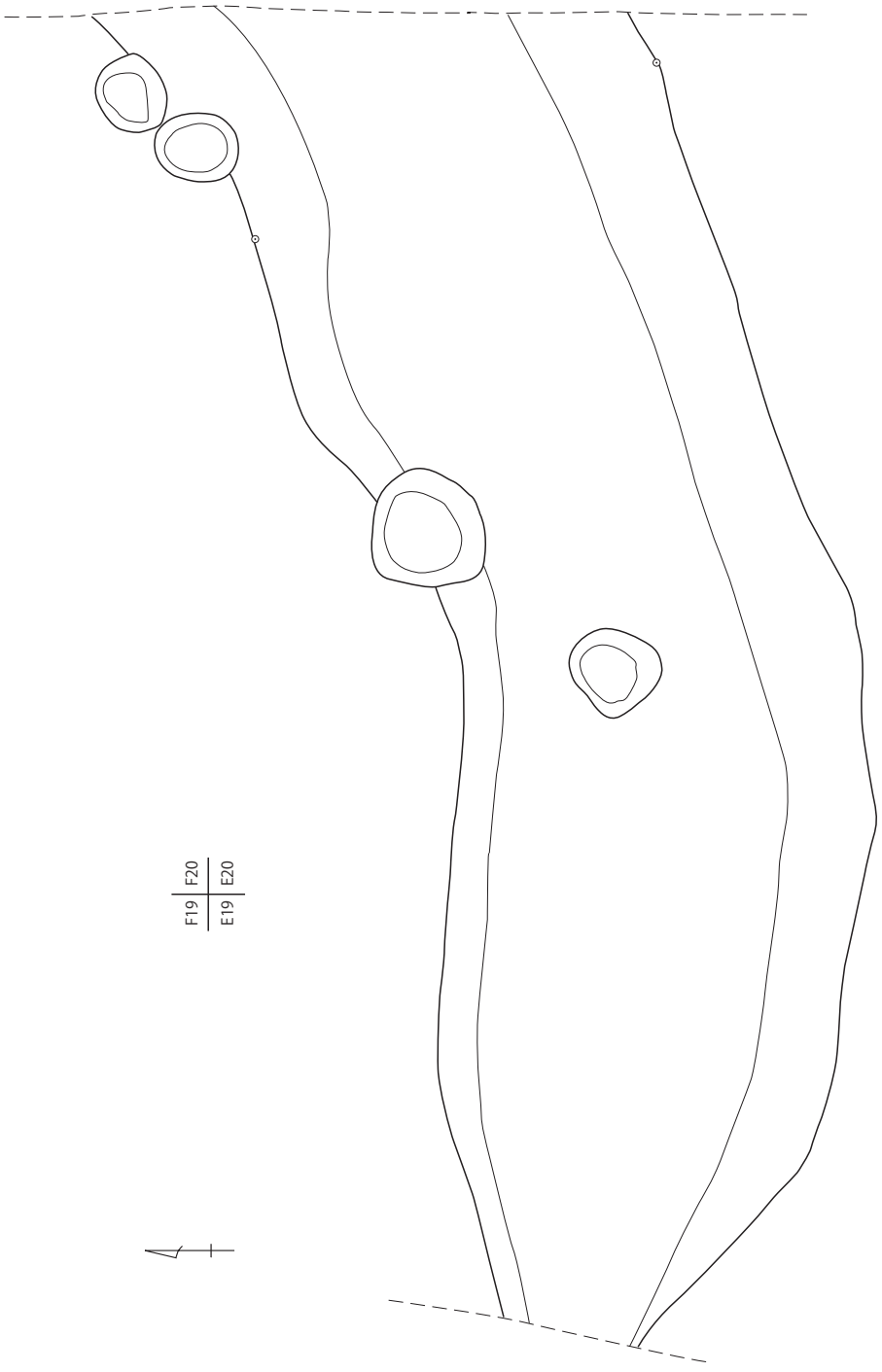
20 号土坑 (SK1020 ／旧 B 区 SK1025)

位置　旧 B 区 N18,19

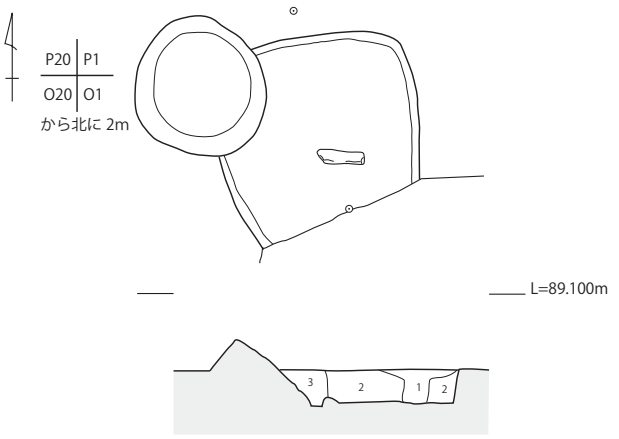
構造・規模　平面形態は長方形、断面形態は丸底形を呈する土坑である。長軸 0.9m、短軸 0.84m、深度 0.28m、主軸方位 N-58° -E を測る。

土層　上層は土器片や小礫を含むオリーブ褐色砂質土、下層は暗灰黄色砂質土である。

遺物出土状況　基底部より 5㎝大の川原石と土師質土器杯が出土。

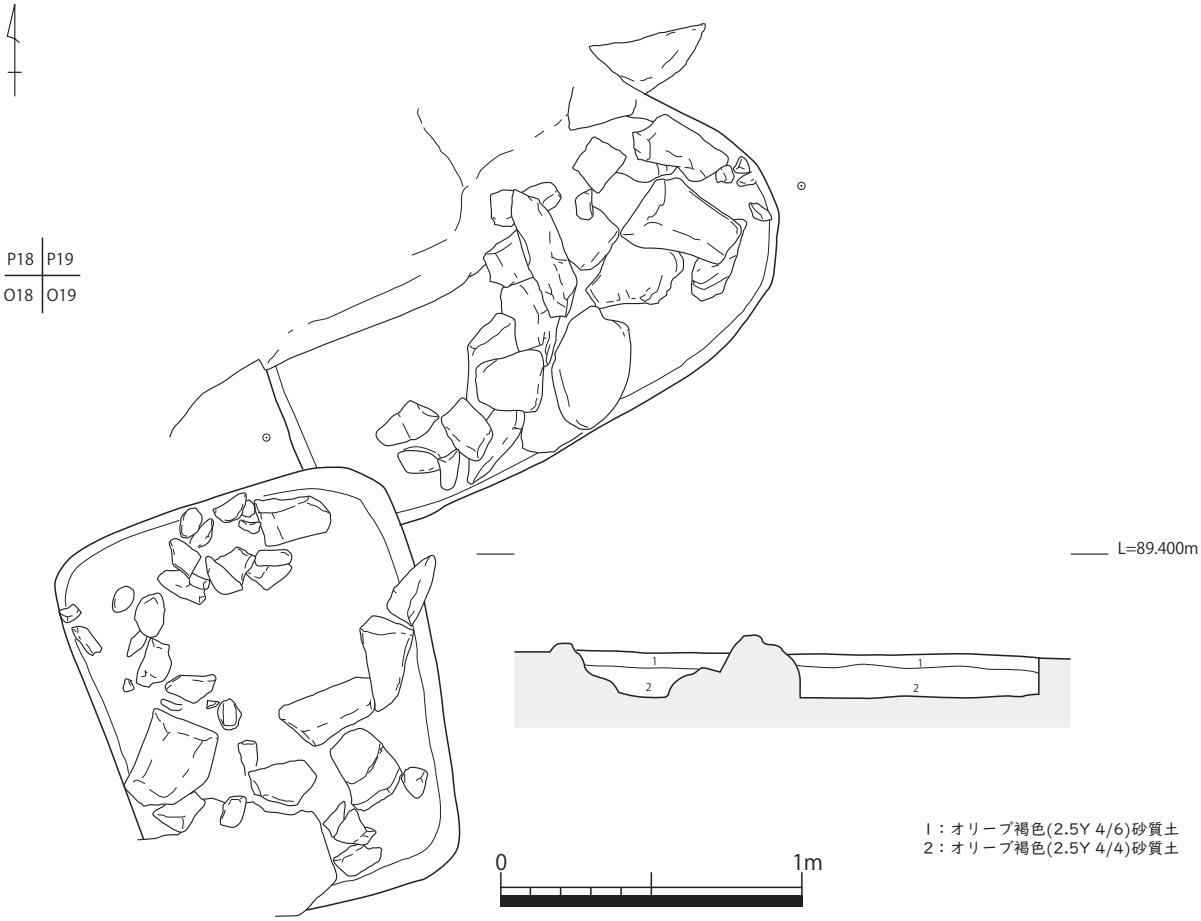


第 189 図　5 号溝状遺構　遺構図



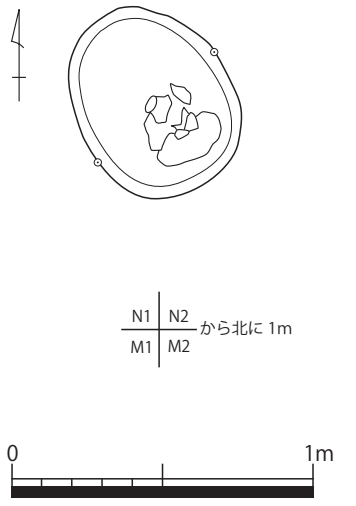
1：オリーブ褐色(2.5Y 4/3)砂質土
2：黄褐色(2.5Y 5/6)砂質土
3：暗オリーブ褐色(2.5Y 3/3)砂質土

第 190 図　5 号土坑　遺構図

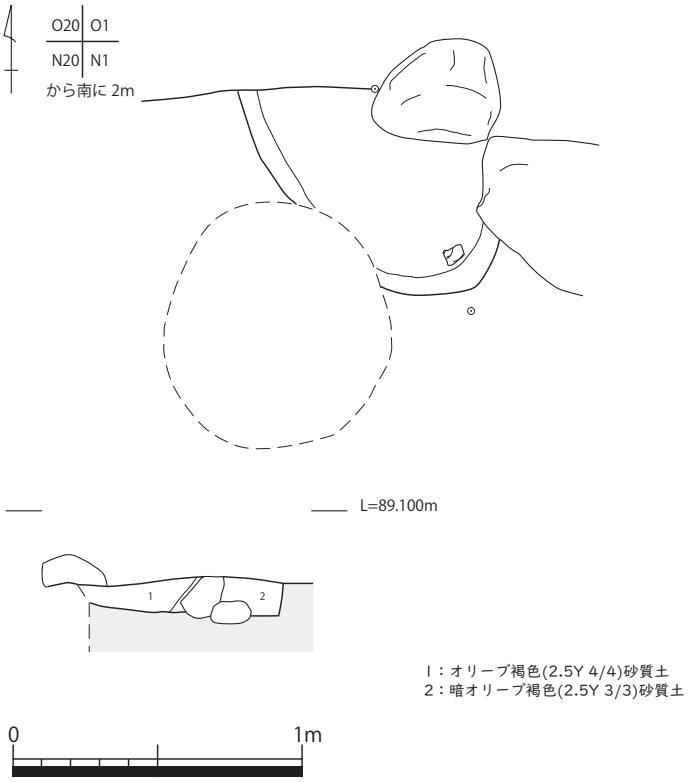


1：オリーブ褐色(2.5Y 4/6)砂質土
2：オリーブ褐色(2.5Y 4/4)砂質土

第 191 図　7 号土坑　遺構図



第 192 図　13 号土坑　遺構図



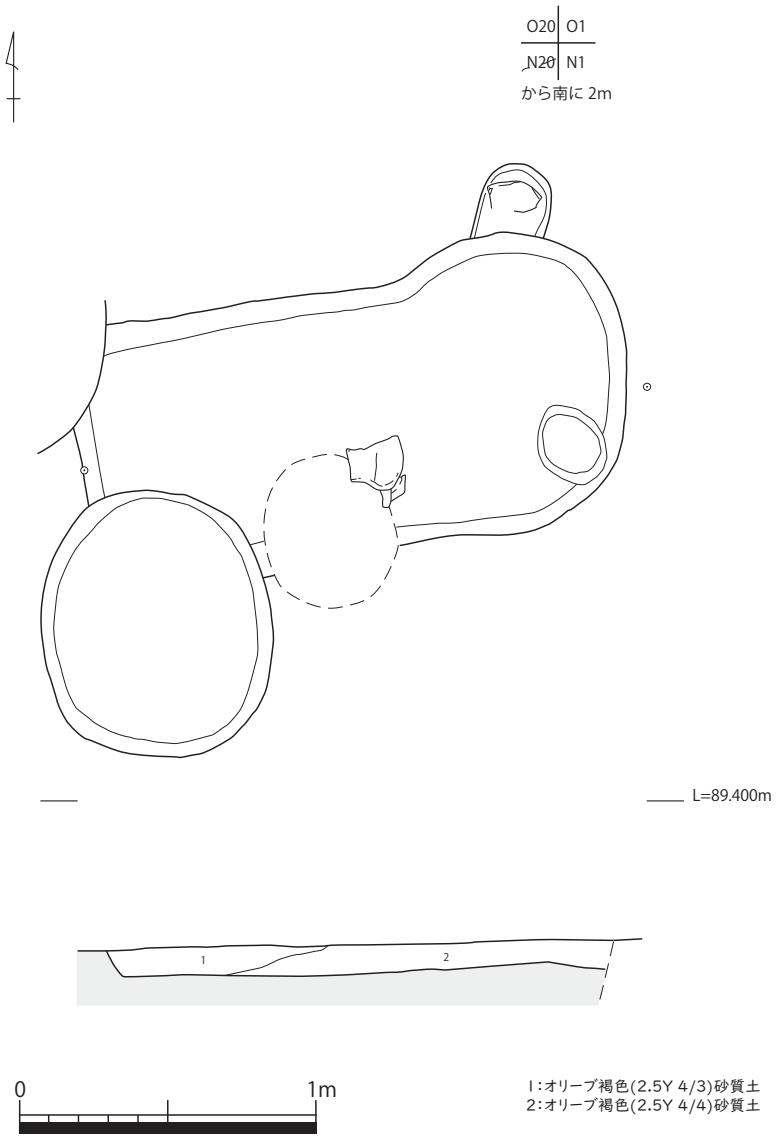
第 193 図　15 号土坑　遺構図

時期　室町期である。

25 号土坑 (SK1025 ／旧 B 区 SK1008)
位置　旧 B 区 M19
構造･規模　平面形態は楕円形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸 0.98m、短軸残存 0.80m、深度 0.16m、主軸方位 N-51° -W を測る。
土層　土器片を含むオリーブ褐色砂質土である。
遺物出土状況　下層中より小川原石と共に弥生土器が出土。
時期　弥生時代終末期である。
備考　縄文土器深鉢 139 は混入である。

26 号土坑 (SK1026 ／旧 B 区 SK1022)
位置　旧 B 区 M18
構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は楕円形を呈する土坑である。長軸 0.95m、短軸 0.51m、深度 0.08m、主軸方位 N-20° -W を測る。
土層　しまりや粘性がやや強い炭化物を僅かに含むオリーブ褐色粘質土である。
遺物出土状況　覆土下層より弥生土器甕片やサヌカイト片や炭化物が出土。
時期　弥生時代後期。

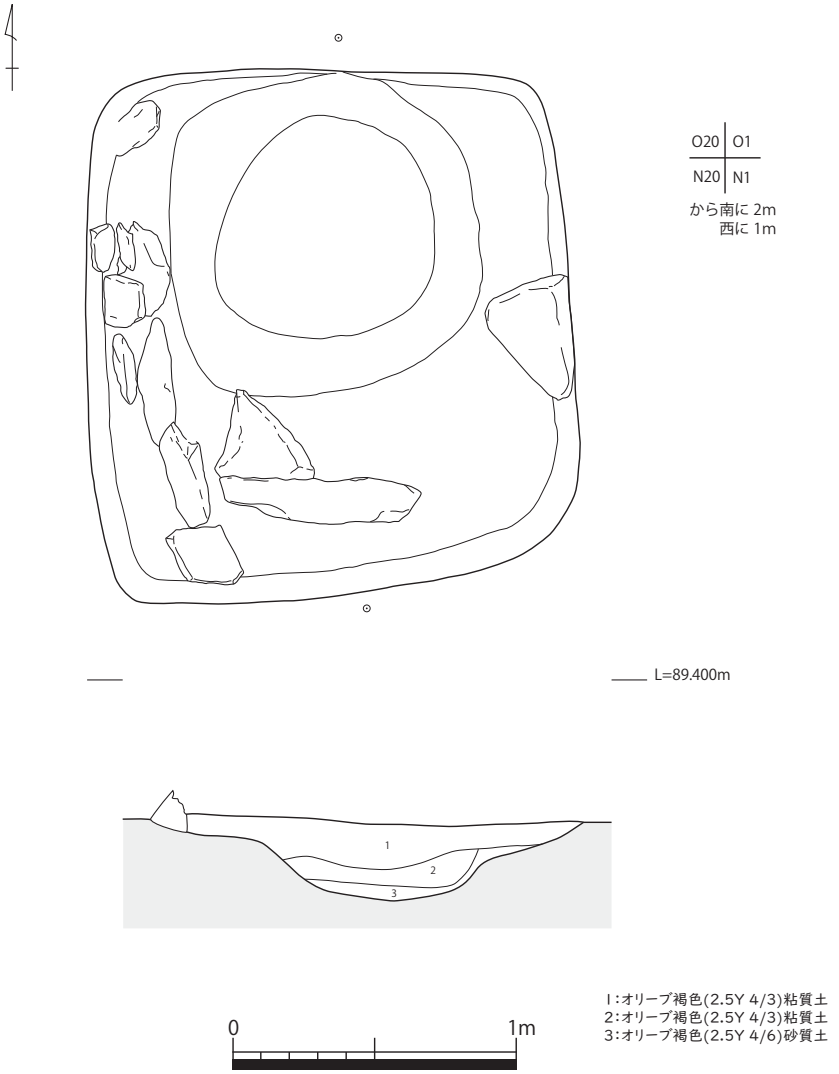
27 号土坑 (SK1027 ／旧 B 区 SK1028)
位置　旧 B 区 M18



第 194 図　16 号土坑　遺構図

構造・規模　平面形態は不整楕円形を、断面形態は二段形を呈する土坑である。長軸 1.29m、短軸 1.16m、深度 0.27m、主軸方位 N-57° -E を測る。
土層　しまりがやや強く粘性は弱いオリーブ褐色粘質土である。
遺物出土状況　覆土中より弥生土器甕片や結晶片岩礫が出土。
時期　弥生時代後期。

32 号土坑 (SK1032 ／旧 B 区 SK1030)
位置　旧 B 区 L17,L18
構造・規模　平面形態は不整楕円形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸 1.62m、短軸残存 1.08m、深度 0.06m、主軸方位 N-69° -E を測る。
土層　しまりがやや強く粘性が弱い黄褐色砂質土である。ごく僅かの炭化粒や土器片を含む。
遺物出土状況　覆土中より弥生土器甕片や結晶片岩礫やサヌカイト剥片が出土。
時期　弥生時代後期。



第 195 図　18 号土坑　遺構図

41 号土坑 (SK1041 ／旧 B 区 SK1005)

位置　旧 B 区 J17

構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸 1.00m、短軸 0.95m、深度 0.11m、主軸方位 N-74° -W を測る。

土層　上層は炭化粒を含むオリーブ褐色砂質土、下層は褐色砂質土である。

遺物出土状況　覆土中上層より中世土師質土器共膳具や瓦質土器片と共に陶器製仏座 143 が出土した。覆土最上層より出土した近代磁器碗は混入である。

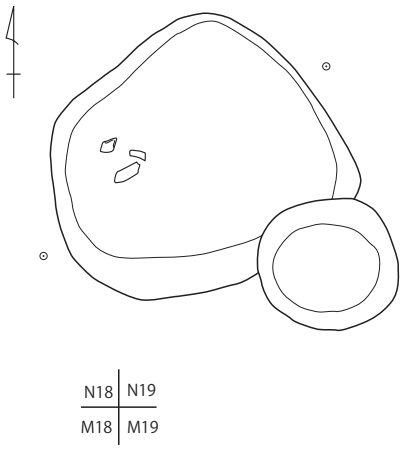
時期　室町期である。

備考　近代初期の廃棄土坑であった可能性もある。

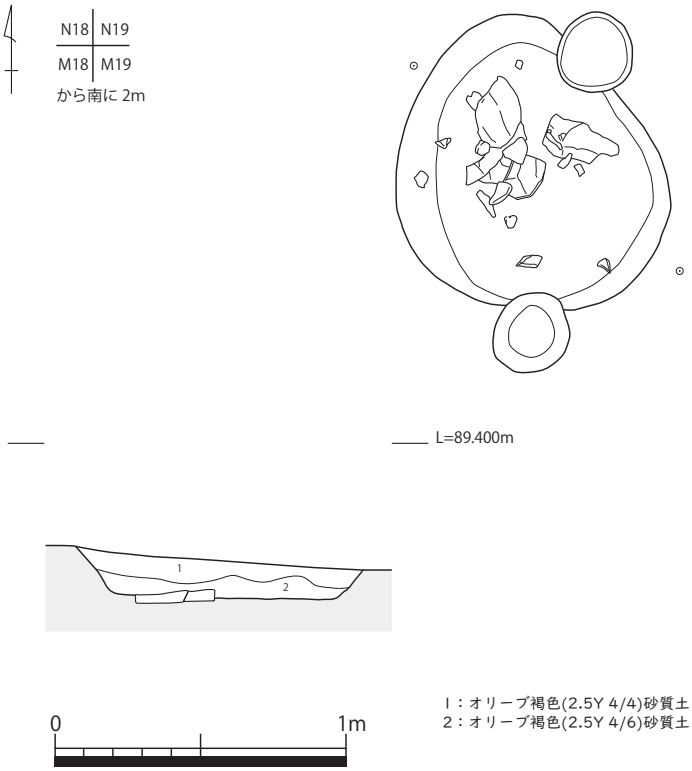
42 号土坑 (SK1042 ／旧 B 区 SK1004)

位置　旧 B 区 I17,J17

構造・規模　平面形態は不整円形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸残存 1.02m、短軸 1.09m、深度 0.08m、主軸方位 N-13° -W を測る。



第 196 図　20 号土坑　遺構図



第 197 図　25 号土坑　遺構図

写真 5　25 号土坑遺物出土状況

土層　上層はしまりが強く小礫を僅かに含むオリーブ褐色砂質土、下層はしまりが強い黄褐色砂質土である。

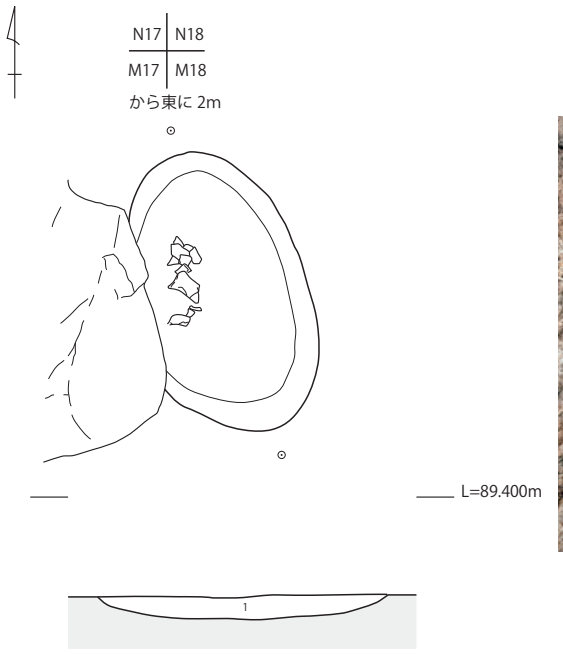
遺物出土状況　覆土下層より陶器壺 164 と土師質土器片が出土した。

時期　室町期である。

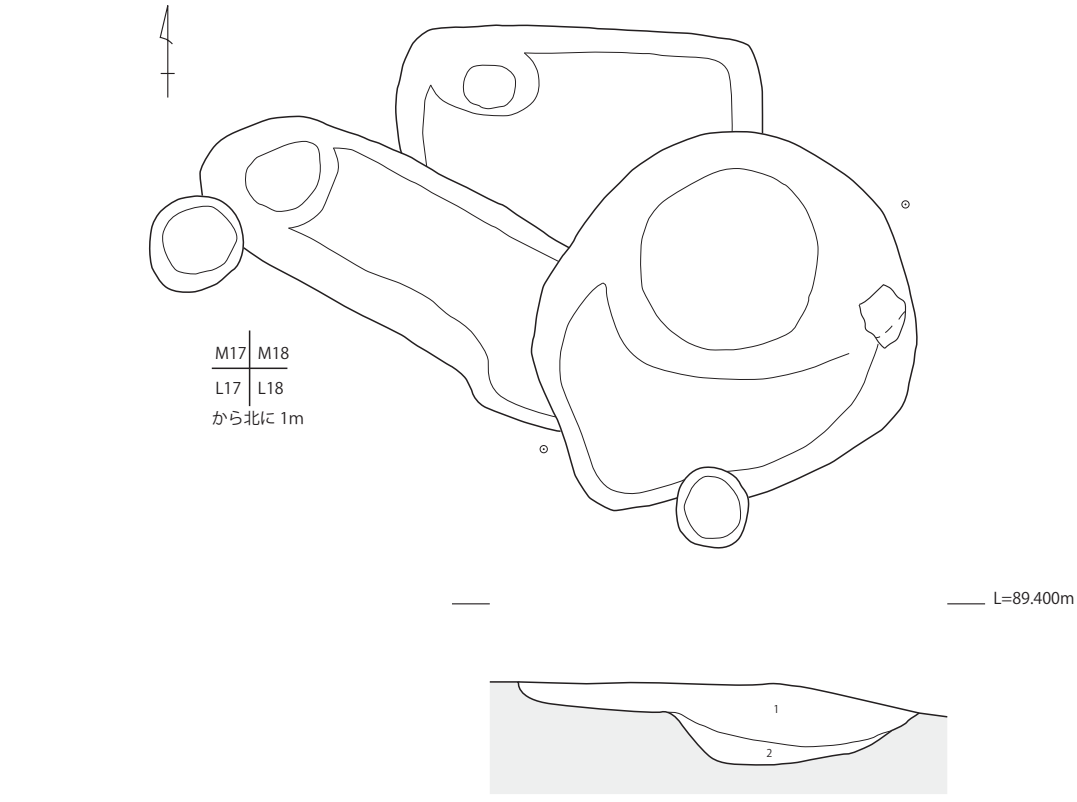
43 号土坑 (SK1043 ／旧 B 区 SK1007)

位置　旧 B 区 J17

構造・規模　平面形態は不整楕円形を、断面液体は皿形を呈する土坑である。長軸 1.3m、短軸 1.11m、

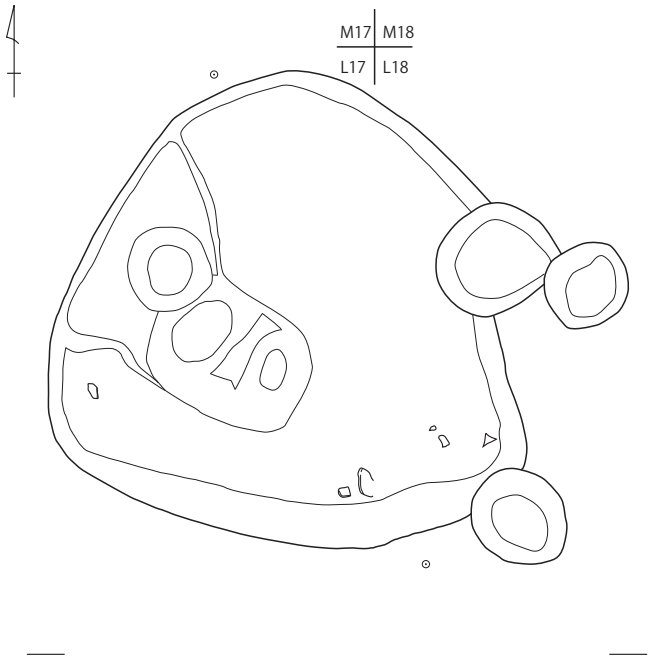


第 198 図　26 号土坑　遺構図

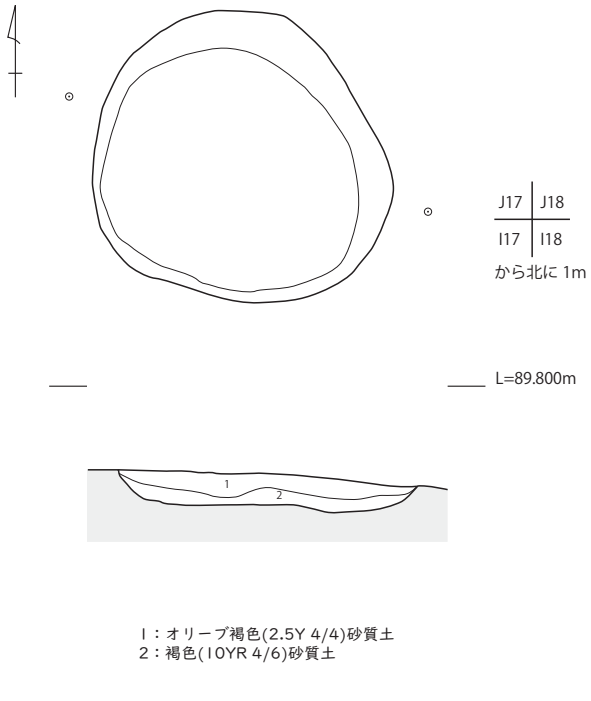


第 199 図　27 号土坑　遺構図

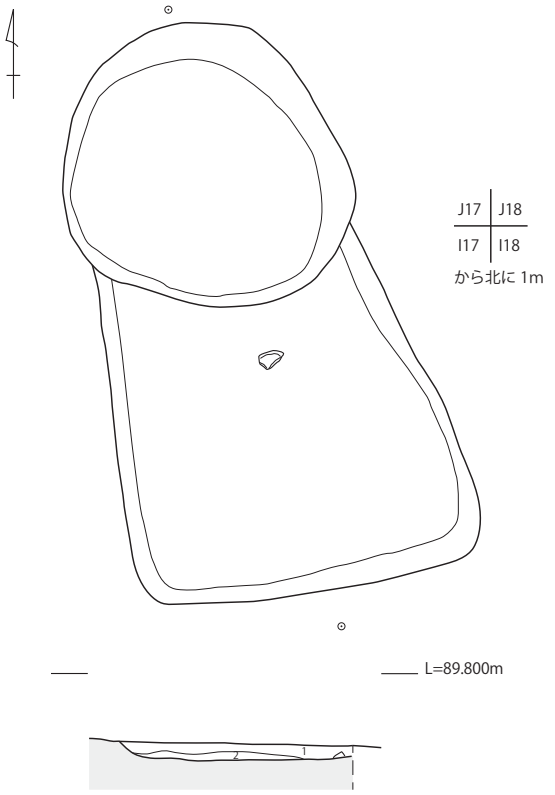
写真 6　26 号土坑遺物出土状況



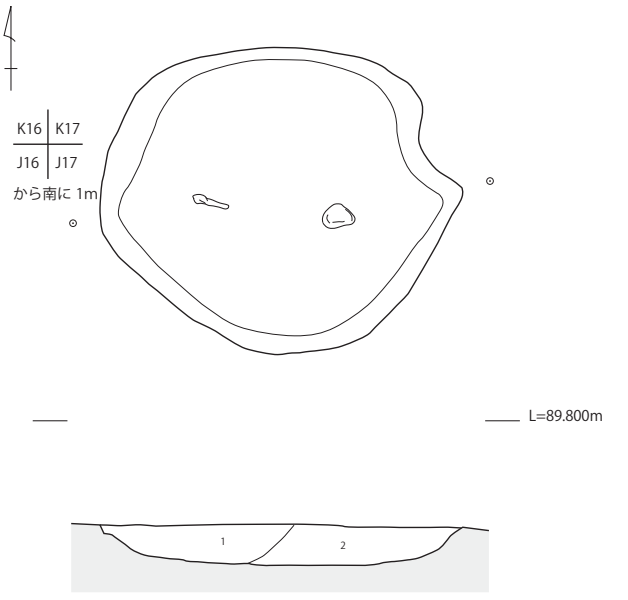
第 200 図　32 号土坑　遺構図



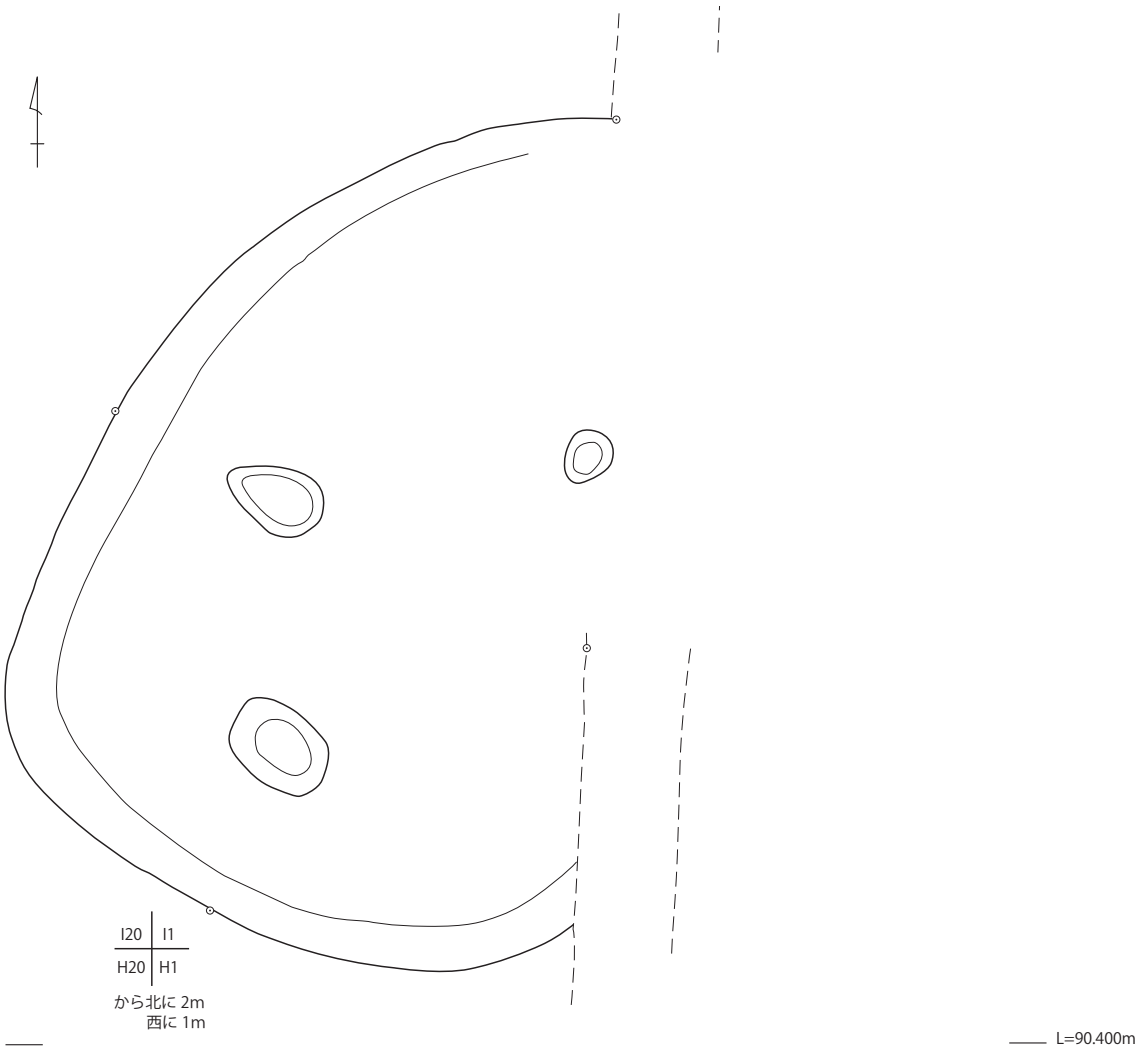
第 201 図　41 号土坑　遺構図



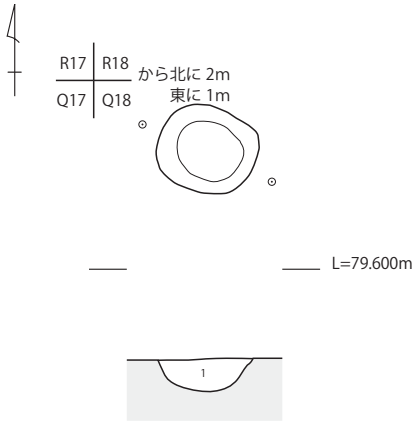
第 202 図　42 号土坑　遺構図



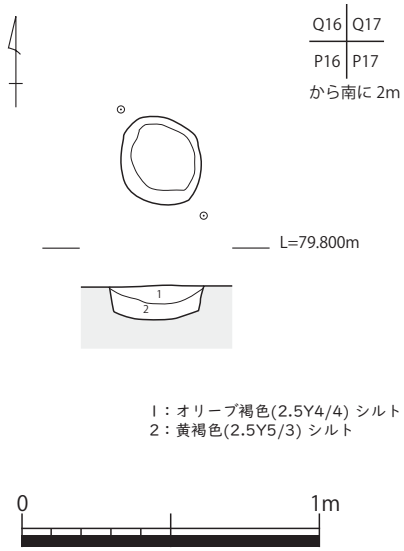
第 203 図　43 号土坑　遺構図



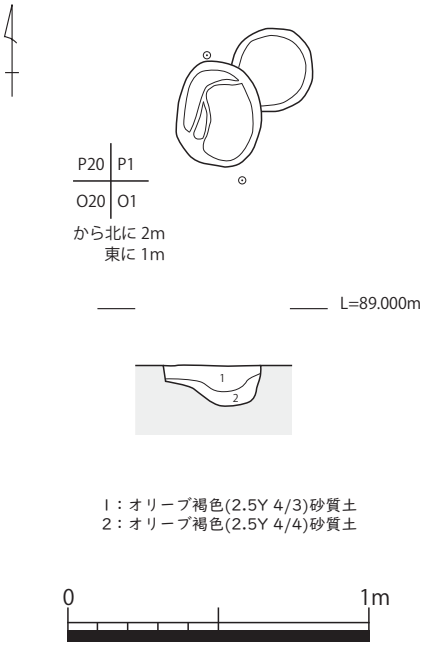
第 204 図　45 号土坑　遺構図



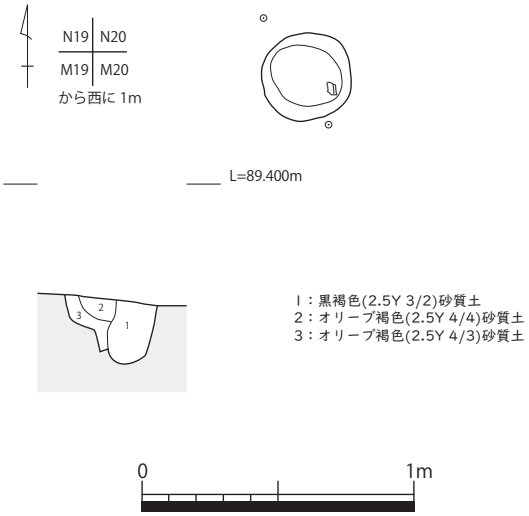
第 205 図　12 号小穴　遺構図



第 206 図　19 号小穴　遺構図



第 207 図　26 号小穴　遺構図



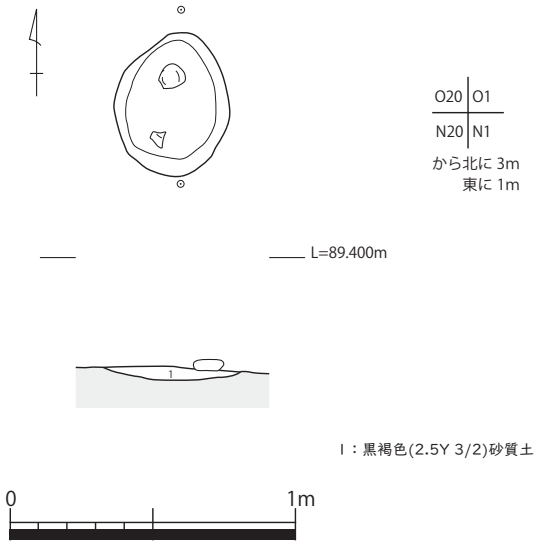
第 208 図　81 号小穴　遺構図

深度 0.15m、主軸方位 N-86° -E を測る。

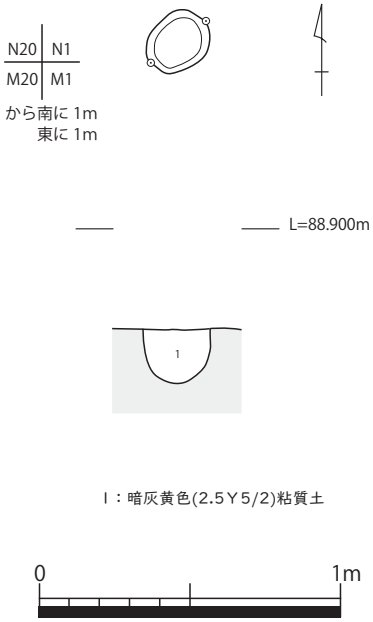
土層　上層はしまりが強く礫を含むオリーブ褐色砂質土、下層は炭化物や土器片を含む黄褐色砂質土である。

遺物出土状況　弥生土器甕 189 が下層より出土

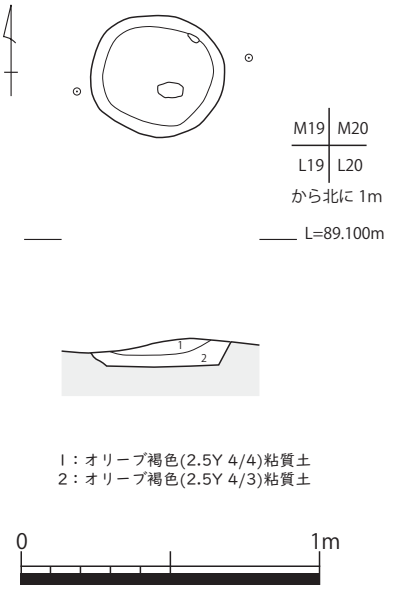
時期　弥生時代後期。



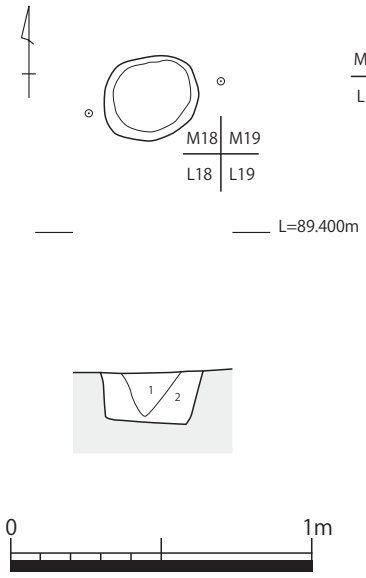
第 209 図　30 号小穴　遺構図



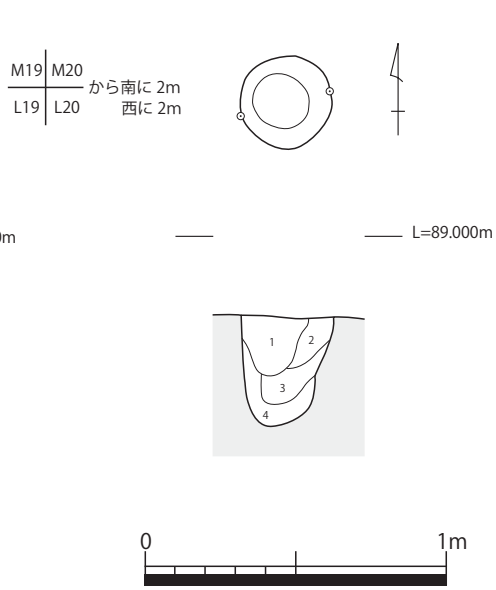
第 210 図　55 号小穴　遺構図



第 211 図　87 号小穴　遺構図



第 212 図　104 号小穴　遺構図



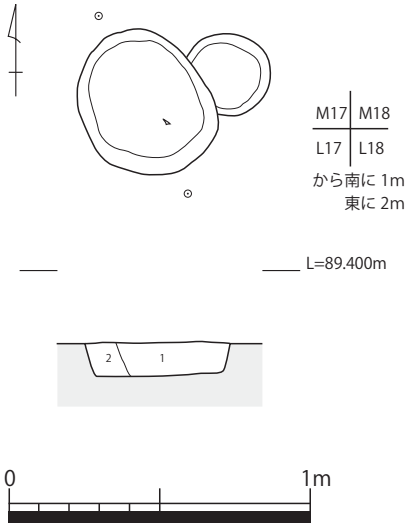
第 213 図　116 号小穴　遺構図

45 号土坑 (SK1045 ／旧 C 区 SK1009)

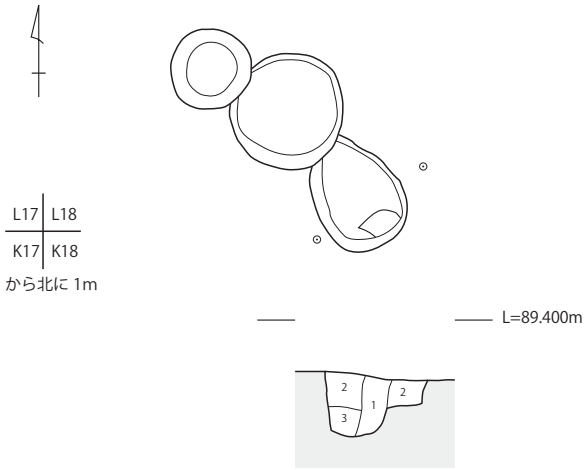
位置　旧 C 区 I20

構造・規模　平面形態は楕円形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸残存 2.95m、短軸 1.77m、深度 0.19m、主軸方位 N-27° -E を測る。

土層　上層はしまりの強い黄灰色シルト、中層は炭化物や焼土ブロックを含む黄褐色砂質土、下層は暗

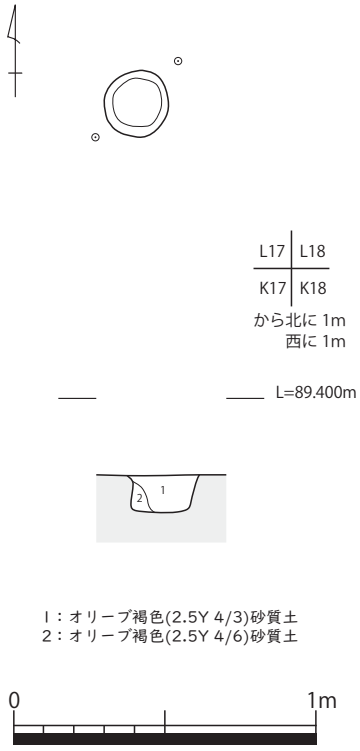


第 214 図　125 号小穴　遺構図



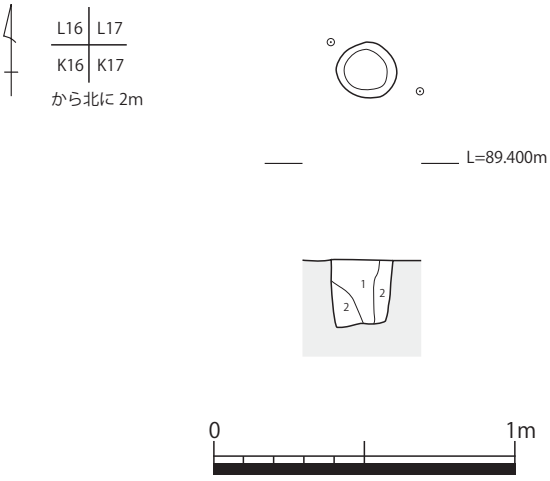
1：オリーブ褐色(2.5Y 4/4)砂質土
2：黄褐色(2.5Y 5/6)砂質土
3：黄褐色(2.5Y 5/4)砂質土

第 215 図　150 号小穴　遺構図

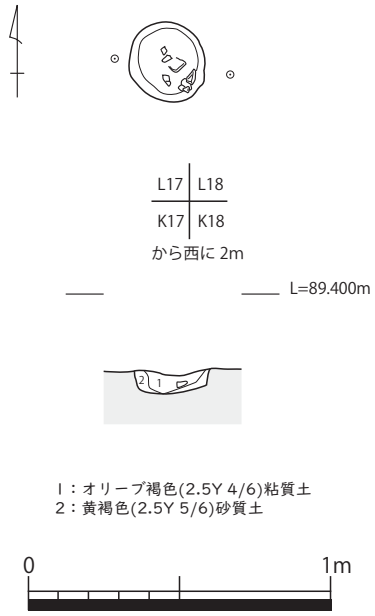


1：オリーブ褐色(2.5Y 4/3)砂質土
2：オリーブ褐色(2.5Y 4/6)砂質土

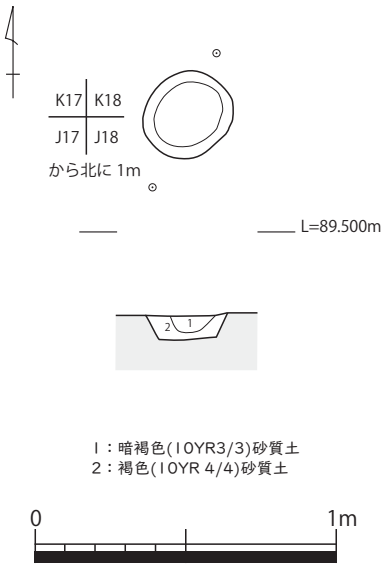
第 216 図　166 号小穴　遺構図



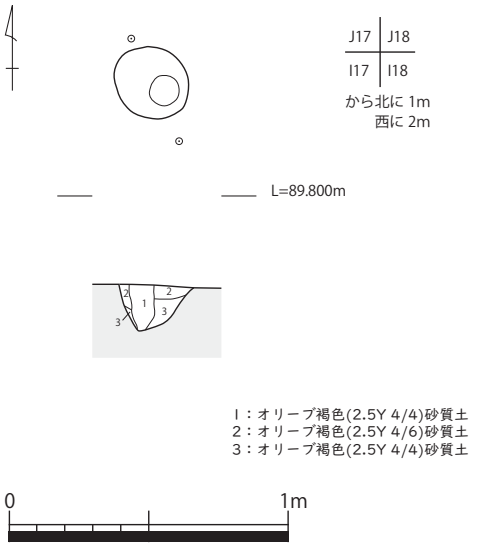
第 217 図　168 号小穴　遺構図



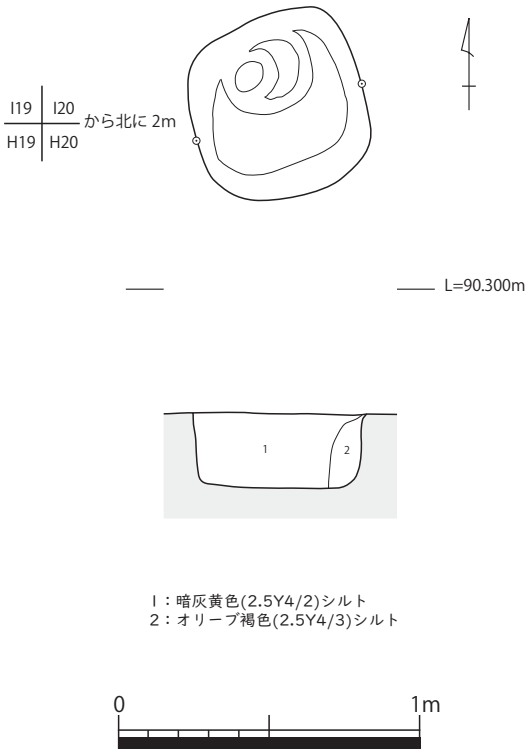
第 218 図　173 号小穴　遺構図



第 219 図　196 号小穴　遺構図



第 220 図　227 号小穴　遺構図

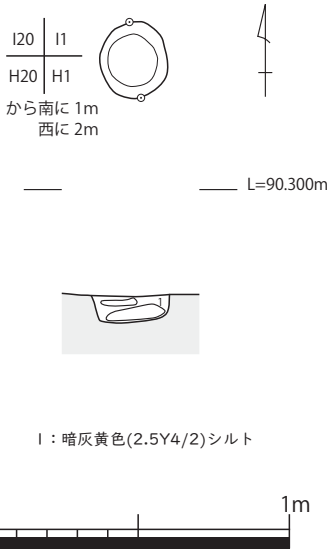


第 221 図　245 号小穴　遺構図

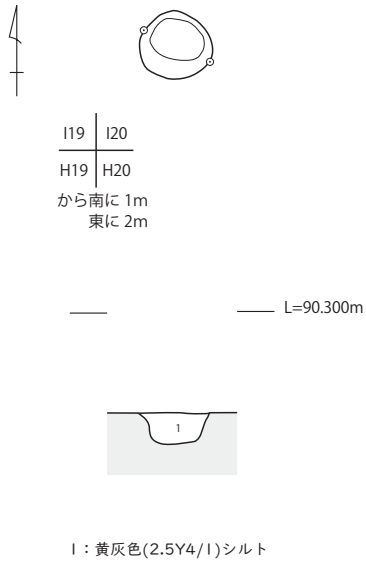
灰黄色シルトである。

遺物出土状況　遺物は主に中層中より出土。弥生土器甕と共に石英礫・片岩礫・砂岩礫が出土。最上層より近代期の白磁碗が出土。

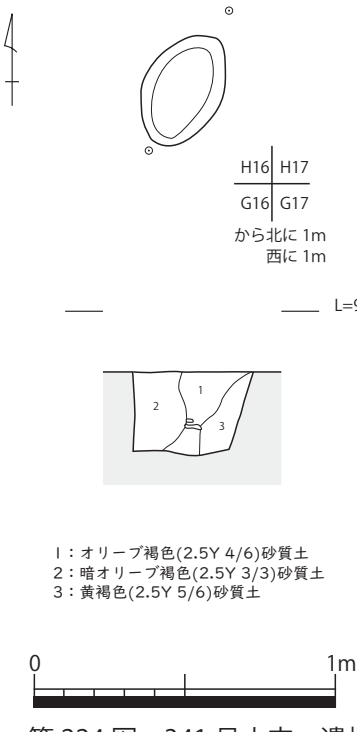
時期　弥生時代後期



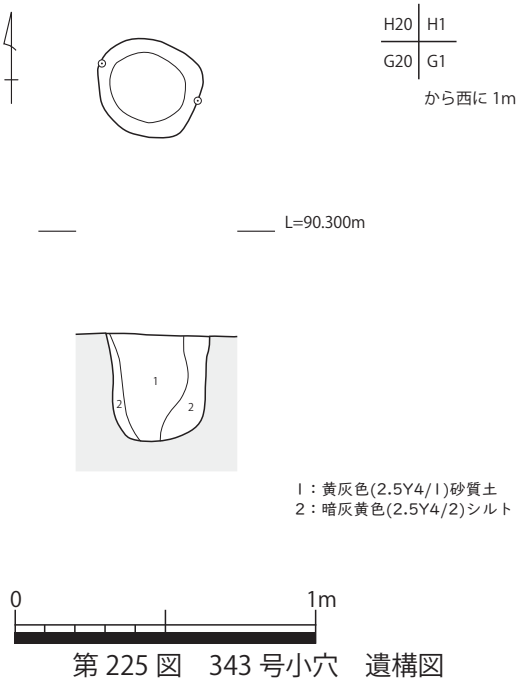
第 222 図 257 号小穴　遺構図



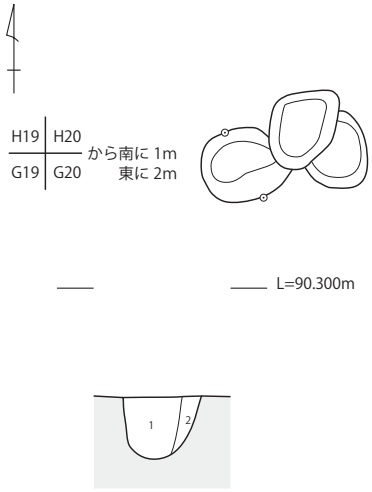
第 223 図　258 号小穴　遺構図



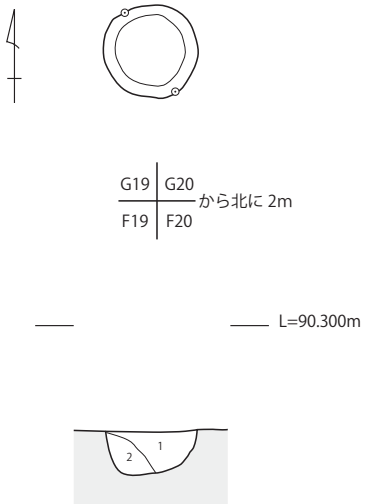
第 224 図　341 号小穴　遺構図



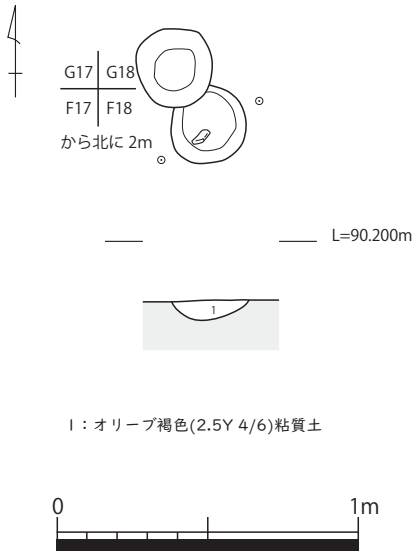
第 225 図　343 号小穴　遺構図



第 226 図　347 号小穴　遺構図



第 227 図　360 号小穴　遺構図



第 228 図　383 号小穴　遺構図

55 号土坑 (SK1055 ／旧 C 区 SK1002)

位置　旧 C 区 D20

構造・規模　平面形態は長方形を、断面形態は皿形を呈する土坑である。長軸 1.57m、短軸 0.89m、深度 0.12m、主軸方位 N-9° -E を測る。

土層　しまりのやや強い黄褐色砂質土である。

遺物出土状況　焼土ブロックや砂岩礫・結晶片岩礫と共に土器細片が出土。覆土中の土器片は、何れも小片のため実測不可である。

時期　中世と推定される。

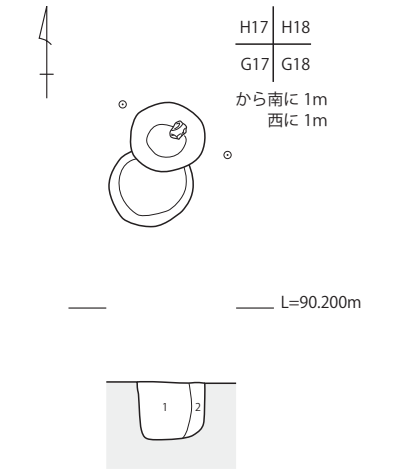
(4) 小穴 (SP)

26 号小穴 (SP1026 ／旧 B 区 SP1159)

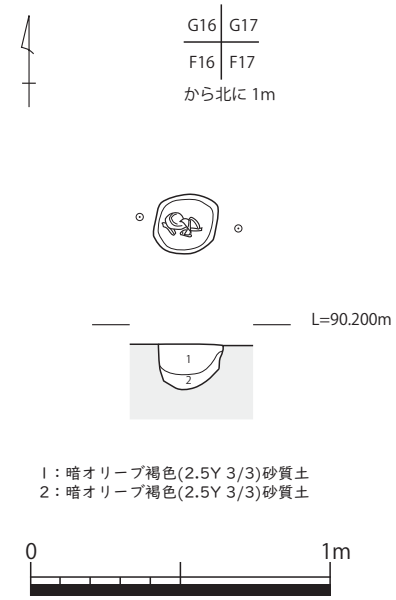
旧 B 区 P1。楕円形を呈する。長径 0.37m、深度 0.13m を測る。覆土はオリーブ褐色砂質土である。近世白磁供膳具と土師質土器片が出土。

近世初頭である。

30 号小穴 (SP1030 ／旧 B 区 1147)



第 229 図　386 号小穴　遺構図



第 230 図　405 号小穴　遺構図

写真 7　386 号小穴遺物出土状況

写真 8　405 号小穴遺物出土状況

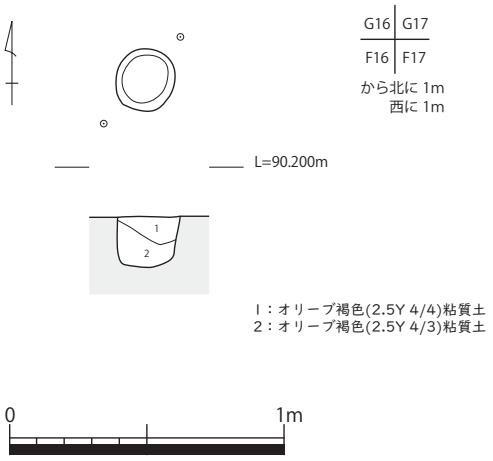
旧 B 区 O1,O20。楕円形を呈する。長径 0.5m、深度 0.05m を測る。覆土は黒褐色砂質土である。下層より 10㎝大の礫を検出。弥生土器甕片・近世末陶器や焼土ブロックが出土。

室町期である。

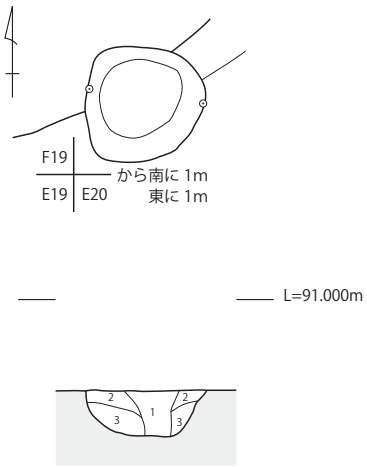
87 号小穴 (SP1087 ／旧 B 区 SP1114)

旧 B 区 M19。方形を呈する。長軸 0.46m、深度 0.1m を測る。覆土はオリーブ褐色粘質土である。弥生土器甕片が出土したが、細片のため実測不可。

弥生時代後期である。



第 231 図　406 号小穴　遺構図



第 232 図　424 号小穴　遺構図

104 号小穴 (SP1104 ／旧 B 区 SP1188)

旧 B 区 M18。方形を呈する。長軸 0.32m、深度 0.13m を測る。覆土は炭化物や土器片を含むオリーブ褐色粘質土や黄褐色粘質土である。弥生土器甕やサヌカイト片が出土。

弥生時代後期である。

116 号小穴 (SK1116 ／旧 C 区 SP1172)

旧 C 区 L19。円形を呈する。長径 0.3m、深度 0.36m を測る。覆土はにぶい黄色砂質土や灰黄色砂質土である。弥生土器甕が出土。

弥生時代後期である。

125 号小穴 (SK1125 ／旧 B 区 SP1198)

旧 B 区 L18。楕円形を呈する。長径 0.51m、深度 0.11m を測る。覆土は炭化粒を含む黄褐色砂質土やオリーブ褐色砂質土である。弥生土器細片が出土。

弥生時代後期と推定される。

150 号小穴 (SP1150 ／旧 B 区 SP1228)

旧 B 区 L18。楕円形を呈する。長径残存 0.36m、深度 0.21m を測る。覆土は炭化粒を含むオリーブ褐色砂質土や黄褐色砂質土である。

室町期と推定される。

165 号小穴 (SP1165 ／旧 B 区 SP1235)

旧 B 区 L18。円形を呈する。長径 0.3m、深度 0.03m を測る。覆土は小礫を含むオリーブ褐色砂質土

である。焼土ブロックと共に 118 が出土。
　弥生時代中期と推定される。

168 号小穴 (SP1168 ／旧 B 区 SP1256)
　旧 B 区 L17。円形を呈する。長径 0.2m、深度 0.2m を測る。覆土は炭化粒を含むオリーブ褐色粘質土や黄褐色粘質土である。弥生土器片が出土。
　弥生時代後期。

173 号小穴 (SP1173 ／旧 B 区 SP1250)
　旧 B 区 L17。楕円形を呈する。長径 0.27m、深度 0.06m を測る。遺構覆土は炭化粒や土器片を含むオリーブ褐色粘質土や黄褐色砂質土である。1 層中より弥生土器甕や結晶片岩礫が出土。
　弥生時代後期である。

196 号小穴 (SP1196 ／旧 B 区 SP1108)
　旧 B 区 K18。円形を呈する。長径 0.3m、深度 0.08m を測る。遺構覆土は炭化粒を含む暗褐色砂質土や 10㎝大の礫を含む褐色砂質土である。下層より縄文土器深鉢 121 が出土。
　縄文時代晩期である。

227 号小穴 (SP1245 ／旧 B 区 SP1099)
　旧B区J17。楕円形を呈する。長径0.27m、深度0.17mを測る。遺構覆土は土器片や炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。
　縄文時代と推定される。

245 号小穴 (SP1245 ／旧 C 区 SP1115)
　旧 C 区 I20。方形を呈する。長軸 0.57m、深度 0.24m を測る。遺構覆土は暗灰黄色シルトやオリーブ褐色シルトである。覆土中より瓦質土器片が出土。
　中世末である。

257 号小穴 (SP1257 ／旧 C 区 SP1074)
　旧 C 区 H20。円形を呈する。長径 0.24m、深度 0.08m を測る。遺構覆土は暗灰黄色シルトである。
　中世と推定される。

258 号小穴 (SP1258 ／旧 C 区 SP1080)
　旧 C 区 H20。円形を呈する。長径 0.25m、深度 0.1m を測る。遺構覆土は黄灰色シルトである。土器細片や炭化物が出土。
　中世と推定される。

341 号小穴 (SP1341 ／旧 B 区 SP1046)
　旧 B 区 H16。楕円形を呈する。長径 0.4m、深度 0.25m を測る。遺構覆土は炭化物・土器細片を含むオリーブ褐色砂質土や中層暗オリーブ褐色や下層黄褐色砂質土である。弥生土器壺や甕片と共に土師

質土器細片や焼土ブロックが出土。瓦質土器椀 119 は 3 層より出土。
室町期である。

343 号小穴 (SP1343 ／旧 C 区 SP1060)
旧 C 区 G20,H20。円形を呈する。長径 0.37m、深度 0.35m を測る。遺構覆土は炭化物を含む黄灰色砂質土や暗灰黄色砂質土である。弥生土器甕や壺片と共に結晶片岩礫が出土。弥生土器 89 は高坏である。
弥生時代後期である。

347 号小穴 (SP1347 ／旧 C 区 SP1052)
旧 C 区 G20。円形を呈する。長径 0.26m、深度 0.21m を測る。遺構覆土は炭化物や焼土粒を含む暗灰黄色シルトや暗灰黄色砂質土である。1 層中より弥生土器片が出土。
弥生時代後期である。

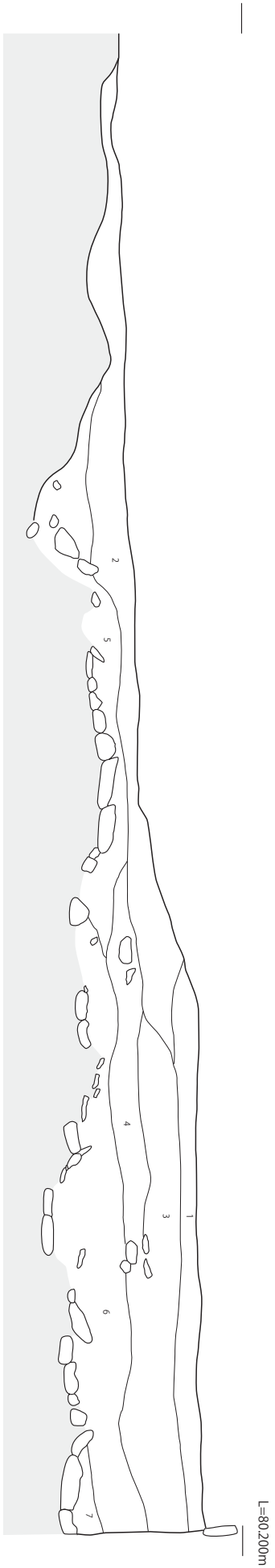
360 号小穴 (SP1360 ／旧 C 区 SP1041)
旧 C 区 G20。円形を呈する。長径 0.32m、深度 0.14m を測る。遺構覆土は小礫を含む暗灰黄色砂質土や黄褐色シルトである。
室町期である。

383 号小穴 (SP1383 ／旧 B 区 SP1010)
旧 B 区 G18。円形を呈する。長径 0.26m、深度 0.06m を測る。遺構覆土は小礫や土器片を含むオリーブ褐色粘質土である。土師質土器煮沸具片が出土。
室町期である。

405 号小穴 (SP1405 ／旧 B 区 SP1005)
旧 B 区 G16。方形を呈する。長軸 0.21m、深度 0.19m を測る。遺構覆土は炭化粒や小礫を含む暗オリーブ褐色砂質土である。1 層中より弥生土器片 (器種不明)、土師質土器共膳具、鉄滓、サヌカイト剥片が出土。土師質土器皿 187 は後円部内面にススが付着しており、灯明皿である。
室町期である。

406 号小穴 (SP1406 ／旧 B 区 SP1003)
旧 B 区 G16。円形を呈する。長径 0.23m、深度 0.19m を測る。遺構覆土はオリーブ褐色粘質土である。
室町期と推定される。

424 号小穴 (SP1424 ／旧 C 区 SP1022)
旧 C 区 E20。不整円形を呈する。長径 0.42m、深度 0.15m を測る。遺構覆土は灰黄色シルトや粗砂を含む暗灰黄色粘質土や暗灰黄色砂質土である。2 層中より弥生土器甕や石英礫、結晶片岩礫、砂岩礫が出土。
弥生時代後期である。



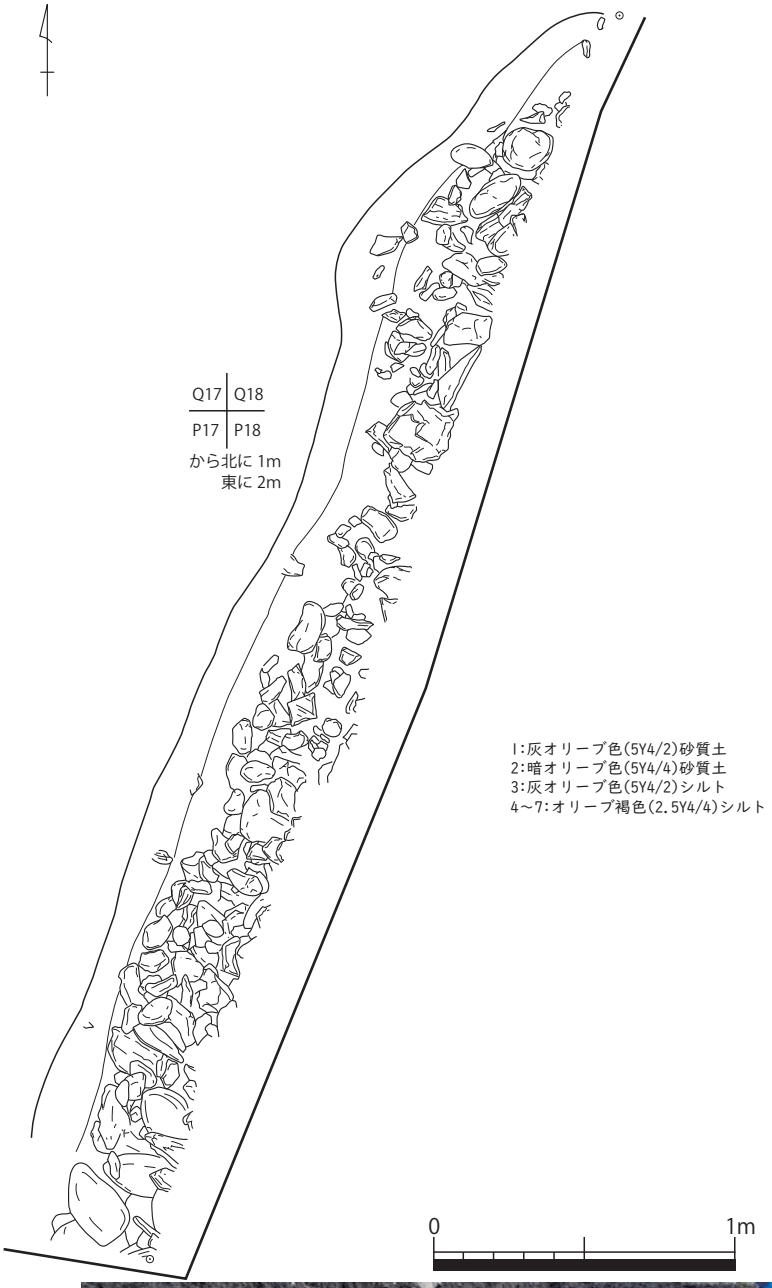
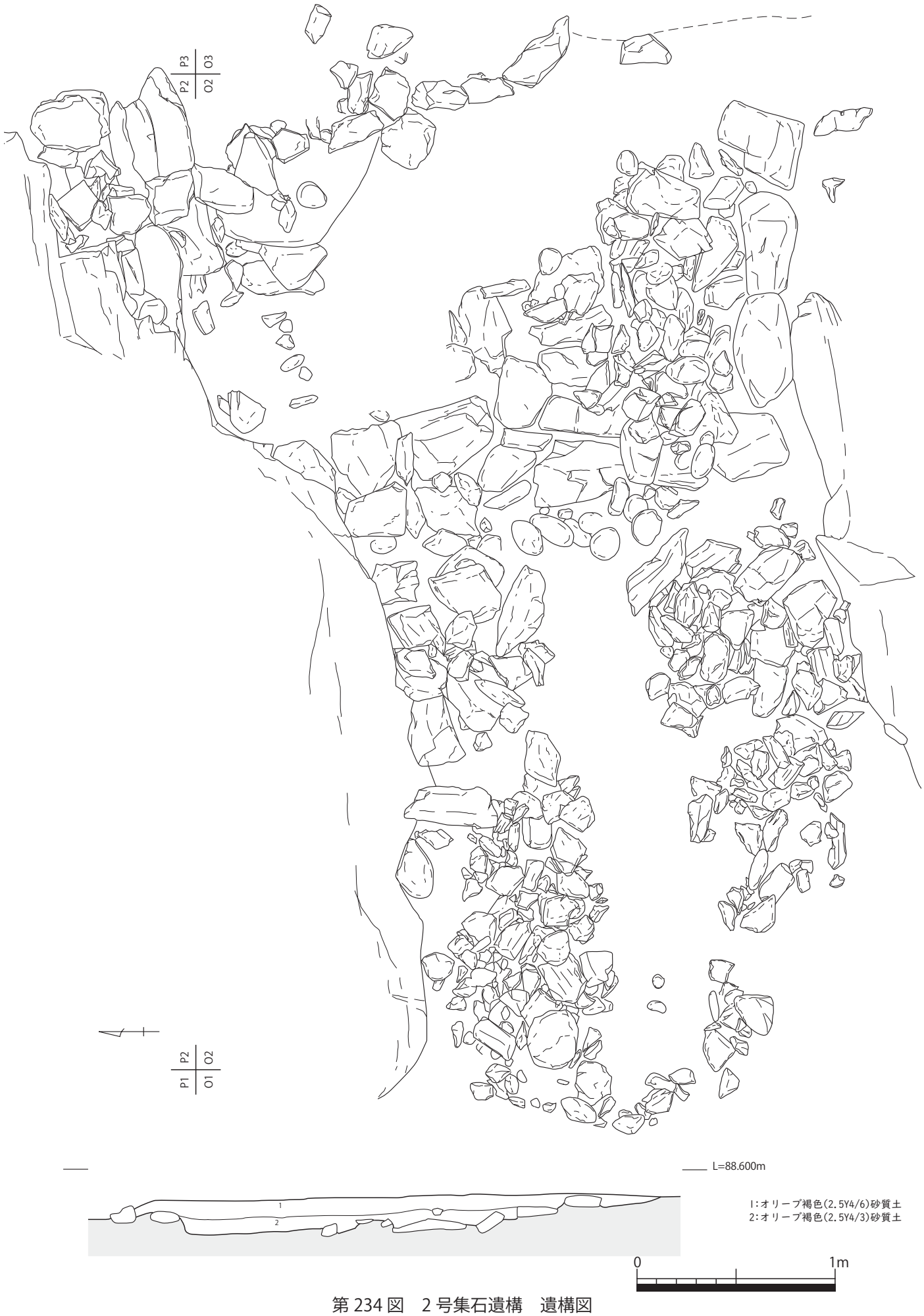
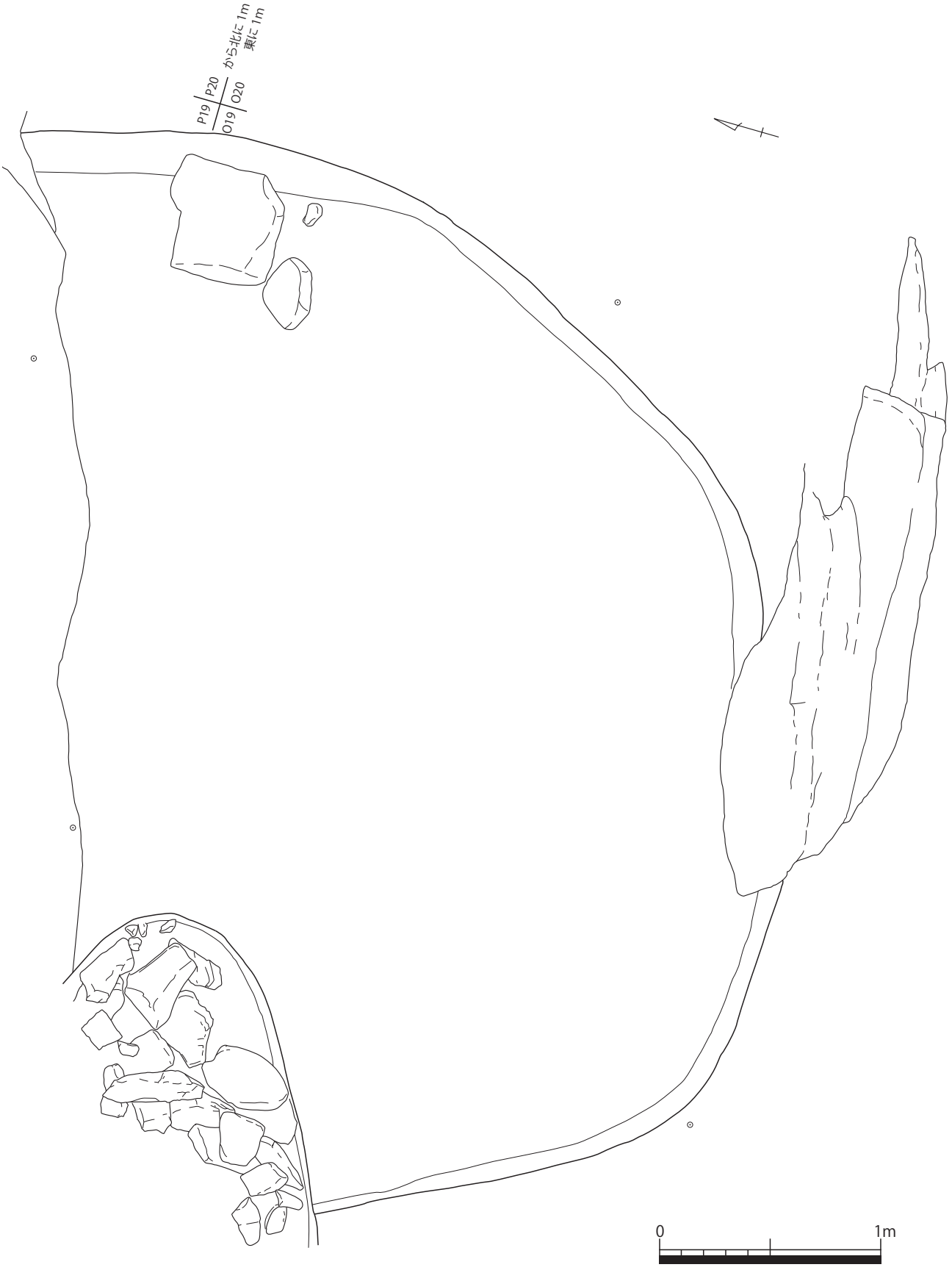


写真 9　1 号集石遺構

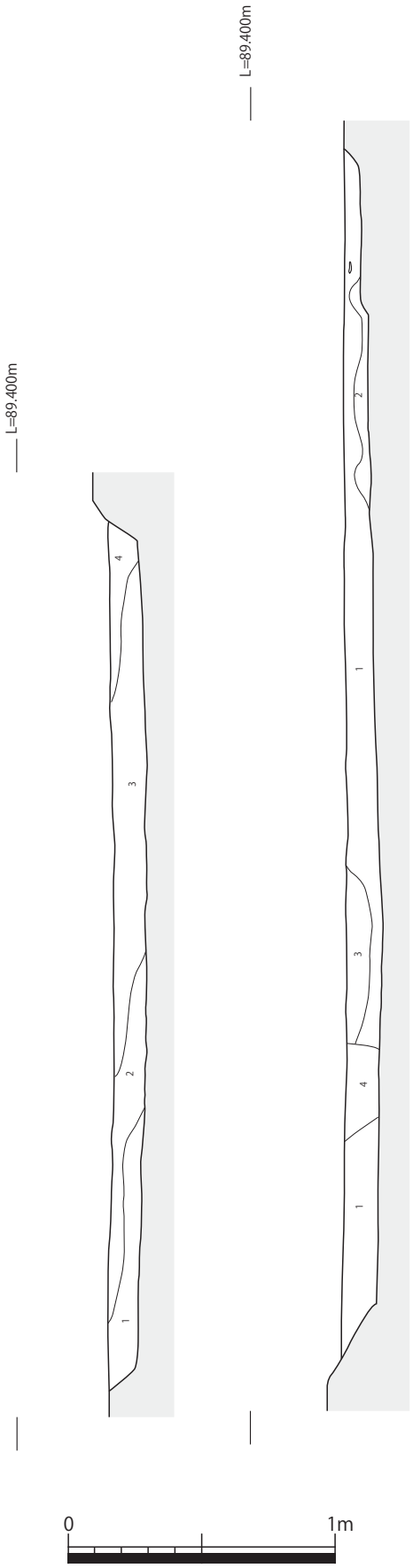
第 233 図　1 号集石遺構　遺構図



第 234 図　2 号集石遺構　遺構図



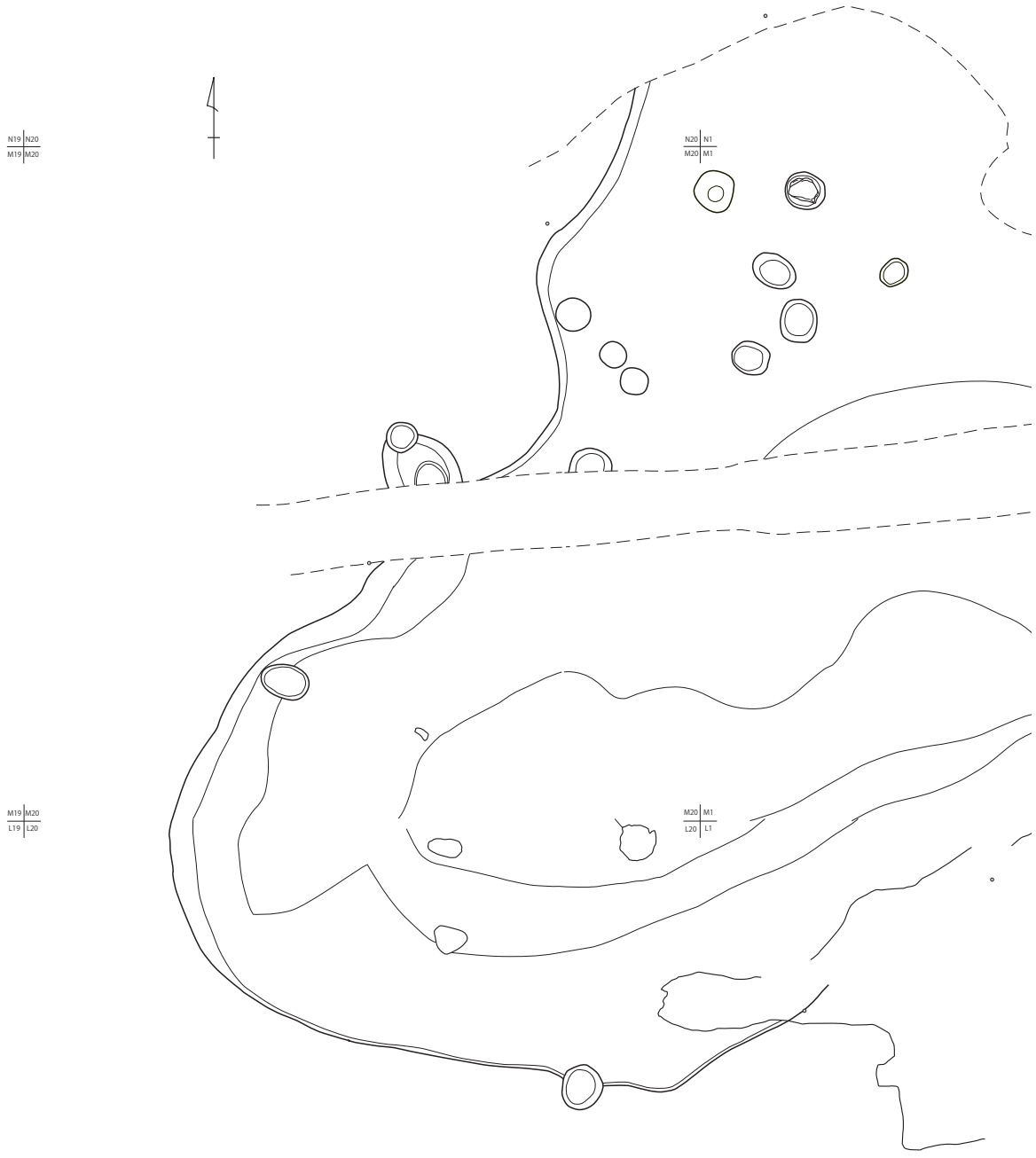
第 235 図　2 号性格不明遺構　遺構図 (1)



第 236 図　2 号性格不明遺構　遺構図 (2)

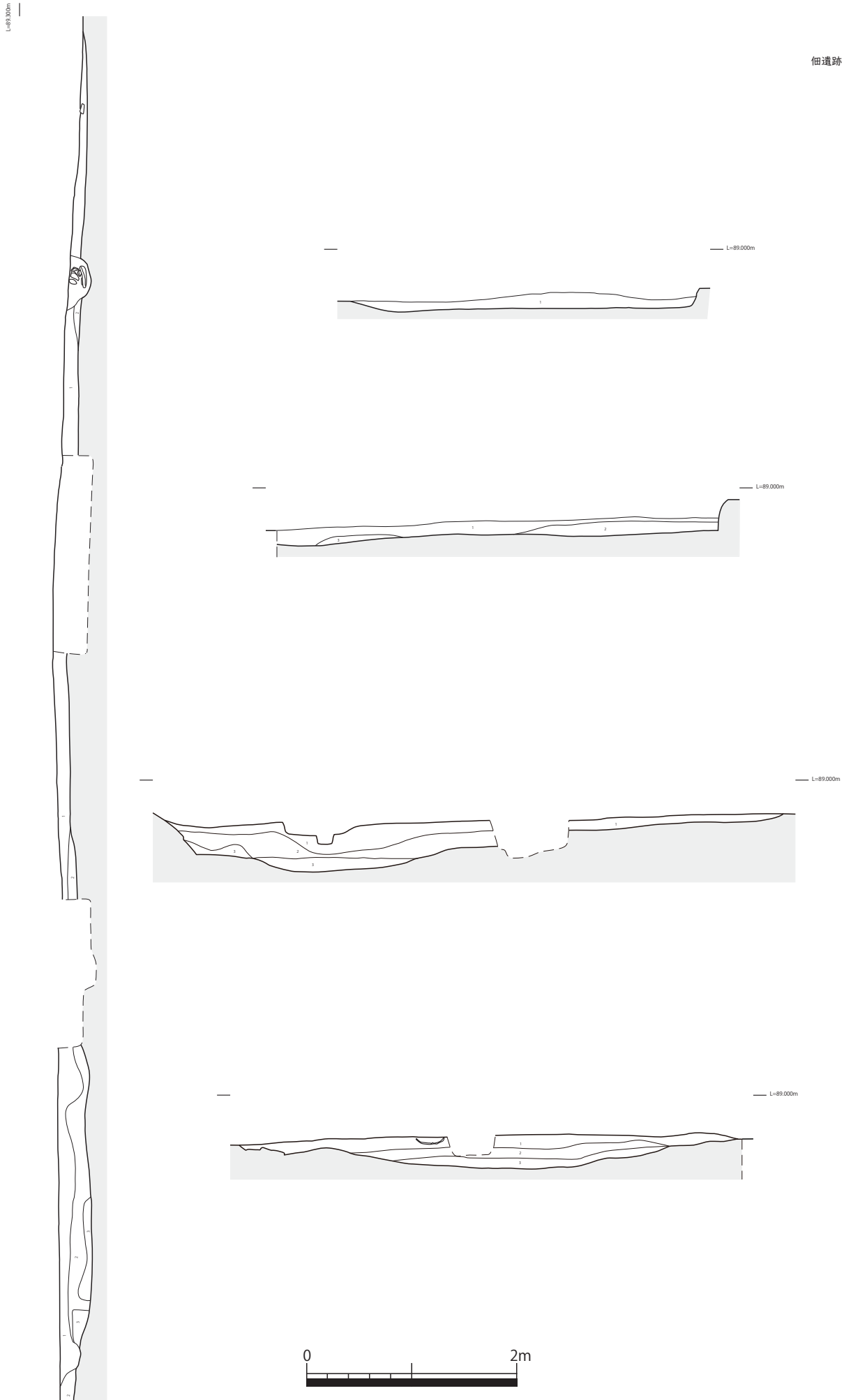
写真 10　2 号性格不明遺構遺物出土状況

写真 11　2 号性格不明遺構

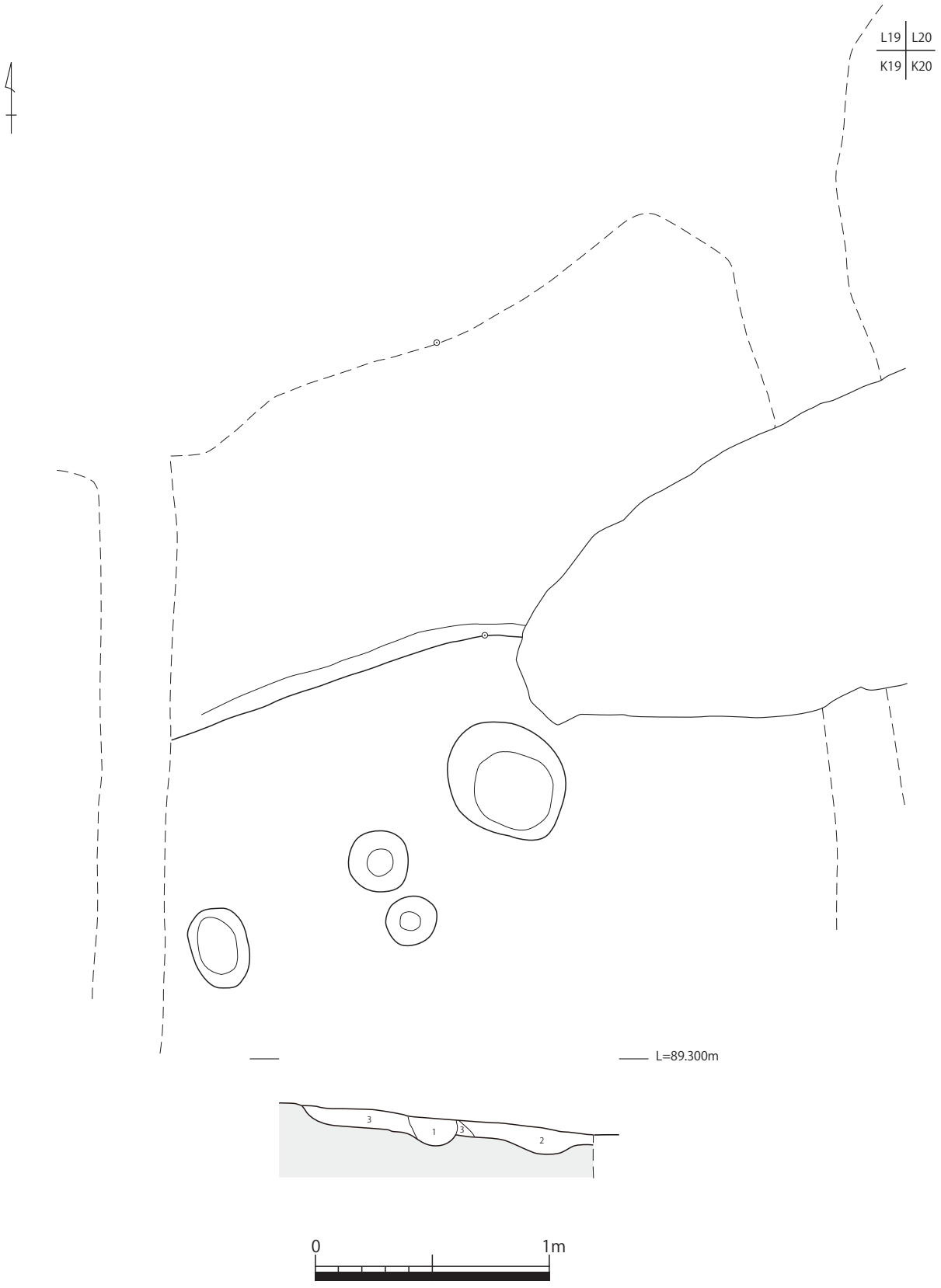


第 237 図　3 号性格不明遺構　遺構図

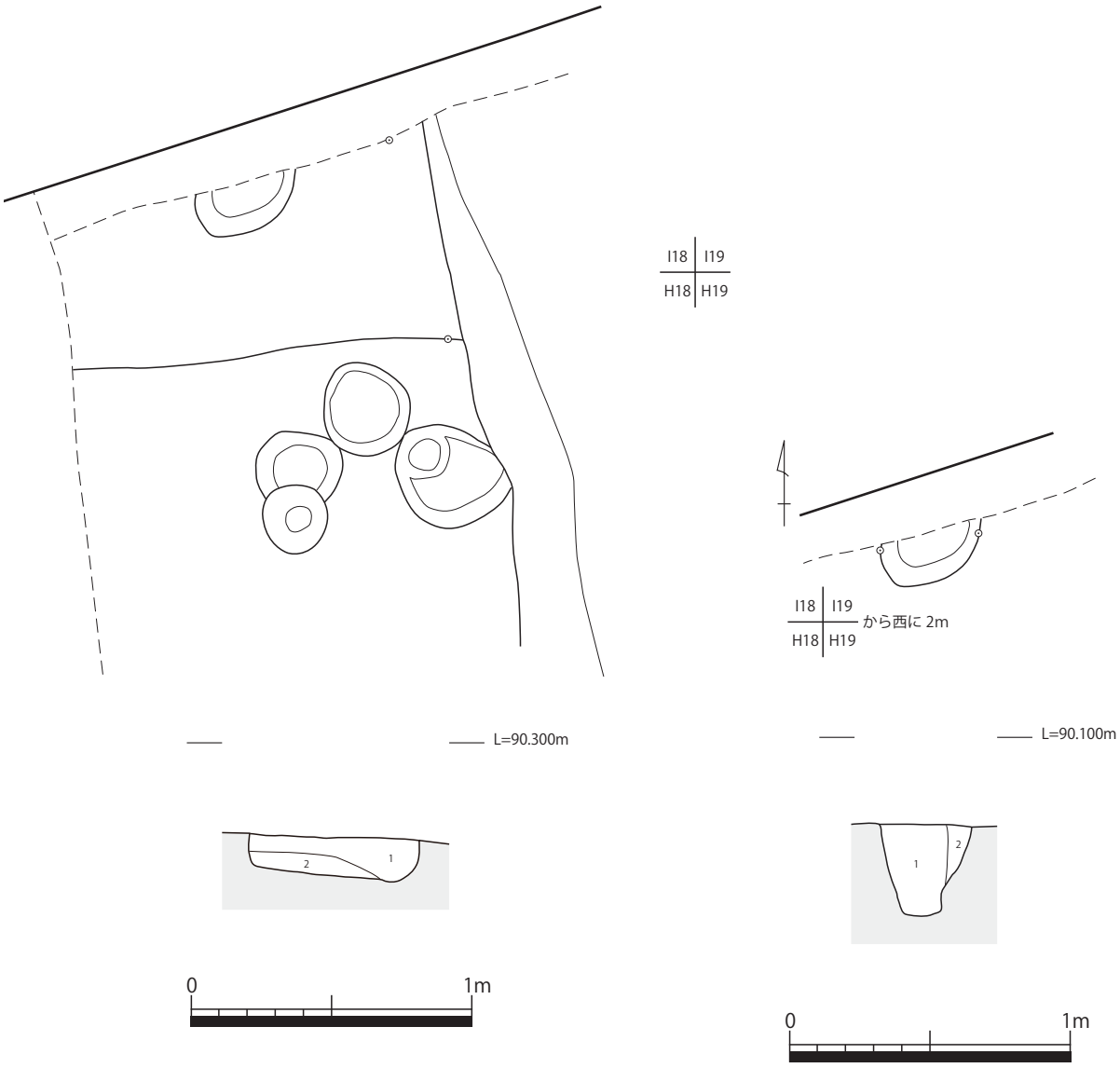
N20 N1
M20 M1
N1 N2
M1 M2
M20 M1
L20 L1
M1 M2
L1 L2
0
1
2m



第 238 図　3 号性格不明遺構　遺構図 (2)



第 239 図　4 号性格不明遺構　遺構図



第 240 図　5 号性格不明遺構　遺構図

(5) 集石遺構 (SU)

1 号集石遺構 (SU1001 ／旧 A 区 SU1001)

位置　旧 A 区 P18,Q18

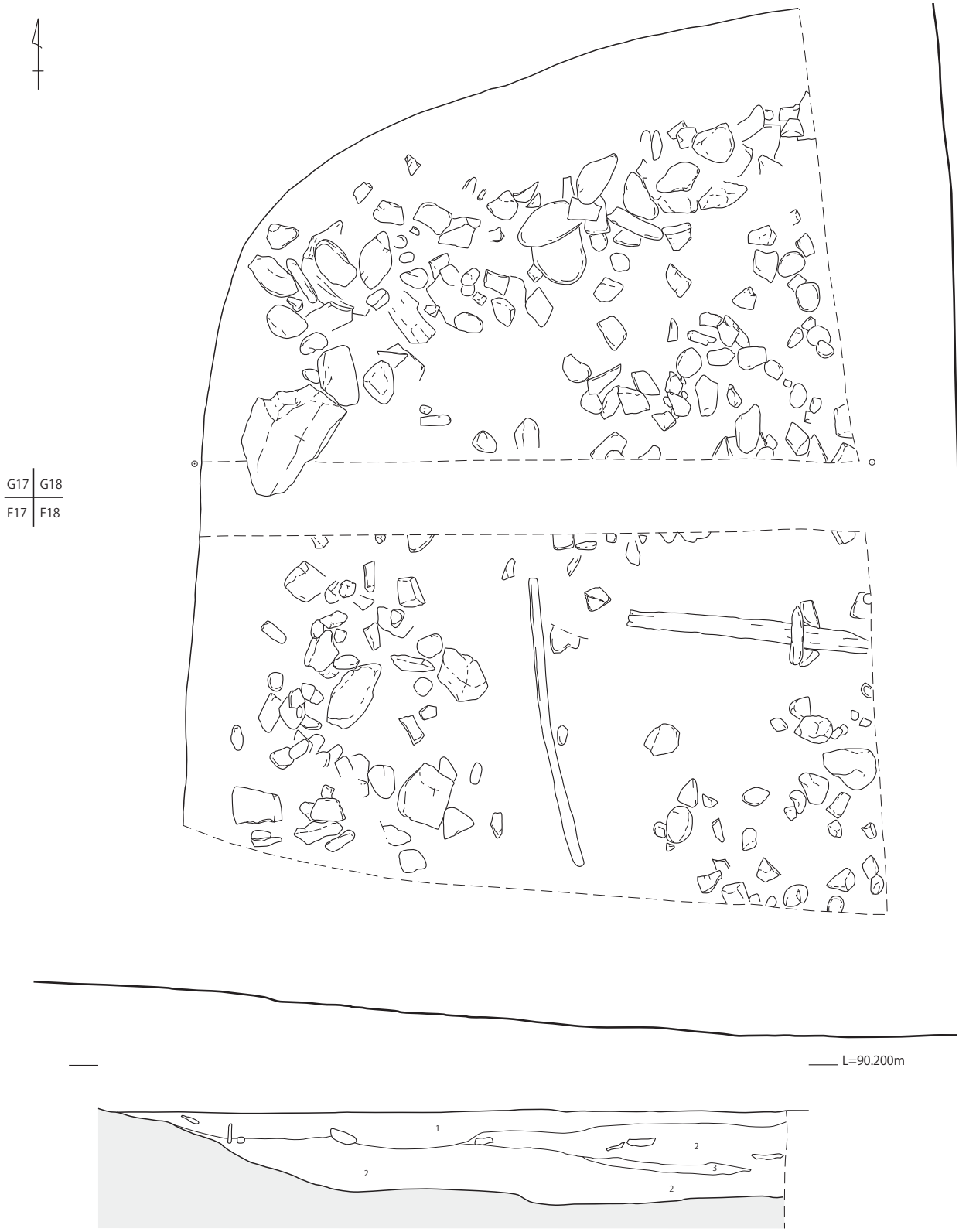
構造・規模　平面形態は不整形を、断面形態は二段形を呈する落ち込みを利用した集石遺構である。長軸長 6.8m、残存短軸長 0.55m、深度 0.60m、主軸方位は N-20° -E を測る。

土層　上層は灰オリーブ色砂質土、中層は暗オリーブ色砂質土や灰オリーブ色シルト、下層はオリーブ褐色シルトである。

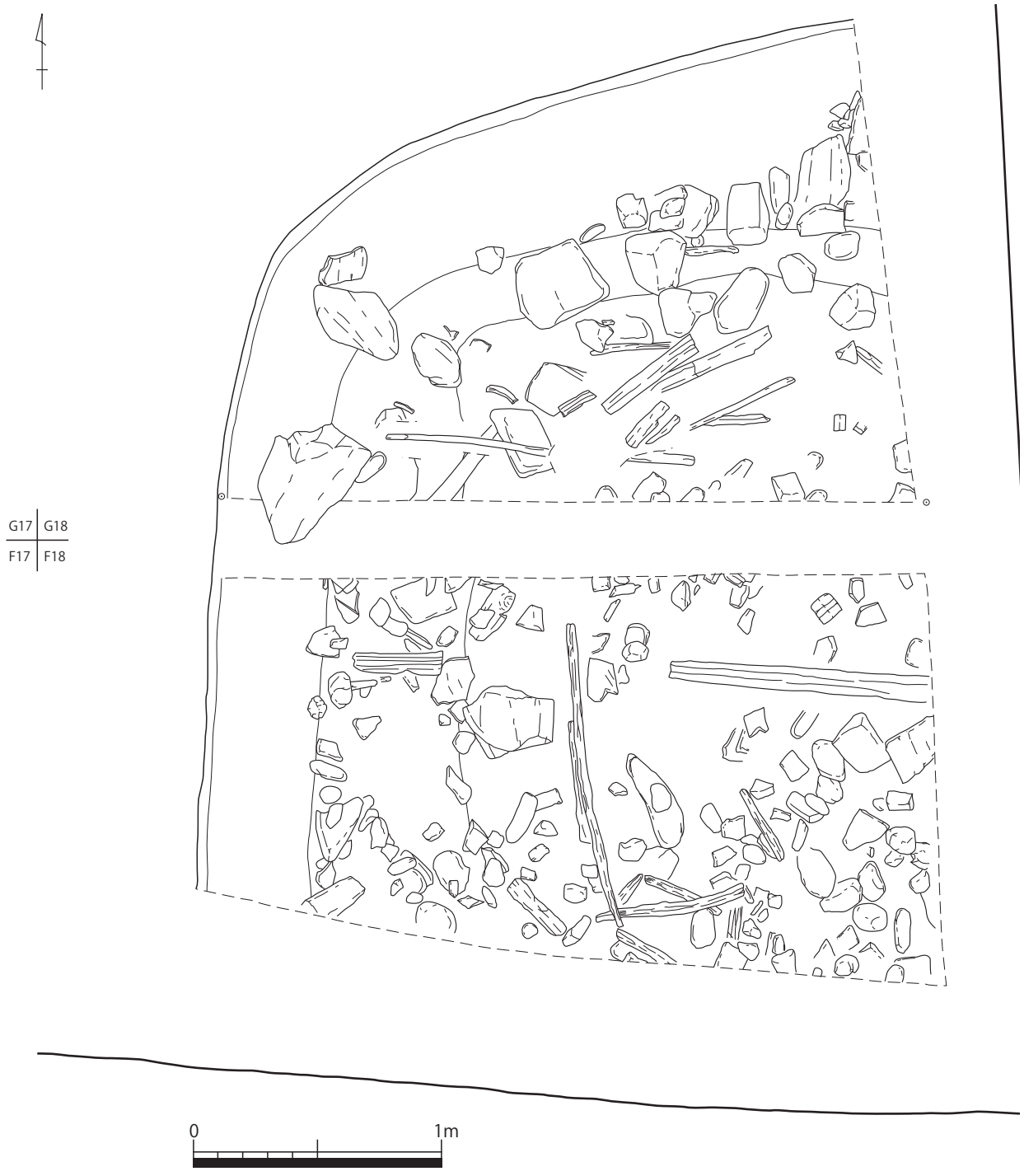
遺物出土状況　下層より土師質土器煮沸具や平瓦・丸瓦、結晶片岩割石が出土。

時期　室町期である。

備考　壁建物の基礎もしくは近世初頭の暗渠の可能性もある。



第 241 図　6 号性格不明遺構　遺構図 (1)



第 242 図　6 号性格不明遺構　遺構図 (2)

2 号集石遺構 (SU1002 ／旧 B 区 SU1001)

位置　旧 B 区 O1,P1

構造・規模　平面形態は不整長方形を、断面形態は不整形を呈する落ち込み状遺構を利用した集石遺構である。長軸長 3.65m、短軸長 1.87m、比高差 1.15m、主軸方位 N-75° -E を測る。

土層　地山岩盤上に平坦面を造成するために川原石を充填するために，埋め土は利用していない。

写真 12　6 号性格不明遺構

写真 13　6 号性格不明遺構

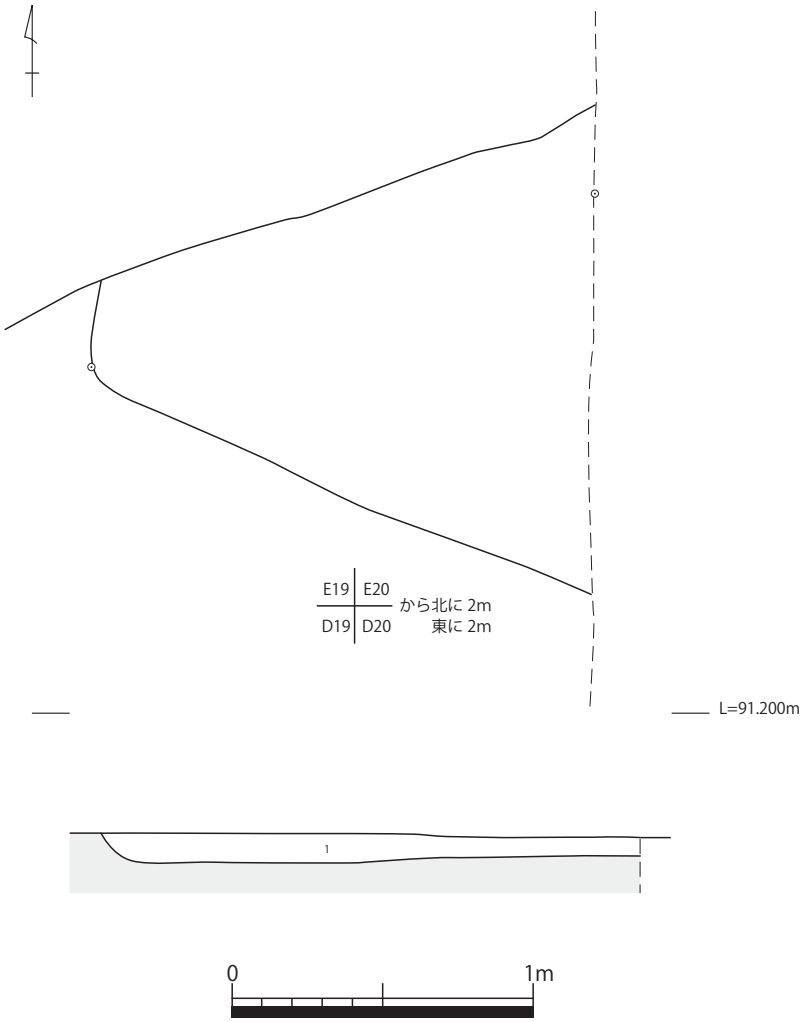
遺物出土状況　集石間より土師質杯底部、近世陶器徳利、焙烙、片岩礫、平瓦が出土。
時期　近世期である。
備考　近世期の平坦面造成の債に土師質土器杯片等が混入したと推定される。

(6) 性格不明遺構 (SX)

3 号性格不明遺構 (SX1003 ／旧 C 区 SX1003)
位置　旧 C 区 L1,20M1,2,20 N1,2,20
構造・規模　平面形態は不整楕円形を、断面形態は二段形を呈する性格不明遺構である。長軸長 14.8m、短軸長 6.0m、深度 0.47m を測る。
土層　上層は灰黄褐色粘質土、中層は暗灰黄色シルト、下層はオリーブ褐色シルトである。
遺物出土状況　弥生土器・甕・壺、土師質土器・供膳具、近世陶器碗・擂鉢・磁器・瓦、サヌカイト剥片、片岩礫、焼土塊が上層中より出土。
時期　近世期である。
備考　近世期の整地層もしくは自然地形を利用した廃棄土坑の可能性がある。

5 号性格不明遺構 (SX1005 ／旧 C 区 SX1001)
位置　旧 C 区 H18,I18
構造・規模　平面形態は不整長方形を、断面形態は皿形を呈する性格不明遺構である。長軸長 1.54m、短軸長 0.7m、深度 0.17m を測る。
土層　上層は黄灰色シルト、下層はオリーブ褐色シルトである。
遺物出土状況　1 層中より中世青磁皿、近世陶器・碗・皿・瓶、磁器碗・皿・猪口、土師質焙烙が出土。
時期　近世期。
備考　弥生土器甕 21 は吉野川下流域からの搬入品と推定される。近世期の池状遺構もしくは廃棄土坑と推定され、弥生土器は混入したと推定される。

6 号性格不明遺構 (SX1006 ／旧 B 区 SX1001)
位置　旧 B 区 F18,G18。
構造･規模　平面形態は長方形を、断面形態は舟底形を呈する性格不明遺構である。残存長軸長 4.22m、



第 243 図　7 号性格不明遺構　遺構図

短軸長 3.06m、深度 0.4m、主軸方位は N-2° -W を測る。

土層　灰黄褐色粘質土である。

遺物出土状況　中世青磁皿、近世平瓦・丸瓦、近世陶器碗・皿、近世染付磁器猪口・皿、焙烙、備前焼甕が各層から出土した。

時期　近世期である。

7 号性格不明遺構 (SX1007/ 旧 C 区 SK1006)

位置　旧 C 区 E20

構造・規模　平面形態は不整長方形、断面形態はっ皿形を呈する性格不明遺構である。長軸長 1.76m、残存短軸長 1.51m、深度 0.1m、主軸方位は N-70° -E を測る。

土層　黄褐色砂質土である。

時期　近世期と推定される。

噴砂痕

旧 A 区南東隅 P17 グリッド調査区壁面において噴砂が確認された。

当該地域で記録に残る南海地震や関連地震は下記である。

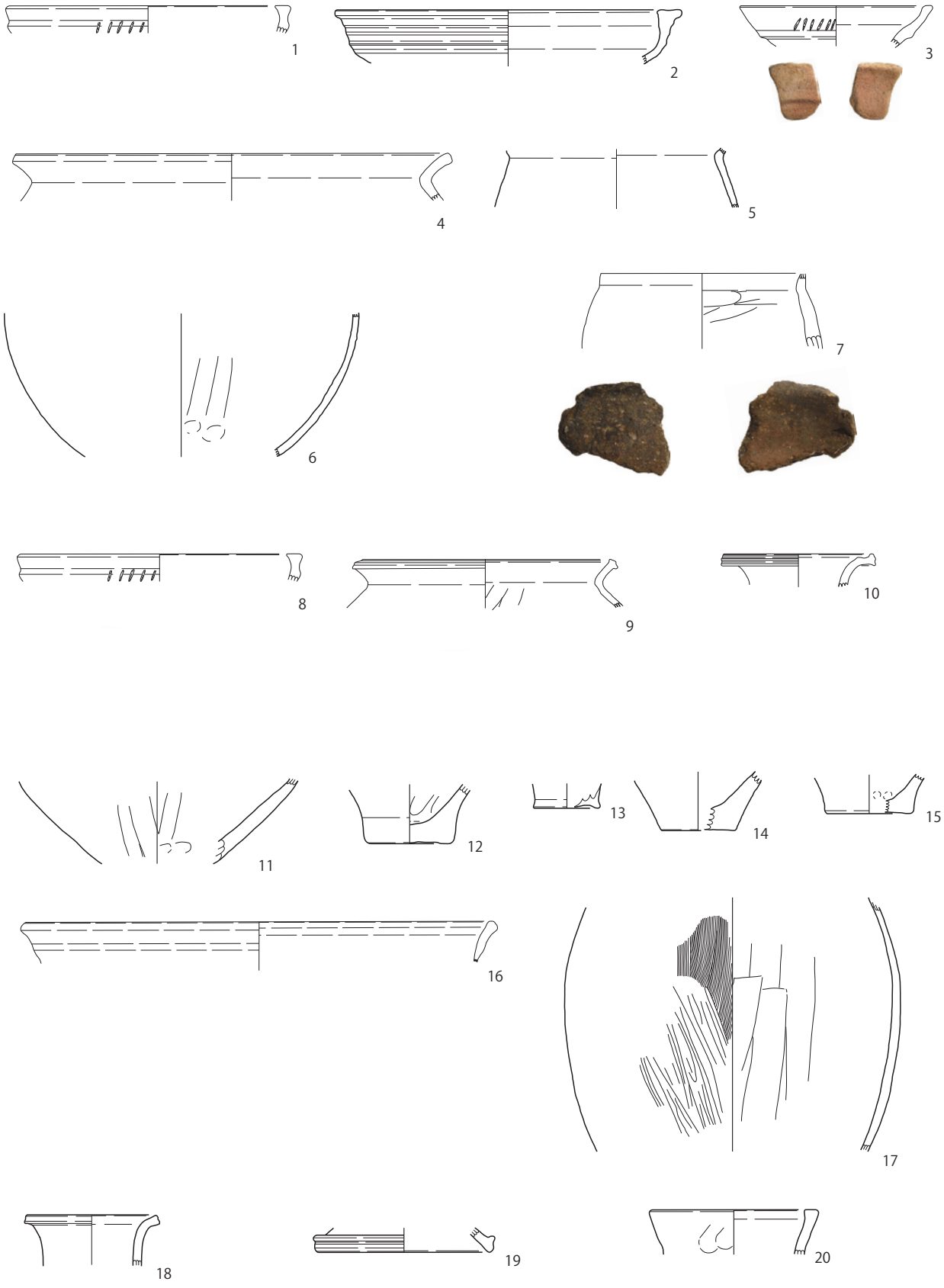
写真 14　噴砂検出状況

684 年 11 月 26 日（天武 13 年 10 月 14 日）白鳳地震。M8 1/4
887 年 8 月 22 日（仁和 3 年 7 月 30 日）仁和地震。M8.0 － 8.5
1361 年 7 月 26 日（正平 16 年 6 月 24 日）正平地震。M8　1/4 － 8.5
1605 年 2 月 3 日（慶長 9 年 12 月 16 日）慶長地震。M7.9 － 8
1707 年 10 月 28 日（宝永 4 年 10 月 4 日）宝永地震。M8.6
1854 年 12 月 24 日（嘉永 7 年 11 月 5 日）安政南海地震。M8.4
1946 年 12 月 21 日　昭和南海地震。M8.0

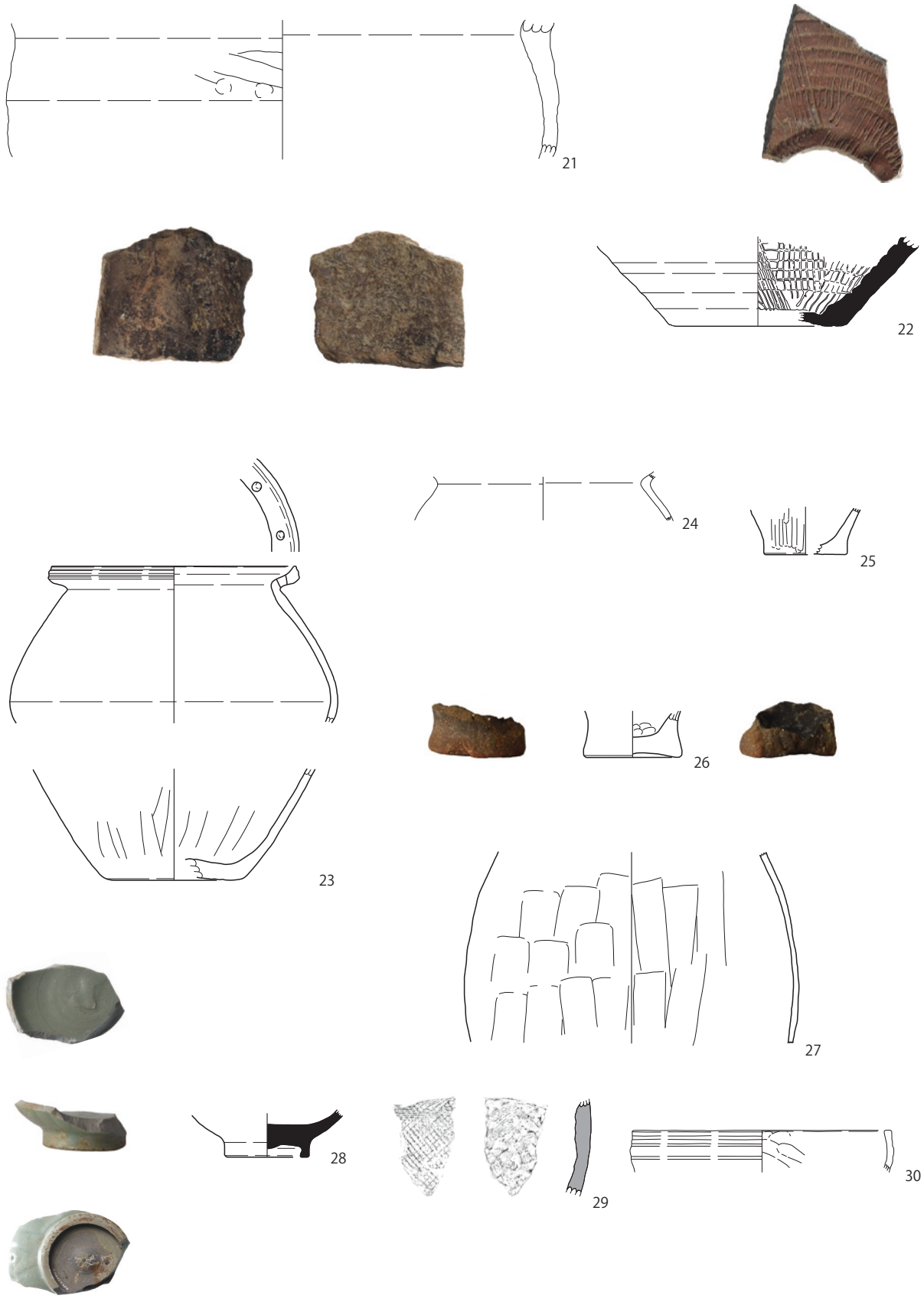
中世遺構検出面と近世遺構検出面が同一であり、同遺構面上で噴砂の広がりが確認された。一方、同遺構面を覆う包含層中にも噴砂の陥入が認められる。遺構検出面上の噴砂は、包含層内へ噴出した砂層が、土層間で左右横方向へ陥入したと推定される。よって、1854 年安政南海地震もしくは 1946 昭和南海地震に伴う噴砂と推定される。

(7) 出土遺物

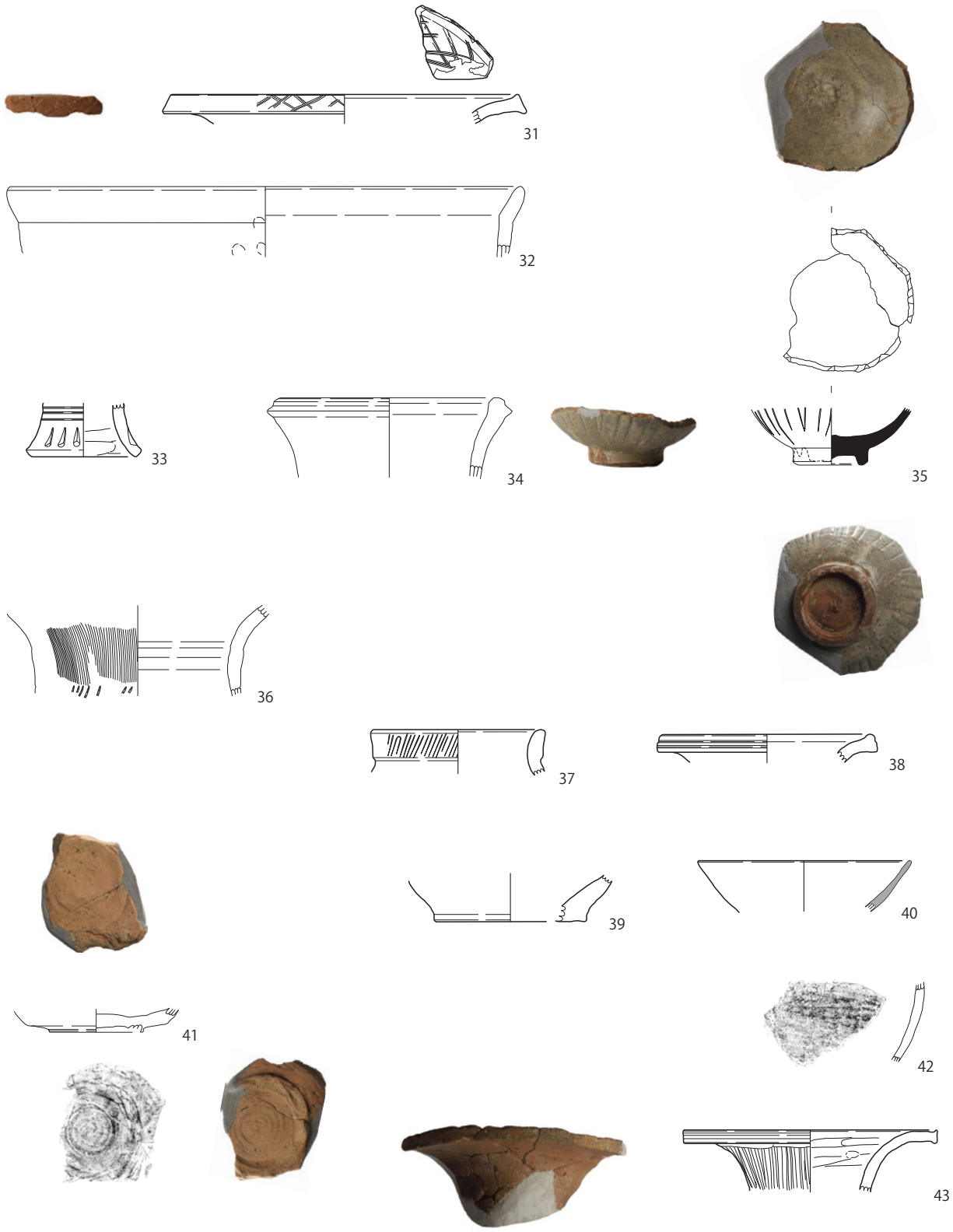
1 は弥生土器鉢で、讃岐地域からの搬入品である。3 は弥生土器甕で、土佐地域からの搬入品の可能性がある。4 は弥生甕で、胎土中に結晶片岩粒を含まず、他地域からの搬入品と推定される。5,7 は弥生土器甕で、胎土中に花崗岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。9 は弥生土器甕で、鮎喰川流域からの搬入品もしくは模倣品の可能性がある。10 は弥生土器壺で、胎土中に結晶片岩粒を含まず、他地域からの搬入品の可能性がある。12 は弥生土器壺で、2 次焼成による被熱赤変が観察される。13



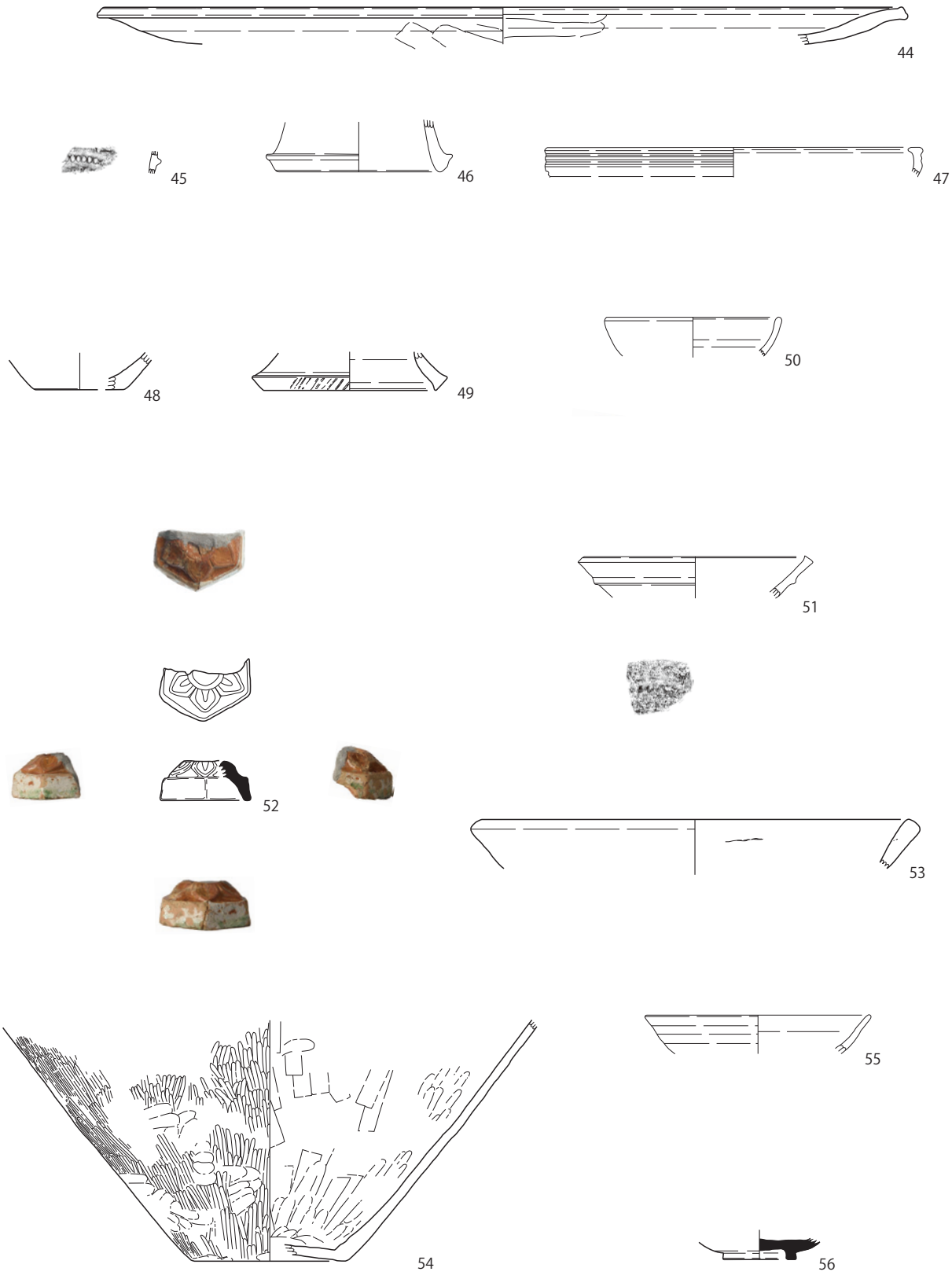
第 244 図　出土遺物図 (1)



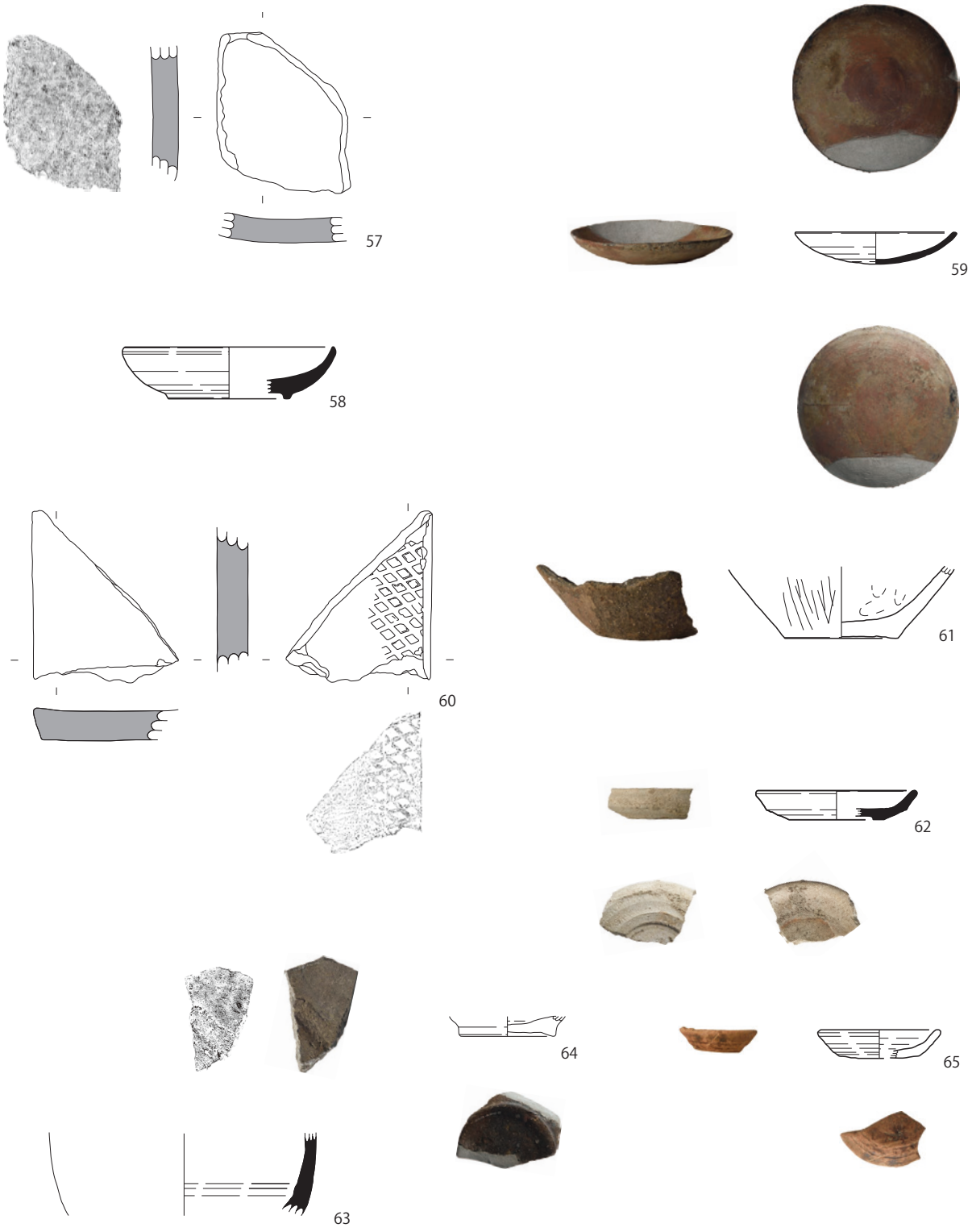
第 245 図　出土遺物図 (2)



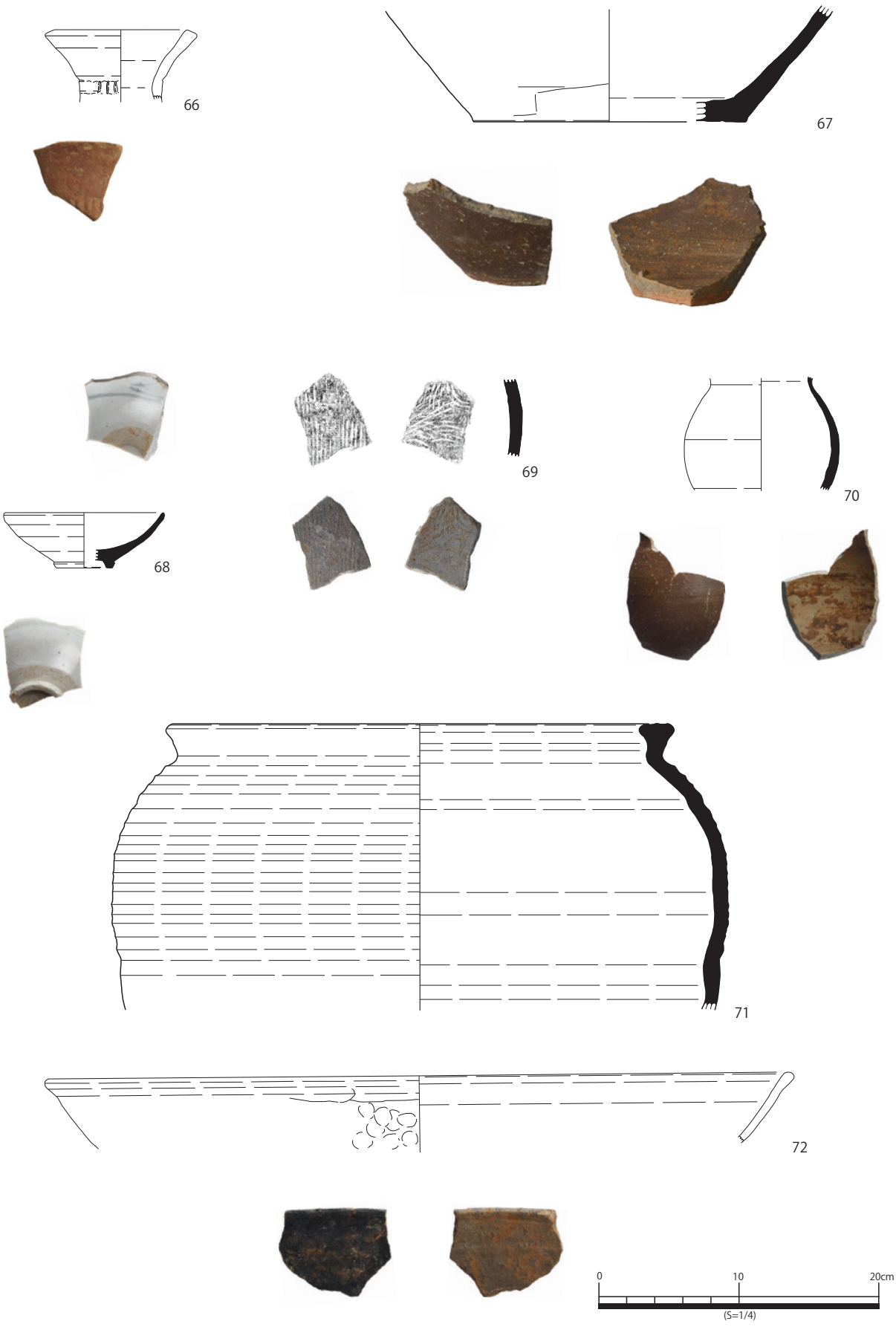
第 246 図　出土遺物図 (3)



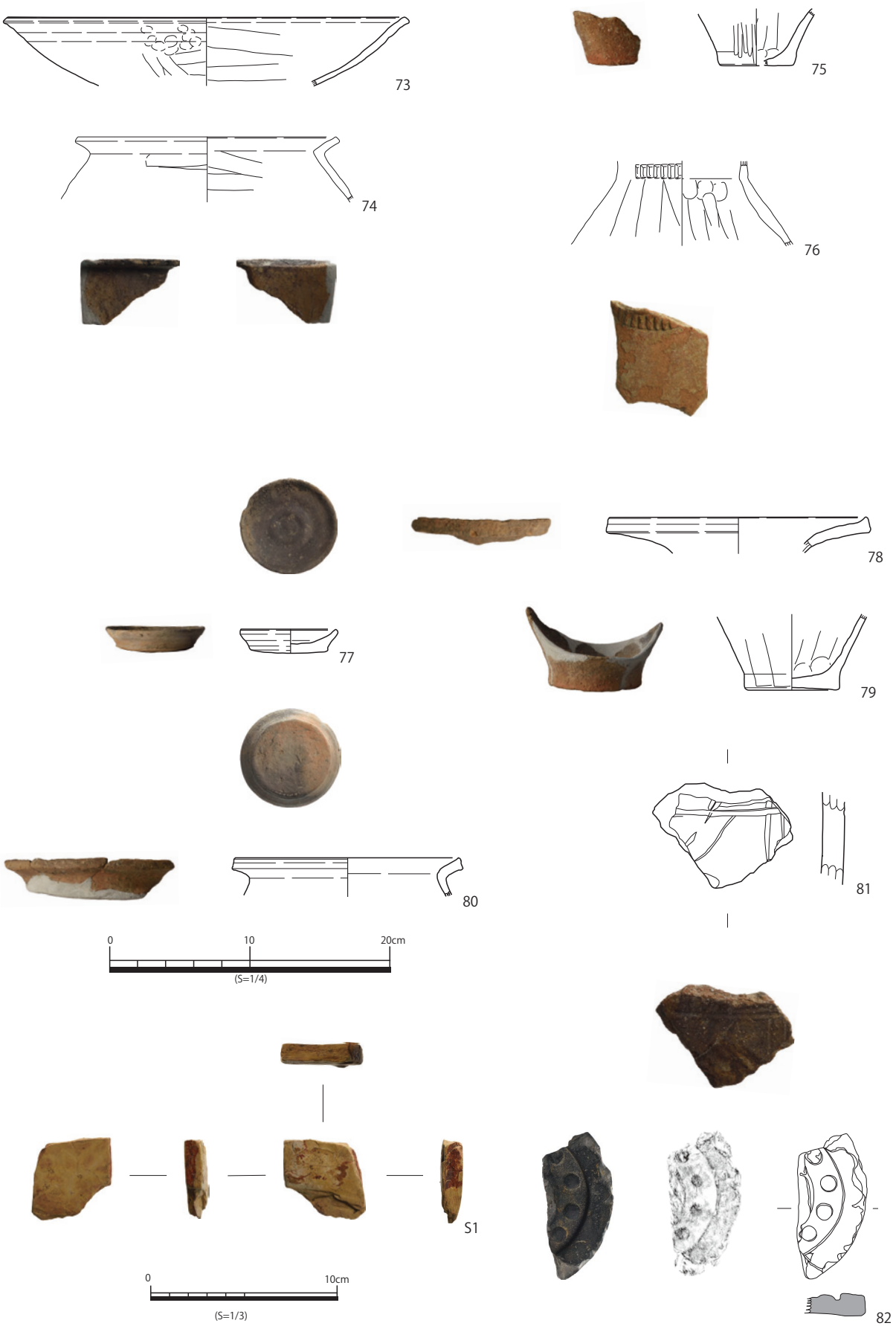
第 247 図　出土遺物図 (4)



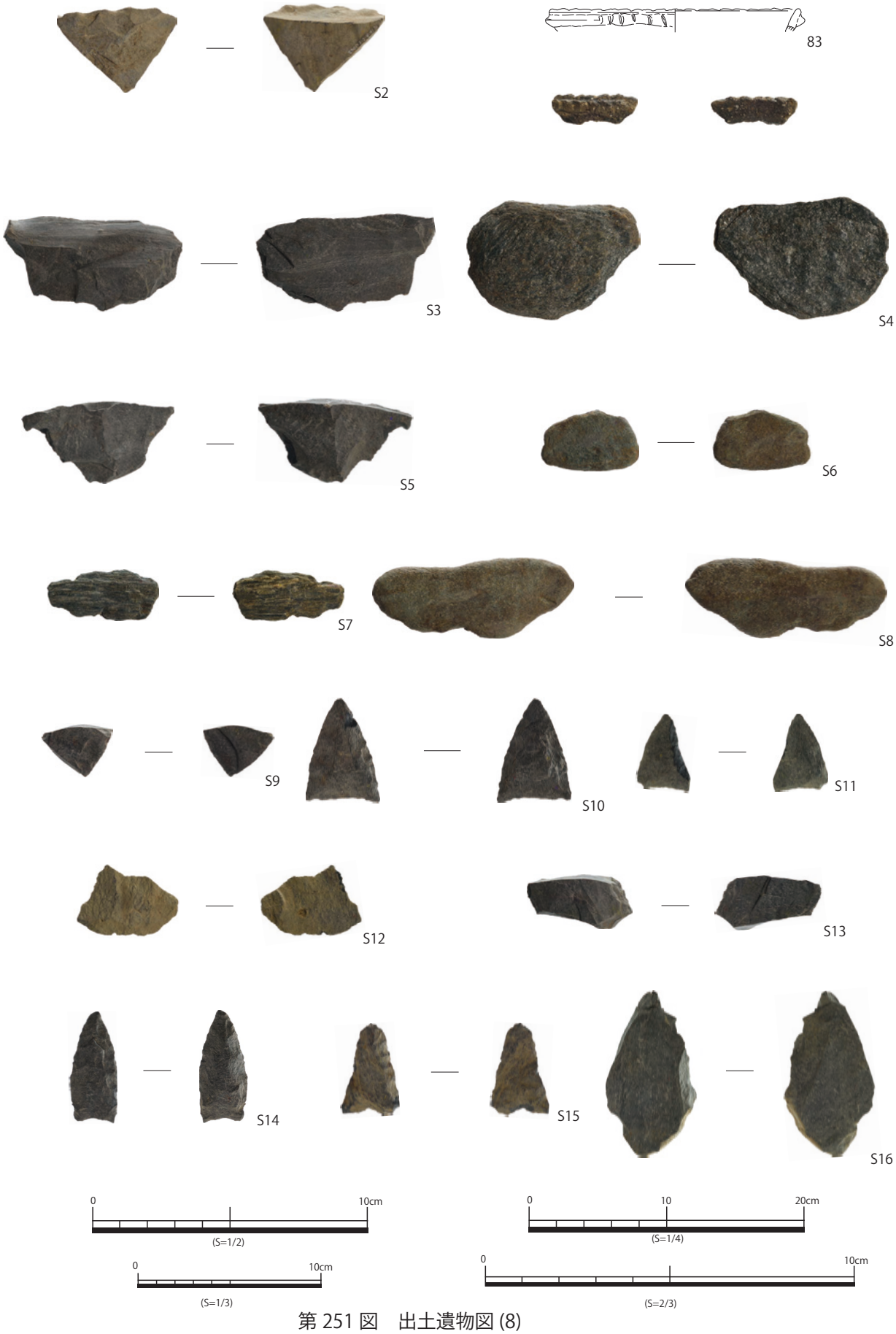
第 248 図　出土遺物図 (5)



第 249 図　出土遺物図 (6)



第 250 図　出土遺物図 (7)



第 251 図　出土遺物図 (8)

第 252 図　出土遺物図 (9)

第 253 図　出土遺物図 (10)

第 254 図　出土遺物図 (11)

は弥生土器甕で、胎土中に砂岩粒を含み、他地域からの搬入品の可能性がある。17 は弥生土器甕で、鮎喰川流域からの搬入品である。18 弥生土器壺と 19 土師器高杯は、鮎喰川流域からの搬入品である。20 は弥生土器壺で、胎土中に花崗岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。2 次焼成による被熱赤変が観察される。23 は弥生土器壺で、胎土中に結晶片岩粒を含むことから、香東川流域産土器を模倣した在地土器である。24 は弥生土器甕で、讃岐地域から搬入された香東川流域産模倣の一群である。25,26 は弥生土器甕で、胎土中に砂岩粒を含み讃岐地域からの搬入品である。27 は弥生土器甕で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。33 は弥生土器高杯で、胎土中に砂岩粒を含み、東予地域から搬入された可能性がある。37 は弥生土器壺で、胎土中に金雲母等を含み讃岐地域からの搬入品である。39 は弥生土器壺で、焼成時破裂痕が残る。43 は弥生土器壺で、鮎喰川流域からの搬入品である。49 は弥生土器高杯で、胎土中に金雲母等を含み讃岐地域からの搬入品である。

第 246 図　出土遺物図 (12)

54 は弥生土器甕で、形態は鮎喰川流域産であるが、器壁が厚く、在地産と推定される。土井遺跡より類似品が出土している。61 は弥生土器壺で、胎土中に花崗岩粒を含み他地域からの搬入品の可能性がある。74 は弥生土器甕で、胎土中に結晶片岩粒を含まず他地域からの搬入品の可能性がある。75 は弥生土器甕で、胎土中に花崗岩粒を含み讃岐地域からの搬入品の可能性がある。78 弥生土器壺、79,80 弥生土器甕は、鮎喰川流域からの搬入品である。

16 は土師質土器鍋で、胎土中に砂岩粒を含み、他地域からの搬入品の可能性がある。

35 は陶器椀で、体部打ち欠きである。56 は磁器碗で、体部に打ち欠きを施す。59 は陶器皿で、内面に煤が付着しており灯明皿として使用している。70 は陶器壺で、内面に鉄さびが付着することから、鉄の内容物が入れられていたと推定される。

3まとめ

今回の発掘調査では、沖積地と段丘上という地形が異なる地点の発掘調査が行われ、沖積地からは弥生時代と中世の遺構・遺物が、段丘上からは中世と近世の遺構・遺物が確認された。

縄文時代晩期の土器が出土したが、同期に属する遺構は未検出である。吉野川を挟んだ対岸の大柿遺跡が展開する中洲性微高地上では後期後半打製石鏃の埋納等遺構密度が濃い事から、中心となる集落域は大柿遺跡であり、佃遺跡は活動領域の一部であったと位置づけれる。

弥生時代後期～終末期、佃遺跡においても竪穴住居等は未検出であるが、集落関連遺構が確認される。特に、讃岐系の土器が搬入されている事は注目すべきである。当該期、大柿遺跡では水田域が拡大に連れて、北岸段丘面上と微高地上に集落域が拡充する。佃遺跡の微高地域における遺構の構築は、大柿遺跡の拡充に連動するものであり、同時に他地域との交流も活発になったことが伺える。

室町時代には、小規模な集落が展開する。しかし、大規模集落は吉野川北岸の大柿遺跡や土井遺跡に展開する。また居館も円通寺遺跡に展開するなど、当該期の開発は吉野川北岸が中心となる。これは、段丘面を含む平野が地質条件として吉野川北岸に発達することに起因する。但し、南岸山間部の開発や東側平野部 (東みよし町三加茂加茂谷川水系～上流側平野部)、西側平野部 (三好市池田町段丘) の開発が進展するにつれて、吉野川最狭部 (美濃田の淵) の交通要所としての機能が重視されることにより集落形成が進んだと推定される。

江戸時代には、伊予街道の整備と共に、街道沿いの段丘上に集落が形成された。特に江戸後期以降は居住域が拡大するが適正な居住域が狭いことから、四国山地が吉野川へ落ち込む岩盤が露呈する崖面に土盛りしたのち石垣を構築する一方で岩盤を削平し、屋敷地を設けるなど土地開発が進められた。

写真 15　A 区完掘状況

写真 16　B 区完掘状況

写真 17　B 区完掘状況

写真 18　C 区完掘状況

写真 19　C 区完掘状況

写真 20　B 区岩盤加工痕

写真 21　B 区岩盤加工痕

写真 22　B 区岩盤加工痕

表6　溝状遺構一覧表

掲載遺構番号	旧調査区	旧遺構番号	小グリッド	平面形態	断面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深度(m)	主軸方位	実測遺物番号	未掲載出土遺物
SD1001	A	SD1001	P16,17,18,Q16,17,18	不整形	皿形	7.07	0.87	0.08	N-35°-E		
SD1001	B	SD1001	M20,N20,N1	不整形	丸形	8.68	0.72	0.08	N-78°-E		弥生土器・甕、土師質供膳具、焼土、砂岩礫
SD1002	B	SD1002	N19,O19	不整形	逆台形	4.46	0.82	0.08	N-34°-E		弥生土器、中世土師質杯、片岩礫、石英礫
SD1005	C	SD1001	E19,20F20	不整楕円形		(4.68)	1.5			81,144	鉄滓か鉄製品、結晶片岩・砂岩小礫
SD1004	C	SD1002	F19,20	不整楕円形		(3.28)	0.53				
SD1004	C	SD1002									土師質土器、弥生土器、片岩礫、土塊か

表7　土坑一覧表

掲載遺構番号	旧調査区	旧遺構番号	小グリッド	平面形態	断面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深度(m)	主軸方位	備考	実測遺物番号	遺物掲載番号	未掲載出土遺物
SK1005	B	SK1021	P1	方形	長方形	0.73	(0.62)	0.1	N-18°-W		168		
SK1007	B	SK1023	O19,P19	長方形	皿形	1.82	(0.65)	0.15	N-65°-E	石まで	130,131,132,133		弥生土器、片岩礫
SK1013	C	SK1003	N1,20	楕円形	逆台形	0.64	0.53	0.13	N-47°-E	SX1003 内	71		土師質土器鍋か
SK1015	B	SK1014	N1	不整形	皿形	0.77	(0.62)	0.09	N-26°-W	石まで	165		弥生土器、中世土師質土器・皿
SK1016	B	SK1013	N20,N1	長方形	皿形	1.83	1.03	0.09	N-82°-E		138		弥生土器・甕、土師質供膳具
SK1018	B	SX1002	N20	長方形	二段形	1.88	1.8	0.28	N-5°-W		146		弥生土器・甕、土師質土器、近世丸瓦、磁器、炭化物
SK1020	B	SK1025	N18,19	長方形	丸底形	0.9	0.84	0.28	N-58°-E		142		弥生土器・甕、中世土師質供膳具・鍋、焼土塊
SK1025	B	SK1008	M19	楕円形	皿形	0.98	(0.80)	0.16	N-51°-W	SP116 切	139,141,162,163,140		弥生土器・甕、サヌカイト剥片、炭化物
SK1026	B	SK1022	M18	楕円形	楕円形	0.95	0.51	0.08	N-20°-W		170,186		弥生土器・甕
SK1027	B	SK1028	M18	不整楕円形	二段形	1.29	1.16	0.27	N-57°-E		136		弥生土器・甕、片岩礫
SK1032	B	SK1030	L17,18	不整楕円形	皿形	1.62	(1.08)	0.06	N-69°-E		166,134,135,169,193		弥生土器・甕、サヌカイト剥片・片岩礫
SK1041	B	SK1005	J17	長方形	皿形	1.00	0.95	0.11	N-74°-W		143,137		中世土師質供膳具、瓦質土器、近代磁器碗
SK1042	B	SK1004	I17,J17	不整円形	皿形	(1.02)	1.09	0.08	N-13°-W	SK1005 切	164		
SK1043	B	SK1007	J17	不整楕円形	皿形	1.3	1.11	0.15	N-86°-E		189,167		
SK1045	C	SK1009	I20	楕円形	皿形	(2.96)	1.77	0.19	N-27°-E	切（側溝）	198,199,78,70		弥生土器・甕、石英・片岩・砂岩自然礫、近代白磁碗
SK1055	C	SK1002	D20	長方形	皿形	1.57	0.89	0.12	N-9°-E		79		焼土、砂岩・片岩自然礫

表8　小穴一覧表

掲載遺構番号	旧調査区	旧遺構番号	小グリッド	平面形態	断面形態	長軸長(m)	短軸長(m)	深度(m)	実測遺物番号	遺物掲載番号	未掲載出土遺物
SP1026	B	SP1159	P1	楕円形	二段形	0.37	0.3	0.13	122		近世白磁供膳具、土師質土器
SP1030	B	SP1147	O1,20	楕円形	皿形	0.5	0.39	0.05	156		弥生土器・甕、瓦器、近世～近代陶器、焼土
SP1087	B	SP1114	M19	方形	逆台形	0.46	0.41	0.1	161		弥生土器・甕
SP1104	B	SP1188	M18	方形	逆台形	0.32	0.27	0.13	123		弥生土器・甕、サヌカイト剥片
SP1116	C	SP1172	L19	円形	二段形	0.3	0.3	0.36	85		弥生土器・甕
SP1125	B	SP1198	L18	楕円形	逆台形	0.51	0.42	0.11	191		弥生土器
SP1150	B	SP1228	L18	楕円形	二段形	(0.36)	0.28	0.21	124		土塊（被熱痕なし）
SP1165	B	SP1235	L18	円形	皿形	0.3	0.28	0.03	118		焼土
SP1168	B	SP1256	L17	円形	長方形	0.2	0.19	0.2	117		弥生土器
SP1173	B	SP1250	L17	楕円形	舟底形	0.27	0.24	0.06	184,185		弥生土器・甕、片岩礫
SP1196	B	SP1108	K18	円形	逆台形	0.3	0.27	0.08	121		
SP1227	B	SP1099	J17	楕円形	丸底形	0.27	0.25	0.17	127		弥生土器、片岩礫
SP1245	C	SP1115	I20	方形	長方形	0.57	0.6	0.24	83		
SP1257	C	SP1074	H20	円形	逆台形	0.24	0.23	0.08	76		
SP1258	C	SP1080	H20	円形	舟底形	0.25	0.23	0.1	82		土器細片、炭化物
SP1341	B	SP1046	H16	楕円形	逆台形	0.4	0.26	0.25	119		弥生土器・壺・甕、土師質土器、焼土
SP1343	C	SP1060	G20,H20	円形	丸底形	0.37	0.35	0.35	89,90		弥生土器・甕・壺、片岩礫
SP1347	C	SP1052	G20	円形	丸底形	0.26	(0.24)	0.21	84		弥生土器
SP1360	C	SP1041	G20,20	円形	丸底形	0.32	0.31	0.14	86		
SP1383	B	SP1010	G18	円形	丸底形	0.26	(0.22)	0.06	159		土師質煮炊具
SP1405	B	SP1005	G16	方形	丸底形	0.21	0.20	0.19	160,187		弥生土器、土師質土器・供膳具、鉄滓か、サヌカイト剥片
SP1406	B	SP1003	G16	円形	長方形	0.23	0.21	0.19	120		
SP1424	C	SP1022	E20	不整円形	舟底形	0.42	0.39	0.15	53		弥生土器・甕、石英・片岩・砂岩自然礫

表9　掲載遺物観察表

掲載番号	実測番号	旧区	旧遺構	種別	器種	全長	最大幅	最大厚
W1	194	B	SX1001	木製品	柄杓	8.9（高さ）	17.4	0.5
W2	195	B	SX1001	木器	―	44.55	6.9	0.8
W3	196	B	SX1001	木器	不明	26.3	2.7	1.5
W4	197	B	SX1001	木器	不明	26.8	2.8	1.65

掲載番号	実測番号	出土遺構	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
1	1	SX1003	C	SX1003	弥生	鉢	口：(23.6)	0.1～4.0	やや粗	並	石長雲砂花	外：5YR5/6（明赤褐） 内：5YR6/8（橙）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	サヌキからの搬入品
2	10	SX1003	C	SX1003	弥生	鉢	口：(19.4)	0.1～5.0	粗	並	石長雲赤	外：10YR6/4（にぶい黄橙） 内：2.5YR6/8（橙）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	
3	6	SX1003	C	SX1003	弥生	壺	口：(13.3)	0.1～1.0	やや粗	やや不	石長雲赤	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：5YR7/6（橙）	口縁：ヨコナデ→ヘラ工具刻目	口縁：ヨコナデ	搬入品？　（土佐系？）
4	3	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	口：(29.9) 頸：(27.7)	0.1～2.5	粗	やや不	石長雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	搬入品
5	4	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	頸：(14.8)	0.1～3.0	粗	並	石長雲赤砂花	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：7.5YR6/6（橙）	体部：マメツ不明	体部：マメツ不明	搬入品？　外面スス付着
6	8	SX1003	C	SX1003	弥生	鉢	大：(24.6)	0.1～3.0	やや粗	やや不	石長雲赤砂	外：2.5YR/1(灰白） 内：5Y7/1（灰白）	体部：ユビナデ	体部：ユビナデ→ユビオサエ	
7	7	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	口：(14.4)	0.4～7.0	粗	並	石長チ雲花	外：5YR4/4（にぶい赤褐） 内：5YR5/4（にぶい赤褐）	体部：ハケ→ユビナデ	体部：ユビナデ	搬入品？
9	12	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	口：(17.2) 頸：(16.4)	0.4～3.0	やや粗	並	石長雲赤	外：5YR5/6（明赤褐） 内：7.5YR5/4（にぶい褐）	口縁：ヨコナデ　体部：不明	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ	東阿波のモホウ or 搬入品
10	15	SX1003	C	SX1003	弥生	壺	口：(10.3)	0.1～5.0	やや粗	並	石長雲赤	外：2.5YR5/8（明赤褐） 内：10YR6/6（明黄褐）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	搬入品？
11	16	SX1003	C	SX1003	弥生	壺	底：(7.0)	0.1～6.0	粗	やや不	石長花	外：10YR8./2（灰白） 内：2.5Y5/1（黄灰）	体部：ヘラナデ	体部：ユビナデ	
12	17	SX1003	C	SX1003	弥生	壺	底：(5.4)	0.1～2.0	やや精	やや良	結石長チ	外：2.5YR5/6（明赤褐） 内：5YR5/3（にぶい赤褐）	体部：ユビナデ　底部：静止ヘラ切り	体部：ユビナデ：　底部：ユビナデ	2 次焼成による被熱赤変。
13	18	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	底：(4.4)	0.1～4.0	やや粗	やや不	長雲砂	外：5YR5/6（明赤褐） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	底部：ユビナデ	底部：ユビナデ	搬入品？
14	19	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	底：(5.2)	0.1～2.0	やや粗	やや不	結石長雲赤砂	外：2.5YR6/8（橙） 内：5YR7/8（橙）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビオサエ	
15	20	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	底：(5.8)	0.1～4.0	やや粗	並	石長雲赤花	外：7.5YR5/6（明褐） 内：10YR4/3（にぶい黄褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビオサエ	
16	21	SX1003	C	SX1001	土師器	鍋	口：(45.8) 頸：(44.6)	0.1～5.0	やや粗	良	石長チ雲赤砂	外：5Y2/1（黒） 内：7.5YR5/3（にぶい褐）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	外面スス付着。搬入品？
17	53	SP1424	C	SP1022	弥生	甕		0.1～4.0	やや粗	並	結石長チ雲黒	外：10YR3/3（暗褐） 内：10YR3/1（黒褐）	体部：タタキ→ハケ目 10 条 /cm ＋ヘラミガキ	体部：ヘラケズリ	③ 1/10 図有。吉野川下流域からの搬入品。
18	54		C	機械掘削	弥生	壺	口：(9.0) 頸：(6.8)	0.5～3.0	やや粗	やや不	結石長雲赤	外：5YR5/6（明褐色） 内：2.5Y5/3（黄褐）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	吉野川下流域？
19	55		C	機械掘削	土師器	高坏	底：(12.0)	0.1～2.0	やや精	並	結石長雲赤	外：10YR6/4（にぶい黄橙） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	吉野川下流域？
20	56		C	機械掘削	弥生	壺	口：(11.4)	0.1～3.0	やや粗	並	石長チ雲赤花	外：10R5/6（赤） 内：2.5YR5/6（明赤褐）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビオサエ	搬入品？　2 次焼成による被熱赤変か？
21	60		C	第 1 遺構面	土師器	鍋	頸：(37.0) 大：(38.2)	0.1～3.0	やや粗	やや不	結石長雲赤	外：10YR4/1（褐灰） 内：5YR5/3（にぶい赤褐）	体部：ユビオサエ→ユビナデ	体部：不明	
22	63		C	第 1 包含層	陶器	擂鉢	底：(11.4)	0.1～1.0	やや精	良	石長雲黒	外：2.5YR5/3（にぶい赤褐） 内：2.5YR5/3（にぶい赤褐）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り	体部：擂目 (7 条 /2.5cm)　底部：擂目 (7 条 /2.5cm)	TS2
23	70	SK1045	C	SK1009	弥生	壺	口：(17.0) 頸：(14.9) 底：(8.2)	0.1～5.0	やや粗	やや不	結石長雲金雲赤黒	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR3/1（黒褐）	口縁：ヨコナデ　体部：板ナデ 底部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラケズリ　底部：ユビナデ	② 1/10 図有。下川津 B 類のモホウ。在地産。
24	67	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	頸：(18.6)	0.1～4.0	粗	並	石長雲花	外：10YR6/3（にぶい黄橙） 内：10YR7/4（にぶい黄橙）	体部：　マメツ不明	体部：　マメツ不明	サヌキからの搬入品 B 級土器のモホウ品。
25	81	SD1005	C	SD1001	弥生	甕	底：(5.5)	0.1～1.5	やや粗	やや良	石長雲砂花	外：5YR5/6（明赤褐） 内：7.5YR4/4（褐）	体部：ユビナデ→ヘラミガキ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	サヌキからの搬入品
26	74	SX1003	C	SX1003	弥生	甕	底：(6.4)	0.1～3.0	やや粗	並	結石長雲花	外：7.5YR4/1（褐灰） 内：N1.5/0（黒）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ＋ユビオサエ	⑤　内面スス付着　搬入品？
27	78	SK1045	C	SK1009	弥生	甕	大：(23.0)	0.1～1.0	やや精	やや良	石長チ雲	外：7.5YR3/3（暗褐） 内：10YR2/3（黒褐）	体部：タタキ→イタナデ	体部：ヘラケズリ	搬入品？　1- 下面　1/10 図有り
28	71	SK1013	C	SK1003	磁器	碗	底：(5.6)		精	堅		外：10YG6.5/3s（グレイみの黄緑） 内：10YG6.5/3s（グレイみの黄緑）	体部：回転ナデ→施釉　底部：削り出し高台→施釉	体部：回転ナデ→施釉　底部：回転ナデ→施釉	双魚文　⑬　S=1/20 図あり
29	83	SP1245	C	SP1115	瓦質土器	甕		0.1～1.5	やや精	やや不	石長雲	外：N4/0（灰） 内：N5/0（灰）	体部：格子タタキ→カキ目（5 条 /0.8cm）	体部：イタナデ→ユビオサエ	
30	123	SP1104	B	SP1188	弥生	鉢	高：(2.9) 口：(17.7)	0.1～1.5	粗	不良	石長雲	外：5YR6/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	口縁：ユビナデ　体部：ナデ→凹線 3 条（1.5～3.0）	口縁：ユビナデ　体部：　ユビナデ	
31	125		B	第 1 遺構面	弥生	壺	高：(2.0) 口：(23.5)	0.1～3.0	やや粗	やや不	石長雲赤	外：7.5YR6/4（にぶい橙） 内：7.5YR4/4（褐）	口縁：ヨコナデ→ヘラ描文	口縁：ヨコナデ→ヘラ描文	TS5
32	126		B	第 1 遺構面	土師器	鍋	口：(34.8) 頸：(33.6)	0.1～3.0	やや精	良	石長チ雲赤花	外：5YR1.7/1（黒） 内：2.5YR4/4（にぶい赤褐）	口縁：ユビナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：不明	TS7　外面スス付着
33	101		B	第 1 面精査	弥生	高坏	底：(7.0)	0.1～1.5	やや粗	並	石長雲砂	外：10YR7/4（にぶい黄橙） 内：10YR4/1（褐灰）	体部：ユビナデ→矢羽スカシ	体部：ユビナデ	東予？からの搬入品
34	103		B	第 1 包人力	弥生	壺	口：(21.0)	0.2～3.0	やや粗	やや不	石長チ雲赤	外：5YR6/8（橙） 内：2.5YR5/6（明赤褐）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	
35	128		B	第 1 遺構面	陶器	碗	底：(4.4)	0.1	やや精	堅	雲	外：10YG6.5/3s（きみどり） 内：8Y7.5/3s（き）	体部：回転ナデ→ヘラ描蓮弁紋→施釉　底部：削り出し高台	体部：回転ナデ→施釉　底部：回転ナデ→施釉	体部打ち欠き。2 1/20 図有り
36	104		B	第 1 包含層人力	弥生	壺	頸：(14.0)	0.1～1.0	やや精	やや良	石長雲赤	外：7.5YR4/3（褐） 内：10YR4/2（灰黄褐）	頸部：ハケ目 7 条 /cm	頸部：ユビナデ	在地ではなさそう？
37	114		B	第 1 包人力	弥生	壺	口：(11.4) 頸：(11.2)	0.1～3.0	粗	やや良	石長雲金雲黒花	外：5YR5/6（明赤褐） 内：5YR6/8（橙）	口縁：ヨコナデ→ヘラ斜文　体部：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	サヌキからの搬入品
38	113		B	第 1 包人力	弥生	壺	口：(14.0)	0.1～2.5	粗	並	石長雲赤砂黒	外：7.5YR5/6（明褐） 内：7.5YR5/8（明褐）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	
39	115		B	第 1 包人力	弥生	壺	底：(10.2)	0.1～4.0	やや粗	並	結石長チ雲赤	外：5YR6/4（にぶい橙） 内：2.5Y4/1（黄灰）	底部：イタナデ	底部：ユビナデ	外面、焼成時破レツ痕あり、2 次焼成による被熱赤変あり。
40	119	SP1341	B	SP1046	瓦器	椀	口：(14.4)	0.3～1.0	やや精	やや不	雲黒	外：2.5Y6/3（にぶい黄） 内：2.5Y6/2（灰黄）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
41	106		B	第 1 包人力	土師器	高台付杯	底：(6.4)	0.5～2.0	やや精	やや良	石チ雲赤	外：7.5YR7/6（橙） 内：7.5YR8/6（浅黄橙）	体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り→貼付高台	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ→ユビナデ	
42	116		B	第 1 包人力	縄文	深鉢		0.5～3.0	やや精	並	結石雲	外：10YR7/2（にぶい黄橙） 内：2.5Y3/1（黒褐）	体部：棒状工具ナデ	体部：ユビナデ	
43	129		B	第 1 遺構面	弥生	壺	口：(17.2)	0.1～2.0	やや精	並	結石長チ雲赤	外：7.5YR5/4（にぶい褐） 内：5YR4/3（にぶい赤褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヘラミガキ→ユビナデ	吉野川下流域からの搬入品。7 1/20 図有り
44	107		B	第 1 包人力	土師器	ホウロク	口：(51.6)	0.1～4.5	やや精	やや良	石長雲赤	外：10YR4/1（褐灰） 内：7.5YR5/3（にぶい褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
46	89	SP1343	C	SP1060	弥生	高坏	口：(11.0)	0.5～3.0	やや粗	並	結石長チ雲赤	外：10YR5/4（にぶい黄褐） 内：10YR6/4（にぶい黄橙）	底部：ヨコナデ	底部：ヨコナデ	

掲載番号	実測番号	出土遺構	旧区	旧遺構	種別	器種	法量	胎土粒径	胎土密度	焼成	胎土	色調	外面調整	内面調整	備考
48	139	SK1025	B	SK1008	縄文	深鉢	底：(6.0)	0.1～4.5	粗	並	結石長チ雲	外：2.5Y3/1（黒褐） 内：2.5Y4/1（黄灰）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	
49	141	SK1025	B	SK1008	弥生	高坏	底：(11.6)	0.1～2.5	やや精	やや不	石長雲金	外：7.5YR7/6（橙） 内：7.5YR7/6（橙）	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ →ヘラ描針文	体部：ユビナデ　底部：ユビナデ	搬入品？
50	142	SK1020	B	SK1025	土師器	杯	口：(11.6)	0.1～0.5	やや精	並	石チ雲金雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	
51	145	SX1002	B	SX1004	縄文	浅鉢	口：(16.0) 頚：(15.4)	0.2～1.5	粗	やや不	石長雲	外：7.5YR6/6（橙） 内：10YR7/6（明黄褐）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	
52	143	SK1020	B	SK1005	陶器	仏座	高：(2.0) 底：(4.4)		精	良	チ	外:6yO5.5/7s(きみのだいだい) 内:6yO5.5/7s(きみのだいだい)			
53	159	SP1383	B	SP1010	土師器	鍋	口：(28.6)	0.1～3.0	やや粗	やや良	石長金雲赤	外：10YR1.7/1（黒） 内：7.5YR4/3（褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	外面ススキ付着　1　1/20 図有
54	162	SK1025	B	SK1008	弥生	甕	高：(16.2) 底：(10.6)	0.1～2.5	やや粗	やや不	結石長雲赤	外：2.5Y4/1（黄灰） 内：2.5Y4/1（黄灰）	体部：ヘラミガキ（巾 3.0）→ユビナデ　底部：ユビナデ	体部：ヘラケズリ→ユビナデ　底部：ユビナデ	在地（土井と似ている）
55	160	SP1405	B	SP1005	土師器	碗	口：(15.0)	0.1～1.0	やや精	やや不	石長雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	1 1/20 図有。
56	158	SP1386	B	SP1032	磁器	碗	底：(4.8)	0.2～0.3	精	堅		外：7.5Y6/2（灰オリーブ） 内：2.5Y7/2（灰黄）	体部：ヘラ削り　底部：削り出し高台	体部：回転ナデ→施釉　底部：回転ナデ→施釉	体部打ち欠き？
57	148	SU1001	A	SU1001	瓦	平瓦		0.1～1.0	精	並	チ雲黒	外：2.5Y3/1（黒褐） 内：2.5Y6/2（灰黄）	体部：板ナデ	体部：板ナデ	3 1/20 図有。
58	150	SX1006	B	SX1001	磁器	皿	高：(3.4) 口：(13.6) 底：(7.9)	—	精	堅		外：10YG7.5/1s（きみどり） 内：10YG7.5/3s（きみどり）	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉　底部：回転ナデ→施釉	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉　底部：回転ナデ→施釉	
59	149	SX1006	B	SX1001	陶器	皿	高：(2.1) 口：(10.6) 底：(3.0)	1.0～2.0	精	堅		外：2.5YR5/6（明赤褐） 内：2.5YR4/8（赤褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ削り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	右回転　灯明皿　口縁端部（内外面）にスス付着
60	155	SU1002	B	SU1002	瓦	平瓦		0.1～1.0	やや精	並	長雲黒	外：2.5Y6/1（黄灰） 内：2.5Y6/1（黄灰）			
61	163	SK1025	B	SK1008	弥生	壺	底：(7.4)	0.1～2.5	やや粗	やや不	石長チ雲赤黒花	外：7.5YR5/3（にぶい褐） 内：10YR2/1（黒）	体部：ヘラミガキ　底部：ユビナデ	体部：ユビオサエ　底部：ユビオサエ	2 1/20 図有。搬入品？
62	165	SK1015	B	SK1014	陶器	皿	高：(1.9) 口：(10.2) 底：(5.2)	0.1～0.5	やや精	やや良	長黒	外：2.5YR8/2（灰白） 内：2.5YR8/2（灰白）	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉　底部：削り出し高台	口縁：回転ナデ→施釉　体部：回転ナデ→施釉　底部：回転ナデ	右回転。TS1
63	164	SK1042	B	SK1004	陶器	壺	大：(17.4)	1.0～3.0	やや粗	良	石長黒	外：7.5YR4/3（褐） 内：10YR5/1（褐灰）	体部：回転ナデ→施釉	体部：回転ナデ	1 S=1/20 図有り
64	166	SK1032	B	SK1030	縄文	深鉢	底：(6.2)	0.1～5.0	やや粗	並	石長赤	外：10YR4/4（褐） 内：10YR4/4（褐）	底部：ヨコナデ	底部：ユビオサエ	2 1/20 図有。
65	1001	SP1019	A	SP1001	土師器	灯明皿	高：(1.9) 口：(7.6) 底：(5.5)	0.1～1.5	やや精	良	石長雲赤黒	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り→ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ　底部：ユビナデ	内外面ススキ付着
66	170	SK1026	B	SK1022	弥生	壺	口：(9.4) 頚：(5.8)	0.1～0.8	やや精	やや不	長チ雲黒	外：5YR6/6（橙） 内：5YR6/6（橙）	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ →刻目突帯	口縁：ユビナデ　体部：ユビナデ	TS1
67	176	SX1006	B	SX1001	陶器	こね鉢	底：(19.4)	1.0～3.0	粗	堅	石長	外：5YR3/4（暗赤褐） 内：2.5YR4/3（にぶい赤褐）	体部：回転ヘラ削り→回転ナデ 底部：　ヘラ切り	体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	25 S=1/20 図あり
68	177	SX1006	B	SX1001	磁器	碗	高：(3.9) 口：(11.3)	0.1	精	堅		外：10YG8.5/1s（きみどり） 内：10YG8.5/1s（きみどり）	体部：回転ナデ→施文・施釉　底部：削り出し高台	体部：回転ナデ→施文・施釉　底部：回転ナデ→施釉	35 1/20 図有り
69	178	SX1006	B	SX1001	須恵器	甕		0.1～0.5	やや精	並	長黒	外：5Y6/1(灰) 内：N7/0（灰白）	体部：平行タタキ→カキ目	体部：青海波文→ユビナデ	36 1/20 図有り
70	179	SX1006	B	SX1001	陶器	壺	頚：(7.2) 大：(11.0)	0.1～1.5	やや精	堅	石雲赤	外：7.5YR4/4（褐） 内：2.5Y6/4（にぶい黄）	体部：回転ナデ	体部：回転ヘラケズリ	26 鉄系の内容物か？内面に鉄サビ付着。1/20 図有り
71	180	SX1006	B	SX1001	陶器	甕	口：(35.0) 頚：(34.5)	0.1～4.0	やや精	堅	石長黒	外：2R2.4/5s（くらい赤） 内：4rO3.5/3s（グレイみのブラウン）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ	1・6・10・15・20・23・27 1/20 図有。
72	182	SX1006	B	SX1001	土師器	鍋	口：(50.6)	0.1～6.0	やや精	やや良	石長雲赤	外：7.5YR2/1（黒） 内：7.5YR5/2（灰褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ヨコナデ	外面おこげ付着　12　s =1/20　図あり
73	183	SX1006	B	SX1001	土師器	鍋	口：(39.8)	0.1～4.5	やや精	やや良	石長雲赤	外：10YR5/4（にぶい黄褐） 内：10YR3/1（黒褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビオサエ→ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：イタナデ	外面ススキ付着。
74	185	SP1173	B	SP1250	弥生	甕	口：(18.3) 頚：(16.7)	0.1～1.0	やや粗	並	石長雲	外：10YR5/4（にぶい黄褐） 内：7.5YR5/4（にぶい褐）	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	口縁：ヨコナデ　体部：ユビナデ	搬入品？ 1 S=1/20 図あり
75	184	SP1173	B	SP1250	弥生	甕	底：(5.0)	0.1～2.5	やや粗	並	石長雲赤花	外：5YR4/3（にぶい赤褐） 内：5YR3/1（黒褐）	体部：ヘラミガキ　底部：ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビオサエ	サヌキからの搬入品？ 1　s =1/20　図あり
76	186	SK1026	B	SK1022	弥生	壺	頚：(9.4)	0.1～1.5	やや粗	並	結石長雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：10YR5/4（にぶい黄褐）	体部：イタナデ	体部：ユビオサエ→ユビナデ	
77	187	SP1405	B	SP1005	土師器	皿	高：(1.7) 口：(6.8) 頚：(6.2)	0.5～2.0	やや精	並	雲	外：7.5YR6/6（橙） 内：10YR5/2（灰黄褐）	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ　底部：回転ヘラ切り	口縁：回転ナデ　体部：回転ナデ　底部：回転ナデ	灯明皿、内面口縁端部にスス付着
78	188		B	第 1 遺構面	弥生	壺	口：(18.2) 大：(18.3)	0.1～1.8	やや精	やや良	結石長チ雲赤	外：7.5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：ヨコナデ	口縁：ユビナデ→ヨコナデ	4 吉野川下流域からの搬入品
79	199	SK1045	C	SK1009	弥生	甕	底：(6.2)	0.1～2.0	やや精	並	結石長雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：7.5YR5/3（にぶい褐）	体部：イタナデ　底部：ユビオサエ→ユビナデ	体部：ユビナデ　底部：ユビオサエ→ユビナデ	吉野川下流域からの搬入品。
80	198	SK1045	C	SK1009	弥生	甕	口：(15.8) 頚：(14.0)	0.1～1.5	やや粗	並	結石長チ雲赤	外：5YR6/6（橙） 内：7.5YR6/6（橙）	口縁：ヨコナデ	口縁：ヨコナデ	吉野川下流域からの搬入品。
81	1000	SP1019	A	SP1001	弥生	壺	高：(3.3)	0.1～1.3	やや粗	並	石長雲黒	外：10YR4/2（灰黄褐） 内：7.5YR5/3（にぶい褐）	体部：ユビナデ→ヘラ描文	体部：ナデ	
83	22	SX1003	C	SX1003	縄文	深鉢	口：(18.0)	0.1～0.6	粗	不良	結石長チ黒	外：10YR5/2（灰黄褐） 内：2.5Y4/1（黄灰）	口縁：ユビナデ→刻目突帯	口縁：ユビナデ	

第Ⅴ章　自然化学分析

1．西州津遺跡放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・辻　康男

1．はじめに

西州津遺跡より採取された試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

表１　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-39846	調査区：BC2 区 位置：α - Ⅰ　S-10 遺構：SK1031 試料 .No.1	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：0.01 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39847	調査区：D 区 位置：2- Ⅱ　B･6 ～ 7 遺構：SK1140 層位：最下層 試料 .No.2	種類：炭化種実 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：0.01 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39848	調査区：D 区 位置：β - Ⅱ　T-5 遺構：SK1151 層位：4 層（最下層） 試料 .No.3	種類：生の植物遺体（葉） 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：0.01 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39849	調査区：E-2 区 遺構：SR1001-C 層位：最下層 試料 .No.4	種類：木材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：0.01 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39850	調査区：BC-2 区 位置：β - Ⅰ T-14･15 遺構：SR1002-G 試料 .No.5	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸･アルカリ･酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：0.01 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

表２　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	14C 年代 (yrBP ± 1 σ)	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-39846 試料 .No.1	-28.03 ± 0.22	2881 ± 19	2880 ± 20	1107-1101 cal BC (4.9%) 1085-1015 cal BC (63.3%)	1121-1001 cal BC (95.4%)
PLD-39847 試料 .No.2	-27.19 ± 0.44	5986 ± 42	5985 ± 40	4935-4829 cal BC (64.2%) 4814-4806 cal BC (4.0%)	4996-4775 cal BC (95.4%)
PLD-39848 試料 .No.3	-31.26 ± 0.21	3489 ± 30	3490 ± 30	1878-1838 cal BC (26.8%) 1829-1767 cal BC (41.4%)	1892-1741 cal BC (93.3%) 1711-1700 cal BC (2.1%)
PLD-39849 試料 .No.4	-28.24 ± 0.16	13068 ± 34	13070 ± 35	13825-13639 cal BC (68.2%)	13913-13482 cal BC (95.4%)
PLD-39850 試料 .No.5	-30.25 ± 0.17	1347 ± 18	1345 ± 20	655-672 cal AD (68.2%)	649-684 cal AD (95.4%)

写真 1　測定試料 No. 1

写真 2　測定試料 No. 2

写真 3　測定試料 No. 3

写真 4　測定試料 No. 4

写真 5　測定試料 No. 5

図 1　年代測定試料

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。年代測定試料を図 1 に示す。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta\ ^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦

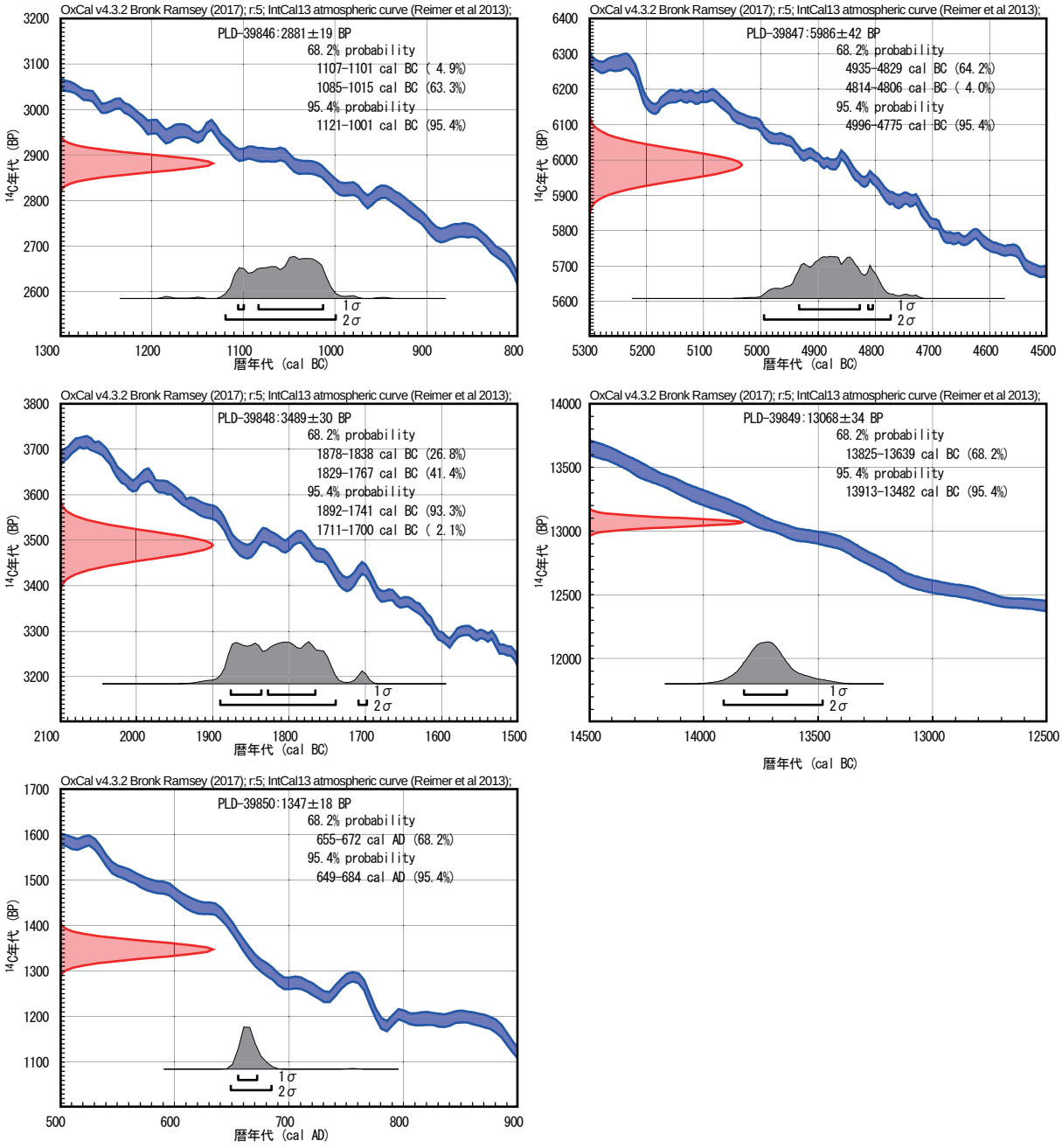


図 2　暦年較正結果

年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、1950 年の大気の ^{14}C 濃度を 1 として計算した試料の ^{14}C 濃度を表す F^{14}C 値、暦年較正結果を、図 2 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2 %であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4．考察

測定結果（以下の暦年較正年代は 2 σの値）は、試料 No.1（PLD-39846）の C^{14} 年代が 2880 ± 20 BP、較正年代が 1121-1001 cal BC（95.4%）、試料 No.2（PLD-39847）の C^{14} 年代が 5985 ± 40 BP、較正年代が 4996-4775 cal BC（95.4%）、試料 No.3（PLD-39848）の C^{14} 年代が 3490 ± 30 BP、較正年代が 1892-1741 cal BC（93.3%）および 1711-1700 cal BC (2.1%)、試料 No.4（PLD-39849）の C^{14} 年代が 13070 ± 35 BP、較正年代が 13913-13482 cal BC（95.4%）、試料 No.5（PLD-39850）の C^{14} 年代が 1345 ± 20 BP、較正年代が 649-684 cal BC（95.4%）である。

上記の年代値から、7 世紀中頃～後半の飛鳥時代の年代値を示した試料 No.5 以外の試料の暦年代は、縄文時代に相当すると判断される。縄文時代相当の年代値については、小林（2017）や鈴木（2008）を参照すると、試料 No.1 が縄文時代晩期前葉～中葉、試料 No.2 が縄文時代前期前半、試料 No.3 が縄文時代後期中葉、試料 No.4 が縄文時代草創期に対比される。

引用・参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

小林謙一（2017）縄紋時代の実年代－土器型式編年と炭素 14 年代－．263p，同成社．

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」：3-20，日本第四紀学会．

大森貴之、山﨑孔平、椛澤貴行、板橋悠、尾寄大真、米田穣 (2017) 微量試料の高精度放射性炭素年代測定 . 第 20 回 AMS シンポジウム報告集 ,55.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M. and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

鈴木康二（2008）北白川下層式土器．

小林達雄編「総覧縄文土器」：312-319，アム・プロモーション．

２．西州津遺跡出土種実同定

パリノ・サーヴェイ株式会社
管理者　　松元　美由紀
担当者　　松元　美由紀
分析者　　松元　美由紀

はじめに

徳島県三好市池田町州津井関に所在する西州津遺跡は、吉野川北岸に形成された中位～高位段丘上に位置する。発掘調査では、縄文時代～江戸時代の遺構が確認されており、縄文時代晩期前半 (約 3000 年前) に帰属する貯蔵穴群の確認が特筆すべき成果とされている。

本分析調査では、貯蔵穴内より出土した堅果類の同定を実施し、縄文時代晩期における植物利用や周辺植生に関する資料を作成する。

1. 試料

試料は、BC2 区の SK1031、SK1046、D 区の SK1040、SK1044、SK1048・(SK1022)、SK1138、SK1140、SK1142、SK1151 の各地区・層位より採取された土壌および水洗済試料 (土粒、炭化材、植物片) 計 41 点 10.4kg である。試料は、全て乾燥した状態であり、フィルムケース 19 点、タッパー・ポリ袋 6 点、ポリ袋 16 点に収納されている。分析の便宜上、容器毎に番号・枝番号を付し、詳細は分析記録とともに付表 1 に示す。

試料は、発掘調査終了後長期間保管されていたため、保存状態が不良となっている。そのため、本分析の主目的である堅果類は殆ど分解されて残らず、土壌化した状況が確認された。

本分析調査では、水洗による種実の抽出・同定を実施する。

2. 分析方法

土壌試料に確認される堅果痕の形状や大きさを可能な限り記録後、試料を水に浸し、粒径 0.5mm の篩を用いて水洗する。SK1031、SK1138 の一部は炭化材を主体とするため、粒径 8mm の篩を通して炭化材抽出後、0.5mm 篩で水洗する。SK1151 の一部 (試料番号 12-3) は植物片主体のため、粒径 4mm、2mm の篩を通した後、200cc を対象に 0.5mm 篩で水洗する。

水洗後の試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実や葉などの大型植物遺体を抽出する。同定は、現生標本や中山ほか（2010）、鈴木ほか（2018）等を参考に実施する。結果は、部位・状態別の個数を一覧表で示し、各分類群の写真を添付して同定根拠とする。炭化材の一部は最大径を計測する。分析後は、大型植物遺体を分類群別に容器に入れ、湿潤試料には約 70% エタノール溶液で液浸保存する。

3. 結果

結果を表 1、付表 1 に示す。また、土壌試料に確認された堅果痕の写真を図版 1 に、大型植物遺体各分類群の写真を図版 2 に示す。

全 9 遺構 41 試料を通じて、被子植物 18 分類群 (広葉樹のコナラ属、ヒメコウゾ、カジノキ、キイチ

ゴ属、イイギリ、タラノキ、ムラサキシキブ属、草本のイヌビエ属、スズメノヒエ属、メヒシバ類、オヒシバ、イネ科、ナデシコ科、オミナエシ属、タカサブロウ、メナモミ属、タンポポ属、キク科)79 個の種実と、裸子植物 1 分類群 (針葉樹のヒノキ)18 個の枝条の、合計 97 個の大型植物遺体が同定された。3 個は種実の微細片と考えられるが、同定に至らなかった。その他、双子葉類主体の葉片、不明炭化物、炭化材、植物片、土壌 (コナラ属子葉痕 ?)、砂礫、骨貝類 ?、土器片などが確認された。

大型植物遺体の保存状態は、コナラ属のみ不良であり、他は良好である。草本のイヌビエ属、スズ

表1　種実同定結果

		BC2区			D区										
		SK1031	SK1046		SK1040	SK1044		SK1048・(SK1022)		SK1138		SK1140		SK1142	SK1151	
分類群	部位		5層・炭化物層			下層	最下層	最下層		上層	最下層	下層			4層（最下層）	合計
木本種実・葉																
ヒノキ	枝条	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1	−	16	18
コナラ属	果実	−	−	−	−	−	9	−	−	−	−	−	−	−	−	9
	果実・子葉	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
ヒメコウゾ	核	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	18	18
カジノキ	核	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	2	3
キイチゴ属	核	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1
イイギリ	種子	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	7	7
タラノキ	核	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	4	5
ムラサキシキブ属	核	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
草本種実																
イヌビエ属	果実	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1
スズメノヒエ属	果実	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1
メヒシバ類	果実	−	−	−	−	−	4	1	1	−	3	−	−	−	5	14
オヒシバ	種子	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	1
イネ科	果実	−	−	−	−	−	−	−	2	−	1	1	−	−	−	4
イネ科?	果実	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1
ナデシコ科	種子	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	1
オミナエシ属	果実	−	−	−	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	2
タカサブロウ	果実	−	−	−	−	−	2	−	−	−	1	−	−	−	−	3
メナモミ属	果実	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	1
タンポポ属	果実	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	1
キク科	果実	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	1	−	1	4
不明	種実	−	1	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	3
種実合計																
木本種実・葉		−	−	−	−	2	11	−	−	−	−	1	1	−	48	63
草本種実		−	−	−	−	2	8	4	3	−	8	1	1	−	7	34
不明		−	1	−	−	−	1	−	−	−	1	−	−	−	−	3
種実合計(不明を除く)		−	−	−	−	4	19	4	3	−	8	2	2	−	55	97

メノヒエ属、メヒシバ類などのイネ科やキク科には、表面に毛が残るなど保存状態が極めて良好な果実が多く、後代に由来する可能性がある。一方、常緑針葉樹で高木になるヒノキ、落葉広葉樹で高木になるカジノキ、イイギリ、低木のヒメコウゾ、キイチゴ属、タラノキ、ムラサキシキブ属、草本のオヒシバ、ナデシコ科、オミナエシ属などは、現在の本地域にも分布する分類群である。これらが後代に由来するか、縄文時代晩期に由来するかについては、種実全個体を対象に年代測定する以外、厳密な判断は困難であるため、本分析では結果表記にとどめる。

以下、堅果類を主体とした遺構別状況を述べる。堅果類の学名は佐竹ほか (1989) に依拠した。

1)SK1142；6-7 層～ 2 層 (試料番号 1-1 ～ 10)

土壌が充填されたフィルムケース 10 点約 280cc261g を水洗したが、粒径 0.5mm の篩を通り抜け、種実遺体、植物片、砂礫ともに確認されなかった。

2)SK1140(試料番号 2-1 ～ 9、試料番号 3-2,3)

8 ～ 4 層 (試料番号 2-1 ～ 9) は、土壌が充填されたフィルムケース 9 点約 250cc241g を水洗したが、粒径 0.5mm 篩を通り抜け、種実遺体、植物片、砂礫ともに確認されなかった。堅果痕は 5 層 (試料番号 2-5) のみ確認され、灰黒褐色、長さ 7.5mm、幅 4.0mm の楕円形を呈し、果皮や子葉を欠損する (図版 1-1)。

下層 (第 5-8 層)(試料番号 3-2) は、土粒主体の試料 150cc292g を水洗した結果、ヒノキ 1 個、イネ

科 1 個の他、植物片、砂礫が確認された。

γ - Ⅱ・B-6 ～ 7(試料番号 3-3) は、土粒主体の試料 100cc247g を水洗した結果、ヒノキ 1 個、キク科 1 個の他、植物片、砂礫が確認された。

3)SK1044(試料番号 4-1,2)

下層 (青色粘質土層)(試料番号 4-1) は、植物片混じり土粒主体の試料 40cc91g を水洗した結果、カジノキ 1 個、ムラサキシキブ属 1 個、イネ科 ?1 個、オミナエシ属 1 個の他、炭化材、植物片、砂礫が確認された。

最下層 (試料番号 4-2) は、植物片混じり土粒主体の試料 40cc80g を水洗した結果、コナラ属 10 個、タラノキ 1 個、メヒシバ類 3 個、オヒシバ 1 個、オミナエシ属 1 個、不明 1 個の他、炭化材、植物片、土壌 (コナラ属子葉痕 ?)7 点、砂礫が確認された。

コナラ属 (Quercus) の果皮片は、暗灰褐色を呈し、残存長 1.0cm、果皮厚さ 0.2mm を測る。表面には浅く微細な溝が縦列し、断面は柵状を呈す。脆弱で頂部を欠損するため、コナラ亜属 (subgen. Quercus) か、アカガシ亜属 (subgen. Cyclobalanopsis）の区別には至らなかった (図版 2-2 ～ 4)。

4)SK1138(試料番号 3-1、試料番号 5-1 ～ 3、試料番号 6)

最下層 (試料番号 3-1) は、土粒主体の試料 175cc342g を水洗した結果、イヌビエ属 1 個、スズメノヒエ属 1 個、メヒシバ類 3 個、イネ科 1 個、タカサブロウ 1 個、メナモミ属 1 個、不明 1 個の他、植物片、砂礫が確認された。

上層 (試料番号 5-1) は、炭化材混じり土粒主体の試料 332g より、径 8mm 以上の炭化材 15.7g を抽出後水洗したが、種実は検出されず、炭化材と砂礫が確認された。炭化材は最大 27.3mm を測る。

上層 (試料番号 5-2；41g、試料番号 5-3；14g) は、炭化材主体の試料のため、水洗せず篩別のみを実施したが、種実は検出されず、炭化材と砂礫が確認された。炭化材の最大径は、試料番号 5-2 が 14.5mm、試料番号 5-3 が 24.0mm を測る。

上層 (試料番号 6) は、土粒・炭化材主体の試料 153g より、径 8mm 以上の炭化材 5.2g を抽出後水洗したが、種実は検出されず、炭化材と砂礫が確認された。炭化材は最大 19.6mm を測る。

5)SK1048・(SK1022)(試料番号 7-1,2)

最下層 (試料番号 7-1) は、植物片混じり土粒主体の試料 495g を水洗した結果、メヒシバ類 1 個、タンポポ属 1 個、キク科 2 個の他、双子葉類の葉、不明炭化物 1 個、炭化材、植物片、土壌 (コナラ属子葉痕 ?)11 個、砂礫が確認された。双子葉類の葉は灰褐色、2 個は接合するが、頂部や葉柄を欠損する。残存長 4.6cm、幅 2.5cm を測り、基部は鈍形、全縁で上半部はやや波状にうねる。側脈は 6 本で葉縁に到達しない。コナラ属やシイ属などの堅果類の葉とは区別されるが、同定には至らなかった。

試料番号 7-2 は、土粒主体の試料 925g を水洗した結果、メヒシバ類 1 個、イネ科 2 個の他、炭化材、植物片、土壌 (コナラ属子葉痕 ?)20 個、砂礫が確認された。

6)SK1046(試料番号 8-1,2、試料番号 10)

5 層・炭化物層 (試料番号 8-1) は、最大 4.3cm の土塊を含む土粒主体の試料 150cc212g を水洗したが、種実は検出されず、植物片と砂礫が確認された。

5 層・炭化物層 (試料番号 8-2) は、土粒主体の試料 300cc447g を水洗した結果、不明 1 個の他、植物片と砂礫が確認された。

土壌塊状試料 (試料番号 10) は、径 18 × 15 × 8cm を測る。表面に確認される堅果痕は、いずれも破片であり、形状記録には至らなかった。コナラ属に由来すると考えられるが、果皮や子葉は残っていない (図版 1-2,3)。900cc1,752g を水洗したが、種実は検出されず、炭化材、植物片、砂礫が確認された。

7)SK1031(試料番号 9-1 ～ 3)

当社付与番号		試料札記載情報						試料情報					試料概査結果	分析方法・結果	分析量		炭化材(>8mm)	
		遺跡名	地区	層位	遺構	年月日	遺物番号	容器	容器情報	試料の質	状態	重量(g)			(cc)	乾重(g)	最大(mm)	乾重(g)
1	1	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	2 層	土壌, 植物痕	乾燥	24		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	24	-	-
1	2	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	2 層	土壌, 植物痕	乾燥	20		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	20	-	-
1	3	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	4 層	土壌, 植物痕	乾燥	28		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	28	-	-
1	4	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	4 層	土壌, 植物痕	乾燥	29		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	29	-	-
1	5	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	4 層	土壌, 植物痕	乾燥	30		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	30	-	-
1	6	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	5 層	土壌, 植物痕	乾燥	22		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	22	-	-
1	7	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	5 層	土壌, 植物痕	乾燥	24		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	24	-	-
1	8	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	5 層	土壌, 植物痕	乾燥	21		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	21	-	-
1	9	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	6・7 層	土壌, 植物痕	乾燥	34		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	34	-	-
1	10	09 西州津 (D 区)			SK1142		091221	フィルムケース	6・7 層	土壌, 植物痕	乾燥	28		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	28	-	-
2	1	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	4 層	土壌, 植物痕	乾燥	24		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	24	-	-
2	2	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	4 層	土壌, 植物痕	乾燥	18		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	18	-	-
2	3	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	4-2 層	土壌, 植物痕	乾燥	28		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	28	-	-
2	4	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	4-2 層	土壌, 植物痕	乾燥	30		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	30	-	-
2	5	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	5 層	土壌, 堅果痕	乾燥	40	堅果痕 : 長さ 7.5mm, 幅 4.0mm の楕円形 , 土壌に置換	水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	40	-	-
2	6	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	5 層	土壌, 植物痕	乾燥	33		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	33	-	-
2	7	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	7 層	土壌, 植物痕	乾燥	23		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	23	-	-
2	8	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	8 層	土壌, 植物痕	乾燥	26		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	26	-	-
2	9	09 西州津 (D 区)		S1	SK1140		091221	フィルムケース	8 層	土壌, 植物痕	乾燥	18		水洗、種実・植物片・砂礫確認されず	28	18	-	-
3	1	09 西州津 (D 区)		最下層	SK1138	091222		ポリ袋		土粒主体	乾燥	346		水洗、イヌビエ属 1・スズメノヒエ属 1・メヒシバ類 3・イネ科 1・タカサブロウ 1・メナモミ属 1・不明 1・植物片・砂礫	175	342	-	-
3	2	09 西州津 (D 区)		下 層 (第 5-8 層)	SK1140	20091215	土壌サンプル	ポリ袋		土粒主体	乾燥	296		水洗、ヒノキ 1・イネ科 1・植物片・砂礫	150	292	-	-
3	3	09 西州津 (D 区)	γ - II ・B-6 ～ 7		SK1140	091224		ポリ袋		土粒主体	乾燥	251		水洗、ヒノキ 1・キク科 1・植物片・砂礫	100	247	-	-
4	1	09 西州津 (D 区)	γ - II ・B-4	下層 (青色粘質土層)	SK1044	091112		ポリ袋		土粒主体 , 植物片	乾燥	93		水洗、カジノキ 1・ムラサキシキブ属 1・イネ科 ?1・オミナエシ属 1・炭化材・植物片・砂礫	40	91	-	-
4	2	09 西州津 (D 区)	β - II ・B-3	最下層	SK1044	091116	木の実	ポリ袋		土粒主体 , 植物片	乾燥	83	堅果皮片僅かに確認 , 殆ど土壌に置換された破片	水洗、コナラ属 10・タラノキ 1・メヒシバ類 3・オヒシバ 1・オミナエシ属 1・不明 1・炭化材・植物片・土壌 (コナラ属子葉痕 ?)7・砂礫	40	80	-	-
5	1	09 西州津 (D 区)	γ - II ・B-7	上層	SK1138	091215	土壌サンプル (上 層 の炭)	ポリ袋		土粒主体 , 炭化材	乾燥	337		炭化材多量、径 8mm 以上を抽出後水洗、種実確認されず。砂礫。	-	332	27.3	15.7
5	2	09 西州津 (D 区)		上層	K138	20091209	土壌サンプル 1/2	ポリ袋		炭化材主体 , 土粒	乾燥	43		炭化材主体、砂礫。種実確認されず	-	41	14.5	-
5	3	09 西州津 (D 区)		上層	K138	20091209	土壌サンプル 1/2	ポリ袋		炭化材主体 , 土粒	乾燥	16		炭化材主体、、砂礫。種実確認されず	-	14	24.0	-
6	1	09 西州津 (D 区)		上層	K138	20091209	土壌サンプル 2/2	ポリ袋		土粒・炭化材主体	乾燥	156		炭化材多量、径 8mm 以上を抽出後水洗、種実確認されず	-	153	19.6	5.2
7	1	09 西州津 (D 区)	BC 区	最 下 層 ・L=103.91m	SK1048・(SK1022)	20091125		ポリ袋		土粒主体 , 植物片	乾燥	501	双子葉類葉 , 堅果痕は土壌に置換	水洗、メヒシバ類 1・タンポポ属 1・キク科 2・双子葉類葉・不明炭化物 1・炭化材・植物片・土壌 (コナラ属子葉痕 ?)11・砂礫	-	495	-	-
7	2	09 西州津 (D 区)	BC 区	SK1048	(SK1022)	20091125		ポリ袋		土粒主体	乾燥	932	堅果痕は土壌に置換されている	水洗、メヒシバ類 1・イネ科 2 個・炭化材・植物片・土壌 (コナラ属子葉痕 ?)20・砂礫	-	925	-	-
8	1	09 西州津 (BC2 区)		5 層・炭化物層	SK1046	20110118		ポリ袋		土粒主体	乾燥	217	土塊 : 最大 42.77mm, 堅果痕確認されず	水洗、種実確認されず。植物片・砂礫	150	212	-	-
8	2	09 西州津 (BC2 区)		5 層・炭化物層	SK1046	20110118		ポリ袋		土粒主体	乾燥	452		水洗、不明 1・植物片・砂礫	300	447	-	-
9	1	09 西州津 (BC-2 区)	α - I ・S-10		SK1031	110131		ポリ袋		炭化材主体	乾燥	103	土器片 : 径 36.70mm	炭化材多量、径 8mm 以上を抽出後水洗、砂礫・土器片 1, 種実確認されず	-	101	28.3	17.8
9	2	09 西州津 (BC-2 区)	α - I ・S-10		SK1031	110131		ポリ袋		炭化材・土粒主体	乾燥	151		炭化材多量、径 8mm 以上を抽出後水洗、砂礫。種実確認されず	-	146	40.0	66.9
9	3	09 西州津 (BC-2 区)	α - I ・S-10		SK1031- 南半分	20110107		ポリ袋		炭化材・土粒主体	乾燥	69		炭化材多量、径 8mm 以上を抽出後水洗、砂礫。種実確認されず	-	67	25.0	19.2
10	-	09 西州津 (D 区)	β - II ・T-5		SK1046	091110	1/20 図有	タッパー・ポリ袋		土 塊 (18 × 15 × 8cm)	乾燥	1775		堅果痕写真記録後水洗、種実確認されず	900	1752	-	-
11	1	09 西州津 (D 区)	γ - II ・β -4		SK1040	091112		タッパー・ポリ袋		土 塊 5 点 (径 10cm)	乾燥	1129	堅果痕 : アカガシ亜属の可能性 , 長さ 15.47 × 径 11.87mm	堅果痕写真記録後、土塊 3 個 (491.8g) 以外を水洗、炭化材・植物片・骨貝類 ?1(径 5.9mm)・砂礫 (高師小僧含む)。種実確認されず	300	614	-	-

当社付与番号		試料札記載情報				試料情報					試料概査結果	分析方法・結果	分析量		炭化材(>8mm)	
		遺跡名	地区	層位	遺構	年月日	遺物番号	容器	容器情報	試料の質	状態	重量(g)		(cc)	乾重(g)	最大(mm)	乾重(g)
12	1	09 西州津 (D 区)	β - II ・T5	4 層 (最下層)	SK1151	091224	炭化物 (木の実)	タッパー・ポリ袋		土粒主体、植物片	乾燥	880		500	874	-	-
12	2	09 西州津 (D 区)	β - II ・T5	4 層 (最下層)	SK1151	091224	炭化物 (木の実)	タッパー・ポリ袋		土粒主体、植物片	乾燥	638		400	632	-	-
12	3	09 西州津 (D 区)	β - II ・T5	4 層 (最下層)	SK1151	091224	炭化物 (木の葉)	タッパー・ポリ袋		植物片・土粒主体	乾燥	624		-	620	-	-
12	4	09 西州津 (D 区)	β - II ・T5	4 層 (最下層)	SK1151	091224		タッパー・ポリ袋		土粒主体、植物片	乾燥	808		500	802	-	-

試料番号 9-1(101g)、試料番号 9-2(146g)、試料番号 9-3(67g) は、炭化材主体の試料より、径 8mm 以上の炭化材を抽出後水洗したが、種実は検出されず、炭化材と砂礫、試料番号 9-1 より土器片 1 個 (径 3.7cm) が確認された。炭化材の最大径は、試料番号 9-1 が 28.3mm、試料番号 9-2 が 40.0mm、試料番号 9-3 が 25.0mm を測る。

8)SK1040(試料番号 11)

土壌塊状試料 5 点のうち、2 点 300g614g を水洗したが、種実は検出されず、炭化材、植物片、骨貝類 ?1 個 (径 5.9mm)、砂礫 (高師小僧含む) が確認された。残りの土壌塊状試料 3 点 498.1g は、堅果類の保存状態が分析試料中最も良好であることから、水洗せず保管した (図版 1-4 ～ 7)。

堅果痕は暗灰褐色、楕円体を呈し、長さ 15.47mm、径 11.87mm(図版 1-5)、長さ 16.80mm、径 11.66mm(図版 1-6)、長さ 17.41mm、径 11.64mm、長さ 15.63mm、径 9.62mm、長さ 14.74mm、径 11.31mm(図版 1-7) を測る。いずれも成熟した完形果実と考えられ、幼果や未熟果は確認されない。殻斗や葉などの他の部位も確認されない。果皮や子葉は残らず、土壌に置換された状態であるが、一部縦筋状の種皮の痕跡が確認される (図版 1-6)。

堅果痕は、頂部が尖らないことから、シイ属スダジイ (Castanopsis sieboldii (Makino) Hatusima ex Yamazaki et Mashiba) やツブラジイ (C. cuspidata (Thunb. ex Murray) Schottky) とは区別され、コナラ属と判断される。また、コナラ亜属クヌギ (Q. acutissima Carruthers)、アベマキ (Q. variabilis Blume)、カシワ (Q. dentata Thunb. ex Murray)、ナラガシワ (Q. aliena Blume.) などの大型果実とも区別される。アカガシ亜属である可能性が高いが、コナラ亜属コナラ (Q. serrata Thunb. ex Murray) の大型果実に由来する可能性も残される。

9)SK1151；4 層 (最下層)(試料番号 12-1 ～ 4)

炭化物 (木の実)(試料番号 12-1) は、植物片混じり土粒主体の試料 500cc874g を水洗した結果、ヒノキ 16 個、ヒメコウゾ 6 個、イイギリ 2 個、タラノキ 2 個の他、多くの植物片と砂礫が確認された。

炭化物 (木の実)(試料番号 12-2) は、植物片混じり土粒主体の試料 400cc632g を水洗した結果、ヒメコウゾ 4 個、イイギリ 5 個、タラノキ 1 個、メヒシバ類 1 個の他、多くの植物片と砂礫が確認された。

炭化物 (木の葉)(試料番号 12-3) は、植物片主体の試料 620g を粒径 4mm、2mm の篩を通して種実抽出後、2mm 以下の試料 200cc317g を対象に水洗した結果、ヒメコウゾ 5 個、カジノキ 1 個、メヒシバ類 3 個、ナデシコ科 (ウシハコベ類似)1 個の他、双子葉類主体の葉片含む多量の植物片、土壌 (コナラ属子葉痕 ?)168 個以上、砂礫が確認された。

試料番号 12-4 は、植物片混じり土粒主体の試料 500cc802g を水

洗した結果、ヒメコウゾ 2 個、カジノキ 1 個、キイチゴ属 1 個、イイギリ 1 個、タラノキ 1 個、メヒシバ類 1 個、キク科 1 個の他、多くの植物片と砂礫が確認された。

4. 考察

縄文時代晩期の貯蔵穴とされる BC2 区の SK1031、SK1046、D 区の SK1040、SK1044、SK1048・(SK1022)、SK1138、SK1140、SK1142、SK1151 の種実同定の結果、保存状態不良のため、堅果類は殆ど検出されず、SK1044 最下層よりコナラ属の果実の破片が少量確認されるのみであった。

また、主に SK1040 の土壌試料に残された堅果痕について、大きさや形状を検討した結果、コナラ属アカガシ亜属 (カシ類) の果実に由来する可能性が高いと判断された。アカガシ亜属は、暖地の山中に生育する常緑高木で、本地域に分布する常緑広葉樹林 (照葉樹林) の主要構成種である。食利用については、イチイガシを除いて、水にさらすなどのあく抜きを施すことにより、内部の子葉が食用可能となる。貯蔵穴とされる各遺構より確認された果実痕は、殆どが成熟した果実から成り、食用にならない幼果や殻斗が確認されないことから、当時の遺跡周辺の照葉樹林より成熟果実が選択的に採取され、遺構内に持ち込まれた植物質食料と示唆される。また、完全な形状をとどめた果実痕が確認されることから、良好な保存状態であったと判断され、遺構内の嫌気的環境下で食用に利用されずに埋積、残存したと考えられる。

これらの痕跡が確認された堅果類の用途については、慎重な検討が望まれる。岩永 (2018) は、ドングリ実験結果より低湿地型貯蔵穴の機能を検討した結果、第一に虫殺し、第二に冬場を中心にした短期生貯蔵をするために営まれた可能性を指摘する一方、長期保存は腐蝕の進行の理由で否定的な意見を述べている。アク抜きも果皮付きである以上、民俗事例よりあまり期待できないとの見解を示している。

ところで、SK1031 と SK1138 の分析試料は、多量の炭化材に特徴づけられ、堅果類が確認されなかった。これらの多量の炭化材については、貯蔵穴廃絶後の埋没過程において人為的に廃棄された可能性も考えられる。特に SK1138 では、上層とされる試料から炭化材が多量に検出されたため、遺構覆土の堆積状況や、出土土器などの年代観を含めた総合的な検証が望まれる。

引用文献

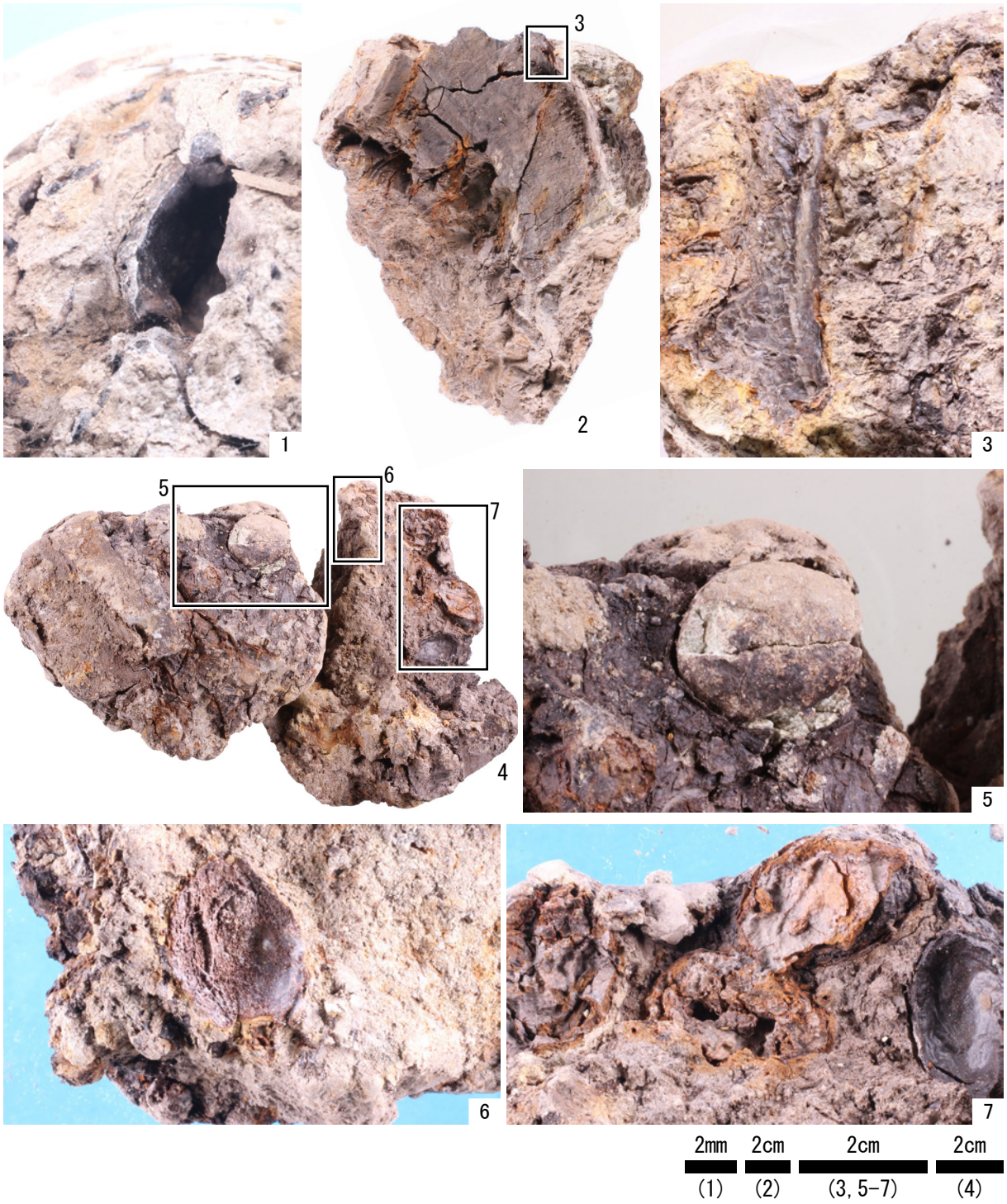
岩永哲夫 (2018) ドングリを貯蔵した低湿地型貯蔵穴の機能について－ドングリ貯蔵実験から－ . 第 12 回九州古代種子研究会鹿児島大会発表要旨集 , 九州古代種子研究会事務局 , 岩永 1-4.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志 (2010) 日本植物種子図鑑 (2010 年改訂版) . 東北大学出版会 ,678p.

佐竹義輔・原　寛・亘理俊次・冨成忠夫編 (1989) 日本の野生植物　木本Ⅰ . 平凡社 ,321p.

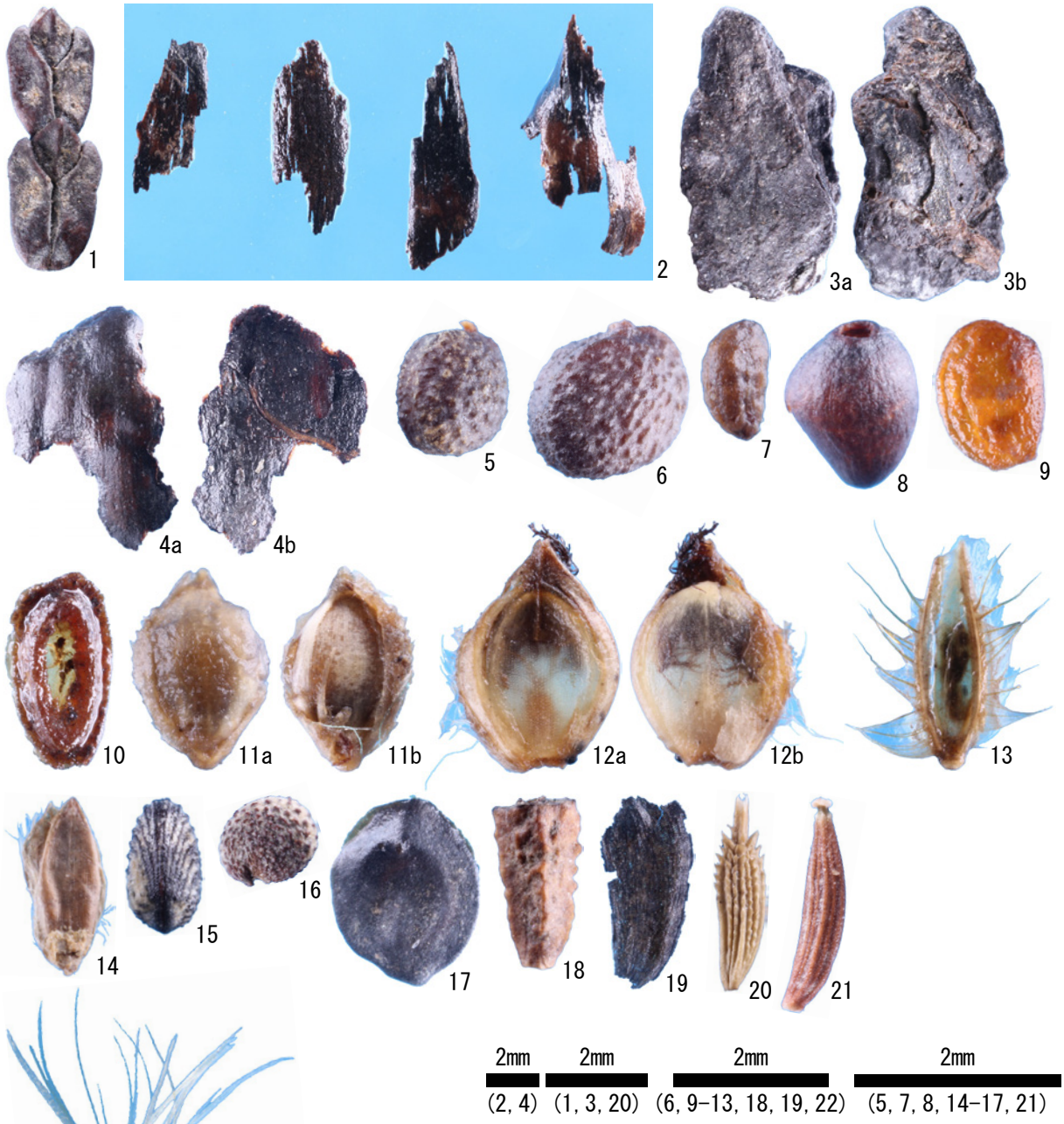
鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文 (2018) 草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる 734 種　増補改訂－ . ネイチャーウォッチングガイドブック , 誠文堂新光社 ,303p.

図版1 土壌試料(堅果痕)



1. 堅果痕(コナラ属果実?)(SK1140;5層)
2. 試料概観(SK1046)
3. 堅果痕(コナラ属果実?)(SK1046)
4. 試料概観(SK1040)
5. 堅果痕(コナラ属果実?)(SK1040)
6. 堅果痕(コナラ属果実?)(SK1040)
7. 堅果痕(コナラ属果実?)(SK1040)

図版2　大型植物遺体



1. ヒノキ 枝条(SK1151;4層(最下層))
2. コナラ属 果実(SK1044;最下層)
3. コナラ属 果実･子葉(SK1044;最下層)
4. コナラ属 果実(SK1044;最下層)
5. ヒメコウゾ 核(SK1151;4層(最下層))
6. カジノキ 核(SK1044;下層)
7. キイチゴ属 核(SK1151;4層(最下層))
8. イイギリ 種子(SK1151;4層(最下層))
9. タラノキ 核(SK1151;4層(最下層))
10. ムラサキシキブ属 核(SK1044;下層)
11. イヌビエ属 果実(SK1138;最下層)
12. スズメノヒエ属 果実(SK1138;最下層)
13. メヒシバ類 果実(SK1151;4層(最下層))
14. イネ科 果実(SK1048･(SK1022);最下層)
15. オヒシバ 種子(SK1044;最下層)
16. ナデシコ科 種子(SK1151;4層(最下層))
17. オミナエシ属 果実(SK1044;下層)
18. タカサブロウ 果実(SK1044;最下層)
19. メナモミ属 果実(SK1138;最下層)
20. タンポポ属 果実(SK1048･(SK1022);最下層)
21. キク科 果実(SK1048･(SK1022);最下層)
22. キク科 果実(SK1151;4層(最下層))

3．西州津遺跡出土鍛冶・鋳造関連遺物の分析調査

日鉄テクノロジー株式会社　八幡事業所
鈴木瑞穂

1．調査対象

徳島県三好市池田町字州津に所在する、西州津遺跡から出土した古代～中世の鍛冶・鋳造関連遺物計11点（表1）を調査した。

2．調査項目

（1）外観観察

鉄滓の外観的な特徴を記載した。

（2）マクロ組織

試料を切り出した後、断面をエメリー研磨紙の #150、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3 μ m と 1 μ m で順を追って研磨し、断面全体像を撮影した。

（3）顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属鉄（または錆化鉄）部の組織観察を目的とする。金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真を撮影した。また金属鉄の組織観察には、3% ナイタル（硝酸アルコール）を腐食液に用いた。

（4）ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester）を用いて硬度を測定した。ビッカース硬さは測定箇所に圧子（136 ° の頂角をもったダイヤモンド）を押し込んだ時の荷重と、それにより残された窪み（圧痕）の対角線長さから求めた表面積から算出される。試料は顕微鏡用を併用し、鉄滓中の結晶は 50gf で測定した。

（5）EPMA 調査

EPMA（日本電子製㈱ JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成および鉄中非金属介在物の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

（6）化学組成分析

表1 供試材の履歴と調査項目

						計測値					調査項目				
符号	遺跡名	出土位置	実測番号	遺物名称	推定年代			金属探知器	マクロ	顕微鏡	ﾋﾞｯｶｰｽ				備考
						大きさ（mm）	重量（g）	反応	組織	組織	断面硬度	EPMA	化学分析	耐火度	
NSS-1	西州津	SD1008	2242	椀形鍛冶滓	古代～中世	77 × 70 × 21	168.6	なし	○	○	○	○	○		
NSS-2		SP1121	1529	椀形鍛冶滓		41 × 34 × 17	36.9	なし	○	○	○		○		
NSS-3		SX1006	2385	椀形鍛冶滓		34 × 30 × 17	22.9	なし	○	○	○		○		
NSS-4		SR1001	2828	炉壁（鋳造）		111 × 114 × 54	437.5	なし	○	○		○	○	○	
NSS-5			1156	羽口（鋳造）		64 × 70 × 30	93.0	なし	○	○					
NSS-6			2895	ｶﾞﾗｽ質滓		70 × 55 × 32	61.3	なし	○	○		○			
NSS-7			2951	ｶﾞﾗｽ質滓		58 × 43 × 31	39.9	なし	○	○					
NSS-8			2876	鉄製品		45 × 24 × 18	15.8	錆化	○	○					
NSS-9			2889	鉄製品		37 × 17 × 5	4.5	錆化	○	○		○			
NSS-10			2889	鉄製品		40 × 17 × 5	5.4	錆化	○	○		○			
NSS-11		包含層	2852	鍛冶滓		38 × 31 × 25	42.3	なし	○	○	○		○		

鉄滓の定量分析を実施した。測定元素と分析方法は以下の通りである。
全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。
炭素（C）：燃焼容量法、硫黄（S）：燃焼赤外吸収法。
二酸化硅素（SiO2）、酸化アルミニウム（Al2O3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K2O）、酸化ナトリウム（Na2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO2）、酸化クロム（Cr2O3）、五酸化燐（P2O5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）：誘導結合プラズマ発光分光分析法。

（７）耐火度

炉材（炉壁・羽口など）の耐軟化性を調査した。羽口粘土から三角錐の試験片（ゼーゲルコーン）を作り、温度を 10℃ /min の速度で 1000℃まで上昇させる。以降は 4℃ /min に昇温速度を落し、試験片が荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度（耐火度）を測定した。

３．調査結果

NSS － 1：椀形鍛冶滓

（１）**外観観察**：やや偏平な椀形鍛冶滓の破片（168.6g）である。表面には黄褐色の土砂が付着する。滓の地の色調は暗灰色で、まとまった鉄部はなく、着磁性は弱い。上面は比較的平坦で、下面には部分的に薄く灰褐色の鍛冶炉床土が付着する。側面の大半は破面で、気孔は少なく緻密である。

（２）**マクロ組織**：図版1①に示す。素地の灰色部は鍛冶滓で、上述したようにまとまった鉄部はみられない。また写真下側の黒灰色部は鍛冶炉床土である。

（３）**顕微鏡組織**：図版1②③に示す。滓中には白色樹枝状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、微細な暗灰色結晶ヘルシナイト（Hercynite：FeO・Al2O3）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：2FeO・SiO2）が晶出する。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。

（４）ビッカース断面硬度：図版1③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は467Hvであった。ウスタイトの文献硬度値（約450～500Hv）の範囲内であり、ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は688Hvであった。ファヤライトの文献硬度値（約600～700Hv）の範囲内で、ファヤライトと推定される（注１）。

（５）**EPMA調査**：図版1④に滓部の反射電子像（COMP）を示す。白色樹枝状結晶は特性X線像では鉄（Fe）、酸素（O）に反応がある。定量分析値は94.3%FeO（分析点1）であった。ウスタイト（Wustite：FeO）と推定される。淡灰色柱状結晶は特性X線像では鉄（Fe）、珪素（Si）、酸素（O）に反応がある。定量分析値は65.1%FeO－1.4%CaO－1.4%MgO－29.9%SiO2（分析点2）であった。淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：2FeO・SiO2）で、少量ライム（CaO）、マグネシア（MgO）を固溶する。微細な暗灰色結晶は特性X線像では、鉄（Fe）、アルミニウム（Al）、酸素（O）に強い反応がある。定量分析値は46.6%FeO－47.7%Al2O3（分析点3）であった。ヘルシナイト（Hercynite：FeO・Al2O3）と推定される。また素地の定量分析値は42.4%SiO2－22.7%Al2O3－11.2%CaO－6.8%K2O－12.5%FeO（分析点4）であった。非晶質珪酸塩である。

（６）**化学組成分析**：表2に示す。全鉄分（Total Fe）48.01%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.11%、酸化第1鉄（FeO）が46.77%、酸化第2鉄（Fe2O3）16.51%の割合であった。造滓成分（SiO2＋Al2O3＋CaO＋MgO＋K2O＋Na2O）31.83%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）2.79%と低めであった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO2）は0.39%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.12%、銅（Cu）も＜0.01%と低値であった。

当鉄滓は鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO2主成分）主体で、製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO2、V）は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

NSS－2：椀形鍛冶滓

（1）外観観察：小形で偏平な椀形鍛冶滓の破片（36.9g）である。表面に薄く黄褐色の土砂や茶褐色の錆化鉄が付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は暗灰色で、着磁性は弱い。上面は比較的平坦で、下面は細かい木炭痕による凹凸が著しい。また破面の気孔は少なく緻密である。

（2）マクロ組織：図版2①に示す。素地の灰色部は鍛冶滓で、内部にごく微細な青灰色の錆化鉄が散在する。

（3）顕微鏡組織：図版2②③に示す。②および③の右側は滓部の拡大である。滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。一方、③の左側は木炭破片である。観察面は柾目で多列の放射組織が確認される。この特徴から、広葉樹材の黒炭と推定される。

（4）ビッカース断面硬度：図版2②の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は455、460Hvであった。ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の定量分析値は658Hvであった。ファヤライトと推定される。

（5）化学組成分析：表2に示す。全鉄分（Total Fe）の割合は60.28%と高値であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.13%、酸化第1鉄（FeO）が66.06%、酸化第2鉄（Fe2O3）12.58%であった。造滓成分（SiO2＋Al2O3＋CaO＋MgO＋K2O＋Na2O）の割合は19.97%と低めで、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は1.44%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO2）は0.12%、バナジウム（V）が＜0.01%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）も0.07%、銅（Cu）＜0.01%と低値であった。

当鉄滓は鉄酸化物（FeO）の割合が高く、主に熱間加工時の鉄材の吹き減り（酸化に伴う損失）による鍛錬鍛冶滓と推定される。

NSS－3：椀形鍛冶滓

（1）外観観察：ごく小形の椀形鍛冶滓（22.9g）の破片である。表面に薄く黄褐色の土砂や茶褐色の錆化鉄が付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は暗灰色で、着磁性は弱い。上面は比較的平坦で、下面は細かい木炭痕による凹凸が著しい。

（2）マクロ組織：図版2④に示す。素地の灰色部は鍛冶滓で、内部に微細な青灰色の錆化鉄が散在する。

（3）顕微鏡組織：図版2⑤⑥に示す。滓中には白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。また微小明白色部は金属鉄、青灰色部は錆化鉄である。

（4）ビッカース断面硬度：図版2⑤の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は470Hvであった。ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は744、774、778Hvであった。ファヤライトの文献硬度値よりもやや高めであり、マグネシア（MgO）などを少量固溶してい

表2 供試材の化学組成

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe2O3)	＊ 二酸化珪素 (SiO2)	＊ 酸化アルミニウム (Al2O3)	＊ 酸化カルシウム (CaO)	＊ 酸化マグネシウム (MgO)	＊ 酸化カリウム (K2O)	＊ 酸化ナトリウム (Na2O)	＊ 酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO2)	酸化クロム (TiO2)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P2O5)	#Ig loss 炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化ジルコニウム (ZrO2)	耐火度 (℃)	Σ＊ 造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO2 Total Fe
NSS-1	西州津	SD1008	椀形鍛冶滓	古代～中世	48.01	0.11	46.77	16.51	21.38	6.05	1.69	1.10	1.11	0.50	0.12	0.39	0.02	0.02	0.19	0.39	<0.01	<0.01	<0.01		31.83	0.663	0.008
NSS-2		SP1121	椀形鍛冶滓		60.28	0.13	66.06	12.58	14.69	2.71	0.95	0.49	0.78	0.35	0.07	0.12	<0.01	0.02	0.12	0.17	<0.01	0.02	<0.01		19.97	0.331	0.002
NSS-3		SX1006	椀形鍛冶滓		52.92	0.11	55.29	14.06	21.79	3.21	1.53	0.80	0.94	0.41	0.08	0.17	0.01	0.04	0.29	0.15	<0.01	<0.01	<0.01		28.68	0.542	0.003
NSS-4		SR1001	炉壁（鍛造）		4.25	0.05	1.73	4.08	61.25	15.76	1.23	1.79	1.71	1.91	0.11	0.75	0.02	0.03	0.10	#8.47	<0.01	<0.01	0.01	<1120	83.65	19.682	0.176
NSS-11		包含層	鍛冶滓		52.16	0.15	61.32	6.22	22.21	3.93	3.08	0.62	1.15	0.53	0.06	0.23	0.03	0.04	0.38	0.04	0.01	<0.01	0.01		31.52	0.604	0.004

る可能性が考えられる。

（５）**化学組成分析**：表2に示す。全鉄分（Total Fe）52.92%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.11%、酸化第1鉄（FeO）が55.29%、酸化第2鉄（Fe2O3）14.06%の割合であった。造滓成分（SiO2＋Al2O3＋CaO＋MgO＋K2O＋Na2O）28.68%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は2.33%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO2）は0.17%、バナジウム（V）＜0.01%であった。また酸化マンガン（MnO）は0.08%、銅（Cu）＜0.01%と低値であった。

当鉄滓は鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO2主成分）主体で、製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO2、V）は低値であった。熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛冶滓と推定される。

NSS－４：炉壁

（１）**外観観察**：鋳造用溶解炉の炉壁破片（437.5g）と推定される。強い熱影響を受けて内面全体が黒色ガラス質化している。側面1面は平坦に調整されている。溶解した金属を受ける底部（ル）の上端部破片の可能性が考えられる。ガラス質滓表層には点々と茶褐色の錆化鉄が付着する。この特徴から鉄鋳物の製作に用いられたと推定される。炉壁胎土は灰褐色～淡褐色で、籾殻が多量に混和されている。また石英粒なども少量確認される。

（２）**マクロ組織**：図版3①に示す。写真上側（明灰色部）は内面表層のガラス質滓、写真下側の黒灰色部は炉壁胎土である。

（３）**顕微鏡組織**：図版3②③に示す。②は内面表層の滓部である。最表層の明白色部はヘマタイト（Hematite：Fe2O3）、その内側の灰褐色結晶はマグネタイト（Magnetite：FeO･Fe2O3）またはウスタイト、淡灰色結晶はファヤライトと推測される。

③はガラス質滓部分で、内部に熱影響を受けた石英粒が点在する。さらに③右側は微細な金属鉄粒である。素地はパーライト（Pearlite）で、白色針状のフェライト（Ferrite：α鉄）が析出する。亜共析（C＜0.77%）組織であった。鋳鉄組織ではないが、酸化雰囲気に晒されて脱炭したものと推測される。

（４）EPMA調査：図版3④に内面表層の滓部の反射電子像（COMP：図版1②の拡大）を示す。微細な明白色部の定量分析値は84.4%FeO（分析点5）であった。ヘマタイト（Hematite：Fe2O3）と推測される。灰褐色結晶の定量分析値は86.7%FeO（分析点6）であった。褐色結晶はマグネタイト（Magnetite：FeO･Fe2O3）またはウスタイト（Wustite：FeO）と推測される。淡灰色結晶の定量分析値は62.9%FeO－2.9%MgO－27.4%SiO2－3.3%P2O5（分析点7）であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）で、マグネシア（MgO）、燐酸（P2O5）を固溶する。

もう1視野、図版3⑤にガラス質滓の反射電子像（COMP：図版3③の拡大）を示す。暗灰色粒の定量分析値は96.4%SiO2（分析点9）であった。石英（Quartz：SiO2）である。素地部分の定量分析値は61.0%SiO2－17.7%Al2O3－4.7%CaO－1.8%MgO－5.0%K2O－5.0%FeO（分析点10）であった。非晶質珪酸塩である。また明白色粒の定量分析値は97.9%Fe（分析点11）であった。金属鉄である。

（５）化学組成分析：表2に示す。炉壁胎土部分の強熱減量（Ig loss）は8.47%であった。比較的結晶構造水が保持された状態である。軟化性成分の鉄分（Fe2O3）4.08%と高めであった。耐火性に有利なアルミナ（Al2O3）は15.76%であった。通常の粘土の範囲（約15～18%）である。

（６）耐火度：＜1120℃であった。古代～中世の鋳造用溶解炉としてはやや低めの耐火性状であった。

当炉壁の内面表層の滓は鉄酸化物主体で、炉で溶解した金属（鋳鉄）が炉壁内面と接触・反応して生じたものと考えられる。さらにガラス質滓中に微細な金属鉄粒も確認されたことから、鉄鋳物の製作に用いられた炉壁片と推定される。

NSS－5：羽口

（1）外観観察：羽口先端部の破片（93.0g）である。強い熱影響を受けて、外面全体が黒色ガラス質化している。その表層には部分的に薄く茶褐色の錆化鉄が付着する。内面（穿孔部）の先端には、着磁性がある灰色の滓が薄く付着する。また胎土部分は淡橙色で、籾殻が多量に混和されている。石英粒なども少量確認される。筒状の鍛冶羽口とはやや異なる形状で、溶解炉の炉底と推測される炉壁片（NSS－4）と同じ遺構から出土していることから、鋳造用溶解炉の羽口先端の可能性が考えられる。

（2）マクロ組織：図版4①に示す。写真上側は内面（穿孔部）の先端で、表層の明灰色部は滓である。また写真右側が羽口外面表層でガラス質化が進んでいる。

（3）顕微鏡組織：図版4②③に示す。②は穿孔部先端表層の滓の拡大である。滓中には白色粒状結晶ウスタイトが晶出する。③は外面表層のガラス質滓の拡大である。内部に熱影響を受けた石英粒が点在する。また中央の黒灰色～青灰色粒は錆化鉄である。

以上のように、当羽口には鉄酸化物主体の滓や錆化鉄が付着しており、鉄器生産に用いられたことが確認された。

NSS－6：ガラス質滓

（1）外観観察：やや小形で椀状のガラス質滓（61.3g）である。滓の色調は黒灰色で、着磁性はほとんどない。軽い質感で、粘土溶融物主体の滓と判断される。表層には点々と茶褐色の錆化鉄が付着する。また長さ2㎝大の木炭痕が複数点在しており、なかには木炭が残存するものもある。鍛冶炭としては木炭が大きいことと、溶解炉の炉底と推測される炉壁片（NSS－4）と同じ遺構から出土していることから、鋳造用溶解炉内面が溶融して生じたガラス質滓の可能性が考えられる。

（2）マクロ組織：図版4④に示す。素地はガラス質滓で、内部には熱影響を受けた石英粒が点在する。炉材粘土中に混和されたものと推測される。また写真右下に木炭破片が確認された。

（3）顕微鏡組織：図版4⑤⑥および図版5①②に示す。図版4⑤は木炭破片の拡大で、木口面が観察される。年輪界に沿って大導管が並ぶ広葉樹の環孔材であった。さらに円形の小導管が放射方向に並んでいる。また広放射組織も確認される。これらの特徴から、クヌギ材の黒炭と推定される。

図版4⑥の中央はガラス質滓中の微細な金属鉄粒である。素地はパーライトで、白色針状のセメンタイト（Cementite：Fe3C）が析出する。過共析（C＞0.77%）組織であった。また図版5①②の中央もガラス質滓中の微細な金属鉄粒である。ともに素地はパーライトで、白色針状のフェライトが析出する亜共析（C＜0.77%）組織であった。

（4）EPMA調査：図版5③にガラス質滓中の金属鉄粒の反射電子像（COMP：図版5②の拡大）を示す。特性X線像では、鉄中の不定形灰褐色部と対応して燐（P）に反応がみられる。定量分析値は85.9%Fe－10.2%P（分析点12）であった。燐化鉄共晶（α＋Fe3P）と推定される。

以上のように、当滓中には微細な金属鉄粒が複数確認された。この特徴から、鉄器生産に伴う炉材粘土の溶融物（ガラス質滓）と判断される。

NSS－7：ガラス質滓

（1）外観観察：ガラス質滓（NSS－6）とよく似た、小形のガラス質滓（39.9g）である。滓の色調は黒灰色で、着磁性はほとんどない。軽い質感で、粘土溶融物主体の滓と判断される。表層には点々と茶褐色の錆化鉄が付着する。また長さ3㎝大の大形の木炭痕が残る。

（2）マクロ組織：図版5④に示す。素地はガラス質滓で、内部には熱影響を受けた石英粒が点在する。炉材粘土中に混和されたものと推測される。

（3）顕微鏡組織：図版5⑤⑥に示す。ガラス質滓中には微細な金属鉄（明白色粒）が複数確認され

た。

以上のように、当滓中にも微細な金属鉄が多数確認された。ガラス質滓（NSS－6）と同様、鉄器生産に伴う炉材粘土の溶融物（ガラス質滓）と判断される。

NSS－8：鉄製品

（1）**外観観察**：不定形小形の鉄製品の破片（15.8g）である。表面全体が黄褐色の土砂で厚く覆われる。土砂中には微細な木炭片が複数含まれる。全体に金属探知機反応はなく、完全に錆化していると考えられる。また表面に不規則な放射割れがみられることから、鋳造鉄器の破片の可能性が高いと考えられる。

（2）**マクロ組織**：図版6①に横断面を示す。厚さ5㎜程の鋳造鉄器片であった。内部は完全に錆化しているが、金属組織痕跡が残存する。

（3）**顕微鏡組織**：図版6②③に示す。②中央右寄りに片状黒鉛（Graphite：C）が若干析出するが、ほぼ全面蜂の巣状のレデブライト（Ledeburite）が晶出する、共晶組成白鋳鉄（C：4.26%）といえる。

（4）**EPMA調査**：図版6④に錆化鉄部の反射電子像（COMP：図版6②の拡大）を示す。特性X線像では、片状黒色部に対応して炭素（C）に反応がある。黒鉛（Graphite：C）と判断される。

当遺物はほぼ全体が共晶組成白鋳鉄組織の鉄片であった。

NSS－9：鉄製品

（1）**外観観察**：小形の鉄器片（4.5g）である。刀子等の刃部破片と推測される。表面全体が黄褐色の土砂で厚く覆われる。全体に金属探知機反応はなく、完全に錆化していると考えられる。

（2）**マクロ組織**：図版6⑤横断面に示す。薄手（棟側の厚さが3.5㎜程）の両刃の刃部破片である。内部は完全に錆化している。

（3）**顕微鏡組織**：図版6⑥⑦に示す。錆化鉄部の拡大である。各箇所の炭素量の推定は困難な状態であったが、局部的にパーライト組織の痕跡が残存しており、本来は亜共析（C＜0.77%）鋼であったと推定される。

NSS－10：鉄製品

（1）**外観観察**：小形の鉄器破片（5.4g）である。両側に関が観察される。刀子の刃部から茎部の破片と推測される。鉄製品（NSS－9）と同じ遺構から出土しており、接合はしないが同一個体の可能性が考えられる。表面全体が黄褐色の土砂で覆われ、全体に金属探知機反応はなく、完全に錆化している。

（2）**マクロ組織**：図版7①に刃部の横断面を示す。鉄製品（NSS－9）と同様、薄手（棟側の厚さが4㎜弱）の両刃の刃部破片である。内部は完全に錆化している。

（3）**顕微鏡組織**：図版7②③に示す。錆化鉄部の拡大である。②の中央の淡茶褐色多角形結晶はウルボスピネル（Ulvospinel：2FeO･TiO2）と推測される。折り返し鍛錬に伴い製品の内部に取り込まれた非金属介在物と考えられる。

また③の箇所ではパーライト組織の痕跡が残存しており、本来は亜共析（C＜0.77%）鋼であったと推定される。

（4）**EPMA調査**：図版7④に非金属介在物の反射電子像（COMP：図版7②の拡大）を示す。淡茶褐色多角形結晶は特性X線像ではチタン（Ti）に強い反応がある。定量分析値は61.0%FeO－28.2%TiO2－4.4%Al2O3－2.3%V2O3（分析点13）、59.8%FeO－27.7%TiO2－4.6%Al2O3－4.1%V2O3（分析点14）であった。ウルボスピネル（Ulvospinel：2FeO･TiO2）と推定される。

以上のように、当遺物中には非金属介在物として、ウルボスピネル（Ulvospinel：2FeO･TiO2）が確認

された。これは砂鉄（含チタン鉄鉱）を製錬した時の反応副生物であり、始発原料が砂鉄であったことを示す特徴といえる。

NSS－11：鍛治滓

（1）**外観観察**：やや小形の鍛治滓破片（42.3g）である。滓の色調は黒灰色で、着磁性は弱い。側面は全面破面で、気孔は少なく緻密である。

（2）**マクロ組織**：図版7⑤に示す。素地の灰色部は鍛治滓で、まとまった鉄部はみられない。

（3）**顕微鏡組織**：図版7⑥に示す。滓中には白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

（4）**ビッカース断面硬度**：図版7⑥の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は480、483Hvであった。ウスタイトと推定される。また淡灰色柱状結晶の硬度値は726、744Hvであった。ファヤライトの文献硬度値よりもやや高めであり、マグネシア（MgO）などを少量固溶している可能性が考えられる。

（5）**化学組成分析**：表2に示す。全鉄分（Total Fe）52.16%に対して、金属鉄（Metallic Fe）は0.15%、酸化第1鉄（FeO）が61.32%、酸化第2鉄（Fe2O3）6.22%の割合であった。造滓成分（SiO2＋Al2O3＋CaO＋MgO＋K2O＋Na2O）は31.52%で、このうち塩基性成分（CaO＋MgO）は3.70%であった。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO2）は0.23%、バナジウム（V）が0.01%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は0.06%、銅（Cu）も＜0.01%と低値であった。

当鉄滓は鉄酸化物（FeO）と炉材粘土の溶融物（SiO2主成分）主体で、製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO2、V）は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛治滓と推定される。

4．まとめ

西州津遺跡の出土遺物を調査した結果、当遺跡内では鉄材を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器を製作する作業と、鋳鉄を溶解・鋳造する作業の双方が行われていたことが明らかとなった。詳細は以下のとおりである。

（1）鍛治関連遺物

調査を実施した鉄滓4点（NSS－1～3、11）はすべて鍛錬鍛治滓と推定される。いずれも製鉄原料の砂鉄起源の脈石成分（TiO2、V）は低値であった。熱間での鍛打加工に伴う反応副生物であり、遺跡内で鍛造鉄器が製作されていたことを示すものといえる。

また椀形鍛治滓（NSS－2）に付着した木炭の組織から、広葉樹材を鍛治炭に用いていたと考えられる。

（2）鋳造関連遺物

SR1001からは、鋳造用溶解炉の底部（ル）と考えられる炉壁片（NSS－4）が出土している。内面表層には、溶解した金属（鋳鉄）が炉壁内面と接触・反応して生じたものと考えられる鉄酸化物主体の滓や微細な金属鉄粒が確認された。鉄鋳物の製作に用いられたと推定される。

同じ遺構から出土した羽口（NSS－5）とガラス質滓（NSS－6、7）にも、同様に鉄酸化物主体の滓や微小金属鉄粒が確認された。これらは鉄鋳物の製作に伴う遺物群と推測される。

またガラス質滓（NSS－6）中の木炭破片は広葉樹（クヌギ）材と推定される。鋳鉄の溶解にも広葉樹材の黒炭を燃料にしていたと考えられる。

（3）鉄製品

鉄製品（NSS－8）は鋳造鉄器片であった。鉄鍋などの器物が広く普及する中世以降には、こうした鋳造鉄器の小破片が鋳造・鍛治遺跡から多数出土するようになる。器物として破損した後には、鋳造・鍛

治の原料として活用されたことを示すもので、鉄製品（NSS－8）にもそうした用途があった可能性がある。

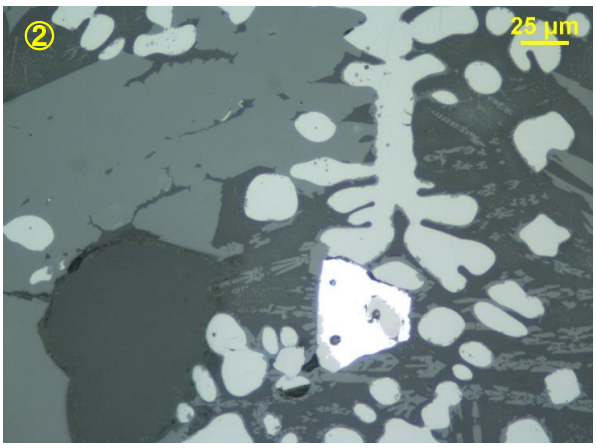
一方、鉄製品（NSS－9、10）は鍛造鉄器であった。このうち鉄製品（NSS－10）中には、非金属介在物としてウルボスピネル（Ulvospinel：2FeO･TiO2）が確認された。これは砂鉄（含チタン鉄鉱）を製錬した時の反応副生物で、始発原料が砂鉄であったことを示す特徴といえる。ただし上述したように、当遺跡の出土鉄滓4点ともこうした鉄チタン酸化物の影響のない鍛錬鍛治滓であった。このため、すでに折り返し鍛錬された鉄素材や、製品の形で搬入された鉄器中にこうした介在物を含むものがあった可能性が考えられる。

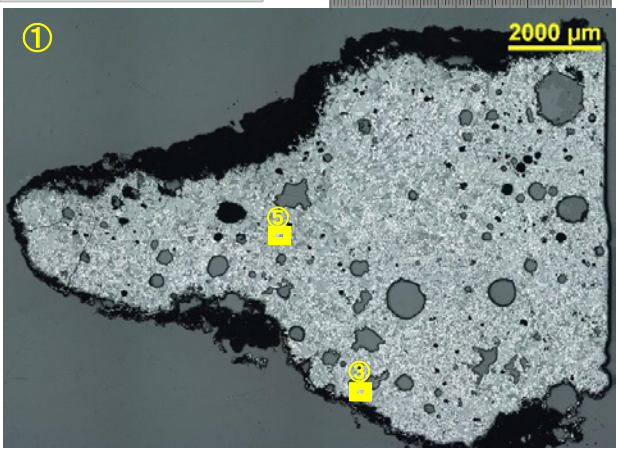
（注）

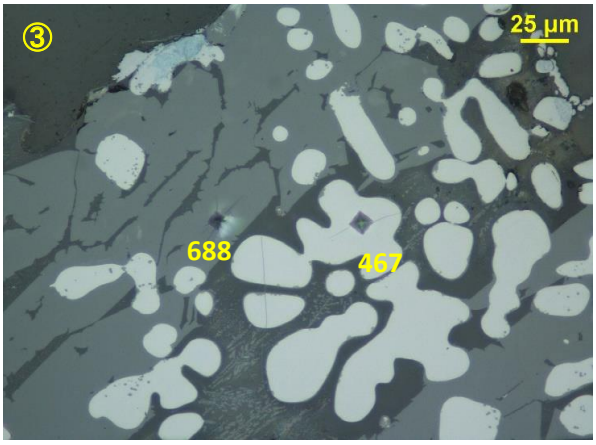
（1）日刊工業新聞社（1968）『焼結鉱組織写真および識別法』

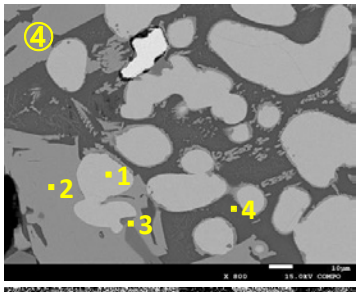
ウスタイトは約 450 ～ 500Hv、マグネタイトは約 500 ～ 600Hv、ファイヤライトは約 600 ～ 700Hv の範囲が提示されている。

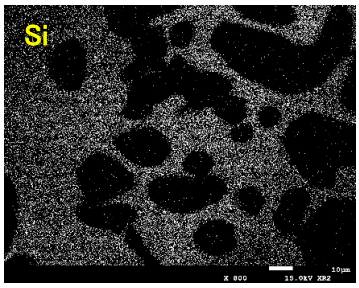
NSS-1
椀形鍛冶滓
①ﾏｸﾛ組織
②③滓部:ｳｽﾀｲﾄ（467Hv）・微細ﾍﾙｼﾅｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ（688Hv）、明白色部:微小金属鉄

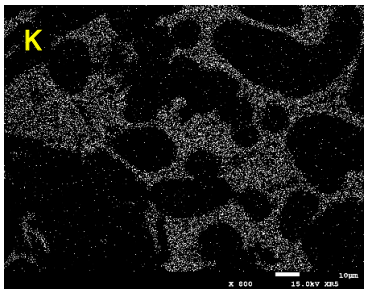


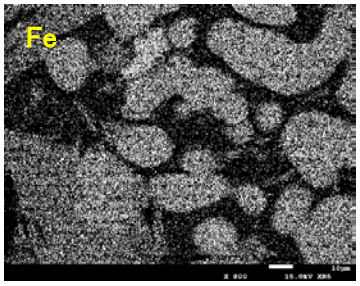


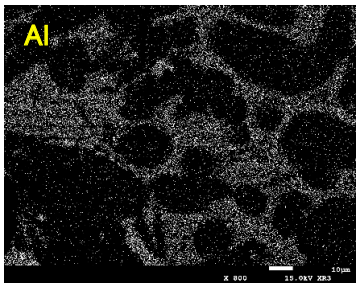


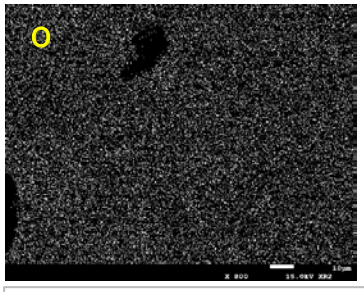


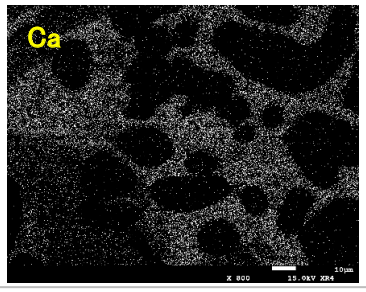












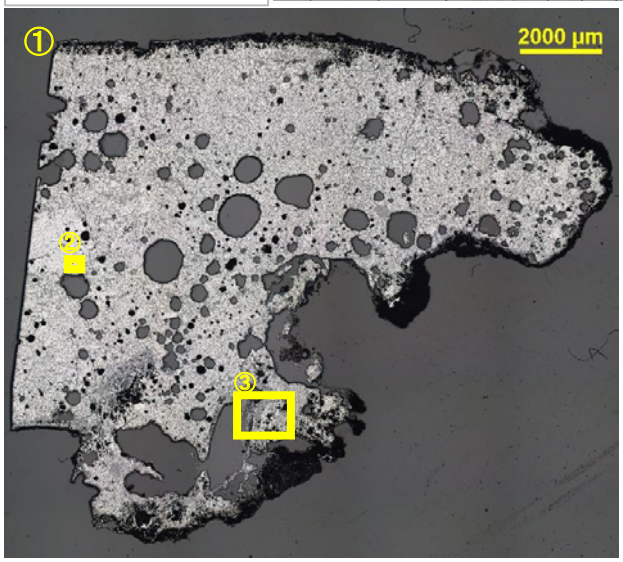
定量分析値

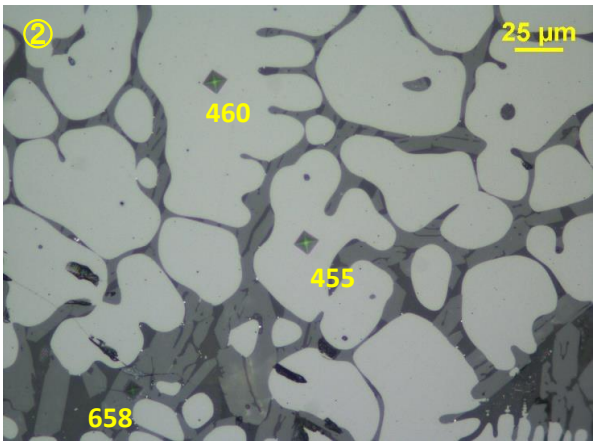
Element	1	2	3	4
MgO	0.048	1.377	0.299	0.001
SiO_2	0.328	29.940	0.241	42.425
Na_2O	–	–	0.001	0.755
Al_2O_3	0.029	–	47.674	22.657
CaO	–	1.417	0.010	11.154
TiO_2	0.670	0.054	0.798	0.119
S	–	0.006	0.006	0.077
ZrO_2	0.014	–	–	0.003
P_2O_5	0.013	0.128	–	1.439
SrO	–	–	0.022	–
K_2O	0.004	–	0.005	6.794
CuO	0.065	–	0.030	0.017
FeO	94.316	65.125	46.597	12.469
MnO	0.073	0.228	0.051	0.030
Cr_2O_3	0.034	0.017	0.107	0.007
V_2O_3	0.024	–	0.085	–
Total	95.618	98.292	95.926	97.947

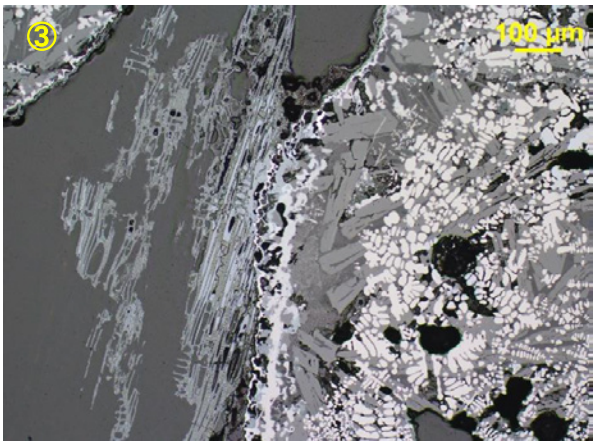
滓部の反射電子像（COMP）および特性X線像

図版1　椀形鍛冶滓の顕微鏡写真・EPMA調査結果

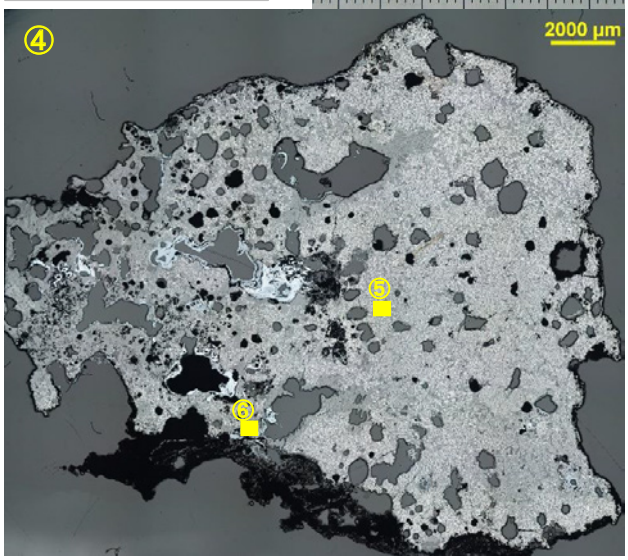
NSS-2
椀形鍛冶滓
①ﾏｸﾛ組織
②③右側 滓部:ｳｽﾀｲﾄ（455・460Hv）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ（658Hv）、明白色部:微小金属鉄、③左側 木炭破片、板目面：放射組織 広葉樹材

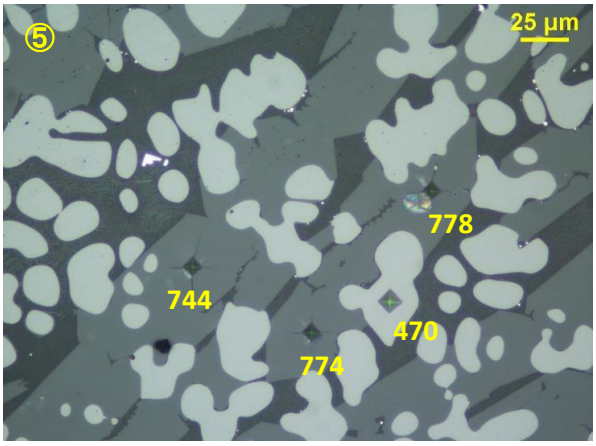


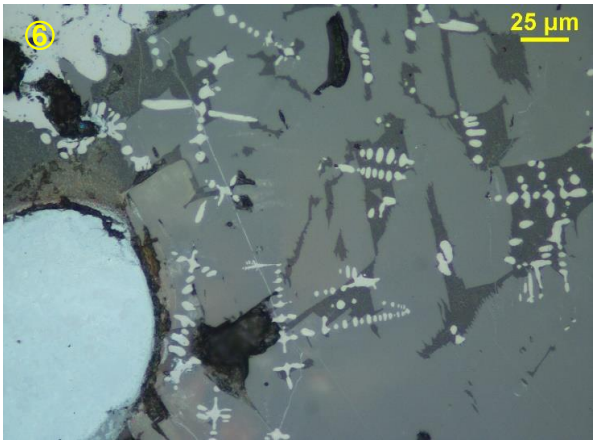




NSS-3
椀形鍛冶滓
④ﾏｸﾛ組織
⑤⑥滓部:ｳｽﾀｲﾄ（470Hv）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ（744、774、778Hv）、明白色部:微小金属鉄

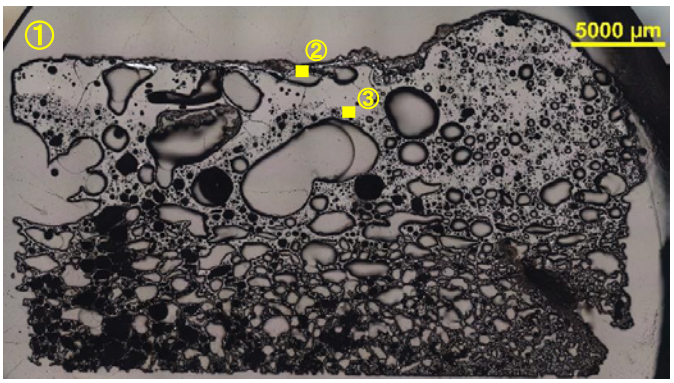


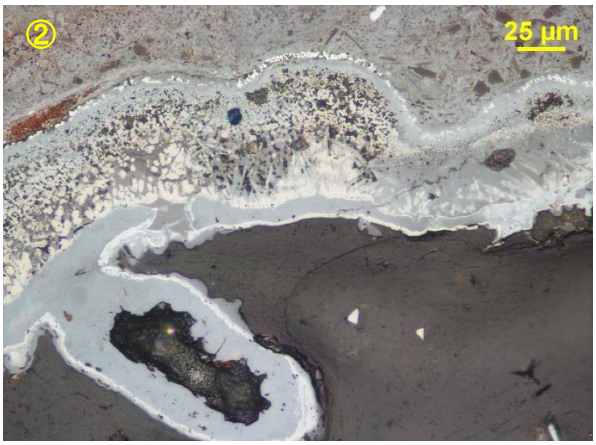


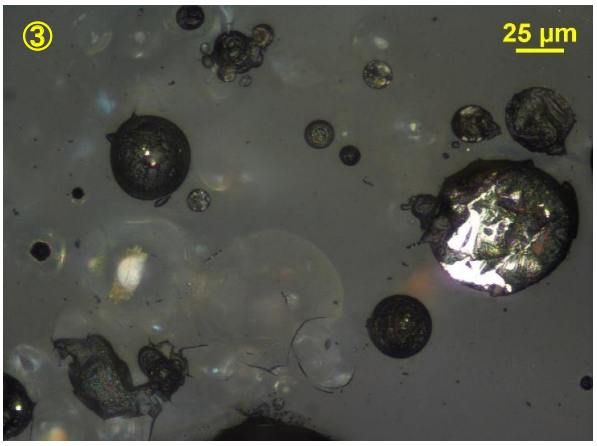


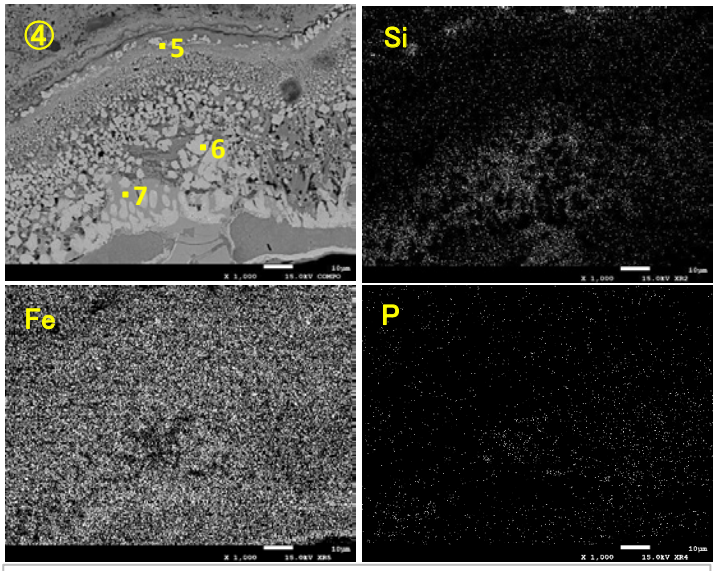
図版2　椀形鍛冶滓の顕微鏡写真

NSS-4 炉壁
①ﾏｸﾛ組織
②内面表層滓部:ﾍﾏﾀｲﾄ・ﾏｸﾞﾈﾀｲﾄまたはｳｽﾀﾀｲﾄ・ﾌｧﾔﾗｲﾄ
③ｶﾞﾗｽ質滓、右側:微小金属鉄粒、亜共析組織

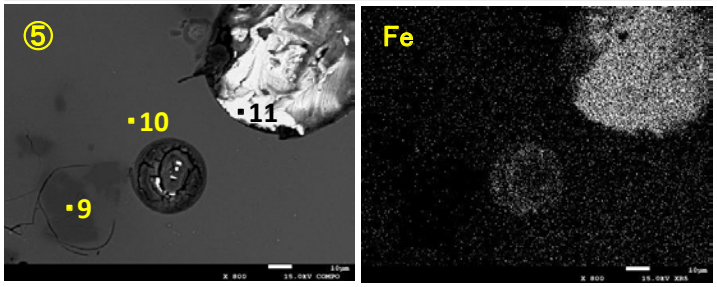








内面表層滓部の反射電子像(COMP)および特性X線像



ｶﾞﾗｽ質滓と微小金属鉄粒の反射電子像(COMP)・特性X線像

定量分析値

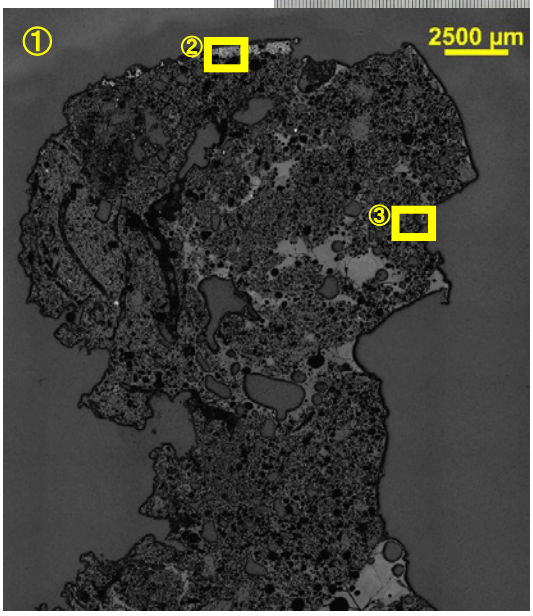
Element	5	6	7
MgO	0.027	0.286	2.944
SiO_2	0.245	0.506	27.399
Na_2O	–	0.003	0.008
Al_2O_3	–	0.596	0.009
CaO	–	0.016	0.407
TiO_2	0.014	0.261	0.013
S	0.005	0.004	0.007
ZrO_2	0.003	–	0.012
P_2O_5	0.250	–	3.315
K_2O	0.003	0.019	–
CuO	0.069	0.031	–
FeO	84.353	86.691	62.945
MnO	0.008	0.035	0.181
Cr_2O_3	0.043	0.047	0.005
V_2O_3	0.023	0.011	–
Total	85.043	88.506	97.245

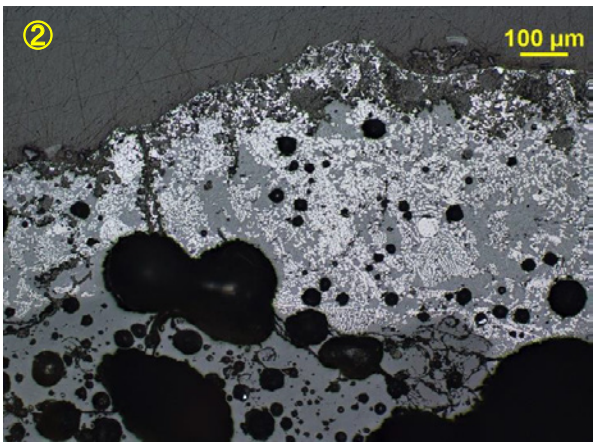
Element	9	10
MgO	0.002	1.761
SiO_2	96.377	61.100
Na_2O	–	0.602
Al_2O_3	–	17.650
CaO	0.031	4.702
TiO_2	–	0.940
S	–	0.017
ZrO_2	–	0.039
P_2O_5	0.034	0.095
K_2O	0.026	4.999
FeO	0.153	5.037
MnO	–	0.122
Cr_2O_3	0.027	0.019
V_2O_3	–	0.034
Total	96.650	97.117

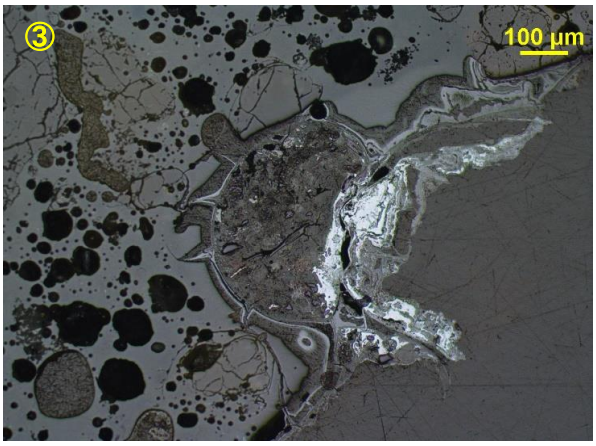
Element	11
N	0.411
O	0.264
Si	0.020
Na	0.003
S	0.007
P	0.067
K	0.042
Ti	0.026
Fe	97.890
Mn	0.006
Cr	0.007
Total	98.743

図版3　炉壁の顕微鏡写真・EPMA調査結果

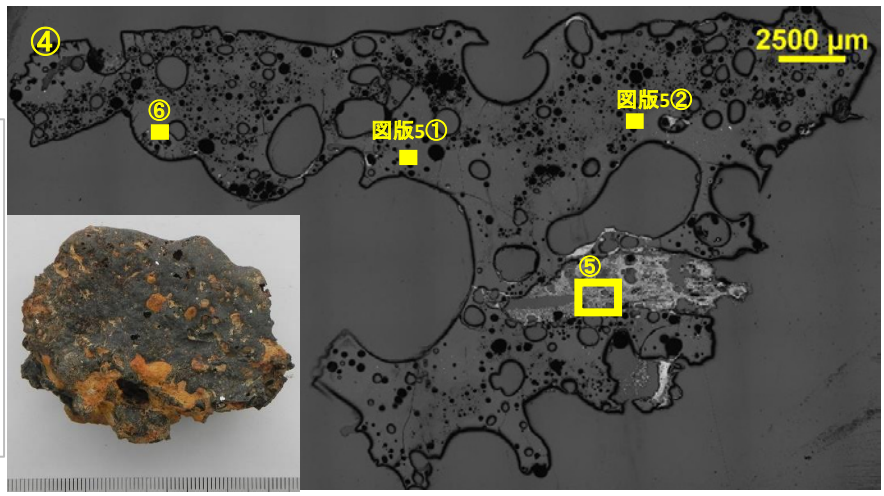
NSS-5 羽口
①ﾏｸﾛ組織
②外面表層 滓部:ｳｽﾀｲﾄ、③黒灰～青灰色粒:錆化鉄

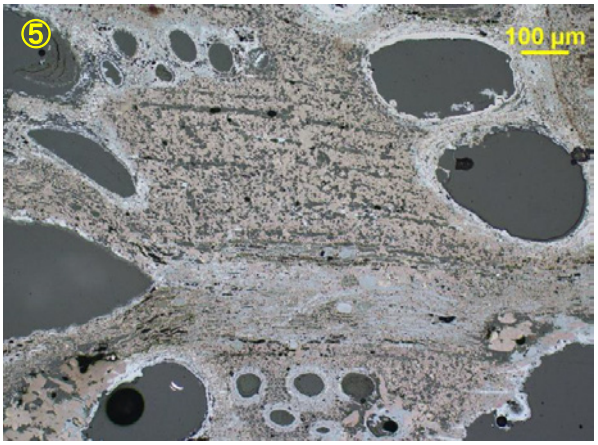


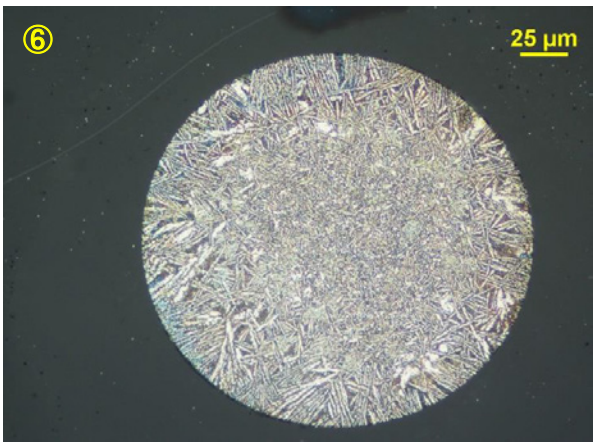




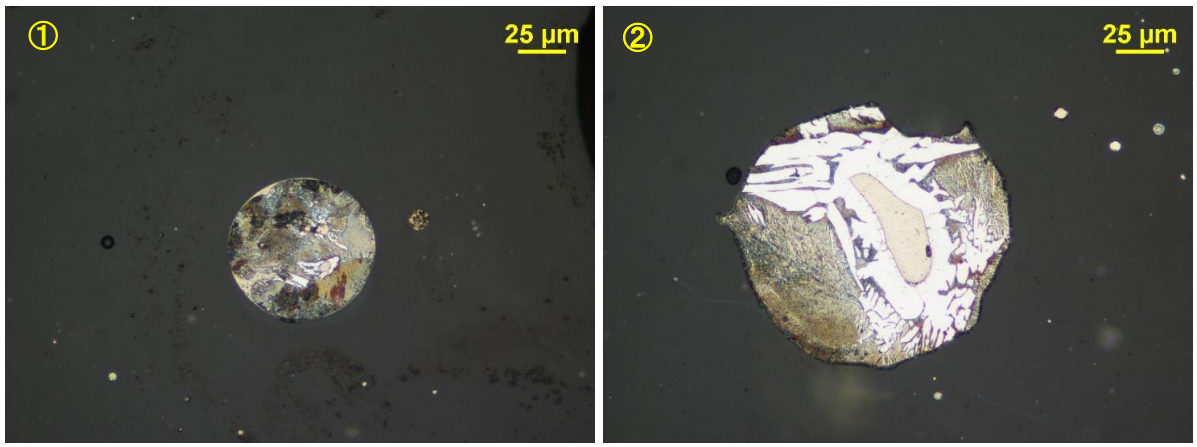
NSS-6 ｶﾞﾗｽ質滓
④ﾏｸﾛ組織、
⑤木炭破片:木口面、広葉樹環孔材、広放射組織、
⑥ｶﾞﾗｽ質滓、微小金属鉄粒過共析組織、図版5①②中央:微小金属鉄粒a亜共析組織（燐化鉄共晶）

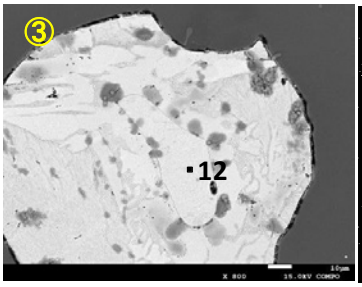


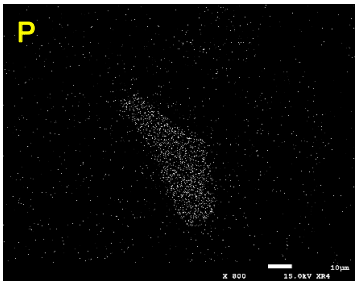




図版4　羽口・ｶﾞﾗｽ質滓の顕微鏡写真





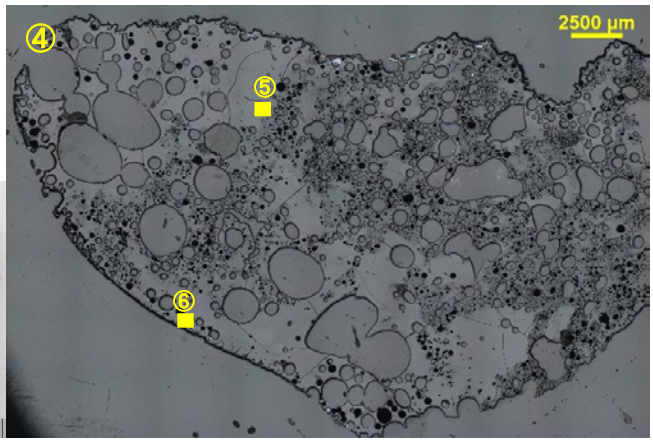


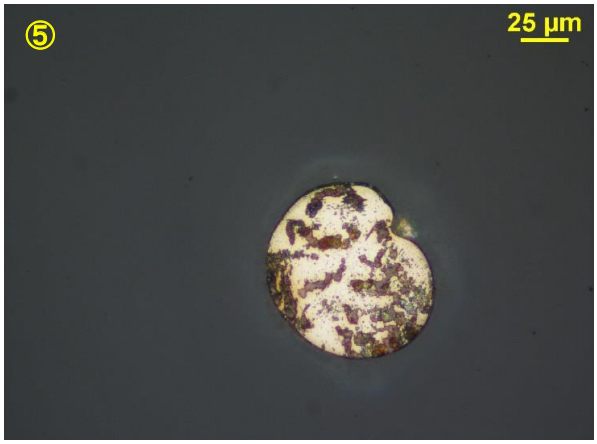
ｶﾞﾗｽ質滓中の微小金属粒の反射電子像（COMP）および特性X線像

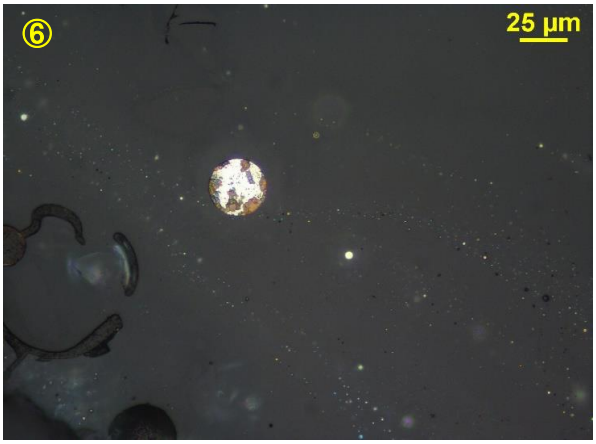
定量分析値

Element	12
N	0.412
O	0.773
Si	0.017
S	0.326
Zr	0.172
P	10.245
K	0.012
Fe	85.850
Cr	0.033
Total	97.840

NSS-7
ｶﾞﾗｽ質滓
④ﾏｸﾛ組織
②③内面表層ｶﾞﾗｽ質滓、微小金属鉄粒（茶褐色部:錆化鉄）

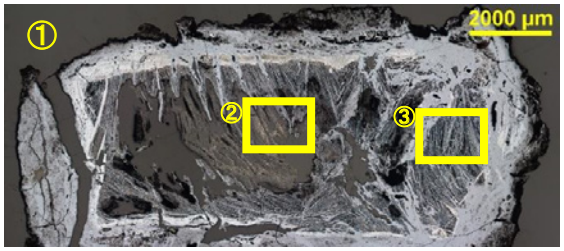


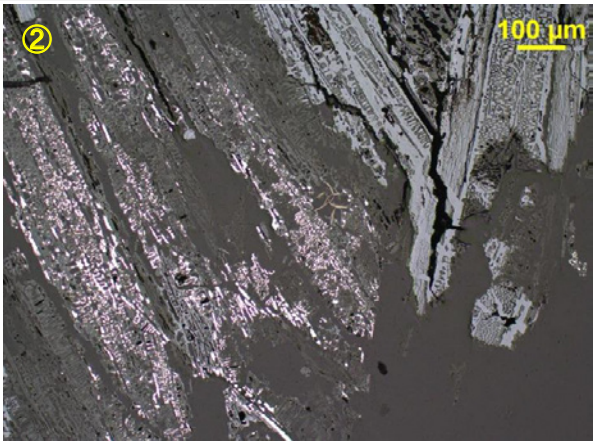


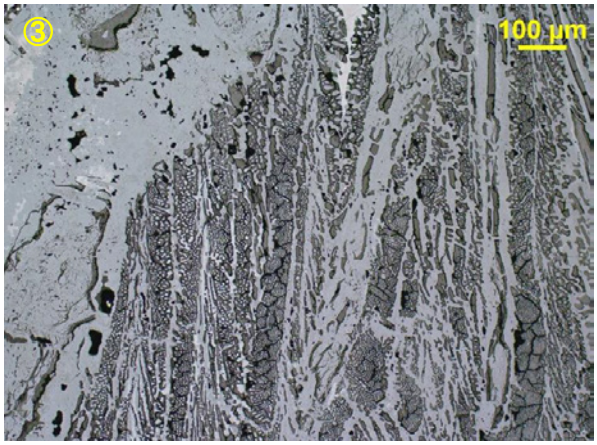


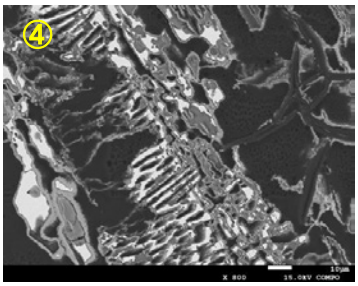
図版5　ｶﾞﾗｽ質滓（NSS-6）のEPMA調査結果・ｶﾞﾗｽ質滓（NSS-7）の顕微鏡写真

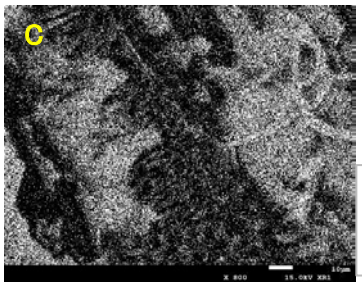
NSS-8 鉄製品
（鋳造鉄器）
①ﾏｸﾛ組織、②③錆化鉄、
共晶組成白鋳鉄組織





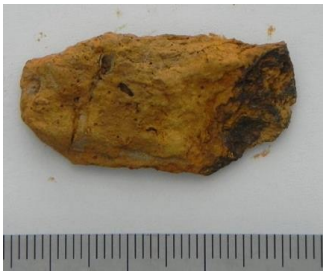


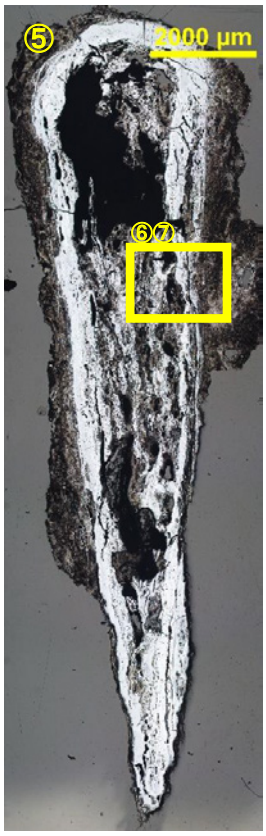


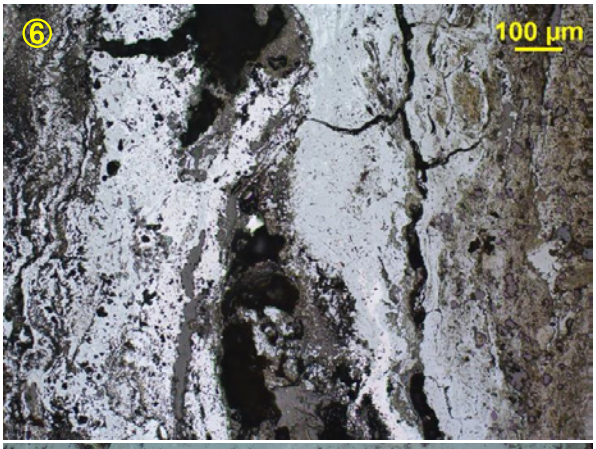


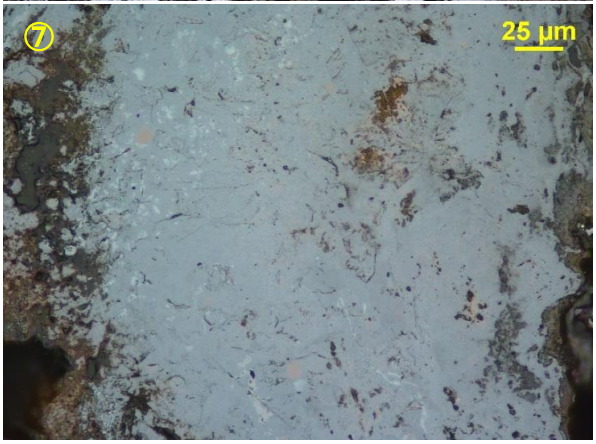
鋳造鉄器の反射電子像（COMP）
および黒鉛の特性X線像

NSS-9 鉄製品
（鍛造鉄器）
⑤ﾏｸﾛ組織、⑥⑦錆化鉄、
亜共析組織痕跡



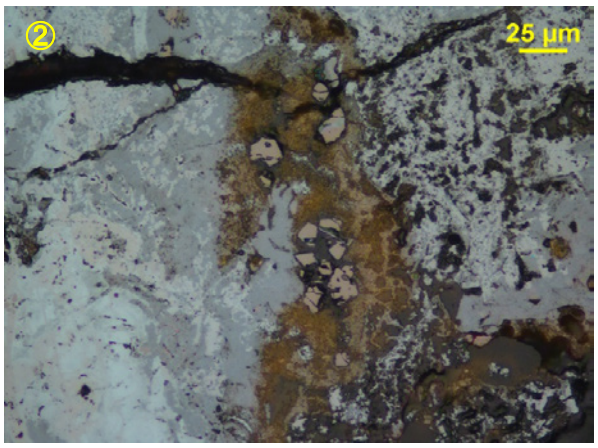


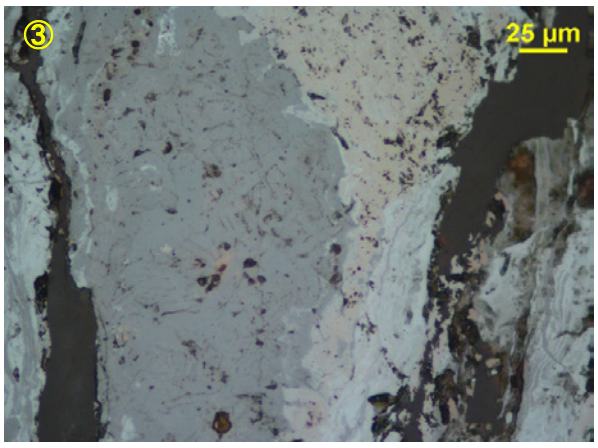


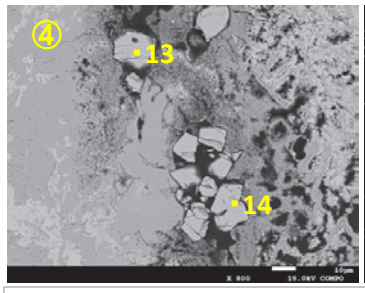


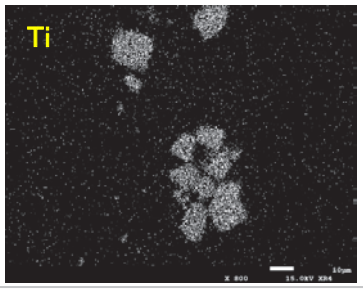
図版6　鉄製品の顕微鏡写真･EPMA調査結果

NSS-10 鉄製品
（鍛造鉄器）
①ﾏｸﾛ組織、②③錆化鉄、
亜共析組織痕跡
②中央:鉄中非金属介在物:
ｳﾙﾎﾞｽﾋﾟﾈﾙ







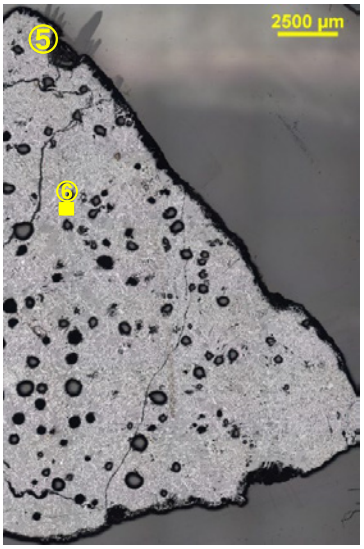


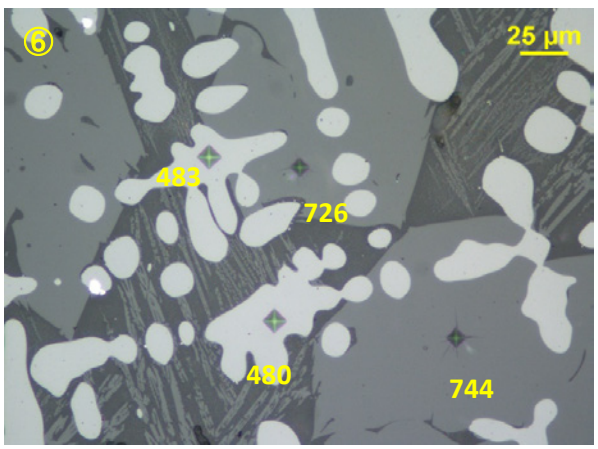
鉄中非金属の反射電子像（COMP）および特性X線像

定量分析値

Element	13	14
MgO	0.691	0.746
SiO_2	0.031	0.027
Al_2O_3	4.402	4.602
TiO_2	28.239	27.654
ZrO_2	0.052	0.027
P_2O_5	0.004	0.011
FeO	60.986	59.838
MnO	0.584	0.588
Cr_2O_3	0.094	0.150
V_2O_3	2.335	4.097
Total	97.418	97.740

NSS-11
鍛治滓
⑤ﾏｸﾛ組織
⑥滓部:ｳｽﾀｲﾄ（480・
483Hv）・ﾌｧﾔﾗｲﾄ
（726・744Hv）、微小
明白色粒:金属鉄





図版7　鉄製品の顕微鏡写真･EPMA調査結果　鍛治滓の顕微鏡写真

報告書抄録

ふりがな	にししゅうづいせき・つくだいせき
書名	西州津遺跡・佃遺跡
副書名	一般国道 32 号猪ノ鼻道路関連（州津地区・西井川地区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	徳島県綱増分家財センター調査報告書
シリーズ番号	第 93 集
編著者名	栗林誠治・近藤　玲・伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・辻　康男（パレオ・ラボ） 松元美由紀（パリノ・サーヴェイ）・鈴木瑞穂（日鉄テクノロジー）
編集機関	公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター
所在地	〒 779-0108　徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86-2
発行年月日	令和 2 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
にししゅうづいせき 西州津遺跡	とくしまけんみよしししいけだちょうしゅうづいせき 徳島県三好市池田町州津井関 1393 -1 ほか	36208 208-67	34° 02′ 11.35397 ″	133° 50′ 08.62632 ″	2009 年 8 月 1 日～ 2010 年 1 月 31 日 2010 年 4 月 1 日～ 8 月 31 日 2011 年 1 月 1 日～ 1 月 31 日	4,100㎡ (調査面積) 1,850㎡ (調査面積) 440㎡ (調査面積)	一般国道 32 号猪ノ鼻道 路（州津地区）関連埋蔵 文化財発掘調査
つくだいせき 佃遺跡	とくしまけんみよししいかわちょうつくだ 徳島県三好市井川町佃	36208 208-42	34° 01′ 59.79665 ″	133° 51′ 18.75612 ″	2014 年 1 月 1 日～ 3 月 31 日 2015 年 5 月 1 日～ 6 月 30 日	1,326㎡ (調査面積) 521㎡	一般国道 32 号猪ノ鼻道 路（西井川地区）関連埋 蔵文化財発掘調査業務

所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西州津遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代	溝・土坑・小穴・自然 河道・貯蔵穴	縄文土器・弥生土器・須恵 器・土師質土器・瓦器・陶器・ 磁器・石器・植物遺体	縄文時代晩期 の貯蔵穴
要約	吉野川北岸に形成された標高 90 ～ 108 mの段丘上に位置し、縄文時代から江戸時代にかけての遺構や遺物を確認した。特に堅果類等を貯蔵した縄文時代晩期前半の貯蔵穴群が注目される。貯蔵穴はほぼ円形で、調査区内で 39 基検出した。30 基を数える貯蔵穴群を確認した例は四国ではこれまでになく、西州津遺跡が初めてである。今回の調査地点では，住居などの遺構は確認されていないが，隣接地に集落が営まれていたと推定される。				
佃遺跡	集落	弥生時代 室町時代	小穴・土坑・溝・ 集石遺構	弥生土器・石器・土師器・ 須恵器・陶磁器	特になし
要約	吉野川に面した低位段丘上から弥生時代後期以降の遺構・遺物が確認され、その出土遺物から讃岐地域との交流のある集落遺跡の存在が推定される。中世段階では小規模な集落が形成されていた。近世段階以降、結晶片岩の岩盤の頂部をほぼ水平に削平した痕跡などを多くとどめることから，土地開発に伴い整地を繰り返すことにより屋敷地を設ける様子が確認できた。				

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書　第93集

西州津遺跡・佃遺跡
一般国道32号猪ノ鼻道路(州津地区・西井川地区)
関連埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　令和２(2020)年３月21日

編　集　公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター
〒779−0108　徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 番地２
TEL (088)672−4545

発　行　徳島県
公益財団法人　徳島県埋蔵文化財センター

印　刷　グランド印刷株式会社